甲府市文化財調査報告 64

甲府城下町遺跡Ⅸ

ー 庁舎建設に伴う発掘調査報告書 ー

2013

甲　府　市
甲府市教育委員会

序

本書は平成22年、市庁舎建設にともない実施した甲府城下町遺跡の発掘調査報告書であります。本遺跡は、近世甲斐国の政治的中心であった甲府城周辺に広がる都市遺跡であり、調査地は城の大手口前面に広がる武家屋敷地の一角であります。

甲府城下町は、鎌倉期以来の歴史を有する町場として発展を遂げ、戦国期には武田氏により領国経営の中心地に位置づけられ、江戸時代初期に中世以来の都市空間を巧みに継承しつつ、計画的に建設された近世都市へと再編されました。今なお、市内各所に城下の面影を残し、中心都市としての位置づけは現在にいたっても変化ありません。

これまで市街各地で多くの調査が積み重ねられ、多彩な遺物とともに多大な成果を挙げてまいりました。今回の調査でも17世紀初頭から18世紀初頭にかけて武家屋敷だった時期や18世紀前葉から幕末までの大手役宅が設けられていた時期、さらには明治維新後、山梨県庁が建てられた時期の遺構・遺物が確認されました。これら大きな成果が得られ、地域の歴史に新たなページが加わるとともに豊かな実像が提示できることと思われます。本報告書が学術研究深化への一助になるとともに、教育資料へも活用され、郷土の歴史と文化を再認識する機会となればこの上ない喜びであります。

末筆となりましたが、調査に際し、貴重な文化遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた関係機関各位および発掘から報告書刊行まで労をいとわず精力的に業務を遂行していただきました指導調査員はじめスタッフの方々に、感謝申し上げるとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

甲府市教育委員会

教育長　長谷川　義高

例言

1．本書は山梨県甲府市丸の内一丁目 18-1 における甲府城下町遺跡の発掘調査報告書である。

2．本調査は甲府市役所の新庁舎建設に伴うものであり、甲府市教育委員会が主体となって実施した。
3．本遺跡に関わる調査は伊藤正彦（文化振興課文化財主事）が担当した。調査、整理作業の一部は甲府市教育委員会より委託を受けた昭和測量株式会社髙野髙潔、小谷亮二、泉英樹が行った。
4．調査は平成 22 年 11 月 9 日より平成 23 年 3 月 22 日にかけて実施した。調査面積は 1,800 ㎡である。本調査に並行して整理作業に着手し、すべての作業が終了したのは平成 25 年 3 月である。
5．本書の編集は、伊藤正彦を責任者とし、髙野髙潔（昭和測量株式会社）が行った。執筆は第１章、第６章第２節を伊藤正彦、第６章第３節を泉英樹、第６章第４節を小谷亮二が担当した。第５章第１節、第２節は株式会社古環境研究所、第５章第３節は聖マリアンナ医科大学解剖学講座澤田純明氏に委託した。その他は髙野髙潔が担当した。整理作業に係る遺物洗浄・注記・接合作業、遺物実測・図面浄書作業及び挿図・写真図版などの作成は、浅川悠起子・大森透江・小澤美幸・栗田かず子・齊藤里美・広瀬ありさ・藤原由香・宮下真樹子・渡辺麗子が行った。
6．第６章第２節の資料の読み下しは林陽一郎・宮澤富美恵両氏にお願いをした。
7．本書に関わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
8．本書に関わる基準点測量・基準杭の設定は昭和測量株式会社が行った。
9．発掘調査参加者（敬称略）
伊井實・池谷千代子・大森透江・萩原忠・小澤美幸・北野礼子・小菅衛・小菅春江・小林としみ・齊藤里美・佐藤あけみ・志村由未・竹野章・田中孝雄・田中初子・田中博之・土屋健治・根津航・原田隆邦・原田みゆき・深澤友子・松原静夫・宮原雄二・望月明・望月孝次・望月敏子・横田五男
10．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。記してお礼申し上げる。
山梨県立博物館、財団法人山梨文化財研究所、植月学、植松光宏、野代幸和、畑大介、林陽一郎、宮澤富美恵、山本茂樹

凡例

1．本書に掲載した遺構番号は、整理作業の過程において新たに付与し、遺構種類毎に連番号としている。
2．遺構名は調査現場で付けたものを元に、遺構の形状・性格などを考慮し整理作業の過程において新たに付与した。
3．全体図、遺構・遺物実測図の縮尺は図中に表示した通りである。
4．遺構断面図における水平数値は、海抜高度を示している。
5．報告書中の方位は、それぞれの図中に表示した通りである。

目次

目次
序
例言
凡例
目次
挿図・表目次
第１章　調査概要
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　試掘調査の結果 …… 1
　第３節　調査の経過 …… 3
第２章　遺跡環境
　第１節　立地と地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査方法と基本層序
　第１節　調査方法 …… 7
　第２節　基本層序 …… 8
第４章　調査成果
　第１節　発掘調査の概要 …… 9
　第２節　建物跡 …… 11
　第３節　溝状遺構 …… 44
　第４節　井戸跡 …… 78
　第５節　埋桶 …… 96
　第６節　池 …… 105
　第７節　土坑 …… 147
　第８節　ピット …… 176
　第９節　その他の遺構 …… 199
　第10節　遺構外出土遺物 …… 209
第５章　自然科学分析
　第１節　環境考古学分析 …… 331
　第２節　樹種同定 …… 343
　第３節　人骨・動物骨同定 …… 348
第６章　まとめ
　第１節　遺構の時代区分 …… 352
　第２節　県庁舎建設前史 …… 353
　第３節　甲府城下町遺跡出土の焼塩壺について …… 381
　第４節　甲府城下町遺跡出土の真牡蠣について …… 384
　第５節　まとめ …… 385
遺物観察表 …… 386

挿図目次

図１　試掘地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
図２　調査地の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
図３　甲府城下町遺跡周辺の遺跡分布・・・・・・6
図４　グリッド配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
図５　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
図６　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
図７　山梨県庁全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
図８　県庁１号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
図９　県庁１号基礎出土遺物（１）・・・・・・・・14
図 10　県庁１号基礎出土遺物（２）・・・・・・・15
図 11　県庁２号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
図 12　県庁２号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・18
図 13　県庁３号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
図 14　県庁３号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・18
図 16　県庁４号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・19
図 15　県庁４号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
図 18　県庁５号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・20
図 17　県庁５号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
図 20　県庁６号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・21
図 19　県庁６号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
図 21　県庁７号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
図 22　県庁７号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・24
図 23　県庁８号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
図 24　県庁８号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・26
図 25　県庁９号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
図 26　県庁９号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・・27
図 27　県庁 10 号基礎（１）・・・・・・・・・・・・・・28
図 28　県庁 10 号基礎（２）・・・・・・・・・・・・・・29
図 29　県庁 10 号基礎出土遺物（１）・・・・・・30
図 30　県庁 10 号基礎出土遺物（２）・・・・・・31
図 32　県庁 11 号基礎出土遺物・・・・・・・・・・33
図 31　県庁 11 号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
図 33　県庁 12 号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
図 34　県庁 12 号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・34
図 35　県庁 13 号・14 号基礎・・・・・・・・・・・・・35
図 36　県庁 13 号・14 号基礎出土遺物・・・・・36
図 37　県庁 15 号基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
図 38　県庁 15 号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・37
図 39　県庁 16 号・17 号基礎・・・・・・・・・・・・・38
図 40　県庁 16 号基礎出土遺物・・・・・・・・・・・38
図 41　県庁基礎盛土出土遺物・・・・・・・・・・・・39
図 42　１号建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
図 43　１号建物跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・42
図 44　１号・２号・８号溝・・・・・・・・・・・・・・45
図 45　１号溝出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・46
図 46　１号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・47
図 47　１号溝出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・48
図 48　２号溝出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・53
図 49　２号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・54
図 50　２号溝出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・55
図 51　２号溝出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・56
図 52　８号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
図 53　３号～５号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
図 54　３号溝出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・62
図 55　３号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・63
図 56　３号溝出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・64
図 57　４号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
図 58　５号溝出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・68
図 59　５号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・69
図 60　５号溝出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・70
図 61　５号溝出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・71
図 62　６号・７号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
図 63　10 号・11 号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
図 64　10 号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・76
図 65　11 号溝出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・77
図 66　12 号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
図 67　１号・２号・３号井戸・９号溝・・・・79
図 68　１号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
図 69　１号井戸出土遺物（１）・・・・・・・・・・・81
図 70　１号井戸出土遺物（２）・・・・・・・・・・・82
図 71　２号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
図 72　２号井戸出土遺物（１）・・・・・・・・・・・86
図 73　２号井戸出土遺物（２）・・・・・・・・・・・87
図 74　３号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
図 75　３号井戸出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・90
図 76　９号溝出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・92
図 77　９号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・93
図 78　埋桶（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
図 79　埋桶（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
図 80　埋桶出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・99
図 81　埋桶出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・100
図 82　埋桶出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・101
図 83　１号池・２号集石（１）・・・・・・・・・・106
図 84　１号池・２号集石（２）・・・・・・・・・・107

図 85　1 号池出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・108
図 86　1 号池出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・109
図 87　1 号池出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・110
図 88　1 号池出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・111
図 89　1 号池出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・112
図 90　1 号池出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・113
図 91　1 号池出土遺物（7）・・・・・・・・・・・・114
図 92　1 号池出土遺物（8）・・・・・・・・・・・・115
図 93　1 号池出土遺物（9）・・・・・・・・・・・・116
図 94　1 号池出土遺物（10）・・・・・・・・・・・・117
図 95　1 号池出土遺物（11）・・・・・・・・・・・・118
図 96　1 号池出土遺物（12）・・・・・・・・・・・・119
図 97　1 号池出土遺物（13）・・・・・・・・・・・・120
図 98　1 号池出土遺物（14）・・・・・・・・・・・・121
図 99　1 号池出土遺物（15）・・・・・・・・・・・・122
図 100　1 号池出土遺物（16）・・・・・・・・・・・123
図 101　1 号池出土遺物（17）・・・・・・・・・・・124
図 102　1 号池出土遺物（18）・・・・・・・・・・・125
図 103　2 号集石出土遺物・・・・・・・・・・・・・・126
図 104　土坑（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・150
図 105　土坑（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
図 106　土坑（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
図 107　土坑（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
図 108　土坑（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・154
図 109　土坑（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
図 110　土坑（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
図 111　土坑（8）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
図 112　土坑（9）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
図 113　土坑出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・159
図 114　土坑出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・160
図 115　土坑出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・161
図 116　土坑出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・162
図 117　土坑出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・・163
図 118　土坑出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・・164
図 119　土坑出土遺物（7）・・・・・・・・・・・・・165
図 120　ピット（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
図 121　ピット（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・181
図 122　ピット（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・182
図 123　ピット（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
図 124　ピット（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・184
図 125　ピット（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・185
図 126　ピット（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・186
図 127　ピット（8）・・・・・・・・・・・・・・・・・・187
図 128　ピット（9）・・・・・・・・・・・・・・・・・・188
図 129　ピット（10）・・・・・・・・・・・・・・・・・189
図 130　ピット（11）・・・・・・・・・・・・・・・・・190
図 131　ピット出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・191
図 132　ピット出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・192
図 133　ピット出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・193
図 134　ピット出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・194
図 135　1 号集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
図 136　1 号集石出土遺物（1）・・・・・・・・・・201
図 137　1 号集石出土遺物（2）・・・・・・・・・・202
図 138　1 号集石出土遺物（3）・・・・・・・・・・203
図 139　1 号集石出土遺物（4）・・・・・・・・・・204
図 140　1 号有機物集中地点・・・・・・・・・・・・204
図 141　1 号有機物集中地点出土遺物・・・・204
図 142　遺構外出土遺物（1）・・・・・・・・・・・213
図 143　遺構外出土遺物（2）・・・・・・・・・・・214
図 144　遺構外出土遺物（3）・・・・・・・・・・・215
図 145　遺構外出土遺物（4）・・・・・・・・・・・216
図 146　遺構外出土遺物（5）・・・・・・・・・・・217
図 147　遺構外出土遺物（6）・・・・・・・・・・・218
図 148　遺構外出土遺物（7）・・・・・・・・・・・219
図 149　遺構外出土遺物（8）・・・・・・・・・・・220
図 150　遺構外出土遺物（9）・・・・・・・・・・・221
図 151　遺構外出土遺物（10）・・・・・・・・・・・222
図 152　遺構外出土遺物（11）・・・・・・・・・・・223
図 153　遺構外出土遺物（12）・・・・・・・・・・・224
図 154　遺構外出土遺物（13）・・・・・・・・・・・225
図 155　遺構外出土遺物（14）・・・・・・・・・・・226
図 156　遺構外出土遺物（15）・・・・・・・・・・・227
図 157　遺構外出土遺物（16）・・・・・・・・・・・228
図 158　遺構外出土遺物（17）・・・・・・・・・・・229
図 159　遺構外出土遺物（18）・・・・・・・・・・・230
図 160　遺構外出土遺物（19）・・・・・・・・・・・231
図 161　遺構外出土遺物（20）・・・・・・・・・・・232
図 162　遺構外出土遺物（21）・・・・・・・・・・・233
図 163　遺構外出土遺物（22）・・・・・・・・・・・234
図 164　遺構外出土遺物（23）・・・・・・・・・・・235
図 165　遺構外出土遺物（24）・・・・・・・・・・・236
図 166　遺構外出土遺物（25）・・・・・・・・・・・237
図 167　遺構外出土遺物（26）・・・・・・・・・・・238
図 168　遺構外出土遺物（27）・・・・・・・・・・・239
図 169　遺構外出土遺物（28）・・・・・・・・・・・240
図 170　遺構外出土遺物（29）・・・・・・・・・・・241
図 171　遺構外出土遺物（30）・・・・・・・・・・・242
図 172　遺構外出土遺物（31）・・・・・・・・・・・243
図 173　遺構外出土遺物（32）・・・・・・・・・・・244
図 174　遺構外出土遺物（33）・・・・・・・・・・・245

図 175　遺構外出土遺物（34）……246
図 176　遺構外出土遺物（35）……247
図 177　遺構外出土遺物（36）……248
図 178　遺構外出土遺物（37）……249
図 179　遺構外出土遺物（38）……250
図 180　遺構外出土遺物（39）……251
図 181　遺構外出土遺物（40）……252
図 182　遺構外出土遺物（41）……253
図 183　遺構外出土遺物（42）……254
図 184　遺構外出土遺物（43）……255
図 185　遺構外出土遺物（44）……256
図 186　遺構外出土遺物（45）……257
図 187　遺構外出土遺物（46）……258
図 188　遺構外出土遺物（47）……259
図 189　遺構外出土遺物（48）……260
図 190　遺構外出土遺物（49）……261
図 191　遺構外出土遺物（50）……262
図 192　遺構外出土遺物（51）……263
図 193　遺構外出土遺物（52）……264
図 194　遺構外出土遺物（53）……265
図 195　遺構外出土遺物（54）……266
図 196　遺構外出土遺物（55）……267
図 197　遺構外出土遺物（56）……268
図 198　遺構外出土遺物（57）……269
図 199　遺構外出土遺物（58）……270
図 200　遺構外出土遺物（59）……271

写真目次

写真 1　試掘坑 1……3
写真 2　試掘坑 2……3
写真 3　試掘坑 3……3
写真 4　試掘坑 4……3
写真 5　基本層序……8
写真 6　調査区全景……9
写真 7　調査区全景……9
写真 8　県庁 1 ～ 8 号基礎……13
写真 9　県庁 1 号基礎……13
写真 10　県庁 1 号基礎……13
写真 11　県庁 1 号基礎……13
写真 12　県庁 1 号基礎出土遺物（1）……15
写真 13　県庁 1 号基礎出土遺物（2）……16
写真 14　県庁 2 号基礎……17
写真 15　県庁 2 号基礎出土遺物……18
写真 16　県庁 3 号基礎出土遺物……19
写真 17　県庁 4 号基礎出土遺物……19
写真 18　県庁 5 号基礎出土遺物……20
写真 19　県庁 6 号基礎出土遺物……22
写真 20　県庁 7 号基礎出土遺物……25
写真 21　県庁 8 号基礎出土遺物……26
写真 22　県庁 9 号基礎出土遺物……27
写真 23　県庁 9 ～ 15 号……27
写真 24　県庁基礎胴木……27
写真 25　県庁基礎枕木……27
写真 26　県庁基礎杭……27
写真 27　県庁基礎胴木・鎹……27
写真 28　県庁基礎杭・玉石……27
写真 29　県庁 10 号基礎出土遺物……32
写真 30　県庁 11 号基礎出土遺物……34
写真 31　県庁 12 号基礎出土遺物……34
写真 32　県庁 13 号基礎出土遺物……36
写真 33　県庁 15 号基礎出土遺物……37
写真 34　県庁 16 号基礎出土遺物……39
写真 35　県庁基礎盛土出土遺物……39
写真 36　1 号建物跡……41
写真 37　1 号建物跡出土遺物……43
写真 38　1 号溝出土遺物（1）……49
写真 39　1 号溝出土遺物（2）……50
写真 40　1 号溝出土遺物（3）……51
写真 41　1 号溝出土遺物（4）……52
写真 42　1 号溝検出状況……52
写真 43　1 号溝遺物出土状況……52
写真 44　1 号溝杭・板検出状況……52
写真 45　1 号溝完掘状況……52
写真 46　2 号溝遺物出土状況……56
写真 47　2 号溝完掘状況……56
写真 48　2 号溝出土遺物（1）……57
写真 49　2 号溝出土遺物（2）……58
写真 50　2 号溝出土遺物（3）……59
写真 51　8 号溝出土遺物……60
写真 52　8 号溝完掘状況……60
写真 53　3 号溝・4 号溝……64
写真 54　4 号溝遺物出土状況……64
写真 55　3 号溝出土遺物（1）……65
写真 56　3 号溝出土遺物（2）……66

写真 57　４号溝出土遺物 ･････････････････67
写真 58　５号溝完掘状況 ･････････････････71
写真 59　５号溝出土遺物（１）････････････72
写真 60　５号溝出土遺物（２）････････････73
写真 61　５号溝出土遺物（３）････････････74
写真 62　６号溝完掘 ･････････････････････74
写真 63　６号・７号溝完掘 ･･････････････74
写真 64　９号・10 号溝完掘 ･････････････75
写真 65　11 号溝完掘 ････････････････････75
写真 66　10 号溝出土遺物 ････････････････77
写真 67　11 号溝出土遺物 ････････････････77
写真 68　12 号溝完掘状況 ････････････････77
写真 69　１号井戸 ･･････････････････････80
写真 70　１号井戸 ･･････････････････････80
写真 71　１号井戸出土遺物（１）･････････83
写真 72　１号井戸出土遺物（２）･････････84
写真 73　２号井戸完掘状況 ･･････････････85
写真 74　２号井戸 ･･････････････････････85
写真 75　２号井戸出土遺物（１）･････････88
写真 76　２号井戸出土遺物（２）･････････89
写真 77　３号井戸完掘状況 ･･････････････90
写真 78　３号井戸出土遺物 ･･････････････91
写真 79　３号井戸 ･･････････････････････91
写真 80　３号井戸・９号溝 ･･････････････91
写真 81　９号溝粘土出土状況 ････････････93
写真 82　９号溝完掘状況 ････････････････93
写真 83　９号溝出土遺物（１）････････････94
写真 84　９号溝出土遺物（２）････････････95
写真 85　７号土坑完掘状況 ･･････････････100
写真 86　８号土坑完掘状況 ･･････････････100
写真 87　９号土坑完掘状況 ･･････････････101
写真 88　10 号土坑完掘状況 ･････････････101
写真 89　13 号土坑完掘状況 ･････････････101
写真 90　埋桶出土遺物（１）･････････････102
写真 91　埋桶出土遺物（２）･････････････103
写真 92　埋桶出土遺物（３）･････････････104
写真 93　１号池完掘状況 ････････････････105
写真 94　１号池 ･･････････････････････105
写真 95　２号集石 ･･････････････････････105
写真 96　１号池遺物出土状況 ････････････126
写真 97　１号池遺物出土状況 ････････････126
写真 98　１号池遺物出土状況 ････････････126
写真 99　１号池遺物出土状況 ････････････126
写真 100　１号池出土遺物（１）･････････127
写真 101　１号池出土遺物（２）･････････128
写真 102　１号池出土遺物（３）･････････129
写真 103　１号池出土遺物（４）･････････130
写真 104　１号池出土遺物（５）･････････131
写真 105　１号池出土遺物（６）･････････132
写真 106　１号池出土遺物（７）･････････133
写真 107　１号池出土遺物（８）･････････134
写真 108　１号池出土遺物（９）･････････135
写真 109　１号池出土遺物（10）･････････136
写真 110　１号池出土遺物（11）･････････137
写真 111　１号池出土遺物（12）･････････138
写真 112　１号池出土遺物（13）･････････139
写真 113　１号池出土遺物（14）･････････140
写真 114　１号池出土遺物（15）･････････141
写真 115　１号池出土遺物（16）･････････142
写真 116　１号池出土遺物（17）･････････143
写真 117　１号池出土遺物（18）･････････144
写真 118　１号池出土遺物（19）･････････145
写真 119　１号池出土遺物（20）･････････146
写真 120　２号集石出土遺物 ･････････････146
写真 121　１～６・30 号土坑検出状況 ････149
写真 122　土間三和土・土坑土層断面 ････149
写真 123　３号土坑完掘状況 ････････････149
写真 124　４号土坑完掘状況 ････････････149
写真 125　５号土坑完掘状況 ････････････152
写真 126　６号土坑完掘状況 ････････････152
写真 127　土坑出土遺物（１）････････････166
写真 128　土坑出土遺物（２）････････････167
写真 129　土坑出土遺物（３）････････････168
写真 130　土坑出土遺物（４）････････････169
写真 131　土坑出土遺物（５）････････････170
写真 132　土坑出土遺物（６）････････････171
写真 133　土坑出土遺物（７）････････････172
写真 134　土坑出土遺物（８）････････････173
写真 135　土坑出土遺物（９）････････････174
写真 136　土坑出土遺物（10）････････････175
写真 137　２号ピット遺物出土状況 ･･････179
写真 138　27 号ピット遺物出土状況 ･･････179
写真 139　58 号ピット遺物出土状況 ･･････179
写真 140　59 号ピット遺物出土状況 ･･････179
写真 141　58 号ピット遺物出土状況 ･･････180
写真 142　59 号ピット遺物出土状況 ･･････180
写真 143　ピット出土遺物（１）･････････195
写真 144　ピット出土遺物（２）･････････196
写真 145　ピット出土遺物（３）･････････197
写真 146　ピット出土遺物（４）･････････198

写真 147　1 号集石石列検出状況 ･････････199
写真 148　1 号集石遺物出土状況 ･････････199
写真 149　1 号有機物集中地点検出状況 ･･･199
写真 150　1 号有機物集中地点土層断面 ･･･199
写真 151　1 号集石出土遺物（1）････････205
写真 152　1 号集石出土遺物（2）････････206
写真 153　1 号集石出土遺物（3）････････207
写真 154　1 号集石出土遺物（4）････････208
写真 155　1 号有機物集中地点出土遺物 ･･･208
写真 156　G 11 グリッド遺物出土状況 ････212
写真 157　遺構外出土遺物（1）･････････272
写真 158　遺構外出土遺物（2）･････････273
写真 159　遺構外出土遺物（3）･････････274
写真 160　遺構外出土遺物（4）･････････275
写真 161　遺構外出土遺物（5）･････････276
写真 162　遺構外出土遺物（6）･････････277
写真 163　遺構外出土遺物（7）･････････278
写真 164　遺構外出土遺物（8）･････････279
写真 165　遺構外出土遺物（9）･････････280
写真 166　遺構外出土遺物（10）････････281
写真 167　遺構外出土遺物（11）････････282
写真 168　遺構外出土遺物（12）････････283
写真 169　遺構外出土遺物（13）････････284
写真 170　遺構外出土遺物（14）････････285
写真 171　遺構外出土遺物（15）････････286
写真 172　遺構外出土遺物（16）････････287
写真 173　遺構外出土遺物（17）････････288
写真 174　遺構外出土遺物（18）････････289
写真 175　遺構外出土遺物（19）････････290
写真 176　遺構外出土遺物（20）････････291
写真 177　遺構外出土遺物（21）････････292
写真 178　遺構外出土遺物（22）････････293
写真 179　遺構外出土遺物（23）････････294
写真 180　遺構外出土遺物（24）････････295
写真 181　遺構外出土遺物（25）････････296
写真 182　遺構外出土遺物（26）････････297
写真 183　遺構外出土遺物（27）････････298
写真 184　遺構外出土遺物（28）････････299
写真 185　遺構外出土遺物（29）････････300
写真 186　遺構外出土遺物（30）････････301
写真 187　遺構外出土遺物（31）････････302
写真 188　遺構外出土遺物（32）････････303
写真 189　遺構外出土遺物（33）････････304
写真 190　遺構外出土遺物（34）････････305
写真 191　遺構外出土遺物（35）････････306
写真 192　遺構外出土遺物（36）････････307
写真 193　遺構外出土遺物（37）････････308
写真 194　遺構外出土遺物（38）････････309
写真 195　遺構外出土遺物（39）････････310
写真 196　遺構外出土遺物（40）････････311
写真 197　遺構外出土遺物（41）････････312
写真 198　遺構外出土遺物（42）････････313
写真 199　遺構外出土遺物（43）････････314
写真 200　遺構外出土遺物（44）････････315
写真 201　遺構外出土遺物（45）････････316
写真 202　遺構外出土遺物（46）････････317
写真 203　遺構外出土遺物（47）････････318
写真 204　遺構外出土遺物（48）････････319
写真 205　遺構外出土遺物（49）････････320
写真 206　遺構外出土遺物（50）････････321
写真 207　遺構外出土遺物（51）････････322
写真 208　遺構外出土遺物（52）････････323
写真 209　遺構外出土遺物（53）････････324
写真 210　遺構外出土遺物（54）････････325
写真 211　遺構外出土遺物（55）････････326
写真 212　遺構外出土遺物（56）････････327
写真 213　遺構外出土遺物（57）････････328
写真 214　遺構外出土遺物（58）････････329
写真 215　遺構外出土遺物（59）････････330

第１章　調査概要

第１節　調査に至る経緯

平成20年、甲府市企画部庁舎建設室より新庁舎建設に伴い埋蔵文化財の有無および取り扱いについて照会があった。建設地は甲府城下町遺跡の包蔵地内に存在し、武家屋敷および二ノ堀の存在が推定された。そのため市教育委員会は、調査が必要である旨回答するとともに詳細な建築計画を提示するよう求めた。直ちに埋蔵文化財の取り扱いについて庁舎建設課と協議を開始し、数回の協議を経た後、遺跡の時代・内容、遺構の残存状況などの把握を目的に同年８月および翌年10月との二度、試掘調査を実施した。

試掘結果に基づき開発に先立ち遺跡に重大な影響を与える範囲1,800㎡を対象に埋蔵文化財の記録保存を行い、地域の歴史を伝える資料として保存・活用すること。平成22年11月より発掘調査を開始し、期間は５ヶ月、引き続き平成23年度は基礎的整理作業を実施し、平成24年度に本格的な整理作業・報告書の刊行を行うこと。発掘調査から報告書の作成経費まで庁舎建設課で予算化し、市教委が執行することなどが合意された。

庁舎解体後の平成22年11月９日より翌年３月22日まで発掘調査及び基礎的整理作業を実施し、同年４月22日より翌年３月23日まで引き続き基礎的整理作業を行うとともに遺物の保存処理を行った。平成24年４月27日より本格的な整理作業として出土遺物の図化・写真撮影・原稿執筆を行い平成25年３月に本書の刊行となった。

法的手続きは以下のとおりである。

平成22年12月６日　文化財保護法第99条第１項の規定に基づき埋蔵文化財発掘の報告を山梨県教育委員会教育長に提出する。

平成23年４月１日　遺失物法第13条の規定に基づき埋蔵物の発見届を甲府警察署長に提出する。

第２節　試掘調査の結果

１．調査地の歴史変遷

調査地は近世の城下町遺跡として知られているが、近隣の調査では弥生時代末～平安時代の土器片が確認され、特に古墳時代を中心とする生活の痕跡が色濃く確認されている。中世以降、文献・古絵図等から朧気ながらも近代までに至る歴史変遷をたどることができる。中世鎌倉期から室町期にかけ調査地一帯は、正和元年（1312）創建と伝わる一蓮寺の門前町に含まれ、町場景観が広がっていたものと推量される。戦国期、武田館の建設および城下町の開創により城下南端に位置づけられ中世甲府の一都市として機能し続けた。

近世に入ると甲府城建設により一蓮寺は移転し、一帯は武家屋敷地として再整備されたようである。宝永元年（1704）～享保９年（1729）の甲府藩柳沢氏の領有期は、城代の平岡将監屋敷と記録され、享保９年、柳沢氏の大和郡山移封後から幕末までの甲府勤番支配期は、大手役宅が存在した。

明治維新以後、昭和３年（1928）まで山梨県庁及び議事堂が建ち、特に明治10年（1877）、洋風様式の新庁舎が完成するまで江戸期の大手役宅をそのまま転用し、県庁舎として利用していた。

昭和初年、県庁移転により跡地に甲府郵便局が昭和６年（1931）に、甲府水道局が昭和13年（1938）に、甲府市役所本庁が昭和34年（1959）にそれぞれ建設され今日に至っている。調査地は、江戸中期以降、現在まで県市の行政をつかさどる公的施設が存在し続けた場所であった。

２．試掘調査（図１）

平成20年８月２日～９日にかけて３地点、合計12㎡を調査した。

試掘坑１は３号館北側、市民駐車場地点に設定した。部分的に水道局倉庫の建設により壊されているが、それ以外は良好に残存していた。深さ1.4ｍまで掘削を行い、幅70㎝、深さ20㎝程の溝状遺構を確認した。江戸期の天目茶碗が出土する。検出された溝状遺構は浅く、流水の痕跡も確認できないため、地境あるいは雨落ち溝などであろうか。平岡将監もしくはそれ以前の武家屋敷に係る遺構であろう。

試掘坑２は１号館東側、公用車駐車場に設定した。深さ0.7ｍ掘削し、レンガ積み焼却炉・水溜・礎石据付跡・柱穴などを確認した。レンガ積み焼却炉が明治期の県庁舎に係る施設となり、水溜・礎石据付跡・柱穴などは、江戸時代後期から明治期の遺構となろう。

試掘坑３は敷地東側の公用車駐車場に設定した。深さ1.0ｍ掘削し、小礫を敷き詰めた一定の広がりが確認されるとともに、陶磁器・瓦片などの遺物を検出した。小礫の広がりは、屋敷内の建物をつなぐ通路などと解釈でき、共伴する遺物の年代から平

岡将監屋敷に係る遺構と判断した。

いずれの試掘地点からも遺構・遺物が確認された。部分的に後世の開発により破壊された箇所も存在するが、概ね良好に残存しており、市庁舎建設地には、江戸時代の平岡将監屋敷に係る遺構から大手役宅、さらに明治期の県庁舎に係る遺構が残存した。

翌年10月3日～10月11日にかけて、庁舎南側の市民駐車場を8㎡調査した。すでに工事図面などから甲府郵便局建設に際し、地表下2mまで掘削されており、遺構の残存状況を確認するため確認調査

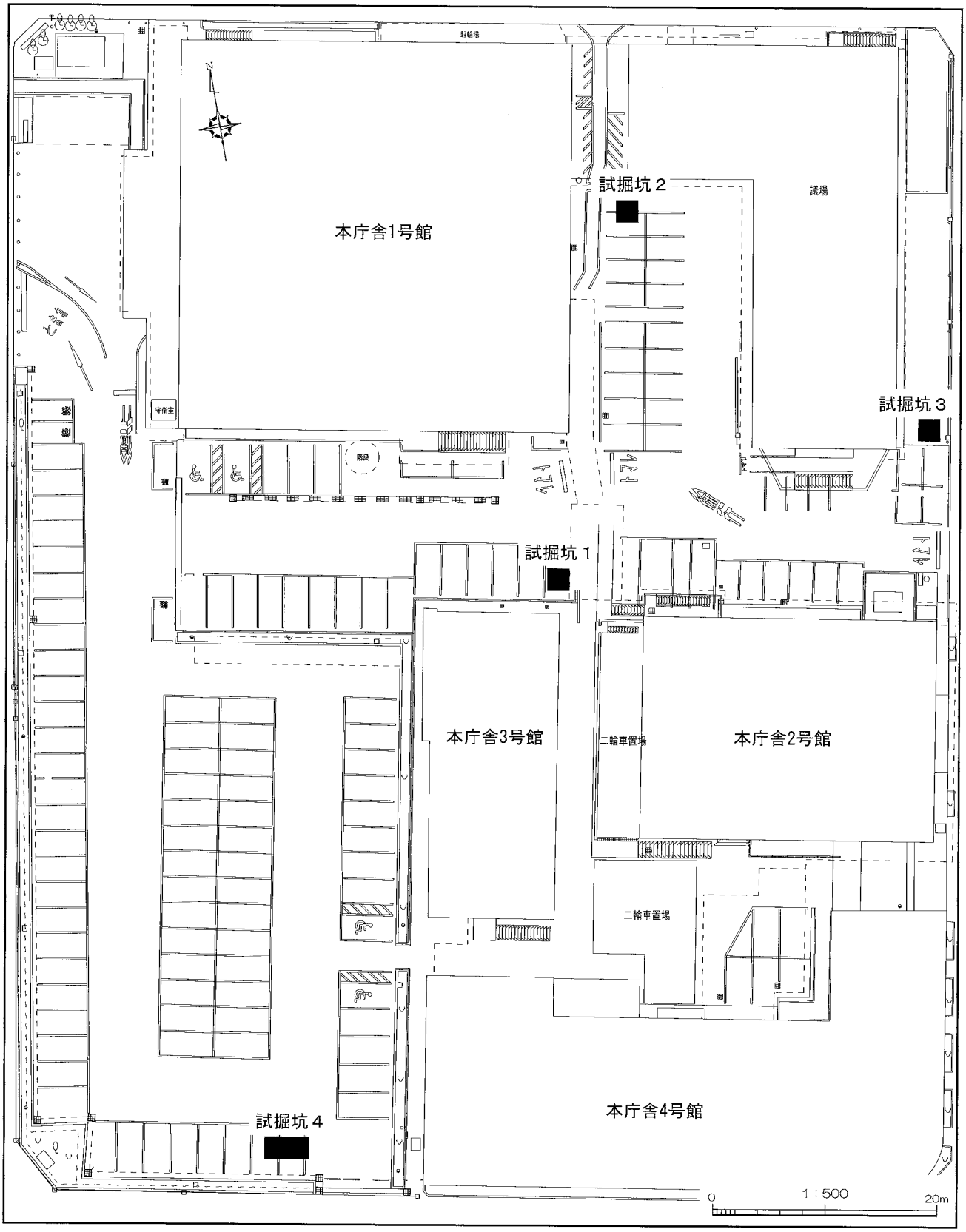


図１　試掘地点

写真１　試掘坑１　南から

写真２　試掘坑２　東から

写真３　試掘坑３　北から

写真４　試掘坑４　東から

を実施した。土層堆積を確認しつつ深さ２ｍまで掘削を行い、建物の沈下防止のために打ち込まれた松杭とともに、杭周辺に長径 20 ～ 50 ㎝程の礫が敷き詰められた状況を確認した。これら礫が松杭周辺のみに集中し、礫の隙間から金属片やガラス片が出土することからコンクリート基礎構築にともない沈下防止のために行った土壌改良の痕跡と推定した。調査により近世陶磁器が数点確認されたものの、遺構は確認されなかった。調査地は、後世の建物建設により遺跡が破壊されていた。３・４号館も含め旧甲府郵便局跡地は建物建設により遺跡が残存する可能性は極めて低いと判断した。

これら二ヵ年にわたる試掘結果に基づき開発に先立ち遺跡に重大な影響を与える範囲を対象に埋蔵文化財の記録保存を行うこととなった。

第３節　調査の経過

入札・落札者決定後、旧庁舎の解体を待ち、平成 23 年 11 月９日より着手し、翌年３月 28 日に調査を終了した。発掘調査・遺物整理作業及び周辺環境対策も含め昭和測量株式会社に業務を委託した。調査中より内容や成果を公表するよう努め、新聞・テレビなどマスコミ各社からの取材に応じるとともに平成 23 年１月 16 日　現場見学会を午前午後各１回開催し、総勢約 200 名の見学者を得た。

マスコミ等対応事例

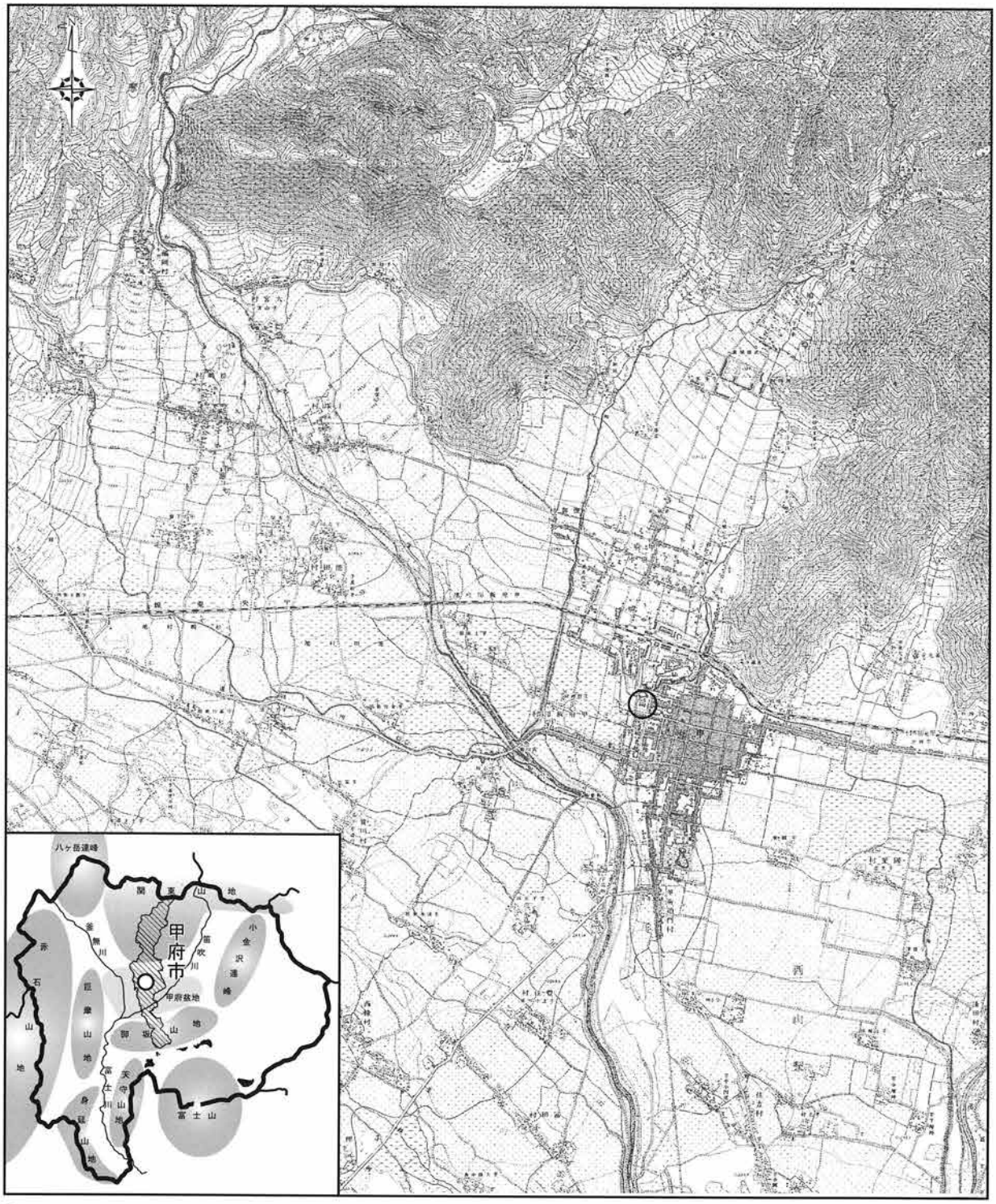
H22. 12/ 7　広報課取材
　12/15 山梨日日新聞取材
　12/24 NHK 甲府局取材
　12/25 NHK 甲府にて放映
　12/27 YBS ラジオ収録
　同日　読売新聞取材
H23. １月　広報１月号　発掘体験記事掲載
　１/８　YBS ラジオ放送
　１/12　朝日新聞取材
　１/13　教育委員（５名）、庁舎建設部職員（13 名）現場視察
　１/16　現場見学会を午前午後各１回開催し、総勢約 200 名の見学者を得た
　２月　広報２月号　発掘情報掲載
　２/15　市議会庁舎建設特別委員（９名）視察
　３/22　発掘調査を終了する

第２章　遺跡環境

第１節　立地と地理的環境

調査対象の甲府城下町遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる（図２）。北方には関東山地の主要部である標高 2,000 ～ 2,500 m級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部にあり、緩傾斜面がより平坦面へと変換した面に立地している。相川中流域の左岸であり、標高は約 267 mである。

調査地点は甲府駅から 400 m南の甲府市役所に位置し、甲府駅南口の目抜き通りに面している。公官庁、金融機関等が集中する甲府市内の中心街にあたる。



○調査地（甲府城下町遺跡：甲府市役所内）

1：50,000　0　2km

図２　調査地の位置

第２節　歴史的環境

甲府城下町遺跡の遺跡範囲は東西約 1.9 km、南北約 2.2 kmの規模で周知されている（図３）。調査地点（１）は城下町遺跡の中心部に位置している。近世当時の状況では甲府城の南側で、追手門の門前に位置したことになる。北側で甲府城郭を巡る内堀に、西側で城下町を区画する二の堀に面しており、二の堀の内側の武家屋敷地内にあたる。

甲府城下町遺跡では現在までに多数の別地点での発掘調査が実施されている。従前報告の中では城下町遺跡北側の北口二丁目（桜シルク跡）地点（２）で城下町北辺の二の堀跡、土塁などが検出されている。また、城下町遺跡南側の集会所建設工事に伴う調査地点（３）では城下町南端の二の堀跡のほか上水跡などが検出されている。当調査地点の北東に隣接する甲府市紅梅地区市街地再開発に伴う調査地点（４）では上水跡などが検出されている。また、北側の甲府駅周辺土地区画整理事業（舞鶴城公園西通り線）に伴う調査地点（５）では甲府城内堀の中で甲府城石垣が検出されている。

この他にも三の堀で区画された町人地内、更に三の堀の外側の範囲も含めて甲府城下町遺跡では 40 地点以上での発掘調査が実施されている。

次に、甲府城下町遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として緑ヶ丘一丁目遺跡（６）、宝町遺跡（７）、榎田遺跡（８）から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡（９）では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として緑ヶ丘二丁目遺跡 (10)、金塚西遺跡 (11)、音羽遺跡 (12)、西大阪Ａ遺跡 (13)、西河原遺跡 (14)、宮北遺跡 (15)、食料工場遺跡 (16)、居村村上遺跡 (17) などが知られている。

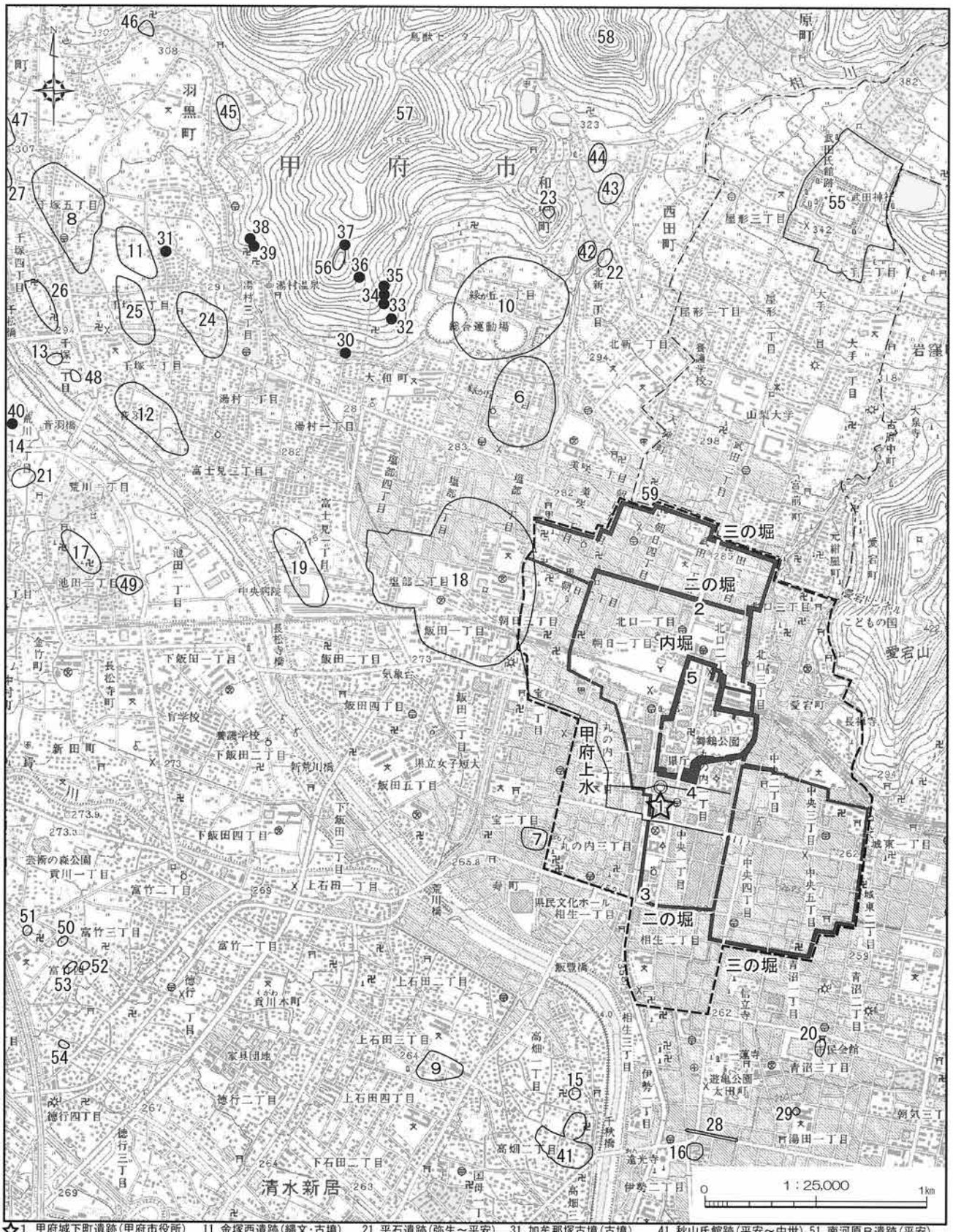
弥生時代から古墳時代の遺跡としては、榎田遺跡（８）、音羽遺跡 (12)、塩部遺跡 (18) 富士見遺跡 (19)、青沼遺跡 (20)、平石遺跡 (21)、向田Ａ遺跡 (22)、三光寺山遺跡 (23)、八幡東遺跡 (24)、神田遺跡 (25)、跡部遺跡 (26)、天神北遺跡 (27) 、伊勢町遺跡 (28)、湯田町遺跡 (29) などがある。塩部遺跡 (18)、榎田遺跡（８）、音羽遺跡 (12)、青沼遺跡 (20) では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡 (19) では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡（８）、塩部遺跡 (18) では弥生時代から古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。平石遺跡 (21) で検出された古墳時代後期の溝跡は祭祀関連遺構と推定されている。

また甲府城下町遺跡の北西側の湯村山周辺や千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もしくは存在していたことが推定されている。６世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳（東西約 31 m、南北約 38 m、高さ約５m）(30)、６世紀後半の築造と考えられ石室全長 16.75 mという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟那塚古墳（直径約 45 m、高さ約７m）(31) などが代表とされる。その他にも積石塚で円墳の湯村山一号墳（直径約 15 m、高さ約 2.5 m）(32)、円墳の湯村山二号墳（直径約 14.5 m、高さ約 5.5 m）(33)、円墳の湯村山三号墳（直径約 15.3 m、高さ約 2.5 m）(34)、円墳の湯村山四号墳（直径約 14.3 m、高さ約 2.5 m）(35)、円墳の湯村山五号墳（直径約 13 m）(36)、円墳の湯村山六号墳（直径約 10.4 m）(37)、円墳の大平一号墳（直径約 20 m）(38)、円墳の大平二号墳（直径約 15.9 m、高さ約 2.2 m）(39) などがある。また塩部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳 (40) がある。

山梨県内で３位の石室規模を誇る万寿森古墳 (30)、２位の加牟那塚古墳 (31) のほか多くの大型古墳が所在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で１位の姥塚古墳（６世紀後半築造、円墳、直径約 40 m、高さ約 10 m、石室全長 17.54 m）を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎田遺跡（８）、音羽遺跡 (12)、塩部遺跡 (18)、青沼遺跡 (20)、平石遺跡 (21)、秋山氏館跡 (41)、村之内遺跡 (42)、永井遺跡 (43)、十二天遺跡 (44)、天神平遺跡 (45)、若宮前遺跡 (46)、御蔵遺跡 (47)、西大阪Ｂ遺跡 (48)、前田遺跡 (49)、南河原Ａ遺跡 (50)、南河原Ｂ遺跡 (51)、南河原Ｃ遺跡 (52)、南河原Ｄ遺跡 (53)、村西遺跡 (54) がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡 (41)、武田氏館跡 (55)、湯村山城 (56)、法泉寺山の烽火台 (57)、小松山の烽火台 (58)、武田城下町遺跡 (59) がある。



☆1 甲府城下町遺跡(甲府市役所)
2 甲府城下町遺跡(北口二丁目)
3 甲府城下町遺跡(集会所)
4 甲府城下町遺跡(紅梅地区)
5 甲府城下町遺跡(甲府駅周辺)
6 緑ヶ丘一丁目遺跡(縄文～平安)
7 宝町遺跡(縄文・平安)
8 榎田遺跡(縄文～平安)
9 上石田遺跡(縄文)
10 緑ヶ丘二丁目遺跡(縄文～平安)
11 金塚西遺跡(縄文・古墳)
12 音羽遺跡(縄文～平安)
13 西大阪A遺跡(縄文)
14 西河原遺跡(縄文・平安)
15 宮北遺跡(縄文・平安)
16 食料工場遺跡(縄文～弥生)
17 居村村上遺跡(縄文・平安)
18 塩部遺跡(弥生～平安)
19 富士見遺跡(古墳～平安)
20 青沼遺跡(古墳～平安)
21 平石遺跡(弥生～平安)
22 向田A遺跡(弥生～古墳)
23 三光寺山遺跡(古墳)
24 八幡東遺跡(弥生～古墳)
25 神田遺跡(弥生～平安)
26 跡部遺跡(古墳)
27 天神北遺跡(古墳・平安)
28 伊勢町遺跡(古墳)
29 湯田町遺跡(古墳)
30 万寿森古墳(古墳)
31 加牟那塚古墳(古墳)
32 湯村山一号墳(古墳)
33 湯村山二号墳(古墳)
34 湯村山三号墳(古墳)
35 湯村山四号墳(古墳)
36 湯村山五号墳(古墳)
37 湯村山六号墳(古墳)
38 大平一号墳(古墳)
39 大平二号墳(古墳)
40 穴塚古墳(古墳)
41 秋山氏館跡(平安～中世)
42 村之内遺跡(古墳～平安)
43 永井遺跡(古墳～平安)
44 十二天遺跡(平安)
45 天神平遺跡(平安)
46 若宮前遺跡(平安)
47 御蔵遺跡(古墳・平安)
48 西大阪B遺跡(平安)
49 前田遺跡(平安)
50 南河原A遺跡(平安)
51 南河原B遺跡(平安)
52 南河原C遺跡(平安)
53 南河原D遺跡(平安)
54 村西遺跡(縄文・平安)
55 武田氏館跡(中世)
56 湯村山城(中世)
57 法泉寺山の烽火台(中世)
58 小松山の烽火台(中世)
59 武田城下町遺跡(中世)
※1～5 59

図3　甲府城下町遺跡周辺の遺跡分布

第３章　調査方法と基本層序

第１節　調査方法

発掘調査は平成22年11月９日から翌年３月22日まで実施した。11月10日から12日、11月29日から12月１日に仮囲い設置工事を段階的に実施し、安全を確保した区域について11月16日から12月６日に重機による表土除去を行った。11月18日から人力による遺構・遺物の検出を開始した。

遺構・遺物の精査に当たり調査区に調査区北西の座標値X＝−37435、Y＝6150を起点として５m方眼のグリッドを設定した（図４）。グリッドの呼称は南北にアルファベット、東西に数字の名称を付して「Ａ１グリッド」のように称した。遺構は検出順に番号を付した。遺構の位置、形状、土層断面はトータルステーションと手実測を併用して記録した。手実測の記録は10分の１、もしくは20分の１で図面を作成した。

包含層及び遺構から検出された遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録した。小破片については各遺構又はグリッドの一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は35mm判カメラ（カラーネガ）と一眼レフデジタルカメラを使用した。

平成23年１月25日に１回目の空中撮影を実施、２月21日から22日に重機による表土除去および深堀を実施、３月16日に２回目の空中撮影を実施、３月17日から重機による井戸立ち割りおよび埋め戻しを実施した。遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。

整理作業は発掘調査と並行して出土遺物の洗浄・注記を開始し、接合、実測遺物の選定、実測・トレース作業を行った。遺物の実測は手実測と写真実測を併用し、手実測の図面はデジタルトレースをした。発掘調査時に遺構を記録した手実測図面もトレースはデジタルトレースを行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

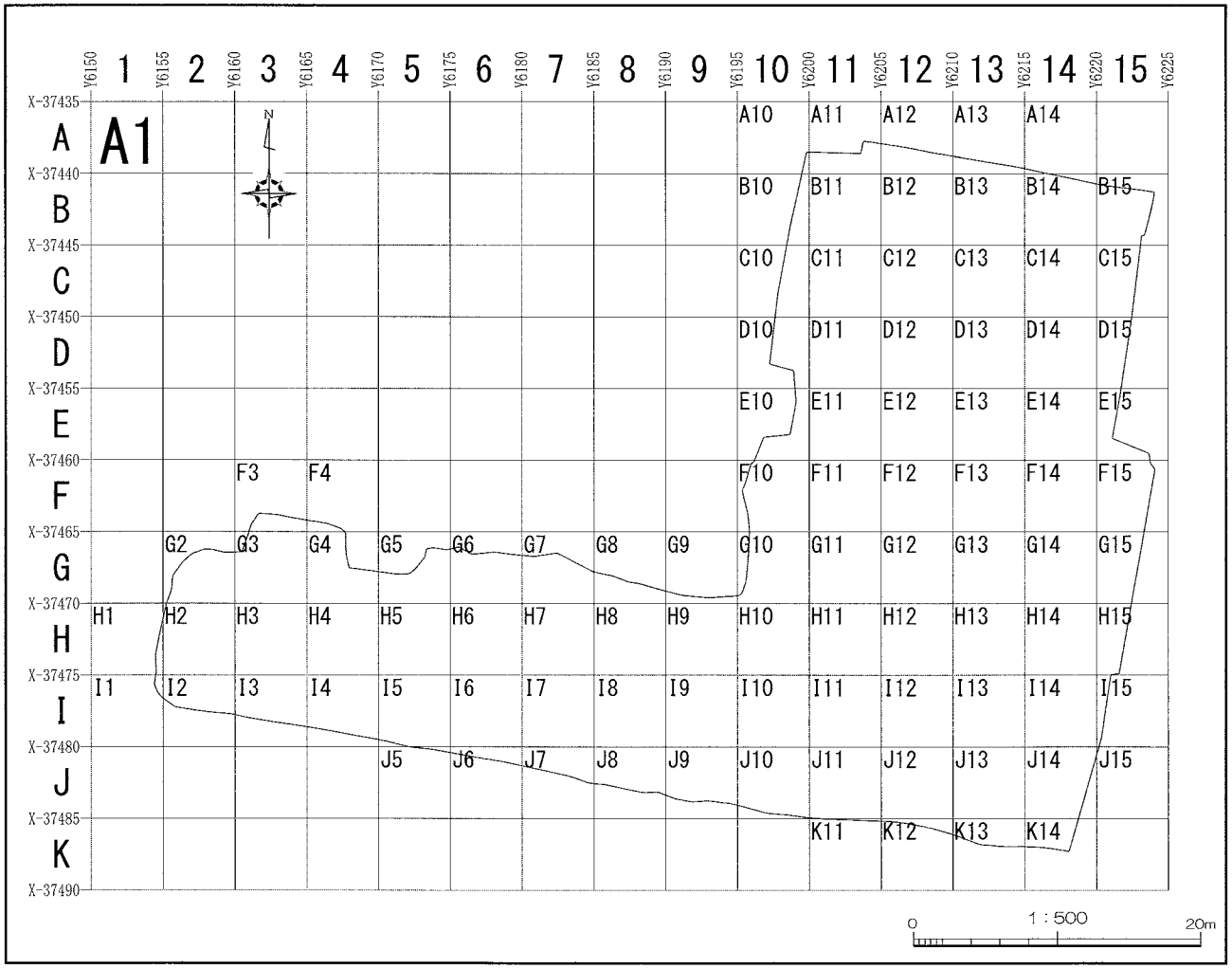


図４　グリッド配置図

第２節　基本層序

基本土層はD 15 グリッドの調査区東壁で確認した。１層はコンクリート、２・３層は盛土で何れも現代の建物に関するものである。４層から６層が遺物が検出される遺構確認面である。以下に各層の説明を記す。

1　厚さ 20 cmのコンクリートと砂礫層。
　20 cm大の円礫を含む。
2　暗褐色 10YR3/3 シルト。しまり強。粘性中。
　2 ～ 5 cmの円礫を 40% 含む。
3　褐色 10YR4/6 シルト。しまり強。粘性中。
4　黒褐色 10YR3/2 シルト。しまり強。粘性中。
　細粒砂 10%、2 ～ 10 mmの炭化物 5% を含む。
5　黒色 10YR3/1 シルト。しまり強。粘性強。
　2 ～ 10 mmの炭化物 10% を含む。
6　灰褐色 7.5YR4/2 粘土。しまり強。粘性強。
　2 ～ 3 mmの黄色土粒 5%、2 ～ 5 mmの炭化物 3% を含む。
7　灰黄褐色 10YR4/2 粘土。しまり強。粘性強。
　明黄褐色土 40%、2 ～ 5 cmの亜円礫 10% を含む。
8　灰黄褐色 10YR4/2 粘土。しまり強。粘性強。
　明黄褐色土 50%、2 ～ 5 cmの亜角礫 20% を含む。
9　灰褐色 7.5YR4/2 粘土。褐色土 40% を含む。
10　明黄褐色 10YR6/8 シルト。しまり強。粘性中。
　褐灰色土 20%、2 ～ 5 mmの赤色土粒 2% を含む。
11　明黄褐色 10YR6/8 シルト。しまり強。粘性中。
　1 ～ 5 cmの亜円礫 10% を含む。

写真５　基本層序　西から

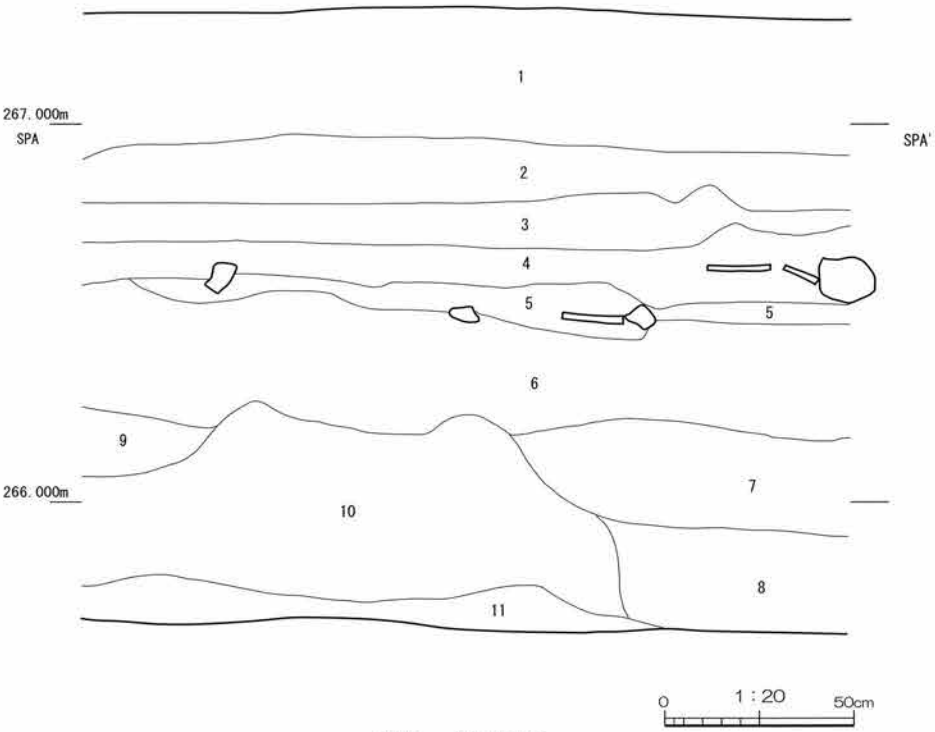


図５　基本層序

第４章　調査成果

第１節　発掘調査の概要

発掘調査では近世から近代の遺構・遺物が出土した。検出された遺構は山梨県庁基礎 17 条、建物跡１棟、溝 12 条、井戸３基、池１基、土坑 39 基、ピット 59 基、集石２箇所、有機物集中地点１箇所である（図６）。集石は３㎝前後の小礫が敷き詰められている箇所で１箇所は飛石列１条、もう１箇所は礎

写真６　調査区全景　南から　　甲府城と秩父山地を望む

写真７　調査区全景

1有機物集中
7ピ
28土
39土
8ピ
4溝
4ピ
6ピ
5溝
3溝
3溝
36土
37土
33土
32土
12土
9ピ
10ピ
1集石
34ピ
23土
29ピ
50ピ
35ピ
39ピ
43ピ
42ピ
41ピ
26土
12溝
30ピ
32ピ
57ピ
26ピ
44ピ
31ピ
22土
23ピ
24土
21ピ
49ピ
34土
53ピ
52ピ
20ピ
40ピ
27土
29土
47ピ
31土
48ピ
33ピ
24ピ
3井
9溝
9溝
2井
9溝
2溝
9溝
10溝
56ピ
27ピ
1井
36ピ
28ピ
6土
5土
14ピ
51ピ
30土
18ピ
1土
45ピ
1建物
19ピ
20土
3土
2土
16土
35土
46ピ
4土
25土
59ピ
2ピ
15土
38ピ
37ピ
58ピ
25ピ
県庁1基礎
県庁6基礎
県庁7基礎
県庁3基礎
県庁2基礎
県庁5基礎
県庁4基礎
県庁8基礎
7溝
6溝
13ピ
1ピ
11土
11ピ
5ピ
17ピ
21土
県庁9基礎
15ピ
17土
38土
県庁12基礎
19土
18土
22ピ
54ピ
16ピ
3ピ
12ピ
県庁13基礎
県庁10基礎
2集石
55ピ
県庁14基礎
14土
1池
県庁11基礎
13土
県庁15基礎
7土
9土
10土
8土
県庁16基礎
県庁17基礎
B15
B10
B9
B8
B7
B6
B5
B4
B3
B2
C2
D2
E2
F2
G2
H2
I2
J2
K2
N
0
1：300
10m

図６　調査区全体図

石列２条を伴い検出された。

遺物は磁器、陶器、土器、木製品、古銭、金属製品、石製品、土製品、ガラス製品、瓦、動植物遺体などが出土している。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

第２節　建物跡

１．山梨県庁基礎（図７）

明治10年建築の山梨県庁基礎を17条検出した。Ｆ12からＩ３グリッドに位置する。検出範囲で東西45ｍ、南北21ｍである。平面形はＥ字形でいわゆる内務省型と呼ばれるものである。方向はN-10°-Eで南を正面としている。検出部位はＥの字の中央部に突出した正面玄関部と、右翼部の角・左翼部廊下の一部である。基礎の構造は溝の底面に杭を打ち込み、杭上に枕木を乗せ、枕木上に胴木を渡している。胴木の上に根石、礎石と積み上げて、周囲を玉石や割石で充填している。

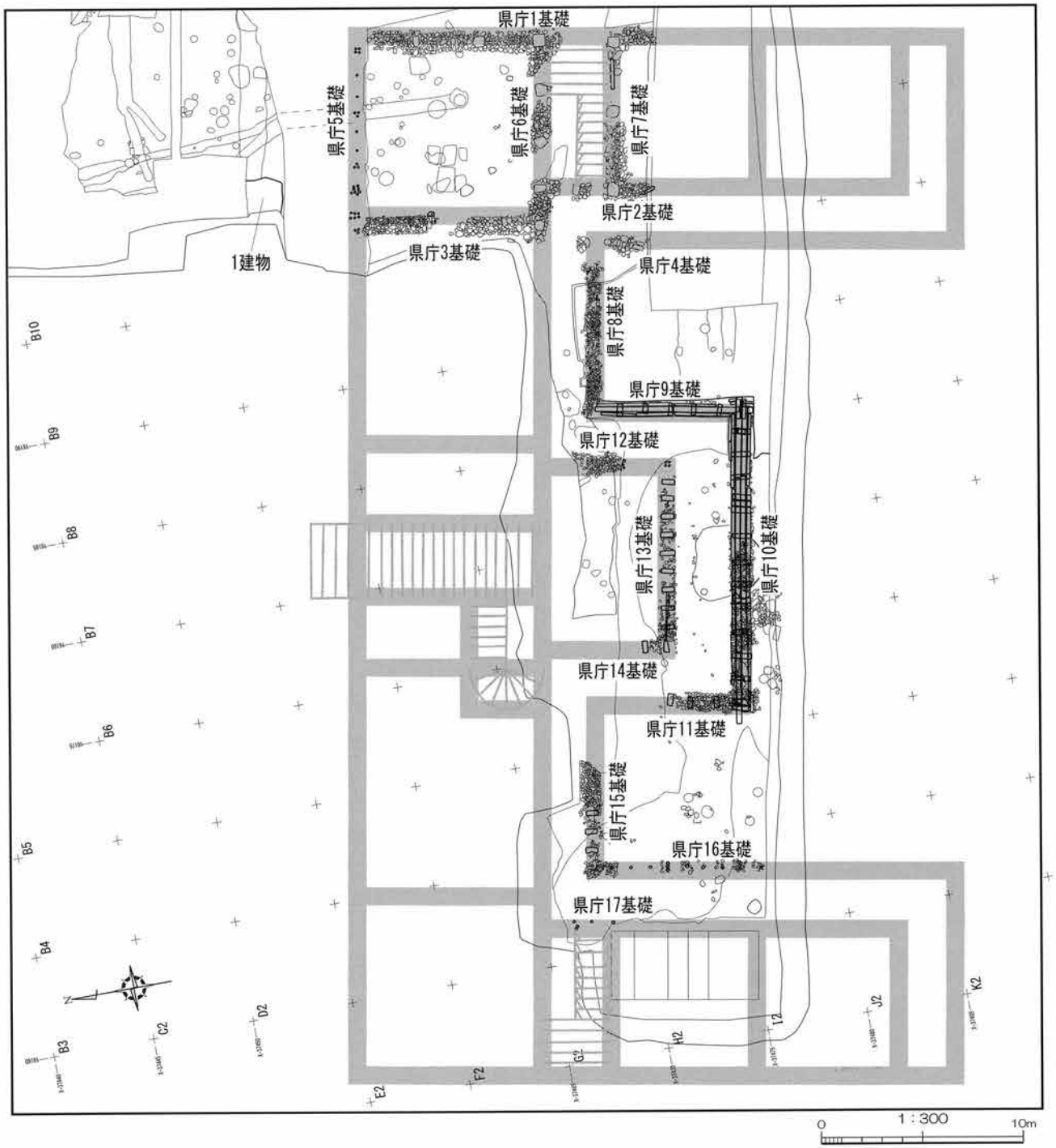


図７　山梨県庁全体図

1号基礎（図８～10）

Ｆ12からＪ11グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部の端に当たる。建物東壁の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ14.4ｍ、幅1.2ｍである。北側は庁舎の北東角になり東西方向の５号基礎と接続している。５号基礎と接続する角部分

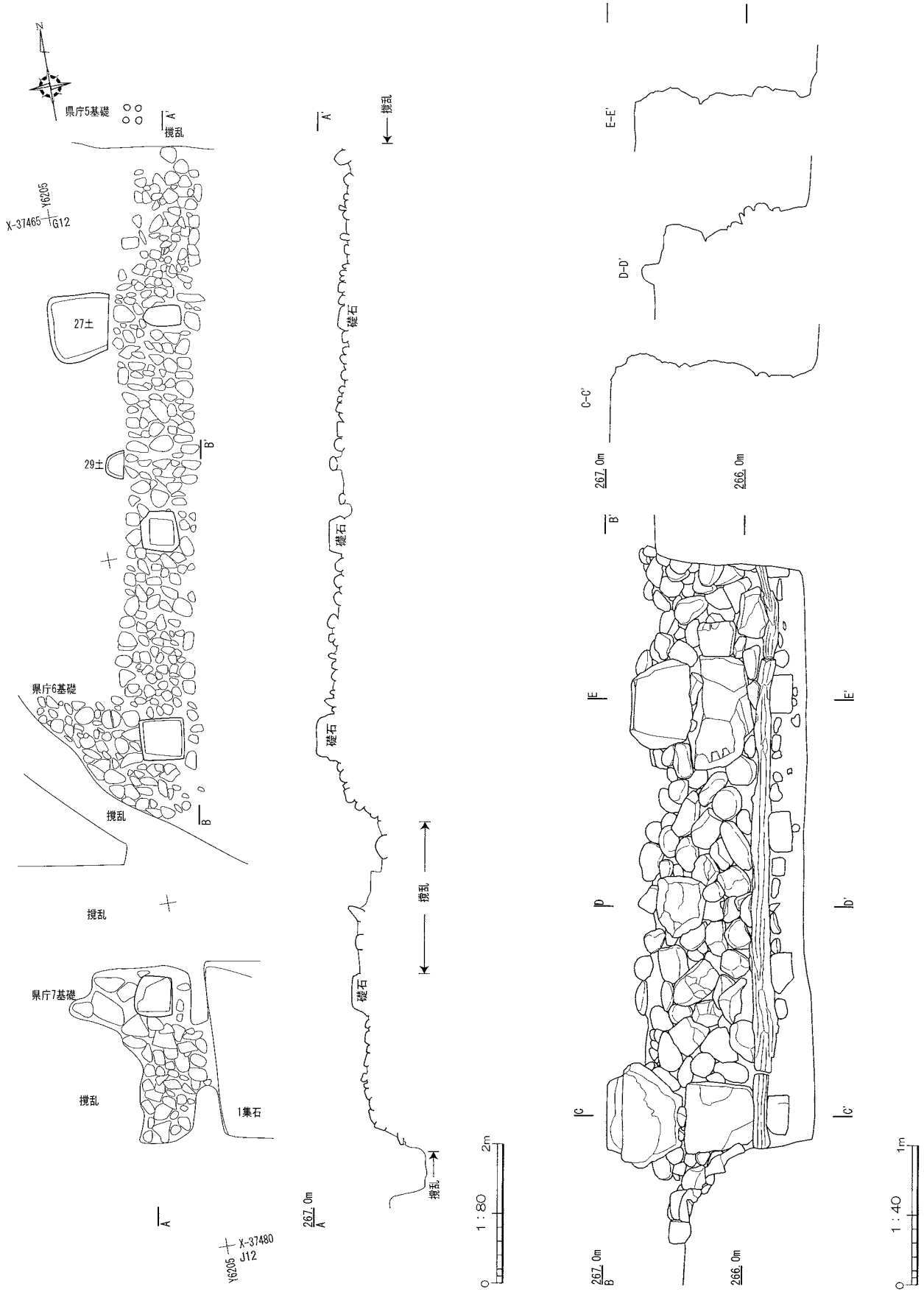


図８　県庁１号基礎

写真８　県庁１～８号基礎

写真９　県庁１号基礎　東から

写真 10　県庁１号基礎　東から

写真 11　県庁１号基礎　手違鋏

は撹乱を受けているが、基礎構造最下部の杭のみ検出することが出来た。中間部の一部と南側は撹乱され消失している。中間部では東西方向に延びる６号基礎、７号基礎と接続している。１号基礎では礎石、玉石、根石、胴木、枕木を検出した。枕木上に胴木を渡し、胴木の上に根石、礎石と積み上げて、周囲を玉石や割石で充填している構造を確認した。胴木、枕木はアカマツが使用されている。胴木と枕木は手違鋏で固定されていた。

礎石の上面から枕木の下面までの深さは約 1.4 mである。枕木の厚さは約 20 ㎝、胴木の厚さは約 15 ㎝である。12 号基礎での確認状況から、この枕木の下には更に長さ１m程度の杭が打ち込まれていると推察できる。礎石、根石には加工が認められた。２寸幅の矢穴も観察できた。庁舎全体として見ると、多くの礎石は加工されているが、形状に規格性は認められなかった。このことから、礎石、根石は転用品として使用された可能性が考えられる。

１号基礎では礎石は４個検出された。北側３個の礎石の間隔は約３mである。南側の礎石の間隔は約 3.8 mで、ここは階段が設置されていた箇所に当たる。他の遺構との切り合い関係は１号基礎が 27 号土坑、29 号土坑、１号集石を切っている。

出土遺物の多くは詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものが多いと考えられる。遺物は磁器 18 点（１～18）、陶器 11 点（19～29）、ガラス製品２点（30～31）、金属製品３点（32～34）、瓦２点（35～36）を図示した。磁器：１～８は丸碗、９～11 は端反碗、12～14 は碗、15～17 は皿、18 は瓶である。陶器：19・20 は灯明受皿、22 は行平鍋、23 は土瓶蓋、24 は土瓶、25 は瓶、26 は鉢、27・28 は擂鉢、29 は秉燭である。ガラス製品：30 は栓、31 は蓋である。金属製品：32 は釘、33 は手違鋏である。33 は県庁基礎の胴木と枕木を固定した状態で出土した。瓦：35 は軒桟瓦である。

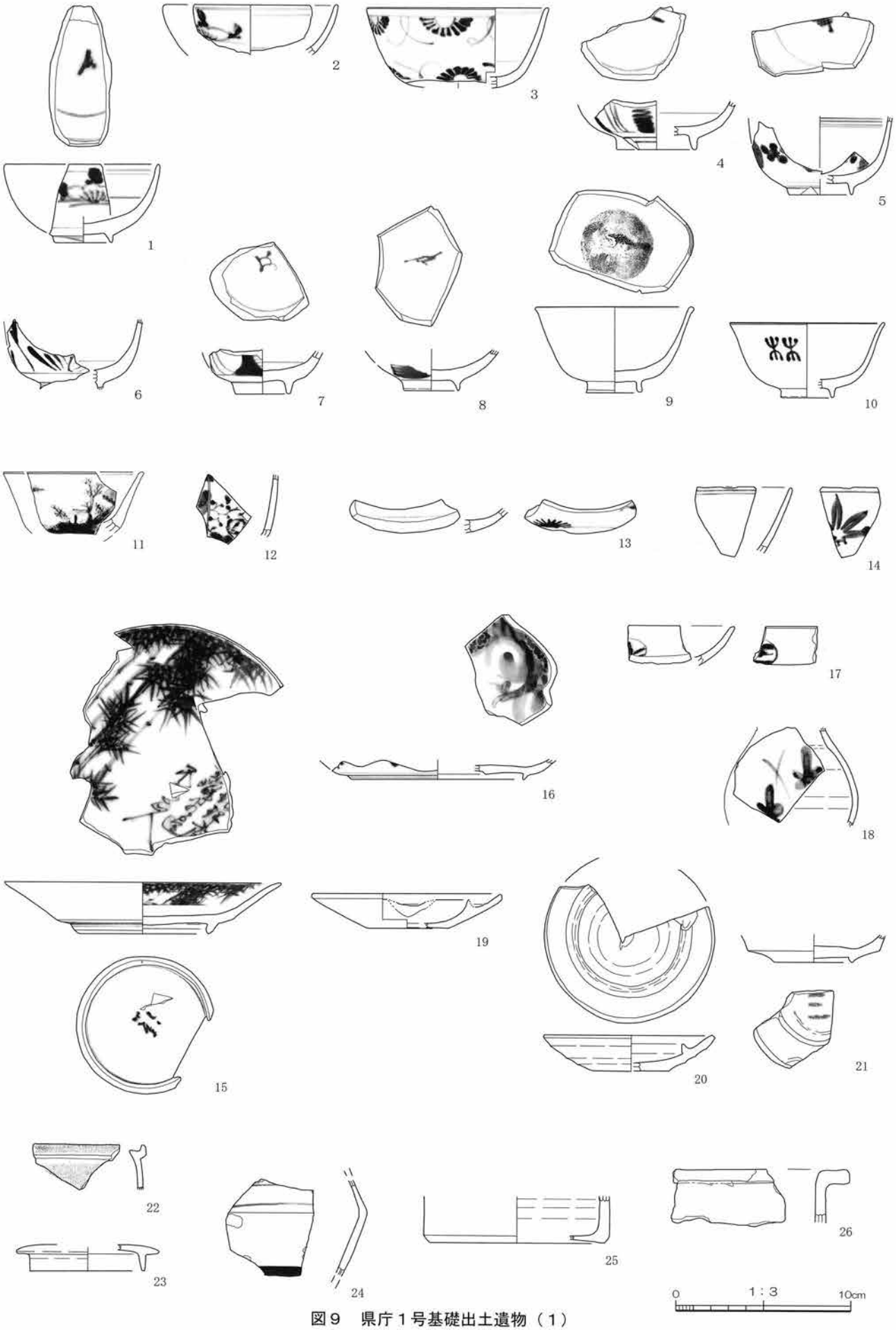


図９　県庁１号基礎出土遺物（１）

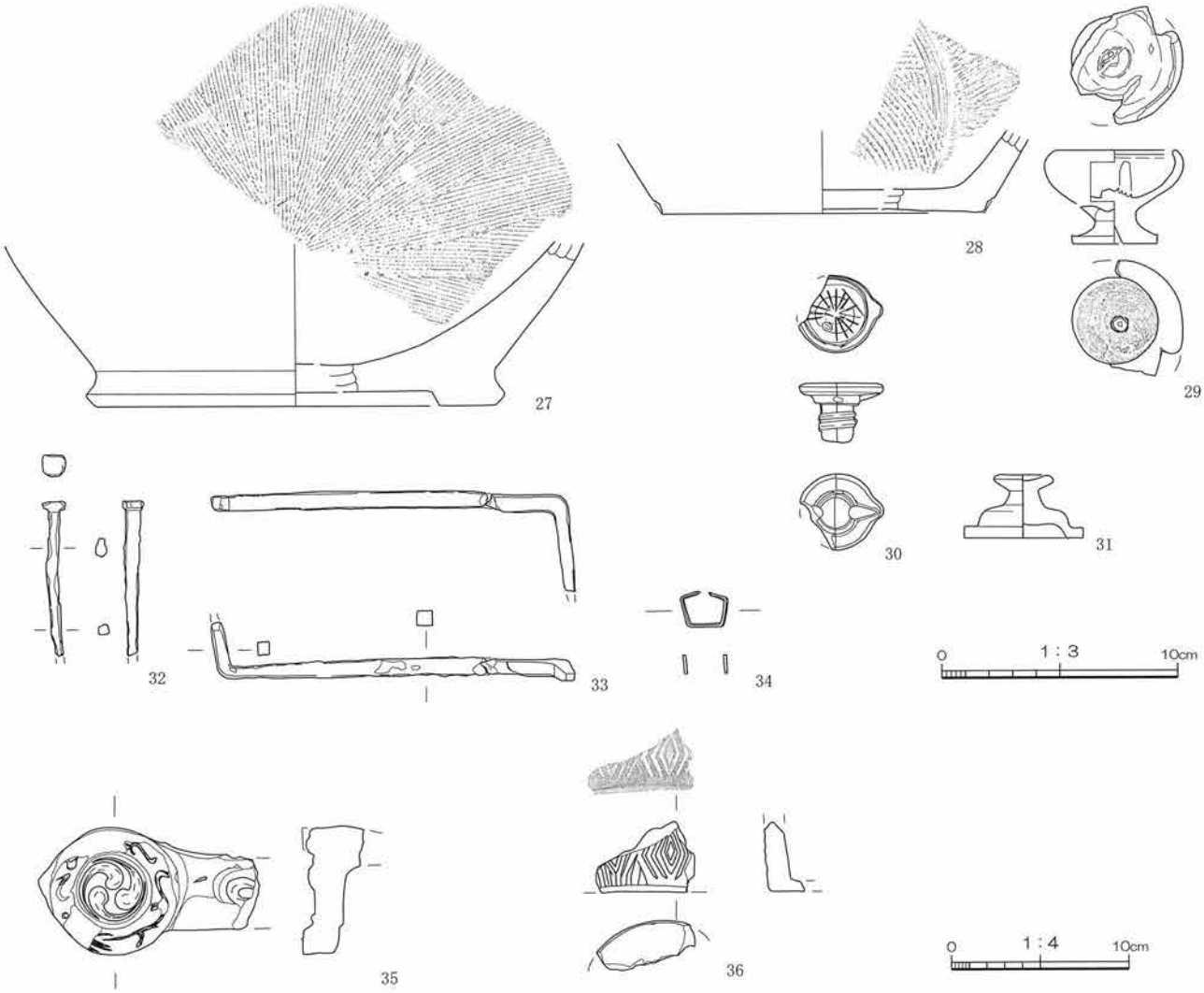


図 10　県庁 1 号基礎出土遺物（2）

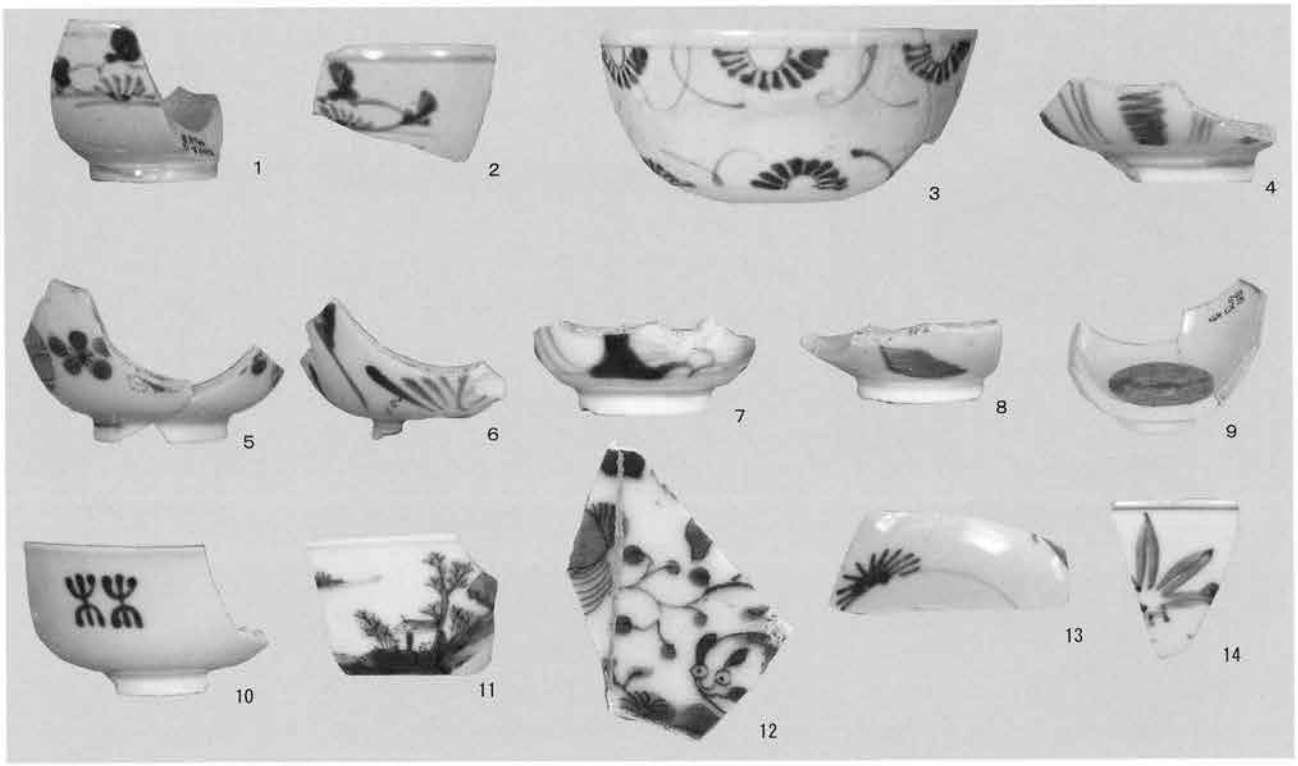


写真 12　県庁 1 号基礎出土遺物（1）

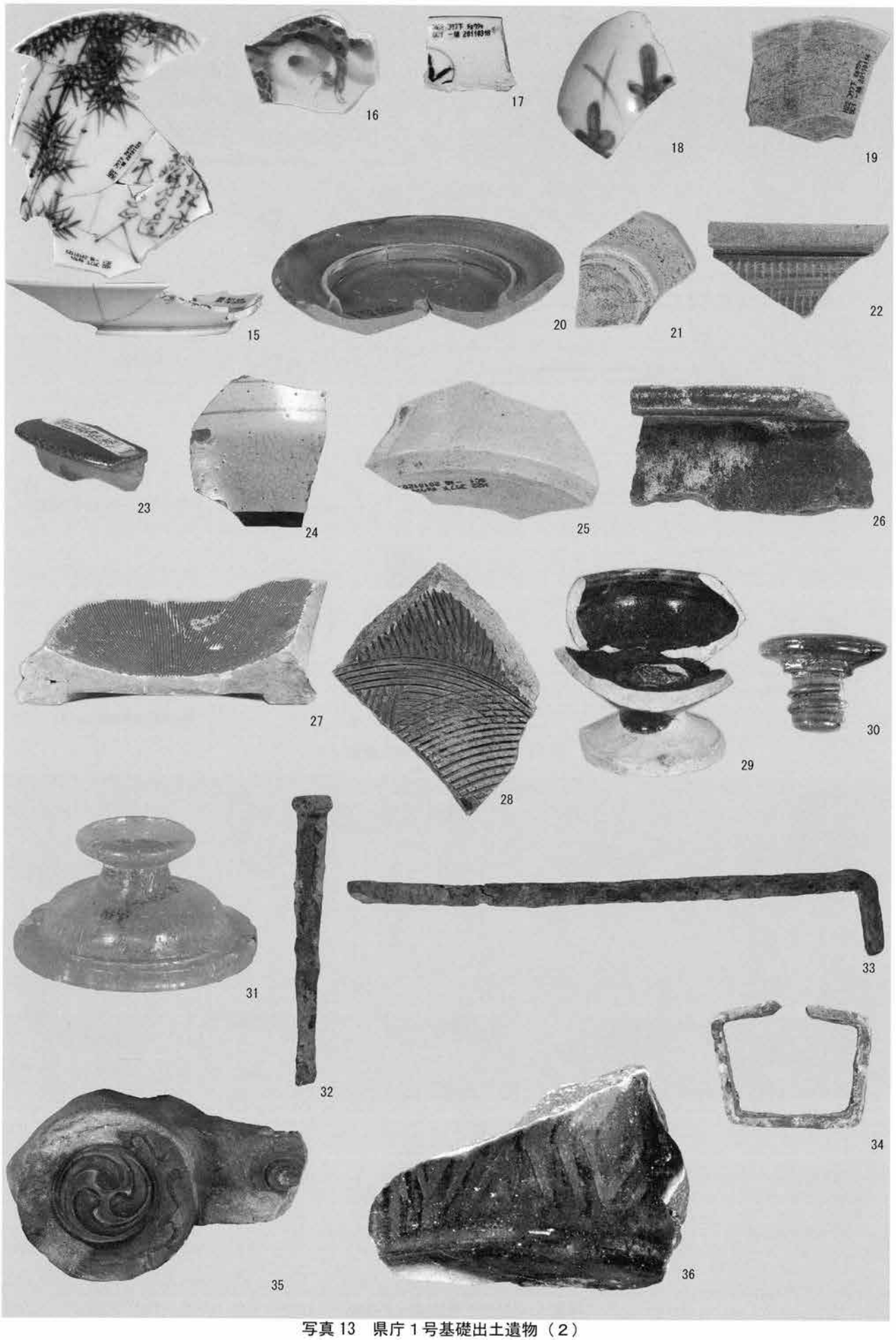


写真 13　県庁１号基礎出土遺物（２）

２号基礎（図 11・12）

Ｈ 10 からＩ 10 グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部西壁の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ６ｍ、幅 0.８ｍである。北側は右翼突出部の付け根になり東西方向の６号基礎と接続している。中間部の一部と南側は撹乱され消失している。中間部では東西方向に延びる７号基礎と接続している。２号基礎では礎石、玉石、根石、胴木、枕木を検出した。土層断面では胴木を設置する深さまでは幅広に溝を掘り、枕木の部分だけ枕木の幅に合わせてもう一段掘り込んでいる様子が確認できた。玉石の下にある胴木、枕木の周囲の土層は、水分を多く含み暗渠のような状態であった。

礎石の上面から枕木の下面までの深さは約 1.３ｍである。枕木の厚さは約 15 ㎝、胴木の厚さは約 12 ㎝である。礎石、根石には加工が認められた。

２号基礎では礎石は３個検出された。３個の礎石の間隔は約 1.９ｍである。ここは階段の上り口が設置されていた箇所に当たる。他の遺構との切り合い関係は２号基礎が 15 号土坑を切っている。

出土遺物は詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものと考えられる。遺物は磁器１点（1）、陶器１点（２）を図示した。磁器：１は丸碗である。陶器：２は鉢と思われる。

写真 14　県庁２号基礎　南から　土層断面

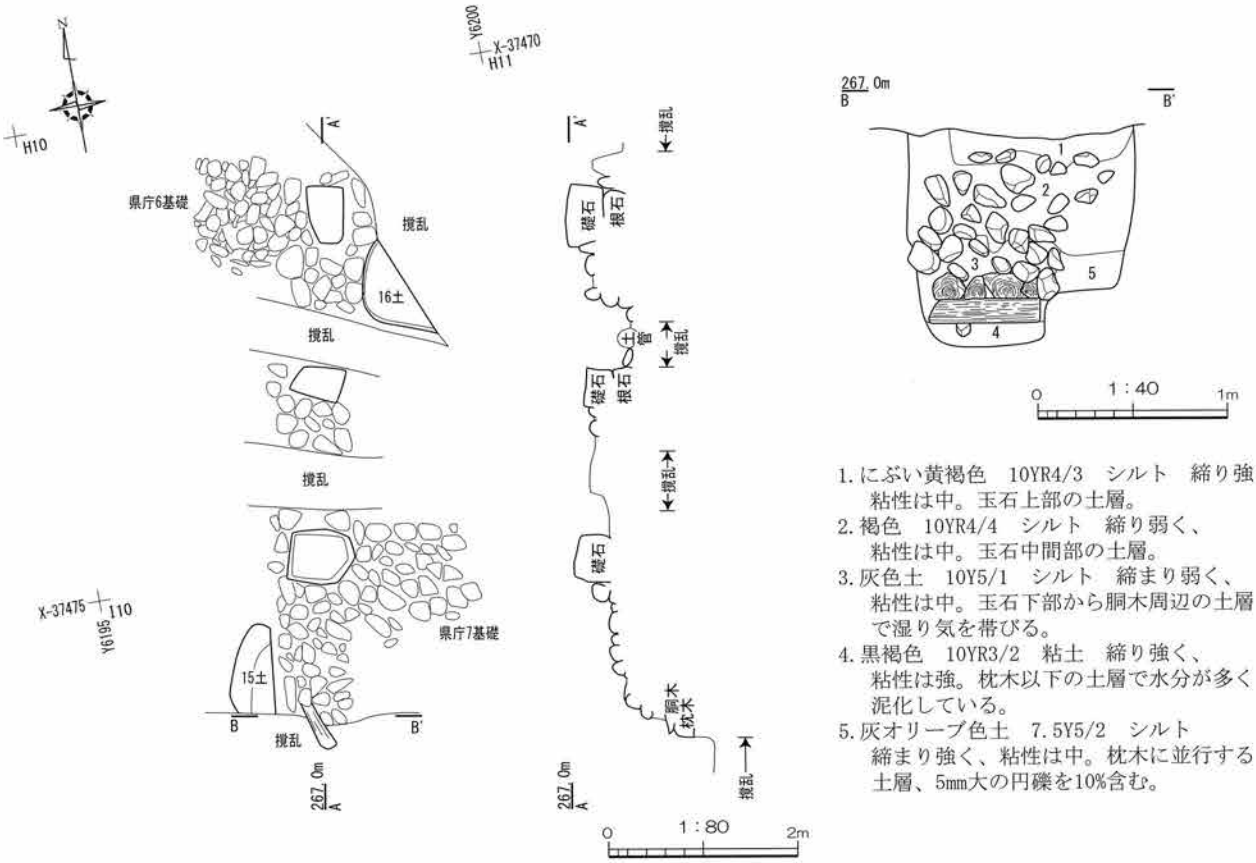


図 11　県庁２号基礎

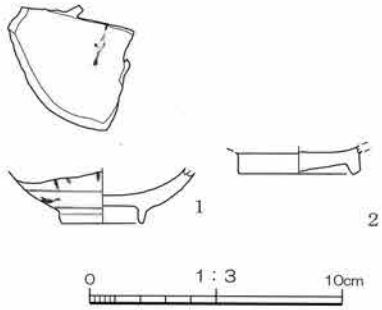


図 12　県庁２号基礎出土遺物

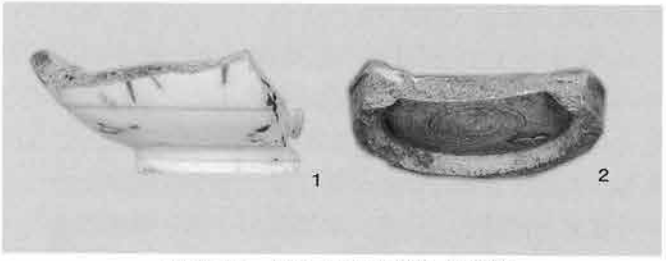


写真 15　県庁２号基礎出土遺物

３号基礎（図 13・14）

Ｆ 10 から H10 グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。南北方向に延び、検出範囲で長さ 9.6 m、幅 0.9 m である。北側は建物北壁となる東西方向の５号基礎と接続している。中間部の一部が撹乱され、南端もわずかに消失している。南側では東西方向に延びる６号基礎と接続している。３号基礎では礎石、玉石を検出した。礎石は１個検出された。他の遺構との切り合い関係は３号基礎が２号ピットを切っている。

出土遺物は詰め込まれた玉石の上面で検出されている。県庁建設時に玉石に被せられた土壌に包含され二次堆積したものと考えられる。遺物は磁器３点（１～３）、陶器２点（４・５）、銭貨２点（６・７）を図示した。磁器：１は広東碗、２は端反碗、３は皿である。陶器：４は小皿、５は鉢と思われる。銭貨：６・７は寛永通宝である。７は文銭である。

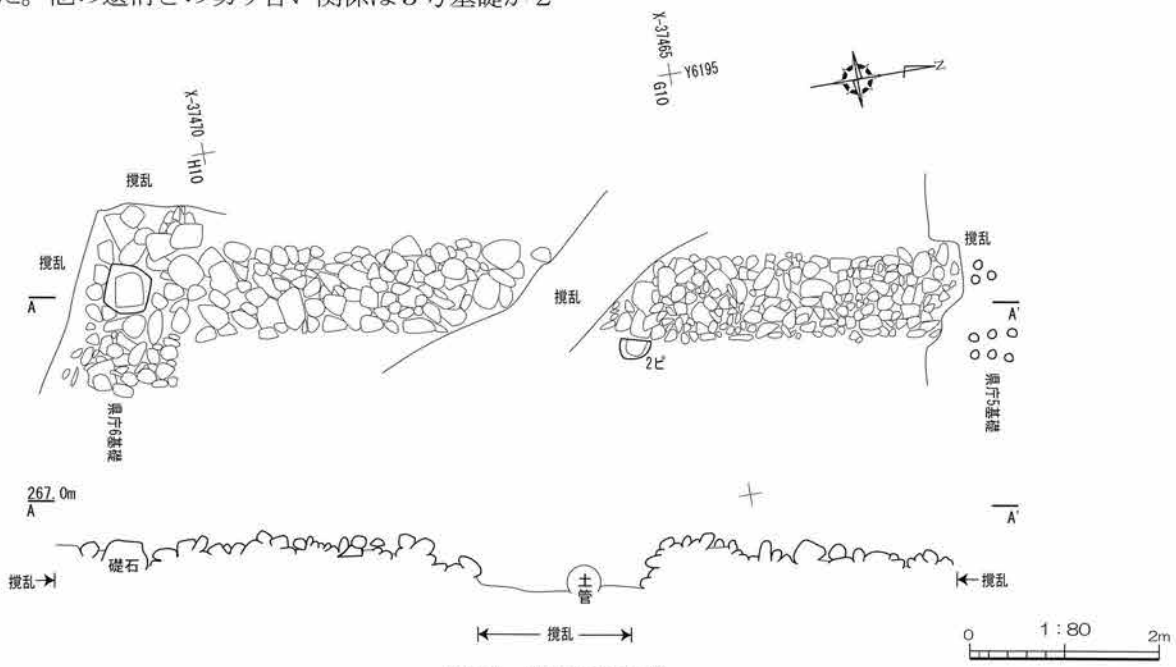
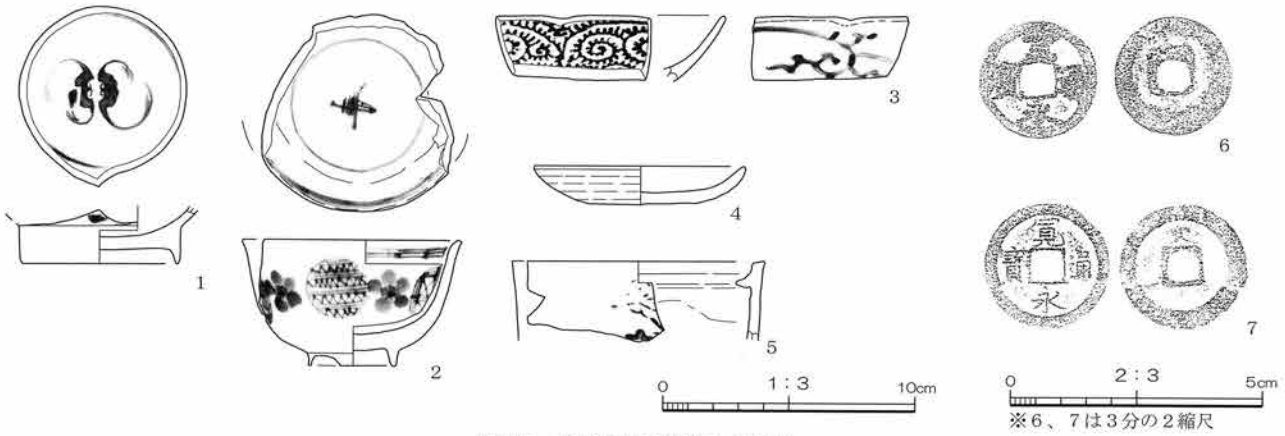


図 13　県庁３号基礎



※６、７は３分の２縮尺

図 14　県庁３号基礎出土遺物

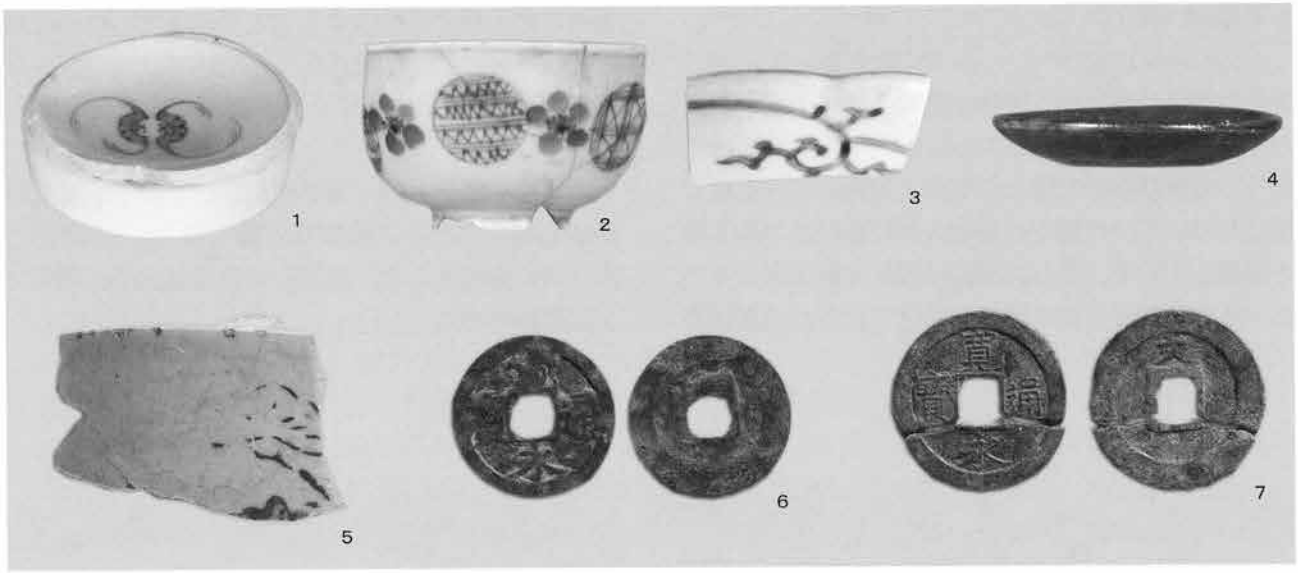
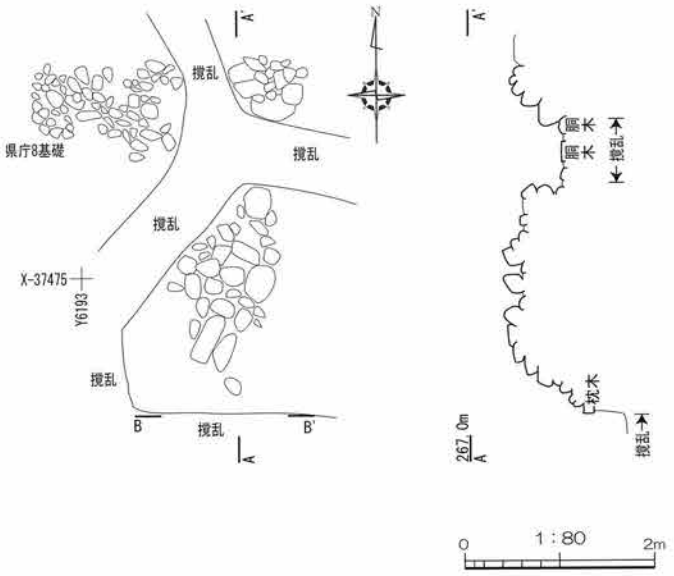


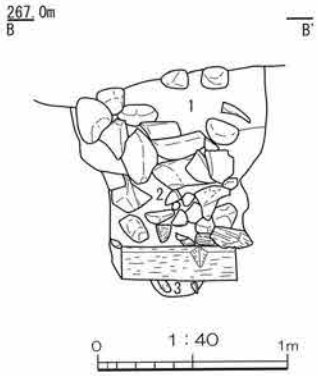
写真 16　県庁３号基礎出土遺物

４号基礎（図 15・16）

Ｈ９からＩ９グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ 3.5 m、幅１mである。北側は建物正面の外廊下となる東西方向の８号基礎と接続している。中間部と南側が撹乱され消失している。南側では東西方向に延びる６号基礎と接続している。４号基礎では玉石、胴木、枕木を検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器１点（1）、陶器１点（2）を図示した。磁器：１は広東碗である。陶器：２は擂鉢である。





1. にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト　締り強く、粘性は中。5mm位の炭化物を1%、2～5mmの亜円礫を10%含む。
2. 褐色　10YR4/4　シルト　締り弱く、粘性は中。2～5mm位の炭化物を2%、1～5mmの円礫を3%含む。
3. 黒褐色　10YR3/2　粘土　締り強く、粘性は強。1mm位の炭化粒を1%、1mm位の赤色土粒を1%含む。

図 15　県庁４号基礎

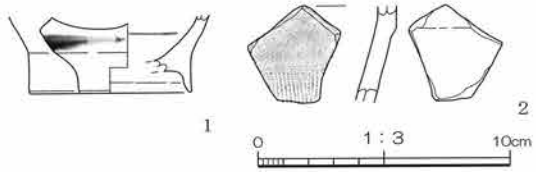


図 16　県庁４号基礎出土遺物

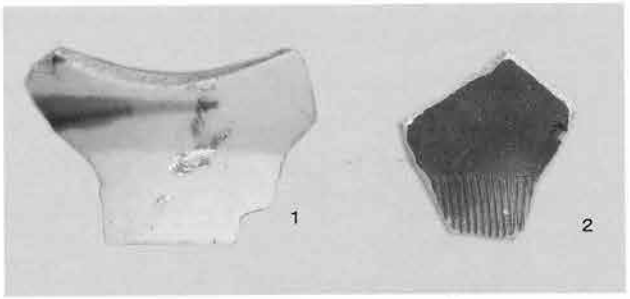


写真 17　県庁４号基礎出土遺物

5号基礎（図17・18）

F 10からF 12グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。建物北壁の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ9.5 m、幅0.5 mである。東側は建物東壁となる南北方向の1号基礎と接続している。西側では南北方向に延びる3号基礎と接続している。さらに西側は撹乱され消失している。5号基礎は全体に撹乱を受けているが、基礎構造最下部の杭のみ検出することが出来た。他の遺構との切り合い関係は撹乱のため明確ではないが5号基礎が9号溝、19号ピットを切っていたと考えられる。

出土遺物は杭と同一面で検出されているが撹乱の影響も考えられる。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器：1は皿である。陶器：2は擂鉢である。

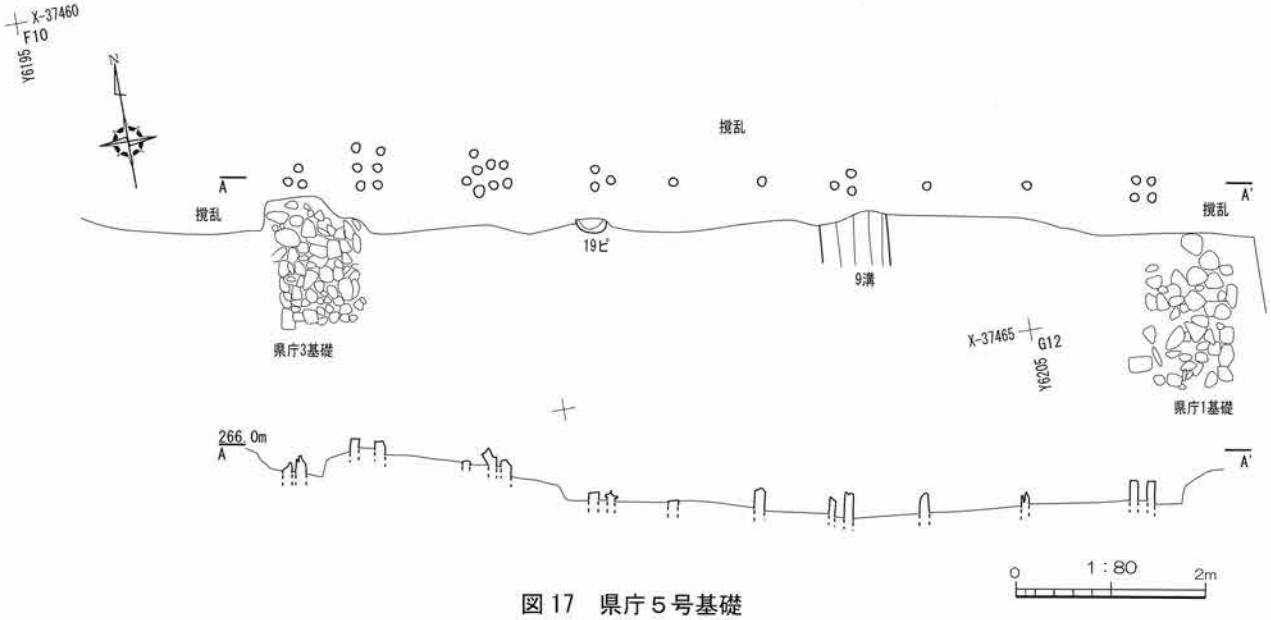


図17　県庁5号基礎

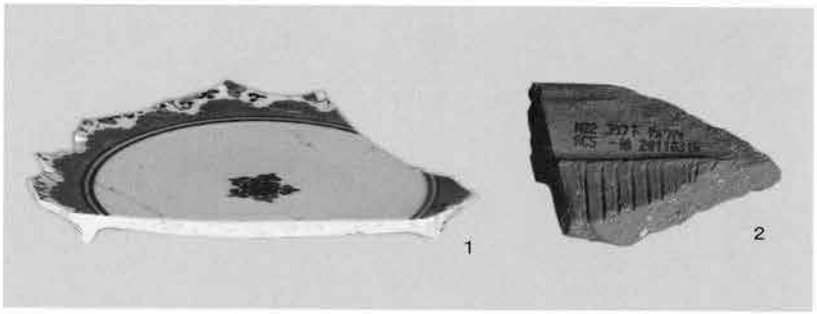


写真18　県庁5号基礎出土遺物

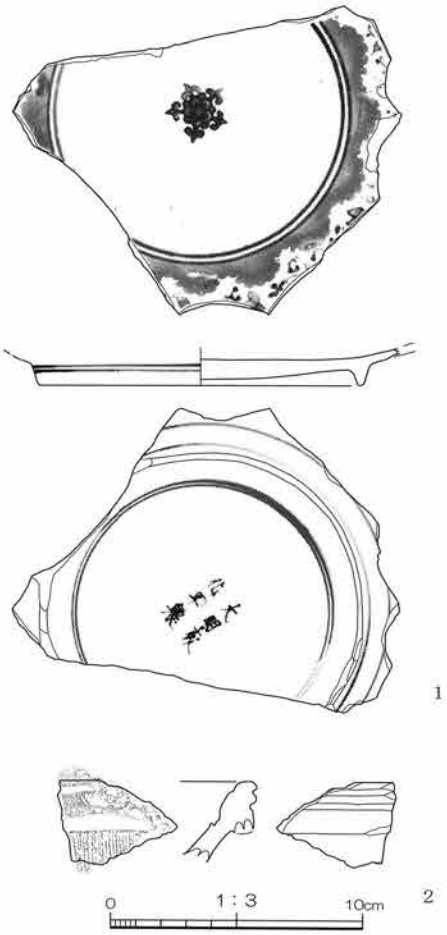


図18　県庁5号基礎出土遺物

6号基礎（図19・20）

H 10からH 12グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部から建物正面の南壁へと続く基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ10 m、幅1 mである。東側は建物東壁の1号基礎と接続している。中間部は撹乱され部分的に消失している。西側では南北方向に延びる2号基礎、3号基礎と接続している。さらに西側は撹乱により消失している。

6号基礎では礎石、玉石、根石を検出した。礎石は5個検出された。東側4個の礎石の間隔は約2.5 mである。西側2個の礎石の間隔は約1.8 mである。他の遺構との切り合い関係は撹乱のため明確ではな

いが６号基礎が 16 号土坑を切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器６点（１～６）、陶器７点（７～ 13）、瓦１点（14）を図示した。磁器: １～５は丸碗、６は端反碗である。陶器: ７は瓶、８は土瓶蓋、９・10 は土瓶、11 は鉢、12 は擂鉢、13 は土管である。瓦: 14 は軒丸瓦である。

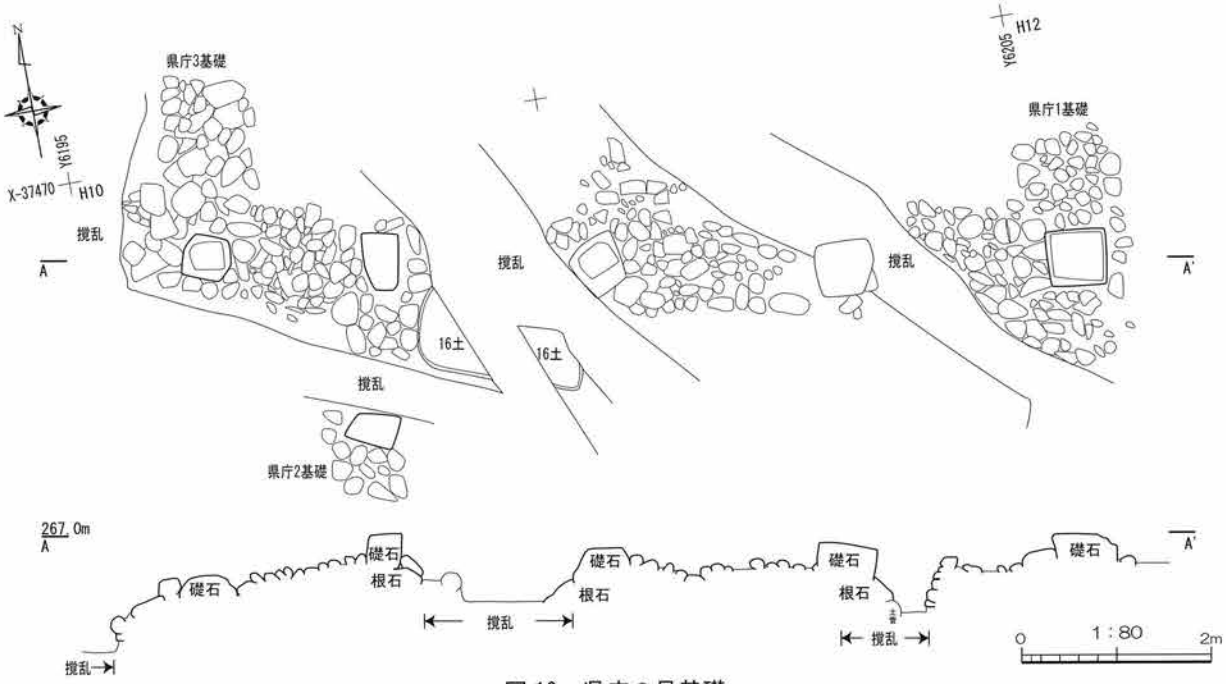


図 19　県庁６号基礎

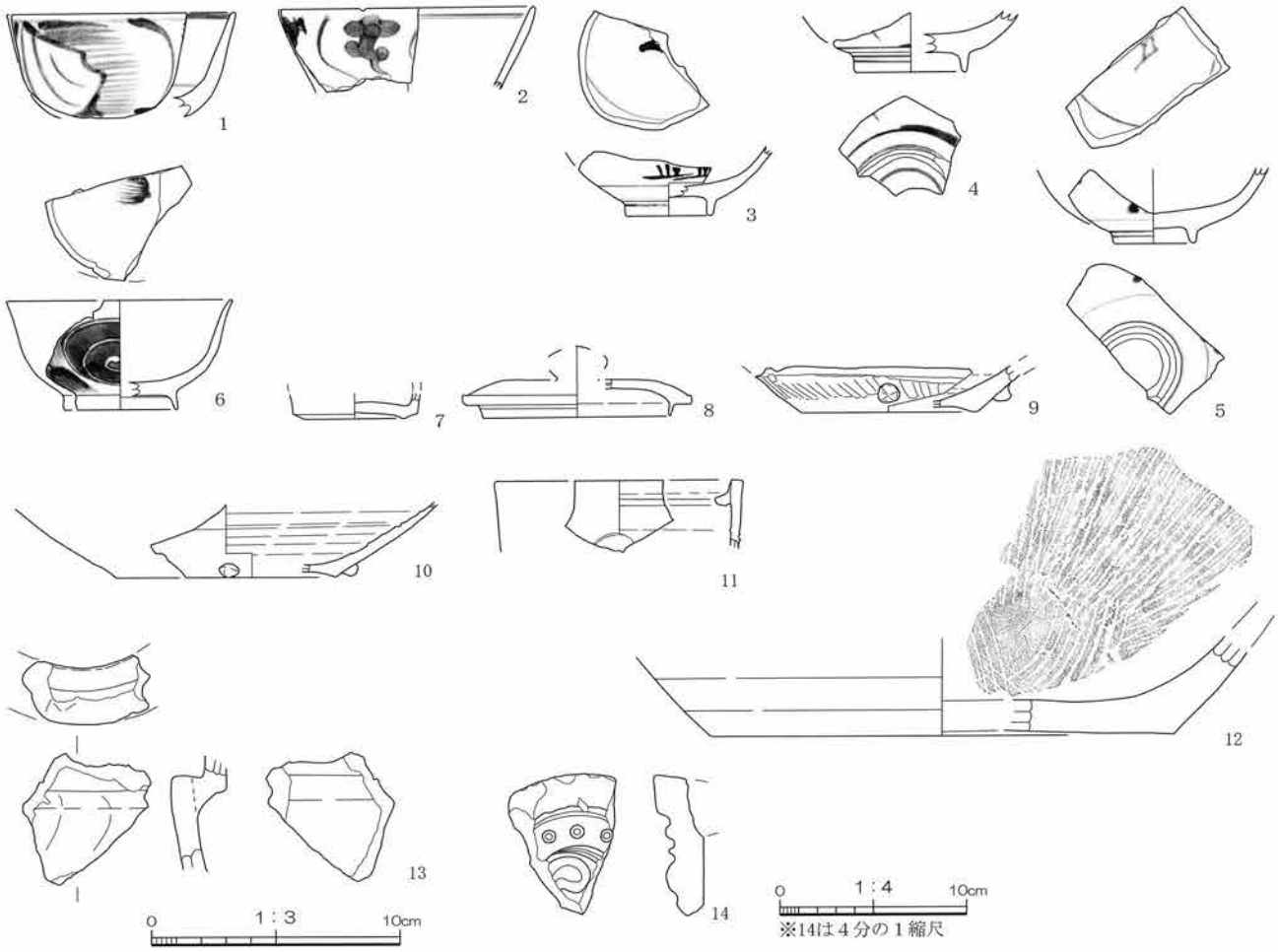


図 20　県庁６号基礎出土遺物

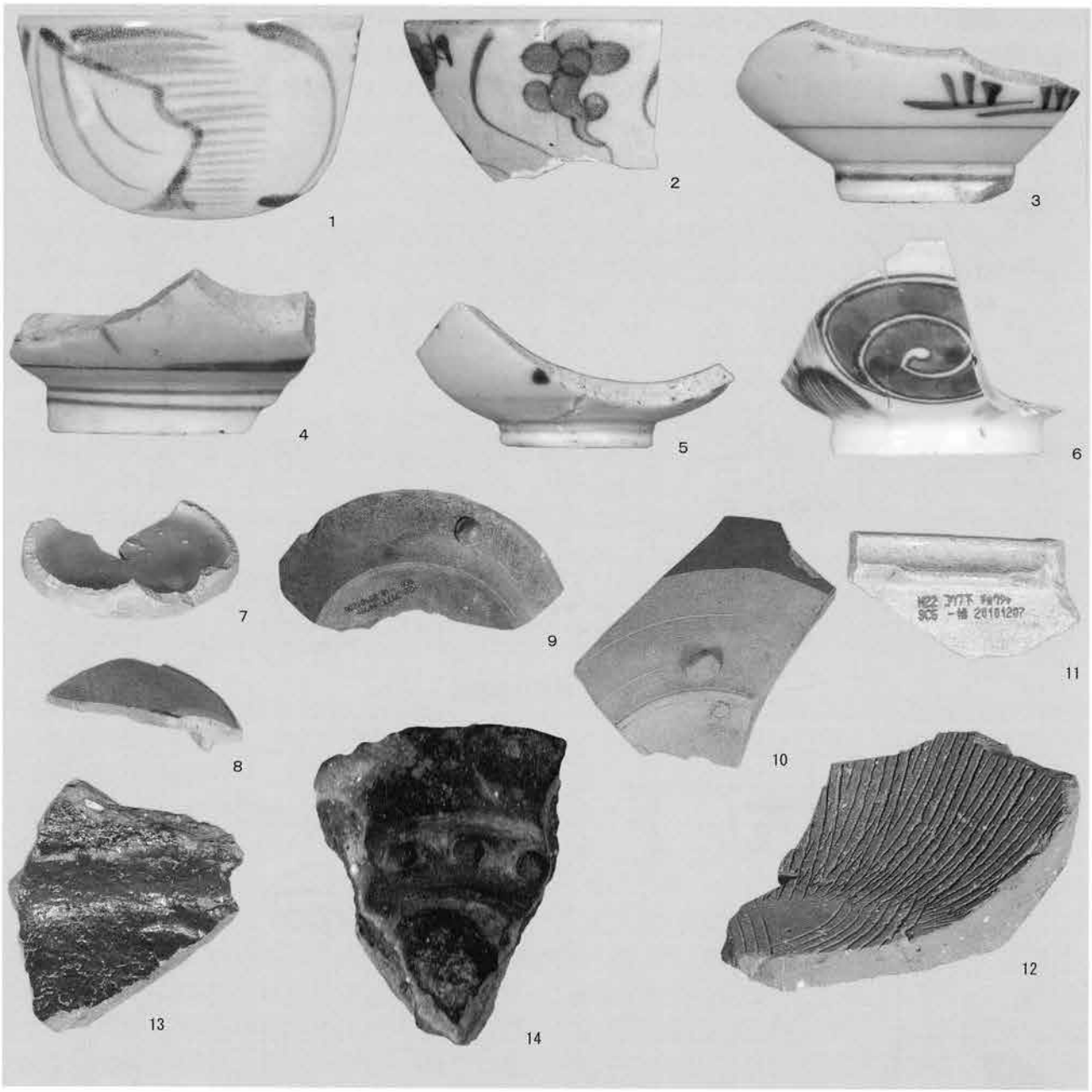


写真 19　県庁６号基礎出土遺物

７号基礎（図 21・22）

Ｉ 10 グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の右翼部に当たる。右翼部の階段の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ 8.4 m、幅 1.2 mである。東側は建物東壁の１号基礎と接続している。中間部は撹乱され部分的に消失している。西側では南北方向に延びる２号基礎と接続している。

７号基礎では礎石、玉石、根石、胴木を検出した。礎石は３個検出された。中間の礎石は撹乱を受けていたが３個の礎石の間隔は約 3.7 mである。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器５点（１～５）、陶器４点（６～９）、土器１点（10）、金属製品１点（11）を図示した。磁器：１、３、５は丸碗、４は筒形碗、２は鉢である。陶器:６、８は灯明受付皿、７、９は擂鉢である。土器:10 は蓋、金属製品：11 は鎹である。

８号基礎（図 23・24）

Ｈ８からＨ９グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の中央部に当たる。建物正面の外廊下の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ 8.8 m、幅 0.8 mである。東側で右翼部突出部外廊下の４号基礎と接続する角部が撹乱されている。西側では中央部突出部の玄関の外廊下である９号基礎と接続している。８号基礎から西側の 17 号基礎までの範囲は甲府水道局の倉庫が建てられていたため礎石などの県

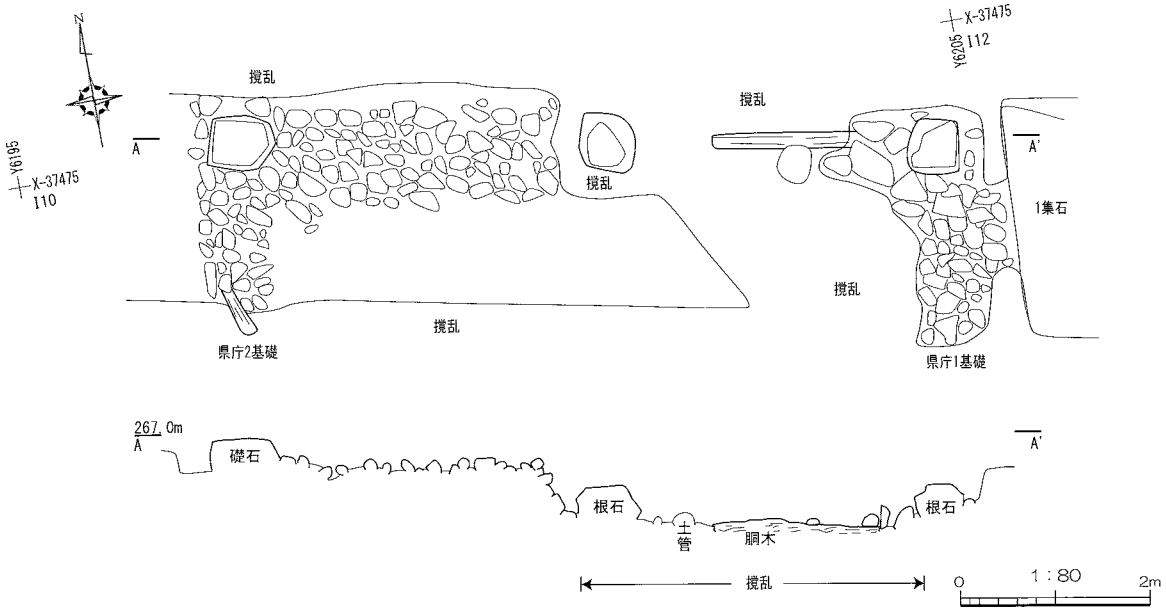


図21　県庁７号基礎

庁基礎上部の多くは撹乱され消失している。

８号基礎では玉石、胴木を検出した。他の遺構との切り合い関係は８号基礎が１号ピットを切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器２点（１・２）を図示した。磁器：１は筒形碗、２は丸碗である。

９号基礎（図25・26）

Ｈ８からＩ８グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の中央部に当たる。中央部突出部の玄関部の外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ8.4ｍ、幅0.9ｍである。北側は東西方向に延びる建物正面部外廊下の８号基礎と接続している。南側では東西方向に延びる中央部突出部の正面玄関の10号基礎と接続している。

９号基礎では胴木、枕木、杭を検出した。胴木は中心に１本の角材を渡し、両脇に１本ずつ丸太材が用いられていた。10号基礎との重なり合う部分では９号基礎の胴木の上半分を抉り込み、鉤の手の受け部が設けられていた。枕木は７個検出された。枕木の間隔は約1.2ｍである。胴木同士、胴木と枕木は鎹で固定されていた。胴木から枕木の厚さは0.3ｍである。各枕木の下から杭を検出した。杭は南端の角部では12本打ち込まれ、中間部では３本、その間は１本であった。杭の周囲には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は胴木脇で出土した陶器と、胴木で使用されていた鎹である。遺物は陶器１点（１）、金属製品３点（２～４）を図示した。陶器：１は皿、金属製品：２～４は鎹である。

10号基礎（図27～30）

Ｉ５からＩ８グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の中央部突出部に当たる。正面玄関の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ16ｍ、幅1.2ｍである。東側は南北に延びる９号基礎、西側は11号基礎と接続している。

10号基礎では礎石、根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。礎石、根石は１個検出された。胴木は中心に２本の角材を渡し、両脇に１本ずつ丸太材が用いられていた。枕木は18個検出された。枕木は角部で２本、中間の２箇所でそれぞれ２本と３本が並べて使用されていた。４か所で枕木と胴木との間にできる隙間を埋めるために板で調整がなされていた。枕木の間隔は約1.2ｍである。胴木同士、胴木と枕木は鎹で固定されていた。礎石から枕木の厚さは1.1ｍである。各枕木の下から杭を検出した。杭は複数の枕木を並べて使用している東西の角部と中間部２箇所では12本打ち込まれ、その間は１箇所で２本使用されているのを除いて、１本であった。杭の周囲には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係は10号基礎が１号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面と、胴木で検出されている。遺物は磁器９点（１～９）、陶器１点（10）、樹脂製品３点（11～13）、金属製品17点、瓦２点を図示した。磁器：１は壺、２は表札、３は皿、４～７は碗、８は灯明受付皿である。陶器:10は土瓶である。樹脂製品：11は箸、13は札である。金属製品：14～30は胴木で使用された鎹である。瓦：31・32は

図 22　県庁７号基礎出土遺物

写真 20　県庁７号基礎出土遺物

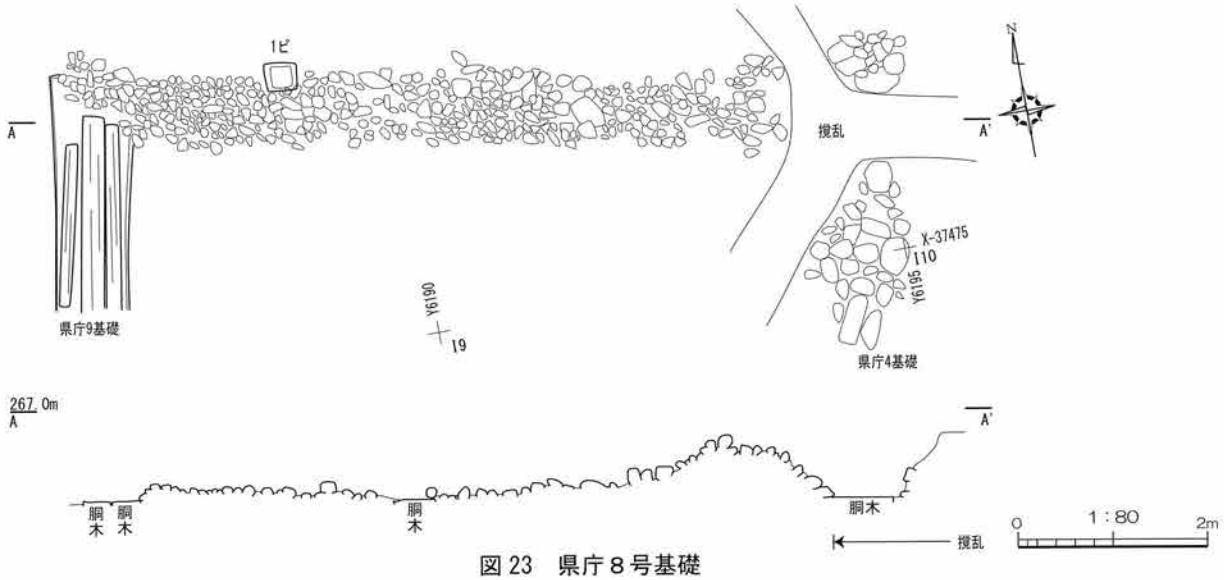


図 23　県庁８号基礎

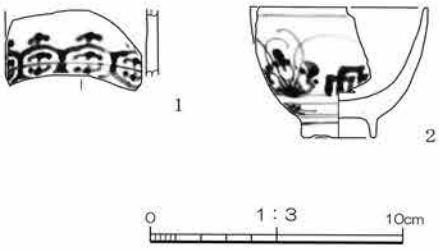


図 24　県庁８号基礎出土遺物

写真 21　県庁８号基礎出土遺物

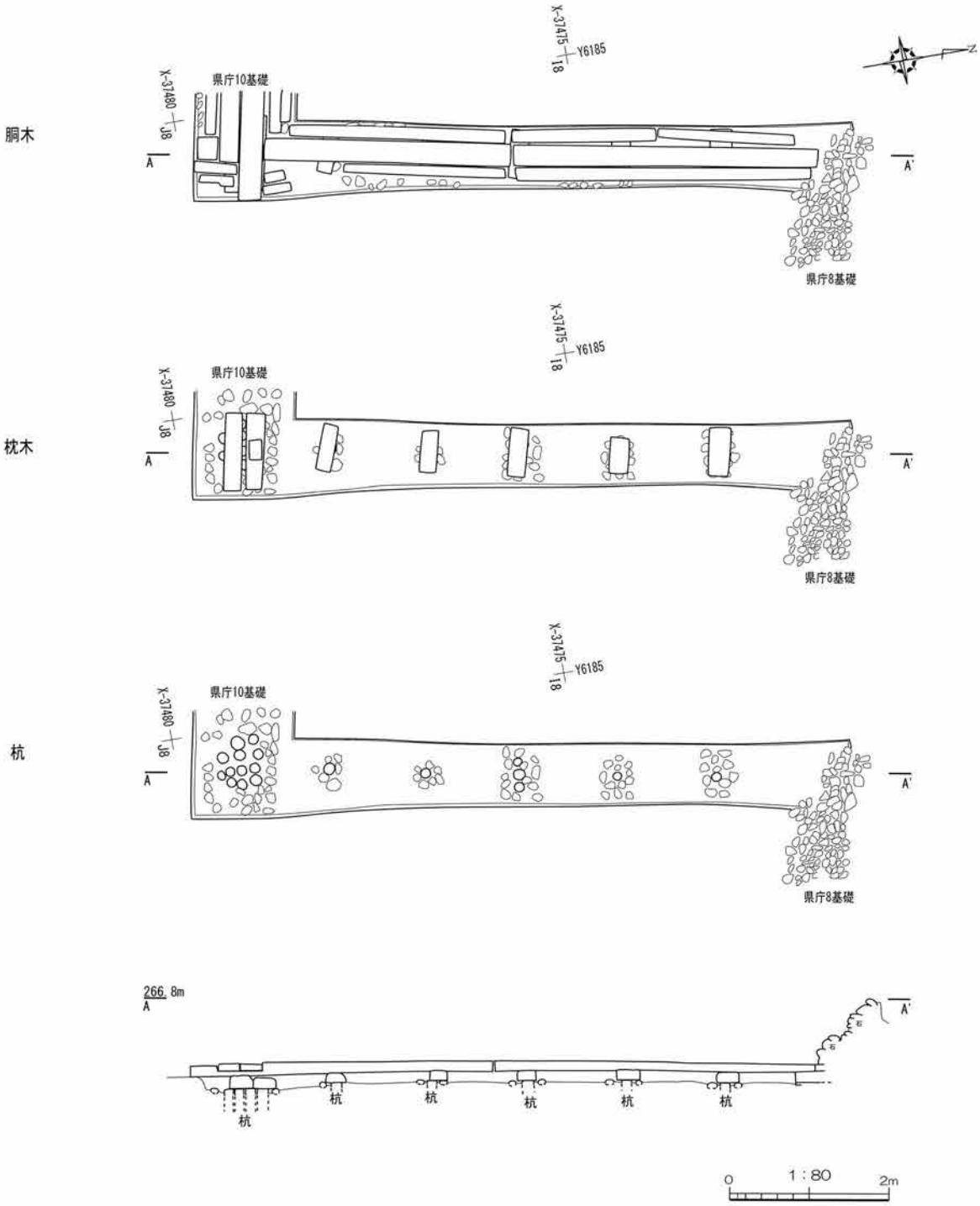


図 25　県庁９号基礎

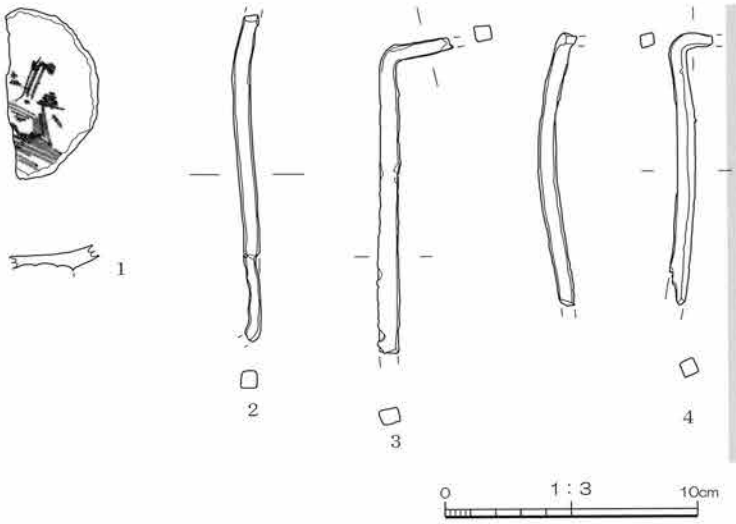


図 26　県庁９号基礎出土遺物

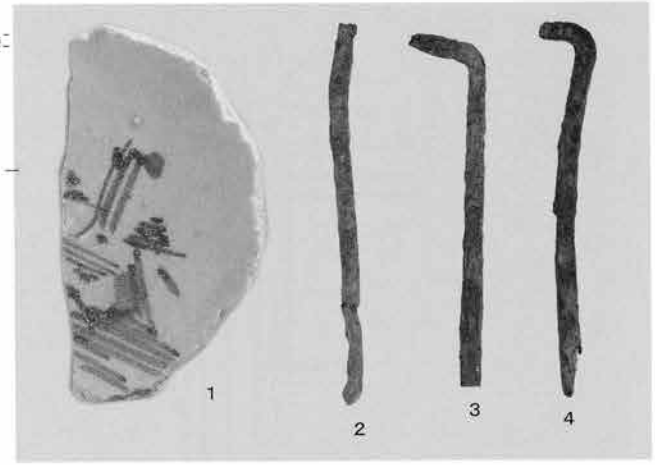


写真 22　県庁９号基礎出土遺物

写真 23　県庁９～15 号　南から

写真 24　県庁基礎胴木　西から

写真 25　県庁基礎枕木　西から

写真 26　県庁基礎杭　西から

写真 27　県庁基礎胴木・鎹　北から

写真 28　県庁基礎杭・玉石　北から

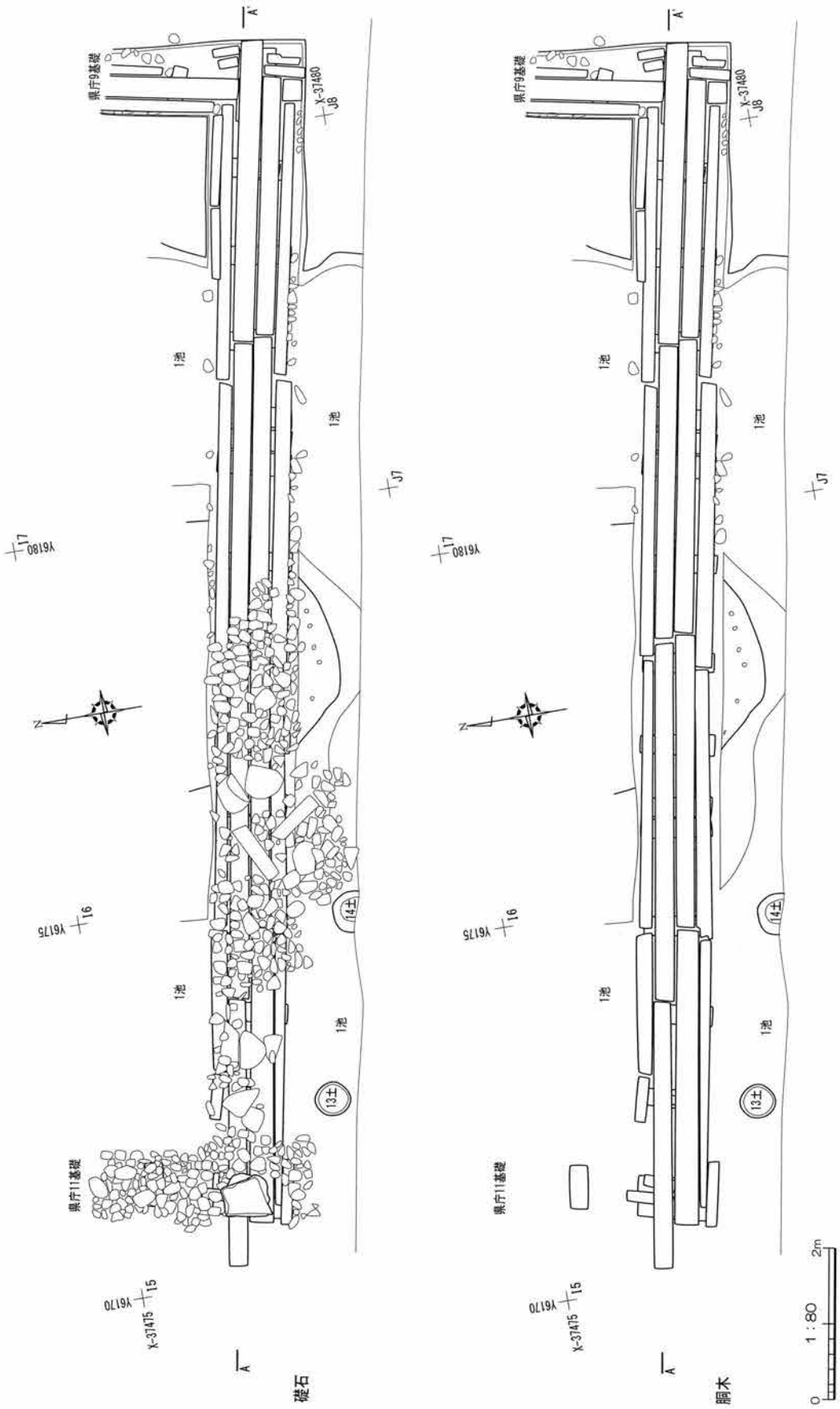


図 27　県庁 10 号基礎（1）

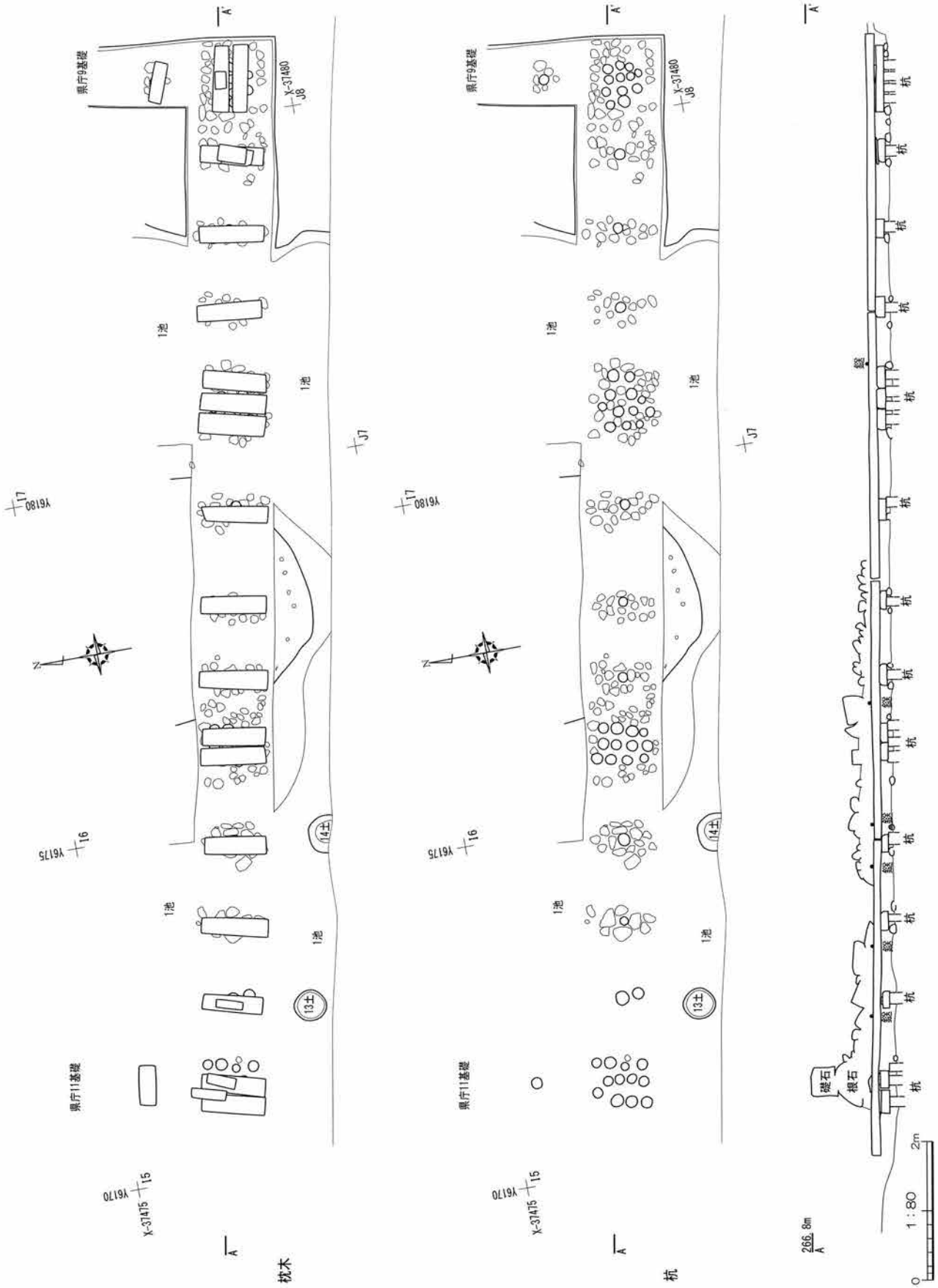


図 28　県庁 10 号基礎（2）

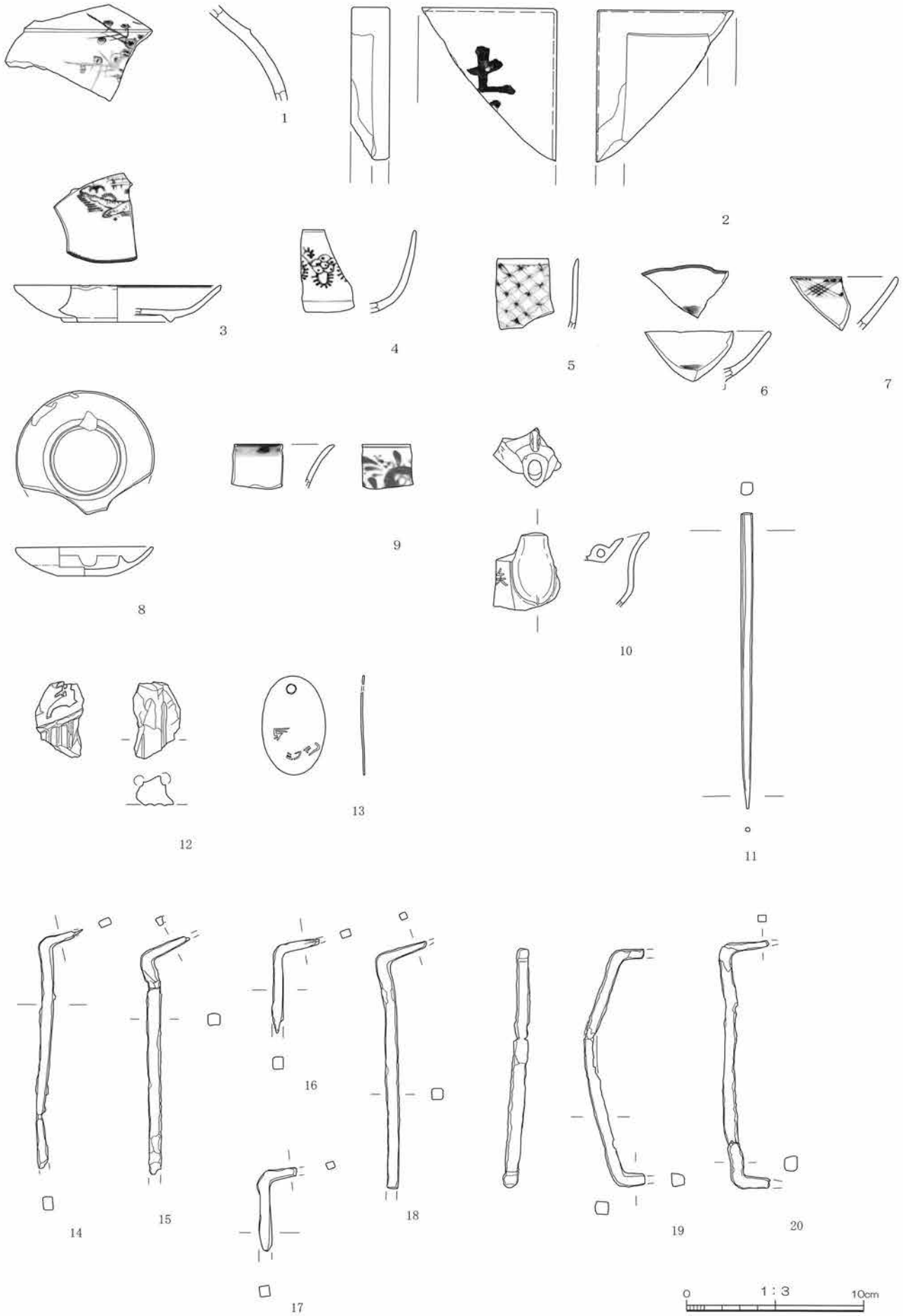


図 29　県庁 10 号基礎出土遺物（1）

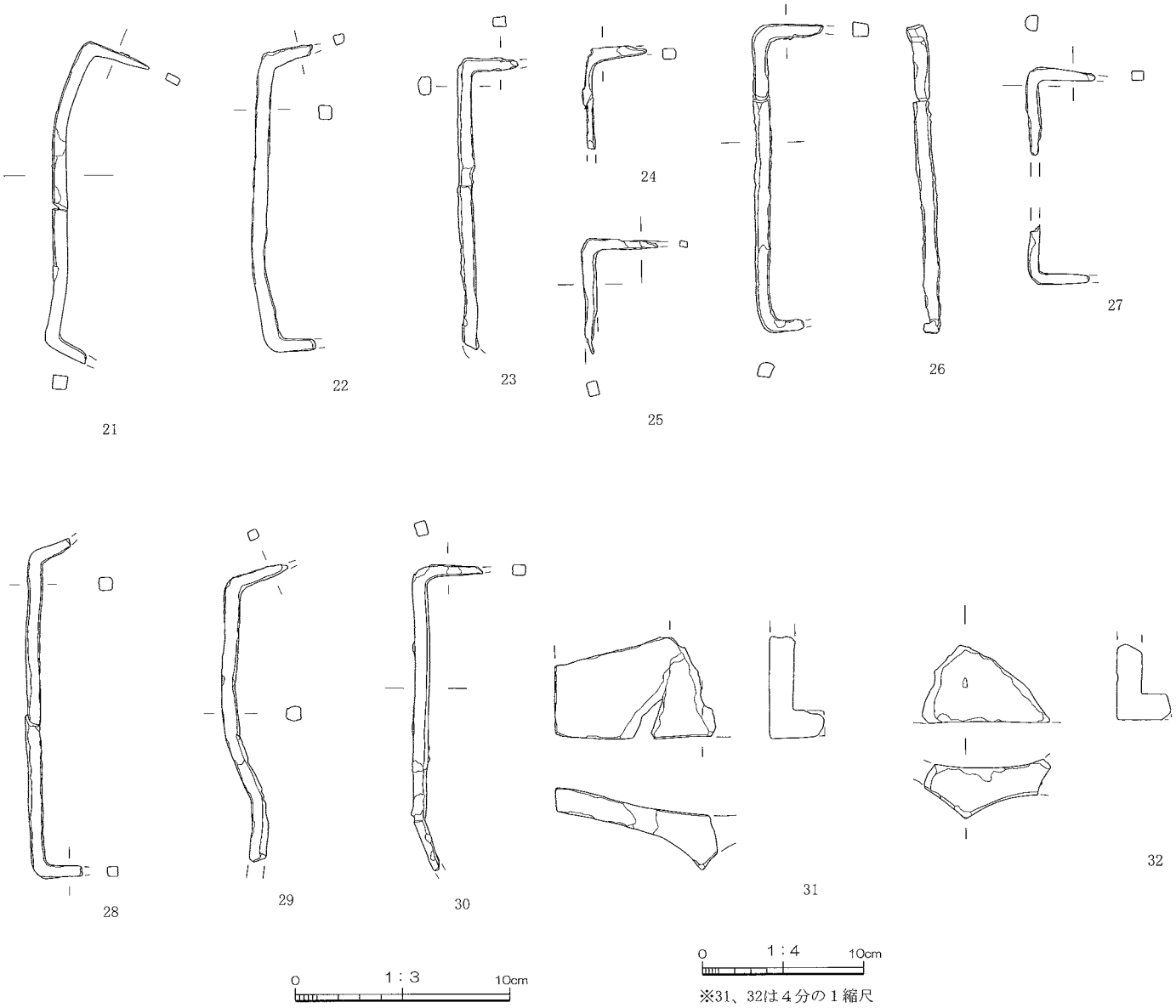


図 30　県庁 10 号基礎出土遺物（２）

軒瓦または軒平滴水状瓦である。

11 号基礎（図 31・32）

Ｈ５からＩ５グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ 4.5 m、幅 0.9 mである。南側は 10 号基礎と接続している。北側は撹乱され消失している。

11 号基礎では礎石、根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。礎石は１個検出された。胴木は腐食が進んでいた。礎石から枕木の厚さは約１mである。礎石には３寸幅の矢穴が確認できた。枕木は５個検出された。枕木の間隔は約 1.2 mである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数の状況は東西で対をなす９号基礎と同様で角が 12 本、次いで１本、１本、３本であった。他の遺構との切り合い関係は 11 号基礎が１号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面および枕木で検出されている。遺物は磁器４点（１～４）、陶器６点（５～10）、金属製品１点（11）、瓦１点（12）を図示した。磁器：１は丸碗、２・３は鉢、４は札である。陶器：５は小坏、６は小皿、７・10 は碗、８は瓶、９は鉢である。金属製品：11 は鎹、瓦：12 は輪違いである。

12 号基礎（図 33・34）

Ｈ７からＩ７グリッドに位置する。Ｅ字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ 4.9 m、幅 0.9 mである。北側は撹乱され消失している。南側では東西方向に延びる 13 号基礎と接続している。

12 号基礎では玉石と杭を検出した。玉石の厚さ

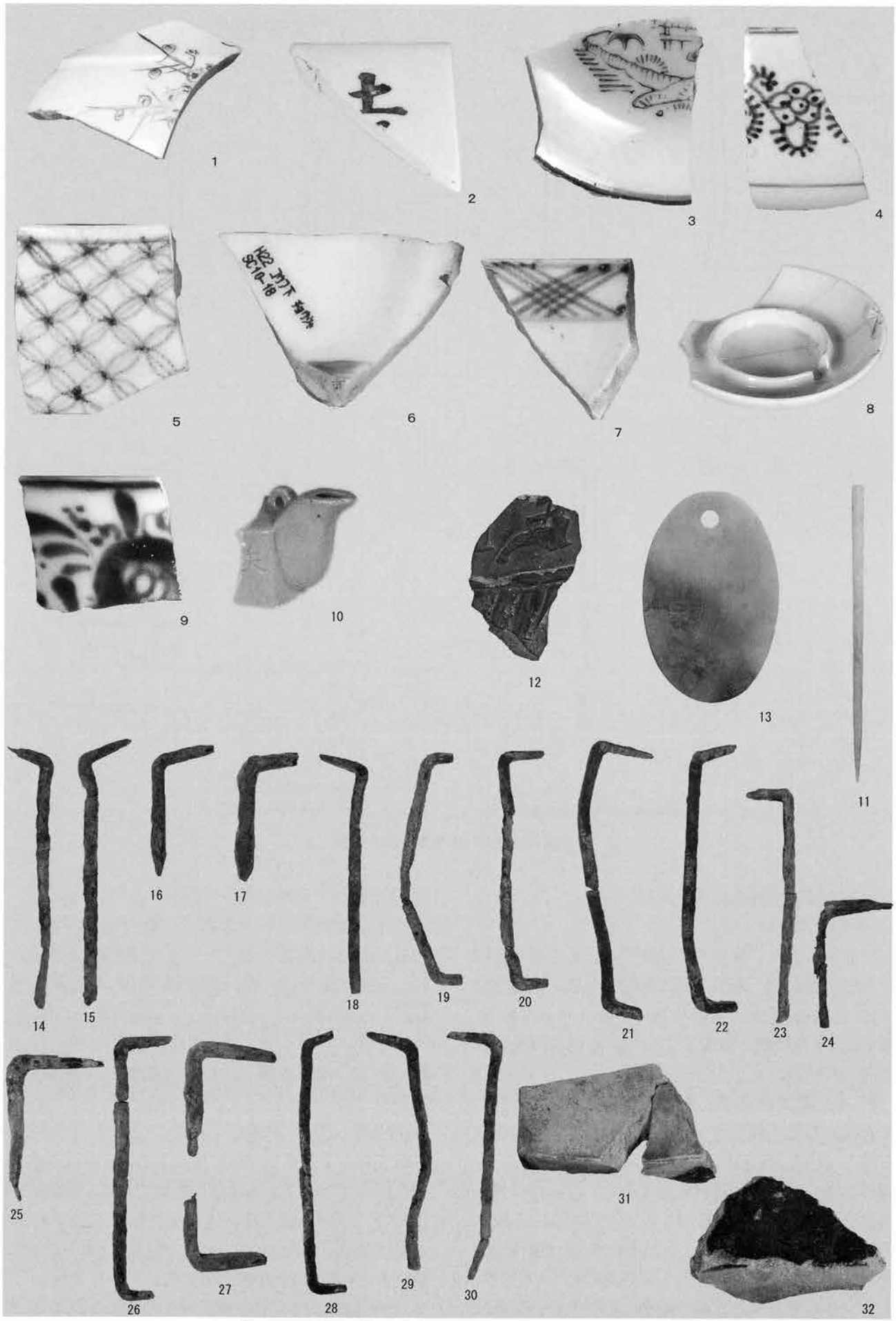


写真 29　県庁 10 号基礎出土遺物

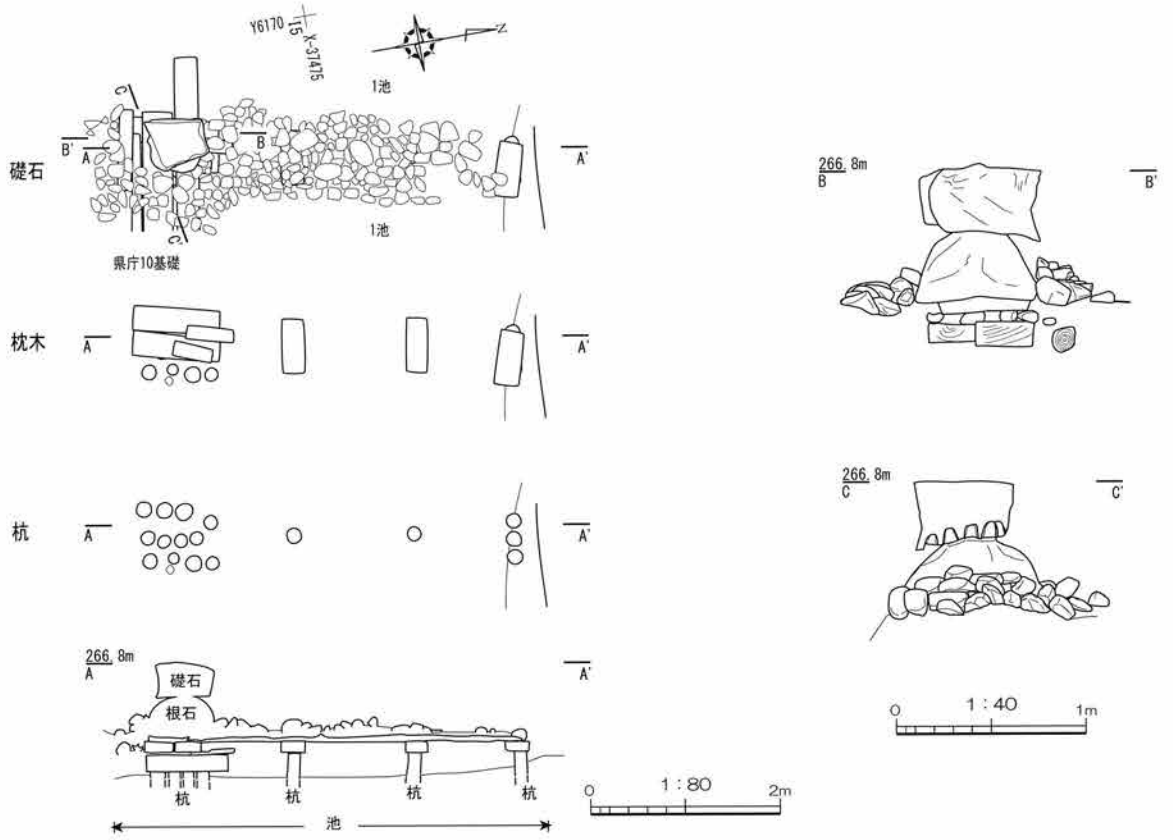
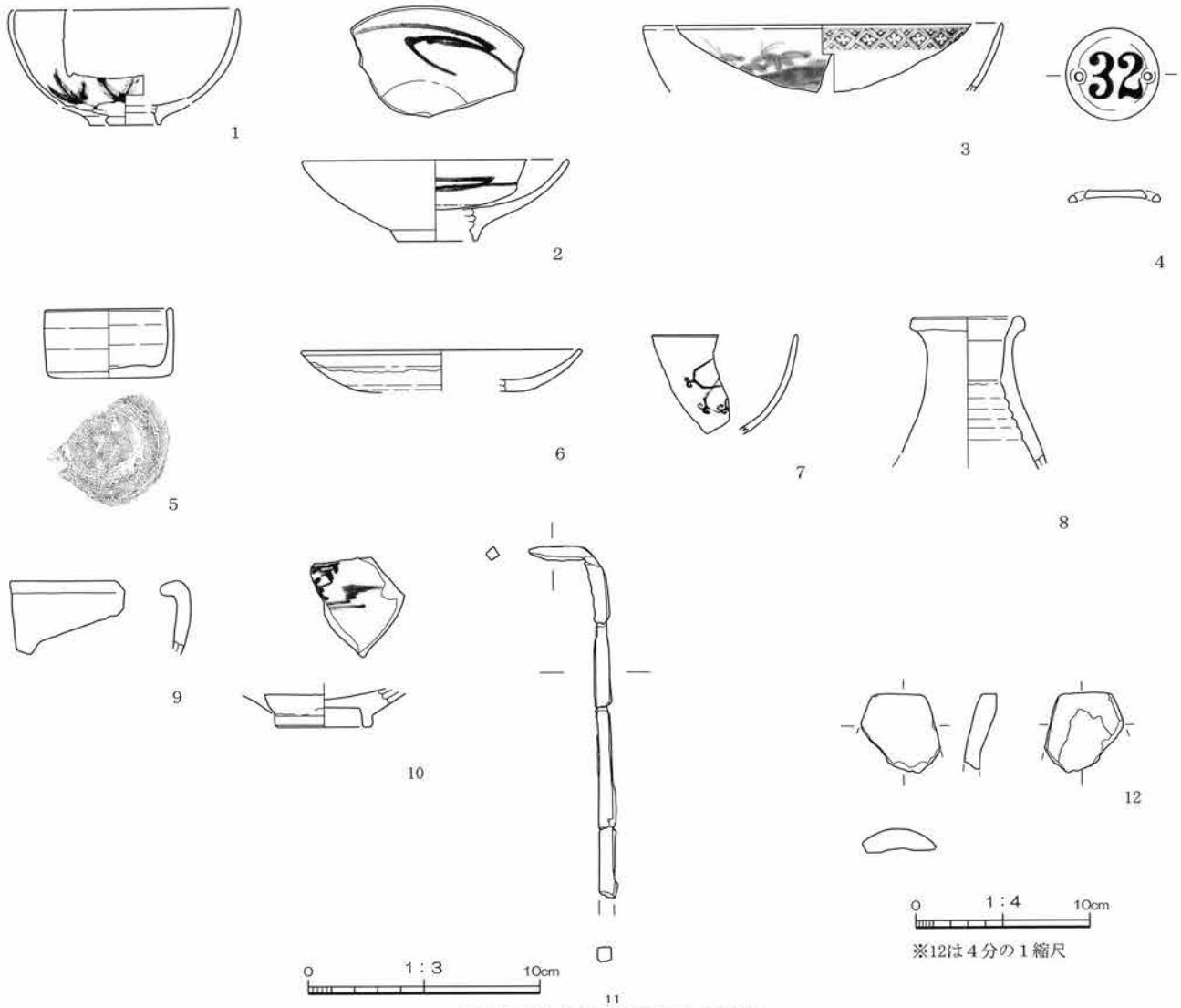


図 31　県庁 11 号基礎



※12は４分の１縮尺

図 32　県庁 11 号基礎出土遺物

写真 30　県庁 11 号基礎出土遺物

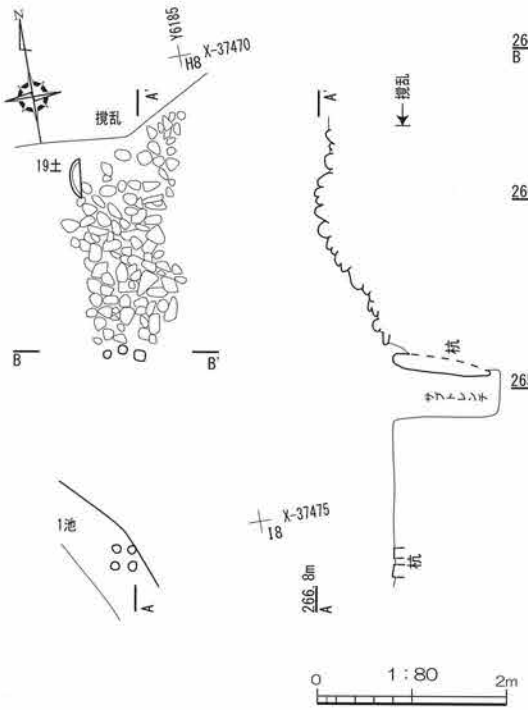


図 33　県庁 12 号基礎

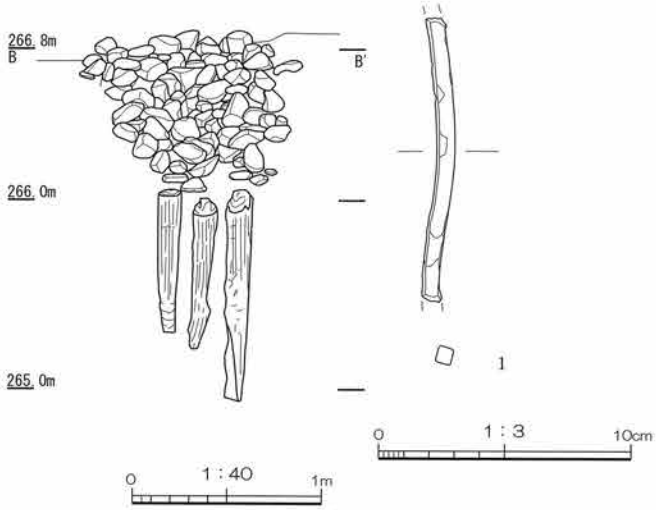
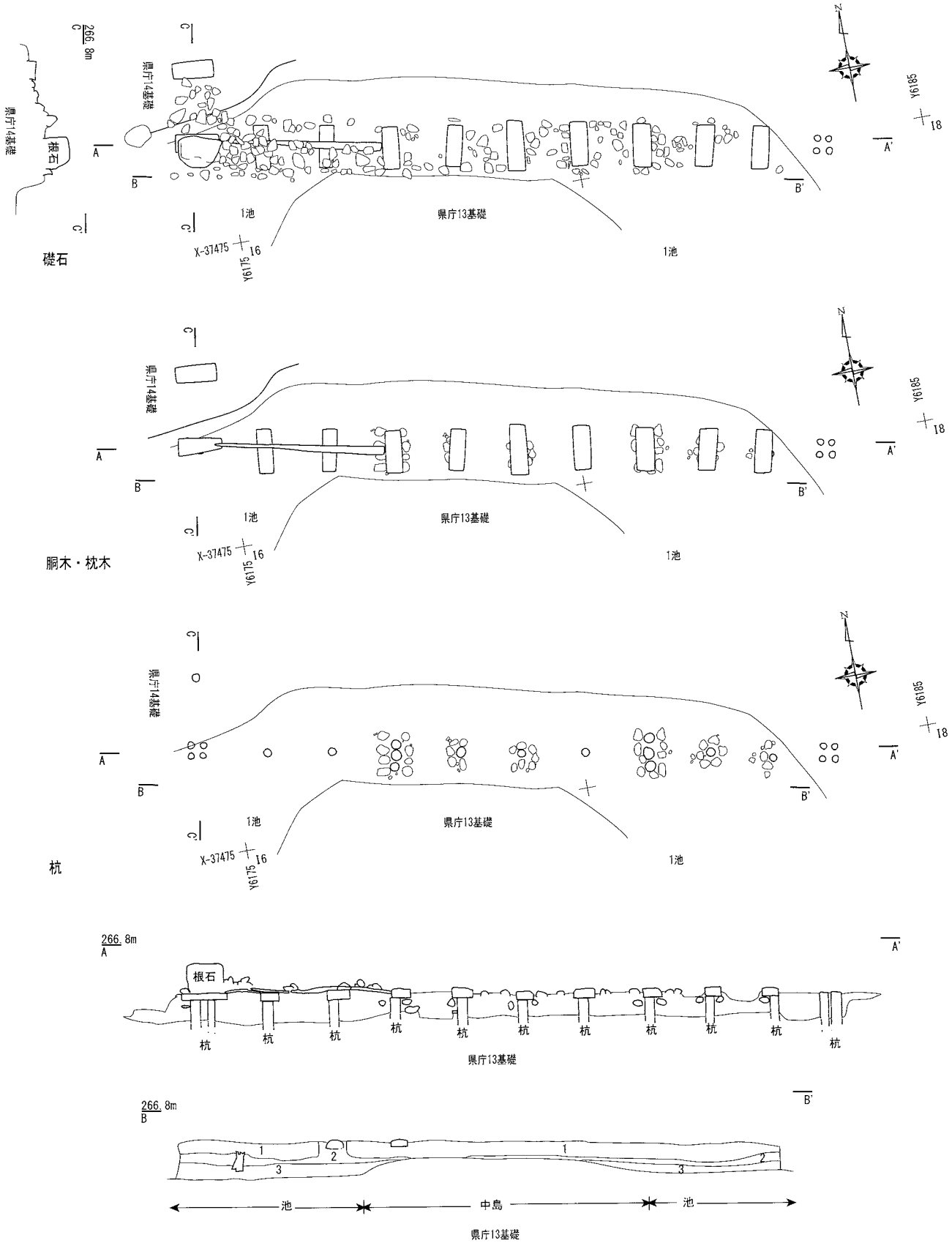


図 34　県庁 12 号基礎出土遺物　　写真 31　県庁 12 号基礎出土遺物



1. 黄褐色土　10YR5/8　シルト　県庁盛土。締まり強く、粘性は中。1～3cm大の円礫を5%、5cm大の円礫を1%含む。
2. オリーブ黒土　10Y3/2　シルト　県庁盛土。締まり・粘性共に中。1～3cm大の円礫を5%、緑灰色土ブロック5～10mm大を3%含む。
3. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　池堆積泥。締まり弱く、粘性は強い。

0　1:80　2m

図 35　県庁 13 号・14 号基礎

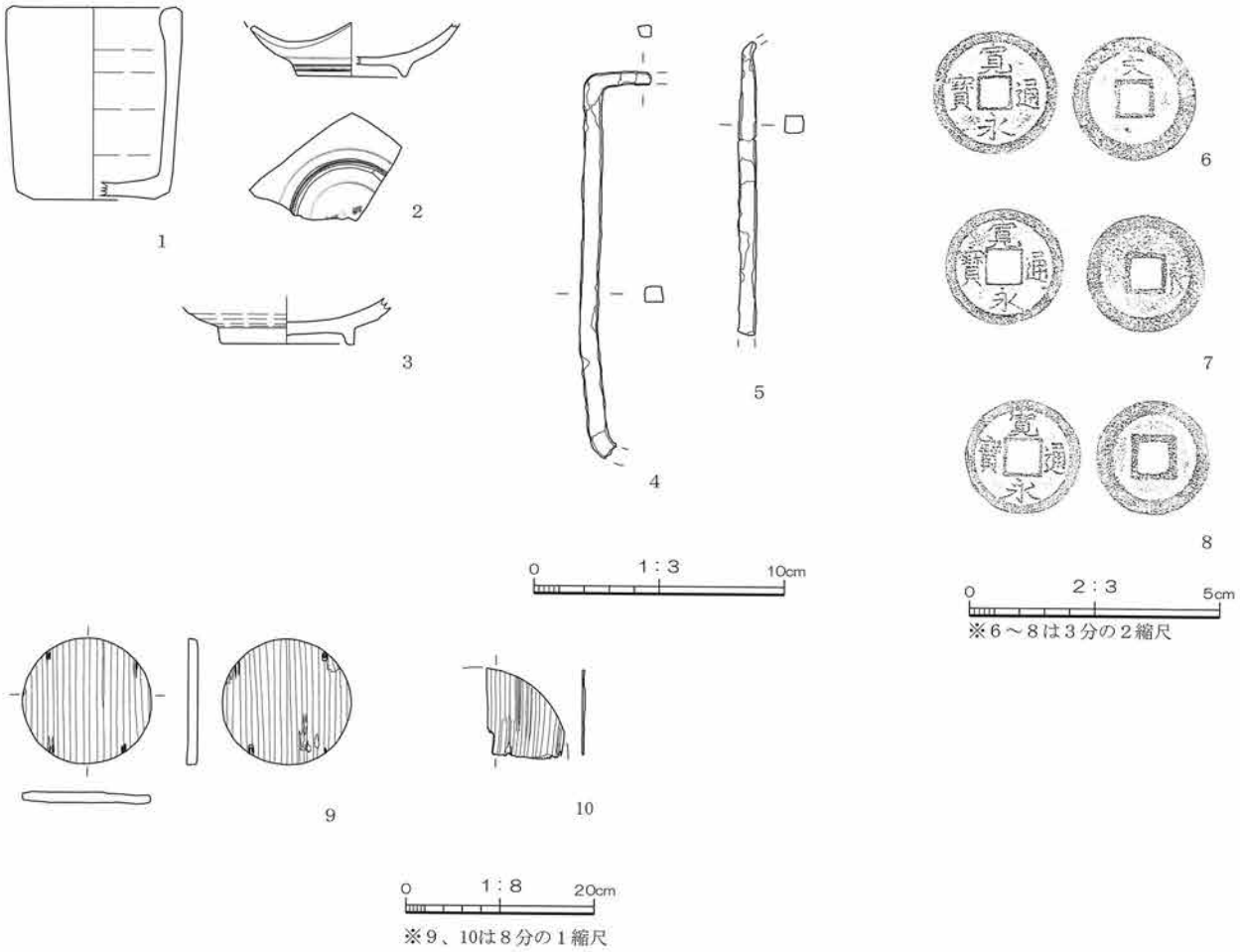


図 36　県庁 13 号・14 号基礎出土遺物

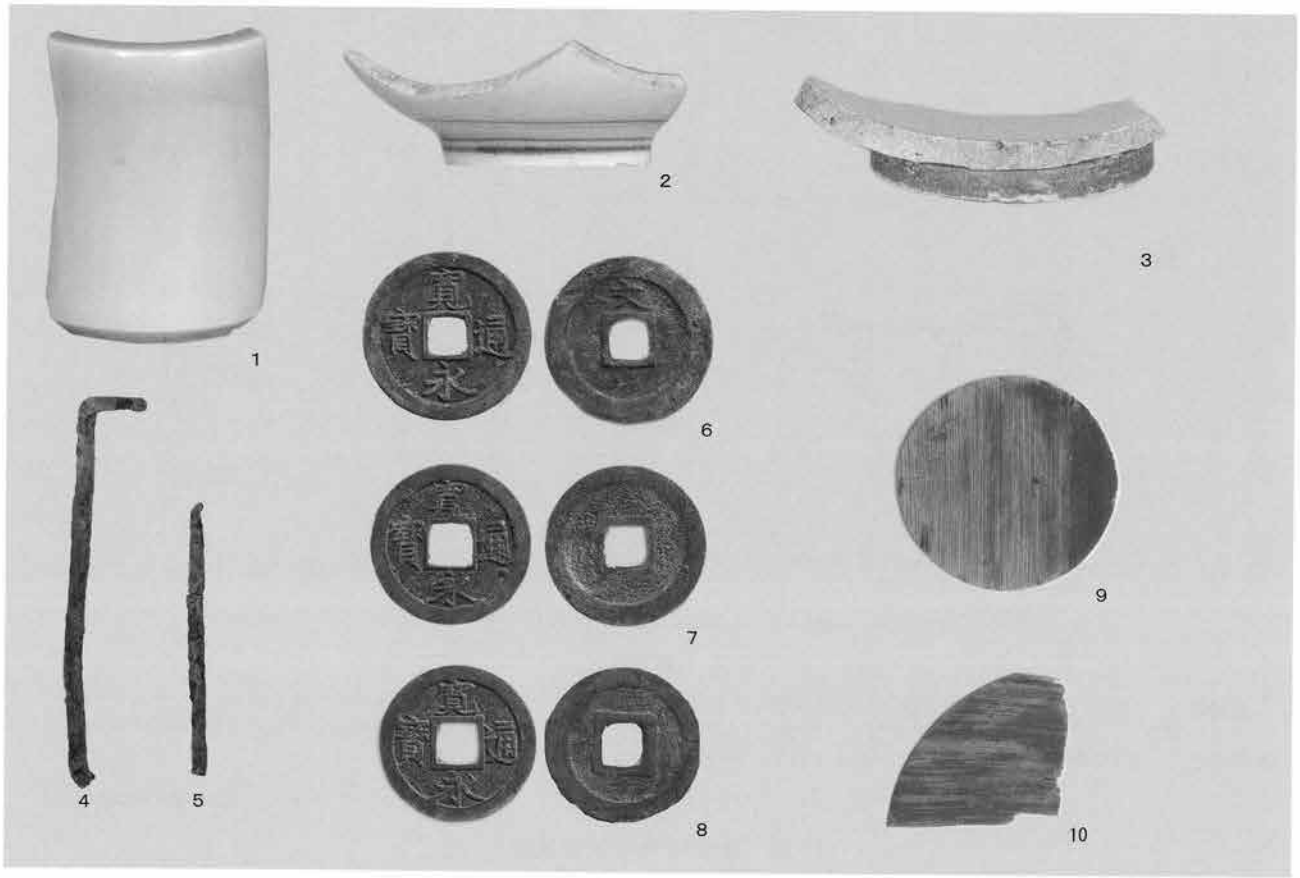
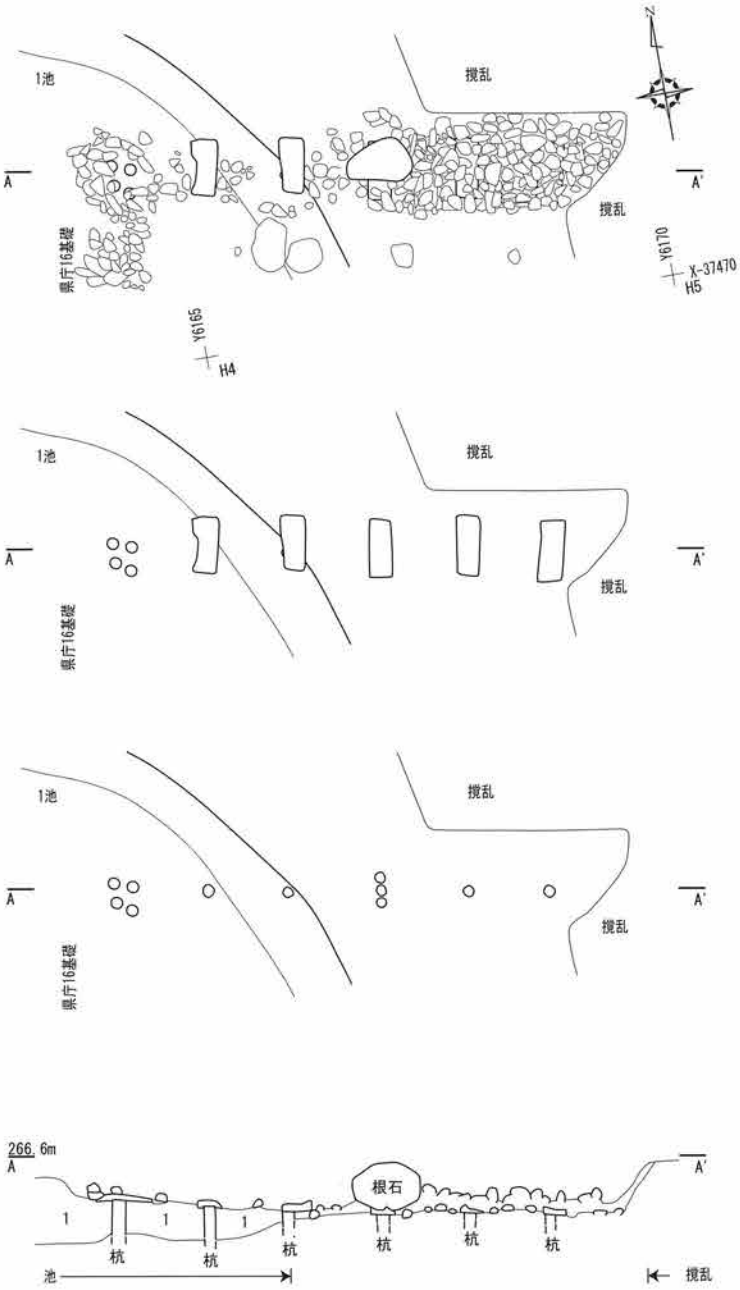


写真 32　県庁 13 号基礎出土遺物

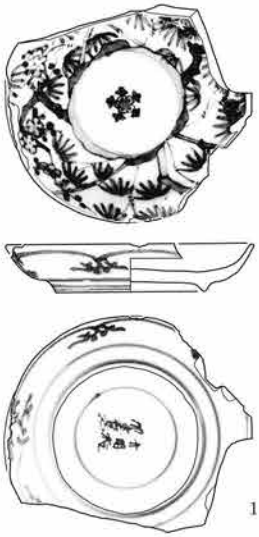


1.黒褐色土　10YR3/1　粘土　池の覆土。締まり弱く、粘性強い。

0　1:80　2m

図 37　県庁 15 号基礎

写真 33　県庁 15 号基礎出土遺物



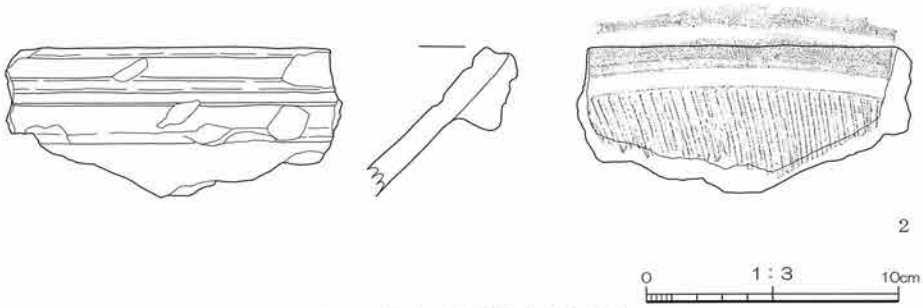
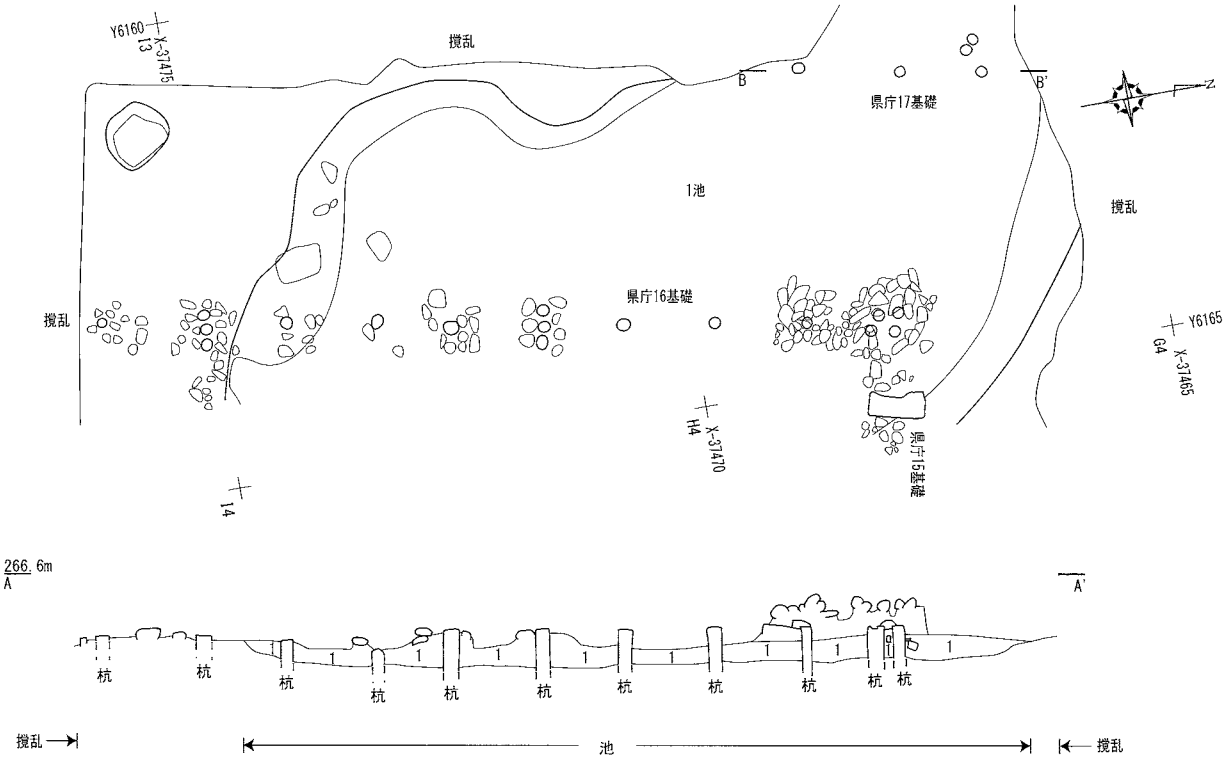


図 38　県庁 15 号基礎出土遺物



1.黒褐色土　10YR3/1　粘土　池の覆土。締まり弱く、粘性強い。

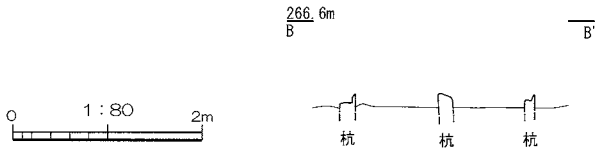


図 39　県庁 16 号・17 号基礎

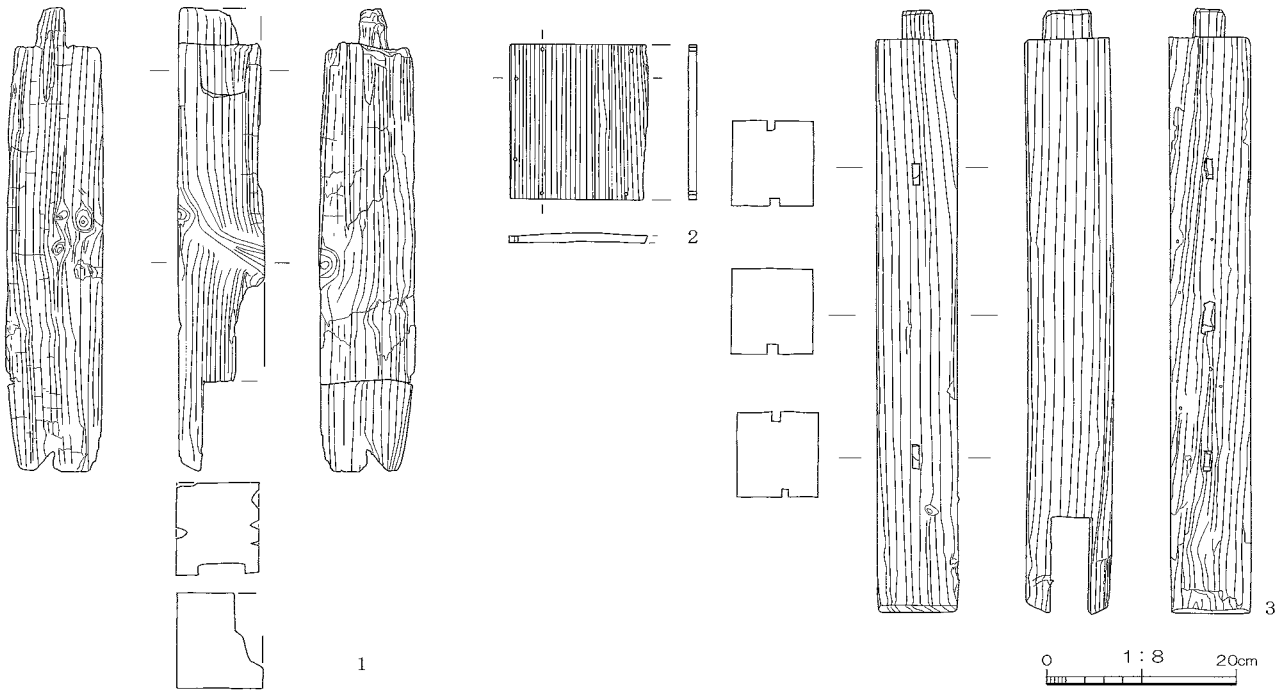


図 40　県庁 16 号基礎出土遺物

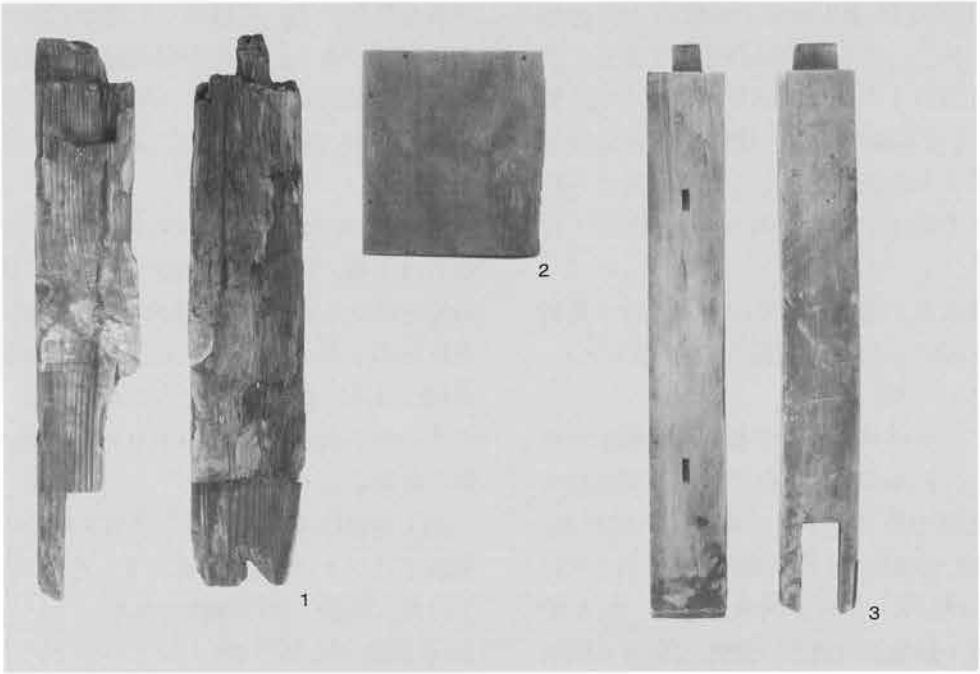


写真 34　県庁 16 号基礎出土遺物

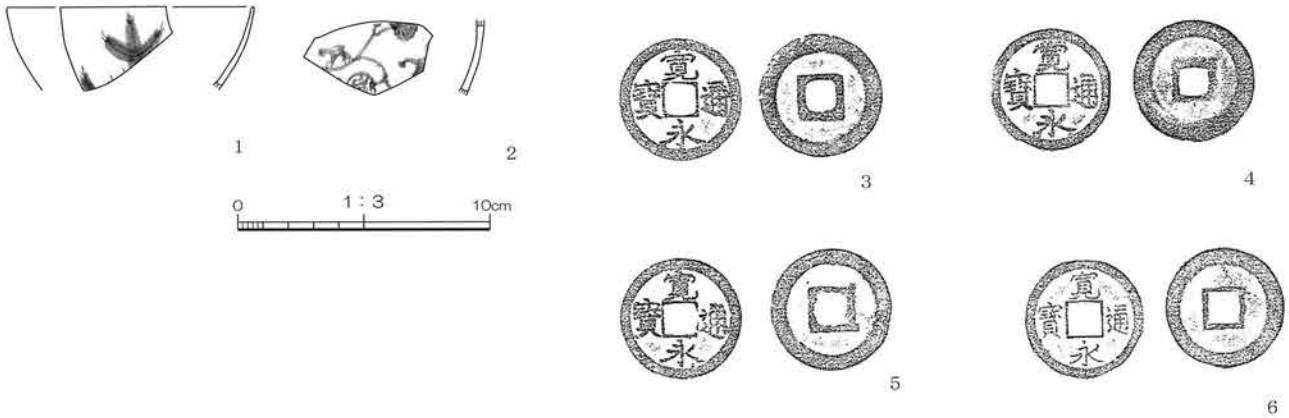


図 41　県庁基礎盛土出土遺物

0　2：3　5cm
※3～6は3分の2縮尺

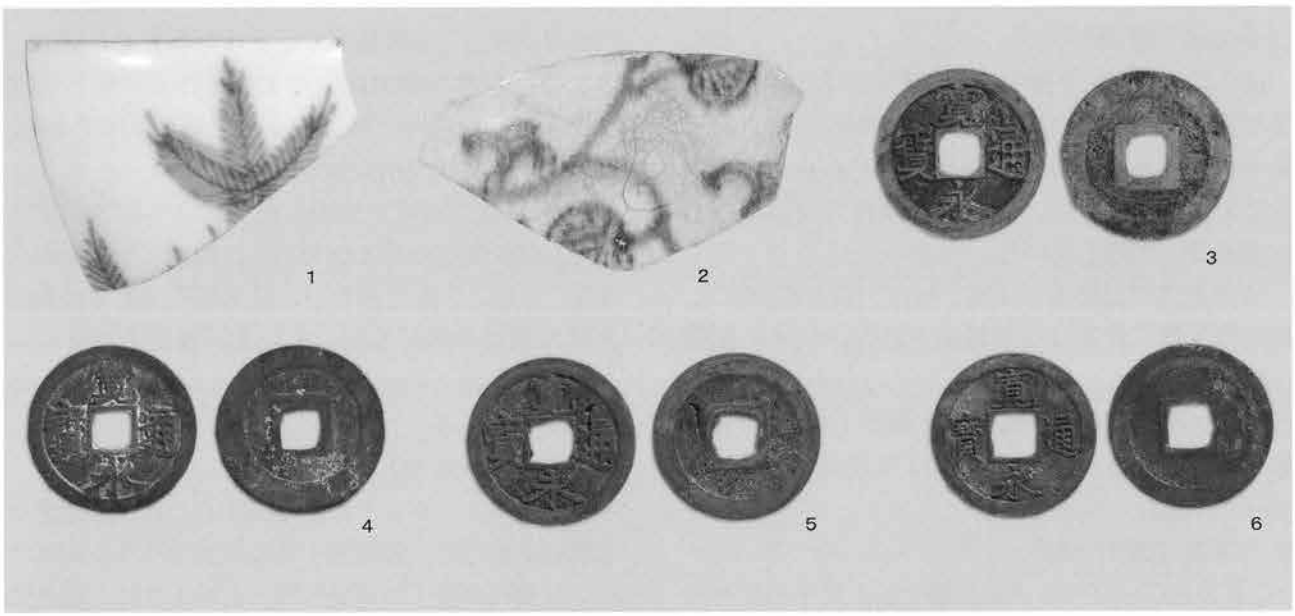


写真 35　県庁基礎盛土出土遺物

は0.8ｍ、杭の長さは0.8～1.1ｍであった。杭は2箇所検出された。杭の間隔は約2ｍである。杭本数は南側の角部が4本、北側が3本であった。東西で対をなす14号基礎の状況と比較すると2箇所の杭の中間には1本の杭が存在していたと考えられる。他の遺構との切り合い関係は12号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は杭周辺で検出されている。遺物は金属製品1点(1)を図示した。金属製品:1は鋏である。

13号基礎（図35～36）

H6からH7グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ9.5ｍ、幅0.8ｍである。東側は12号基礎、西側は14号基礎と接続している。

13号基礎では根石、玉石、胴木、枕木、杭を検出した。根石は1個検出された。胴木は腐食し原形をとどめていなかった。根石から枕木の厚さは約0.5ｍである。枕木は10個検出された。東端の角部の枕木は消失していた。枕木の間隔は約1ｍである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数は東西の角部が4本、中間2箇所が3本、その間は1本であった。杭の周囲には玉石が配置されていた。他の遺構との切り合い関係は13号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面、基礎盛土、枕木で検出されている。遺物は磁器2点（1・2）、陶器1点（3）、金属製品2点（4・5）、銭貨3点、木製品2点を図示した。磁器:1は香炉、2は丸碗である。陶器:3は碗、金属製品4・5鋏である。銭貨6～8は寛永通宝である。6は文銭である。木製品9・10曲物底である。

14号基礎（図35）

H5グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。正面玄関の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ1.6ｍ、幅0.7ｍである。北側は撹乱で消失している。南側では東西方向に延びる13号基礎と接続している。

14号基礎では根石、玉石、枕木、杭を検出した。根石は1個、枕木は2個検出された。枕木の間隔は約1ｍである。各枕木の下からは杭を検出した。杭本数は南側の角部が4本、北側が1本であった。他の遺構との切り合い関係は14号基礎が1号池を切っている。

15号基礎（図37・38）

G3からG4グリッドに位置する。E字形庁舎の中央部に当たる。左翼部から建物正面へと続く外廊下の基礎である。東西方向に延び、検出範囲で長さ5.9ｍ、幅0.9ｍである。東側は撹乱され消失している。西側では南北方向に延びる16号基礎と接続している。

15号基礎では根石、玉石、枕木、杭を検出した。根石は1個、枕木は5個検出された。根石から枕木の厚さは0.5ｍである。枕木の間隔は約1ｍである。各枕木の下からは杭を検出した。杭の本数は西端の角部が4本、次いで1本、1本、3本、1本、1本であった。他の遺構との切り合い関係は15号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は玉石の上面で検出されている。遺物は磁器1点（1）、陶器1点（2）を図示した。磁器:1は皿、陶器：2は擂鉢である。

16号基礎（図39・40）

G3からI3グリッドに位置する。E字形庁舎の左翼部に当たる。左翼部突出部の外廊下の基礎である。南北方向に延び、検出範囲で長さ8.8ｍ、幅0.8ｍである。北側は15号基礎と接続している。南側は撹乱され消失している。

16号基礎では玉石、杭を検出した。杭は10箇所検出された。杭の間隔は約1ｍである。杭の本数は北端の角部が4本、次いで1本、1本、1本、3本、1本、1本、3本、1本であった。他の遺構との切り合い関係は16号基礎が1号池を切っている。

出土遺物は杭周辺で検出されている。遺物は木製品3点（1～3）を図示した。木製品：1・3は角材で継手を持つ。2は板材で縁辺部に竹釘が打ち込まれている。

17号基礎（図39）

G3グリッドに位置する。E字形庁舎の左翼部に当たる。左翼部突出部の南北に延びる壁面の基礎である。検出範囲で長さ2.1ｍ、幅0.5ｍである。南北両側を撹乱で消失している。

17号基礎では杭を検出した。杭は3個所検出された。杭の間隔は約1ｍである。杭の本数は南から1本、1本、3本であるが、3本配列は1号池の杭と県庁基礎の杭が混在している可能性も考えられる。他の遺構との切り合い関係は17号基礎が1号池を切っている。

基礎盛土（図41）

G3からI7グリッドに位置する。E字形庁舎の右翼部に当たる。県庁と1号池が重なり合う辺りでは、基礎列の覆土が基礎列間にも検出され、面的に

盛土もしくは土壌改良を行っていると考えられる状況が確認された。　出土遺物は盛土中で検出されている。遺物は磁器１点（1）、陶器２点（2）、銭貨４点（３～６）を図示した。磁器: １は丸碗、陶器: ２は丸碗である。銭貨：３～６は寛永通宝である。

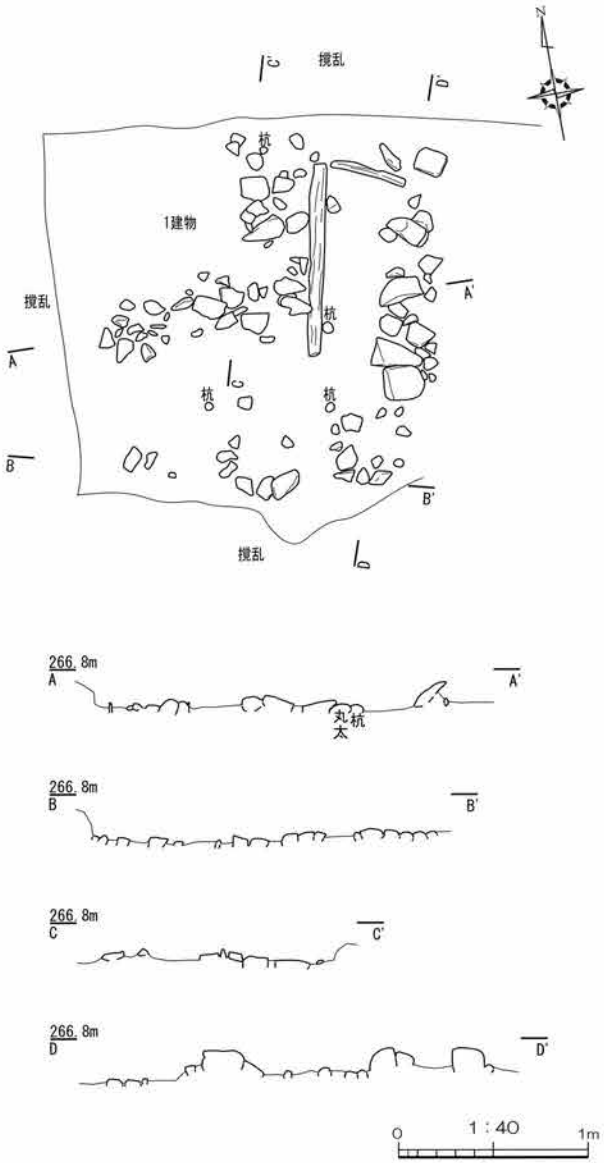
２．建物跡

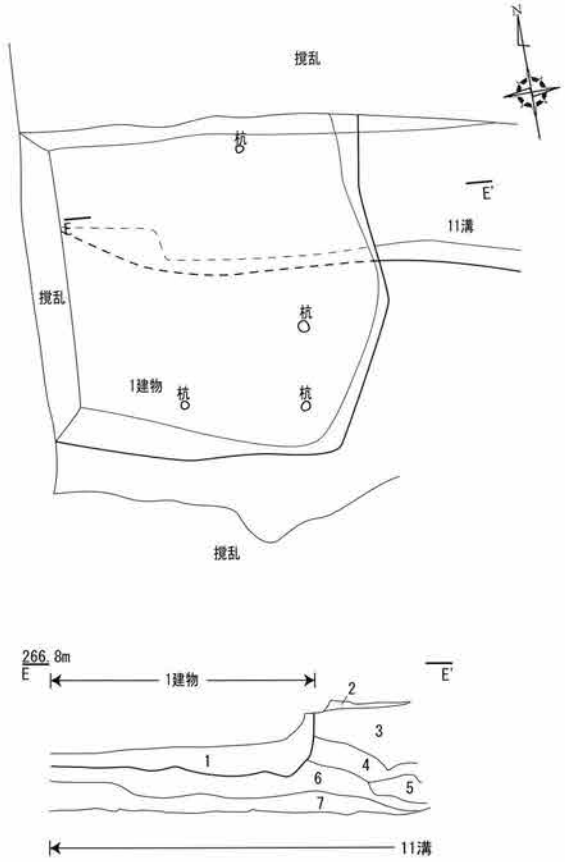
１号建物跡（図 42・43）

Ｅ 10 からＥ 11 グリッドに位置する。検出範囲で南北 1.8 m、東西 1.8 mである。北側および西側は撹乱され消失している。比較的平たく割られた石を使用した石列を２条検出した。石列は並行し直角に曲がっていて、杭列が伴っており、建物角部の基礎跡と判断した。他の遺構との切り合い関係は１号建物跡が 11 号溝を切っている。

出土遺物は石列周辺で検出されている。遺物は磁器７点（１～７）、陶器８点（８～15）、金属製品１点（16）、木製品１点（17）、瓦１点（18）を図示した。磁器：１は瓶、２は丸碗、３は鉢、４は端反碗、５は蓋、６は広東碗、７は筒形碗である。陶器: ８は蓋、９は壺、10 は皿、11 は擂鉢、12 は小坏、14 は碗である。金属製品 : 16 は煙管雁首、木製品 : 17 は曲物底板、瓦 : 18 は平瓦である。

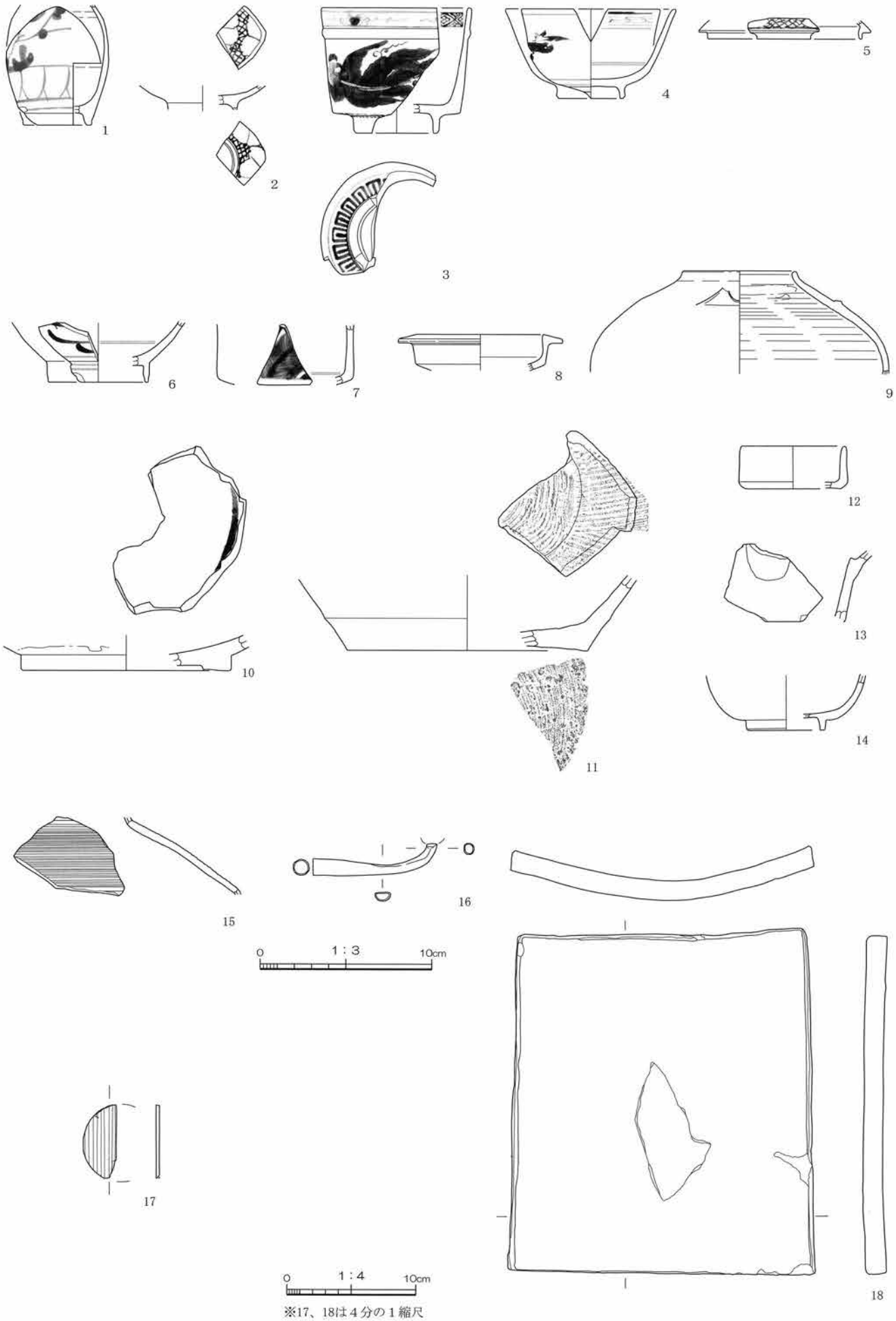
写真 36　１号建物跡　東から





1. 1建物　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に中。5～10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 11溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～10mm大の炭化粒を10%含む。
3. 11溝　暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の円礫を20%含む。
4. 11溝　黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に強い。
5. 11溝　暗灰黄色土　2.5Y4/2　砂質土　締まり・粘性共に弱い。
6. 11溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
7. 11溝　オリーブ黒土　5Y3/2　砂質土　締まり弱く、粘性は中。

図 42　１号建物跡



※17、18は４分の１縮尺

図 43　１号建物跡出土遺物

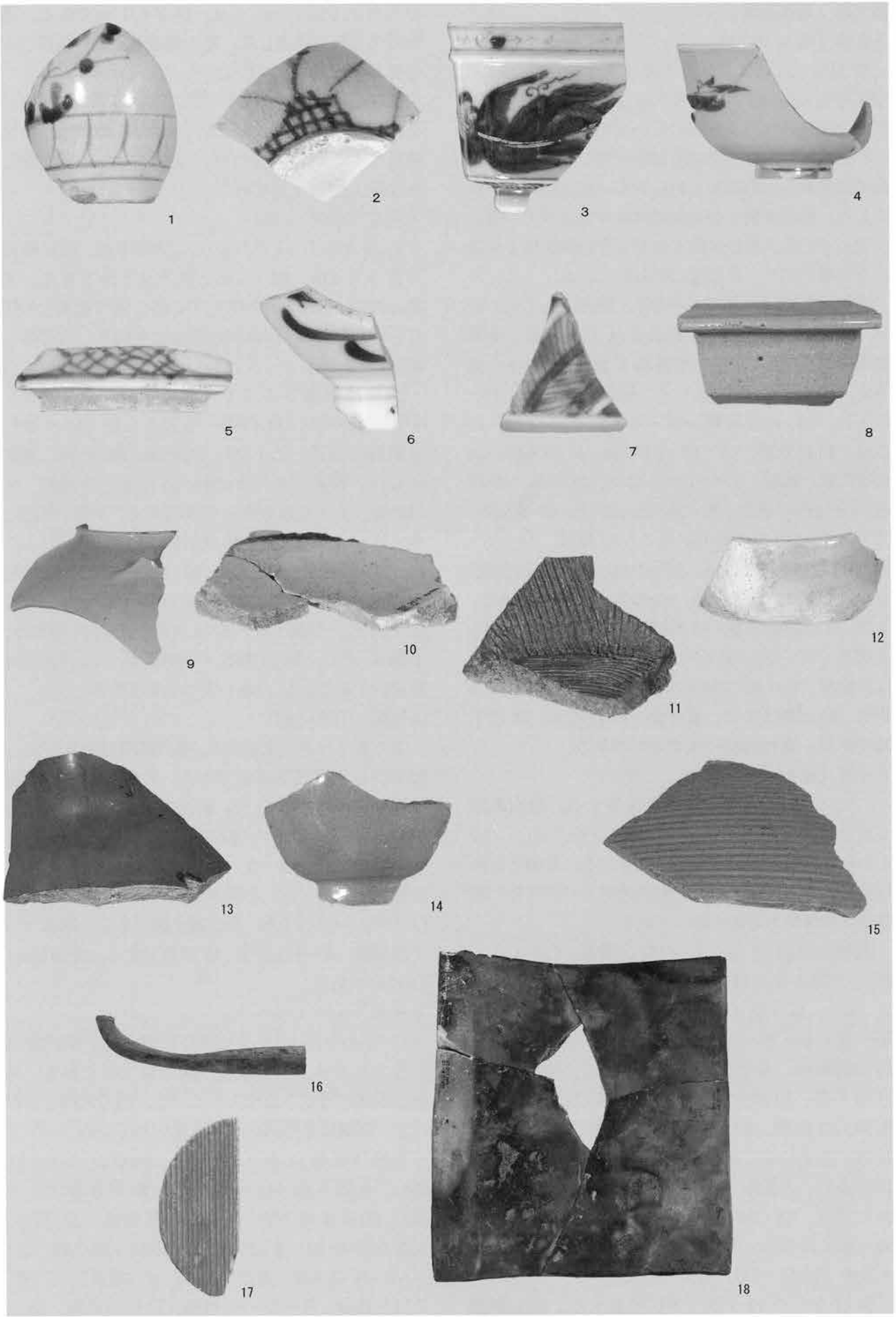


写真 37　1号建物跡出土遺物

第３節　溝状遺構

１号溝（図 44 ～ 47）

Ｄ 11 からＤ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 8.4 m、幅 0.5 ～ 0.9 m、深さ 0.3 mである。東側は撹乱され消失している。西側では溝壁面沿いに打たれた杭列と、溝縁辺部の石列を検出した。東側では壁面沿いの杭で止められている土留め板を検出した。他の遺構との共伴関係は８号溝が１号溝に合流している。他の遺構との切り合い関係は１号溝が９号溝を切り、２号溝に切られている。

遺物は磁器 26 点（１～ 26）、陶器 27 点（27 ～ 53）、土器１点（54）、土製品２点（57・58）、金属製品４点（59 ～ 62）、木製品２点（63・64）、瓦３点（65 ～ 67）を図示した。磁器：１・４～ 10・12・14・19 ～ 22 は碗、２・３・23・25 は蓋、11 は鉢、15 は水滴、16・18・24 は皿、17 は小坏、26 は端反碗。陶器：27・37・44 は鍋、28 は蓋、29 は皿、30 は行平鍋蓋、31・36・38・42・45・47 は土瓶、32 は小坏で底面に墨書がある。33 は瓶、34・43・46・48 は擂鉢、35 は鉢、39・51 は小皿、40 は秉燭、41・49・50 は灯明受付皿、52 は壺、53 は碗である。土器：54 は焼塩壺蓋、55 は焙烙、56 は火鉢である。土製品：57・58 は碁石である。金属製品：59・60 は針金状、61・62 は飾りである。木製品：63 は曲物底、64 は椀である。瓦：65・67 は桟瓦、66 は平瓦である。65 は側面に丸の刻印がある。

２号溝（図 44・48 ～ 51）

Ｃ 11 からＤ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 3.6 m、幅 1.2 m、深さ 0.3 mである。覆土からは瓦がまとまって出土している。北側と南側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は２号溝が１号溝を切っている。

遺物は磁器 15 点（１～ 15）、陶器 14 点（16 ～ 29）、土器１点（30）、土製品１点（31）、木製品１点（32）、瓦９点（33 ～ 41）を図示した。磁器：１～３・５・８～ 14・17・18 は碗、４は端反碗、15 は筒形碗、６は皿、７は鉢である。陶器：19・21 は小皿、20 はせんじ碗、22・26 は土瓶、23 は花瓶、24 は瓶、25 は鉢、27 は捏鉢、28 は擂鉢、29 は灯明受付皿である。土器：30 は小皿、土製品：31 は碁石、木製品：32 は箸である。瓦：33・35 ～ 38 は桟瓦、34・39 は平瓦、40・41 は袖瓦である。33・38・39 は丸、37 は丸に一文字の刻印がある。

８号溝（図 44・52）

Ｄ 11 からＤ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 2.4 m、幅 0.4 m、深さ 0.1 mである。溝縁辺部で板を検出した。他の遺構との共伴関係は８号溝が１号溝に合流している。

遺物は磁器５点（１～５）、陶器６点（６～ 11）を図示した。磁器：１・３・５は碗、２は瓶、４は油壺である。陶器：６は壺、７は土瓶、８・11 は擂鉢、９は碗、10 は小皿である。

３号溝（図 53 ～ 56）

Ｆ 14 からＧ 14 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 7.6 m、幅 0.7 m、深さ 0.2 mである。北側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は３号溝が 38 号土坑を切り、５号溝に切られている。

遺物は磁器８点（１～８）、陶器 14 点（９～ 30）、土器３点（31・32）、土製品３点（34 ～ 36）、金属製品２点（37・38）、瓦２点（39 ～ 40）を図示した。磁器：１・８は碗、２は蓋、３は皿、４は油壺、５・６は小坏、７は広東碗である。陶器：９・15・17・25・27・28 は擂鉢、10 は灯明受付皿、11・19・30 は鉢、12 は鍋、13・14 は土瓶、16 は壺、18 は碗、20 は小皿、21 ～ 24 は行平鍋、26・29 は蓋である。土器：31・32 は火鉢、33 は焼塩壺蓋、土製品：34 ～ 36 は碁石、金属製品：37・38 は煙管吸口である。瓦：39・40 は丸瓦である。

４号溝（図 53・57）

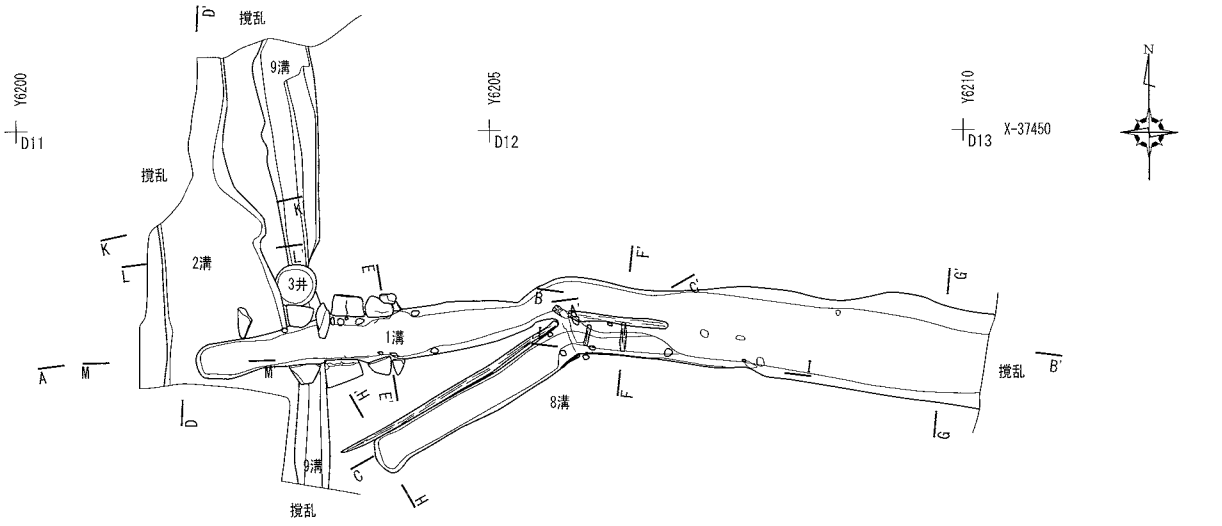
Ｉ４グリッドに位置する。検出範囲で長さ 3.2 m、幅 0.3 m、深さ 0.4 mである。北側と南側、東側は撹乱され消失している。底面に４号ピットがある。他の遺構との切り合い関係はない。

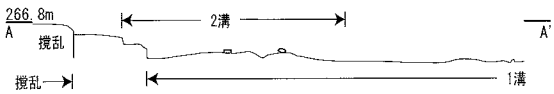
遺物は磁器５点（１～５）、陶器５点（６～ 10）、金属製品１点（11）を図示した。磁器：１は皿、２は小坏、３・４は丸碗、５は端反碗である。陶器：６・７は擂鉢、８・９は土瓶、10 は瓶である。金属製品：11 は釘である。

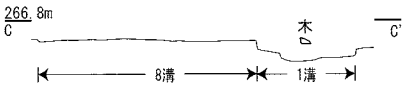
５号溝（図 53・58 ～ 61）

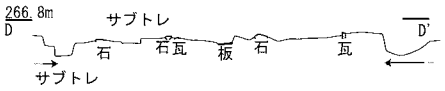
Ｇ 14 からＧ 15 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 2.6 m、幅 1.6 m、深さ 0.3 mである。東側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は５号溝が３号溝を切っている。

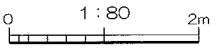
遺物は磁器 14 点（１～ 14）、陶器 31 点（15 ～ 45）、土器５点（46 ～ 50）、土製品５点（51 ～ 55）、銭貨３点（56 ～ 58）、金属製品１点（59）、瓦２点（60・61）を図示した。磁器：１は小坏、２・５・９・10 は丸碗、３は端反碗、４は紅皿、６は蓋、７は八角鉢、８・12・14 は碗、11 は広東碗、13 は

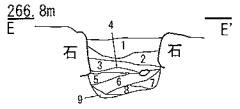






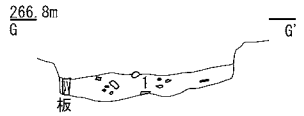




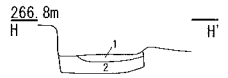


1. 褐灰色土 10YR4/1 粘土 締まり強く、粘性は中。
2. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に中。
3. 灰色土 5Y5/1 砂
4. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に中。
5. 灰色土 5Y5/1 砂 締まり弱く、粘性は無し。
6. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に中。
7. 灰色土 5Y4/1 砂 締まり弱く、粘性は無し。
8. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に中。
砂を10%含む。
9. 灰色土 5Y4/1 砂 締まり弱く、粘性は無し。

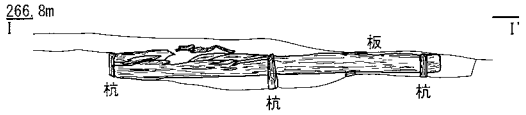
1. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、
粘性は中。5mm大の炭化粒を5%含む。

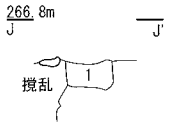


1. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まりは中、
粘性は弱い。5～10mm大の炭化粒を7%、
5mm大の焼土粒を2%含む。

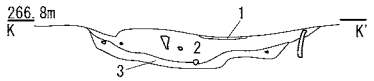


1. 褐灰色土 10YR4/1 粘土 締まりは中、粘性は弱い。
2. 暗褐色土 10YR3/3 シルト 締まり強く、粘性は弱い。

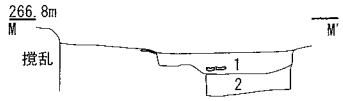




1. 褐灰色土 10YR4/1 粘土 締まり強く、粘性は中。
2～3mm大の炭化粒を1%含む。



1. 褐灰色土 10YR4/1 粘土 締まり中、粘性は強い
2. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり強く、粘性は中。
5mm～10mmの炭化物を10%含む。
3. 黒褐色土 10YR3/1 シルト 締まり・粘性共に弱い。
砂を50%含む。



1. 2溝 黄灰色土 2.5Y4/1 シルト 締まり・粘性共に中。
2. 1溝 褐灰色土 10YR4/1 シルト 締まり・粘性共に中。
5mm大の炭化粒を3%含む。

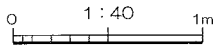


図44 1号・2号・8号溝

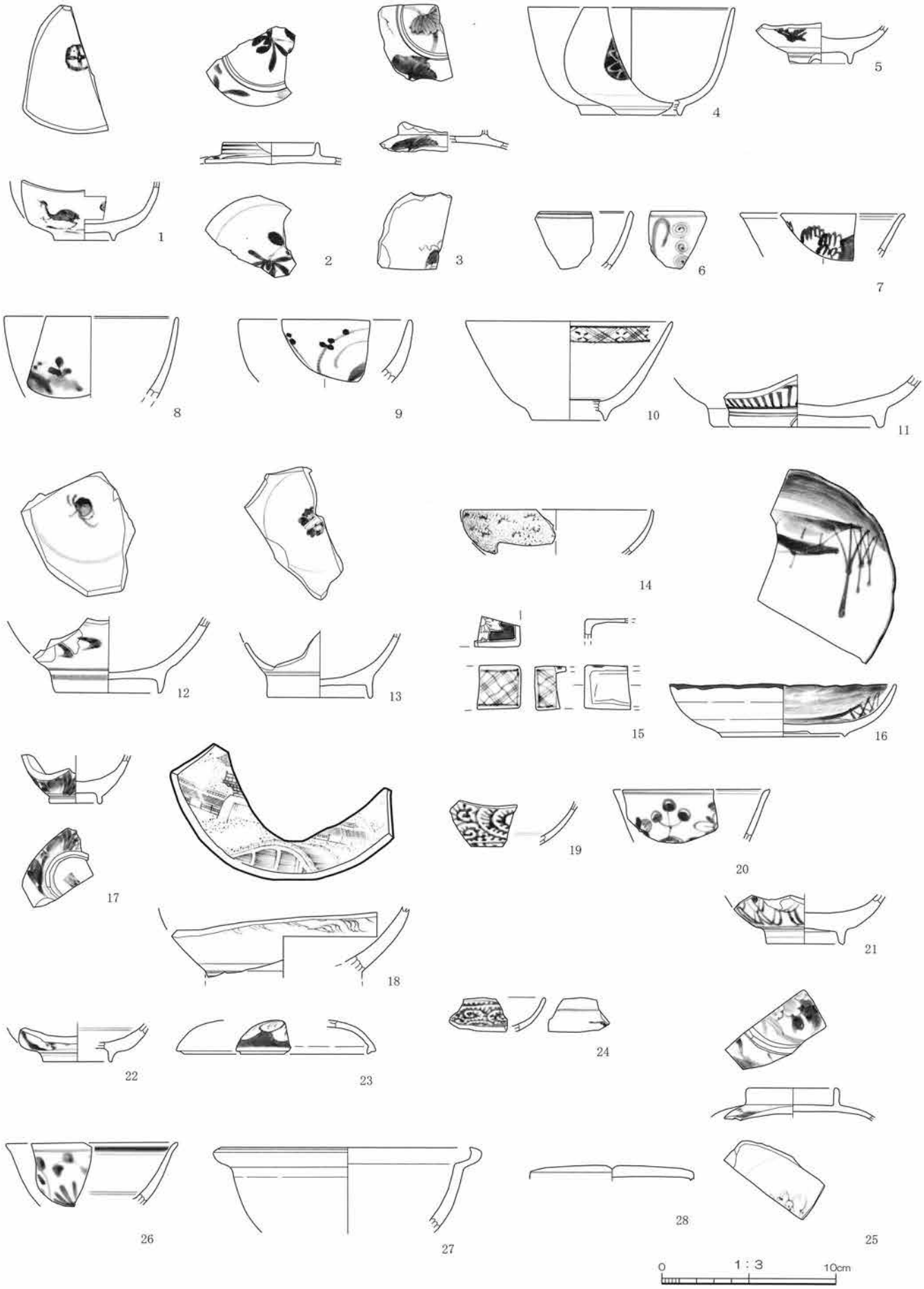


図 45　1 号溝出土遺物（1）

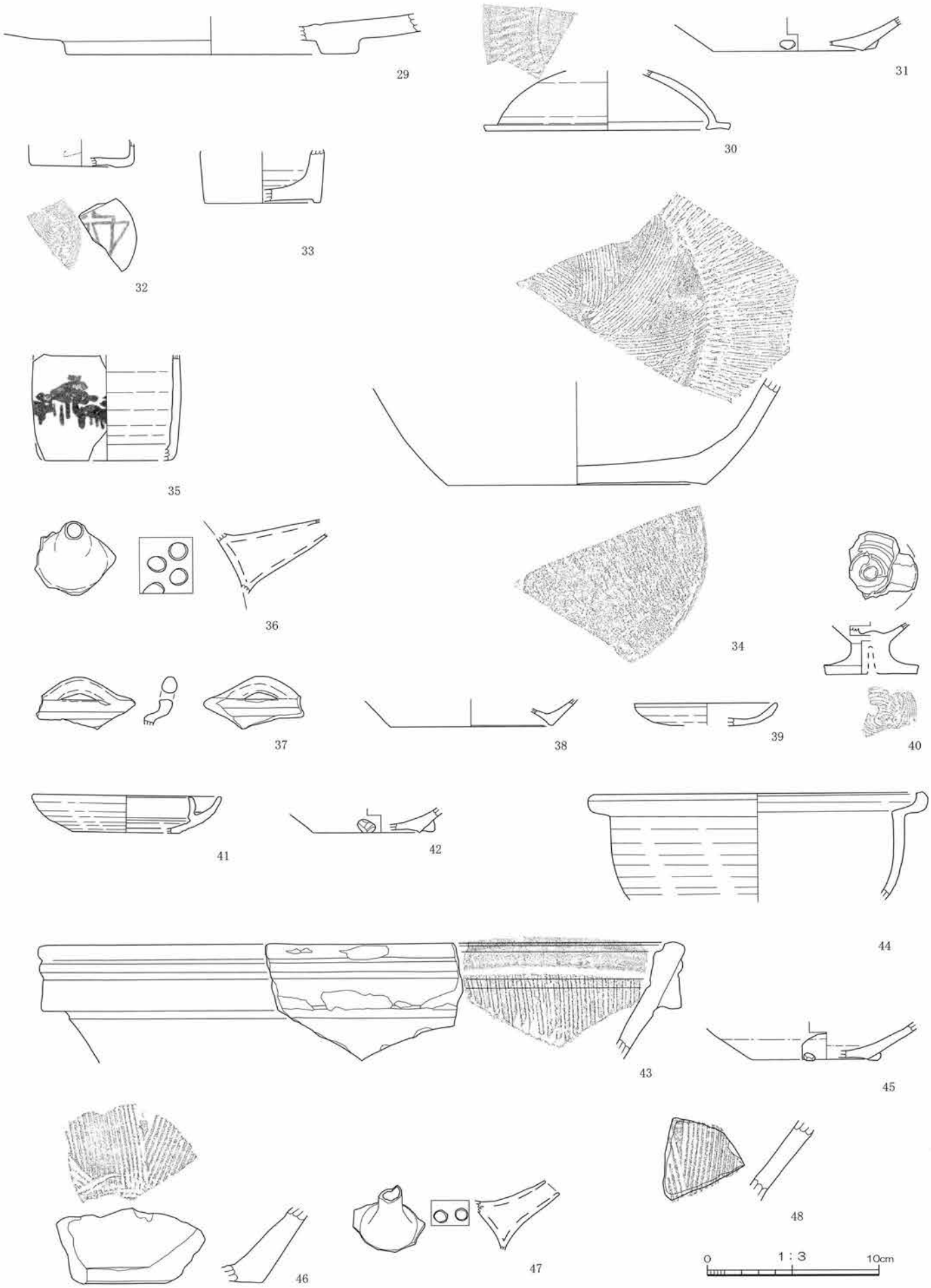
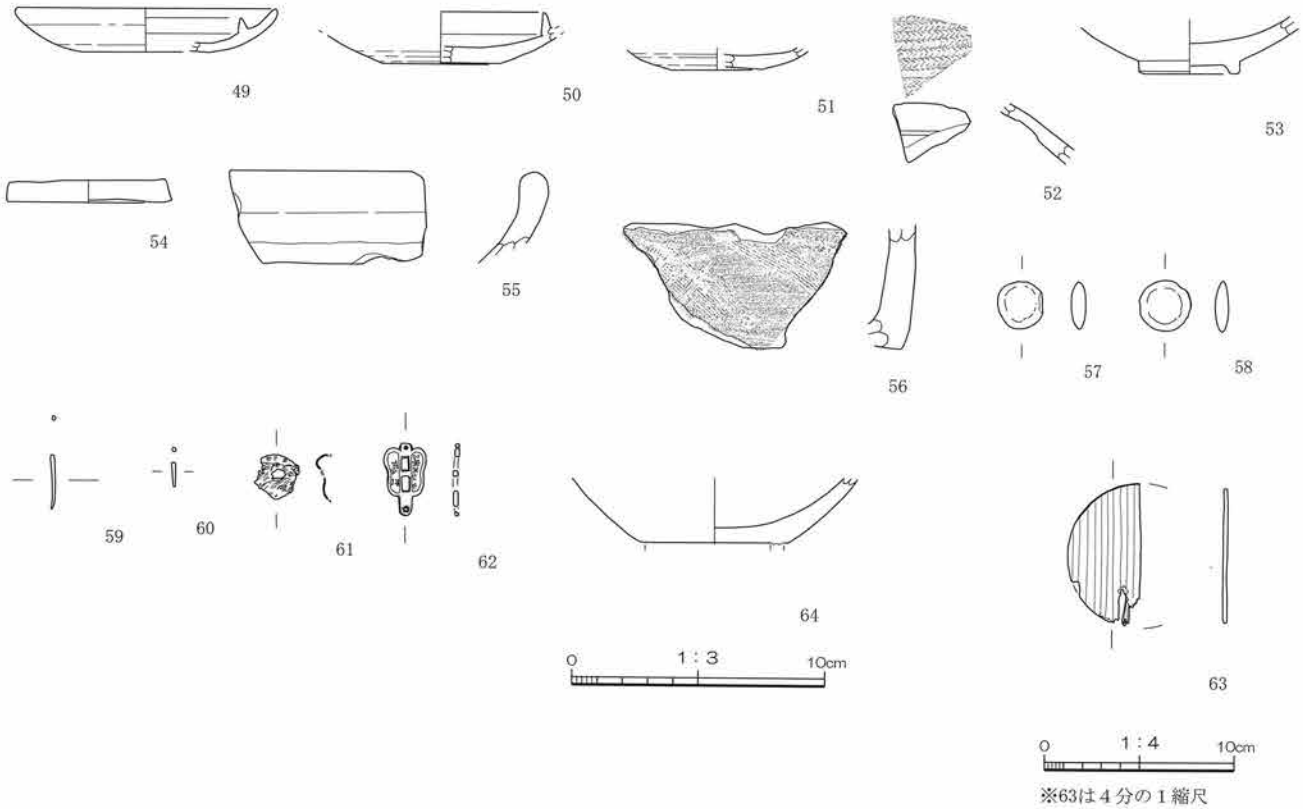
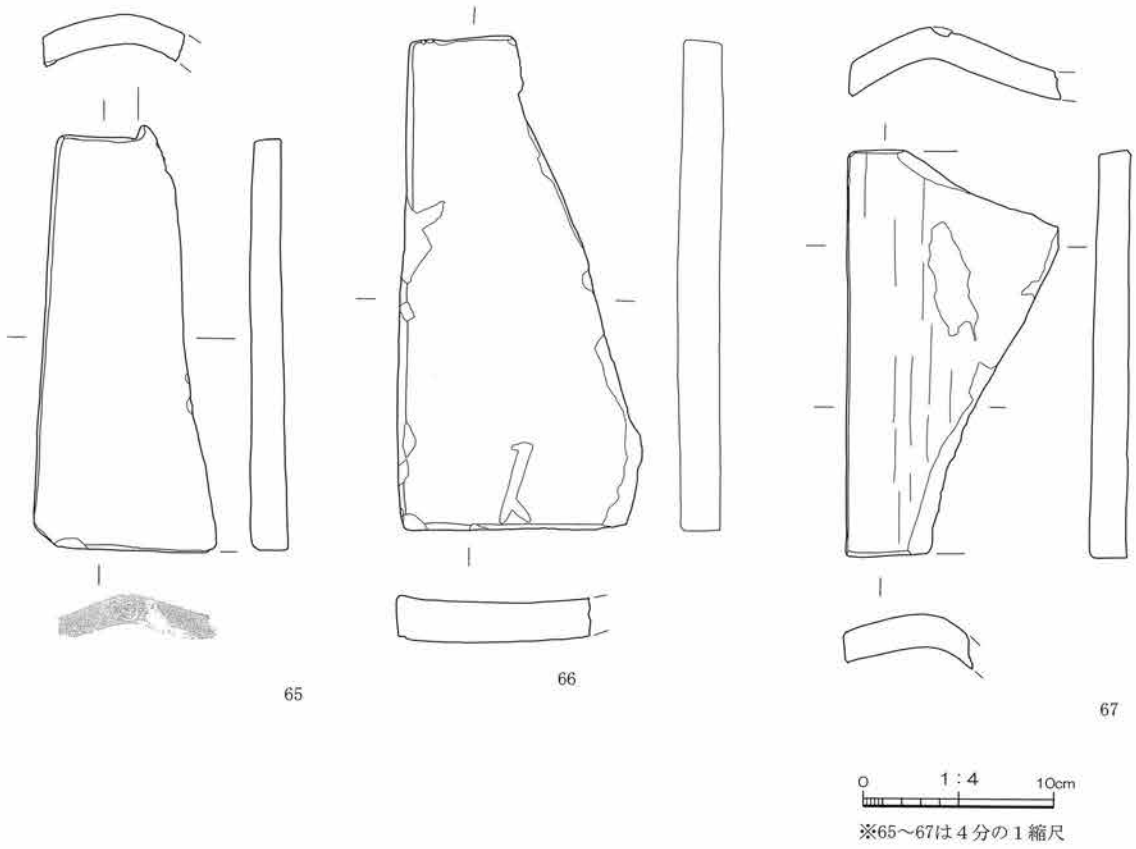


図46　1号溝出土遺物（2）



※63は４分の１縮尺



※65～67は４分の１縮尺

図 47　１号溝出土遺物（３）

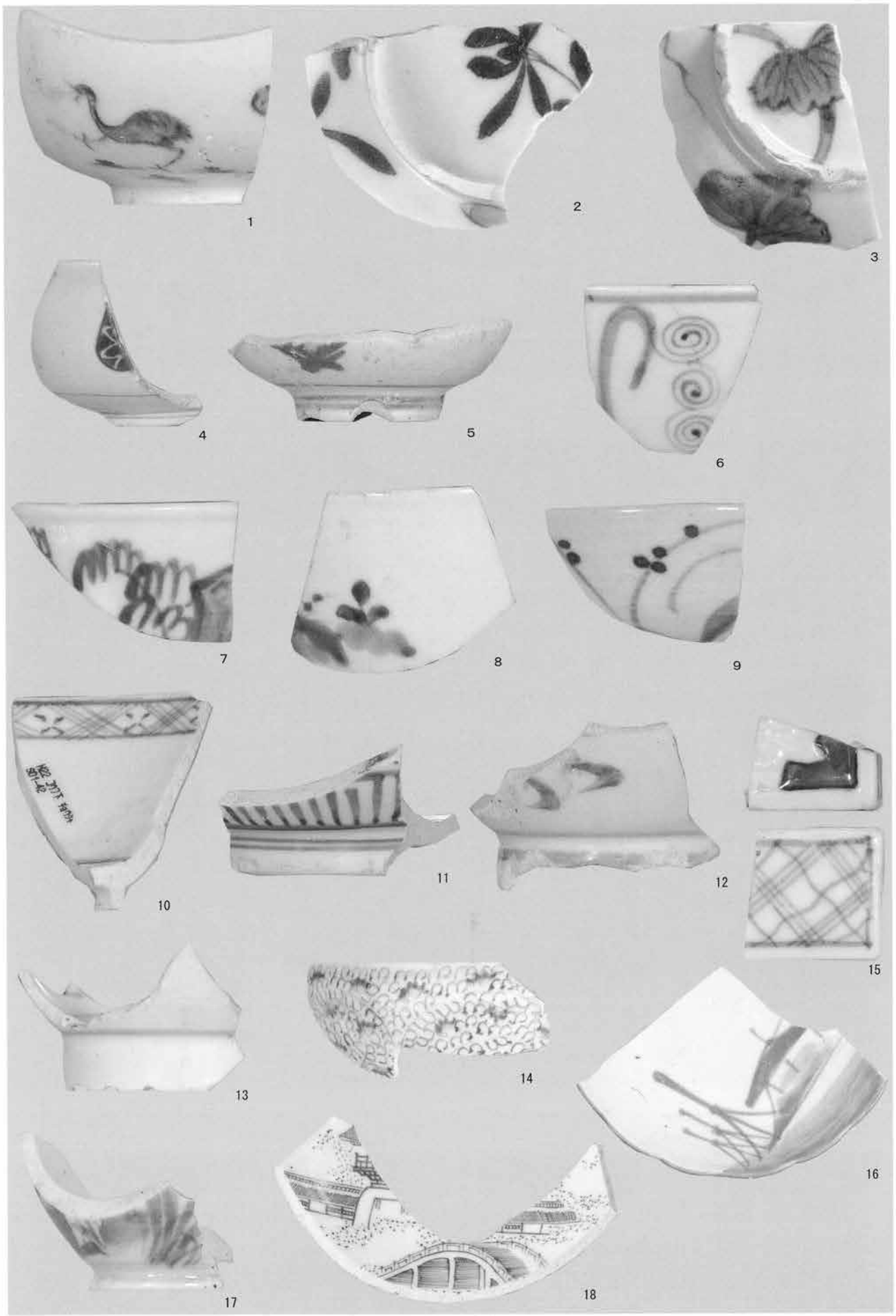


写真 38 1号溝出土遺物（1）

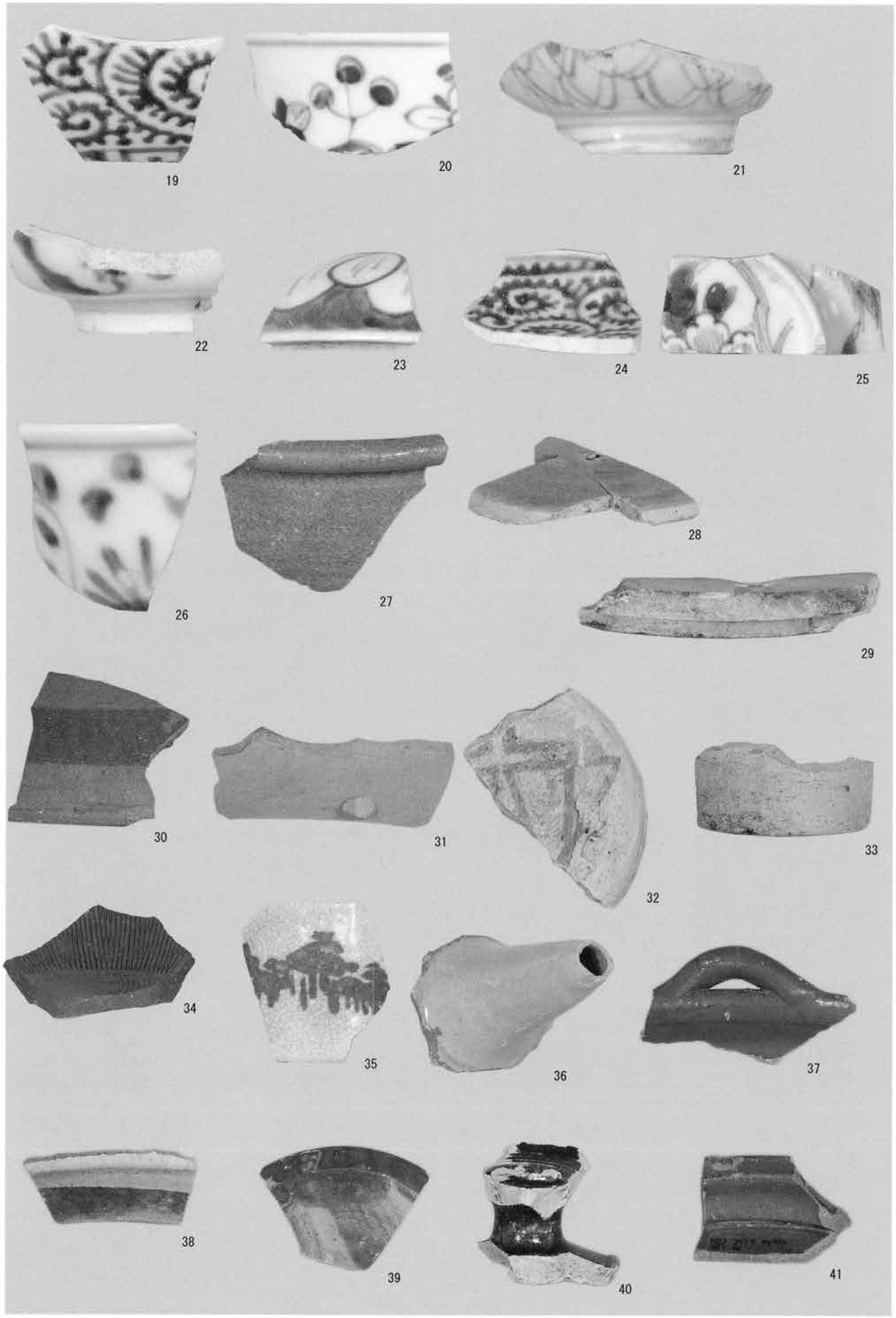


写真 39　1号溝出土遺物（2）

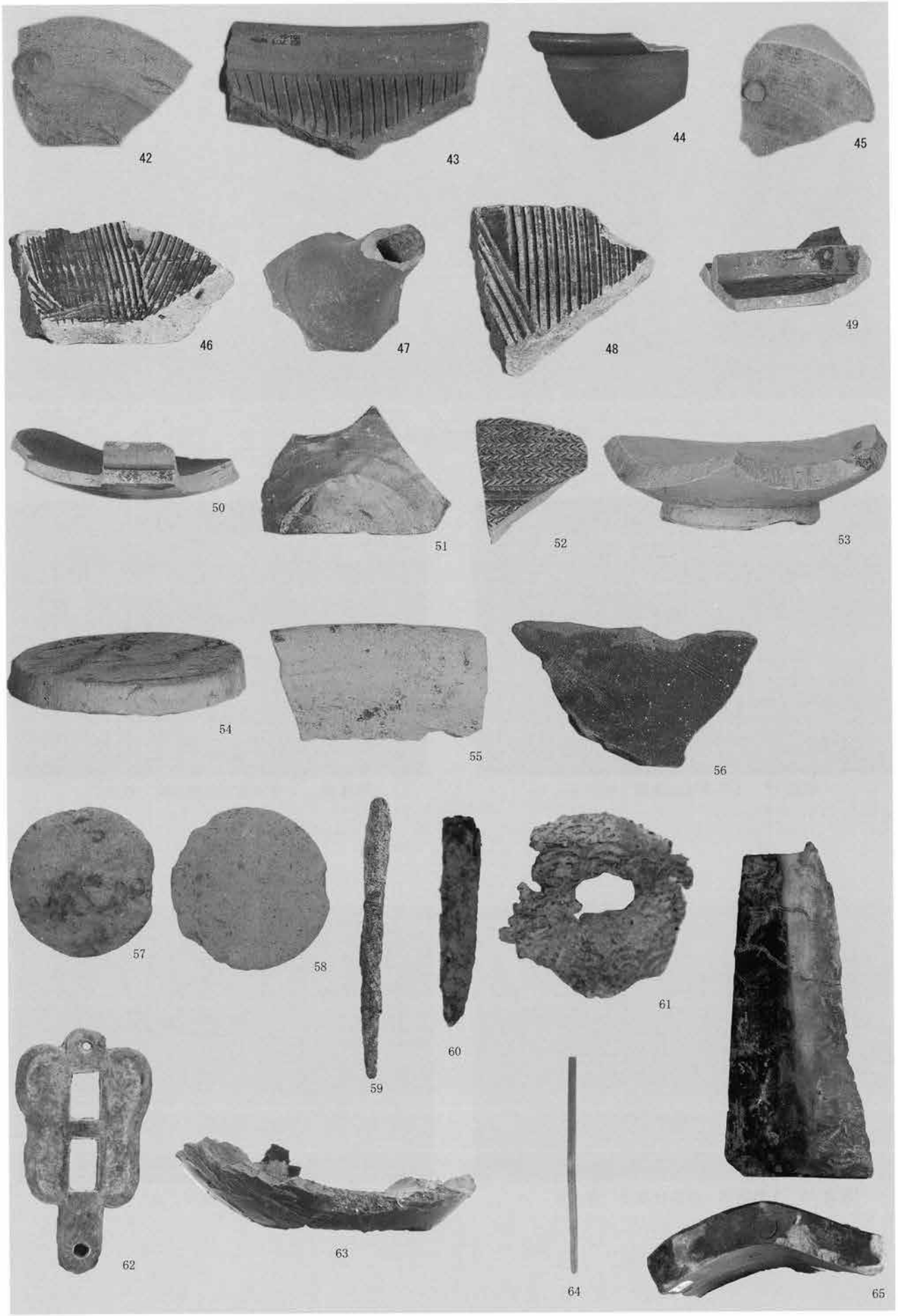


写真 40　1号溝出土遺物（3）

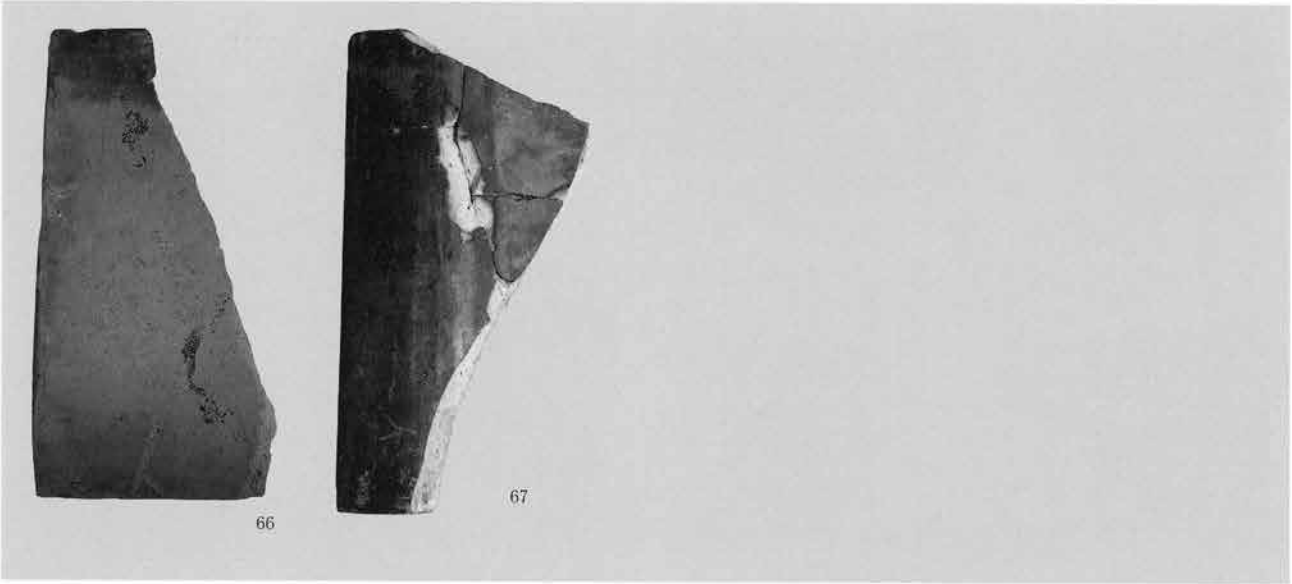


写真 41　1号溝出土遺物（4）

写真 42　1号溝検出状況　南から

写真 43　1号溝遺物出土状況　南から

写真 44　1号溝杭・板検出状況　北から

写真 45　1号溝完掘状況　北から

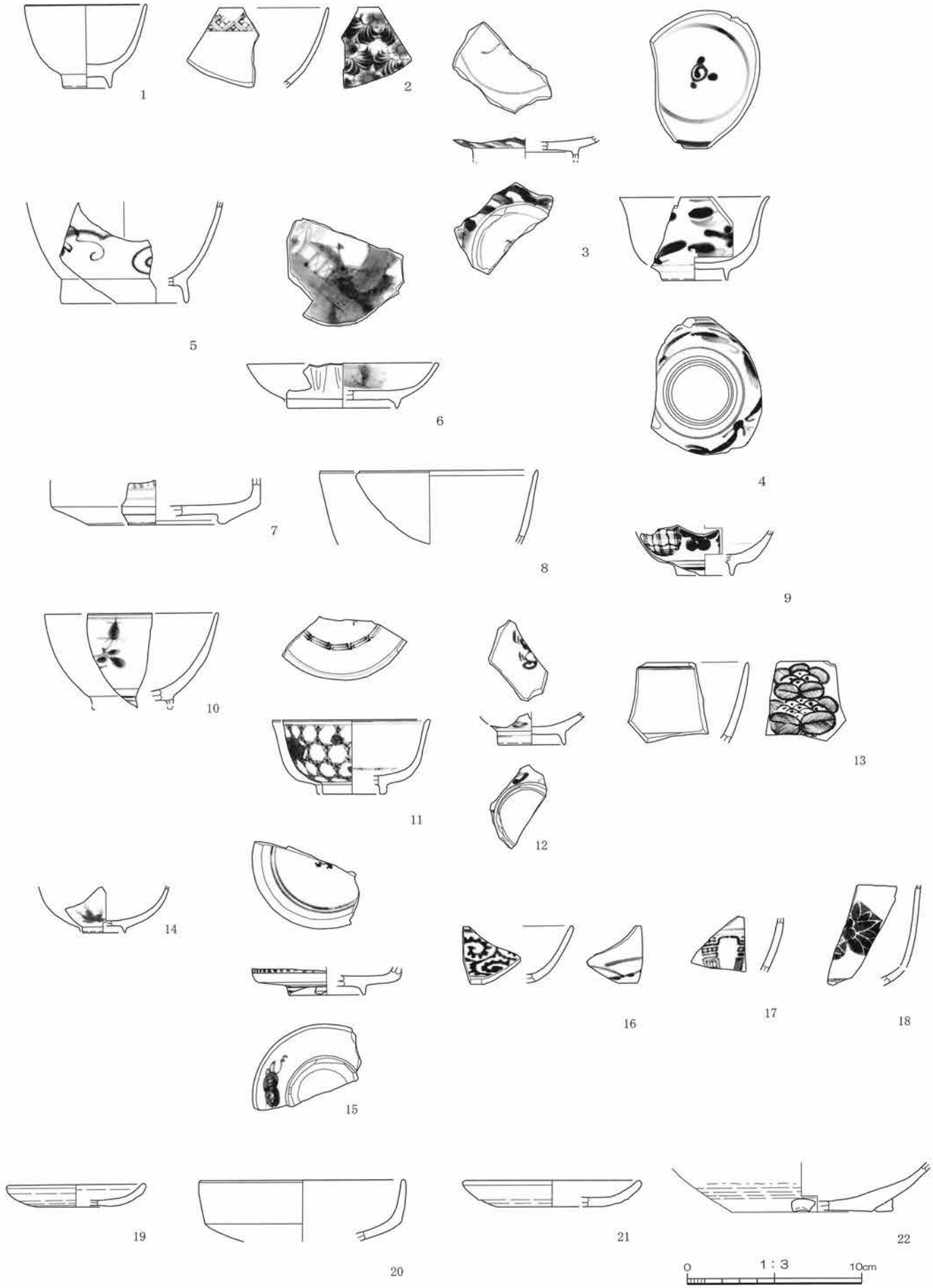


図 48　２号溝出土遺物（１）

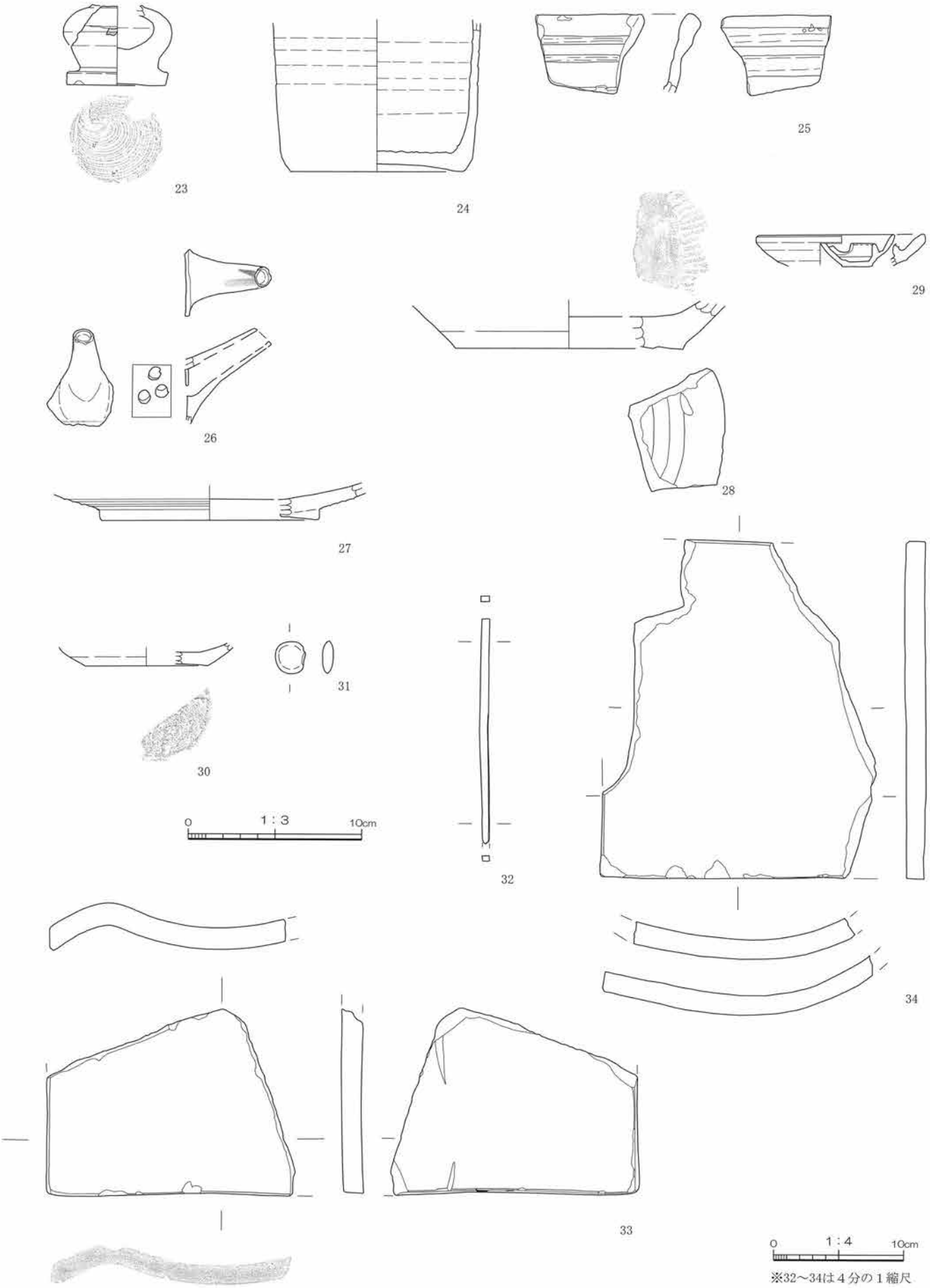


図 49　２号溝出土遺物（２）

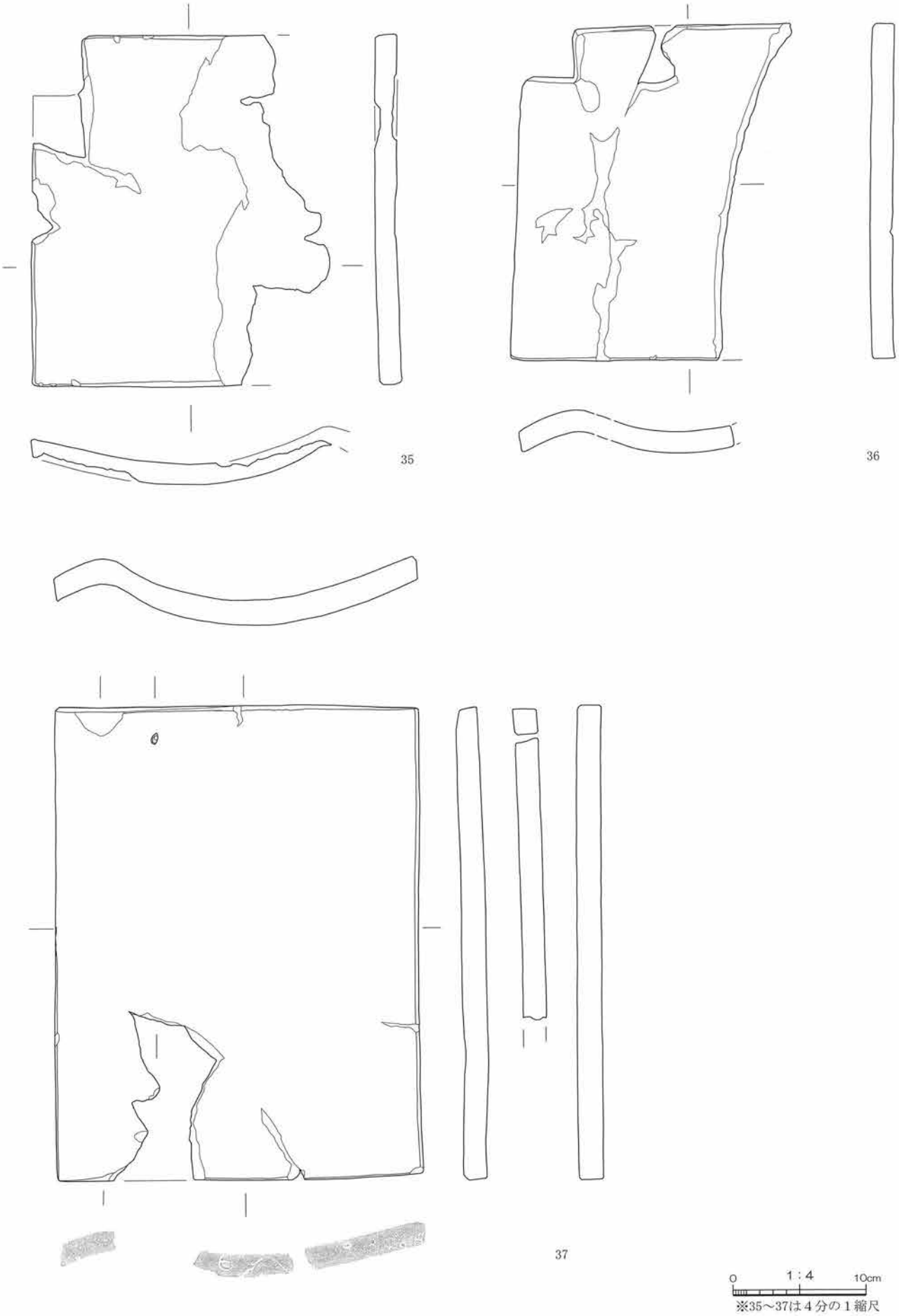


図 50　２号溝出土遺物（３）

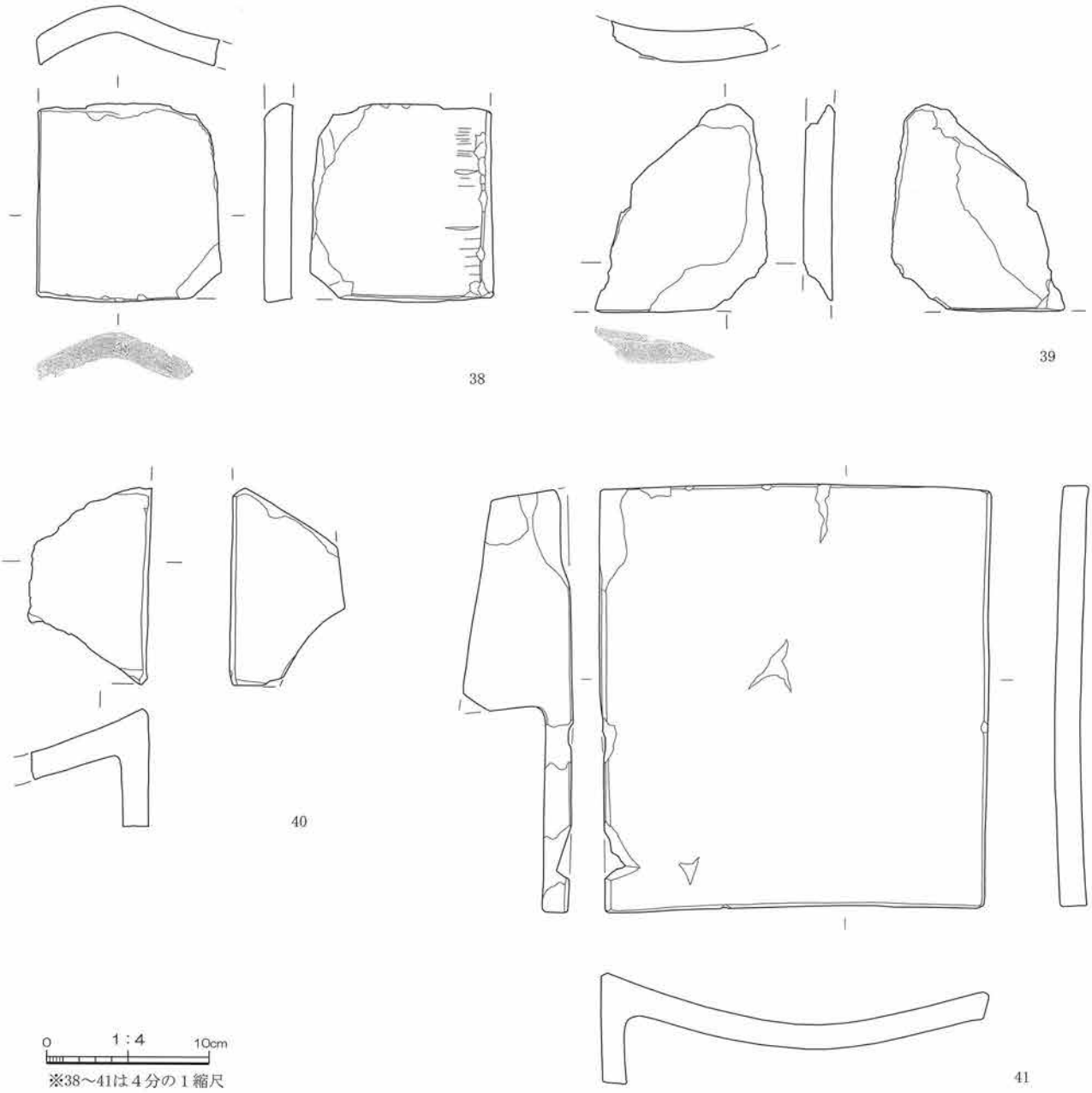


図 51　２号溝出土遺物（４）

写真 46　２号溝遺物出土状況　東から

写真 47　２号溝完掘状況　南から

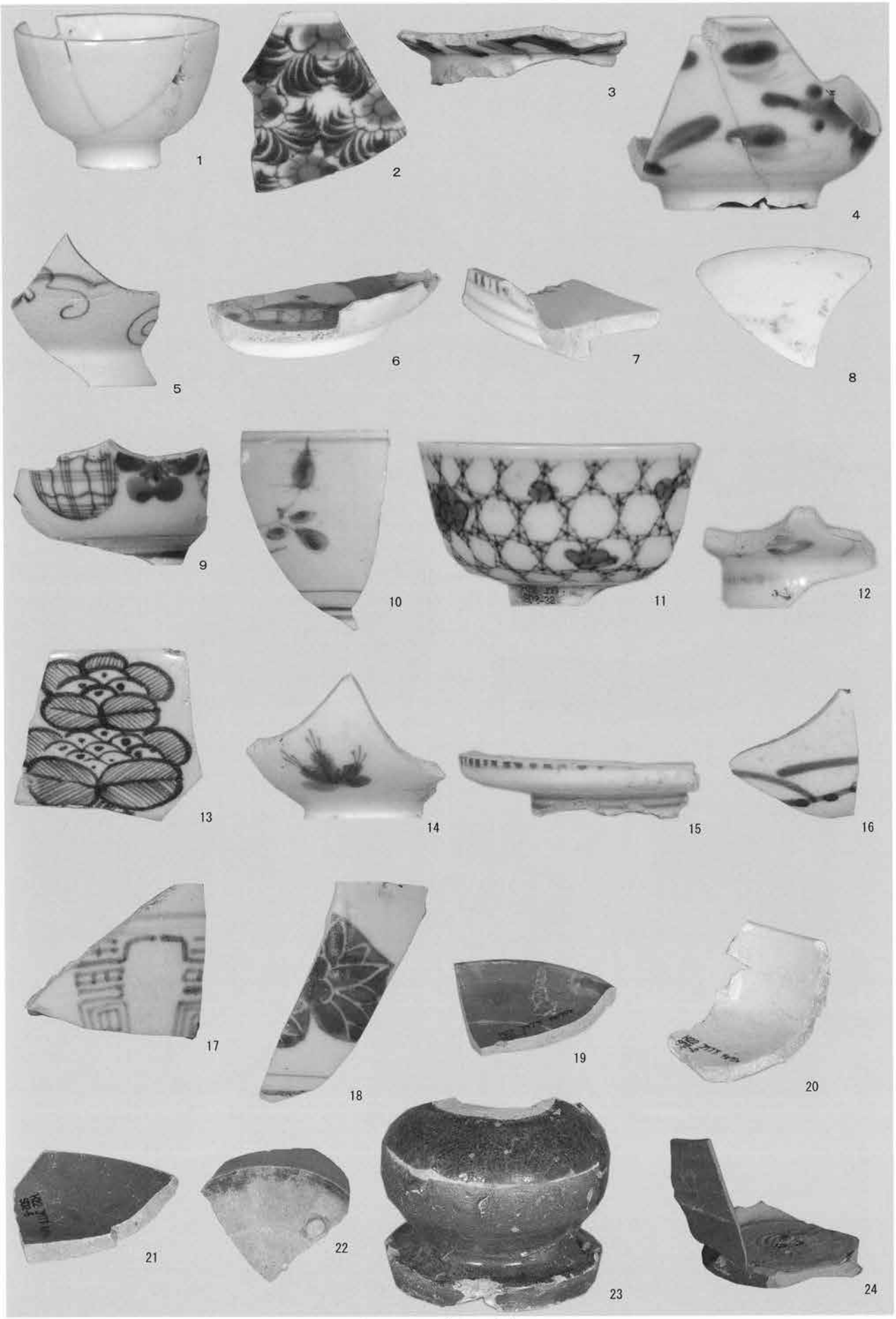


写真 48　２号溝出土遺物（１）

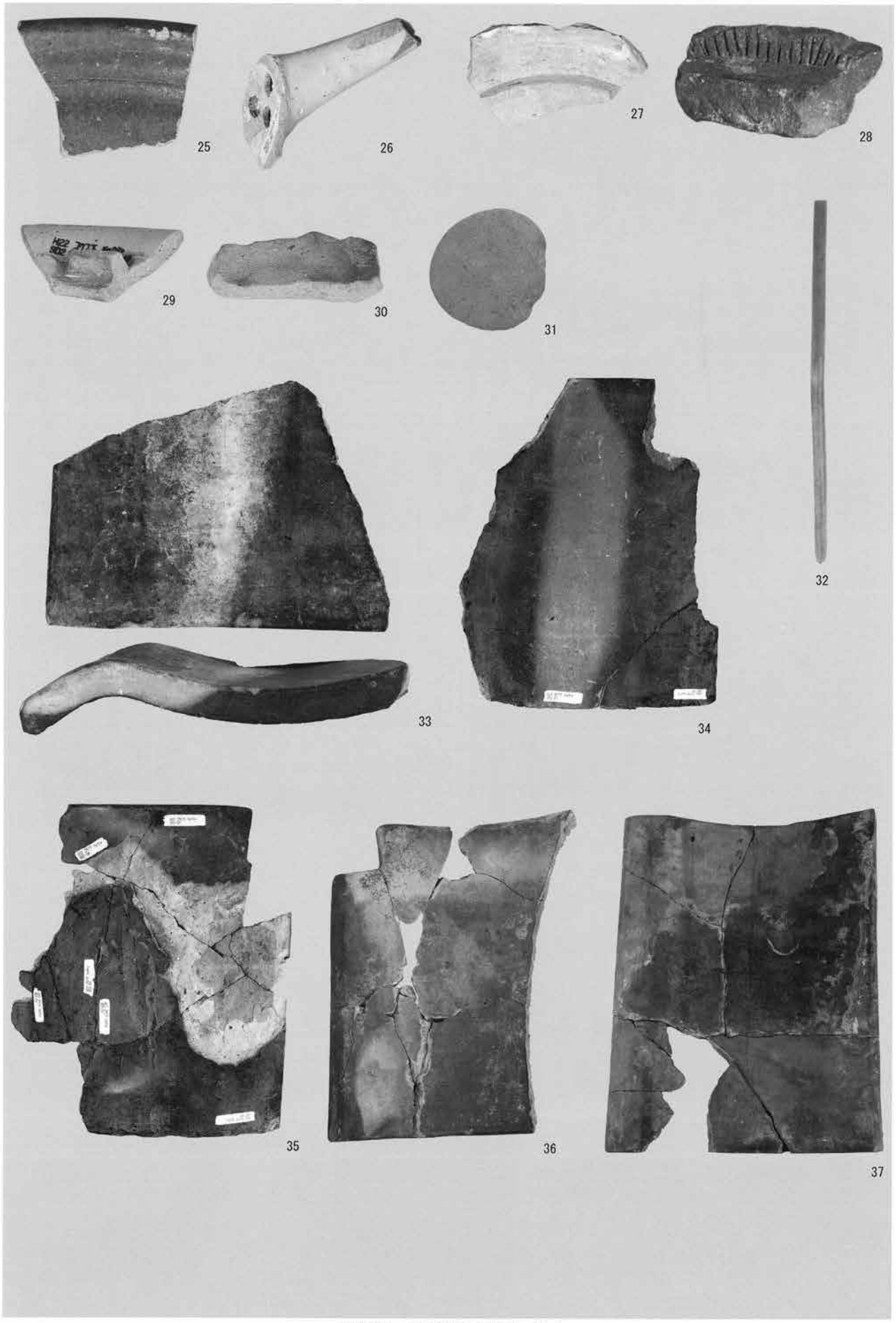


写真 49　２号溝出土遺物（２）

39

40

38

41

写真 50　２号溝出土遺物（３）

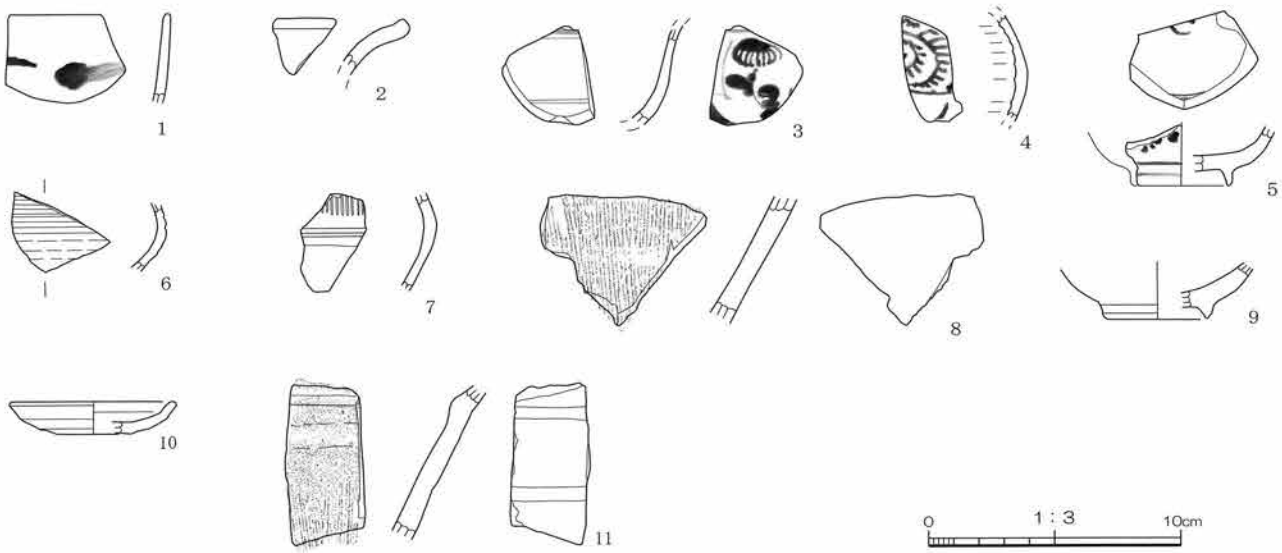


図 52　８号溝出土遺物

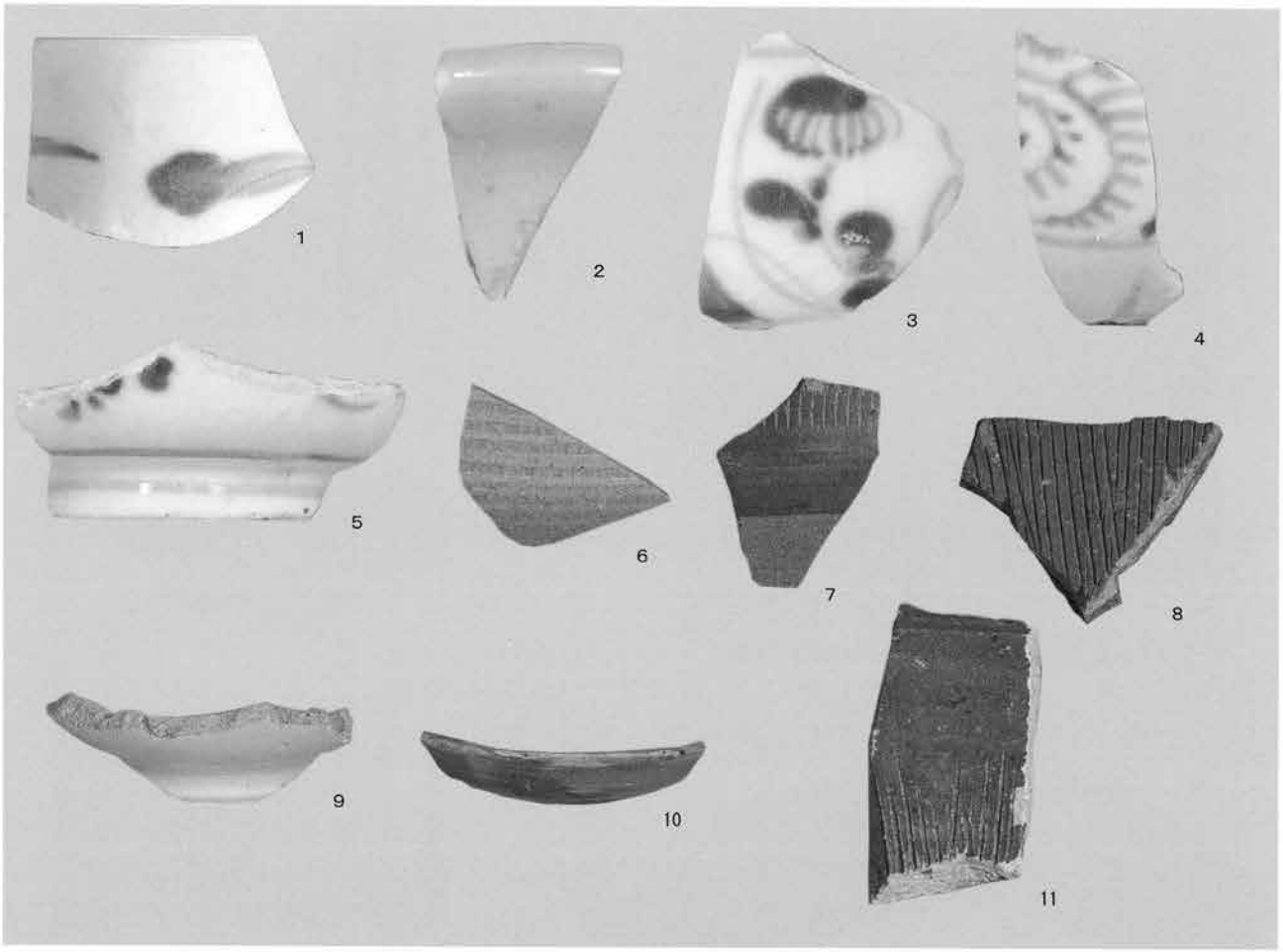


写真 51　８号溝出土遺物

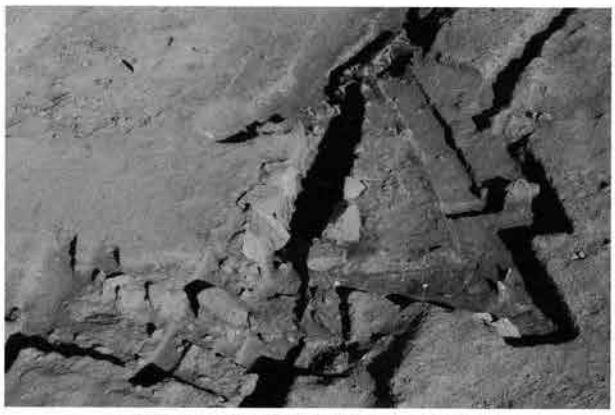
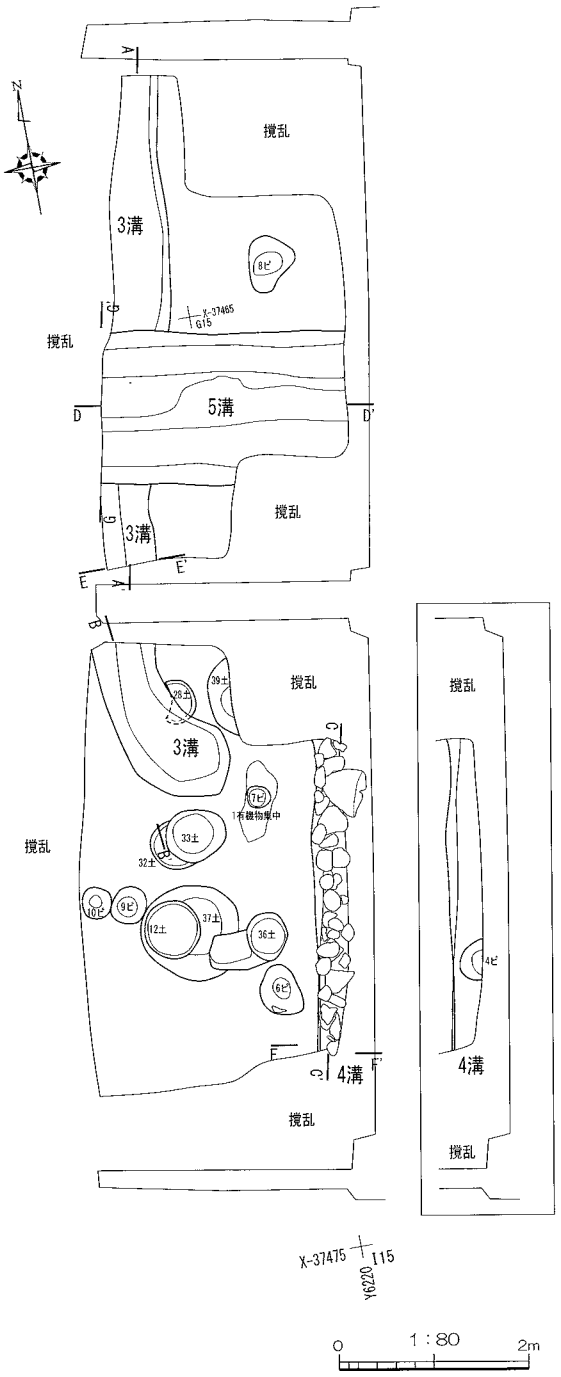
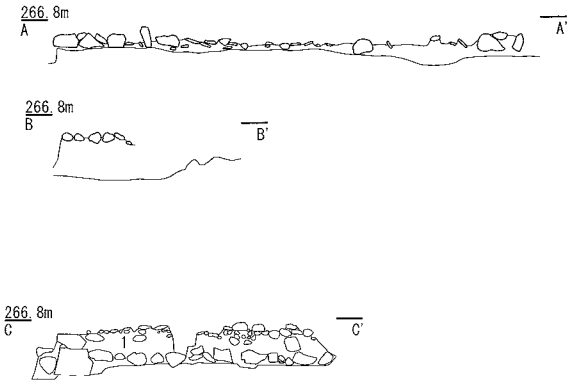
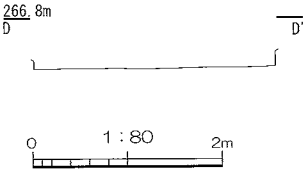


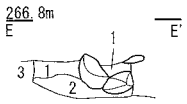
写真 52　８号溝完掘状況　西から



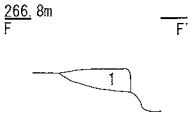


1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。
2～3mm大の炭化粒を1%、5cm大の亜円礫を1%、
1～2cm大の亜円礫を1%含む。

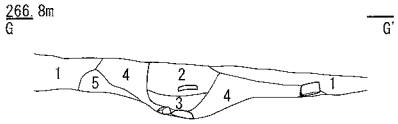




1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
2～5mm大の炭化粒を2%、1mm大の焼土粒を1%含む。
2. 暗褐色土　10YR3/3　シルト　地山。締まり強く、
粘性は中。2～5mm大の炭化粒を10%、1～2mm大の焼土粒を2%、
2～3mm大の黄色土粒を2%含む。
3. 撹乱



1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。
2～3mm大の炭化粒を1%、5cm大の亜円礫を1%、
1～2cm大の亜円礫を1%含む。



1. 撹乱
2. にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。亜円礫を5%含む。
3. 灰黄褐色土　10YR5/2　砂礫　締まり弱く、粘性無し。3～5cm大の円礫を10%含む。
4. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。3～5cm大の円礫を5%含む。
5. 暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性弱い。

0　1:40　1m

図53　3号～5号溝

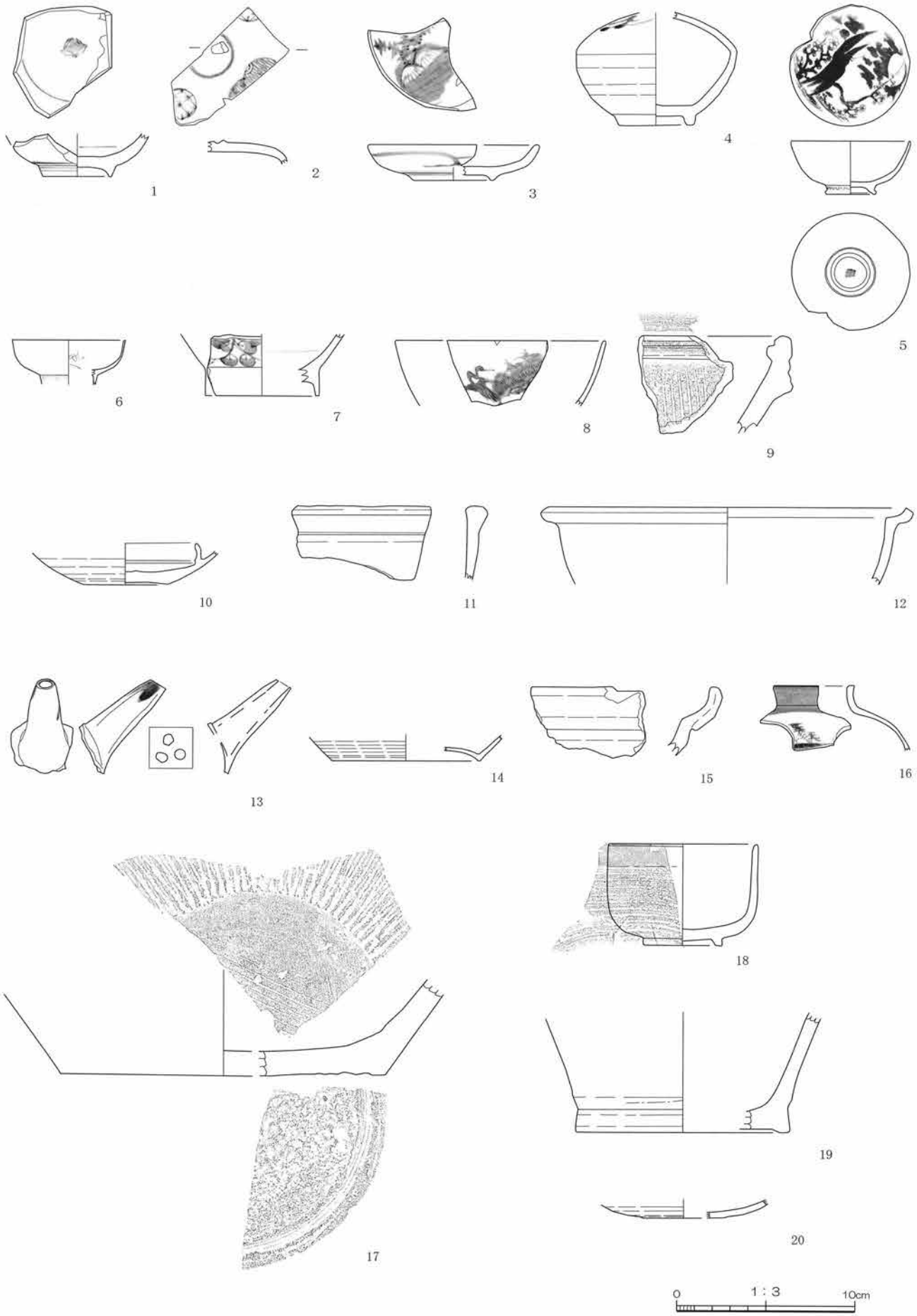


図 54　３号溝出土遺物（１）

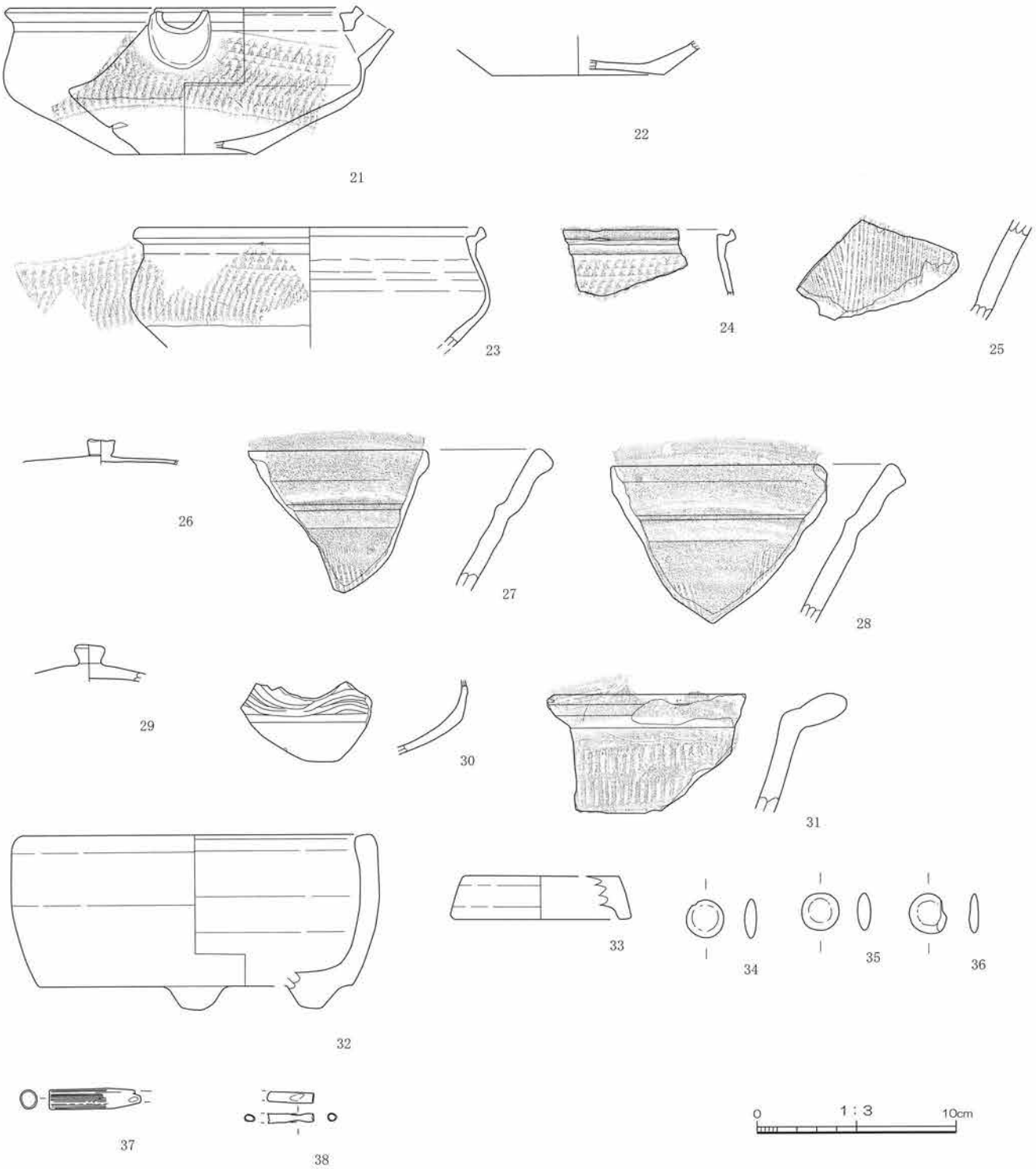
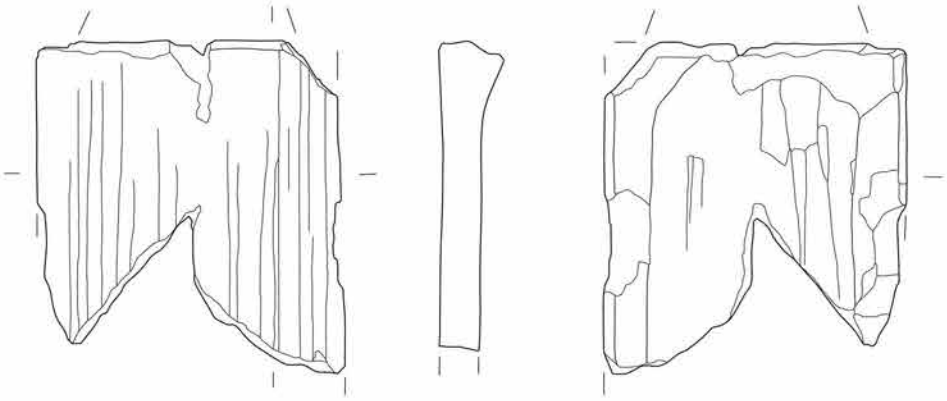
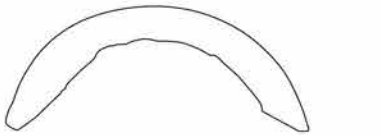
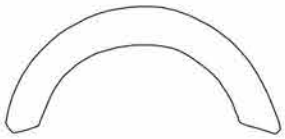


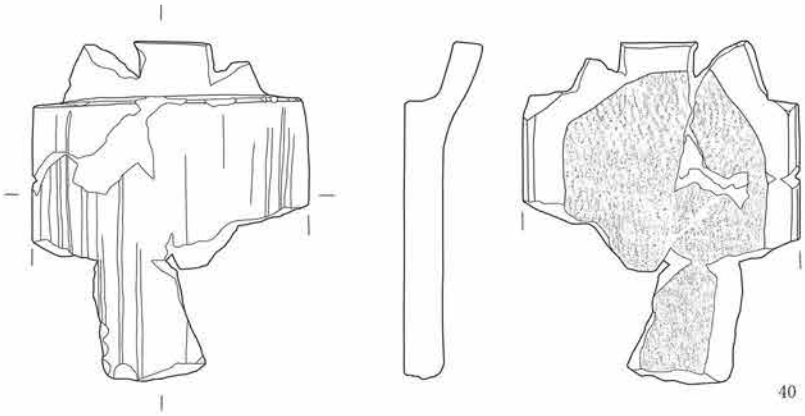
図 55　３号溝出土遺物（２）



39







40

0　1：4　10cm

※39・40は４分の１縮尺

図 56　３号溝出土遺物（３）

写真 53　３号溝・４号溝　南から

写真 54　４号溝遺物出土状況　東から

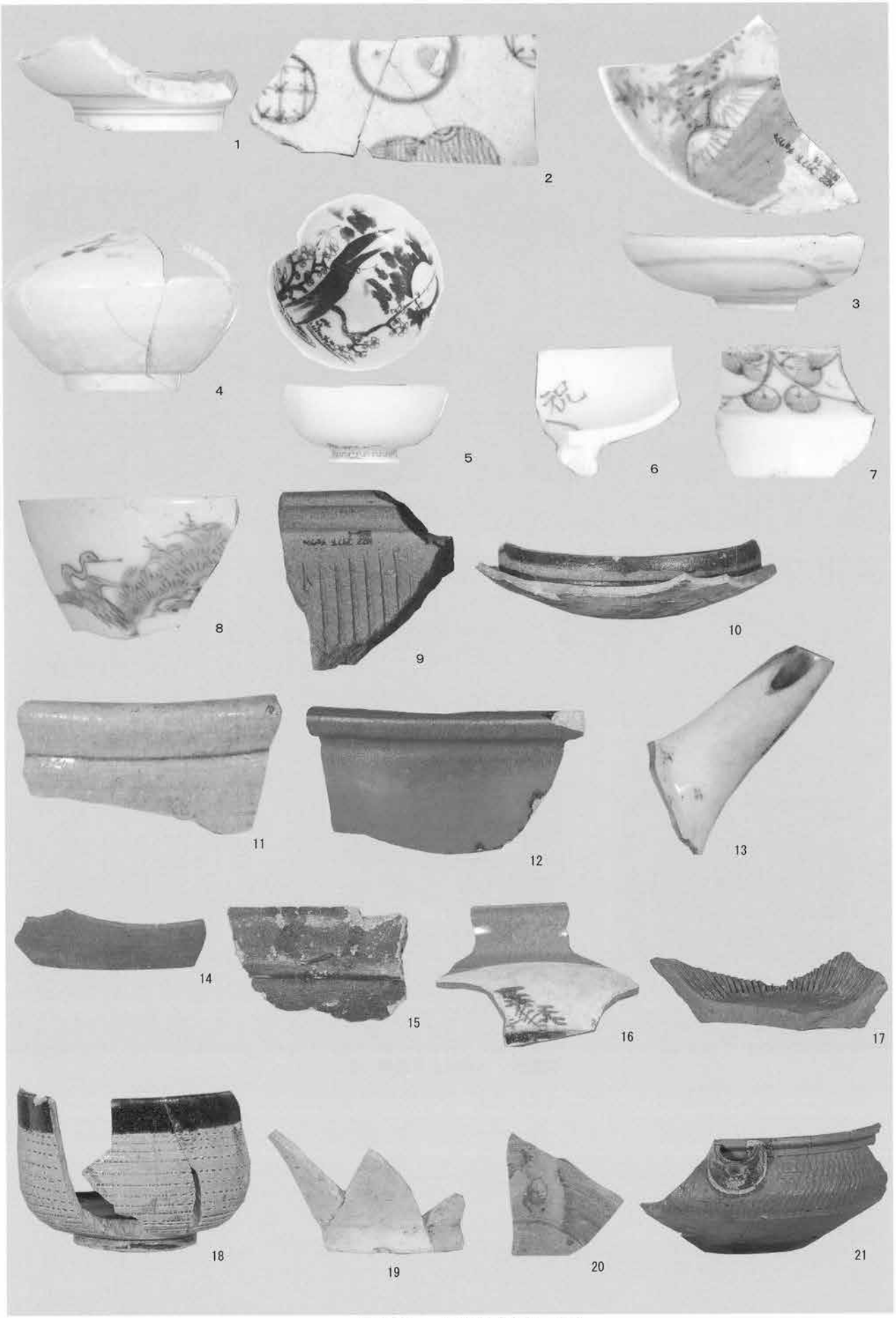


写真 55　３号溝出土遺物（１）

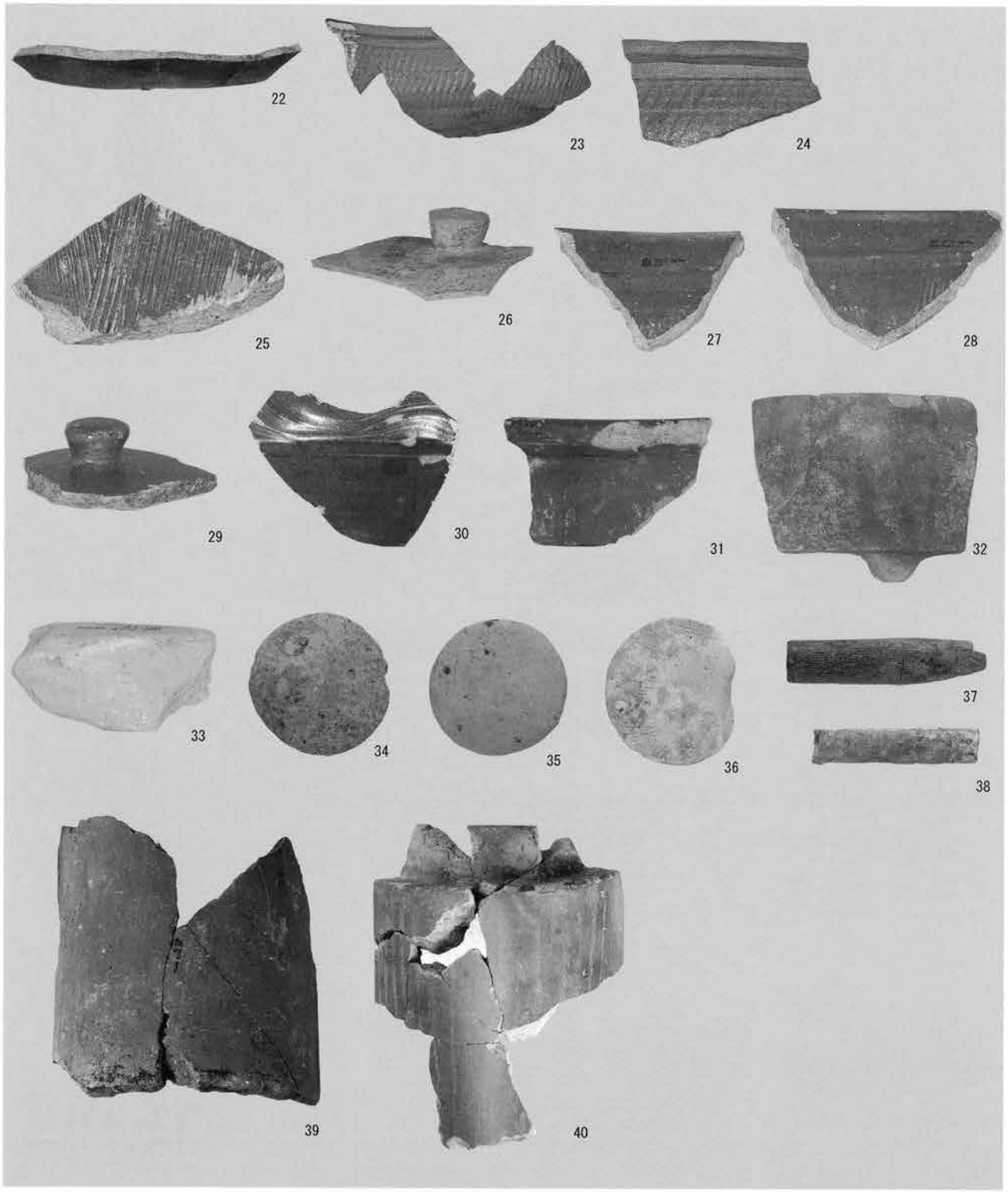


写真 56　３号溝出土遺物（２）

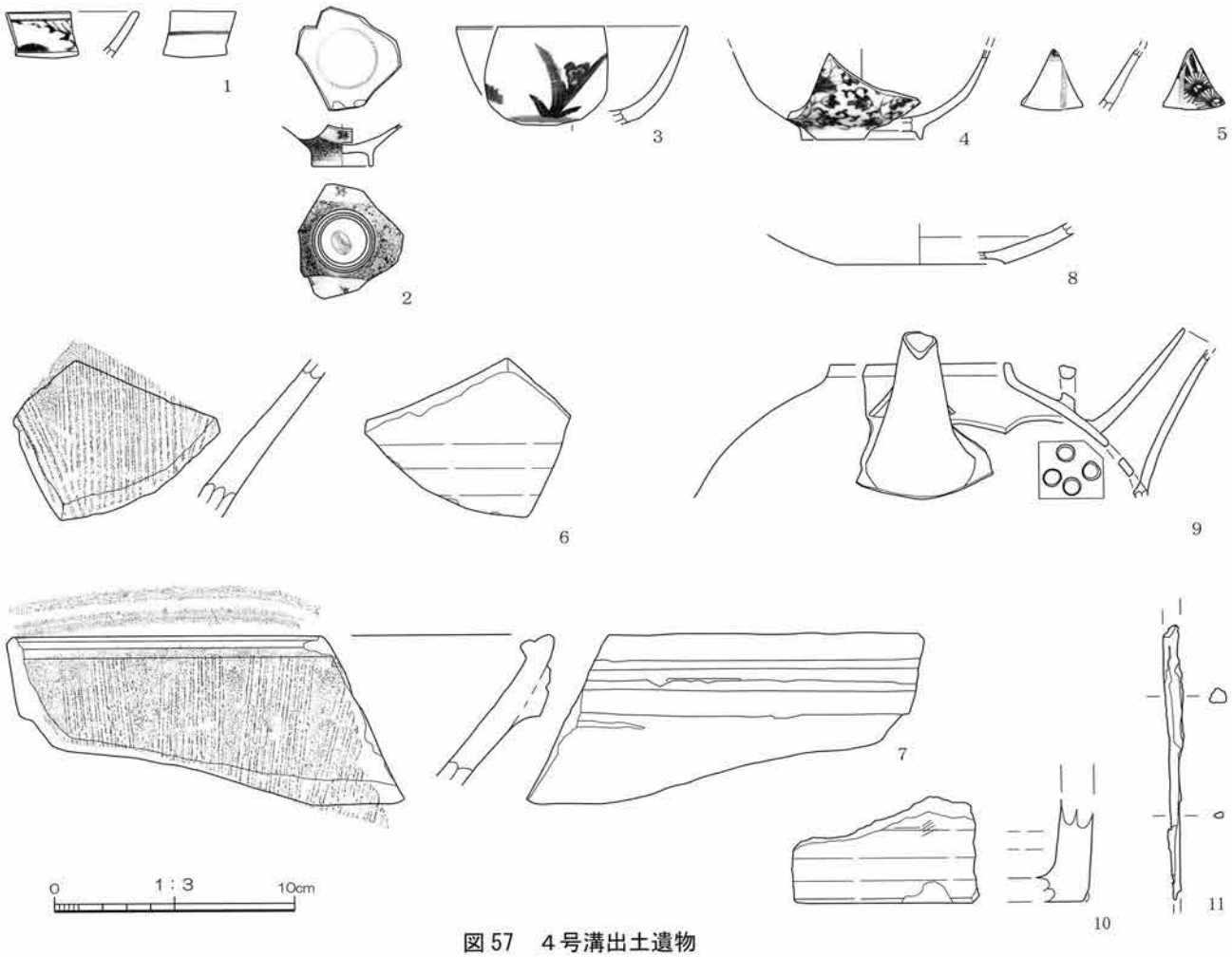


図 57　4号溝出土遺物

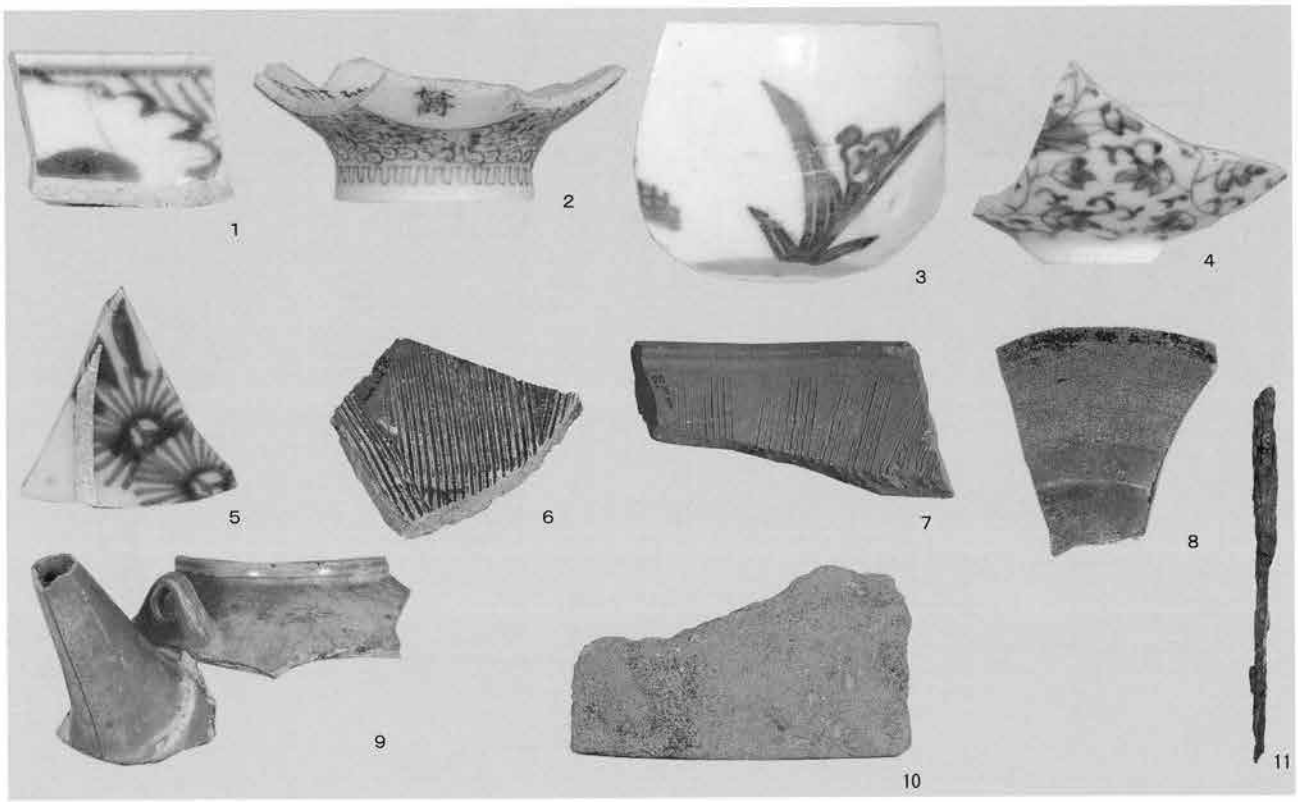


写真 57　4号溝出土遺物

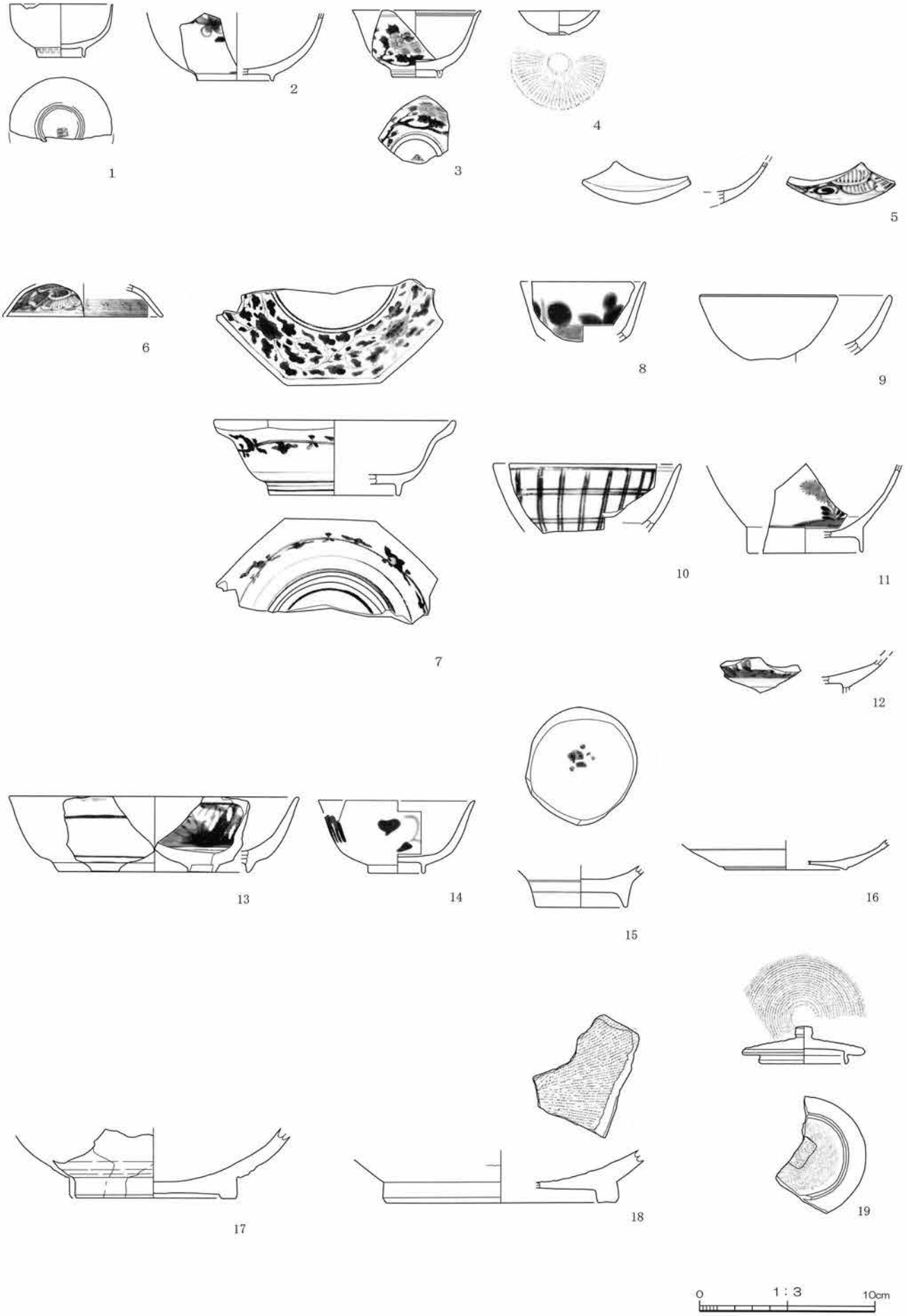


図 58　5号溝出土遺物（1）

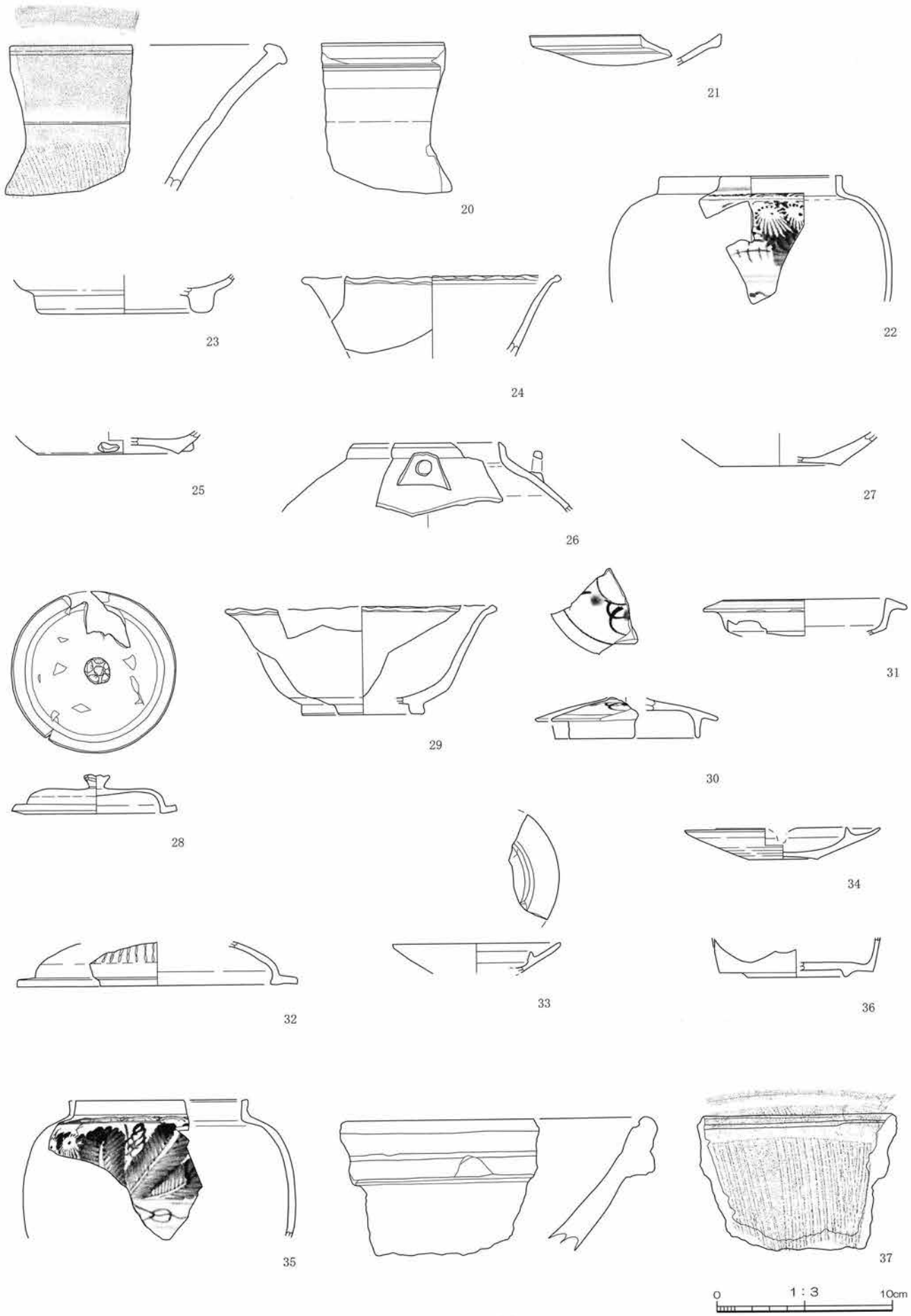


図 59　5号溝出土遺物（2）

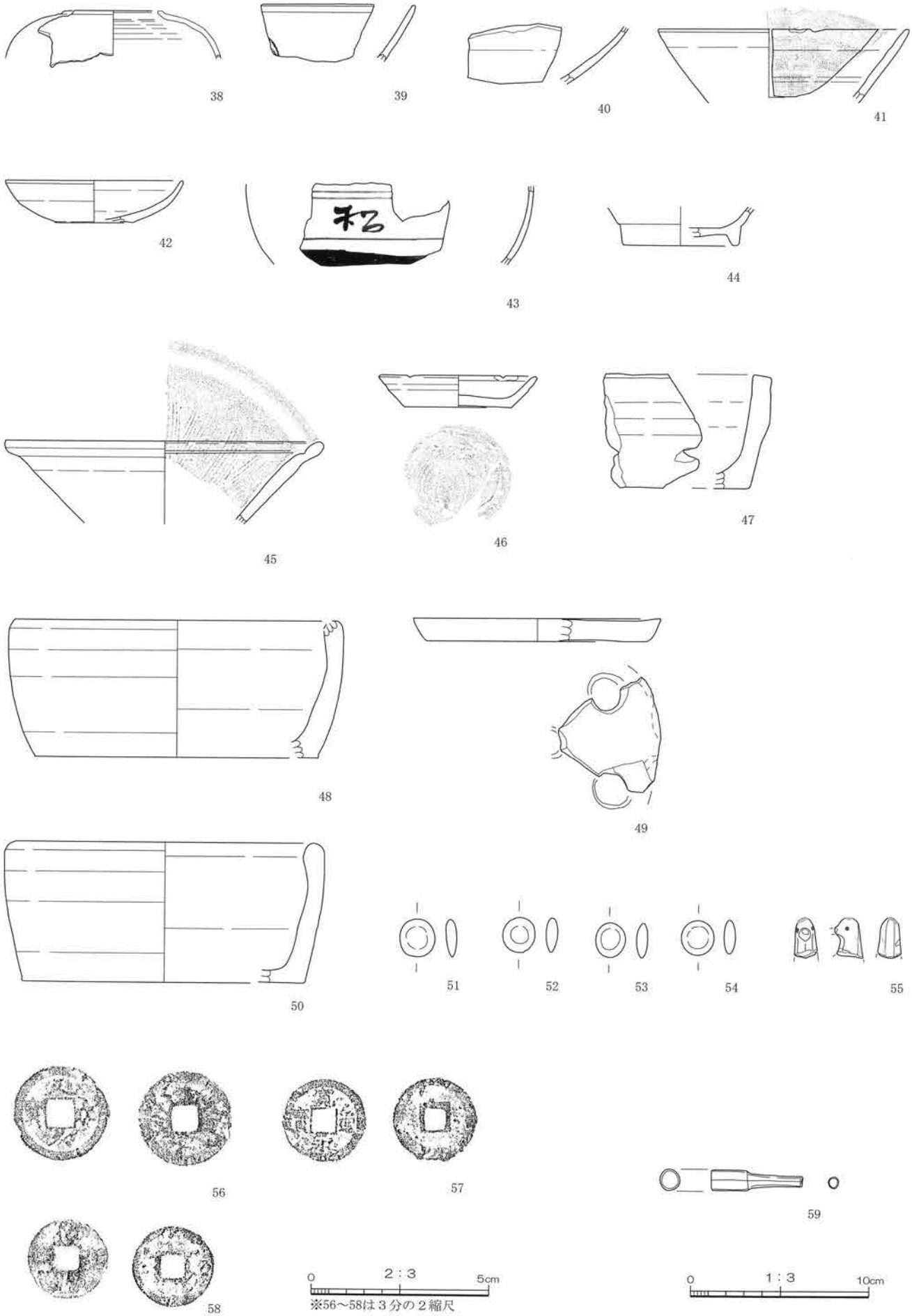
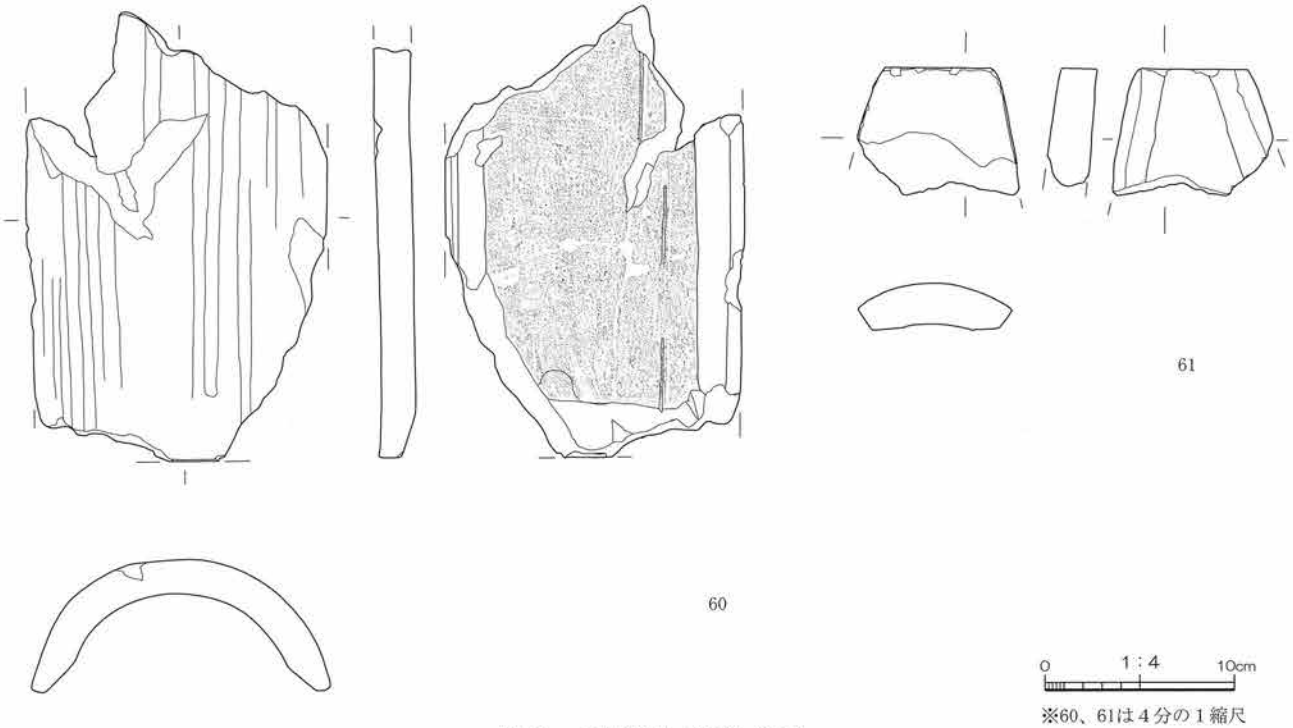


図 60　５号溝出土遺物（３）



※60、61は４分の１縮尺

図 61　５号溝出土遺物（４）

写真 58　５号溝完掘状況　西から

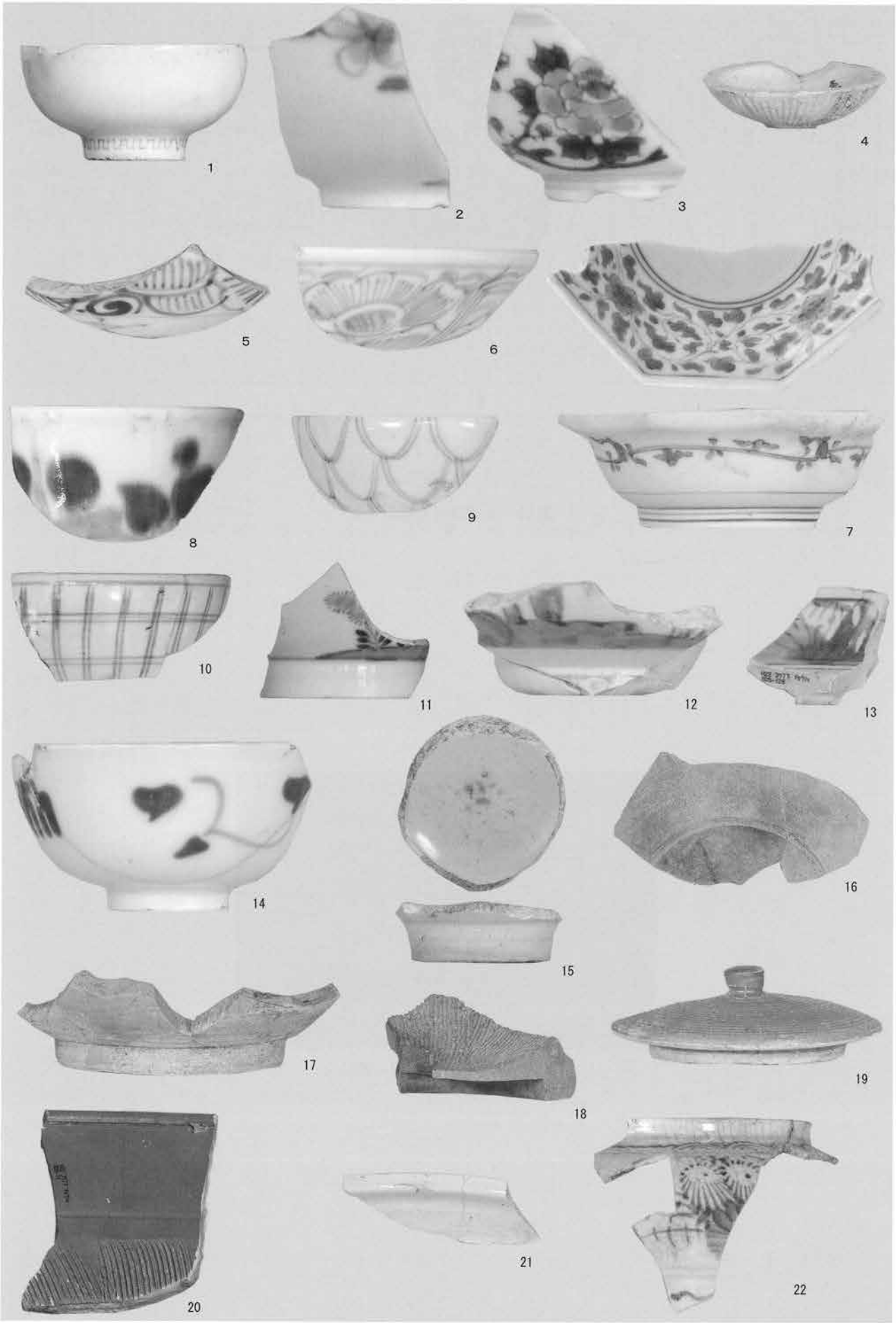


写真 59　5号溝出土遺物（1）

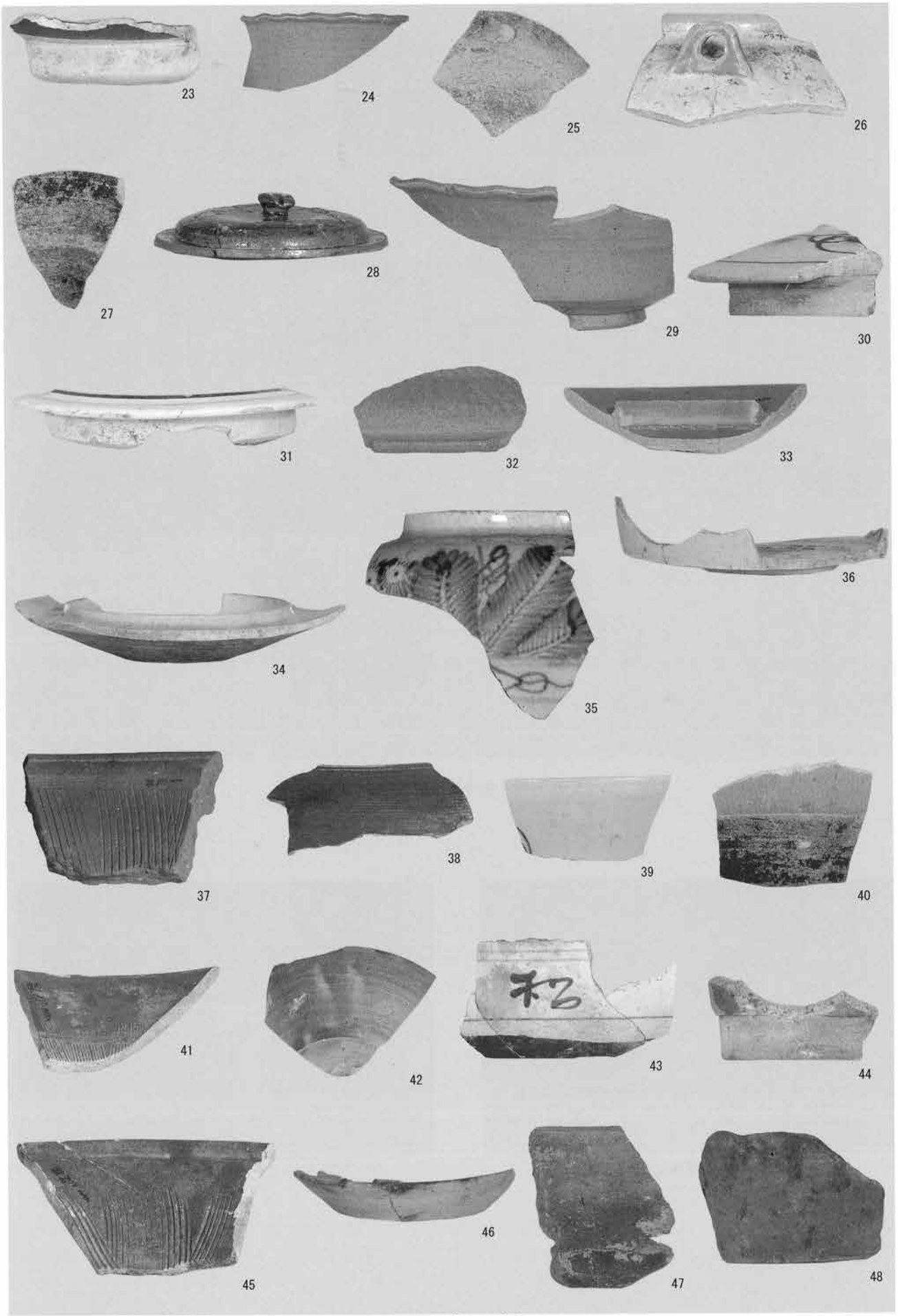


写真 60　５号溝出土遺物（２）

写真 61　５号溝出土遺物（３）

写真 62　６号溝完掘　北から

写真 63　６号・７号溝完掘　西から

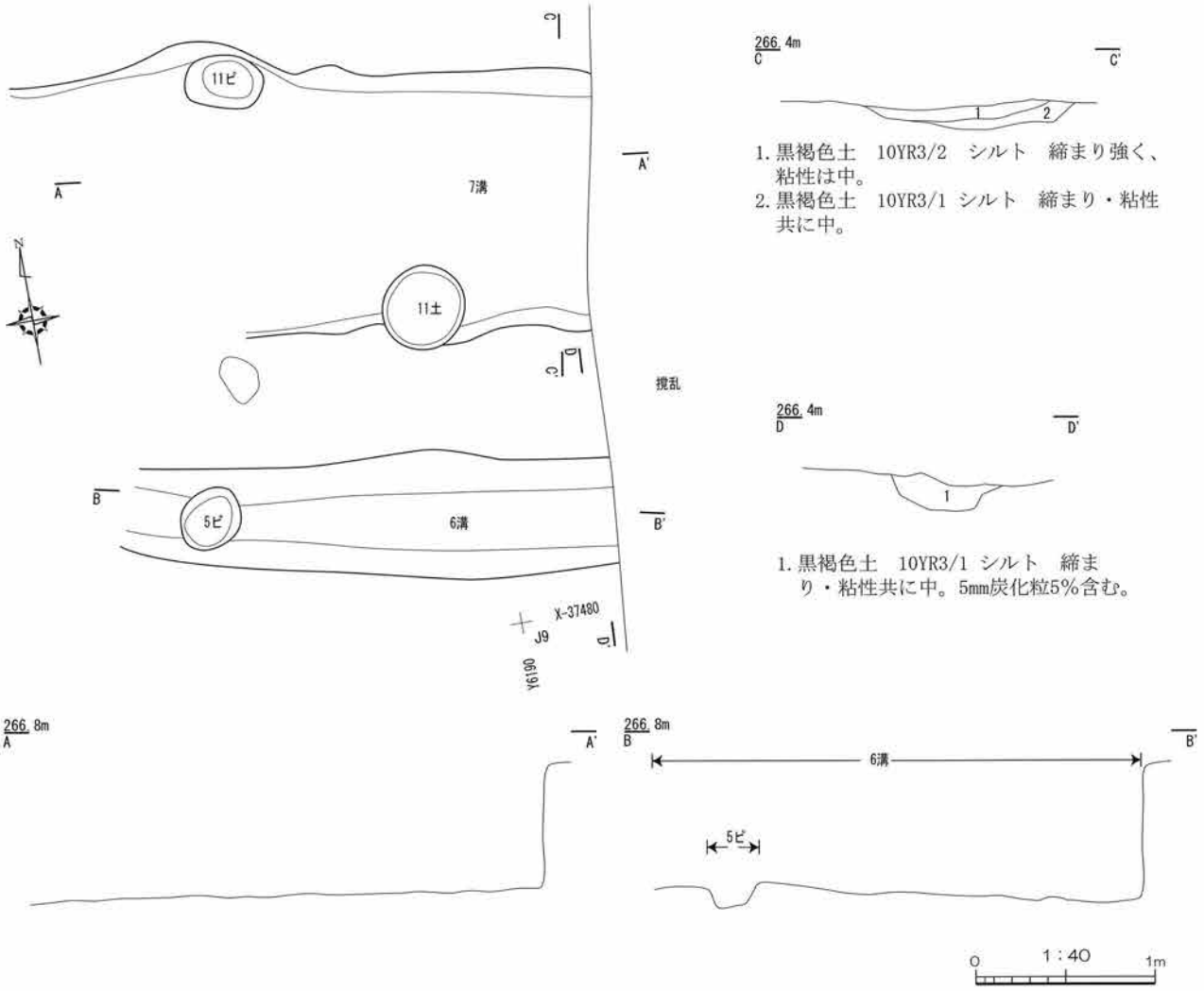
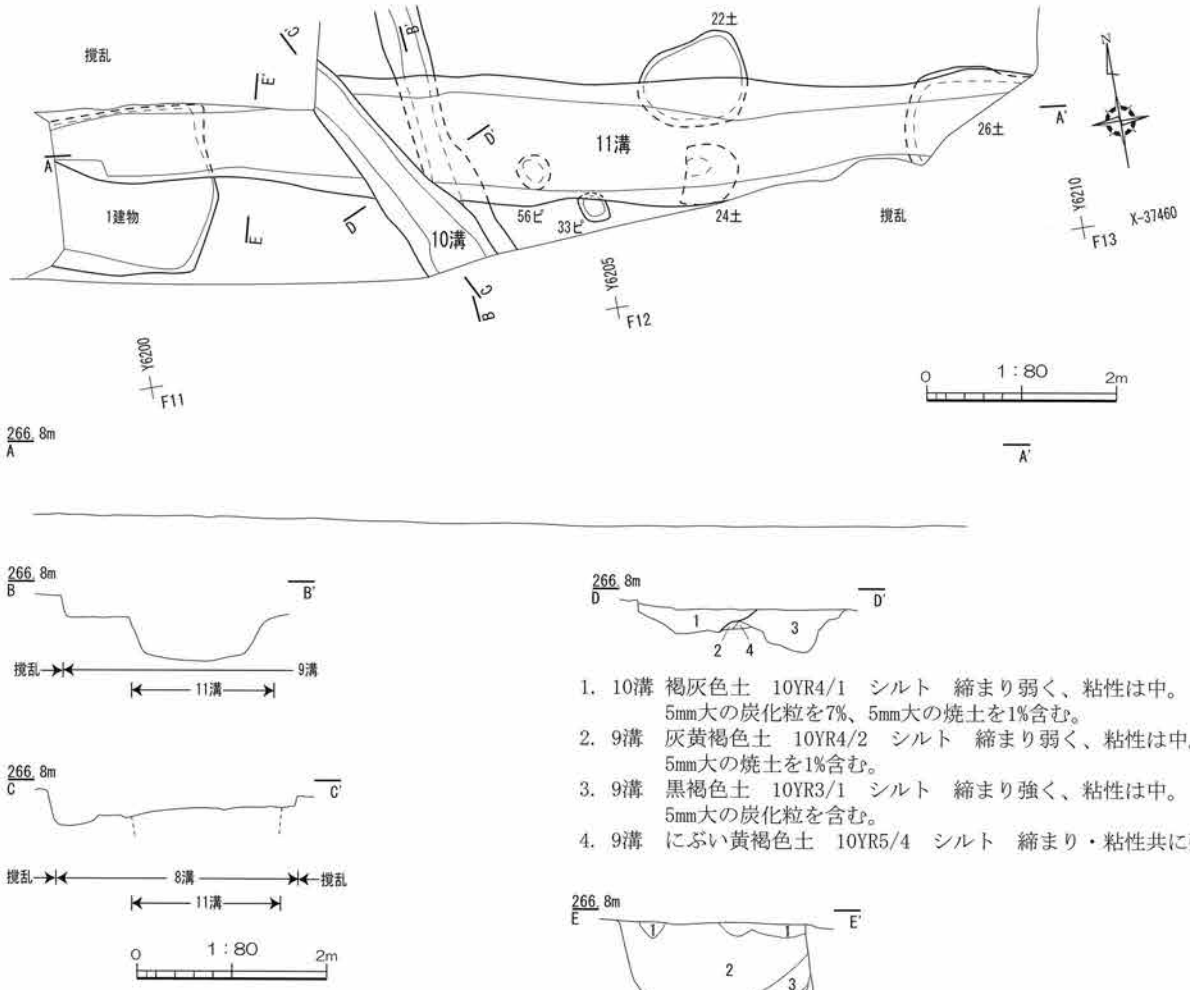


図 62　6号・7号溝

写真 64　9号・10号溝完掘　南から

写真 65　11号溝完掘　西から



1. 10溝 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
   5mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土を1%含む。
2. 9溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。
   5mm大の焼土を1%含む。
3. 9溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
   5mm大の炭化粒を含む。
4. 9溝　にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり・粘性共に強い。

1. 11溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～10mm大の炭化粒を10%含む。
2. 11溝　暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の円礫を20%含む。
3. 11溝　黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に強い。
4. 11溝　暗灰黄色土　2.5Y4/2　砂質土　締まり・粘性共に弱い。
5. 11溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
6. 11溝　オリーブ黒土　5Y3/2　砂質土　締まり弱く、粘性は中。

1:40　1m

図 63　10 号・11 号溝

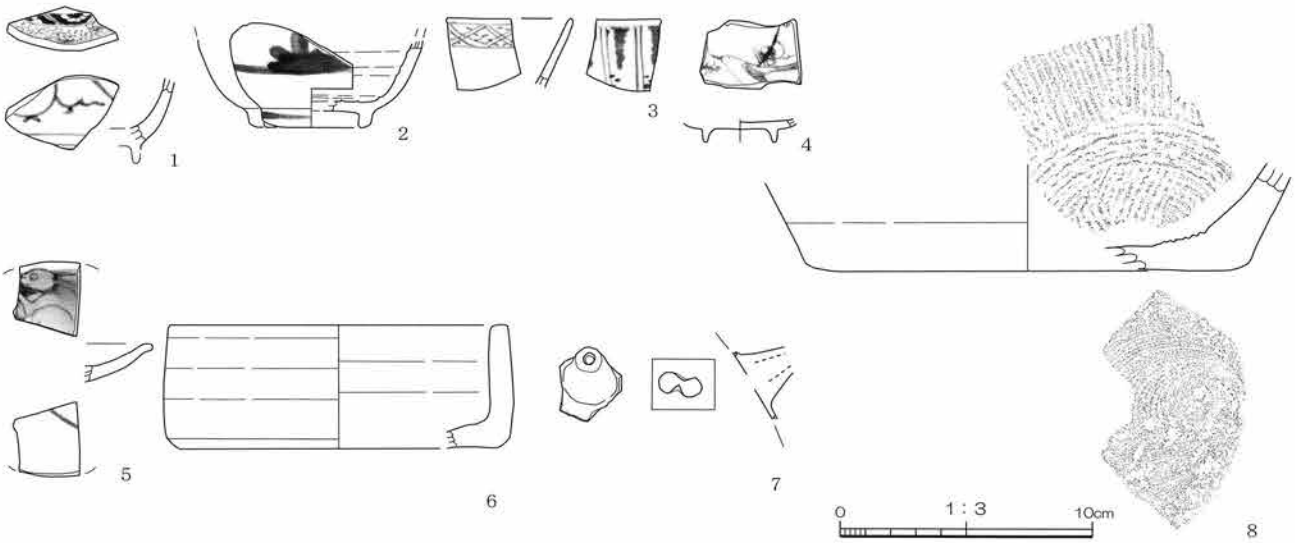


図 64　10 号溝出土遺物

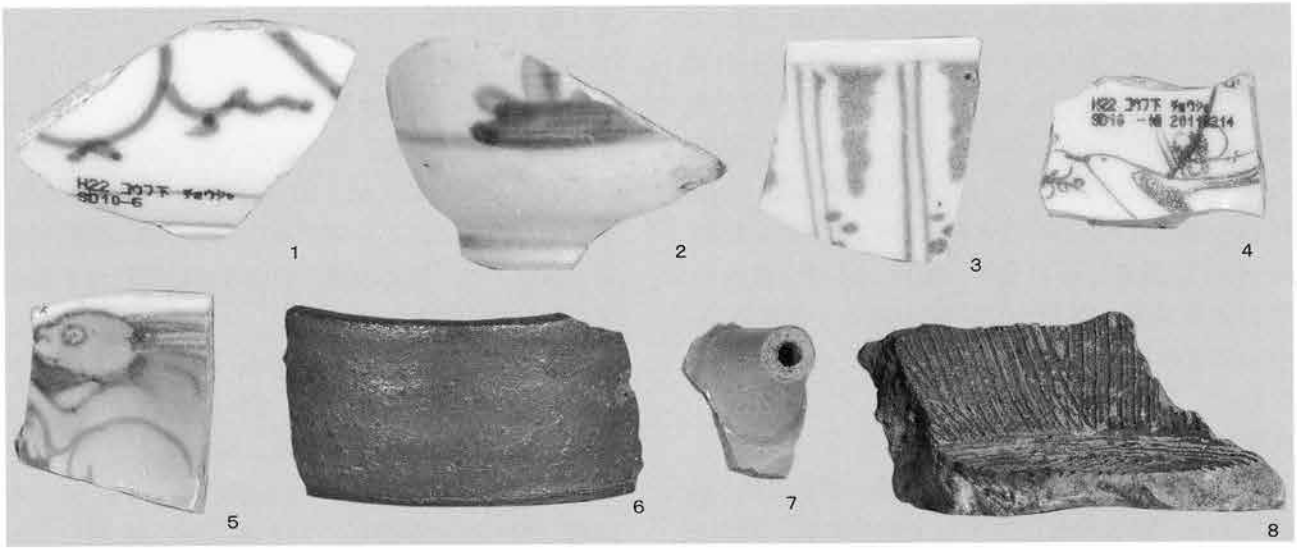
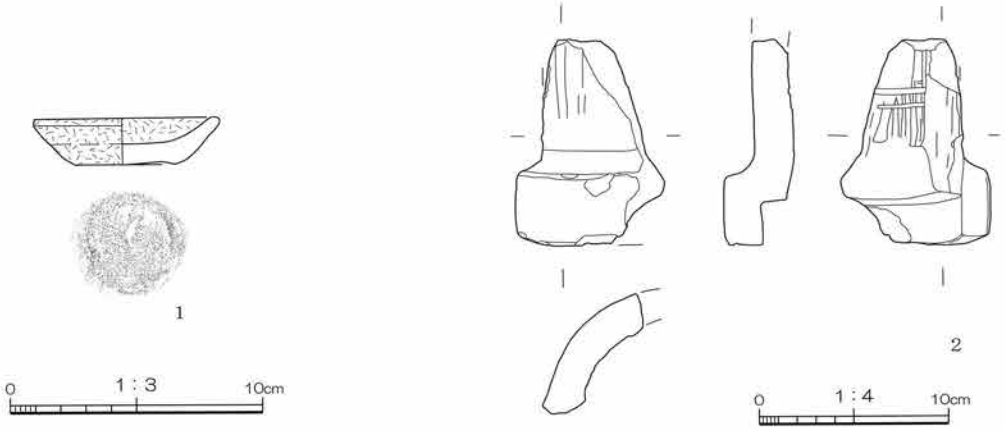


写真 66　10 号溝出土遺物



※2は4分の1縮尺

図 65　11 号溝出土遺物

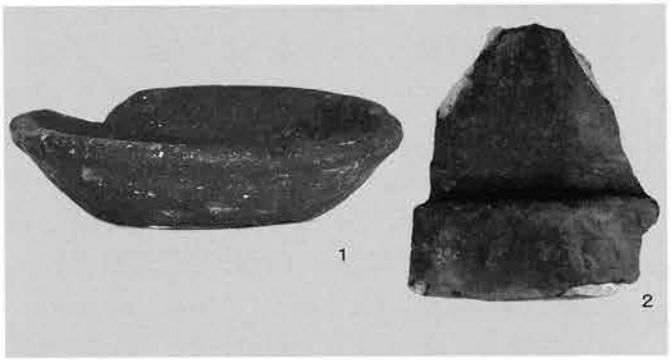


写真 67　11 号溝出土遺物

写真 68　12 号溝完掘状況　北から

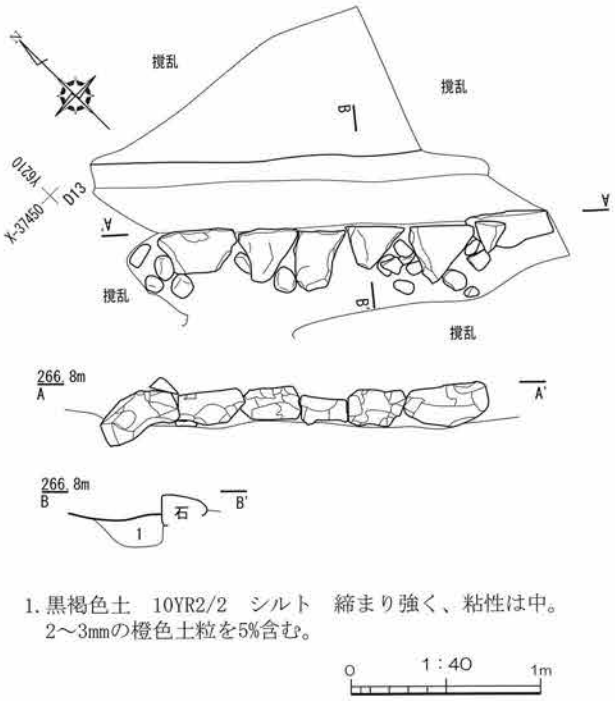


図 66　12 号溝

皿である。陶器：15は陶胎染付碗、16は土瓶、17は鉢、18・20・37・41・45は擂鉢、19・28・31は蓋、21・23・24・29・36は鉢、22・35・38は壺、25・26・40・43は土瓶、30は土瓶蓋、32は行平鍋蓋、33・34は灯明受付皿、39・44は碗、42は小皿。土器：46は小皿、47・48・50は火鉢、49は目皿。土製品：51～54は碁石、55は鳥笛、銭貨：56は文久永宝、57は寛永通宝、58は□□□宝である。金属製品：59は煙管吸口である。瓦：60は丸瓦、61は輪違いである。

6号溝（図62）

Ｉ８からＪ９グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.7ｍ、幅0.6ｍ、深さ0.3ｍである。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は6号溝が5号ピットに切られている。

7号溝（図62）

Ｉ８からＪ９グリッドに位置する。検出範囲で長さ3.3ｍ、幅1.4ｍ、深さ0.2ｍである。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は7号溝が11号土坑、11号ピットに切られている。

10号溝（図63・64）

Ｅ11グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.7ｍ、幅0.5～0.7ｍ、深さ0.1ｍである。北側と南側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は10号溝が9号溝、11号溝を切っている。

遺物は磁器5点（1～5）、陶器3点（6～8）を図示した。磁器：1～3は碗、4・5は皿である。陶器：6は鉢、7は土瓶、8は擂鉢である。

11号溝（図63・65）

Ｅ10からＥ11グリッドに位置する。検出範囲で長さ10.2ｍ、幅1.2ｍ、深さ0.6ｍである。東側と西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は11号溝が1号建物跡、9号・10号溝、22号・24号・26号土坑、33号ピット、56号ピットに切られている。

遺物は土器1点（1）、瓦1点（2）を図示した。土器：1は皿、瓦：2は丸瓦である。

12号溝（図66）

Ｄ13グリッドに位置する。検出範囲で長さ2.4ｍ、幅0.4ｍ、深さ0.2ｍである。東側と西側は撹乱され消失している。溝縁辺部の石列を検出した。石は全て、はつられて面が作られていた。他の遺構との切り合い関係はない。

第4節　井戸跡

1号井戸（図67～70）

Ｇ11グリッドに位置する。長さ0.9ｍ、幅0.9ｍ、深さ5ｍである。平面形は円形で底なし桶が6段重ねられている。桶1個の高さは1.1ｍである。地下水を汲み上げる井戸である。桶の胴は竹釘で連結されていた。他の遺構との切り合い関係は1号土坑が9号溝に切られている。

遺物は磁器15点（1～15）、陶器18点（16～33）、土器4点（34～37）、石製品2点（38・39）、木製品1点（40）を図示した。磁器：1は皿、2・3・5・6・9・14・15は丸碗、4・7は蓋、8は瓶、10・11は筒形碗、12は端反碗、13香炉である。陶器：16・17・20～23・33は擂鉢、22は皿、24・26・28は碗、25は蓋、29は小坏、27は片口鉢、30は小皿、31・32は灯明受付皿である。28は高台内に墨書がある。土器：34～37は焙烙である。石製品：38・39は砥石である。木製品40は曲物底である。

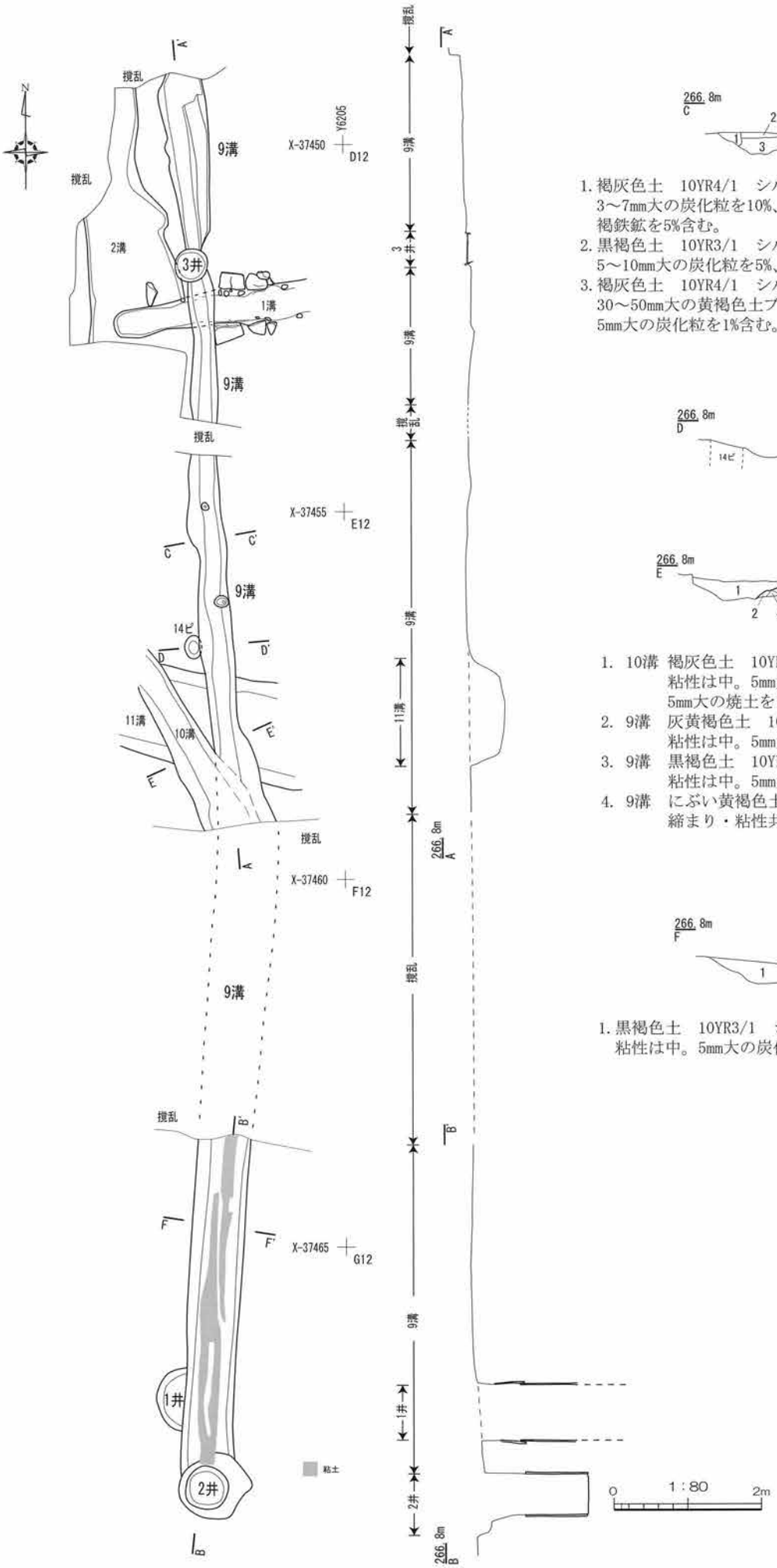
2号井戸（図67・71～73）

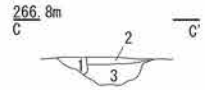
Ｇ11グリッドに位置する。長さ0.7ｍ、幅0.7ｍ、深さ1.4ｍである。平面形は円形で底のある桶が埋められている。桶は口径0.7ｍ、底径0.8ｍ、深さ0.9ｍである。桶の底板は竹釘で連結されていた。底がある桶だが1号井戸の底なしの桶と同様に口径より底径が大きく、土圧に耐える構造になっている。上水を引き込み桶に貯める井戸である。上水は敷地北側から9号溝を通して引き込まれ、途中で3号井戸を経由して2号井戸まで到達している。

遺物は磁器9点（1～9）、陶器5点（10～14）、土製品1点（15）、木製品7点（16～22）、瓦3点（23～25）を図示した。磁器：1は小坏、2～6・8は丸碗、7は水滴、9は瓶、陶器：10は香炉、11は壺、12は土瓶、13は擂鉢、14は灯明受付皿である。土製品：15は箱庭道具である。木製品：16は角材、17は曲物底、18～22は板材である。瓦：23は軒桟瓦、24は桟瓦である。24の側面には丸の刻印がある。25はなまこ壁と思われる。

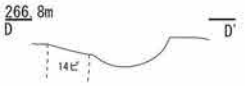
3号井戸（図67・74～75）

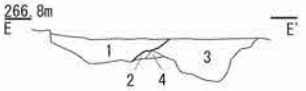
Ｄ11グリッドに位置する。長さ0.4ｍ、幅0.4ｍ、深さ0.2ｍである。平面形は円形で胴部に口のある桶が埋められている。9号溝を通して北側から取水し、南側へ出水している。桶胴部の残存状況は良好とは言えず、取水部の状況は確認できていない。南側の出水部は桶胴部に四角い口が設けられて





1. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。3～7mm大の炭化粒を10%、5mm大の焼土粒を1%、褐鉄鉱を5%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。5～10mm大の炭化粒を5%、5mm大の焼土粒を1%含む。
3. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。30～50mm大の黄褐色土ブロックを30～50mm大を40%、5mm大の炭化粒を1%含む。





1. 10溝　褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。5mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土を1%含む。
2. 9溝　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。5mm大の焼土を1%含む。
3. 9溝　黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を含む。
4. 9溝　にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり・粘性共に強い。

1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を5%含む。

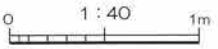


図67　1号・2号・3号井戸・9号溝

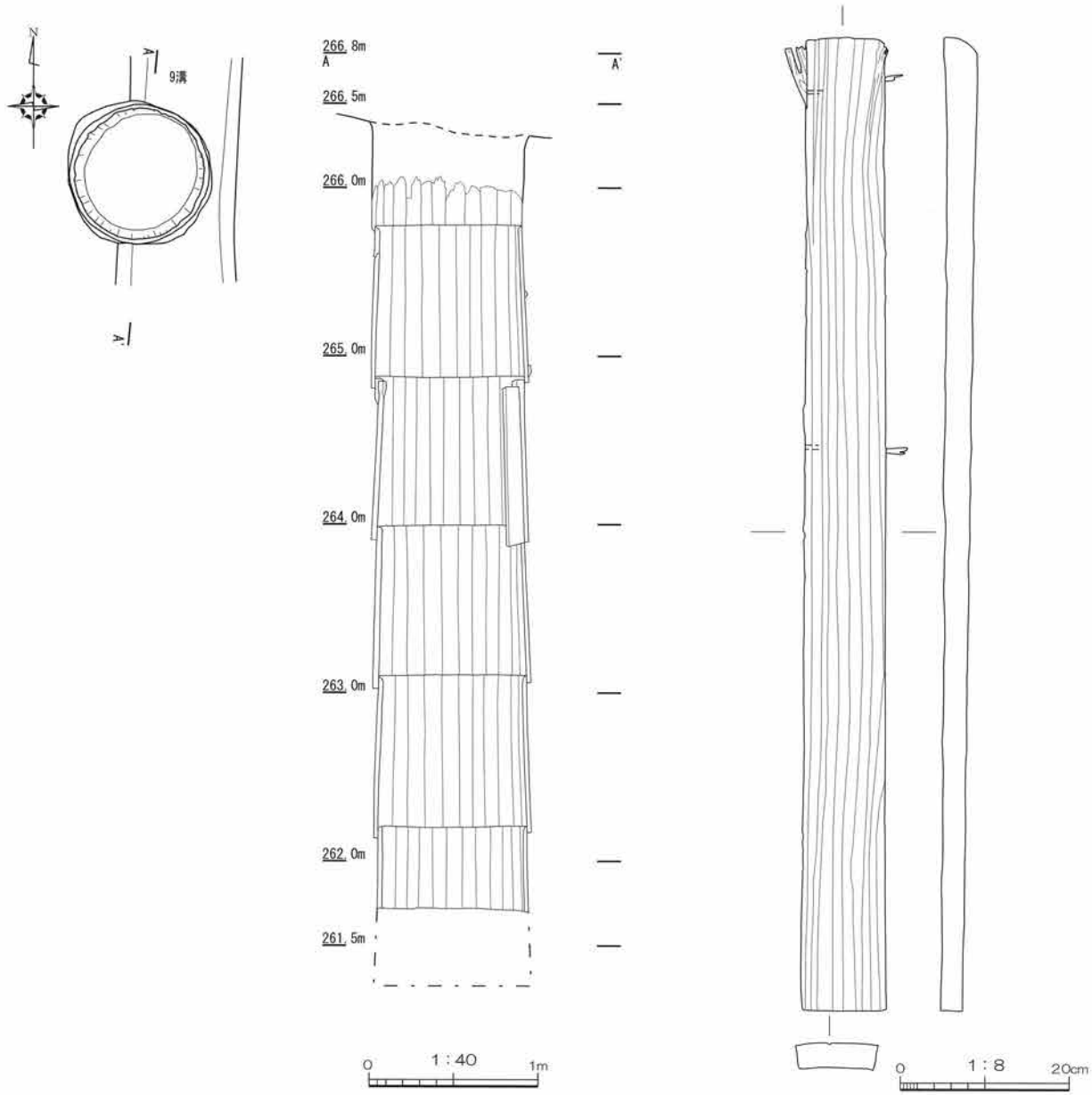


図 68　1号井戸

写真 69　1号井戸　東から

写真 70　1号井戸　西から

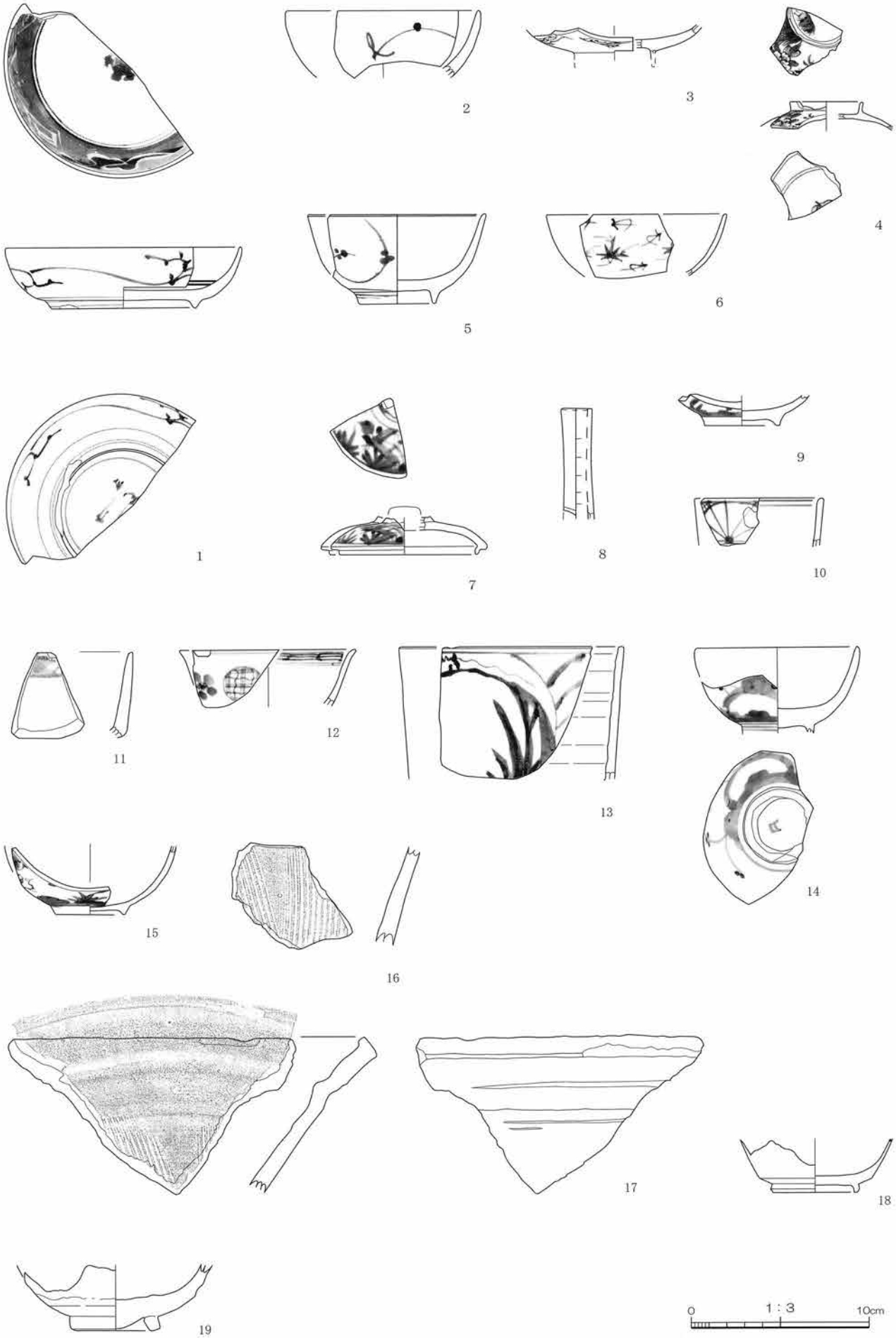
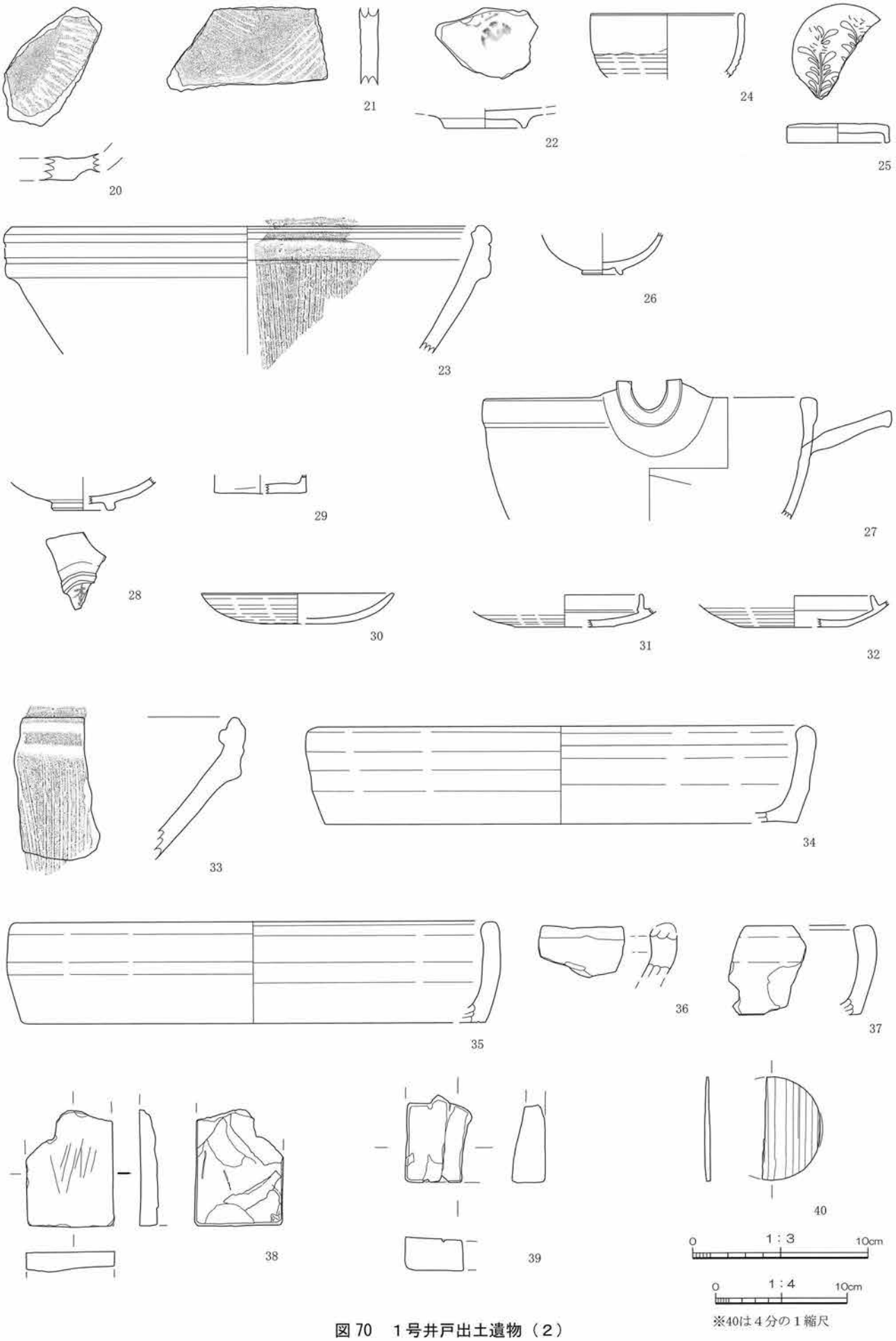


図 69　1号井戸出土遺物（1）



※40は４分の１縮尺

図 70　１号井戸出土遺物（２）

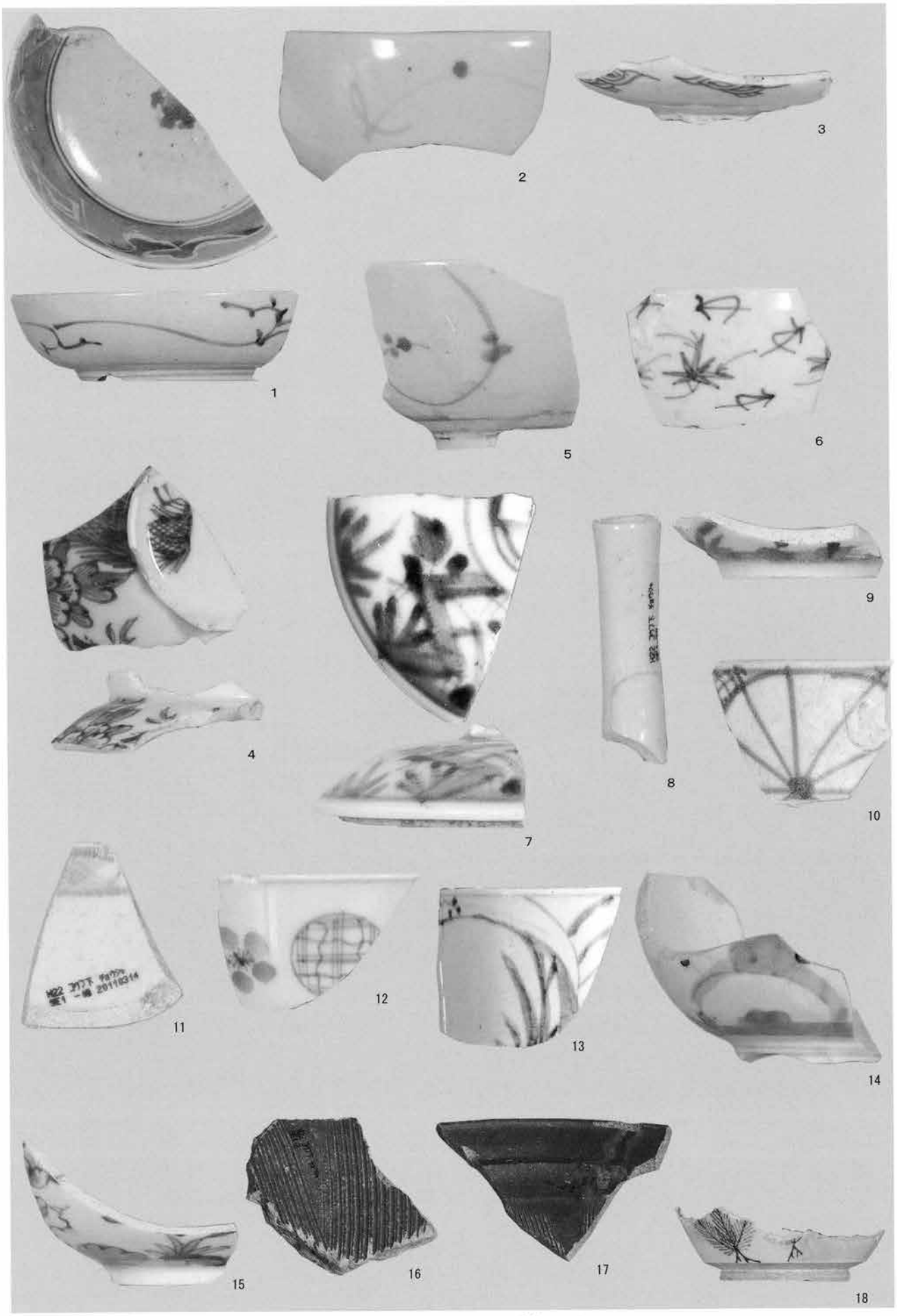


写真 71　1号井戸出土遺物（1）

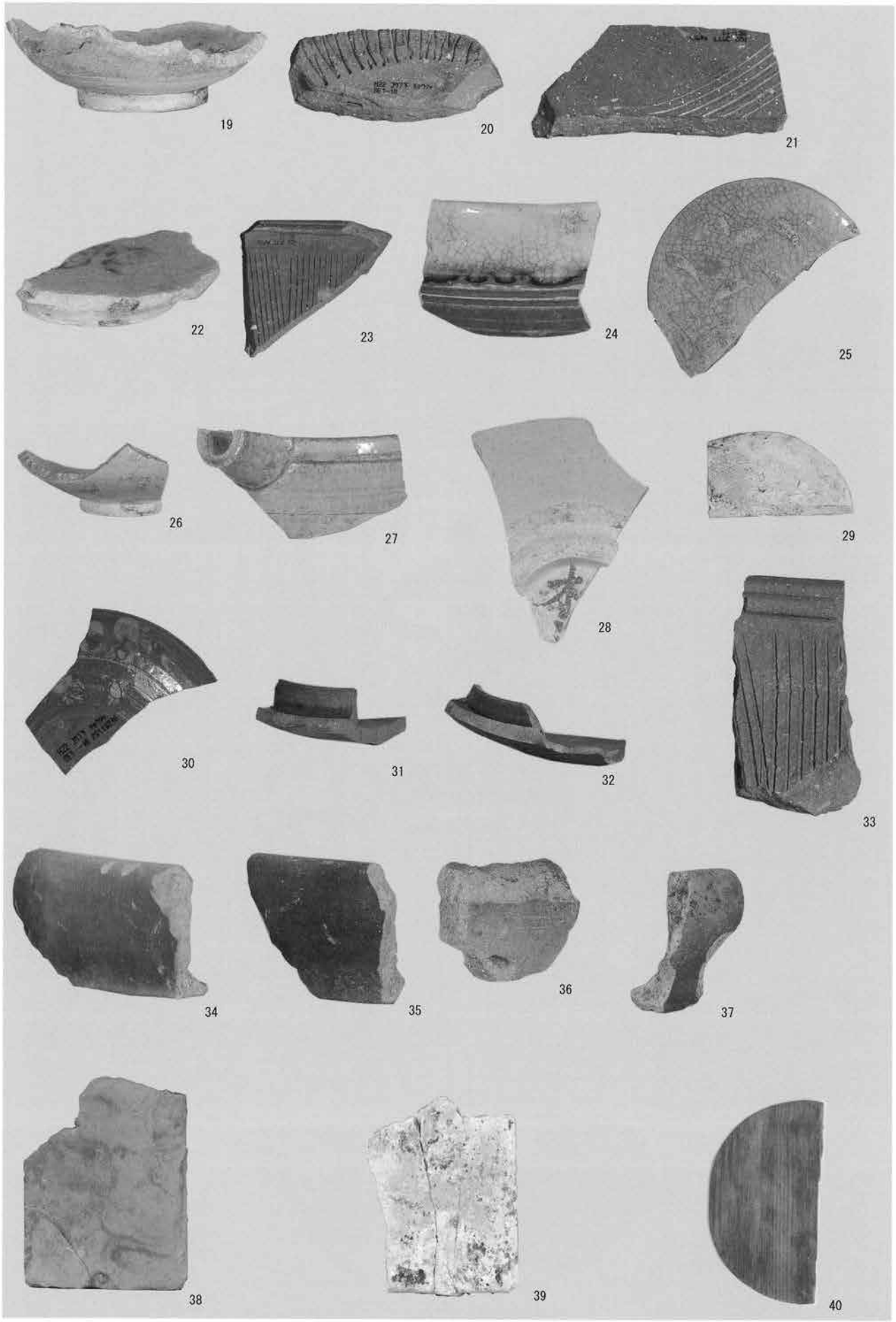


写真 72　1号井戸出土遺物（2）

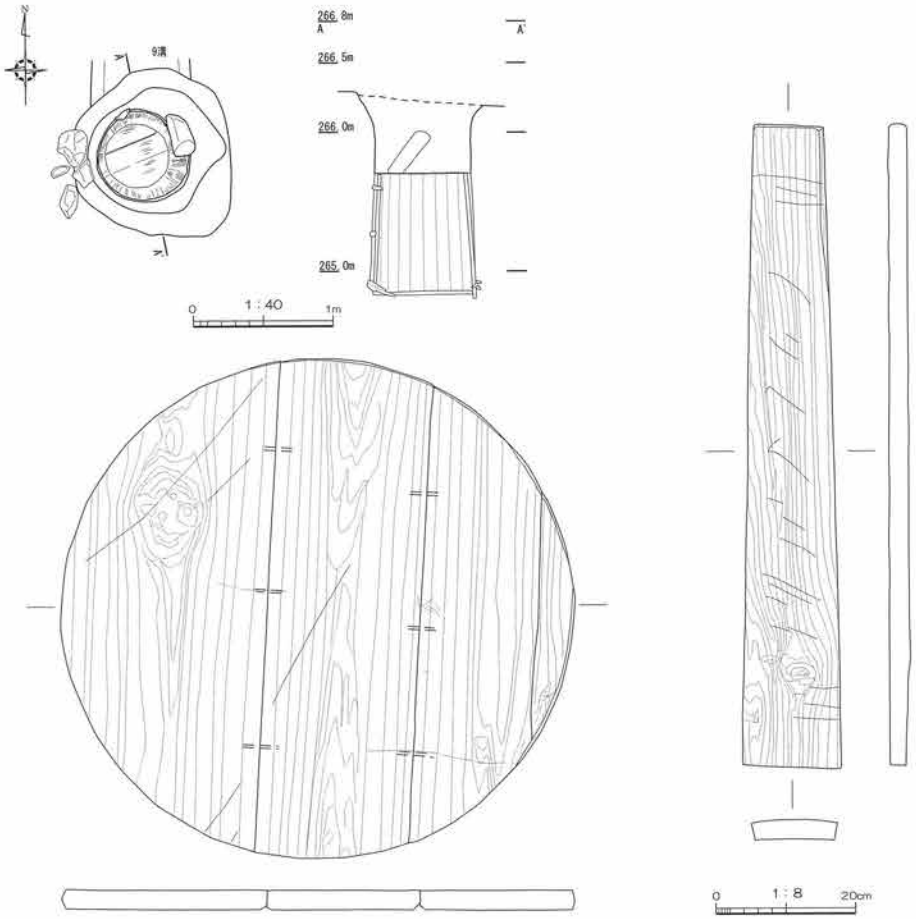


図 71　２号井戸

写真 73　２号井戸完掘状況　西から

写真 74　２号井戸　西から

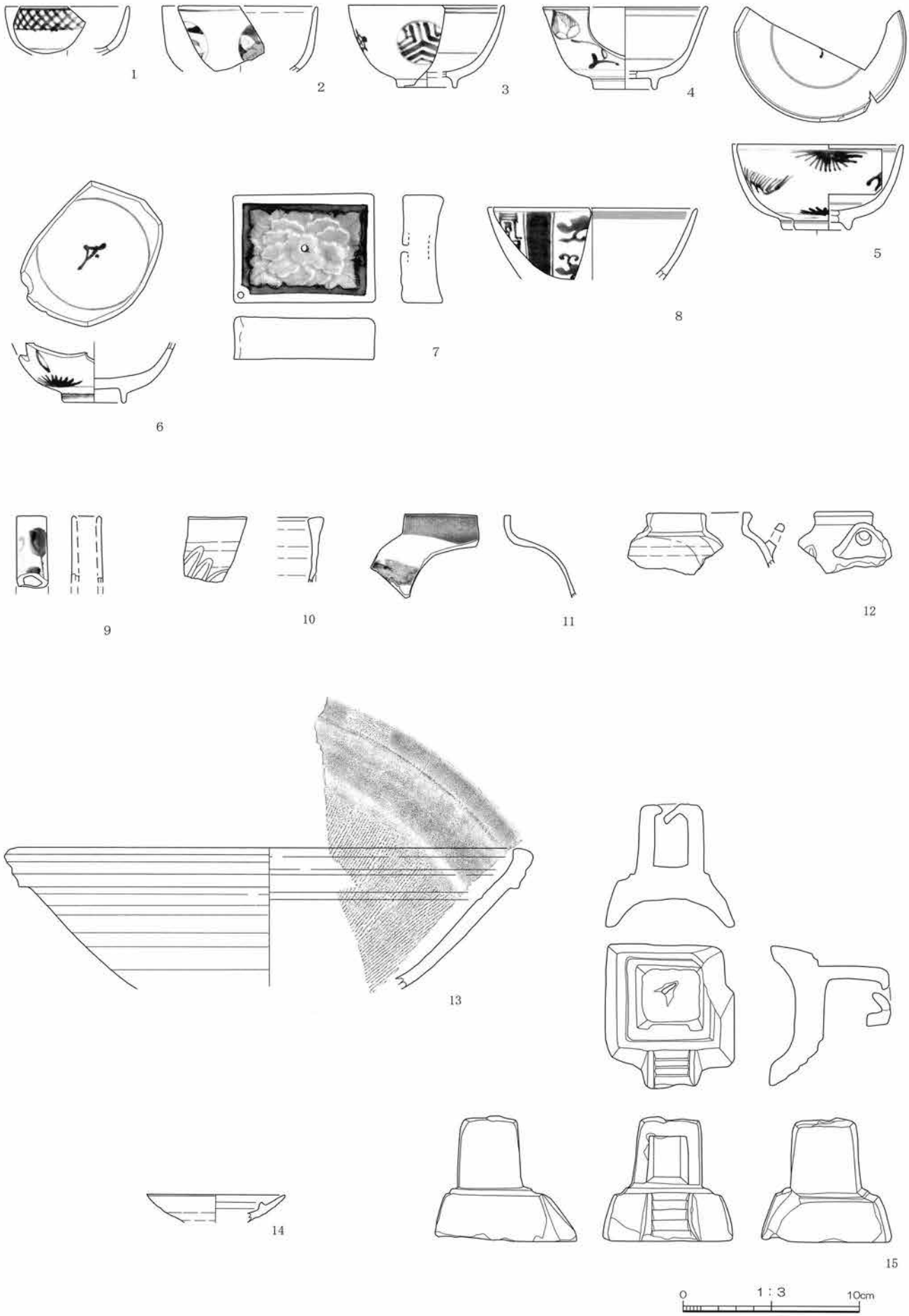


図 72　２号井戸出土遺物（１）

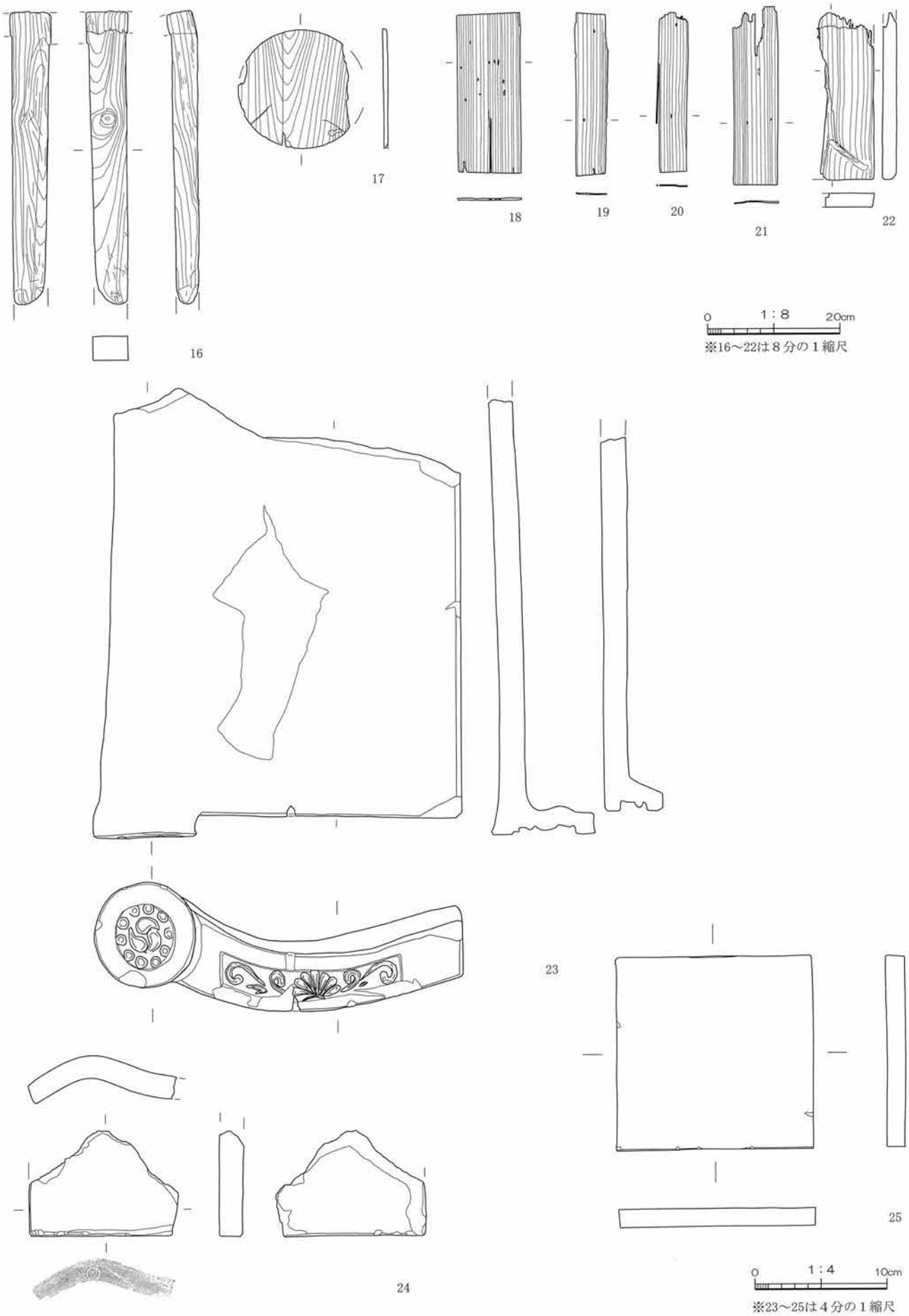


図 73　２号井戸出土遺物（２）

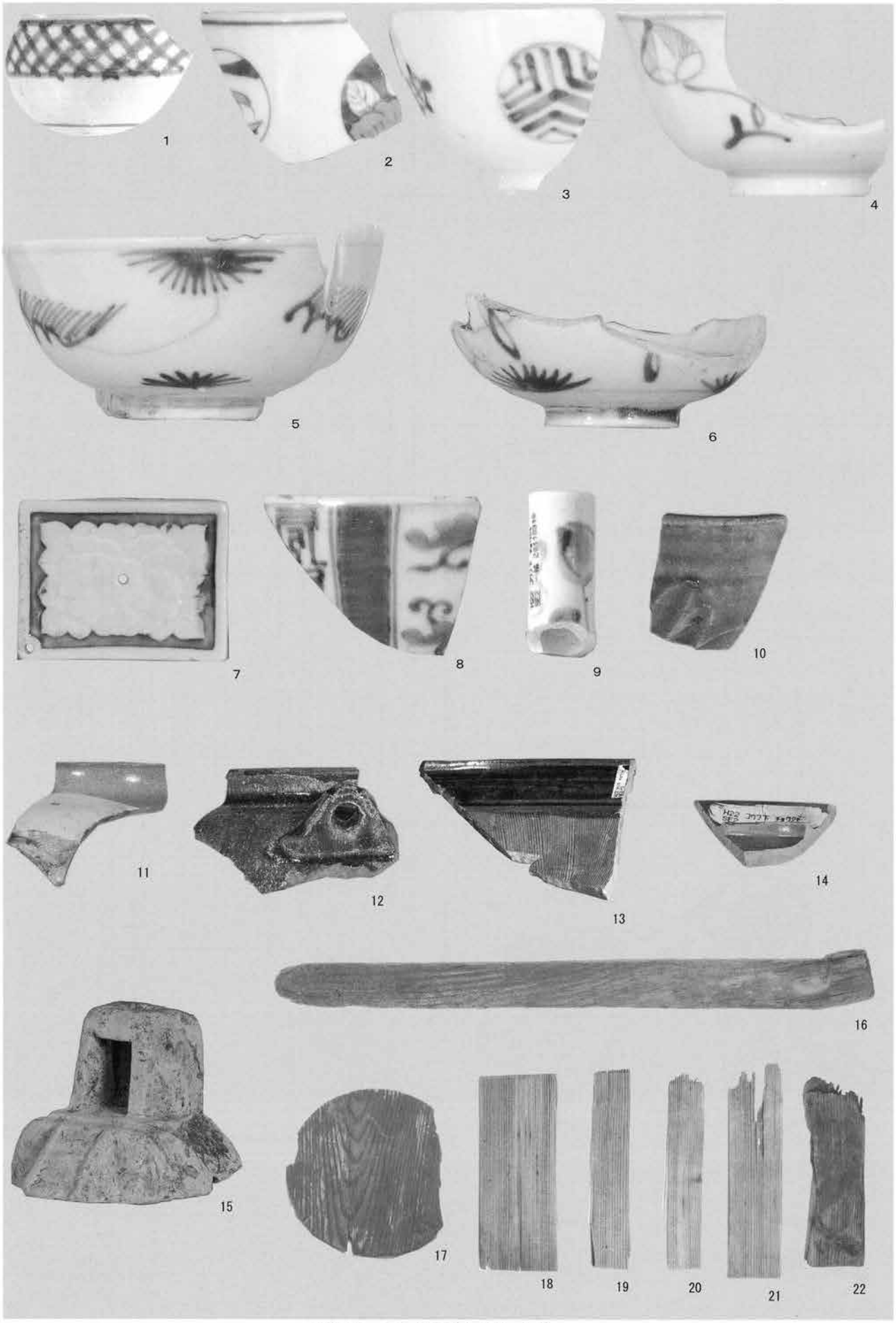


写真 75　２号井戸出土遺物（１）

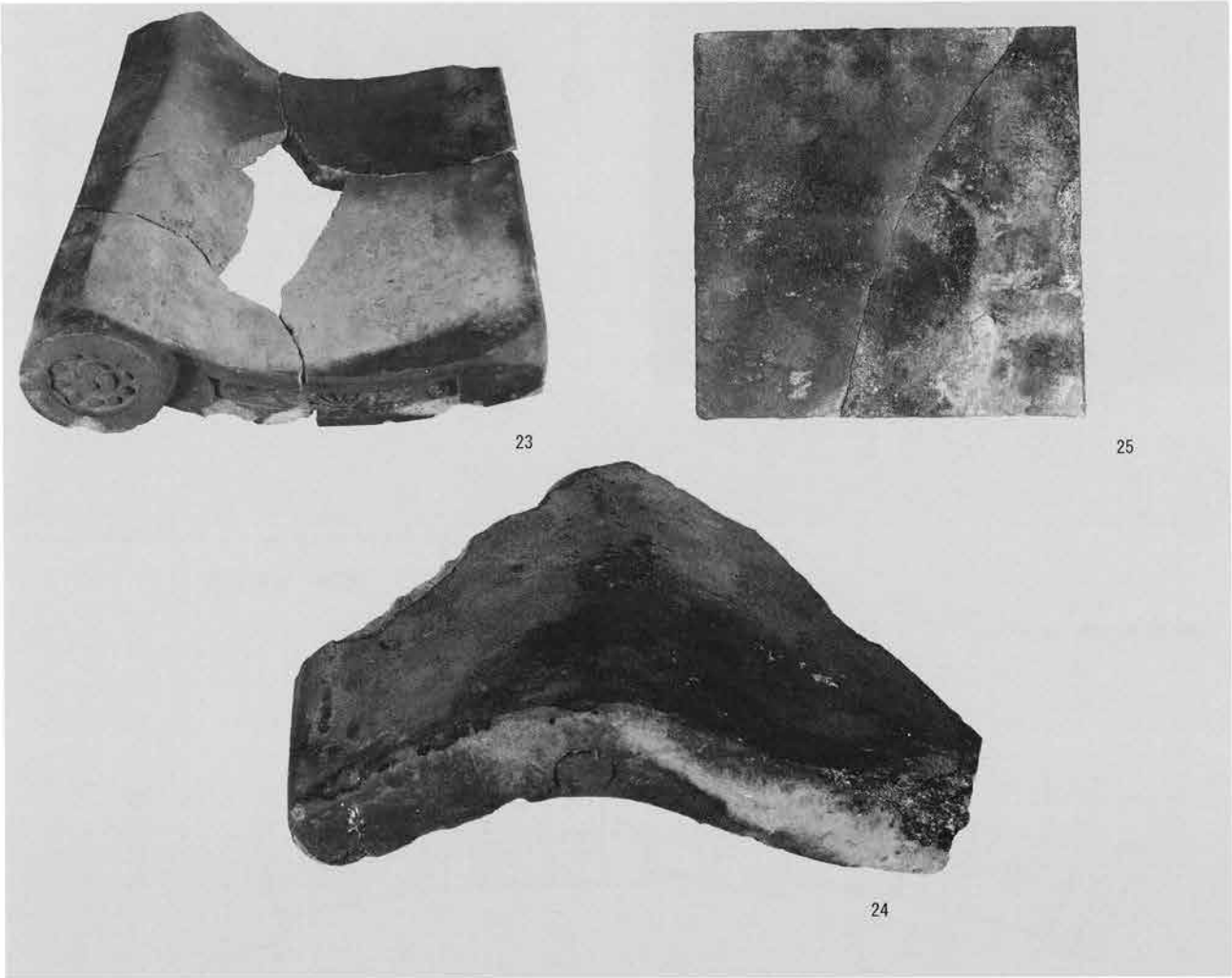


写真 76　２号井戸出土遺物（２）

写真 77　3号井戸完掘状況　東から

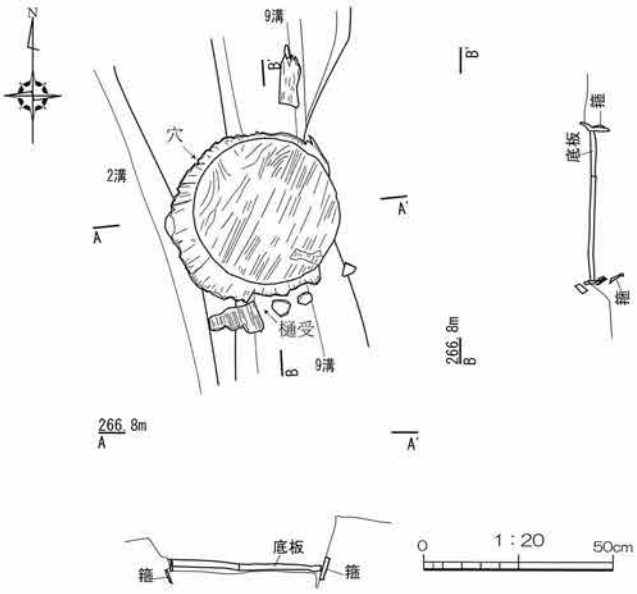
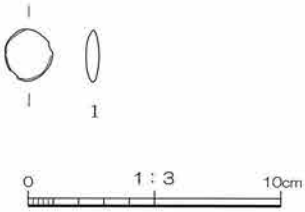
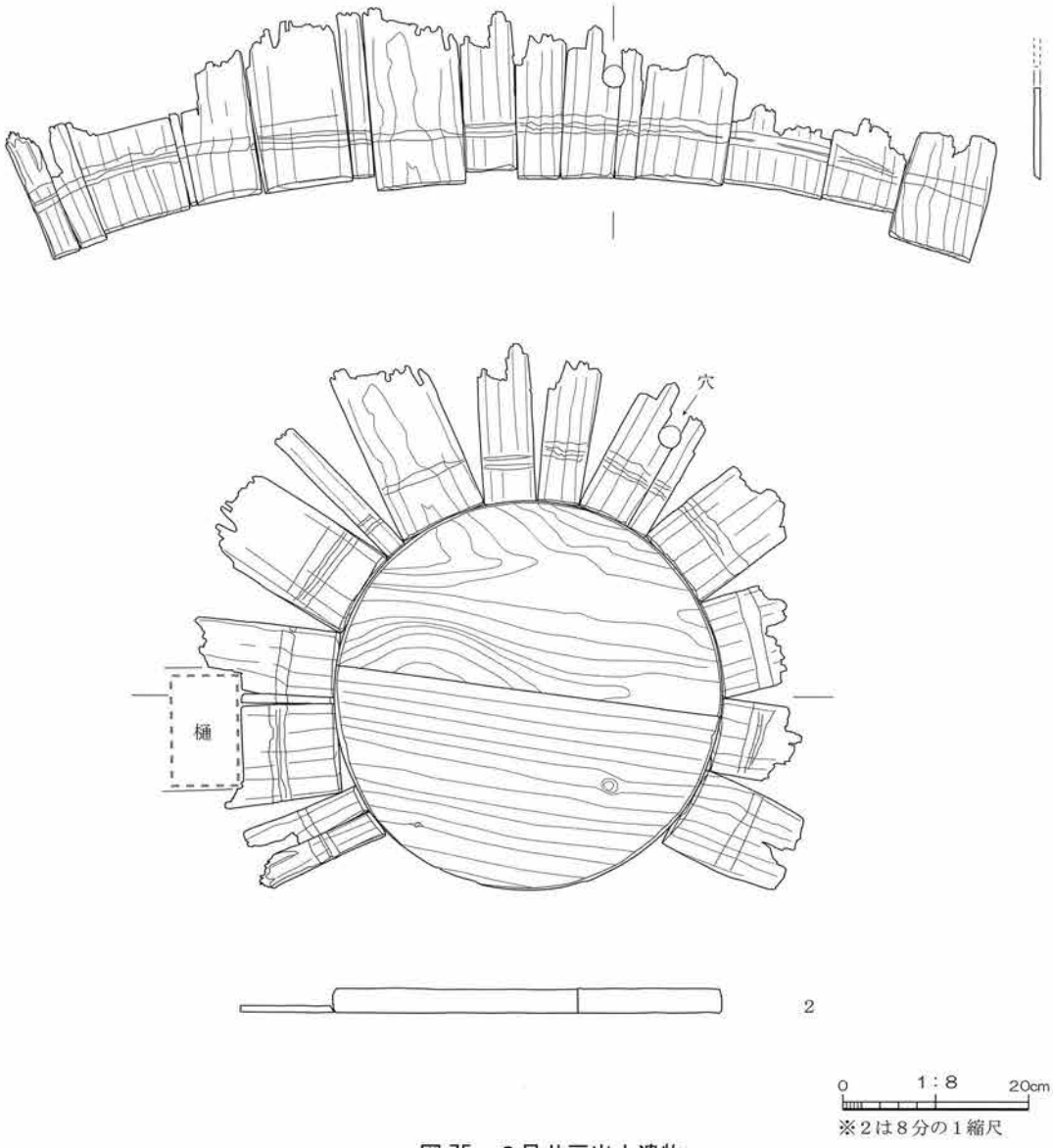


図 74　3号井戸





※2は8分の1縮尺

図 75　3号井戸出土遺物

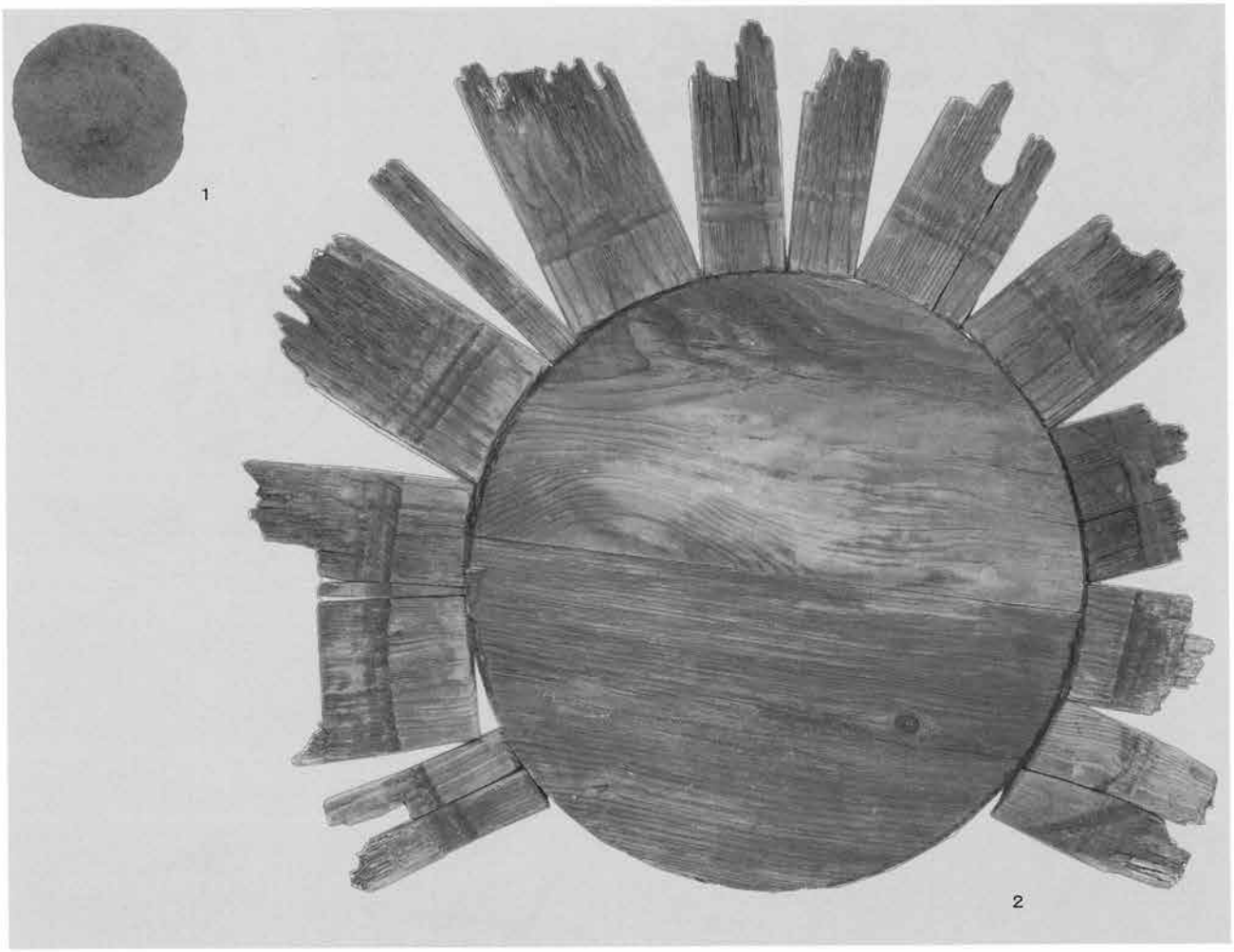


写真 78　３号井戸出土遺物

写真 79　３号井戸　東から

写真 80　３号井戸・９号溝　東から

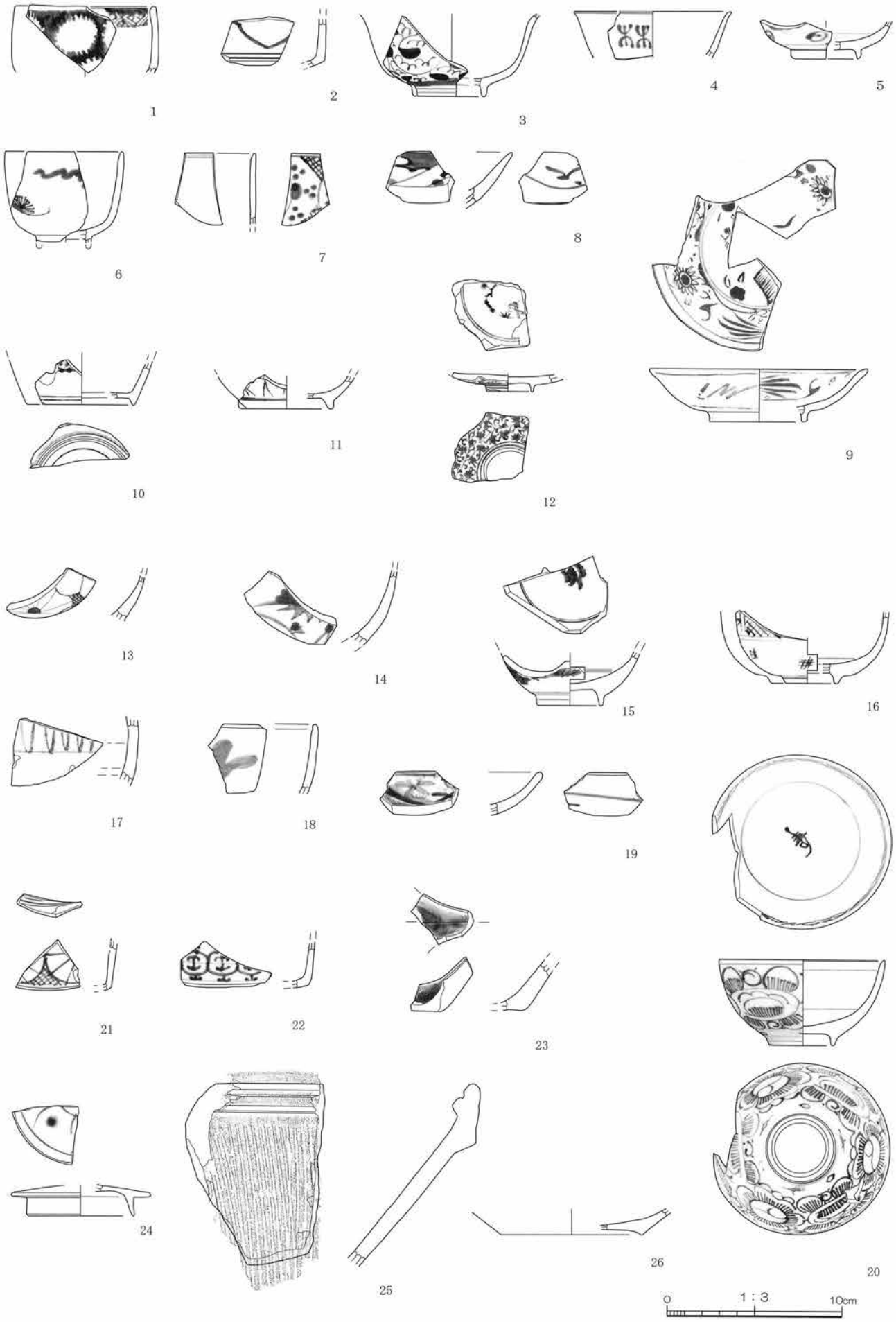


図 76　9号溝出土遺物（1）

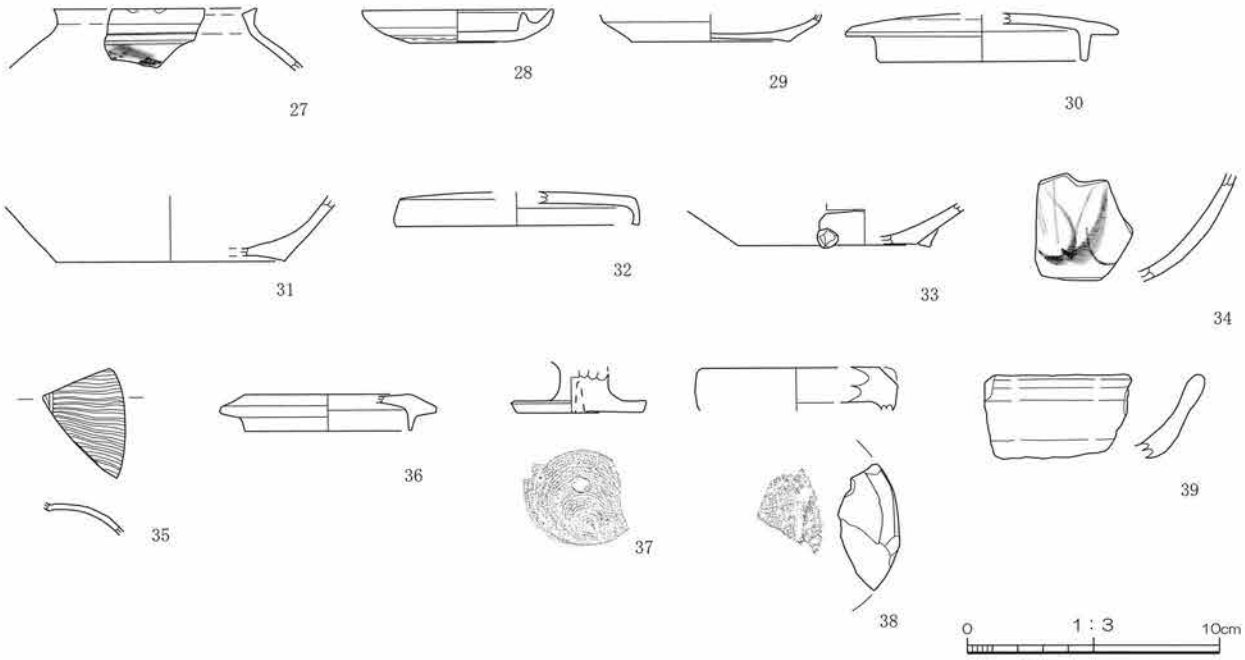


図 77　９号溝出土遺物（２）

写真 81　９号溝粘土出土状況　東から

写真 82　９号溝完掘状況　北から

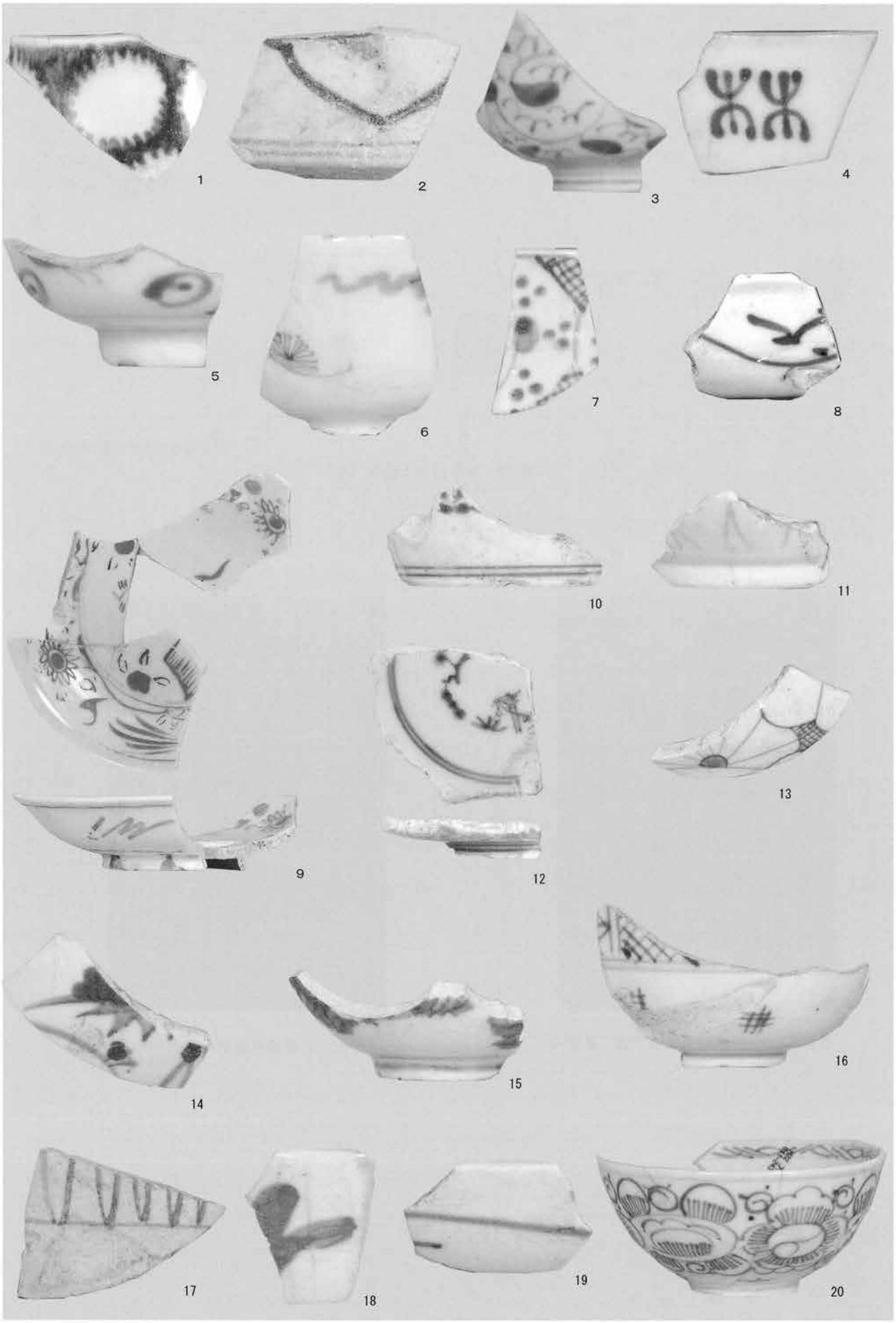


写真 83　９号溝出土遺物（１）

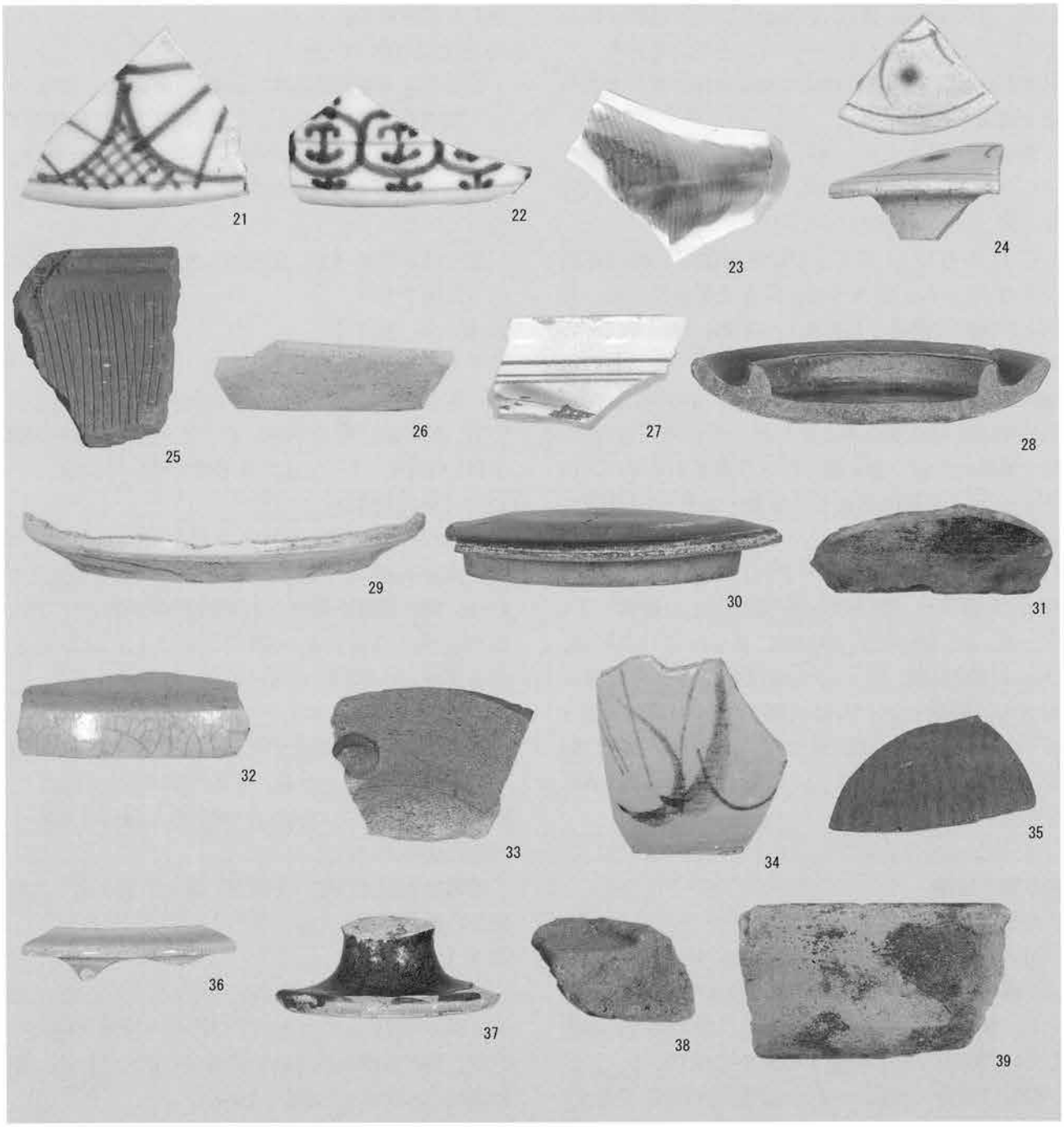


写真 84　９号溝出土遺物（２）

いた。また西側に直径2.5㎝ほどの穴が開けられていた。この穴が３号井戸の蛇口と考えられる。３号井戸には水をためる機能はなく水道の蛇口であったと考えられる。

遺物は土製品１点（１）、木製品１点（２）を図示した。土製品：１は碁石、木製品：２は桶である。

９号溝（図67・76・77）

Ｃ11からＤ11グリッドに位置する。検出範囲で長さ19.2ｍ、幅0.6ｍ、深さ0.2ｍである。北側と中間部は撹乱され消失している。他の遺構との共伴関係は９号溝が３号井戸を経由して２号井戸に接続している。９号溝底面では粘土が検出された。溝に粘土を貼り樋を通していたものと考えられる。他の遺構との切り合い関係は９号溝が１号井戸、14号ピット、11号溝を切り、１号・２号・10号溝に切られている。

遺物は磁器23点（１～23）、陶器14点（24～37）、土器２点（38・39）を図示した。磁器：１、５～８、11、13～18、20は碗、２・21・22は筒形碗、３・４は端反碗、９・12・19は皿、10は蕎麦猪口である。陶器：24・30は土瓶蓋、25は擂鉢、26・27・31・33は土瓶、32・36は蓋、34は碗、35は壺、37は秉燭である。土器：38は焼塩壺蓋、39は焙烙である。

第５節　埋桶

７号土坑（図78・80）

Ｈ４グリッドに位置する。長さ0.45ｍ、幅0.45ｍ、深さ0.43ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底は検出されなかった。他の遺構との切り合い関係は７号土坑が１号池を切っている。

遺物は銭貨４点（１～４）、木製品（５）を図示した。銭貨：１～４は寛永通宝、木製品：５は検出した桶である。

８号土坑（図78・80）

Ｉ４グリッドに位置する。長さ0.34ｍ、幅0.30ｍ、深さ0.13ｍである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係はない。

遺物は木製品（１）を図示した。木製品：１は検出した桶である。

９号土坑（図78・80）

Ｉ４グリッドに位置する。長さ0.48ｍ、幅0.47ｍ、深さ0.25ｍである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係はない。

遺物は木製品（１）を図示した。木製品：１は検出した桶である。

10号土坑（図78・80）

Ｈ４グリッドに位置する。長さ0.48ｍ、幅0.48ｍ、深さ0.10ｍである。平面円形の埋桶を据えている。底が浅く桶胴部の残存状況は良くなかった。他の遺構との切り合い関係は10号土坑が１号池を切っている。

遺物は木製品（１）を図示した。木製品：１は検出した桶である。

11号土坑（図78）

Ｉ８グリッドに位置する。長さ0.47ｍ、幅0.45ｍ、深さ0.20ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底は腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は11号土坑が７号溝を切っている。

12号土坑（図78）

Ｈ14グリッドに位置する。長さ0.55ｍ、幅0.43ｍ、深さ0.50ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は12号土坑が37号土坑を切っている。

13号土坑（図79・81）

Ｉ５グリッドに位置する。長さ0.53ｍ、幅0.51ｍ、深さ0.35ｍである。平面円形の埋桶を据えている。他の遺構との切り合い関係は13号土坑が１号池を切っている。

遺物は木製品（１）を図示した。木製品：１は検出した桶である。

25号土坑（図79）

Ｅ11グリッドに位置する。長さ0.64ｍ、幅0.58ｍ、深さ0.10ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係はない。

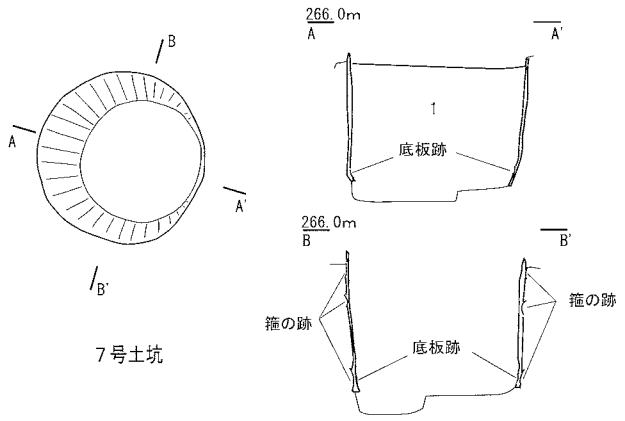
32号土坑（図79・81）

Ｈ14グリッドに位置する。長さ0.53ｍ、幅0.50ｍ、深さ0.30ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食が進んでいた。他の遺構との切り合い関係は32号土坑が33号土坑を切っている。

遺物は銭貨４点（１～３）を図示した。銭貨：１は寛永通宝、２は文久永宝、３は寛永通宝四文銭である。

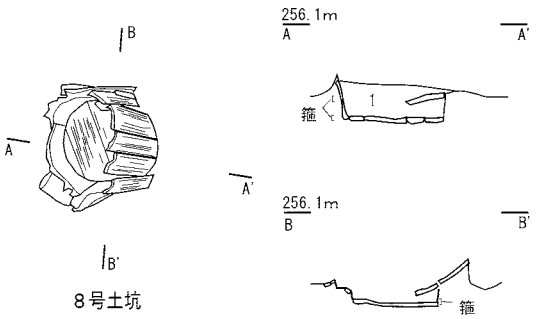
34号土坑（図79・81）

Ｇ12グリッドに位置する。長さ0.45ｍ、幅0.29ｍ、深さ0.40ｍである。平面円形の埋桶を据えている。桶の底が検出されたが腐食が進んでいた。他



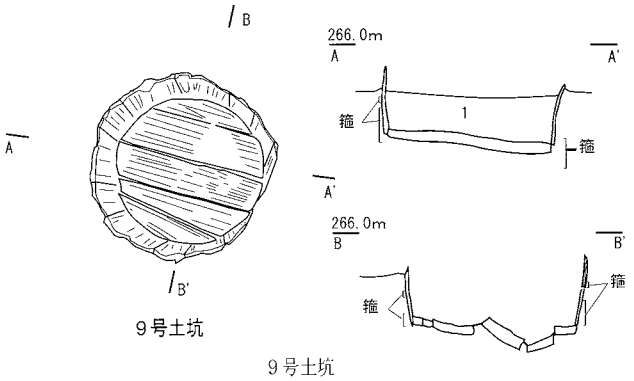
7号土坑

7号土坑
1. 褐灰色 10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。



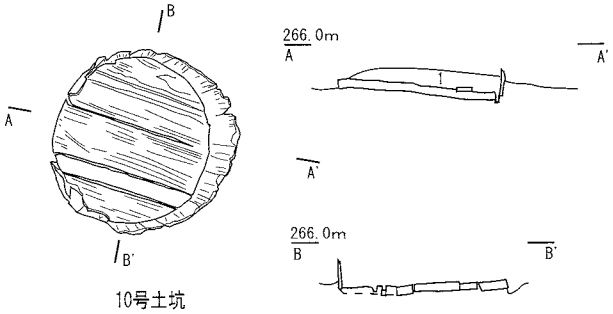
8号土坑

8号土坑
1. 褐灰色 10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。



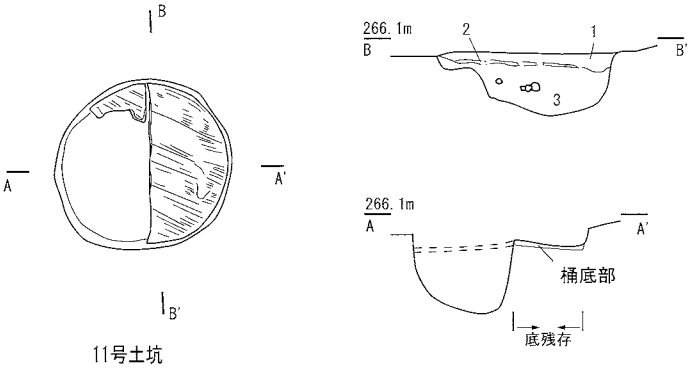
9号土坑

9号土坑
1. 褐灰色 10YR5/1　シルト　締まり弱い。



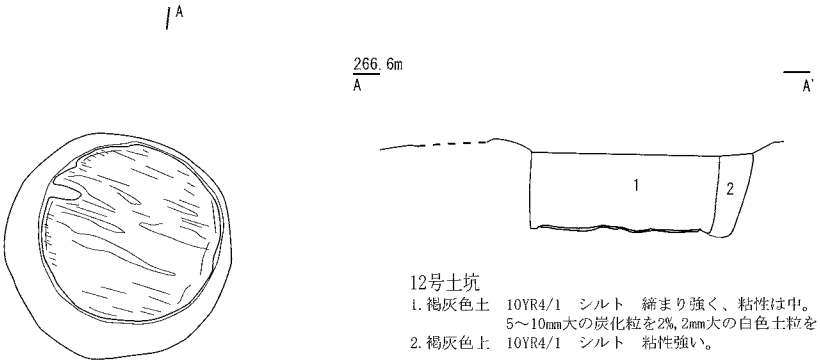
10号土坑

10号土坑
1. 黒褐色 10YR3/1　シルト　締まり弱い。



11号土坑

11号土坑
1. 褐灰色 10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。
2. 木（桶底部）
3. 褐灰色　10YR4/1　シルト　締まり・粘性共に中。



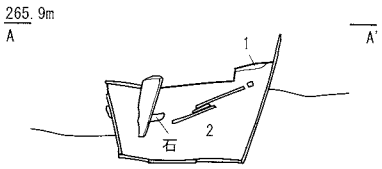
12号土坑

12号土坑
1. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　5～10mm大の炭化粒を2%, 2mm大の白色土粒を10%含む。
2. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　粘性強い。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

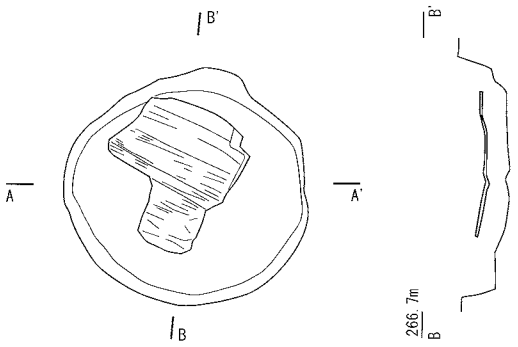
図 78　埋桶（1）

13号土坑

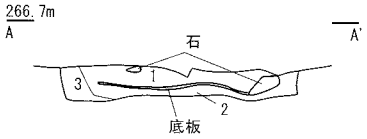


13号土坑

1.褐灰色　10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性無し。
2.黒褐色土　10TR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。

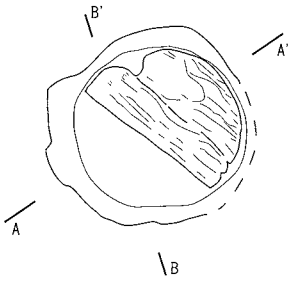


25号土坑

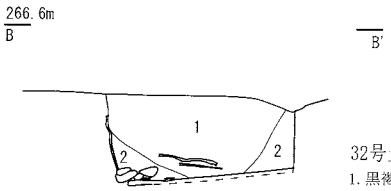


25号土坑

1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い。
2.暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まりは中、粘性は強い。
3.褐灰色土　10YR5/1　シルト　締まり弱く、粘性なし。

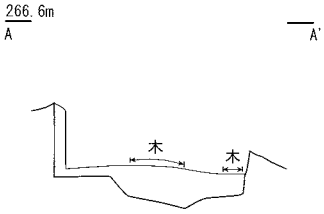


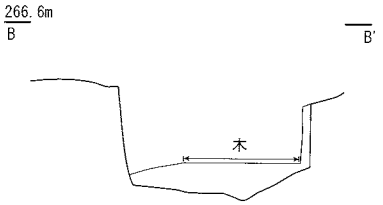
32号土坑

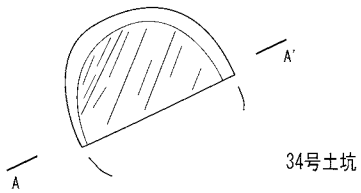


32号土坑

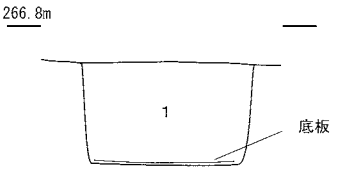
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり中、粘性無し。
2.黒褐色土　10TR3/1　シルト　粘性なし。





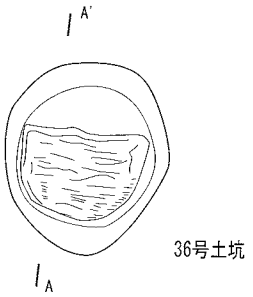


34号土坑

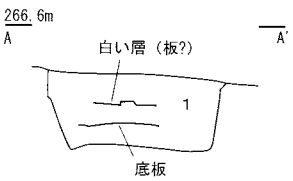


34号土坑

1.10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は強い

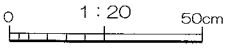


36号土坑



36号土坑

1.10YR3/1　シルト
締まりは中、粘性は強い。

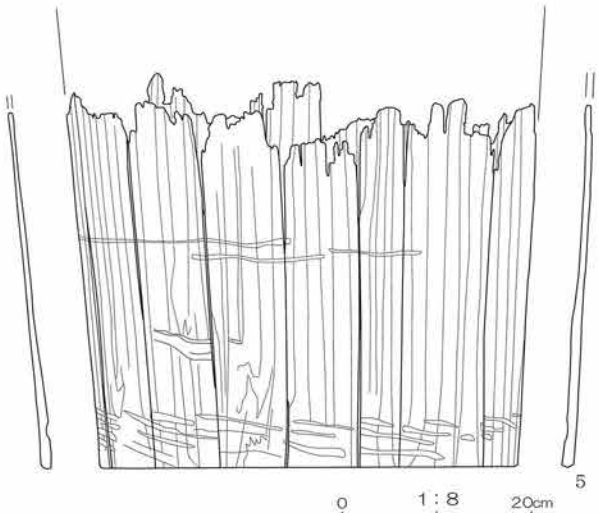


※平面図北向き

図 79　埋桶（2）

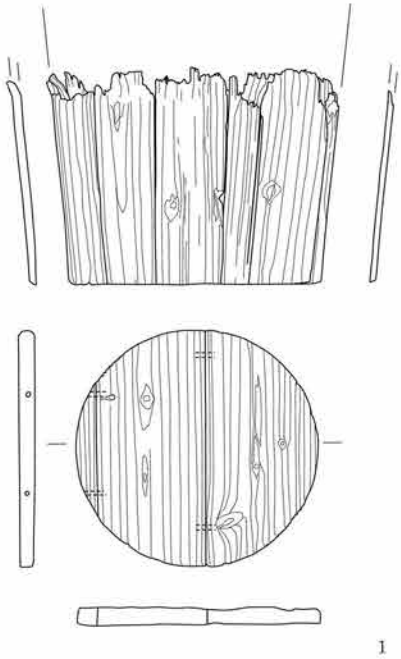
7号土坑

※1～4は3分の2縮尺



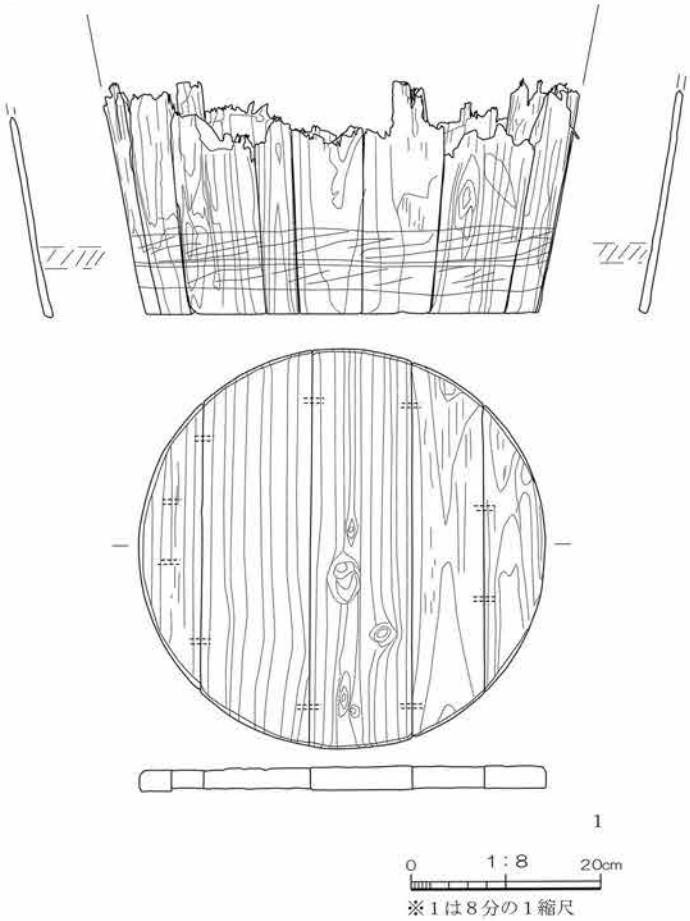
※5は8分の1縮尺

8号土坑



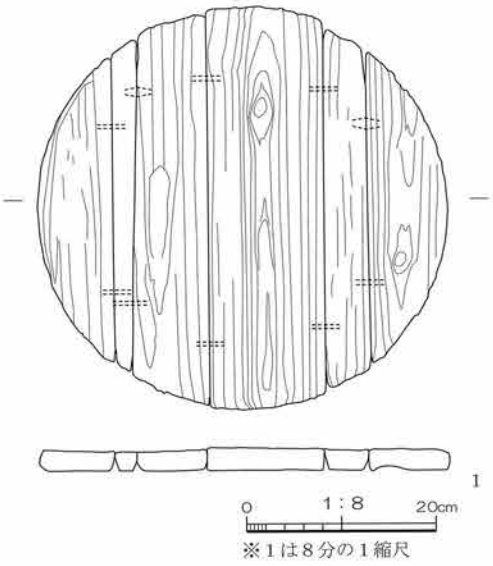
※1は8分の1縮尺

9号土坑



※1は8分の1縮尺

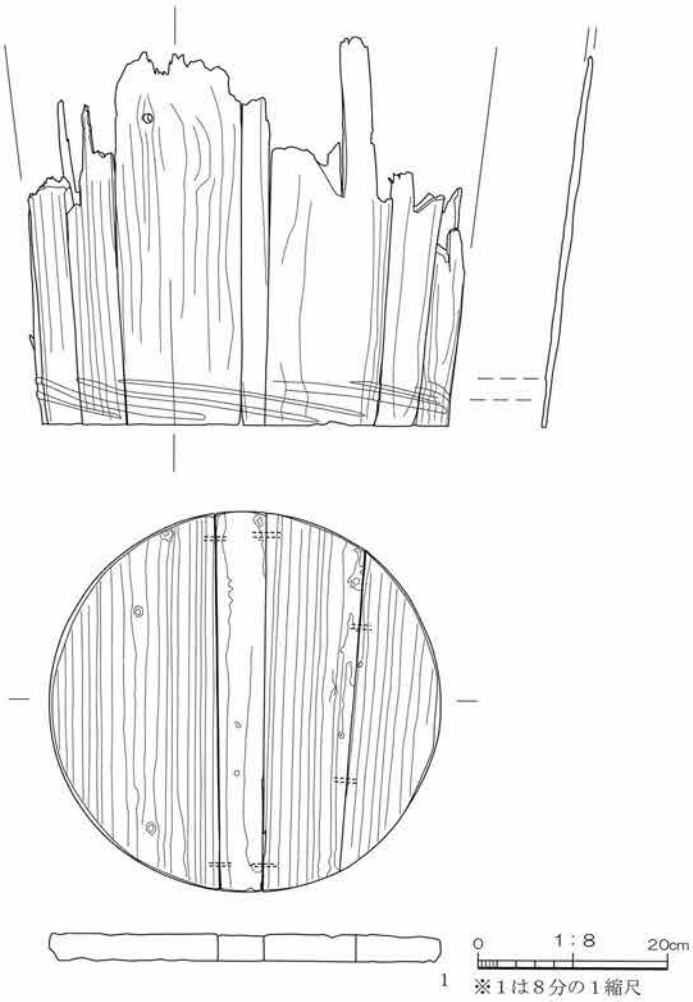
10号土坑



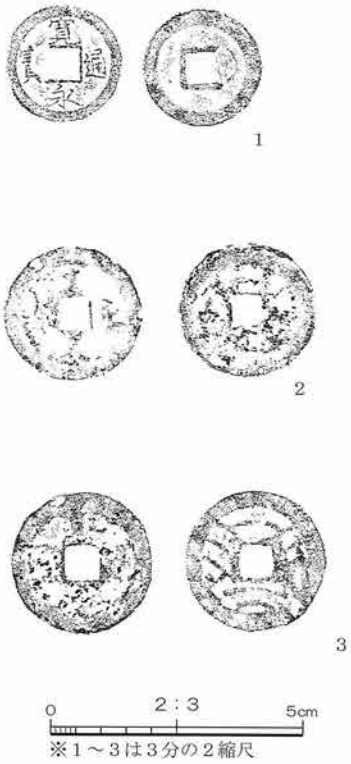
※1は8分の1縮尺

図80　埋桶出土遺物（1）

13号土坑



32号土坑



34号土坑

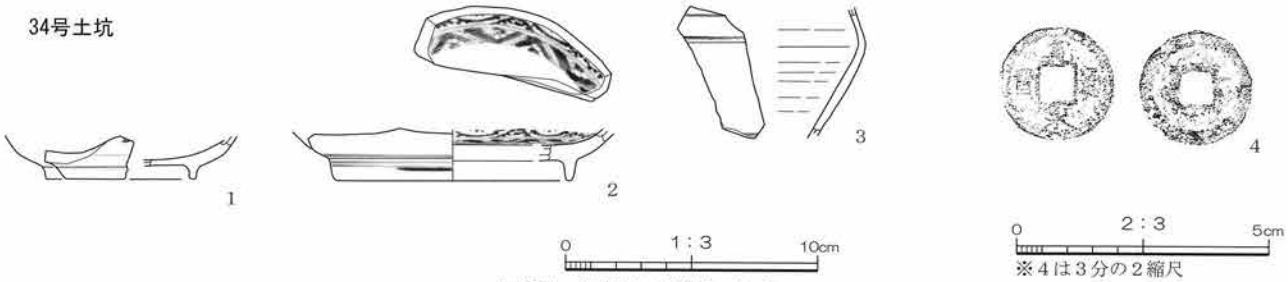
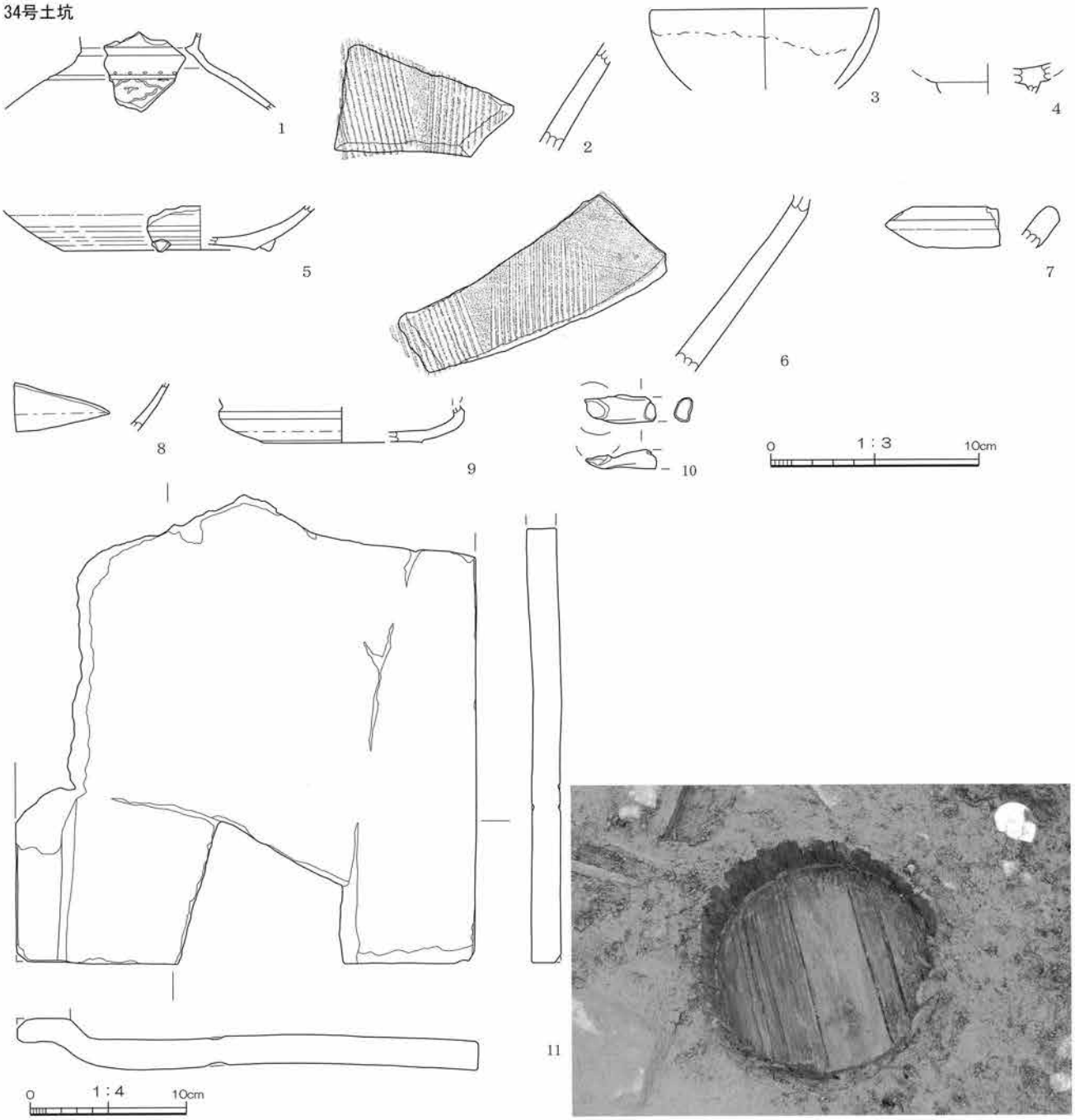


図81　埋桶出土遺物（2）

写真85　7号土坑完掘状況　東から

写真86　8号土坑完掘状況　西から

34号土坑



※11は4分の1縮尺

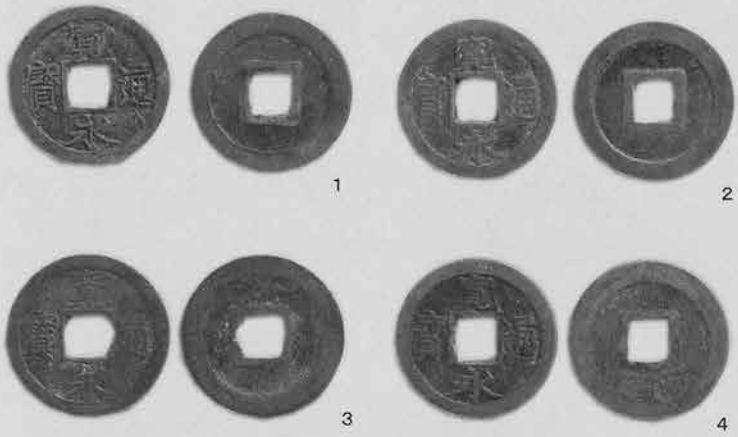
図82　埋桶出土遺物（3）

写真88　10号土坑完掘状況　西から

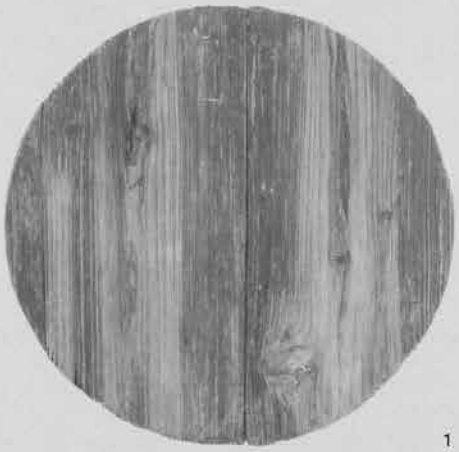
写真87　9号土坑完掘状況　東から

写真89　13号土坑完掘状況　北から

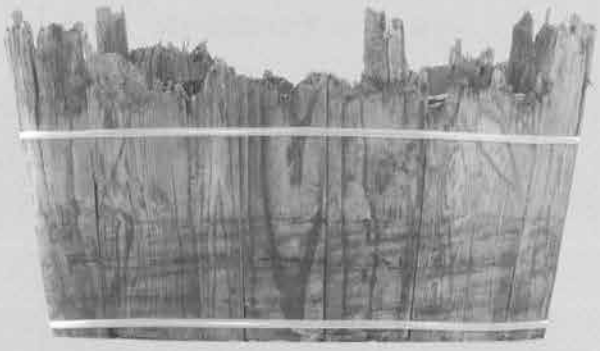
7号土坑



8号土坑



9号土坑



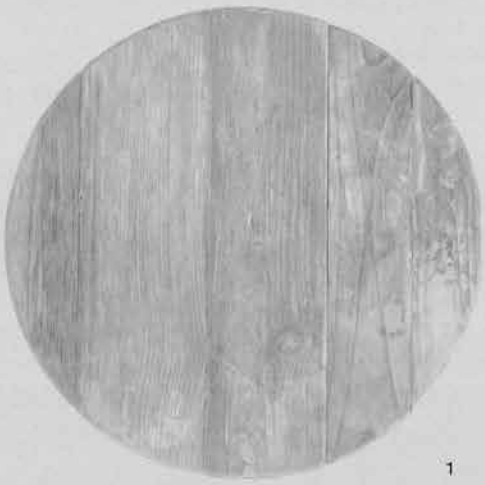
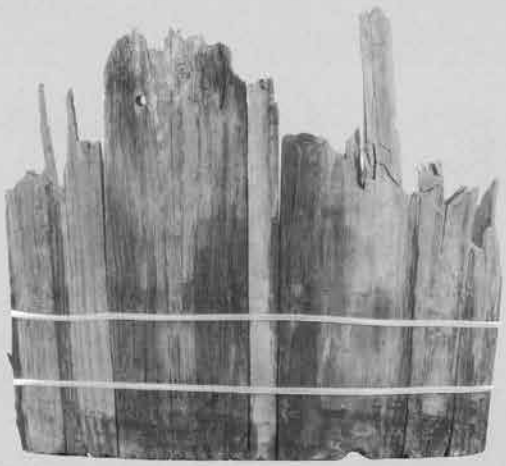


写真 90　埋桶出土遺物（1）

10号土坑

1

13号土坑



1

32号土坑

1

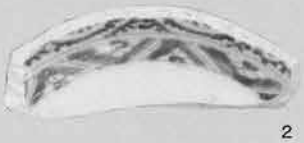
2

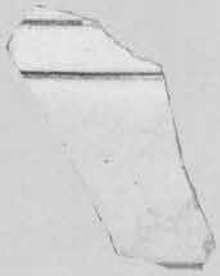
3

写真 91　埋桶出土遺物（2）

34号土坑

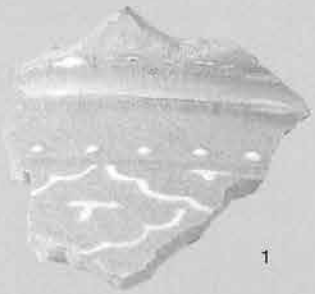
1

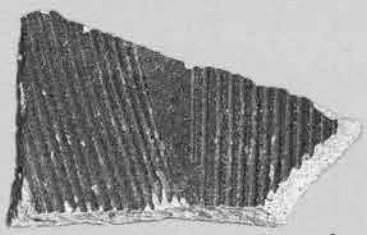

2


3

4

36号土坑

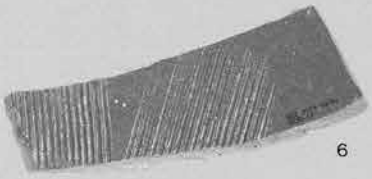

1


2

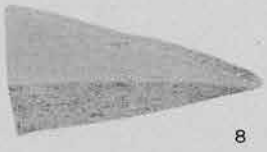
3

4

5


6

7


8

9

11

10

写真 92　埋桶出土遺物（3）

の遺構との切り合い関係はない。

遺物は磁器２点（１・２）、陶器１点（３）、銭貨１点（４）を図示した。磁器：１は丸碗、２は皿である。陶器：３は土瓶、銭貨：４は寛永通宝である。

36 号土坑（図 79）

H14 グリッドに位置する。長さ 0.51 m、幅 0.48 m、深さ 0.22 である。平面円形の埋桶を据えている。桶の胴底が検出されたが腐食してが進んでいた。他の遺構との切り合い関係は 36 号土坑が 37 号土坑を切っている。

第６節　池

１．１号池（図 83 ～ 102）

Ｇ３からＩ７グリッドに位置する。検出範囲で南北 5.6 m、東西 20.4 mである。南側と西側は撹乱され消失している。平面形は東西に延びるひょうたん形でくびれ部を持つ。東側の池内部には中島がある。池と中島の縁辺には杭が打たれ土留め板が設けられていたと考えられる。池のくびれ部にはより太い杭が並行した杭列をなしており橋が架けられていたもの考えられる。他の遺構との切り合い関係は１号池が県庁 10 号～ 17 号基礎、７号・10 号・13 号・14 号土坑、12 号・54 号・55 号ピットに切られている。

遺物は磁器 58 点（１～ 58）、陶器 49 点（59 ～ 107）、土器 38 点（108 ～ 145）、石製品２点（146・147）、金属製品 17 点（148 ～ 165）、銭貨 10 点（166 ～ 175）、木製品 246 点（176 ～ 421）、瓦８点（422 ～ 429）を図示した。磁器は丸碗、端反碗、蕎麦猪口５、小坏、仏飯器９、瓶、皿、蓋、油壺 37 などである。陶器は碗、小坏、擂鉢、壺、三島手大皿 69、小皿、灯明受付皿、瓶、呉器手碗 76、香炉 90、蓋、甕、馬の目皿 100 などである。土器は小皿、焼塩壺 113、焙烙、灯明皿 130、火鉢 141 である。石製品は硯 146・147、金属製品は金具、火箸 149、飾り、釘、鳶口 155、煙管雁首、煙管吸口 161、である。銭貨は寛永通宝、寛永通宝文銭 172 である。木製品は曲物底、樽蓋、継手を持つ角材、手鏡枠 183・184、手桶 182・270・288、下駄 190、桶、楔、羽子板 194、柄杓、柱 217・235、札 195・199、鍬 229、曲物、杭 257、栓の付いた蓋 285、焼印がある蓋 303。漆器椀蓋 304、漆器椀 305 ～ 309、箸 310 ～ 421 である。瓦は軒平瓦 422 ～ 424、軒丸瓦 425 ～ 426、熨斗瓦 427、輪違い 428・430、丸瓦 429 である。

２．２号集石（図 83・84・103）

Ｆ 12 からＪ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ５m、幅 1.7 mである。北側と西側は撹乱され消失している。小石が敷き詰められた中に１条の飛び石列を検出した。飛び石列は長さ 2.5 mである。池の橋に向けられて延びているように思われる。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は小石上面で検出されている。遺物は磁器５点（１～５）、陶器３点（６～８）、土製品１点（９）、銭貨１点（10）を図示した。磁器：１は水滴、２は仏飯器、３は丸碗、４は筒形碗、５は皿である。陶器：６は鍋、７は碗、８は灯明受付皿である。土製品：９は碁石、銭貨：10 は寛永通宝である。

写真 93　１号池完掘状況　南から

写真 94　１号池　西から

写真 95　２号集石　北から

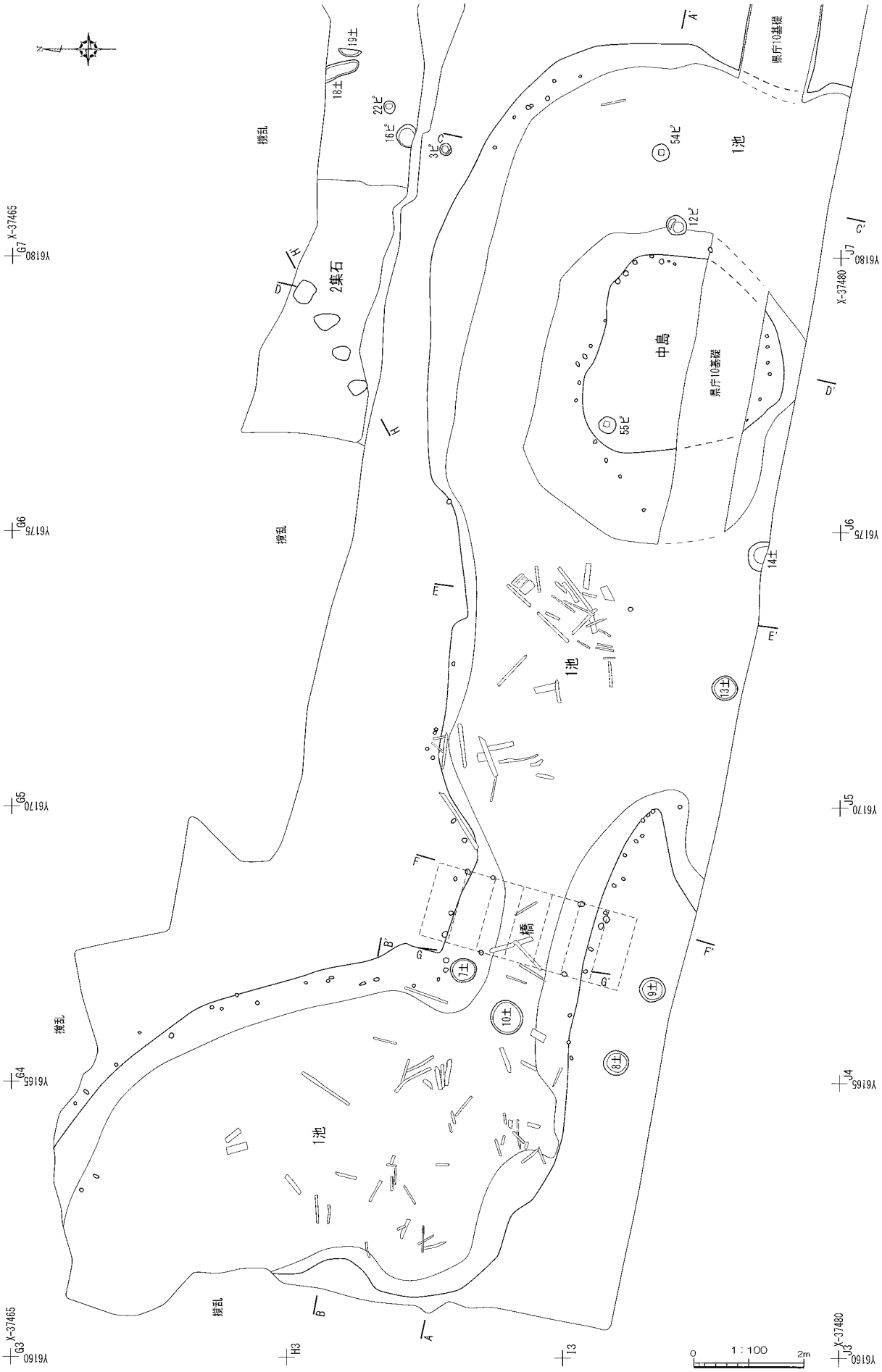


図 83　1号池・2号集石（1）

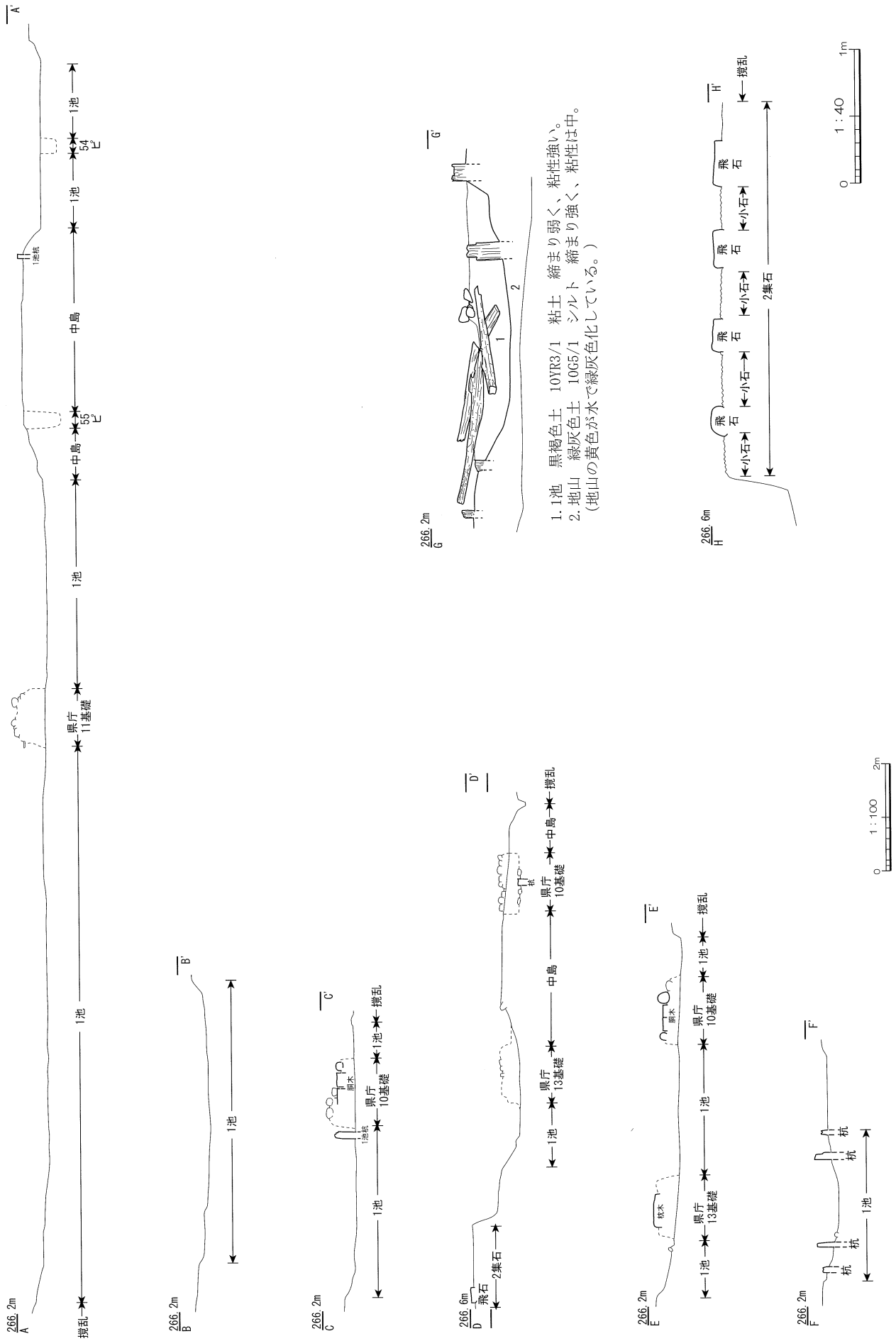


図 84　1号池・2号集石（2）

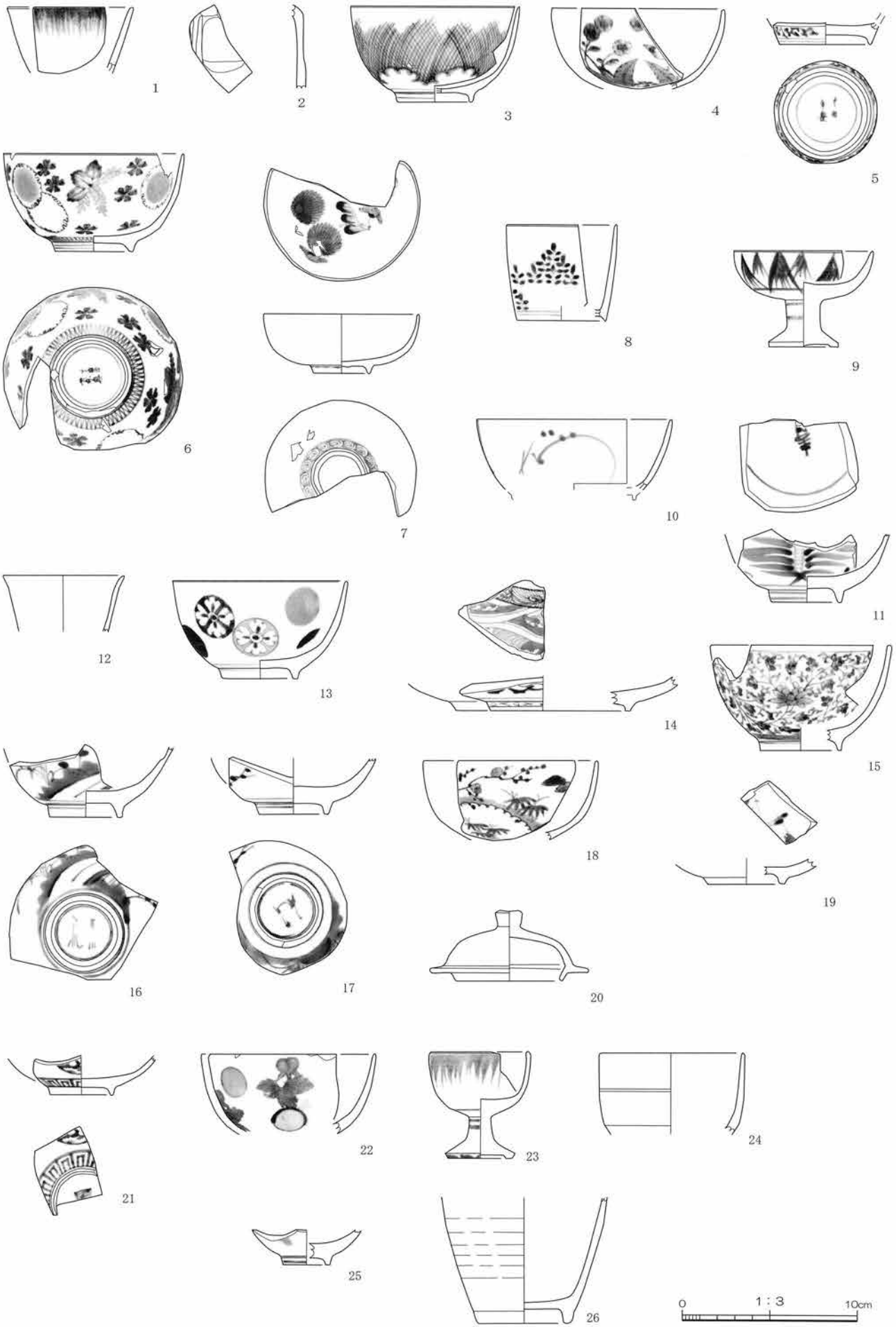


図 85　1号池出土遺物（1）

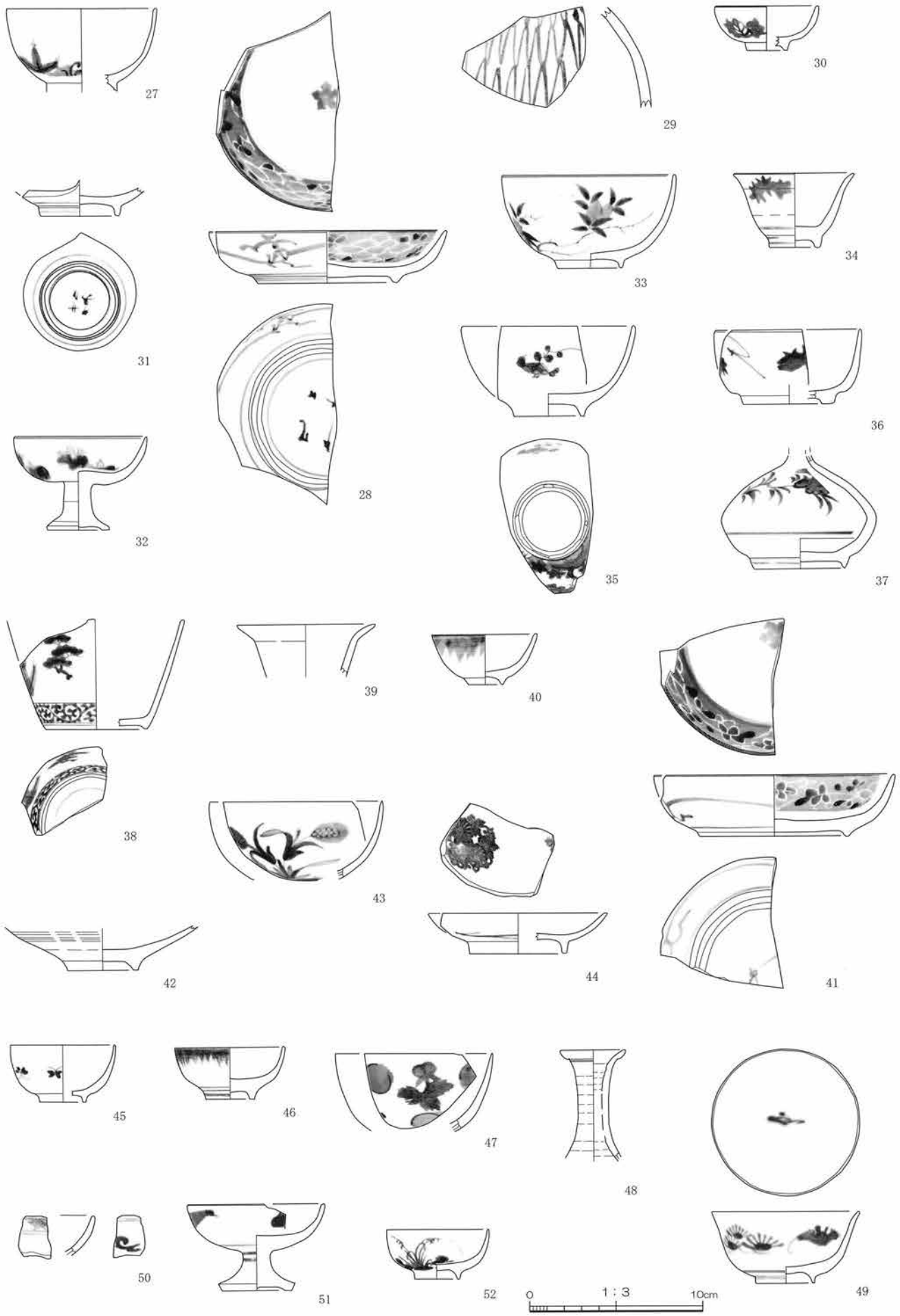


図 86　1号池出土遺物（2）

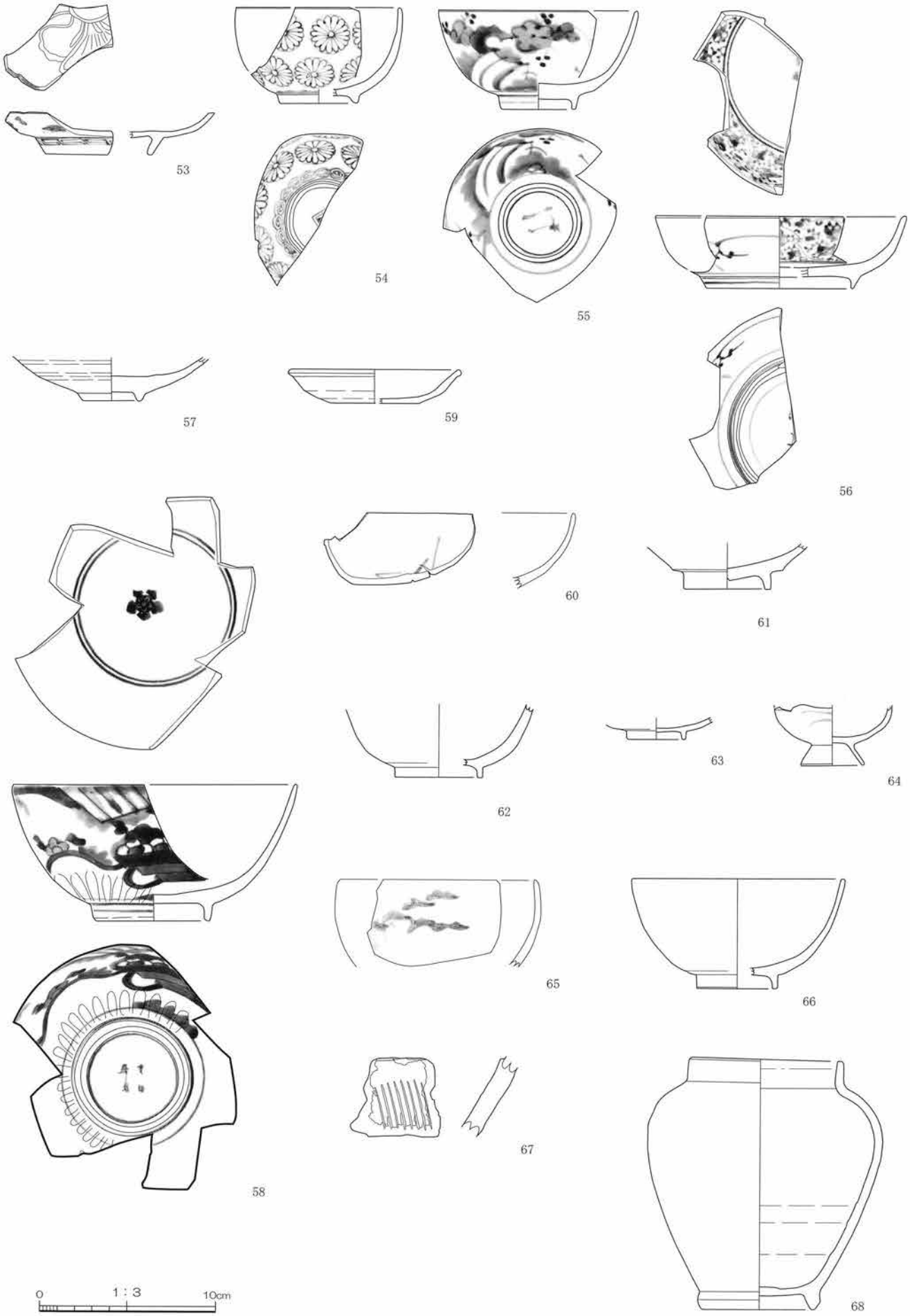


図 87　1号池出土遺物（3）

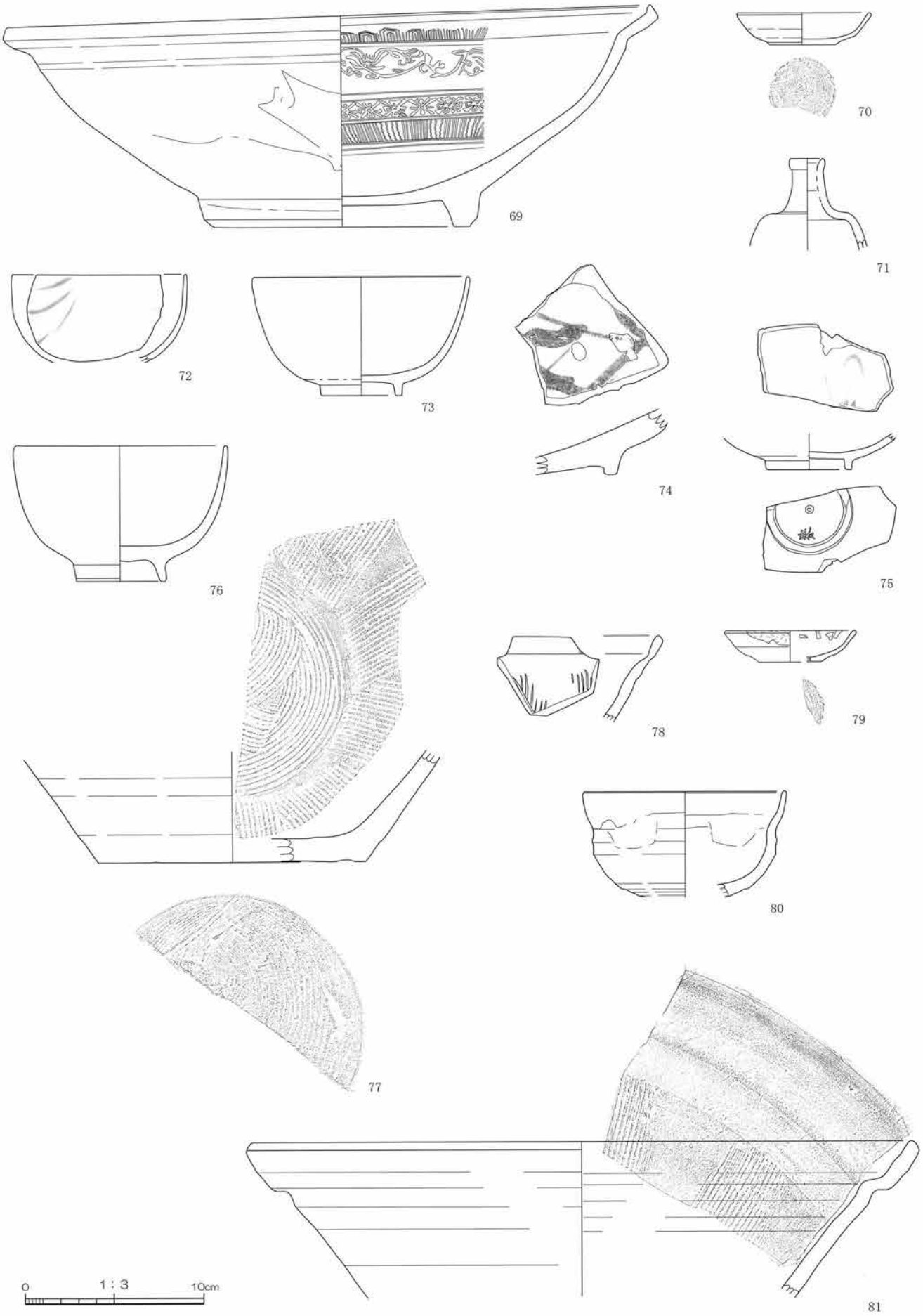


図 88　1号池出土遺物（4）

図 89　1号池出土遺物（5）

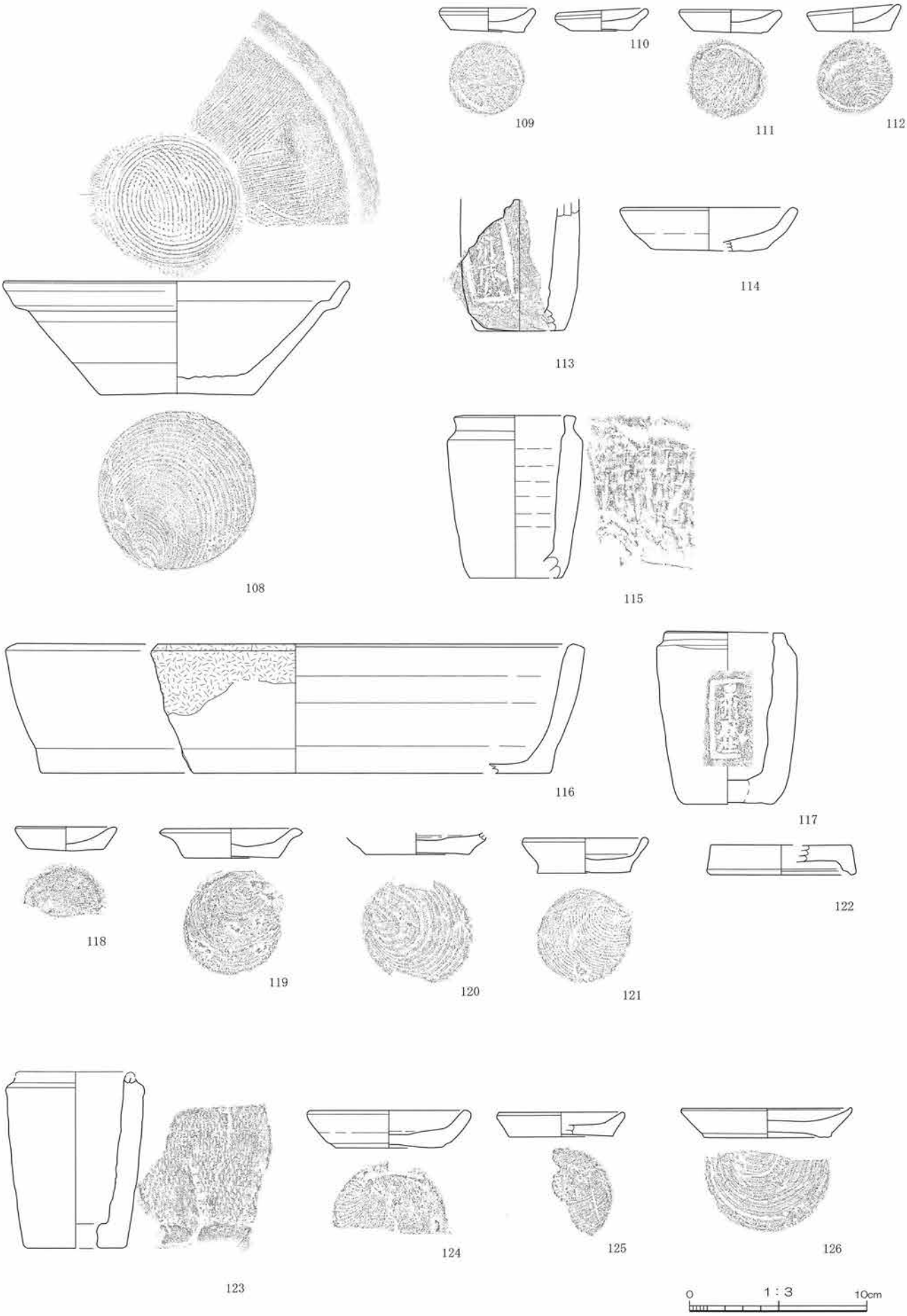


図 90　1 号池出土遺物（6）

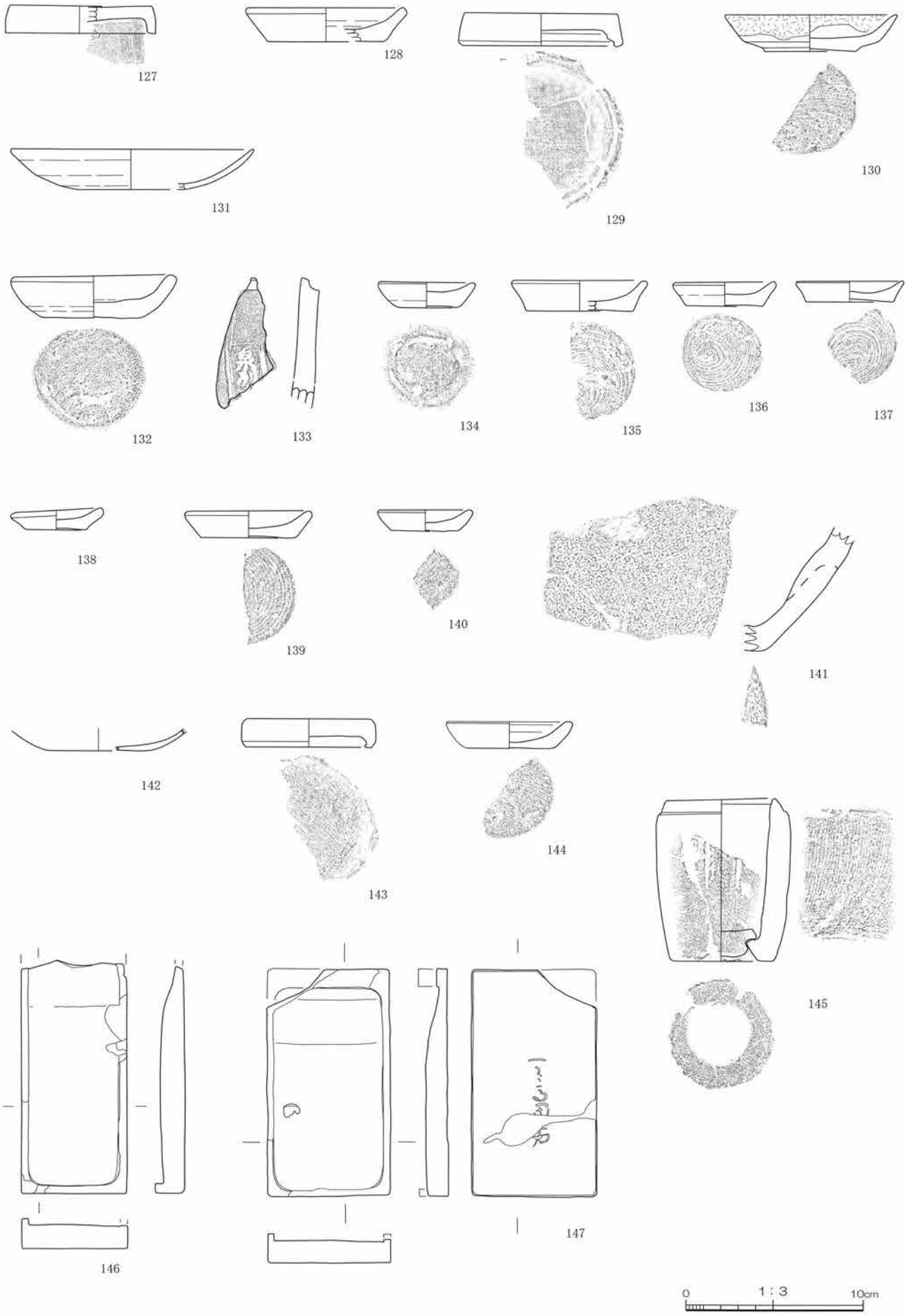


図 91　1号池出土遺物（7）

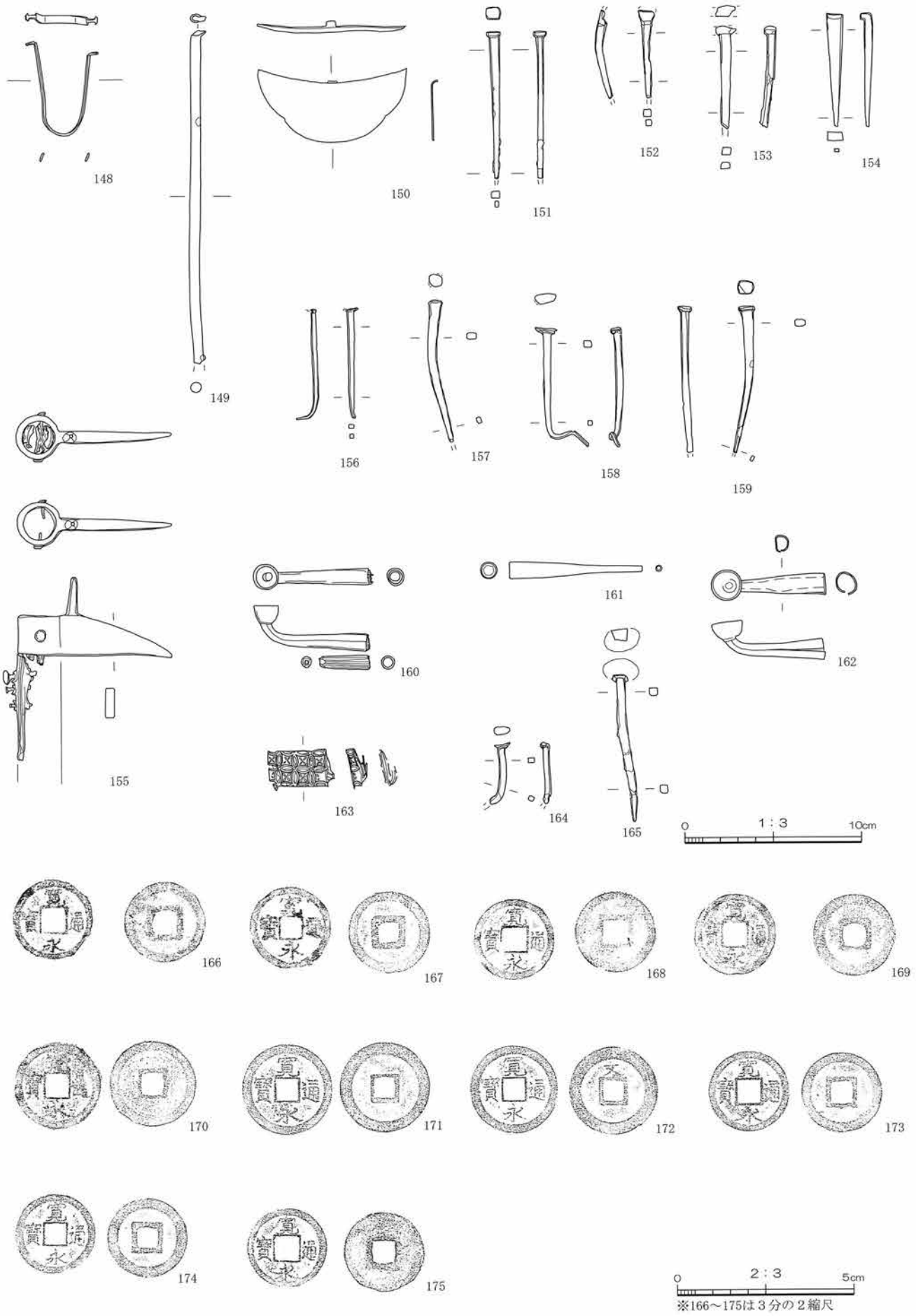


図 92　１号池出土遺物（８）

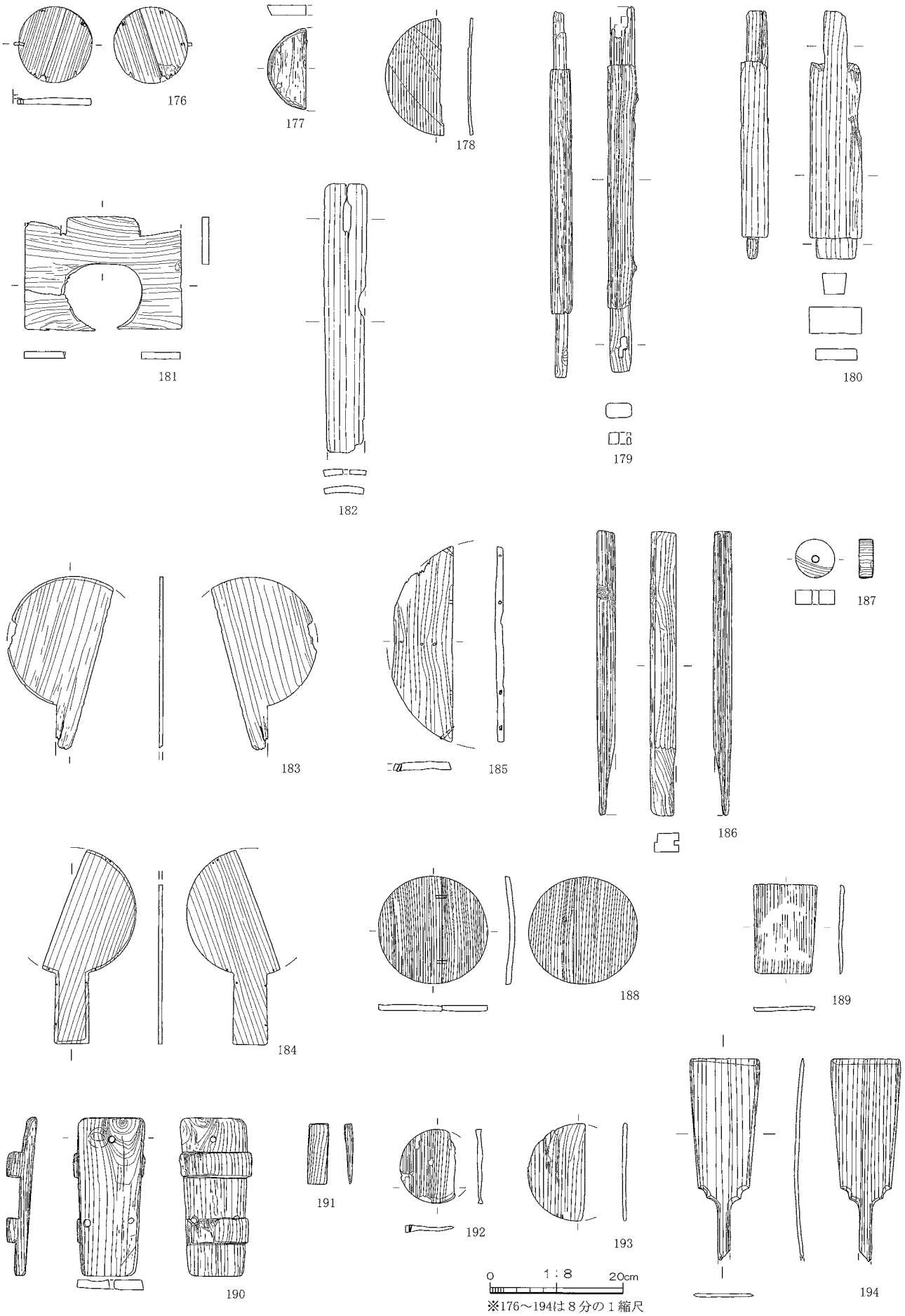


図 93　１号池出土遺物（９）

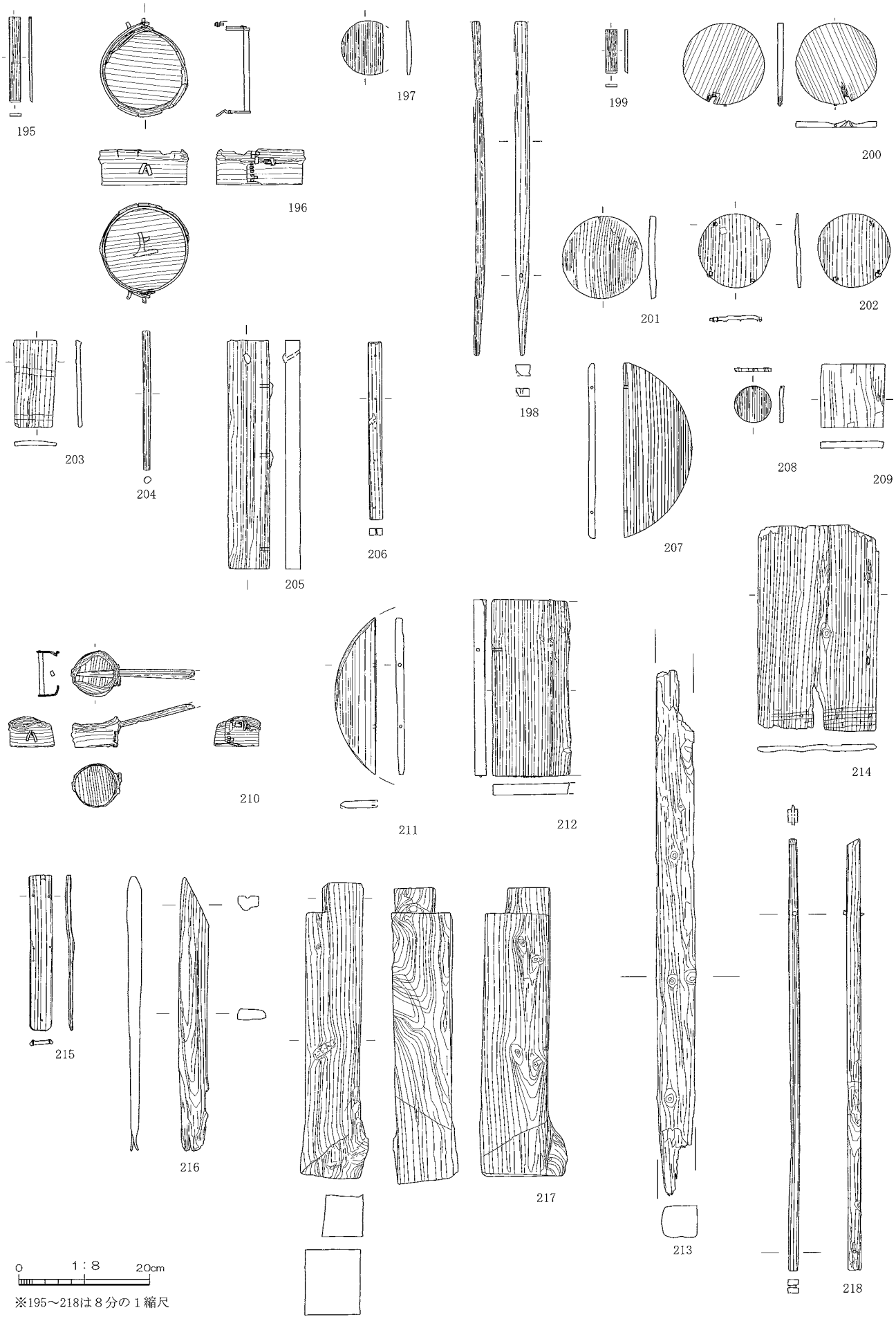


図 94　１号池出土遺物（10）

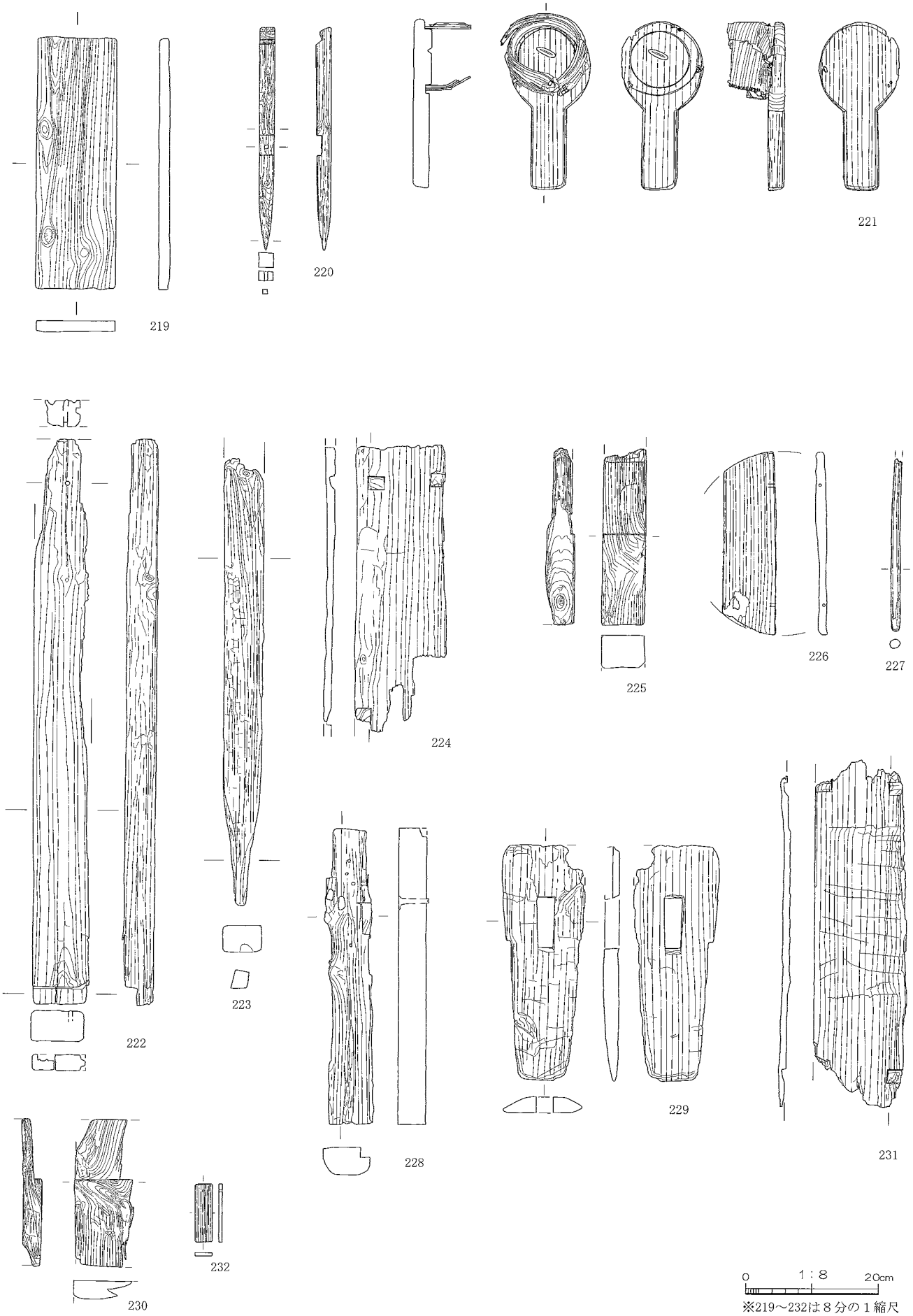


図 95　１号池出土遺物（11）

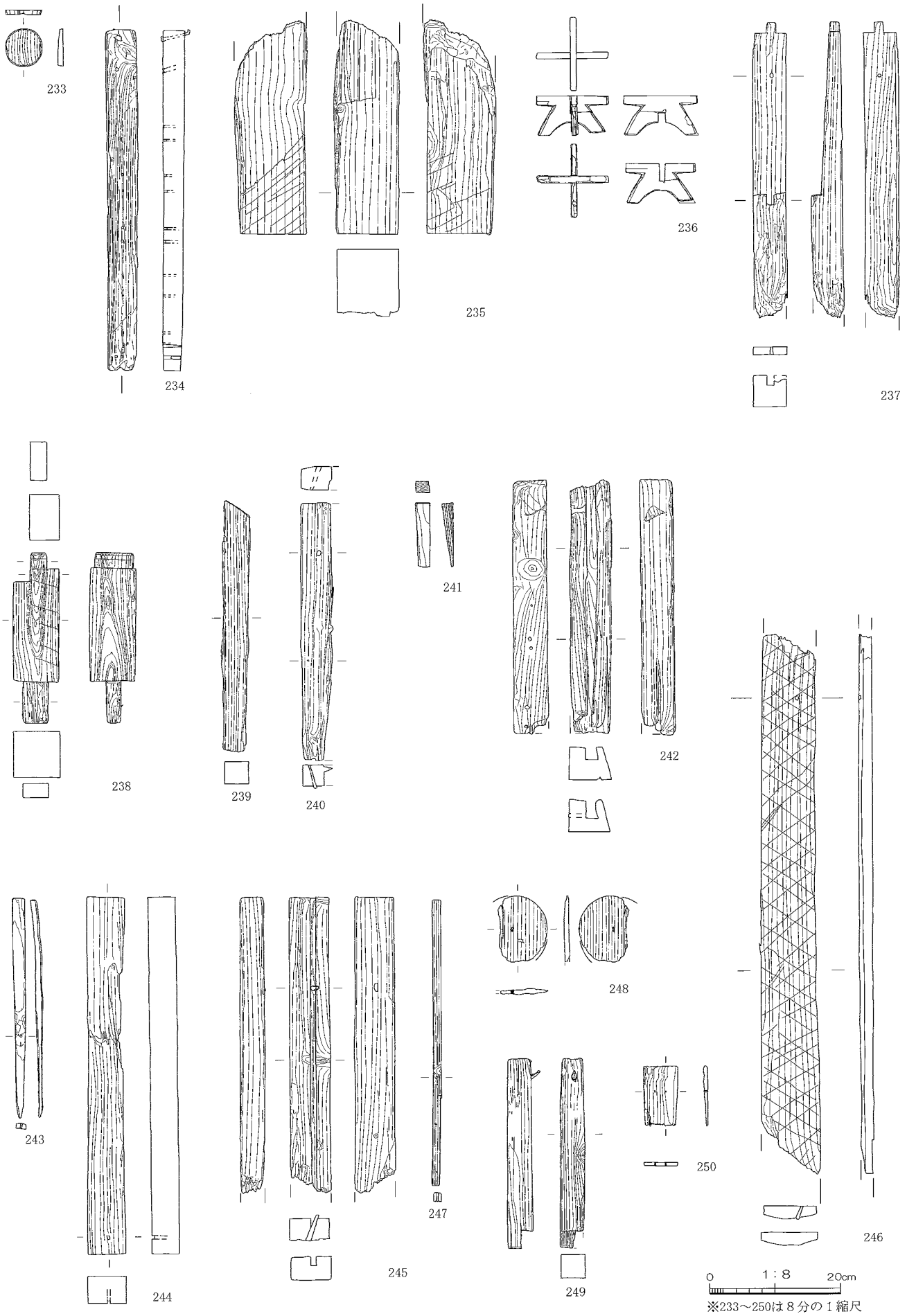


図 96　１号池出土遺物（12）

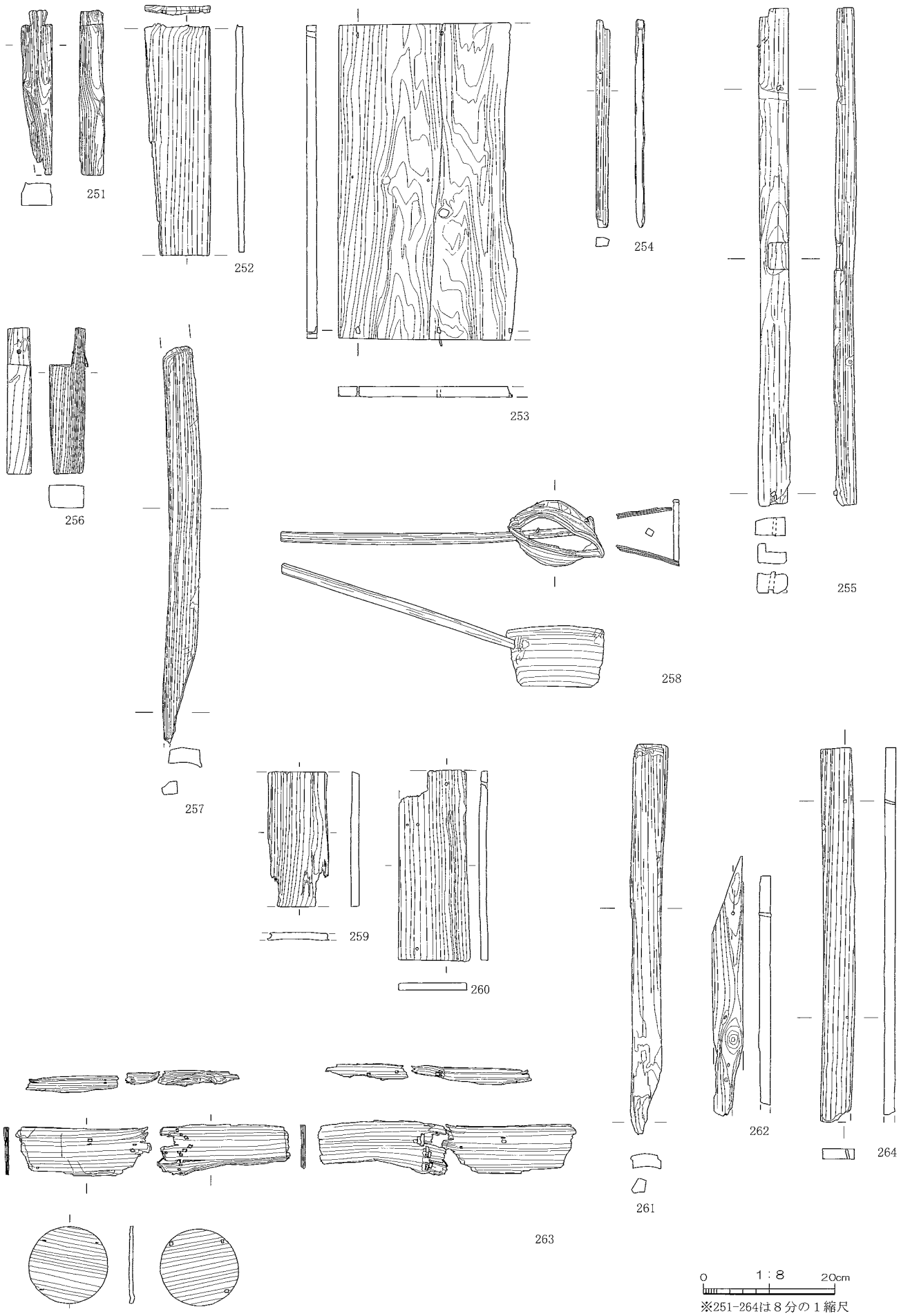


図 97　１号池出土遺物（13）

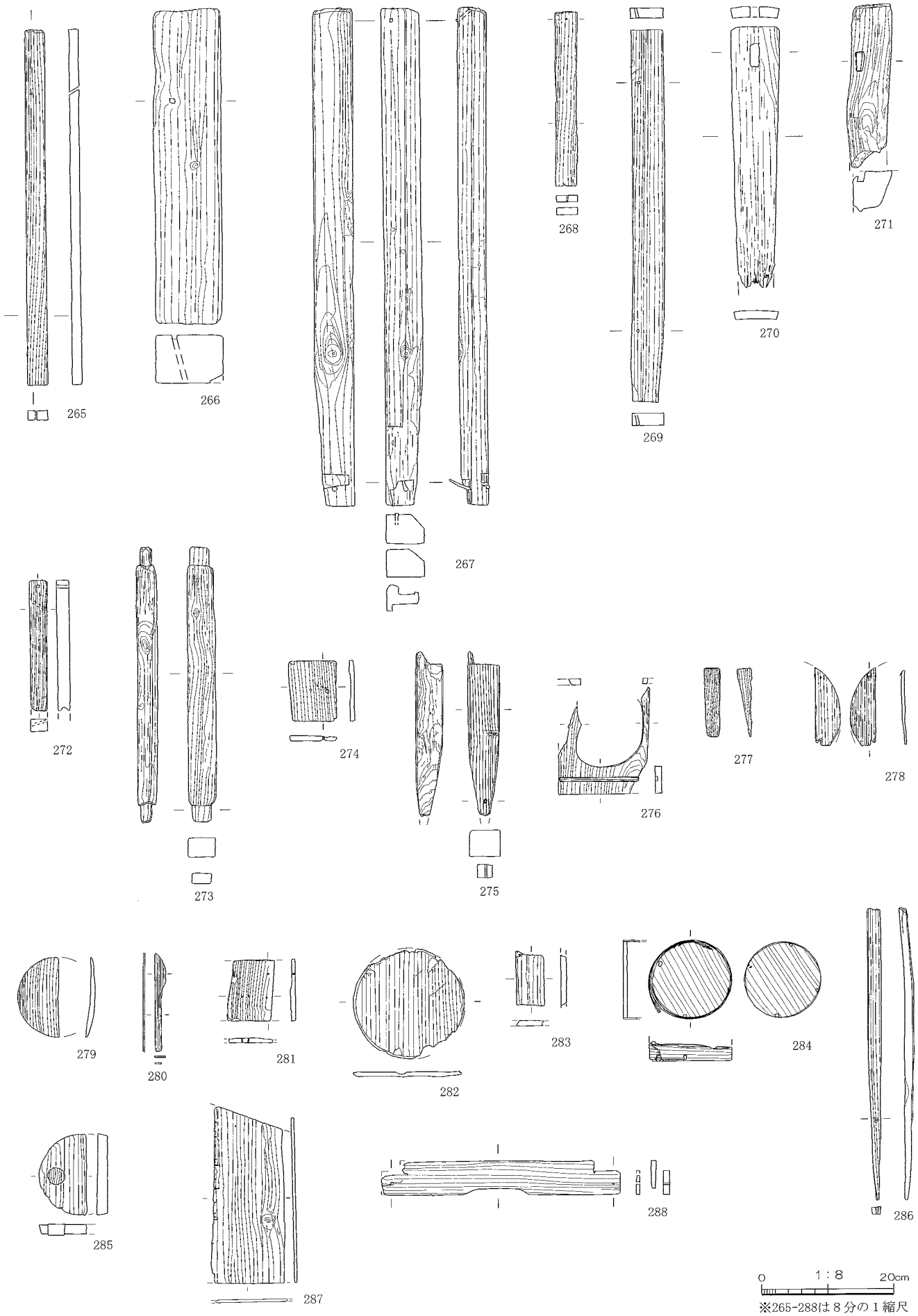


図 98　１号池出土遺物（14）

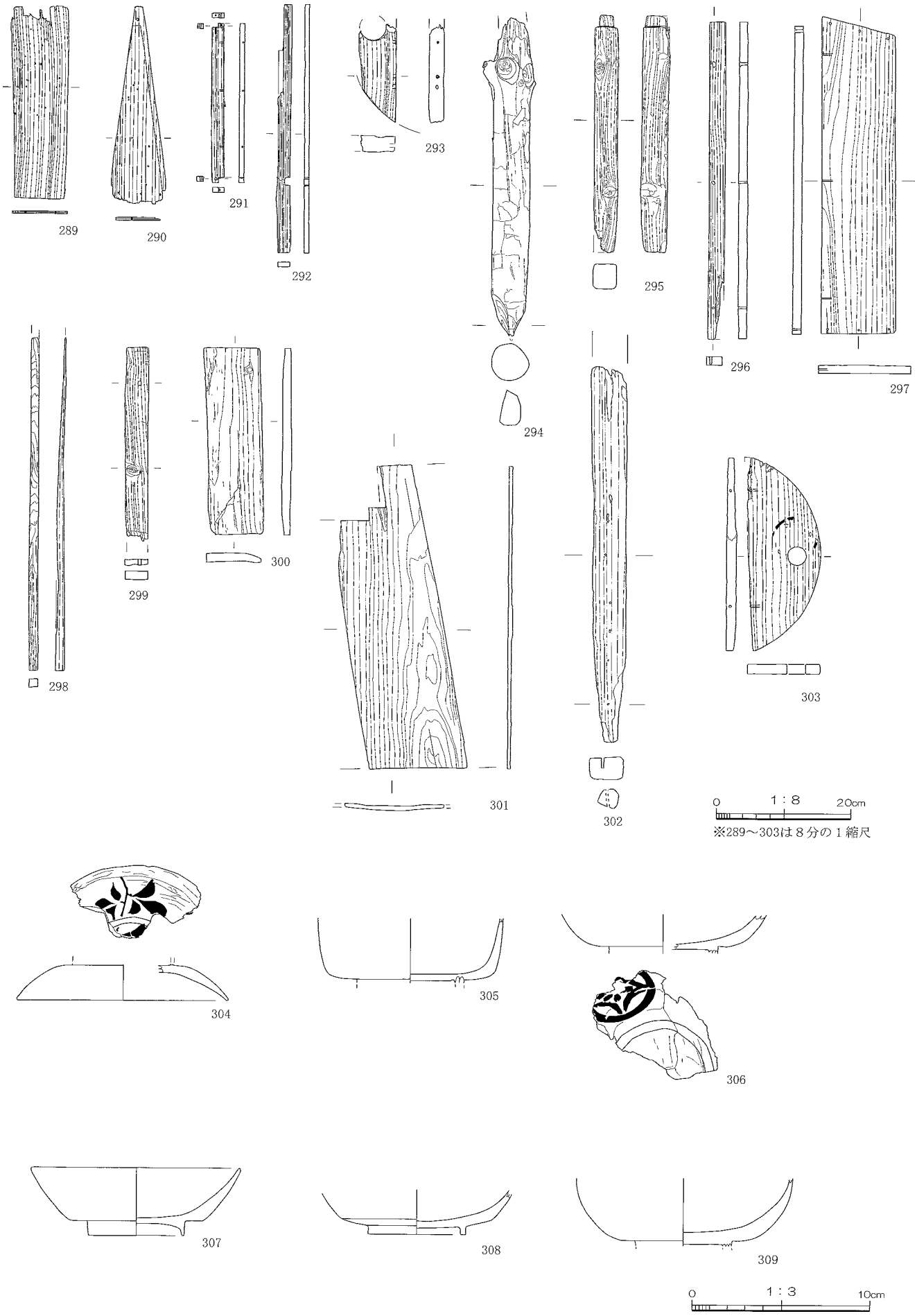


図 99　１号池出土遺物（15）

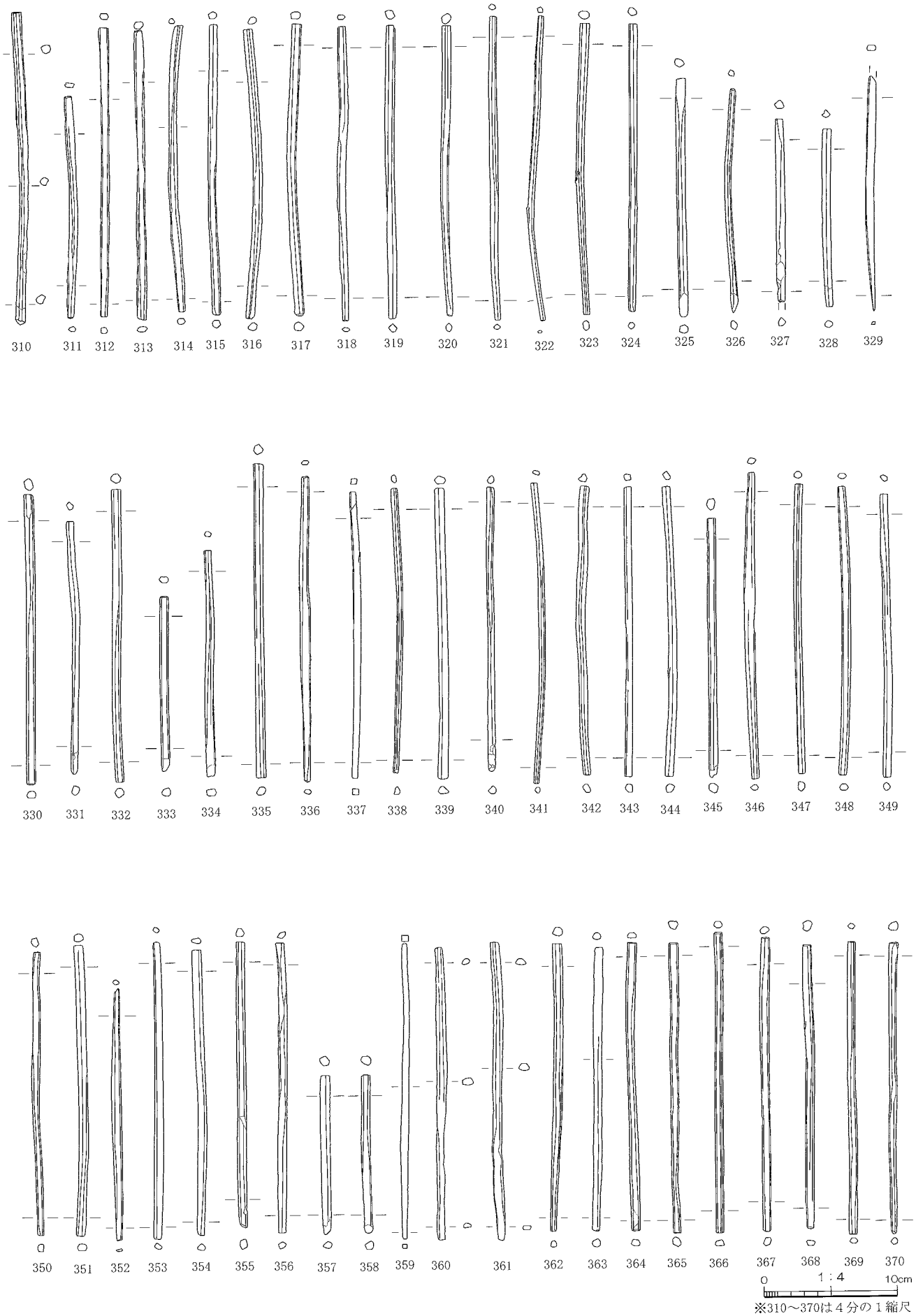


図 100　１号池出土遺物（16）

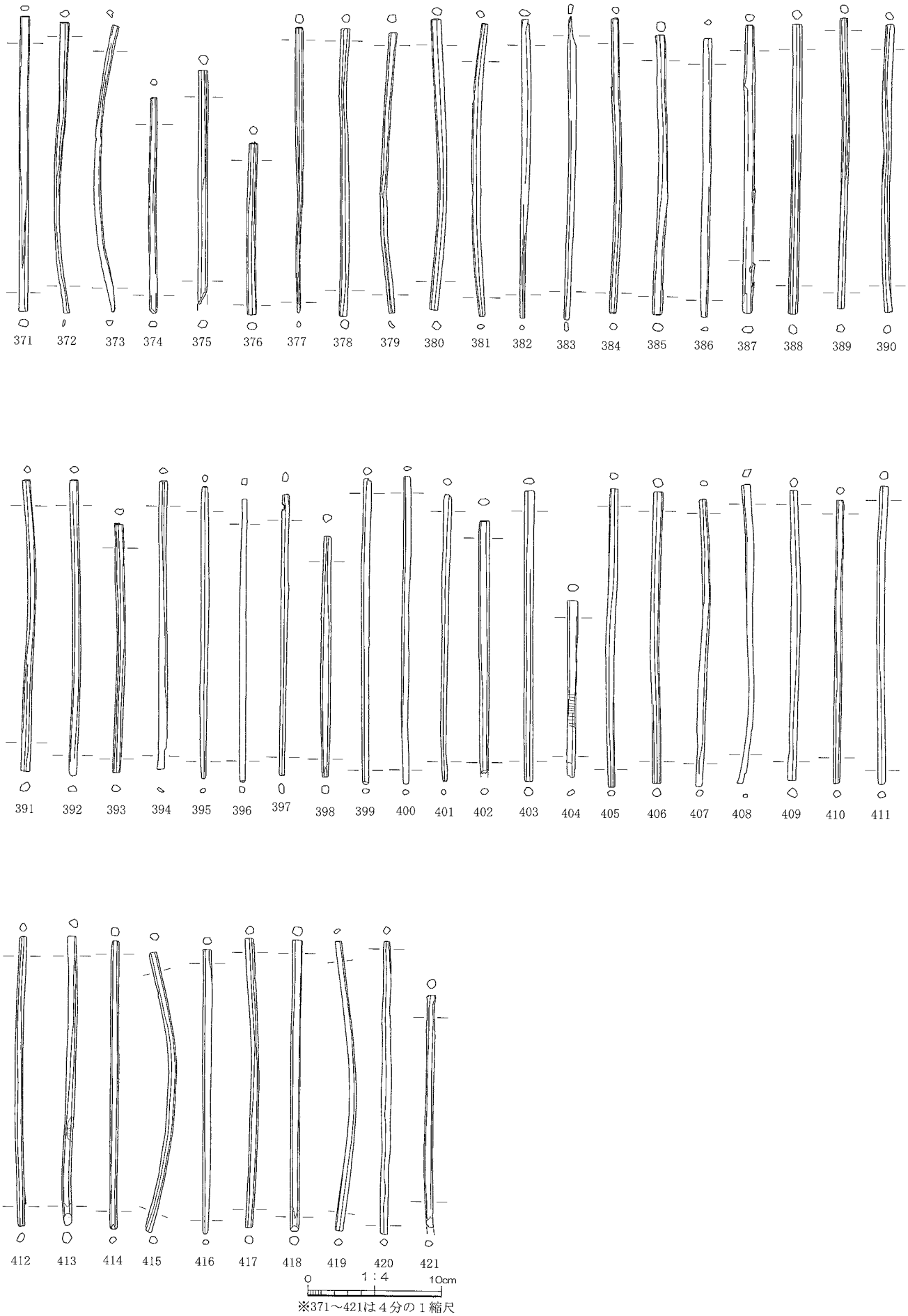
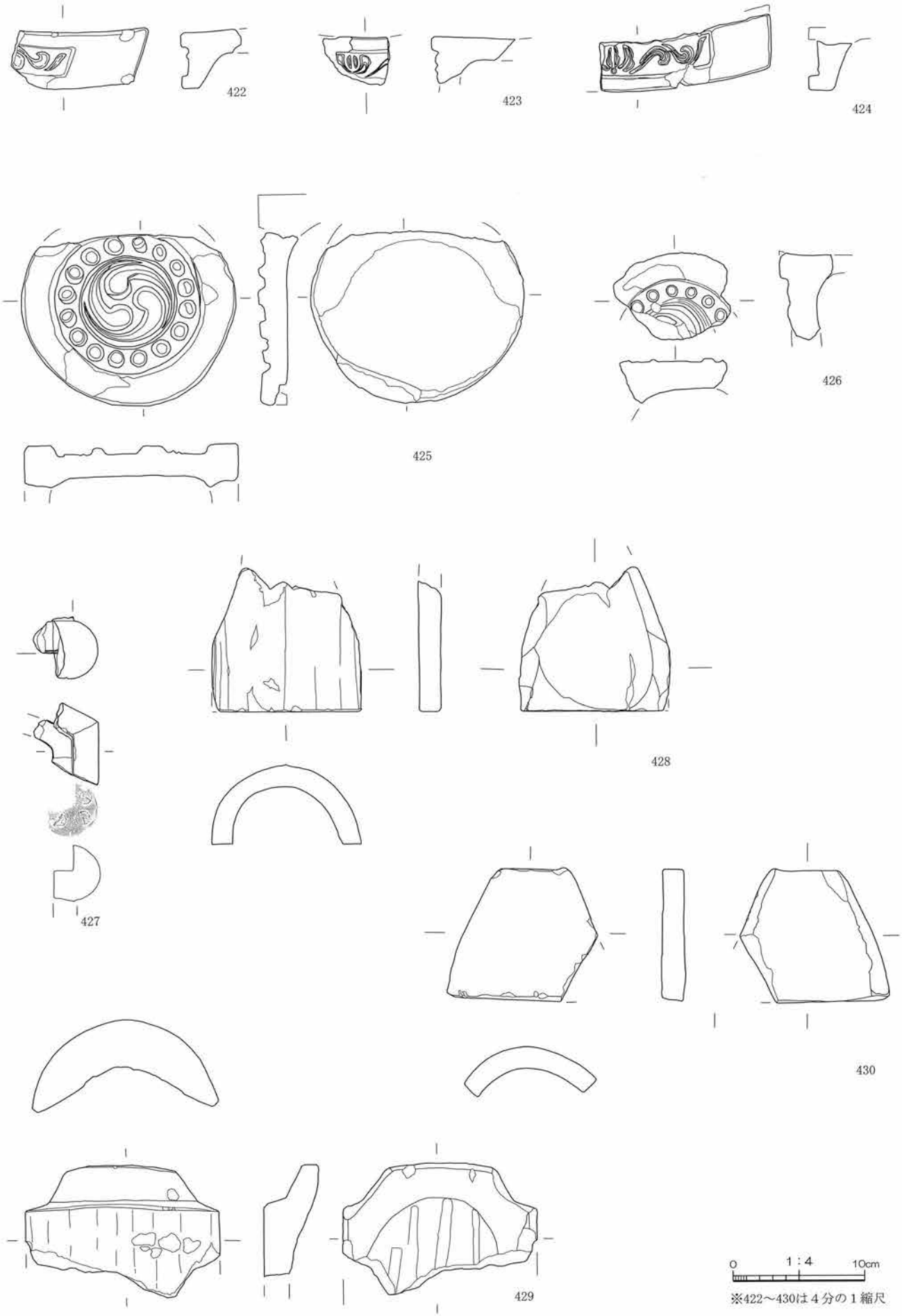


図 101　１号池出土遺物（17）



※422～430は４分の１縮尺

図 102　１号池出土遺物（18）

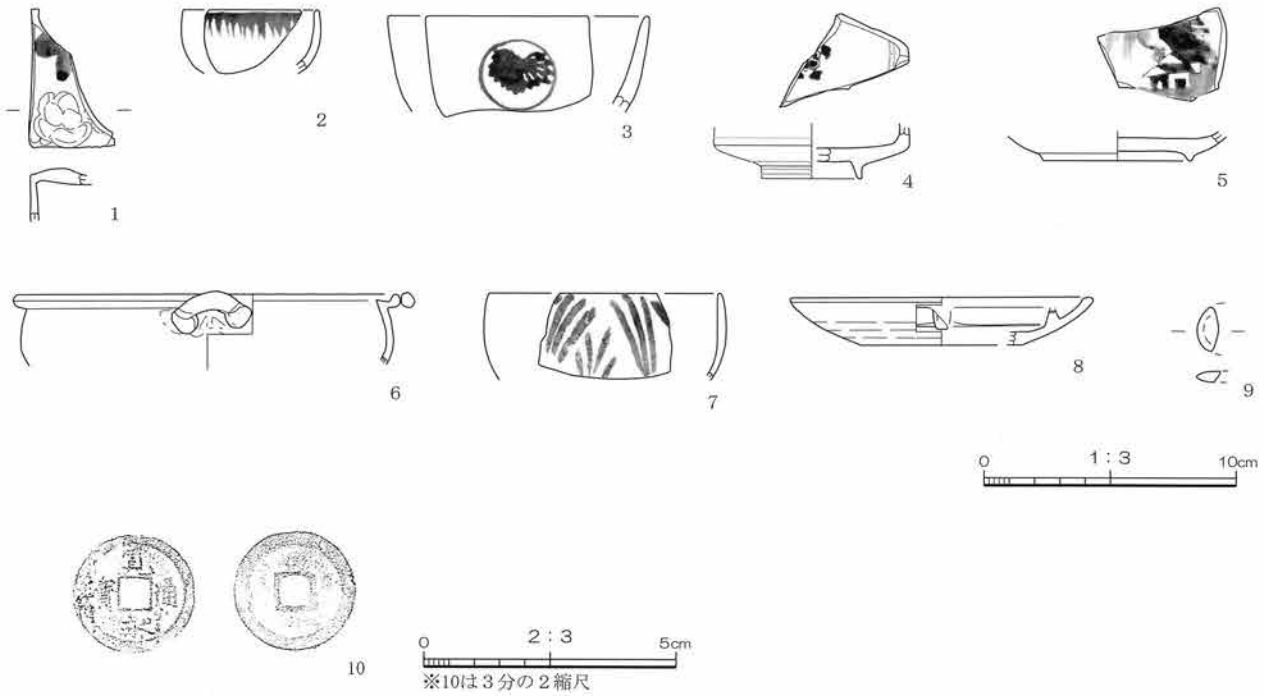


図 103　２号集石出土遺物

写真 96　１号池遺物出土状況

写真 97　１号池遺物出土状況

写真 98　１号池遺物出土状況

写真 99　１号池遺物出土状況

写真 100　1号池出土遺物（1）

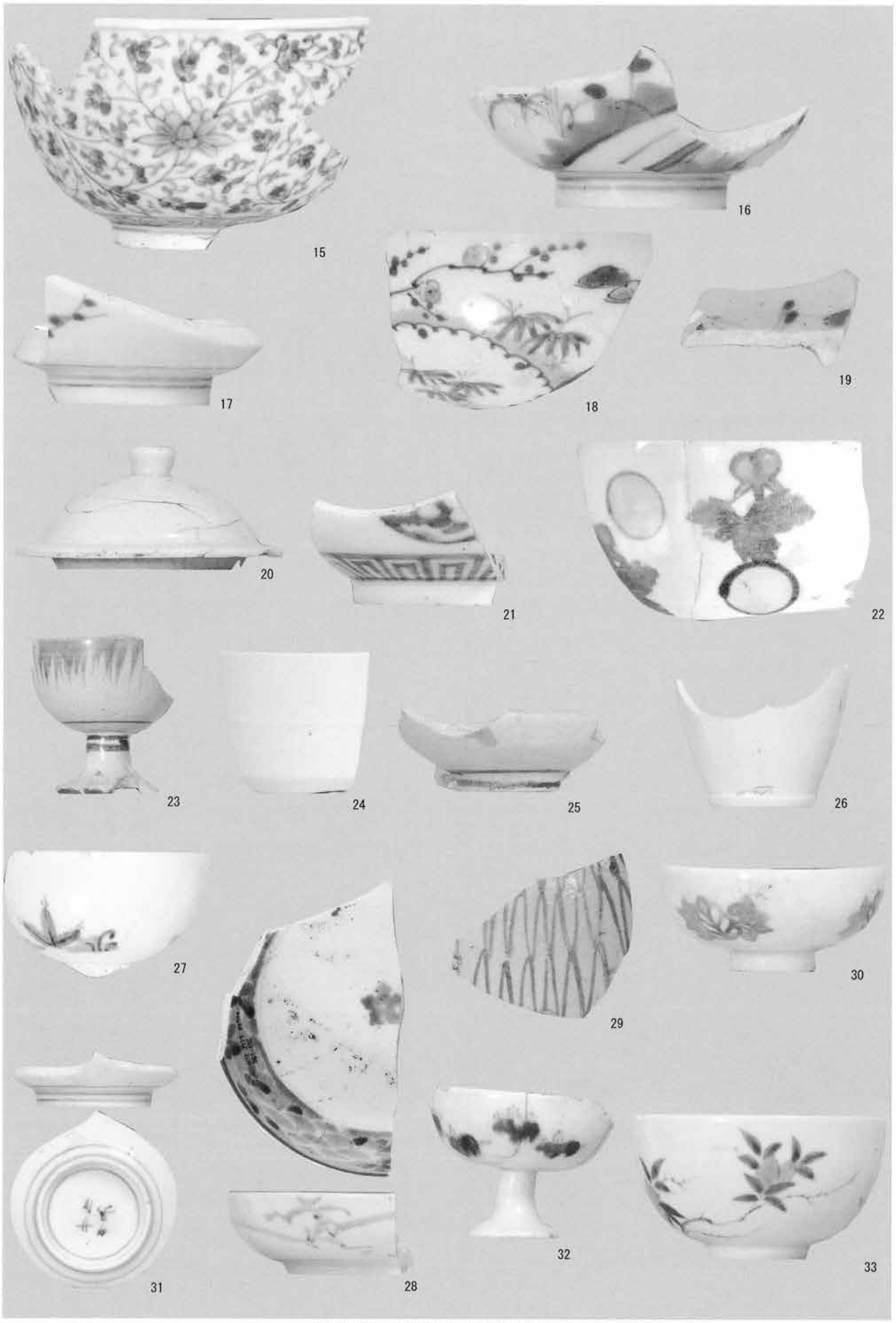


写真 101　1号池出土遺物（2）

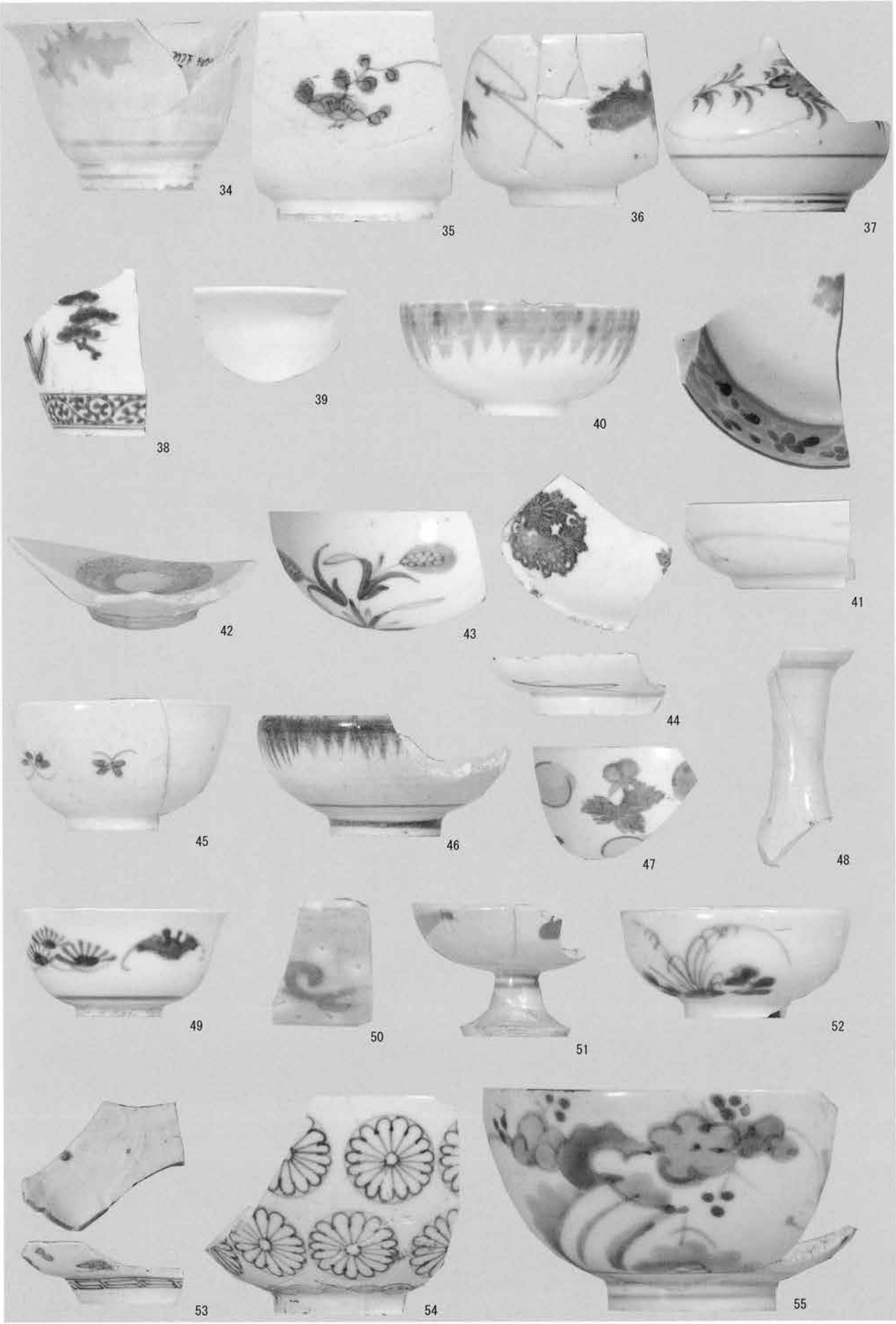


写真 102　1号池出土遺物（3）

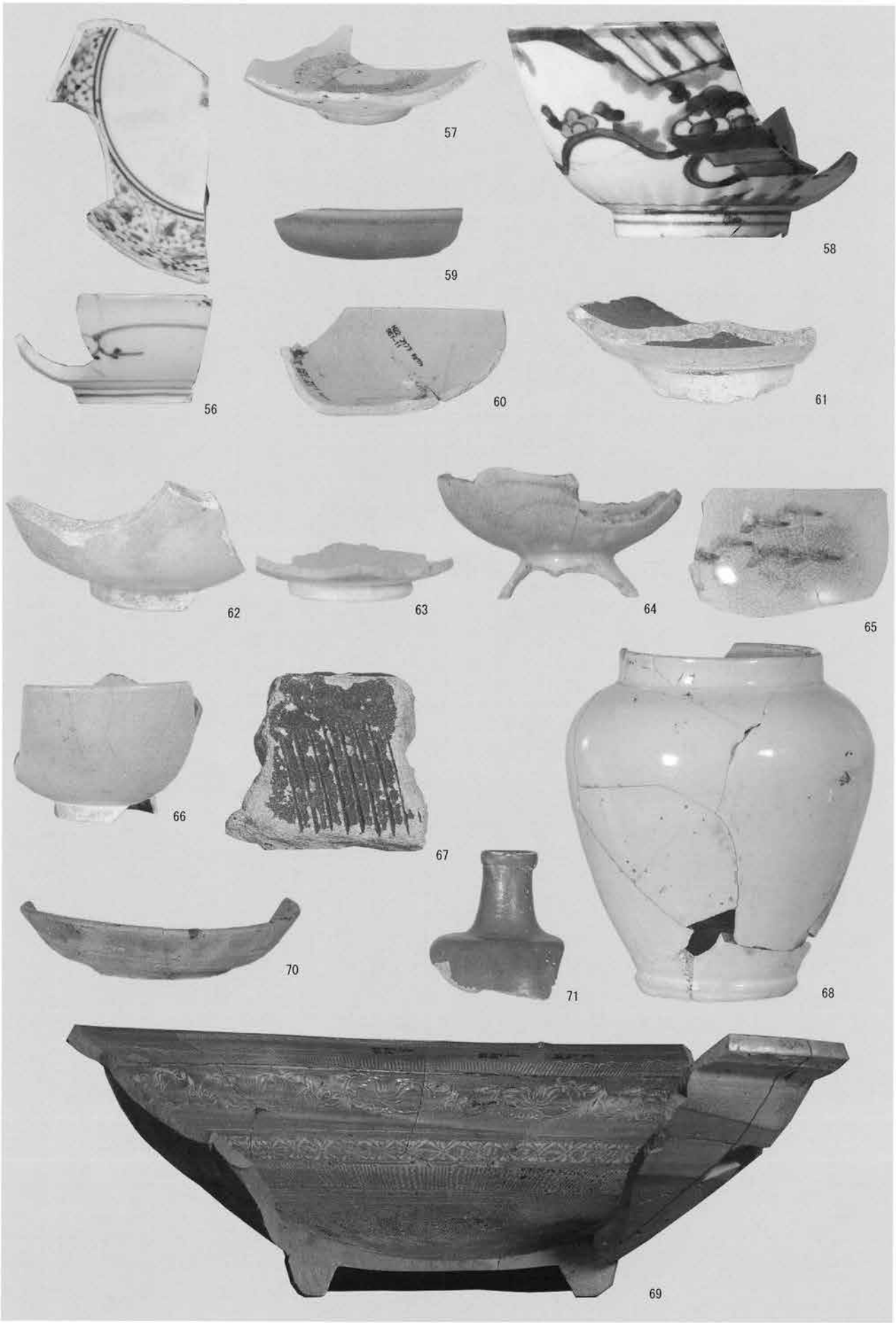


写真 103　1号池出土遺物（4）

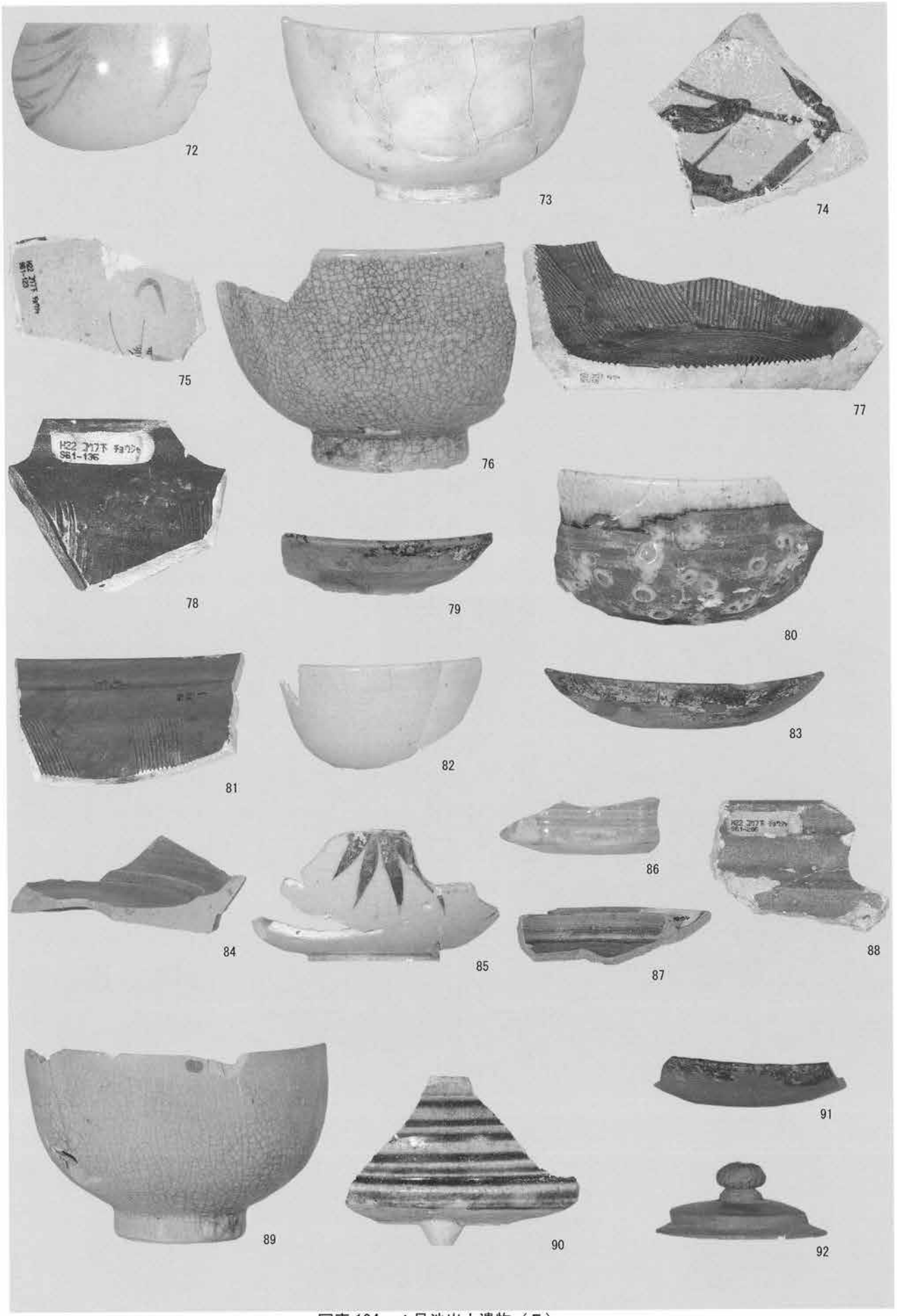


写真 104　1号池出土遺物（5）

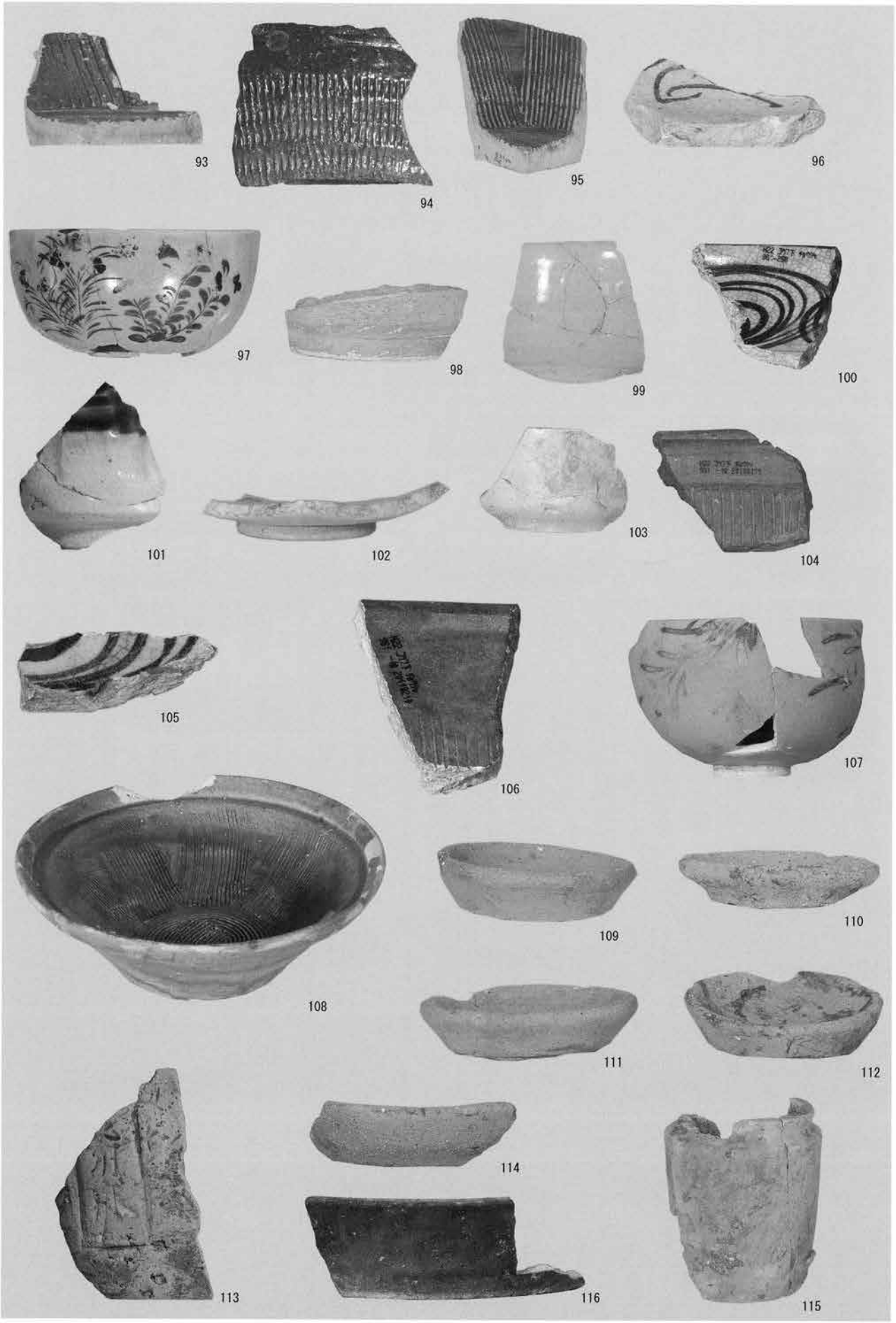


写真 105　1号池出土遺物（6）

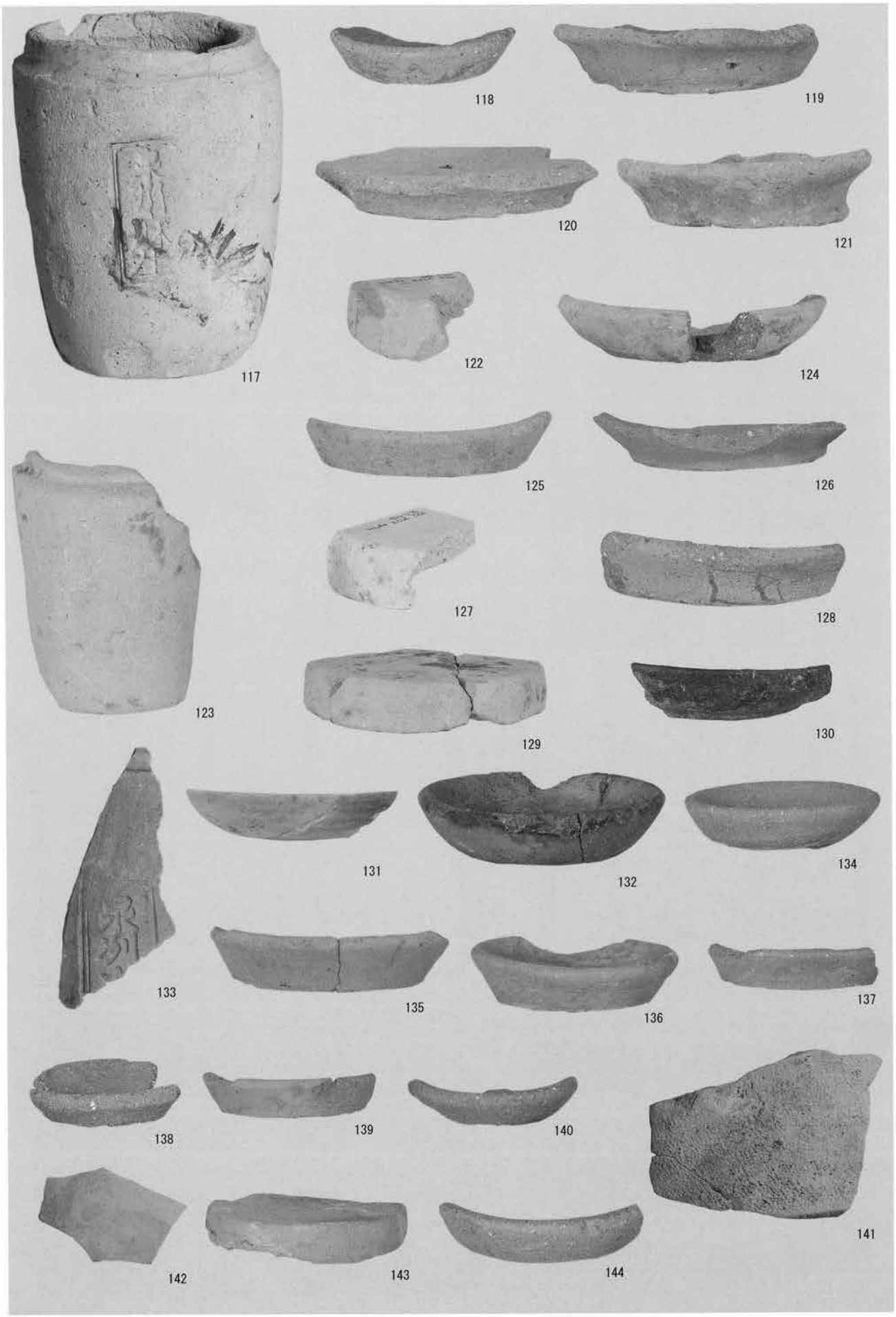


写真 106　1号池出土遺物（7）

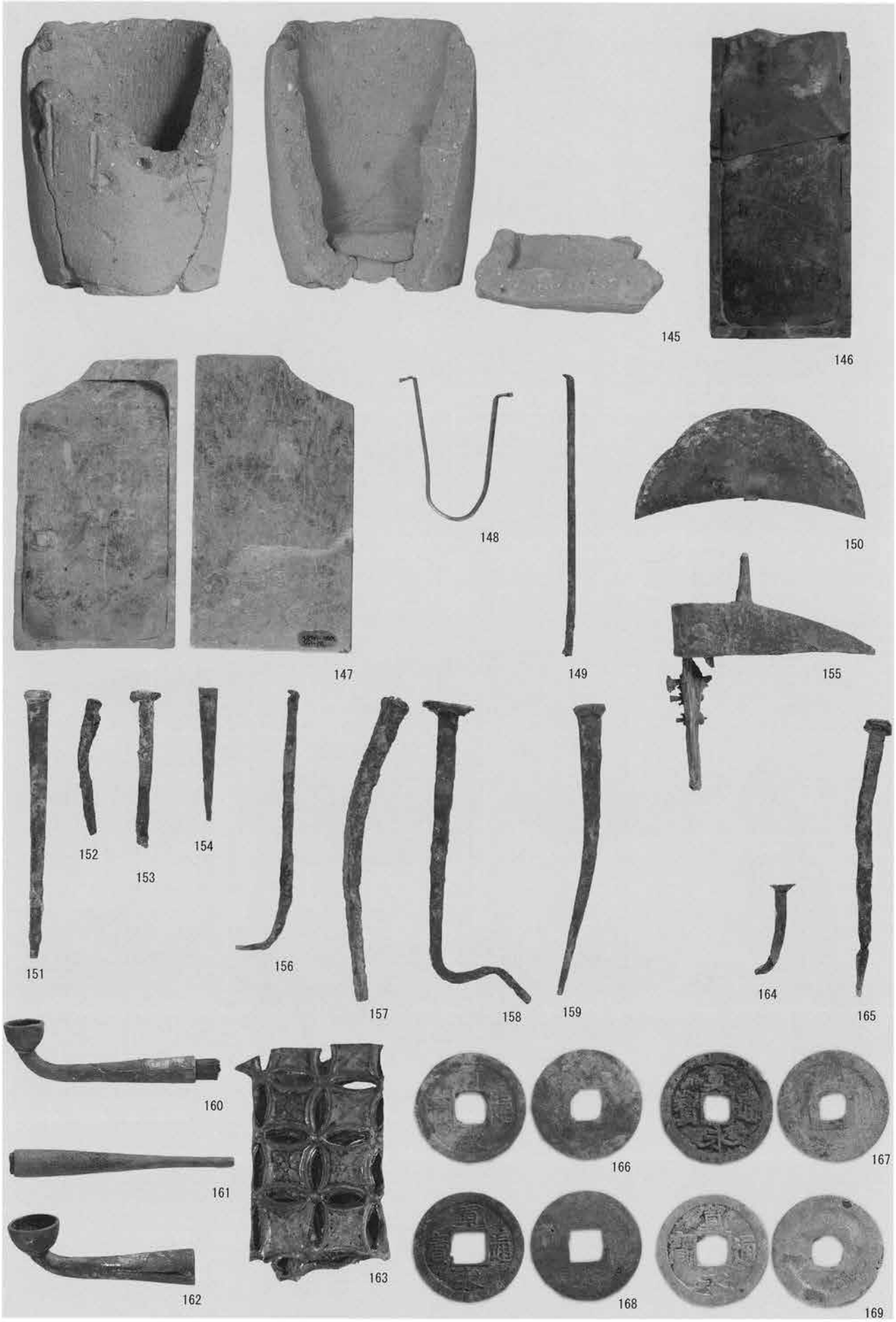


写真 107　1号池出土遺物（8）

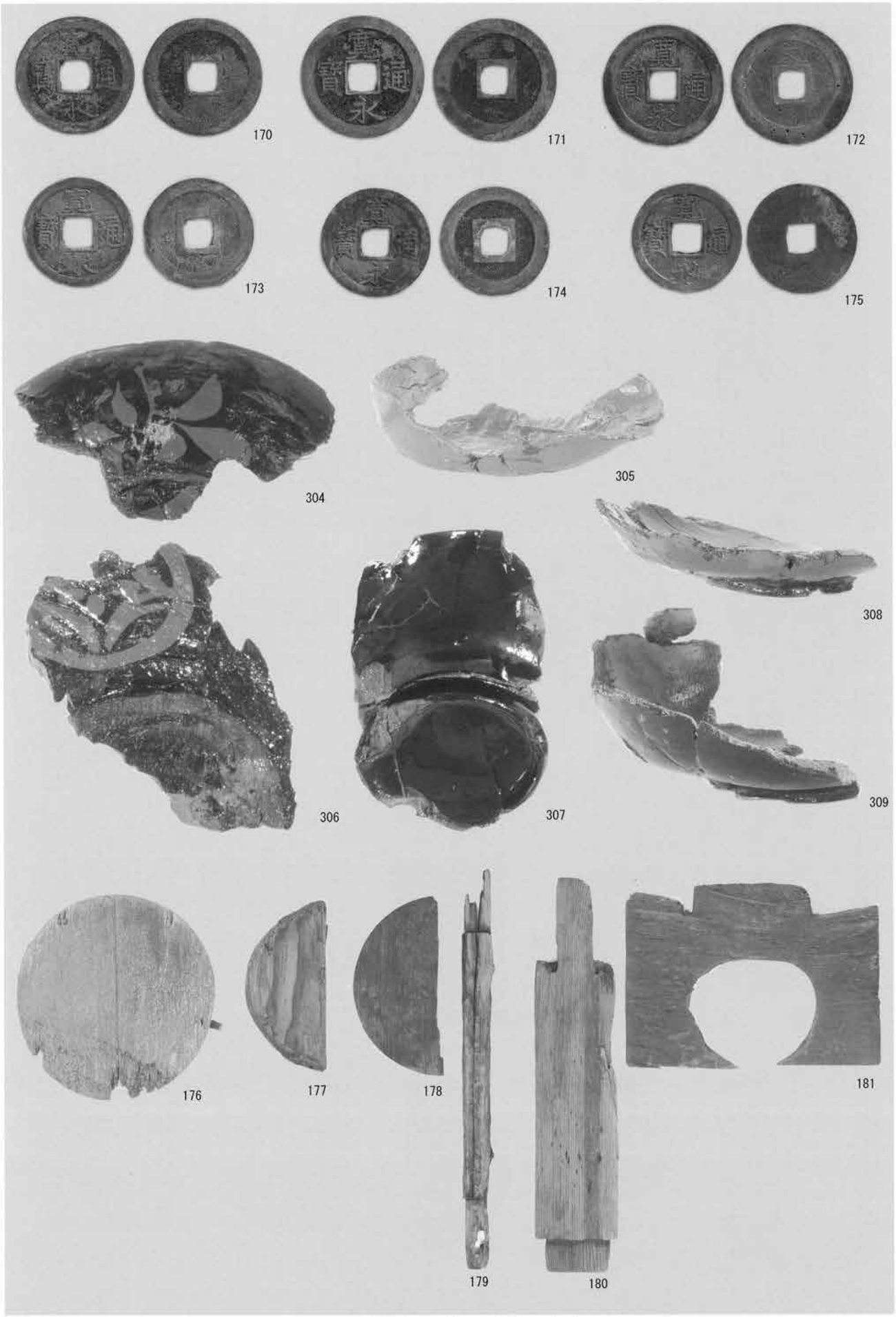


写真 108　1号池出土遺物（9）

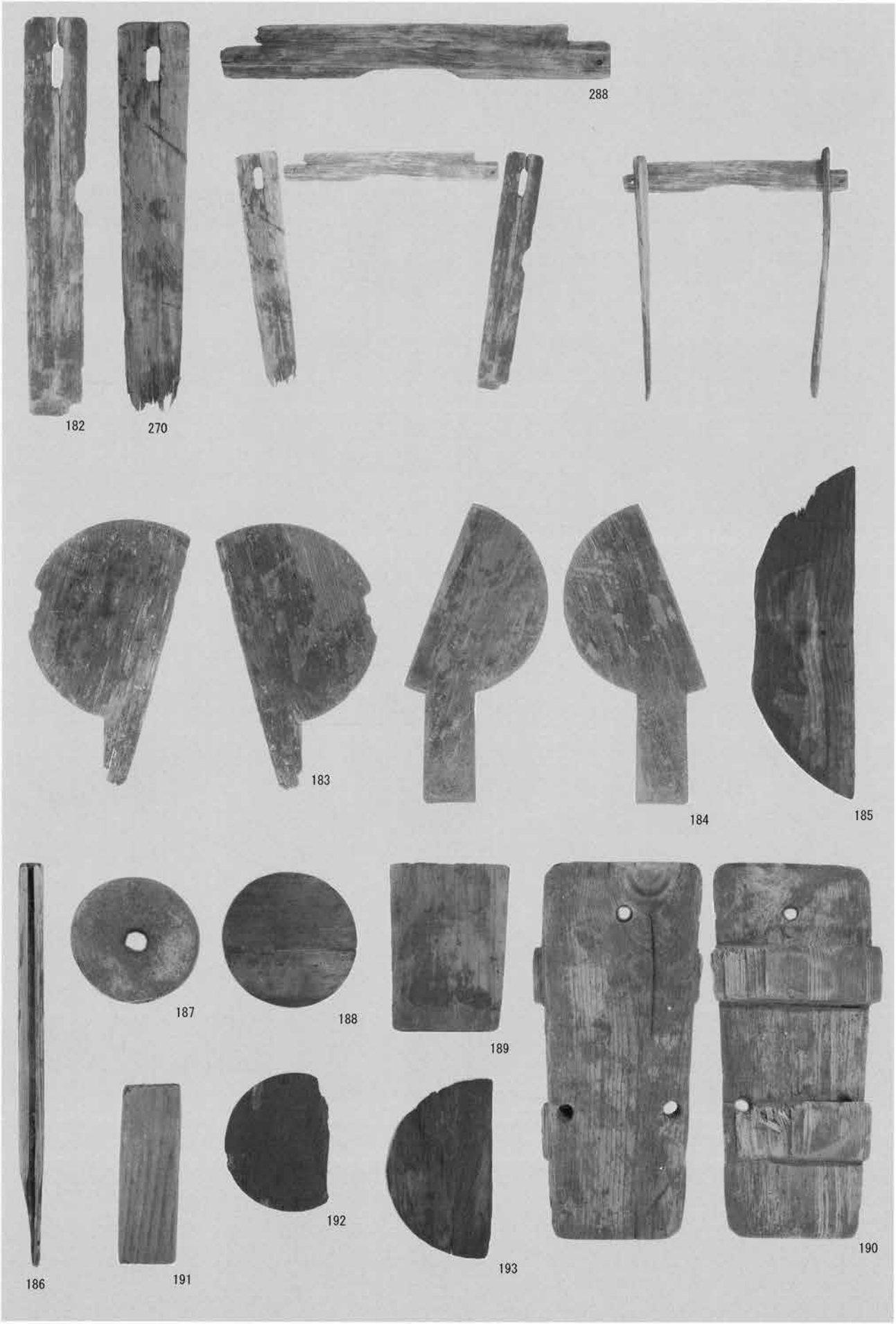


写真 109　1号池出土遺物（10）

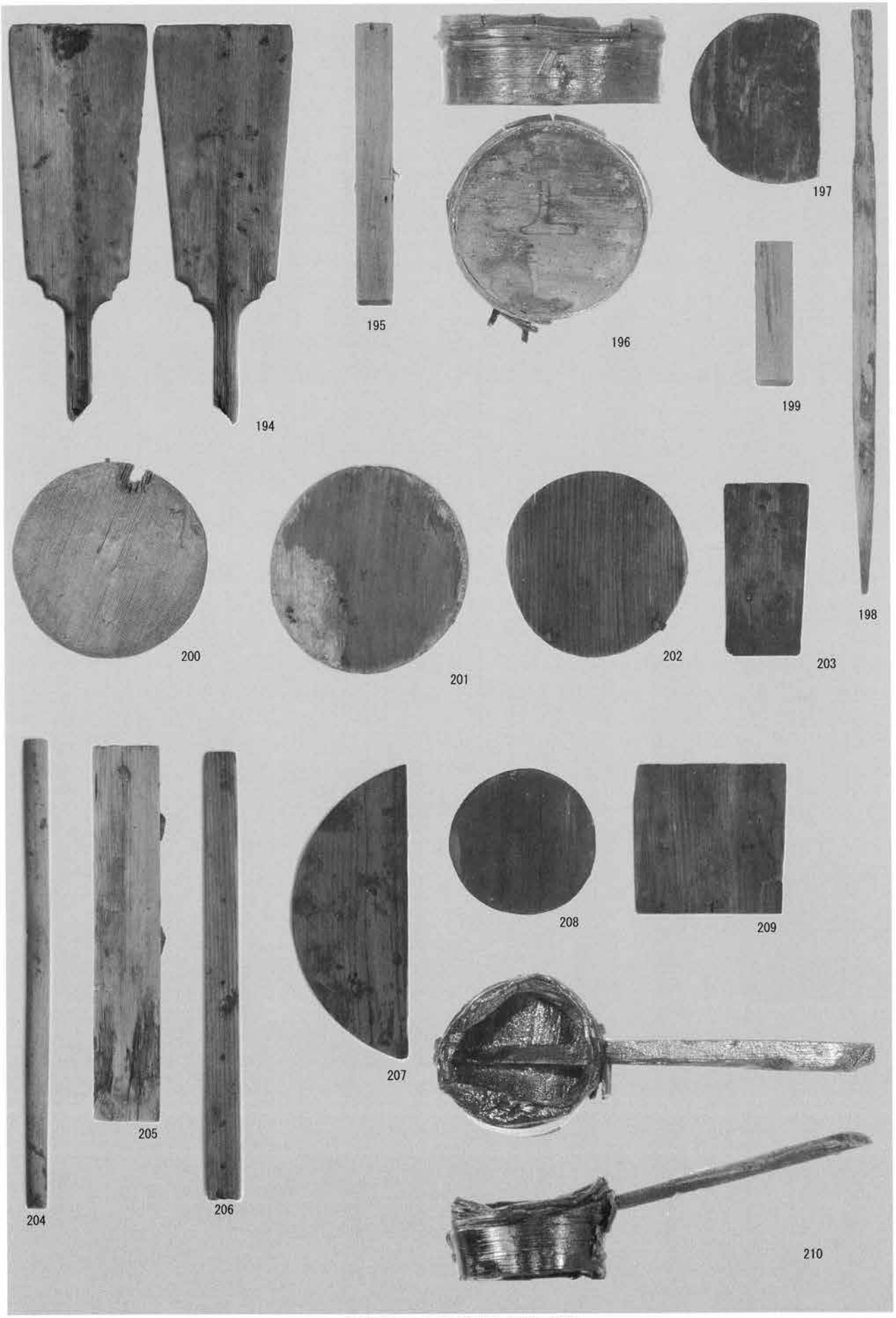


写真 110　1号池出土遺物（11）

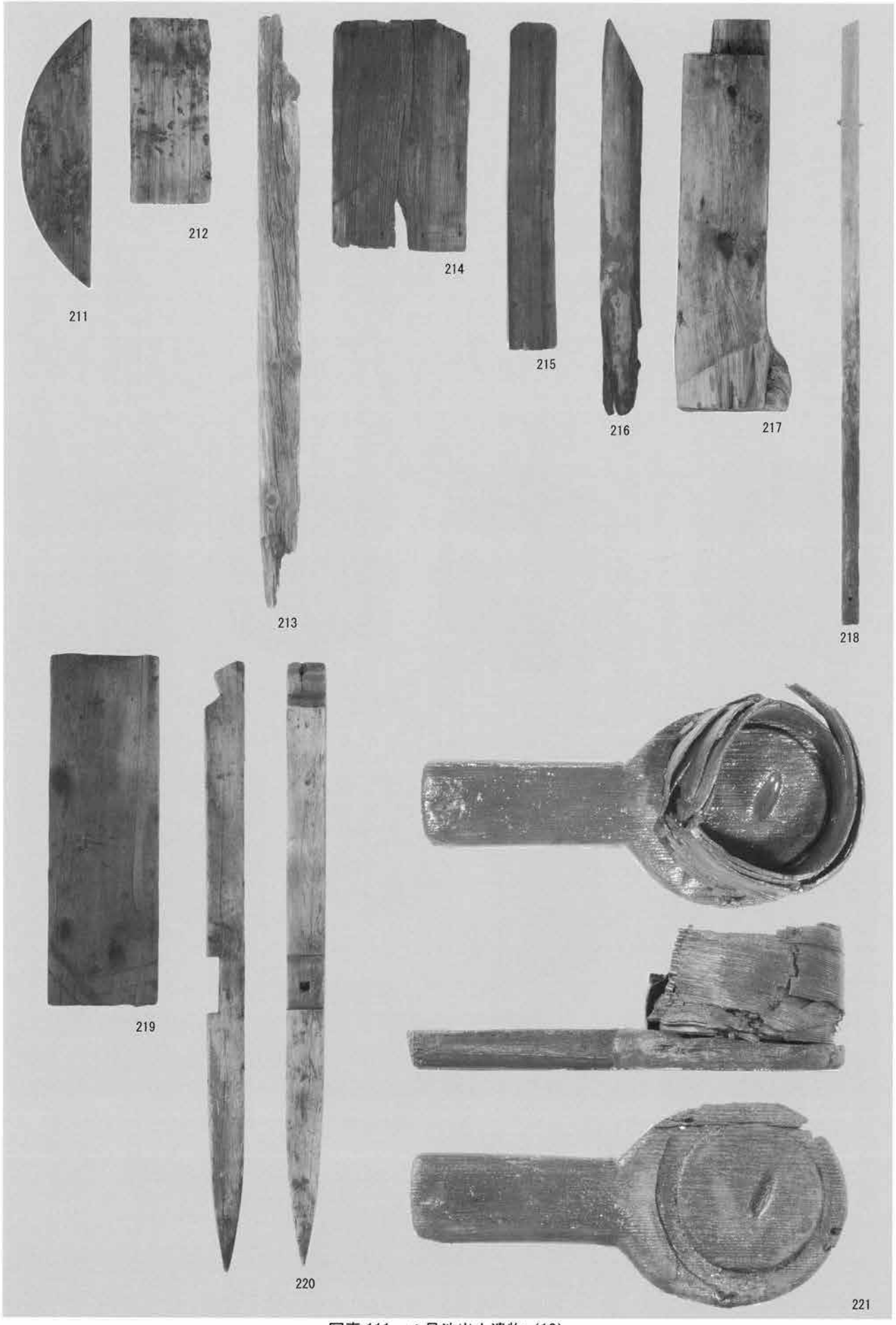


写真 111　1号池出土遺物（12）

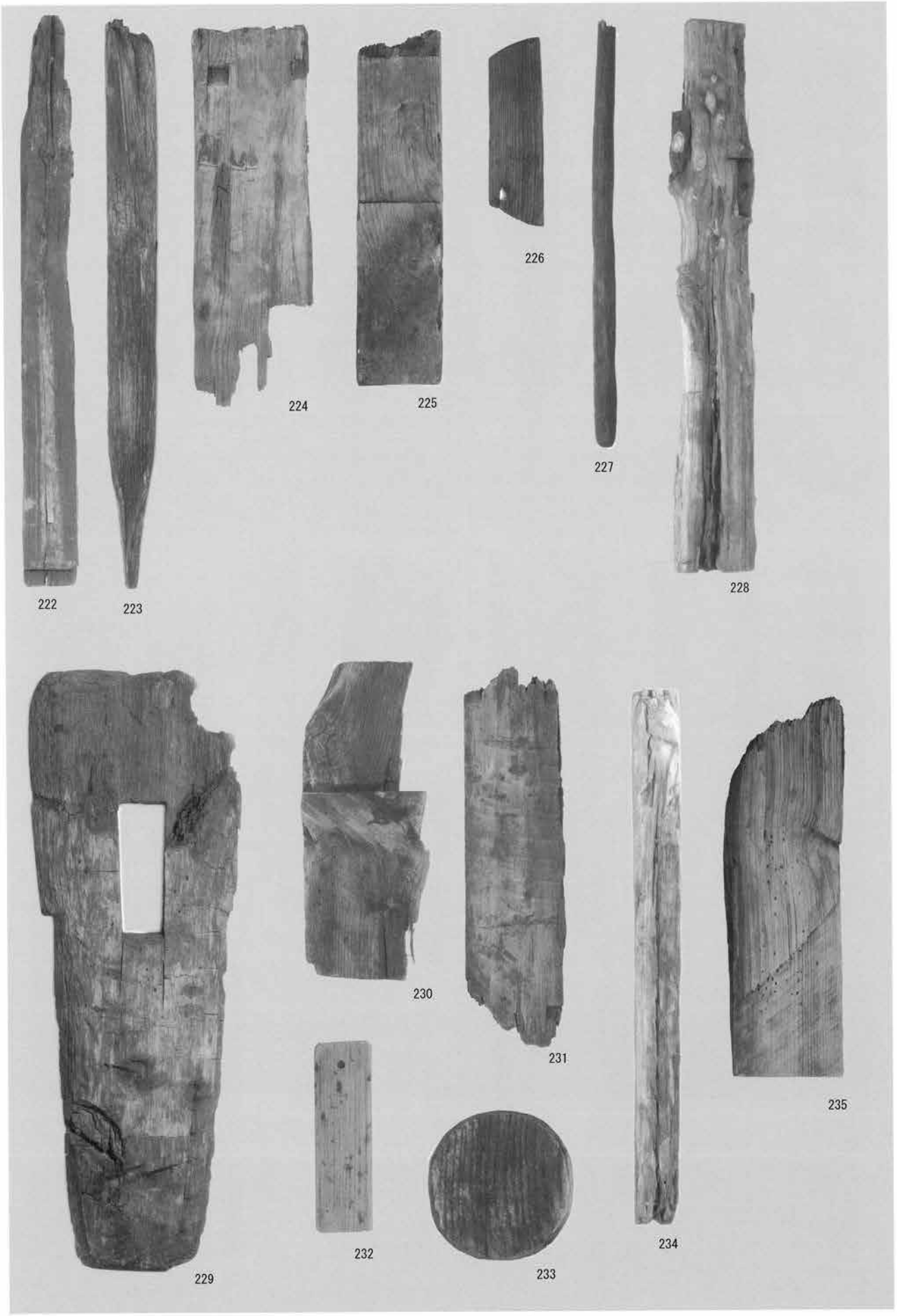


写真 112　1号池出土遺物（13）

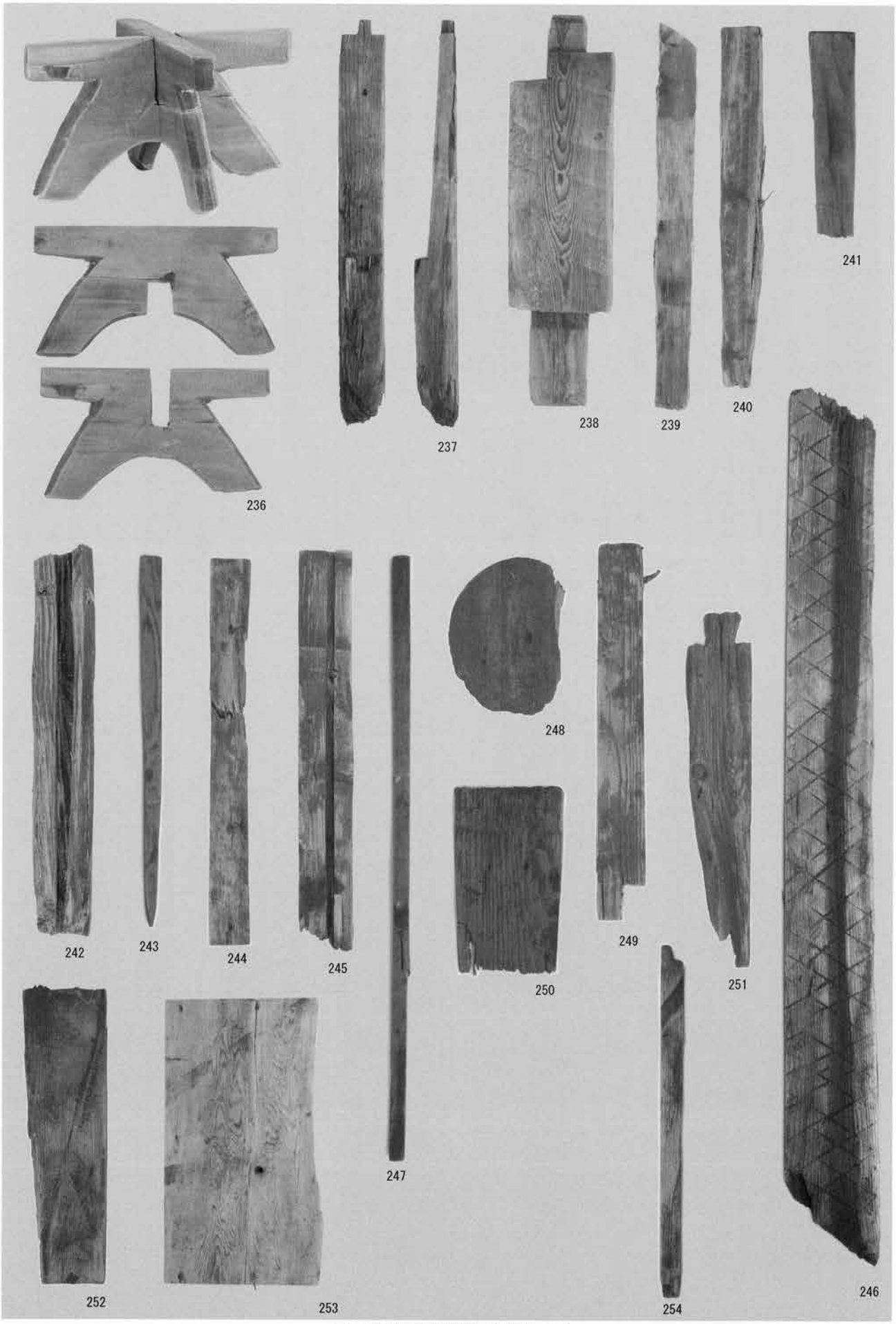


写真 113　1号池出土遺物（14）

写真 114　1号池出土遺物（15）

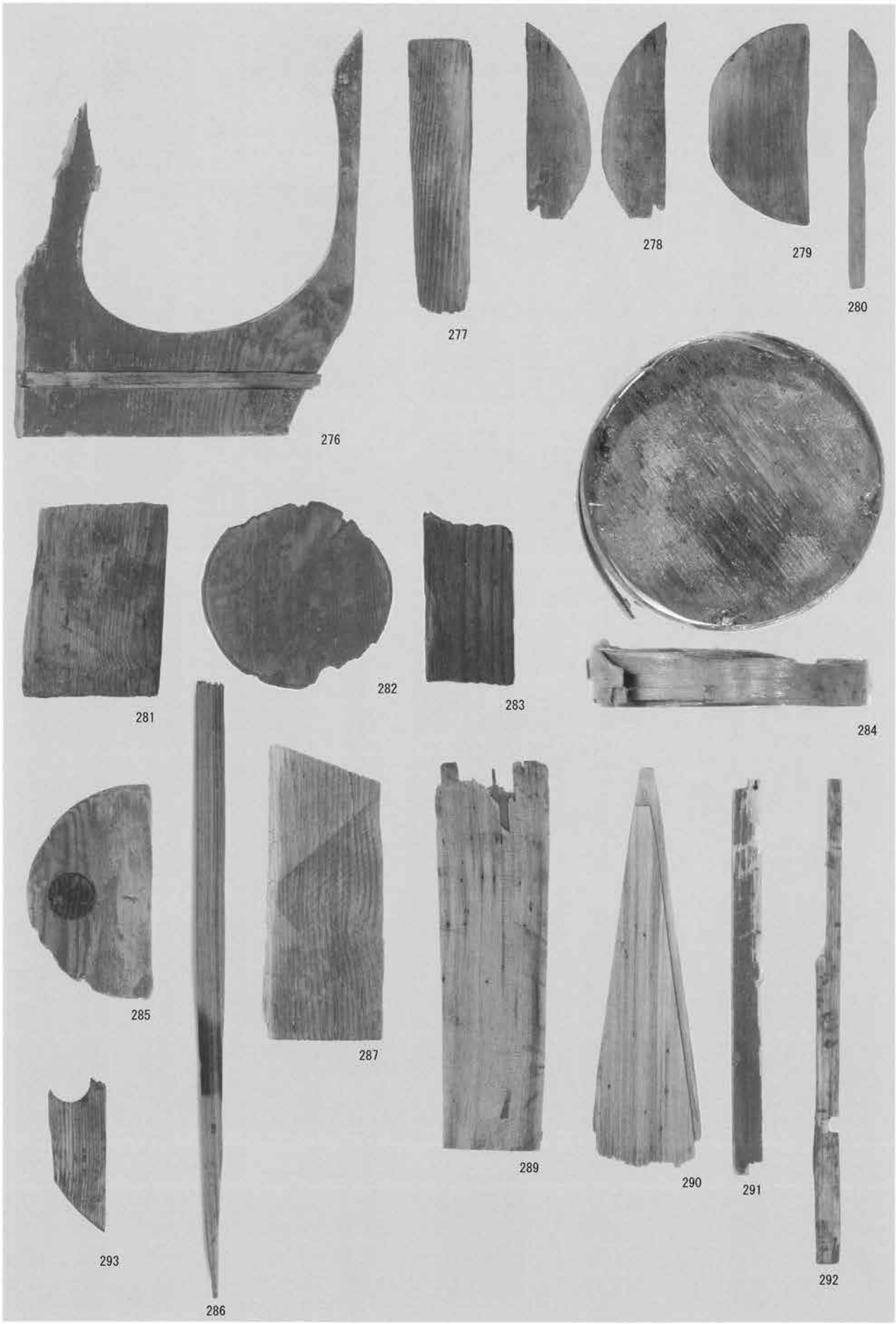


写真 115　1号池出土遺物（16）

写真 116　1号池出土遺物（17）

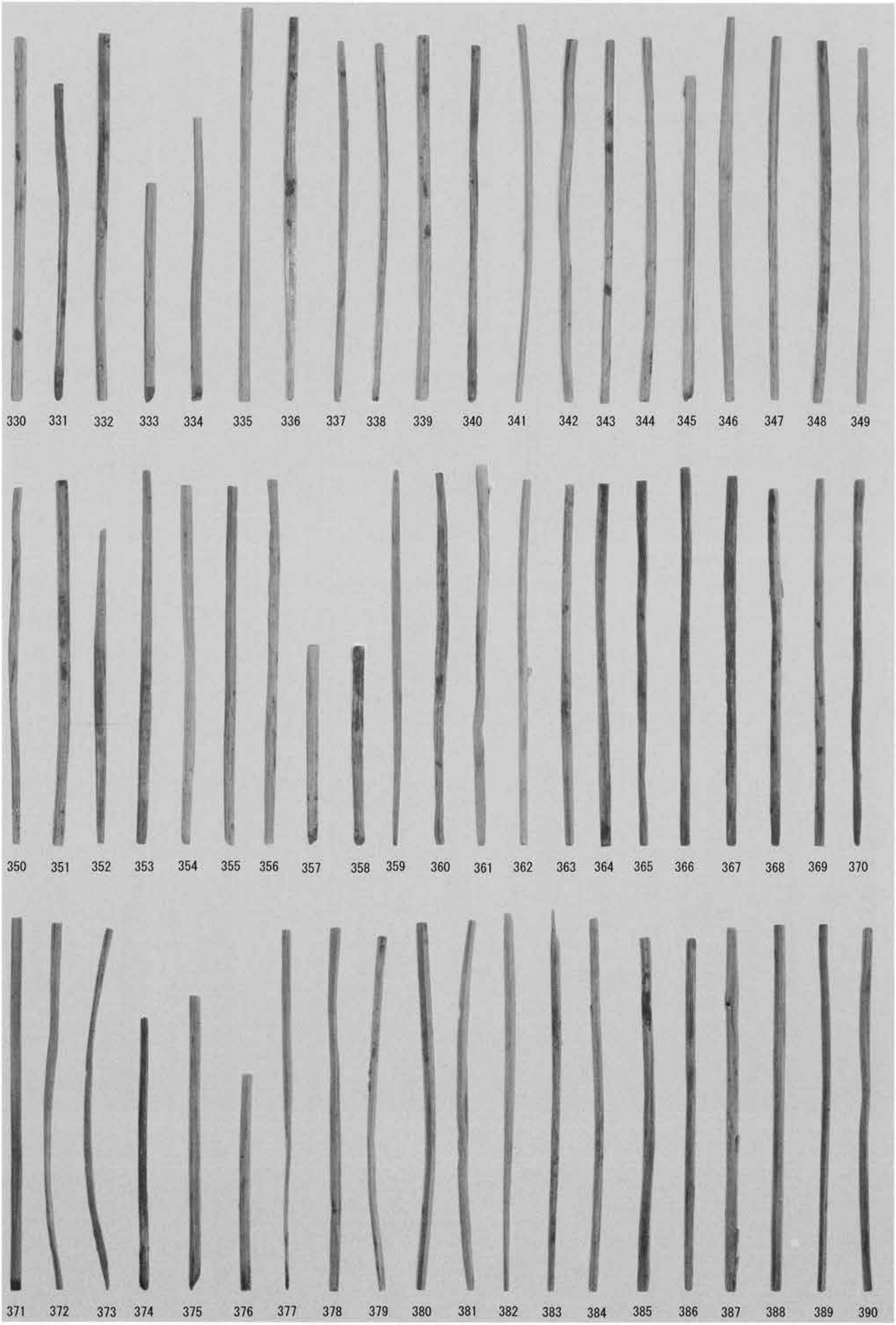


写真 117　1号池出土遺物（18）

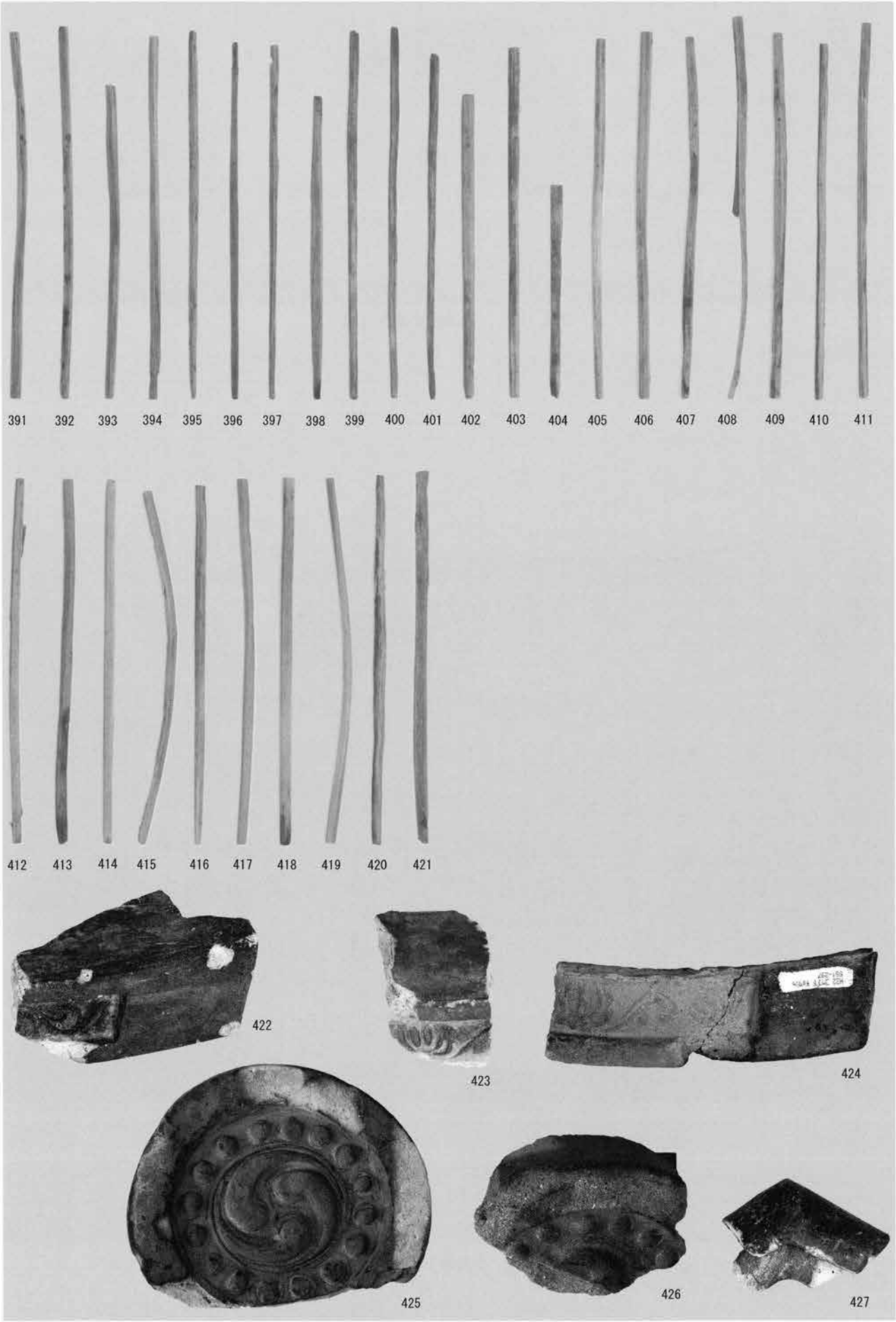


写真 118　1号池出土遺物（19）

写真 119　1号池出土遺物（20）

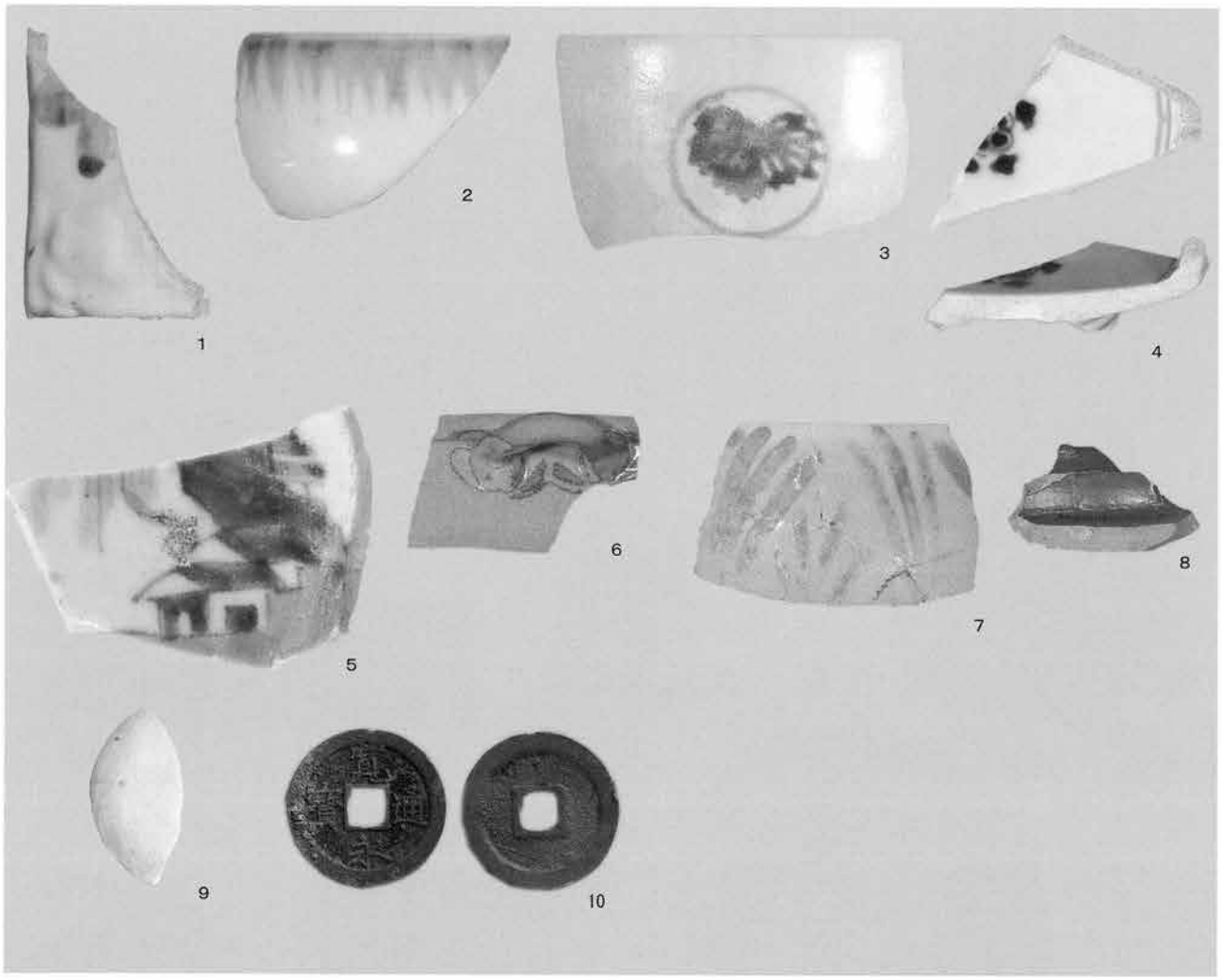


写真 120　2号集石出土遺物

第７節　土坑

１号土坑（図 104）

Ｇ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.49 m、幅 0.28 m、深さ 0.16 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は１号土坑が６号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

２号土坑（図 104）

Ｇ 10 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.57 m、幅 0.55 m、深さ 0.05 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は２号土坑が４号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

３号土坑（図 104・105・113）

Ｇ 10 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.39 m、幅 0.30 m、深さ 0.24 mである。平面形は方形である。西側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係は３号土坑が４号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。1 度作り替えがされている。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は瓦１点（１）を図示した。瓦：１は丸瓦である。

４号土坑（図 104・113）

Ｇ 10 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.52 m、幅 0.40 m、深さ 0.21 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は４号土坑が３号、５号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器１点（1）、土器２点（2・3）を図示した。陶器: １は碗である。土器: ２は焙烙、３は焜炉類である。

５号土坑（図 104・105・113）

Ｇ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.57 m、幅 0.37 m、深さ 0.19 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は５号土坑が４号、30 号土坑を切っている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。底面が２面確認できる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器１点（1）、土器１点（2）を図示した。陶器：１は小皿である。土器：２は焼塩壺蓋である。

６号土坑（図 104・105）

Ｇ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.36 m、幅 0.31 m、深さ 0.15 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は６号土坑が１号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。底面が２面確認できる。

30 号土坑（図 104・105）

Ｇ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.36 m、幅 0.25 m、深さ 0.09 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は 30 号土坑が５号土坑に切られている。灰が堆積し、底面が焼けている。竈跡と考えられる。

14 号土坑（図 106）

Ｉ５グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.54 m、幅 0.40 m、深さ 0.52 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は１号池を切る。

15 号土坑（図 106・113）

Ｉ 10 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.95 m、幅 0.47 m、深さ 0.50 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器１点（１）を図示した。陶器：１は碗である。

16 号土坑（図 107・113）

H10 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 1.17 m、幅 0.50 m、深さ 0.36 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器２点（１・２）を図示した。陶器：１・２は灯明受付皿である。

17 号土坑（図 107・113）

Ｈ８グリッドに位置する。検出範囲で長さ 1.38 m、幅 0.60 m、深さ 0.15 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器３点（１～３）、土器１点（４）を図示した。陶器: １～３は碗、土器：４は小皿である。

18 号土坑（図 107）

Ｇ 11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.62 m、幅 0.28 m、深さ 0.15 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

19 号土坑（図 108・113）

Ｈ７グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.42 m、幅 0.12 m、深さ 0.12 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器１点（1）、金属製品１点（2）を図示した。陶器:

１は秉燭、金属製品：２は煙管吸口で羅宇が残る。

20 号土坑（図 108・113）

Ｆ 10・11 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.72 m、幅 0.70 m、深さ 0.24 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。底面壁面が焼けている。炉跡と考えられる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器１点（１）、土器１点（２）を図示した。陶器：１は鉢、土器：２は小皿である。

21 号土坑（図 108・114）

Ｈ８グリッドに位置する。検出範囲で長さ 1.30 m、幅 0.98 m、深さ 0.26 mである。平面形は不整形で、北半は撹乱されている。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器５点（１～５）、陶器５点（６～11）、土製品１点（12）、瓦１点（13）を図示した。磁器：１・３～５は碗、２は蓋である。陶器：６は火鉢、７は灯明受付皿、８は鉢、９・11 は碗、10 は餌入れ、土製品：12 は碁石、瓦：13 は軒丸瓦である。

22 号土坑（図 108・114）

Ｅ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 1.17 m、幅 0.98 m、深さ 0.25 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、22 号土坑が 11 号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器３点（１～３）、土器１点（４）を図示した。陶器：１は小鉢、２は小皿、３は餌入れである。土器：４は火鉢である。

23 号土坑（図 109・114）

Ｅ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.80 m、幅 0.66 m、深さ 0.15 mである。平面形は不整形である。他の遺構との切り合い関係は、23 号土坑が 43 号・45 号ピットに切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器３点（２～４）を図示した。磁器：１は碗である。陶器：２・４は擂鉢、３は蓋である。

24 号土坑（図 109・114）

Ｅ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.55 m、幅 0.52 m、深さ 0.31 mである。平面形は楕円である。他の遺構との切り合い関係は 24 号土坑が 11 号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器２点（１・２）、土器１点（３）、瓦１点（４）を図示した。陶器：１は蓋、２は鉢である。土器：３は火鉢、瓦：４は軒丸瓦である。

26 号土坑（図 109・115・116）

Ｅ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 1.45 m、幅 0.65 m、深さ 0.55 mである。平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 26 号土坑が 11 号溝を切る。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器 11 点（１～11）、陶器 21 点（12～32）、土器 15 点（33～47）、土製品１点（48）、金属製品２点（49・50）を図示した。磁器：１は皿、２・７・10 は丸碗、３・４・９は碗、５・６は端反碗、８は瓶、11 は鉢である。陶器：12・22・28・32 は鉢、23 は壺、24 は擂鉢、25～27 は土瓶、29 は擂鉢、30 は土管、31 は人形である。土器：33～37・42～44・47 は小皿、40・41 は焼塩壺、45 は焼塩壺蓋、46 は焙烙である。土製品：48 は碁石、金属製品：49 は煙管雁首、50 は楔である。

27 号土坑（図 110・117）

Ｇ 11・12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.94 m、幅 0.73 m、深さ 0.49 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器 10 点（１～10）、陶器 16 点（11～26）、石製品２点（27・28）を図示した。磁器：１は筒丸碗、２は瓶、３・4・６～８・10 は丸碗、５・９は皿である。陶器：11 は碗、12～14・16・24 は土瓶、15・17・20・23 は鉢、18・19・25 は蓋、21・22・26 は擂鉢である。石製品：27・28 は石筆である。

28 号土坑（図 110・118）

Ｇ 14 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.46 m、幅 0.40 m、深さ 0.05 mである。平面形は楕円形である。28 号土坑が３号溝に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器６点（１～６）、土器２点（７・８）を図示した。陶器：１は鍋、２は蓋、３は擂鉢、４は香炉、５は灯明受付皿、６は土瓶である。土器：７は焼塩壺蓋、８は焜炉である。

29 号土坑（図 110・118）

Ｇ 12 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 0.40 m、幅 0.26 m、深さ 0.19 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器１点（２）を図示した。磁器：１は筒形碗、陶器：２は鍋である。

31号土坑（図111・118）

C 11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.54 m、幅0.30 m、深さ0.13 mである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器1点（1）を図示した。磁器：1は鉢である。

33号土坑（図111・119）

H 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.55 m、幅0.54 m、深さ0.40 mである。平面形は円形である。切り合い関係は32号土坑に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は陶器1点（1）、銭貨4点（2～5）を図示した。陶器：1は行平鍋蓋である。銭貨：2・3・5は寛永通宝四文銭、4は文久永宝である。

35号土坑（図111）

I 10・11グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.56 m、幅0.56 m、深さ0.23mである。南側は撹乱され消失している。

37号土坑（図112・119）

H 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ1.04 m、幅1.02 m、深さ0.60 mである。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は、12号土坑に切られる。

出土遺物は土坑覆土で検出されている。遺物は磁器2点（1～2）、陶器4点（3～6）、土器1点（7）を図示した。磁器：1・2は丸碗である。陶器：3は瓶、4は鉢、5は土瓶、6は皿である。3は釘書きされた通い徳利である。土器：7は焼塩壺である。

38号土坑（図112）

H 7・8グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.53 m、幅0.52 m、深さ0.48 mである。平面形は円形である。東側は撹乱され消失している。他の遺構との切り合い関係はない。

39号土坑（図112）

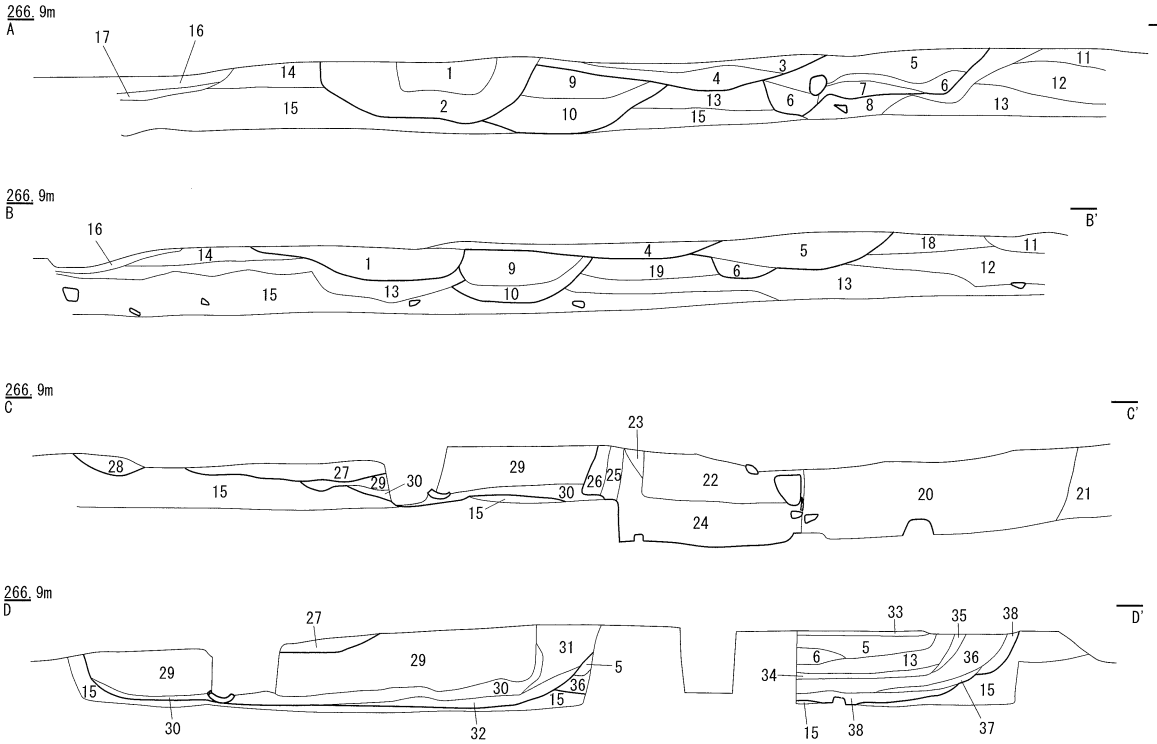
G 14グリッドに位置する。検出範囲で長さ0.85 m、幅0.23 m、深さ0.30 mである。撹乱されており平面形の全容は不明である。他の遺構との切り合い関係はない。

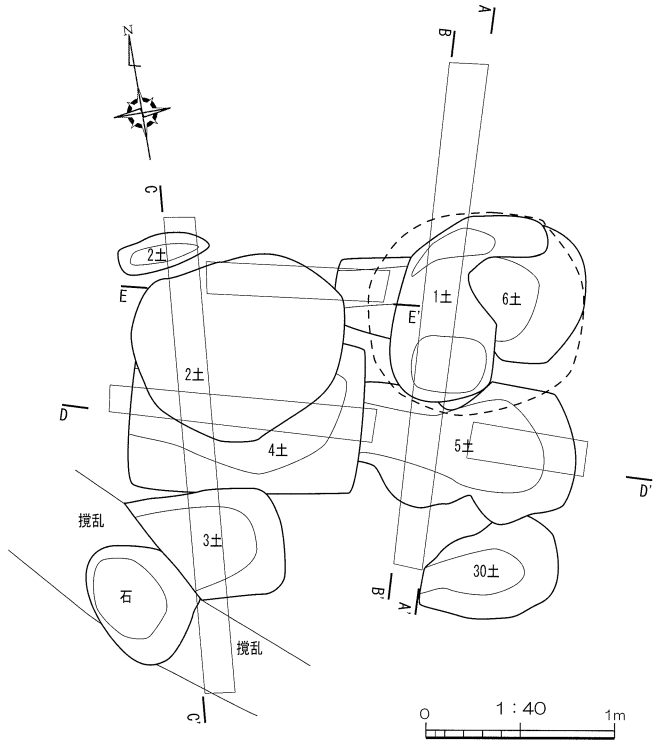
写真121　1号～6号・30号土坑検出状況　北から

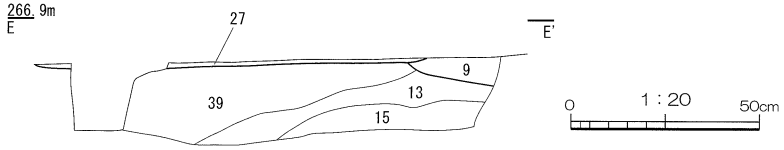
写真122　土間三和土・土坑土層断面　北から

写真123　3号土坑完掘状況　北から

写真124　4号土坑完掘状況　西から

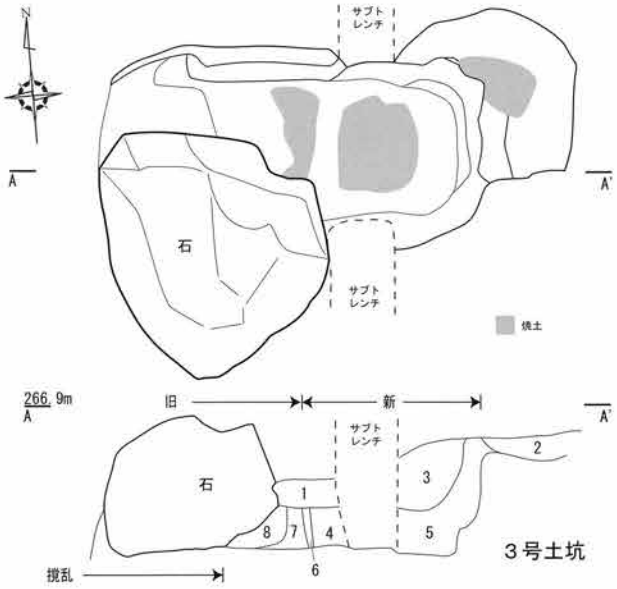






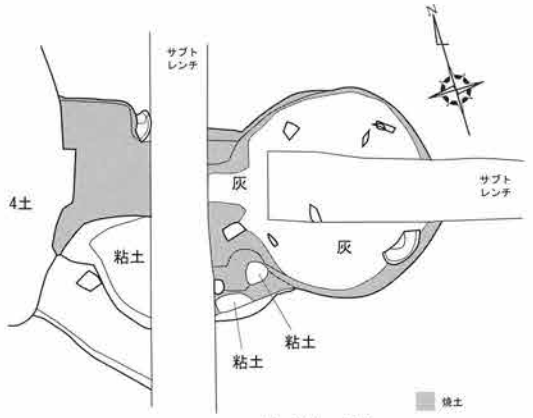
1. １土　黒色　10YR2/1　シルト　締り強く、粘性は弱。1mmの炭化粒を2%、1mmの焼土粒を5%含む。
2. １土　褐灰色　10YR4/1　シルト　締り弱く、粘性は強。5mmの焼土粒を10%、5mmの白色粘土を1%含む。
3. １土　黒褐色　10YR2/3　砂質土　締り弱く、粘性は弱。5mmの炭化物を20%、1mmの焼土粒を5%含む。
4. １土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性は弱。
5. ５土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。1mmの炭化物を1%、5mmの焼土粒を10%、1mmの白色粘土を5%含む。
6. ５土　暗褐色　10YR3/3　シルト　締り強く、粘性は強。5～10mmの焼土粒を80%、1mmの炭化粒を10%含む。
7. ５土　黒褐色　10YR3/1　シルト　締り中、粘性は弱。2mmの焼土を1%、2mmの炭化粒を1%含む。
8. 黒褐色　10YR3/2　シルト　締り強く、粘性は中。3mmの炭化粒を2%含む。
9. ６土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。灰層。
10. ６土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性は弱。
11. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。1～5mmの炭を3%、2～5mmの焼土を5%含む。
12. にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト　締り強く、粘性は中。5～10mmの炭化物を5%、5mmの焼土粒を5%含む。
13. 灰白色　10YR8/1　粘土　締り強く、粘性は強。1～2mmの白色粘土を10%、1～2mmの黄色粘土を10%含む。
14. 黒褐色　10YR3/2　シルト　締り強く、粘性は弱。5mmの黄色粘土を2%含む。
15. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。2mmの焼土粒を1%、2mmの黄色土粒を1%含む。
16. 褐灰色　10YR4/1　シルト　締り強く、粘性は弱。1mmの炭化粒を2%含む。
17. 赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性は弱。
18. 赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性は弱。
19. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。
20. 下水・水道管撹乱
21. 暗褐色　10YR3/3　締り強く、粘性は弱。5mmの炭化粒を1%、5mmの黄色土粒を1%含む。
22. ３土　黒色　10YR2/1　締り弱く、粘性はなし。1cmの焼土粒を2%含む。
23. ３土　褐灰色　10YR4/1　粘土　締り中、粘性は強。
24. ３土　黒褐色　10Yr2/2　シルト　締り弱く、粘性は弱。1cmの炭化粒を3%、1cmの焼土粒を2%含む。
25. ３土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。（26の粘土が焼けた範囲）
26. ３土　褐灰色　10YR4/1　粘土　締り中、粘性は強。
27. ２土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。
28. ２土　黒色　10YR2/1　締りは中、粘性は弱。1mmの炭化粒を2%、1mmの焼土粒を5%含む。
29. ４土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は中。1cmの炭化粒を5%、5mmの焼土粒を5%含む。
30. ４土　黒褐色　10YR2/3　シルト　締り中、粘性は弱。1cmの焼土粒を10%、1～5cmの炭化物を10%含む。
31. ４土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は中。1cmの炭化粒を1%、1～3mmの焼土粒を3%含む。
32. ４土　黒色　10YR2/1　炭化物層　締り中、粘性はなし。
33. ５土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。
34. ５土　黒色　10YR2/1　炭化物層　締り中、粘性はなし。
35. ５土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。
36. ５土　灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は中。5～30mmの焼土を5%、5mmの炭化粒を2%含む。
37. ５土　黒褐色　10YR3/2　シルト　締り強く、粘性は中。
38. ５土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。
39. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は中。5mmの炭化粒を7%、5mmの焼土を1%含む。

図104　土坑（１）

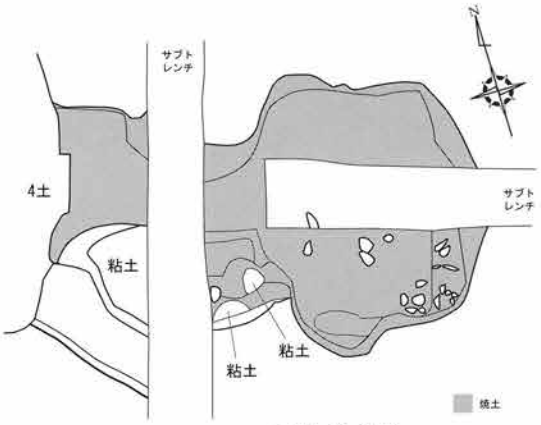


1. 黒色　10YR2/1　締り弱く、粘性はなし。
1cmの焼土粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2 締まり強く、粘性は弱い。
5～10mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土粒を5%含む。
3. 新３土　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、
粘性は中。5mm大の炭化物を7%含む。5mm大の焼土を5%含む。
4. 新３土　黒褐色　10Yr2/2　シルト　締り弱く、粘性は弱。
1cmの炭化粒を3%、1cmの焼土粒を2%含む。
5. 新３土　黒褐色土　10YR3/2　締まり強く、粘性は弱い。
5cm大の焼土ブロックを40%、5cm大の炭化物を1%含む。
6. 新３土　赤褐色　2.5YR4/8　焼土　締り強く、粘性はなし。
(26の粘土が焼けた範囲)
7. 新３土　褐灰色　10YR4/1　粘土　締り中、粘性は強。
8. 旧３土　暗褐色土　10YR3/3 締まり強く、粘性は中。
2cm大の焼土ブロックを5%、5mm大の炭化粒を5%含む。

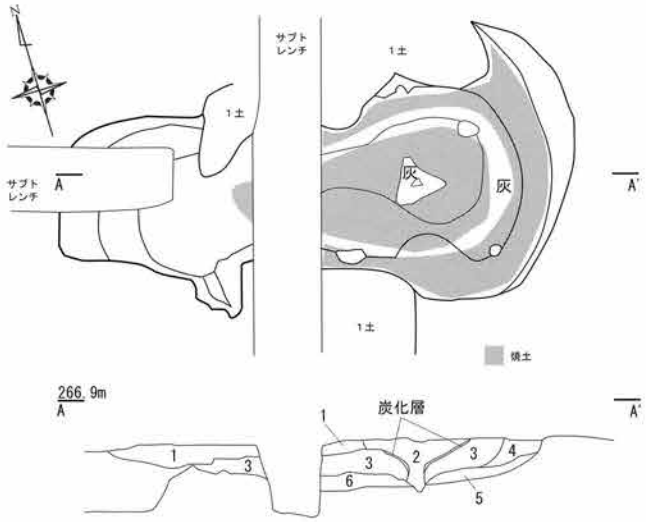
３号土坑



５号土坑（新）

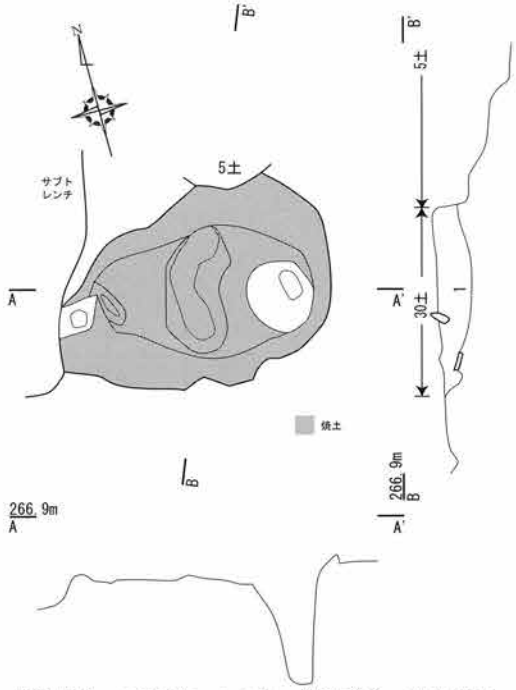


５号土坑（旧）



1. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。
2. 暗褐色土　10YR3/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
3. 灰白色土　10YR7/1　灰　締まり強く、粘性は弱い。
4. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。
5. 灰白色土　10YR7/1　灰　締まり強く、粘性は弱い。
6. 明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土　締まり強く、粘性無し。

６号土坑



1. 灰黄褐色　10YR4/2　シルト　締り強く、粘性は弱。
1～5mmの炭を3%含む。

30号土坑

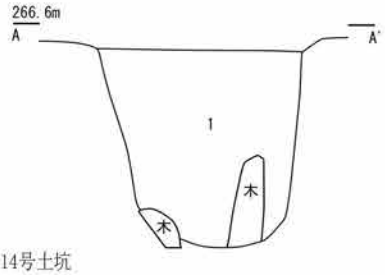
0　1:20　50cm

図 105　土坑（２）

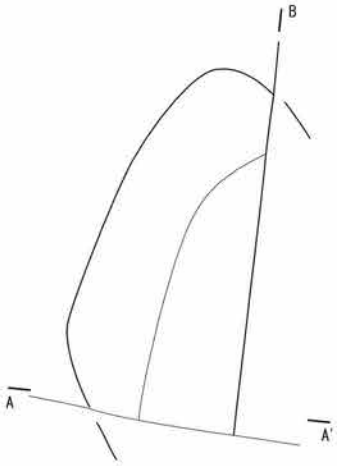
写真 125　５号土坑完掘状況　北から

写真 126　６号土坑完掘状況　北から

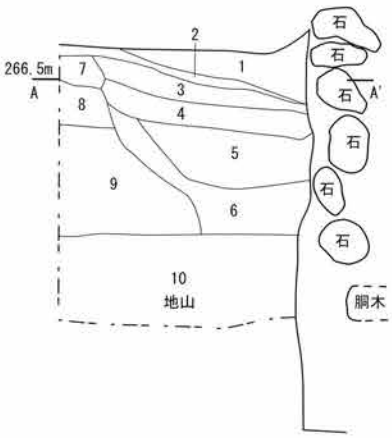
14号土坑



14号土坑
1.灰色土　7.5Y4/1　粘土　締まり弱く、粘性強い。



15号土坑



15号土坑
1.にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は中。2～5mm大の炭化粒を5%、5mm大の黄色土粒を7%含む。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
3.にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～20mm大の円礫を7%含む。
4.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。2mm大の炭化粒を2%含む。
5.にぶい黄褐色土　10YR5/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。5～10mm大の亜円礫を2%含む。
6.にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く、粘性は弱い。2～10mm大の炭化粒を3%、3mm大の焼土粒を1%含む。
7.にぶい黄褐色土　10YR5/4　シルト　締まり強く粘性は中。5mm大の炭化粒を1%、5mm大の円礫？を3%含む。
8.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を1%含む。
9.にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
10.褐色土　10YR4/6　シルト　締まり強く、粘性は中。

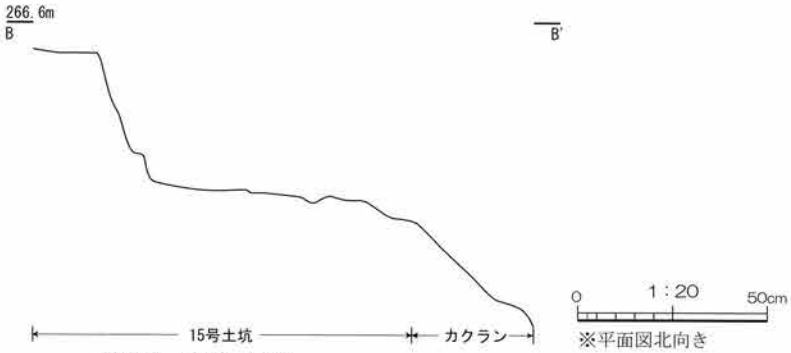
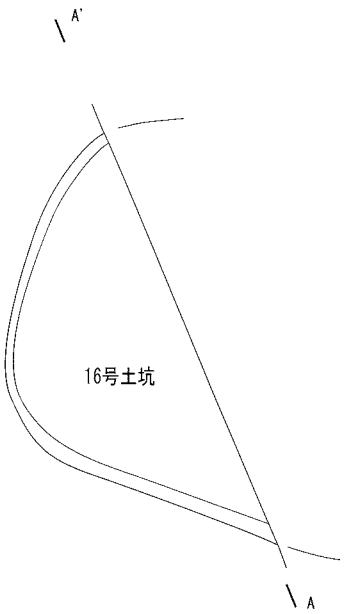
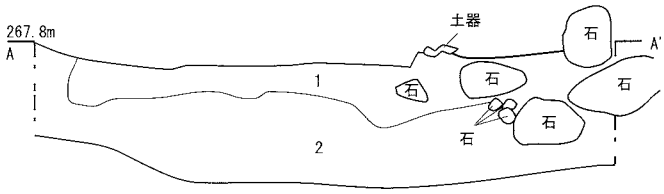
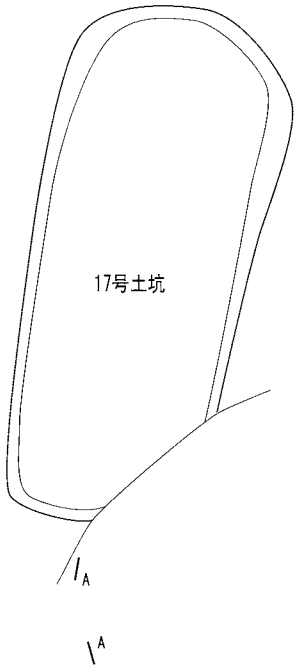


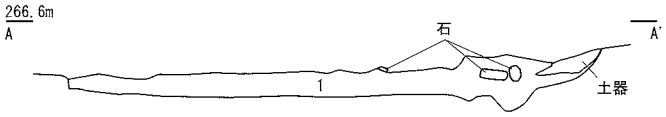
図 106　土坑（３）



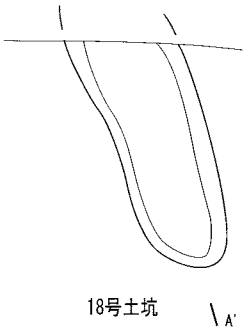


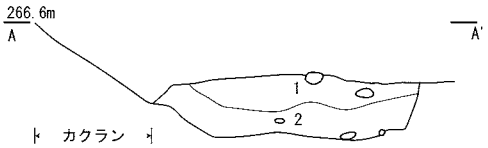
16号土坑
1.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　5～20mm大の炭化物20%、5mm大の焼土粒を10%含む。
2.褐色土　10YR4/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　5mm大の炭化物を2%、1cm大の焼土粒を2%含む。



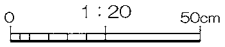


17号土坑
1.黒褐色土 10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　1～4mm大の炭化物を2%、褐鉄鉱を3%、3～10cm大の亜円礫を2%含む。





18号土坑
1.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。2mm大の炭化粒を10%、2mm大の焼土を1%含む。
2.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まりは中、粘性は弱い。2mm大の炭化粒を2%含む。

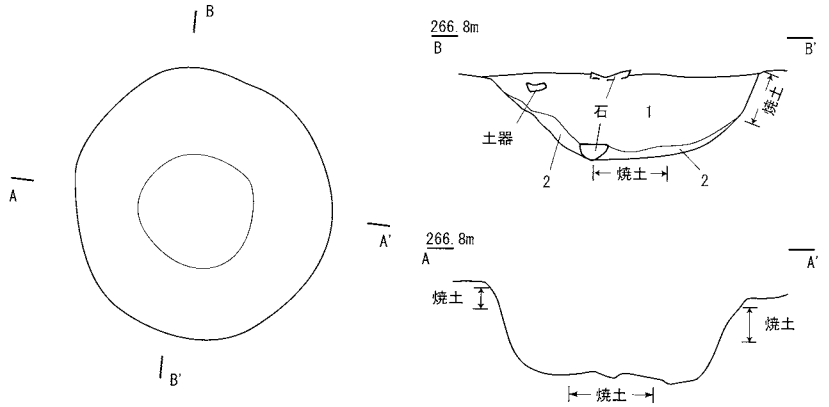


※平面図北向き

図 107　土坑（4）

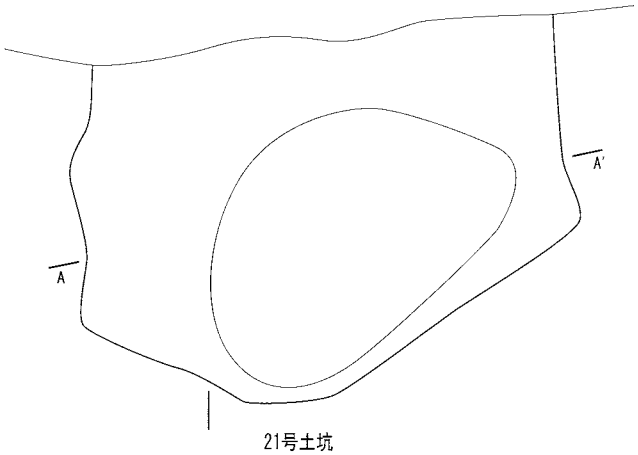
19号土坑

19号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。

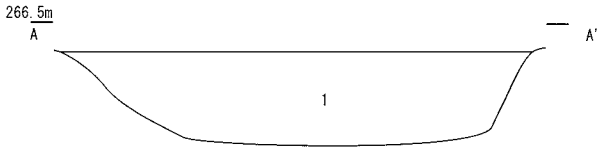


20号土坑

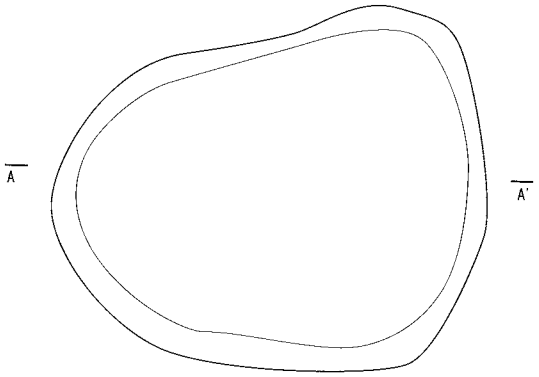
20号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
暗褐色シルト(10YR3/3)を40%、
2～5mmだいの炭化粒を7%含む。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を40%、5mm大の焼土粒を1%含む。



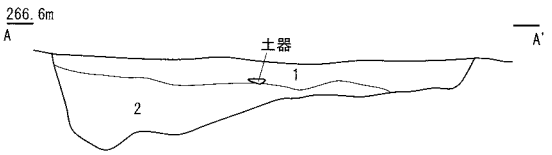
21号土坑



21号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。



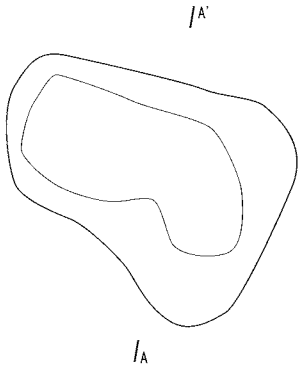
22号土坑



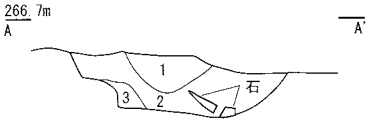
22号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に弱い。
5mm大の焼土を3%、5～10cm大の炭化物を3%含む。
2.黒褐色土　10YR2/3　シルト　締まり弱く、粘性は中。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

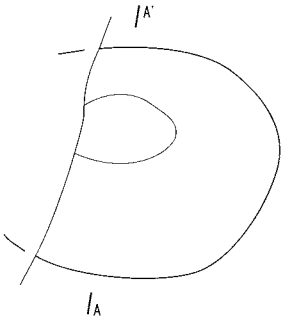
図 108　土坑（5）



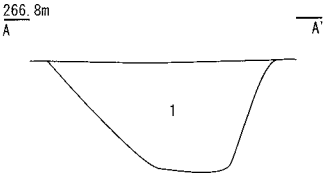
23号土坑



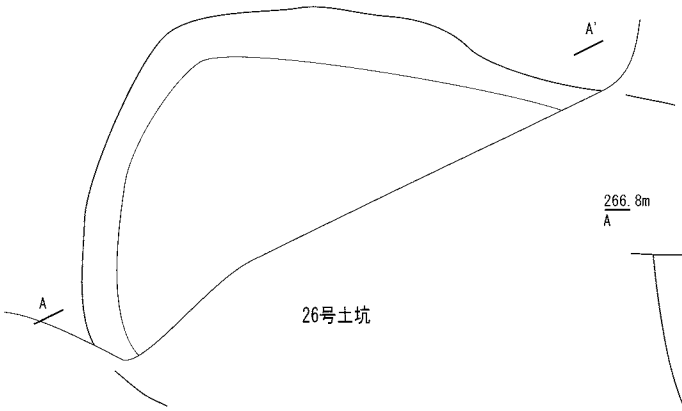
23号土坑
1.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まりは中、粘性は弱い。
　　5mm大の炭化粒を2%含む。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まりは中、粘性は弱い。
　　5cm大の3層地山を5%、5mm大の炭化粒を10%含む。
3.にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　地山。締まり・粘性共に強い。



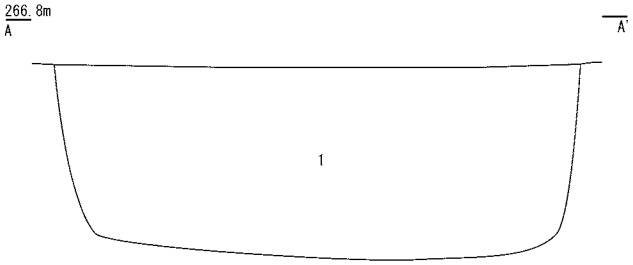
24号土坑



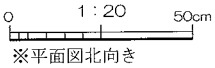
24号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。



26号土坑



26号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。



※平面図北向き

図 109　土坑（6）

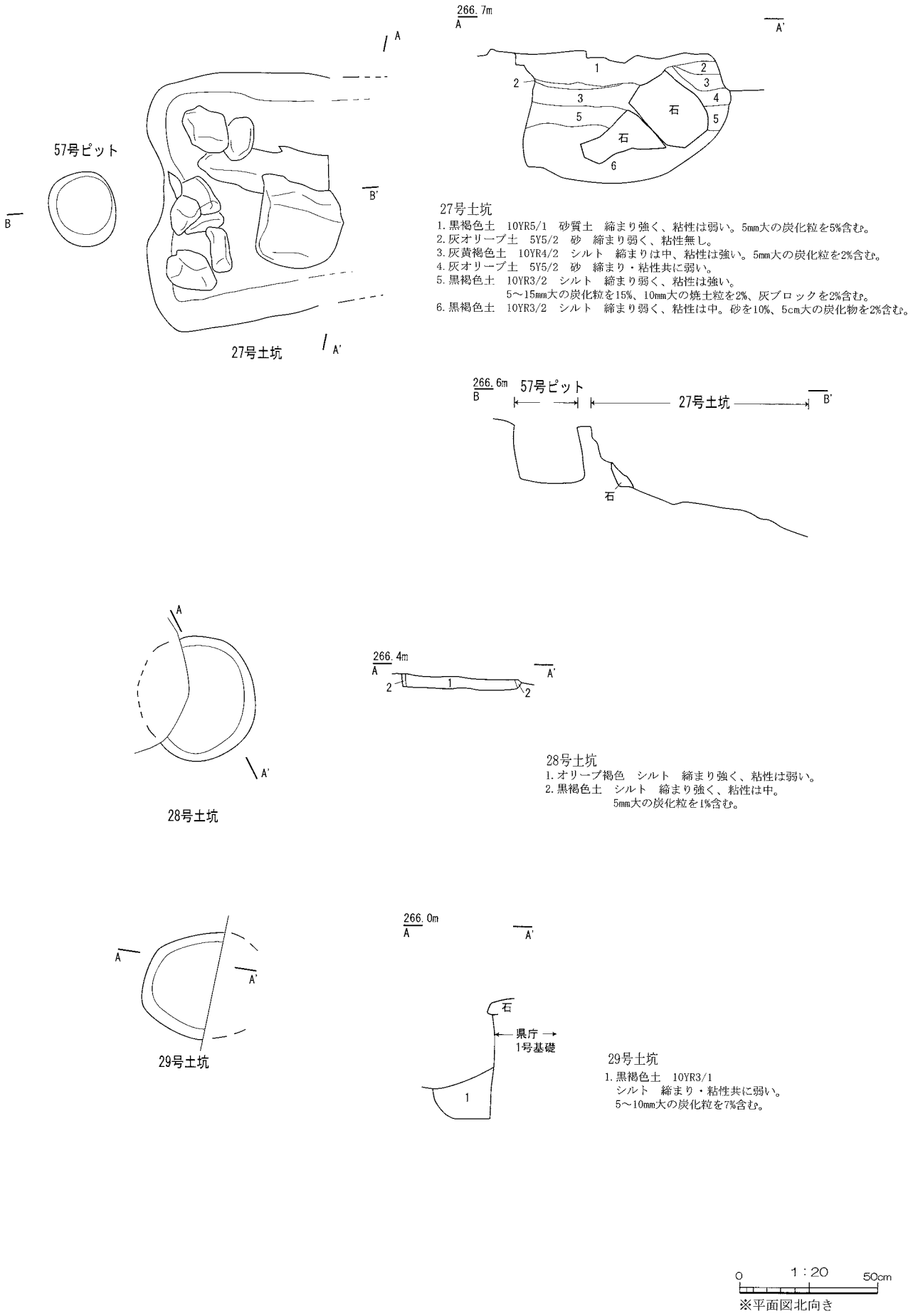
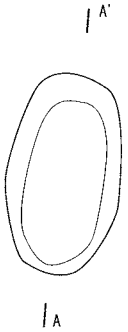
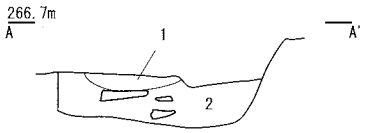

57号ピット
27号土坑
266.7m
石
27号土坑
1.黒褐色土　10YR5/1　砂質土　締まり強く、粘性は弱い。5mm大の炭化粒を5%含む。
2.灰オリーブ土　5Y5/2　砂　締まり弱く、粘性無し。
3.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まりは中、粘性は強い。5mm大の炭化粒を2%含む。
4.灰オリーブ土　5Y5/2　砂　締まり・粘性共に弱い。
5.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり弱く、粘性は強い。
5～15mm大の炭化粒を15%、10mm大の焼土粒を2%、灰ブロックを2%含む。
6.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。砂を10%、5cm大の炭化物を2%含む。
266.6m
57号ピット
27号土坑
石
28号土坑
266.4m
28号土坑
1.オリーブ褐色　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
2.黒褐色土　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を1%含む。
29号土坑
266.0m
石
県庁
1号基礎
29号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1
シルト　締まり・粘性共に弱い。
5～10mm大の炭化粒を7%含む。
0
1：20
50cm
※平面図北向き

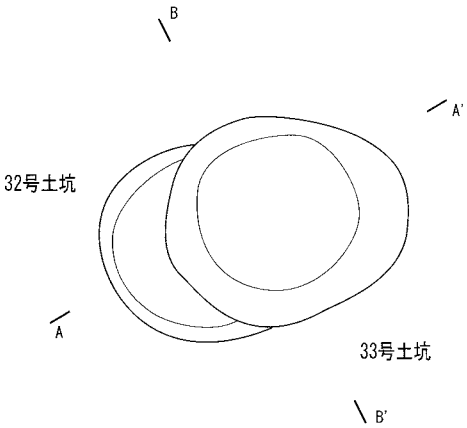
図110　土坑（7）

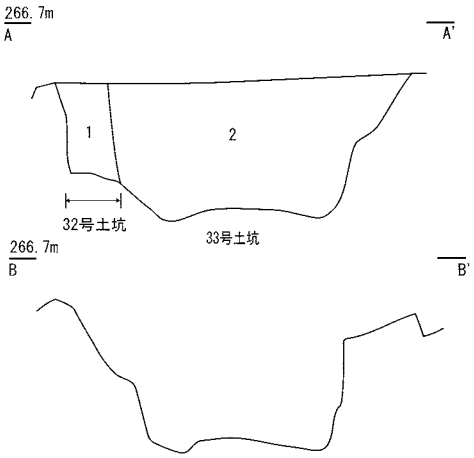


31号土坑

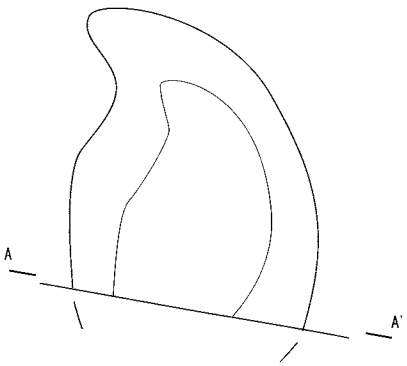


31号土坑
1.にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は中。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。3mm大の炭化物を2%含む。

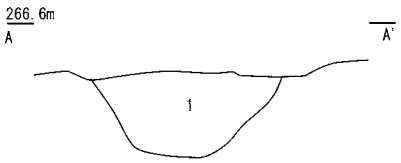




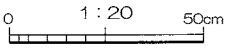
32・33号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
2.黒褐色土　10YR2/3　シルト　締まり弱く、粘性強い。



35号土坑

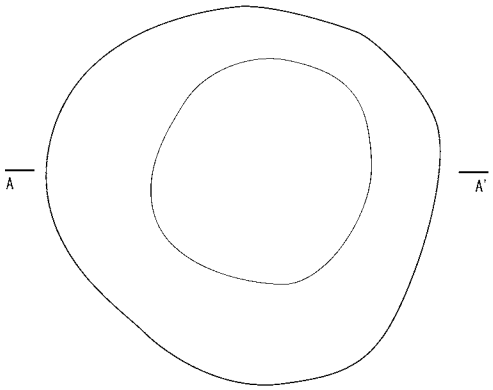


35号土坑
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。
5～15mm大の炭化粒を10%含む。

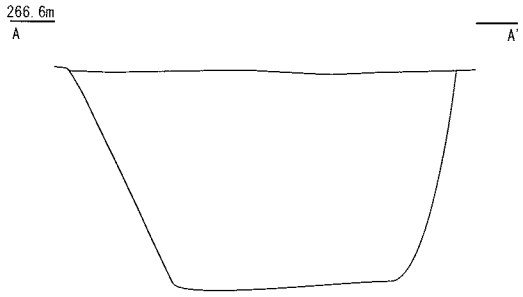


※平面図北向き

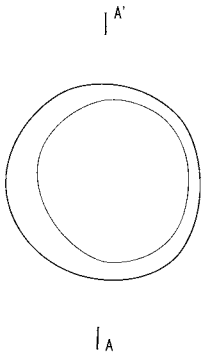
図111　土坑（8）



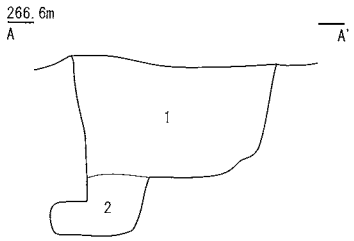
37号土坑



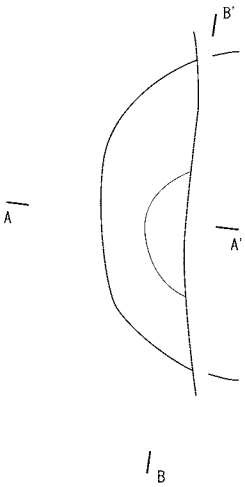
37号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。3mm大の炭化物を2%含む。



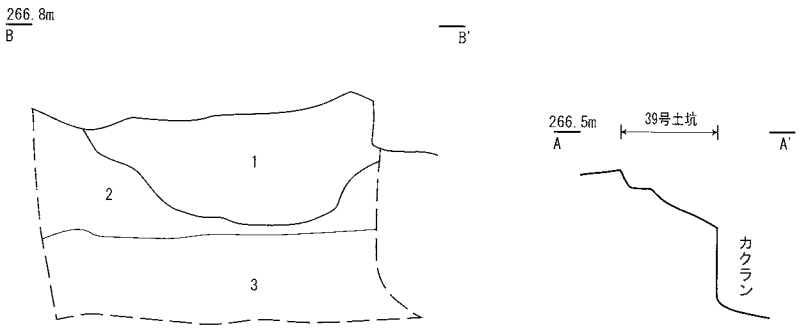
38号土坑



38号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性強い。
　　5mm大の炭化物を7%、褐鉄鉱を3%含む。
2. 褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり・粘性共に強い。



39号土坑



39号土坑
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。
　　2～3mm大の炭化粒を1%、5cm大の亜円礫を1%、1～2cm大の亜円礫を1%含む。
2. 暗褐色土　10YR3/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　2～3mm大の炭化粒を1%、2～3cm大の黄色土粒を10%含む。
3. 褐色土　10YR4/4　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　10cm大の亜円礫を1%、2～5cm大の亜円礫を5%含む。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

図112　土坑（9）

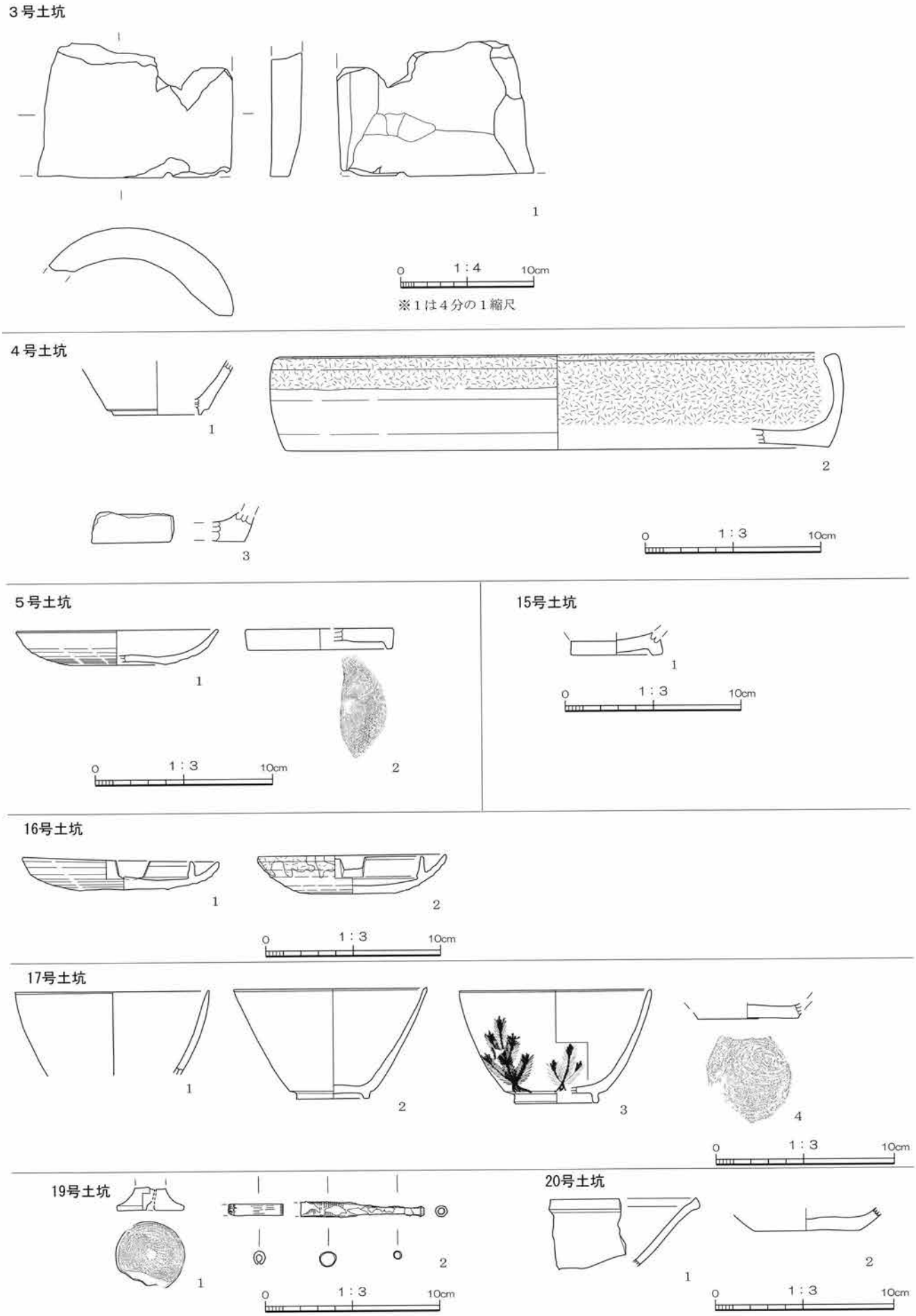


図 113　土坑出土遺物（1）

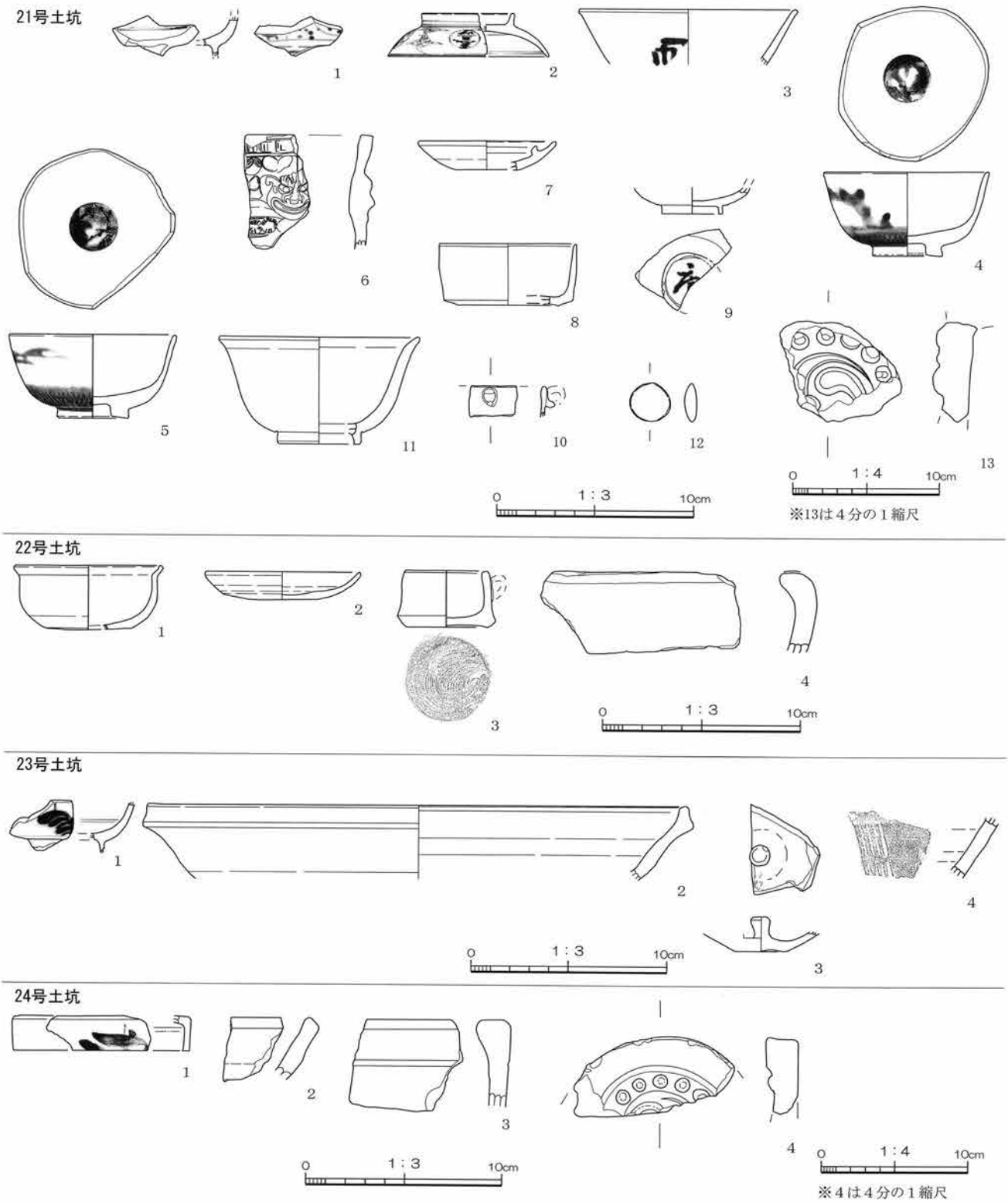


図 114　土坑出土遺物（2）

26号土坑

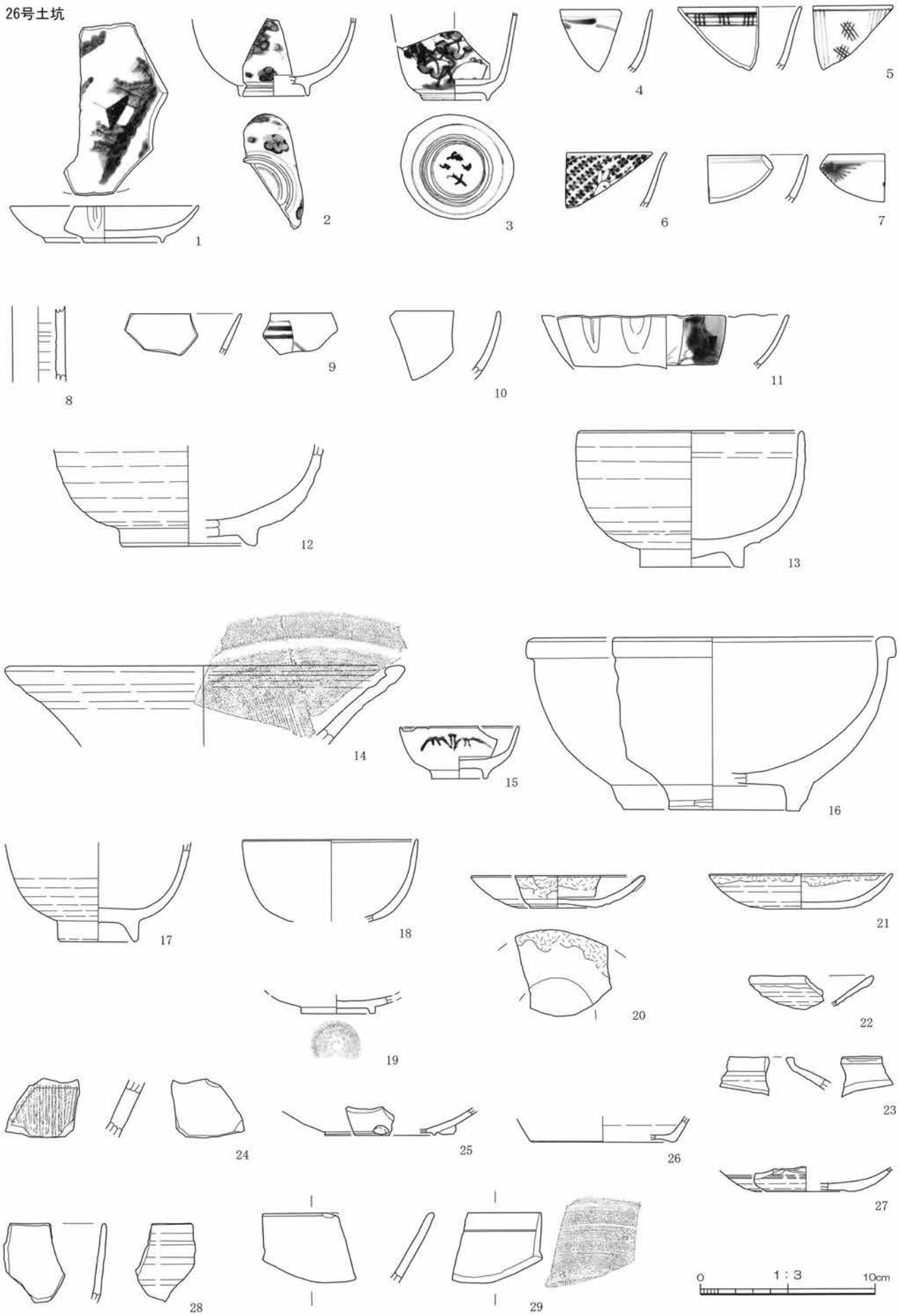


図 115　土坑出土遺物（3）

26号土坑

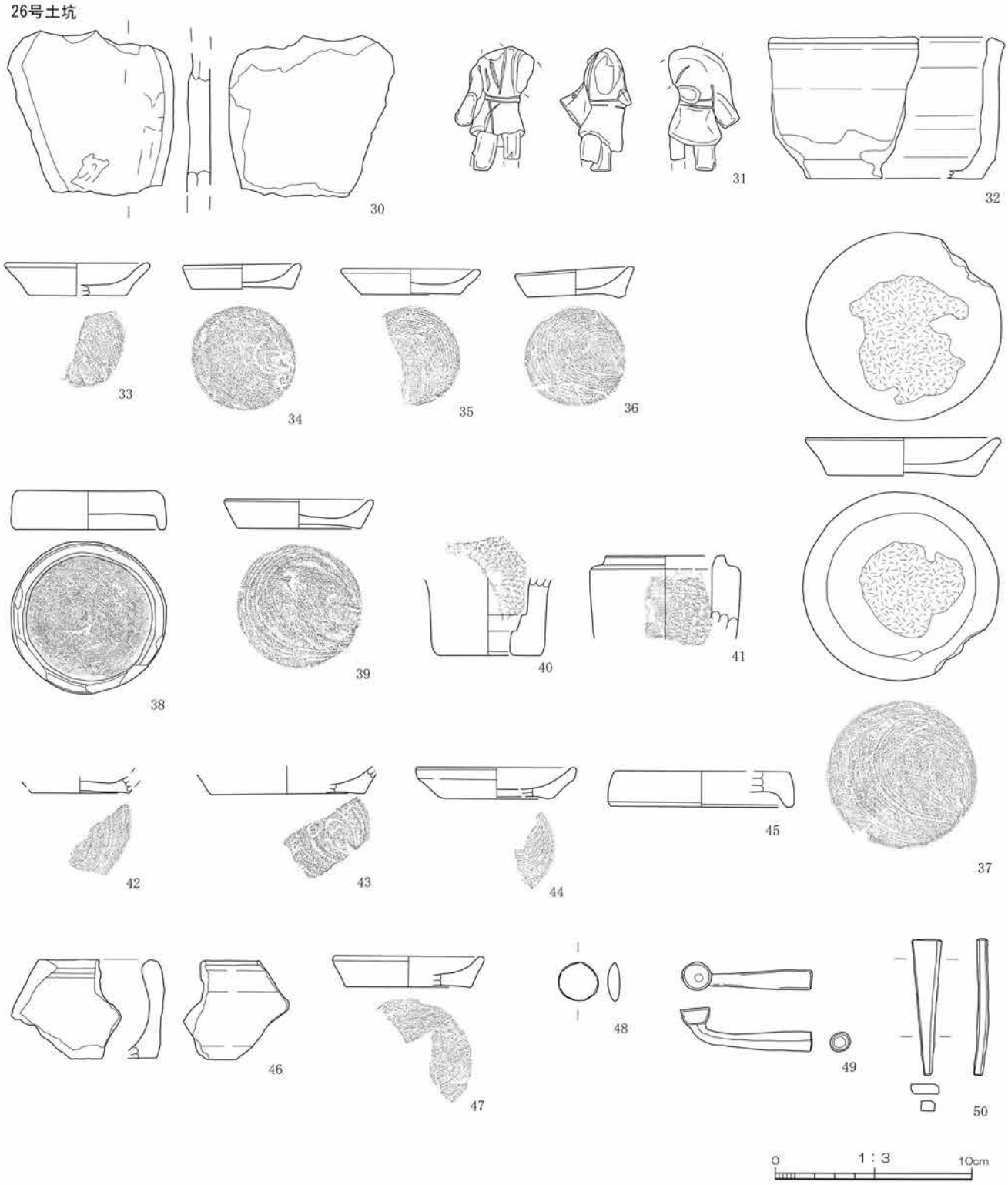


図 116　土坑出土遺物（4）

27号土坑

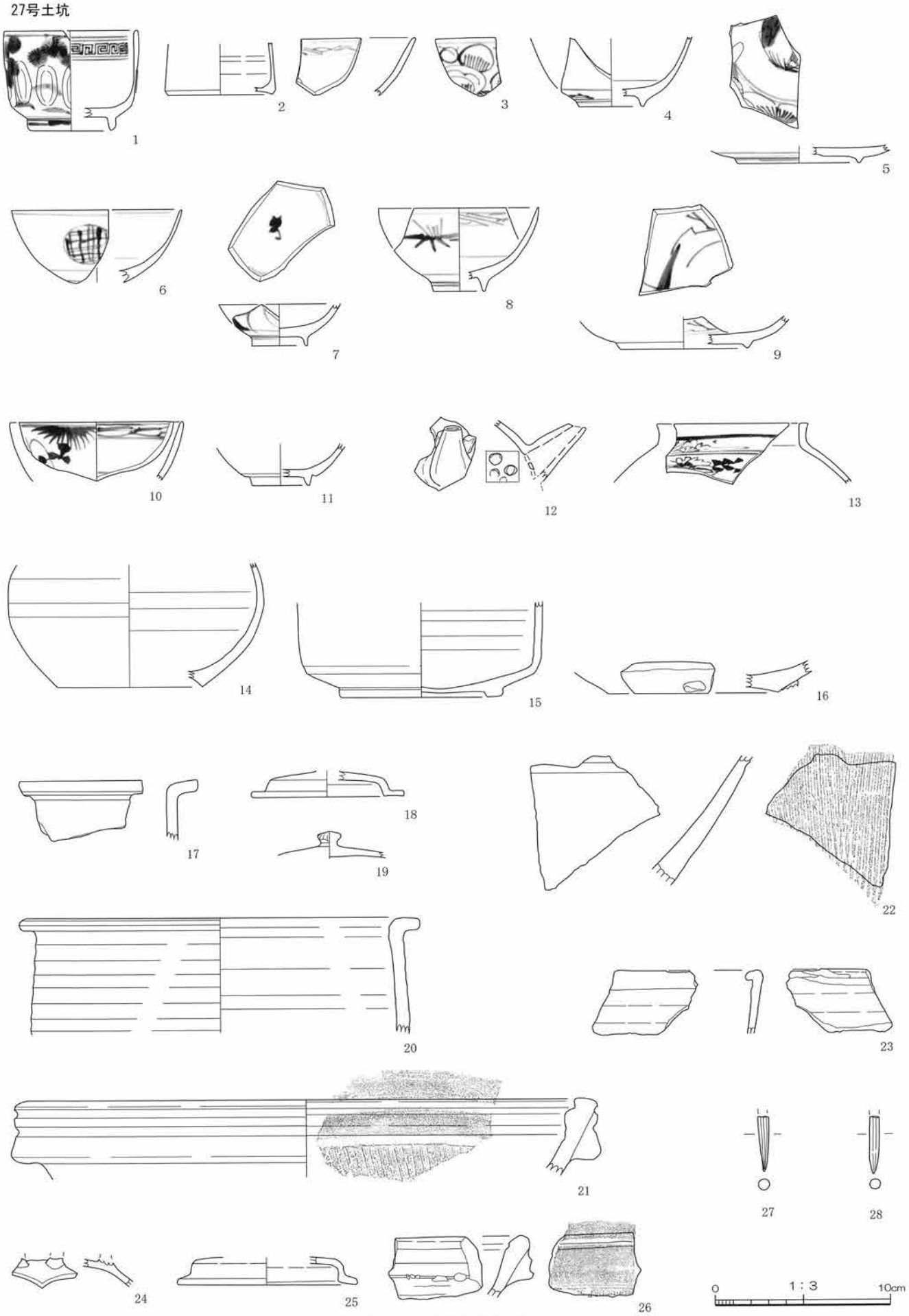
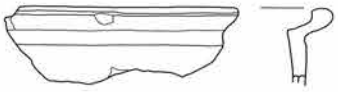
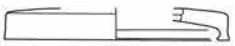
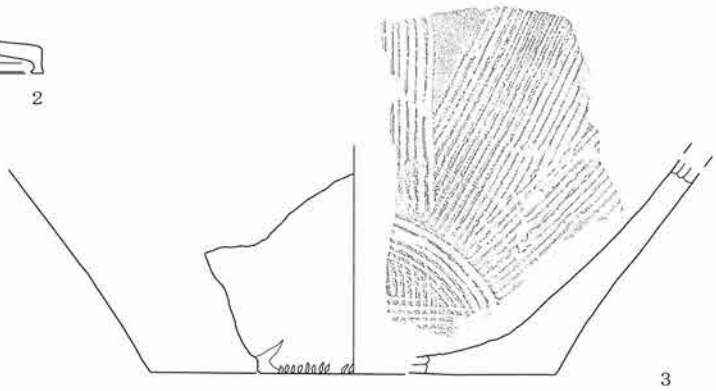


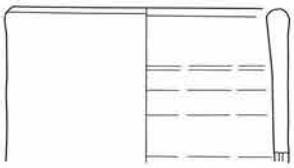
図 117　土坑出土遺物（5）

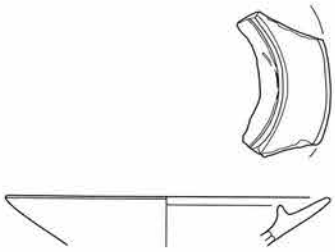
28号土坑

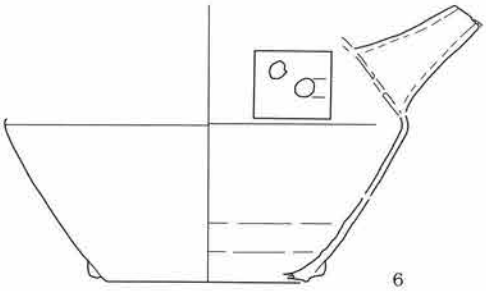

1

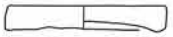

2

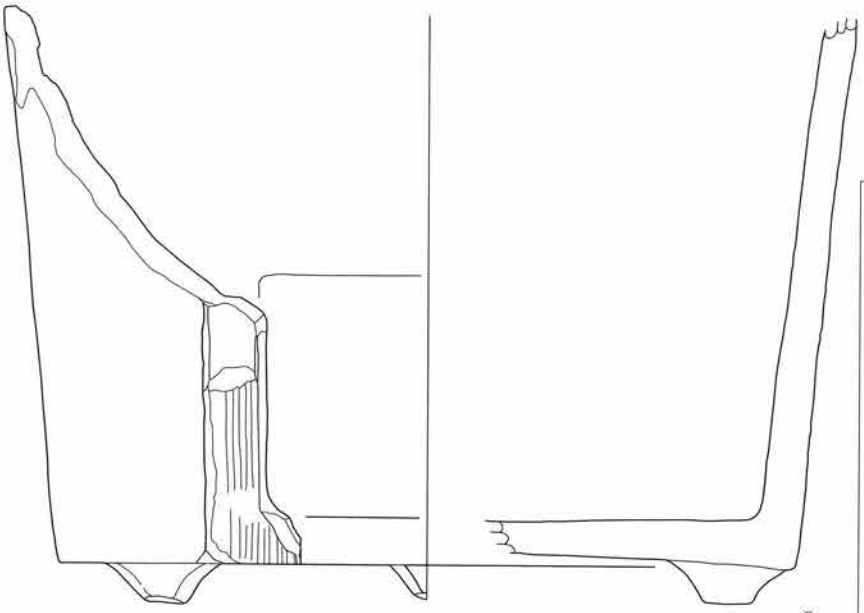

3


4


5

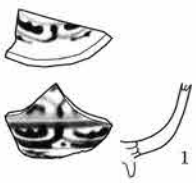

6

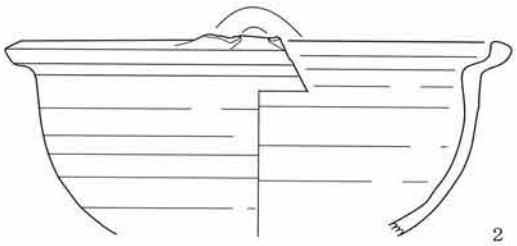

7


8

0 1:3 10cm

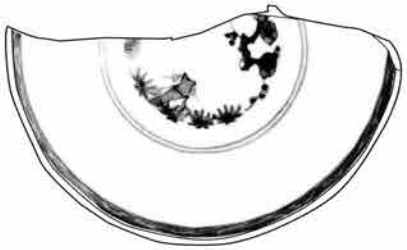
29号土坑

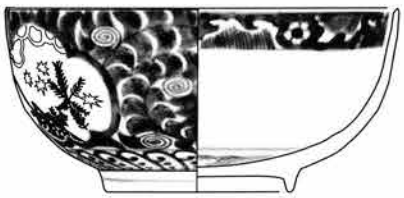

1


2

0 1:3 10cm

31号土坑



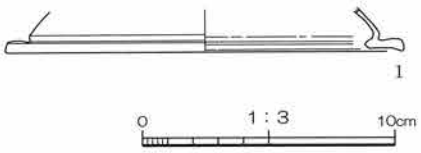


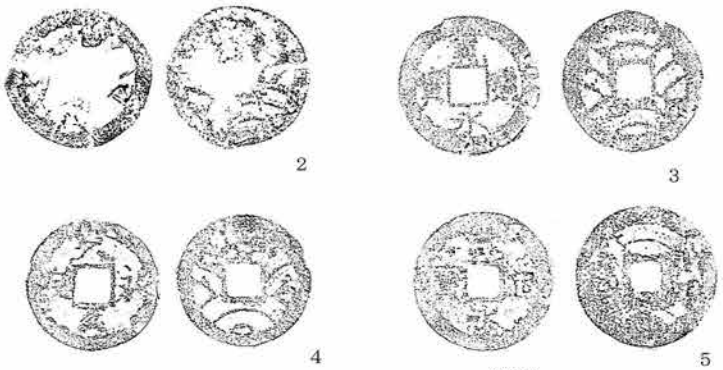
1

0 1:3 10cm

図 118　土坑出土遺物（6）

33号土坑





※2～5は3分の2縮尺

37号土坑

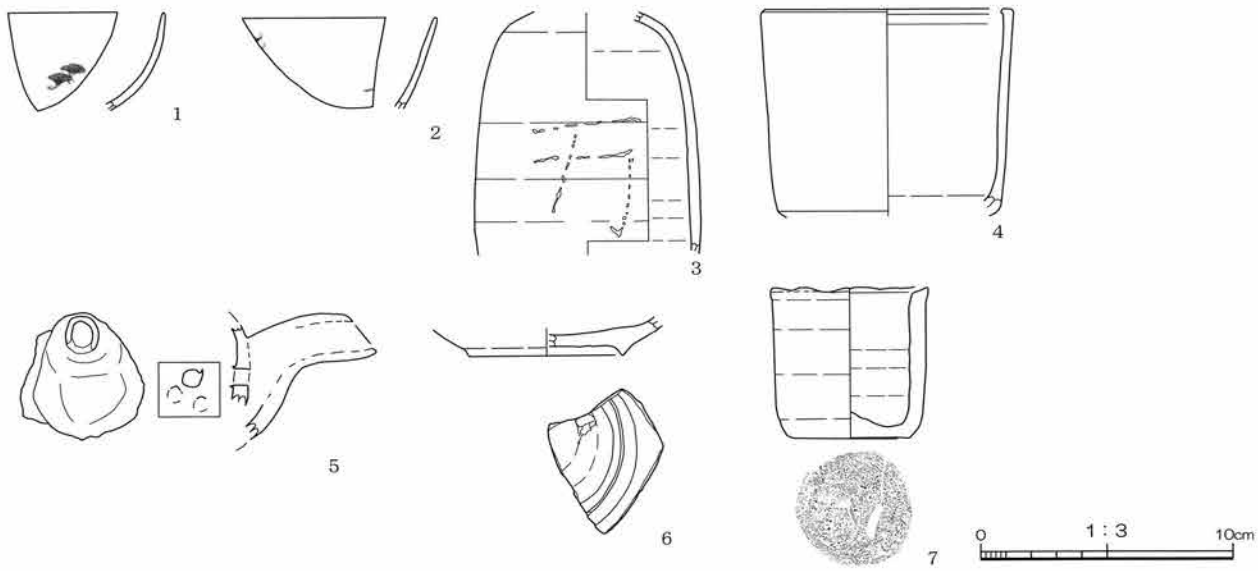


図119　土坑出土遺物（7）

3号土坑

1

4号土坑

1

2

3

5号土坑

1

2

15号土坑

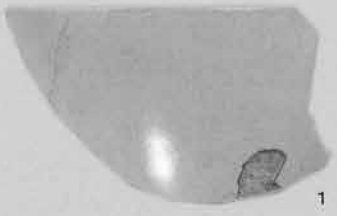
1

16号土坑

1

2

17号土坑



1

2

3

4

写真 127　土坑出土遺物（1）

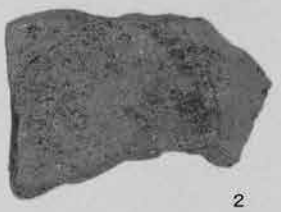
19号土坑

1

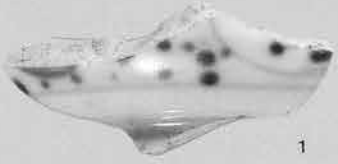
2

20号土坑

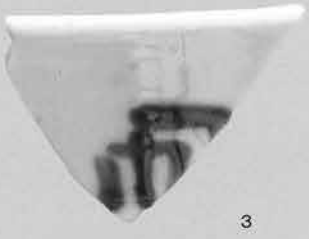
1

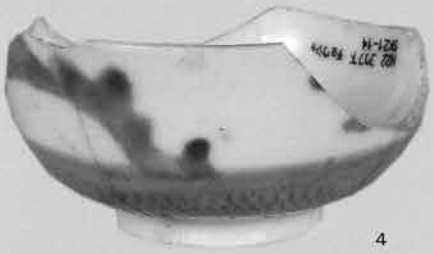

2

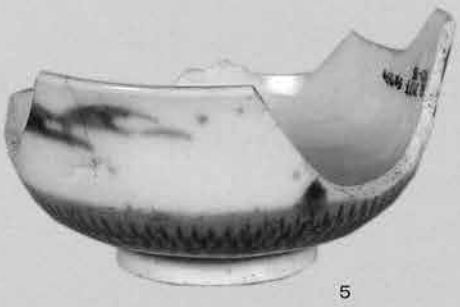
21号土坑


1

2


3

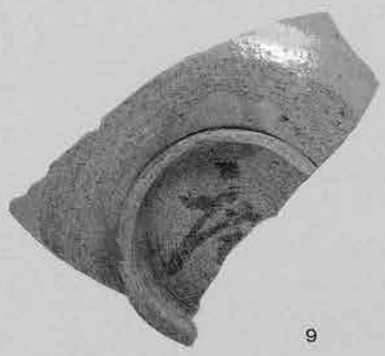

4


5

6

7

8


9

10

11

12

13

写真 128　土坑出土遺物（2）

22号土坑

1

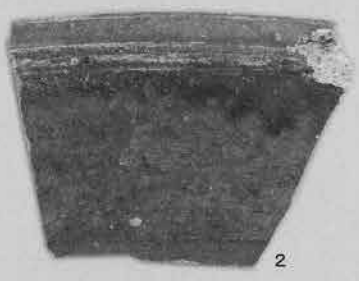
2

3

4

23号土坑

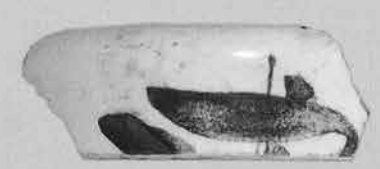
1


2

3

4

24号土坑


1

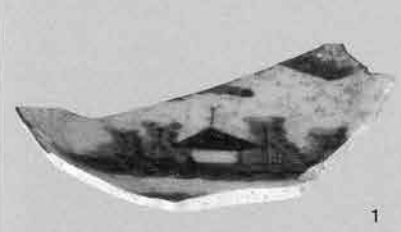
2

3

4

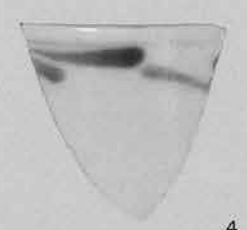
写真 129　土坑出土遺物（3）

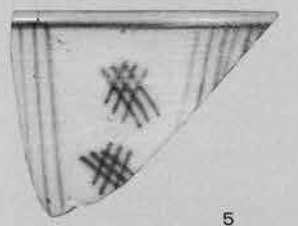
26号土坑（1）

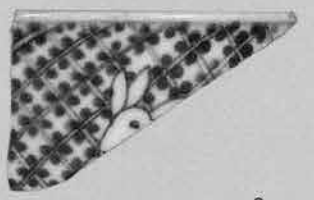

1

2

3

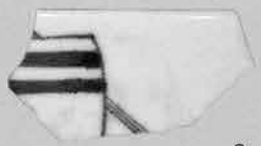

4

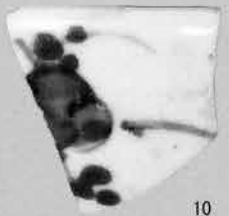

5


6

7

8


9


10

11

12

13

14

15

16

17

写真 130　土坑出土遺物（4）

26号土坑（2）

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

写真 131　土坑出土遺物（5）

26号土坑（3）

34

35

36

37

38

39

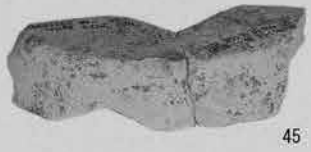
42

40

41

43

44


45

46

47

48

49

50

写真 132　土坑出土遺物（6）

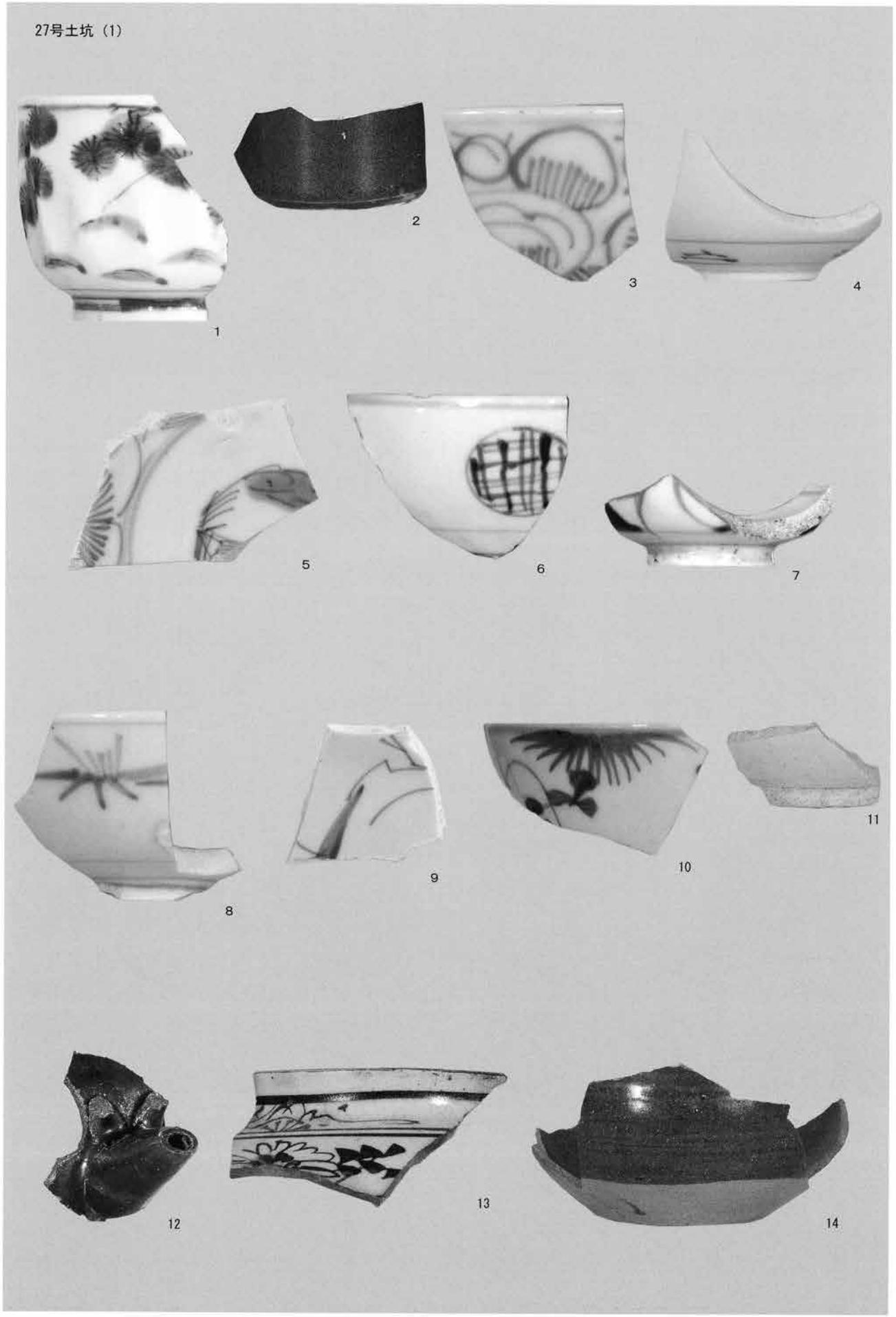
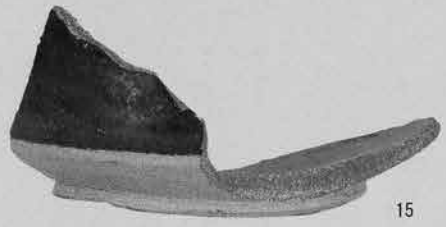


写真 133　土坑出土遺物（7）

27号土坑（2）


15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

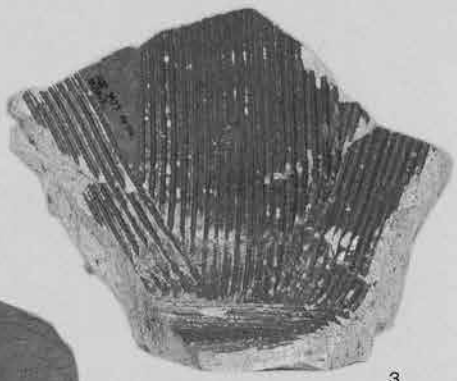
28

写真 134　土坑出土遺物（８）

28号土坑

1

2


3

4

5

7

6

8

29号土坑

1

2

31号土坑

1

写真 135　土坑出土遺物（9）

33号土坑

1

2

3

4

5

37号土坑

1

2

3

4

5

6

7

写真 136　土坑出土遺物（10）

第８節　ピット

１号ピット（図 120・131）

Ｈ８グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 33 cm、深さ 39cm である。平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は１号ピットが県庁８号基礎に切られている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器１点（２）を図示した。磁器: １は碗、陶器：２香炉である。

２号ピット（図 120・131）

Ｇ 10 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 21 cm、深さ 20 cmである。平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は２号ピットが県庁３号基礎に切られている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器２点（１・２）を図示した。土器：１・２は胞衣皿である。

３号ピット（図 120）

Ｈ７グリッドに位置する。長さ 22 cm、幅 20 cm、深さ 0.11cm である。平面形は円形で、他の遺構との切り合いはない。

４号ピット（図 120）

Ｈ 15 グリッドに位置する。長さ 43 cm、幅 23 cm、深さ 9 cmで平面形は円形である。４号溝の底面で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

５号ピット（図 121）

Ｉ８グリッドに位置する。長さ 38 cm、幅 33 cm、深さ 11 cmで、平面形は楕円形である。６号溝の底面で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。

６号ピット（図 121・131）

Ｈ 14 グリッドに位置する。長さ 54 cm、幅 47 cm、深さ 67 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器２点（１・２）、陶器２点（３・４）、土器２点（５・６）を図示した。磁器：１・２は丸碗、陶器：３・４は碗である。土器: ５は焜炉、６は焙烙である。

７号ピット（図 121）

Ｈ 14 グリッドに位置する。長さ 26 cm、幅 23 cm、深さ 33 cmで、平面形は円形である。１号有機物集中地点の有機物に覆われていた。他の遺構との切り合い関係はない。

８号ピット（図 121・131）

Ｆ 15 グリッドに位置する。長さ 61 cm、幅 47 cm、深さ 32 cmで、平面形は不整形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器１点（２）、土器１点（３）を図示した。磁器：１は丸碗、陶器：２は鉢、土器：３は火鉢である。

９号ピット（図 122）

Ｈ 14 グリッドに位置する。長さ 40 cm、幅 37 cm、深さ 31 cmで、平面形は円形である。10 号ピットと隣接するが切り合い関係はない。

10 号ピット（図 122・131）

H14 グリッドに位置する。長さ 37 cm、幅 32 cm、深さ 24 cmで、平面形は円形である。９号ピットと隣接するが切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器１点（１）を図示した。土器：１は鍋である。

11 号ピット（図 122）

Ｉ８グリッドに位置する。長さ 43 cm、幅 30 cm、深さ 0.16 cmで、平面形は楕円形である。７号溝の底面で検出した。

12 号ピット（図 122・131）

Ｉ７グリッドに位置する。長さ 38 cm、幅 36 cm、深さ 11 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 12 号ピットが１号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器：１は碗である。

13 号ピット（図 122）

Ｈ８グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 28 cm、深さ 39cm で、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

14 号ピット（図 122・132）

Ｅ 11 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 23 cm、深さ 33 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器４点(１～４)、土器１点(５)を図示した。陶器: １～４は土瓶、土器：５は焜炉である。

15 号ピット（図 123・132）

Ｈ８グリッドに位置する。長さ 49 cm、幅 32 cm、深さ 28 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は土器１点（１）を図示した。土器: １は小皿である。

16 号ピット（図 123・132）

Ｈ７グリッドに位置する。長さ 41 cm、幅 32 cm、深さ７cm で、平面形は楕円形である。他の遺構と

の切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器：１は碗である。

17 号ピット（図 123）

Ｈ８グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 33 cm、深さ 31cm で、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 17 号ピットが 21 号土坑を切っている。

18 号ピット（図 123）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 33 cm、深さ 31 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

19 号ピット（図 123）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 13 cm、深さ 18 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

20 号ピット（図 124）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 27 cm、深さ 39 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

21 号ピット（図 124）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 27 cm、深さ 28 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

22 号ピット（図 124）

Ｈ７グリッドに位置する。長さ 24 cm、幅 21 cm、深さ 0.11cm で、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

23 号ピット（図 124）

Ｆ 11･12 グリッドに位置する。長さ 36 cm、幅 33 cm、深さ 32 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

24 号ピット（図 124）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 31cm、幅 26cm、深さ 35cm で、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

25 号ピット（図 124）

Ｆ 11 グリッドに位置する。長さ 43 cm、幅 38 cm、深さ 0.15 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

26 号ピット（図 124）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 33 cm、深さ 29 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

27 号ピット（図 124・132）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 23 cm、深さ 8 cmである。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器２点（１・２）を図示した。土器：１・２は胞衣皿である。

28 号ピット（図 125）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 15 cm、幅 14 cm、深さ 26 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合いはない。

29 号ピット（図 125・132）

Ｅ 12 グリッドに位置する。長さ 36 cm、幅 31 cm、深さ 31 cmで、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、木製品１点（２）を図示した。磁器：１は筒形碗、木製品：２は柱である。

30 号ピット（図 125）

Ｅ 12 グリッドに位置する。長さ 37 cm、幅 35 cm、深さ 35 cmである。他の遺構との切り合い関係はない。

31 号ピット（図 125）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 17 cm、幅 16 cm、深さ 22 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

32 号ピット（図 125・132）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 29 cm、幅 28 cm、深さ 39 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器：１は碗である。

33 号ピット（図 125）

Ｅ 11 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 25 cm、深さ 44 cmで、平面形は方形である。他の遺構との切り合い関係は、33 号ピットが 11 号溝を切っている。

34 号ピット（図 125・132）

Ｅ 12 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 26 cm、深さ 42 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）、陶器１点（２）を図示した。磁器：１は碗、陶器：２は擂鉢である。

35 号ピット（図 125）

Ｄ 12 グリッドに位置する。長さ 54 cm、幅 39 cm、深さ 54 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構と

の切り合いはない。

36 号ピット（図 126）

E 11 グリッドに位置する。長さ 45 cm、幅 41 cm、深さ 45 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

37 号ピット（図 126・132）

E 11 グリッドに位置する。長さ 37 cm、幅 37 cm、深さ 17 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器: 1は丸碗である。

38 号ピット（図 126）

E 11 グリッドに位置する。長さ 33 cm、幅 26 cm、深さ 22 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

39 号ピット（図 126）

E 12 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 25 cm、深さ 37 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

40 号ピット（図 126・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 26 cm、深さ 24 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（1）を図示した。磁器: 1は端反碗である。

41 号ピット（図 126）

D 12 グリッドに位置する。長さ 34 cm、幅 28 cm、深さ 31 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

42 号ピット（図 127・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 45 cm、幅 36 cm、深さ 27 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品１点（1）を図示した。木製品: 1は柱である。

43 号ピット（図 127・132）

D 12 グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 28 cm、深さ 66 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は、43 号ピットが 23 号土坑を切る。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（1）を図示した。磁器: 1は端反碗である。

44 号ピット（図 127）

G 11 グリッドに位置する。長さ 38 cm、幅 36 cm、深さ 32 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

45 号ピット（図 127・132）

D・E 11 グリッドに位置する。長さ 42 cm、幅 29 cm、深さ 43 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、45 号ピットが 23 号土坑と 46 号ピットを切る。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器３点（１～３）を図示した。磁器: 1は皿、２・３は瓶である。

46 号ピット（図 127）

D 11 グリッドに位置する。長さ 24 cm、幅 22 cm、深さ 15 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合い関係は、46 号ピットが 45 号ピットに切られる。

47 号ピット（図 127・132）

H 11 グリッドに位置する。長さ 50 cm、幅 39 cm、深さ 44 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器１点（1）、陶器２点（2・3）を図示した。磁器: 1は丸碗、陶器：２は壺、３は鉢である。

48 号ピット（図 128）

D11 グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 28 cm、深さ 73 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

49 号ピット（図 128）

E 12 グリッドに位置する。長さ 30 cm、幅 24 cm、深さ 60 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

50 号ピット（図 128・132）

E 12 グリッドに位置する。長さ 21 cm、幅 16 cm、深さ 23 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器１点（１）を図示した。陶器: 1は小坏である。

51 号ピット（図 128・133）

F 11 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 17 cm、深さ 24 cmで、平面形は円形である。58 号ピットと隣接するが切り合いは確認できなかった。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器２点（１・２）を図示した。土器：１・２は胞衣皿である。

52 号ピット（図 128・133）

I 12 グリッドに位置する。長さ 73 cm、幅 65 cm、深さ 0.61 cmで、平面形は不整形である。南側は撹乱されている。他の遺構との切り合い関係はない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は磁器２点（１・２）を図示した。磁器：１は碗、２は丸碗である。

53 号ピット（図 128・133）

Ｈ 12 グリッドに位置する。長さ 52 cm、幅 31 cm、深さ 0. 46 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は陶器１点（１）を図示した。陶器：１は壺である。

54 号ピット（図 129・134）

Ｉ７グリッドに位置する。長さ 32 cm、幅 31 cm、深さ 60 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 54 号ピットが１号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品１点(１)を図示した。木製品: １は箱である。

55 号ピット（図 129・134）

Ｉ６グリッドに位置する。長さ 31 cm、幅 31 cm、深さ 66 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 55 号ピットが１号池を切っている。

出土遺物はピット覆土で検出されている。遺物は木製品１点(１)を図示した。木製品: １は箱である。

56 号ピット（図 130）

Ｅ 11 グリッドに位置する。長さ 27 cm、幅 18 cm、深さ 0. 53 cmで、平面形は楕円形である。他の遺構との切り合いはない。

57 号ピット（図 130）

Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 28 cm、幅 24 cm、深さ 21 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係はない。

58 号ピット（図 130・133）

Ｆ 11・Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 51 cm、幅 45 cm、深さ 17 cmで、平面形は円形である。他の遺構との切り合い関係は 58 号ピットが 59 号ピットを切っている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は陶器２点（１・２）、土器３点（３～５）、瓦１点（６）を図示した。陶器：１・２は瓶、土器：３～５は胞衣皿である。５には針状の細い金属片が付着している。瓦：６は桟平瓦である。

59 号ピット（図 130・133）

Ｆ 11・Ｇ 11 グリッドに位置する。長さ 31 cm、幅 27 cm、深さ 14 cmである。他の遺構との切り合い関係は 59 号ピットが 58 号ピットに切られている。

出土遺物はピット底面で検出されている。遺物は土器２点（１・２）を図示した。土器：１・２は胞衣皿である。

写真 137　２号ピット遺物出土状況

写真 138　27 号ピット遺物出土状況

写真 139　58 号ピット遺物出土状況

写真 140　59 号ピット遺物出土状況

写真 141　58 号ピット遺物出土状況

写真 142　59 号ピット遺物出土状況

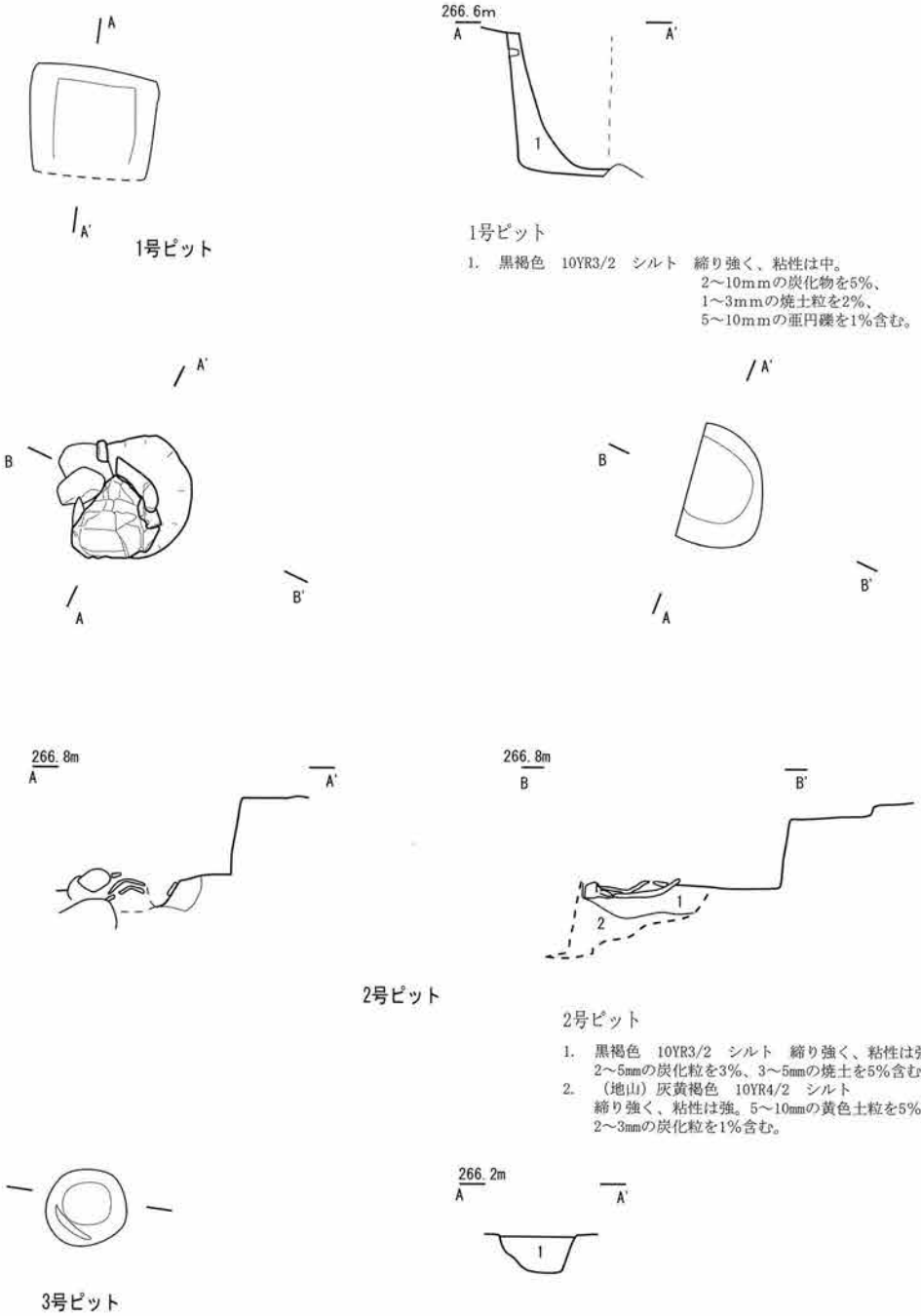
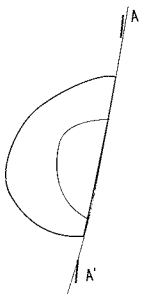
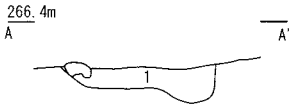


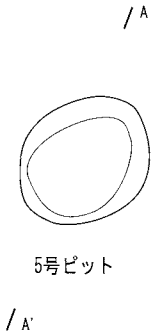
図 120　ピット（1）



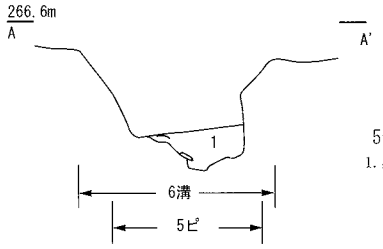
4号ピット



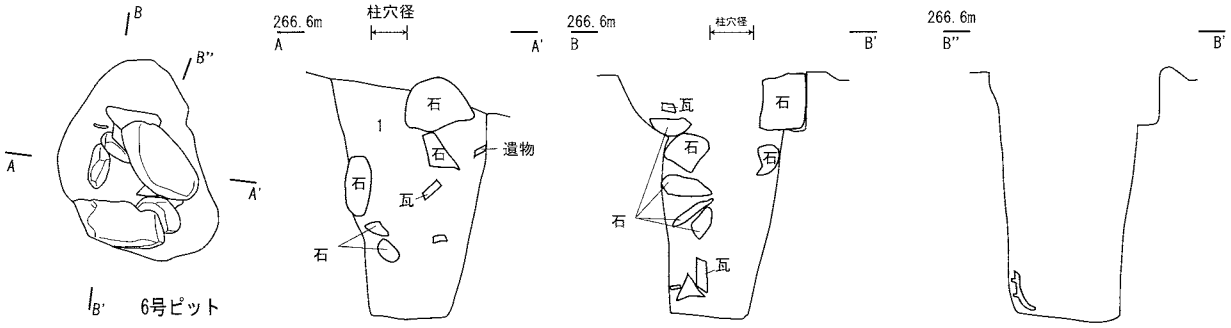
4号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。2～3mm大の炭化粒を1%、
5cm大の亜円礫を1%、1～2cm大の亜円礫を1%含む。



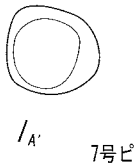
5号ピット



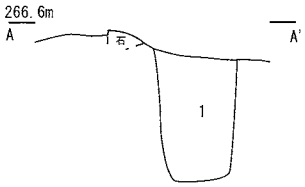
5号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に中。
2～3mm大の炭化粒を1%含む。



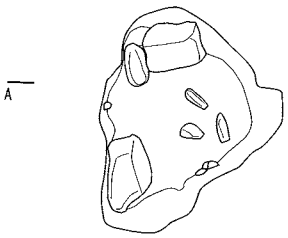
6号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
2～3mm大の黄色土粒を1%含む。



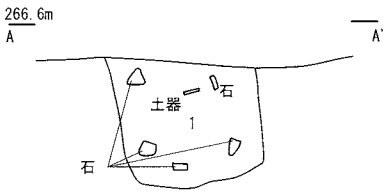
7号ピット



7号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
2～3mm大の黄色土粒を1%含む。



8号ピット



8号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に中。
3～5cm大の亜円礫を3%、1～2cm大の褐色土ブロックを10%、
3mm大の黄色土粒を5%含む。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

図121　ピット（2）

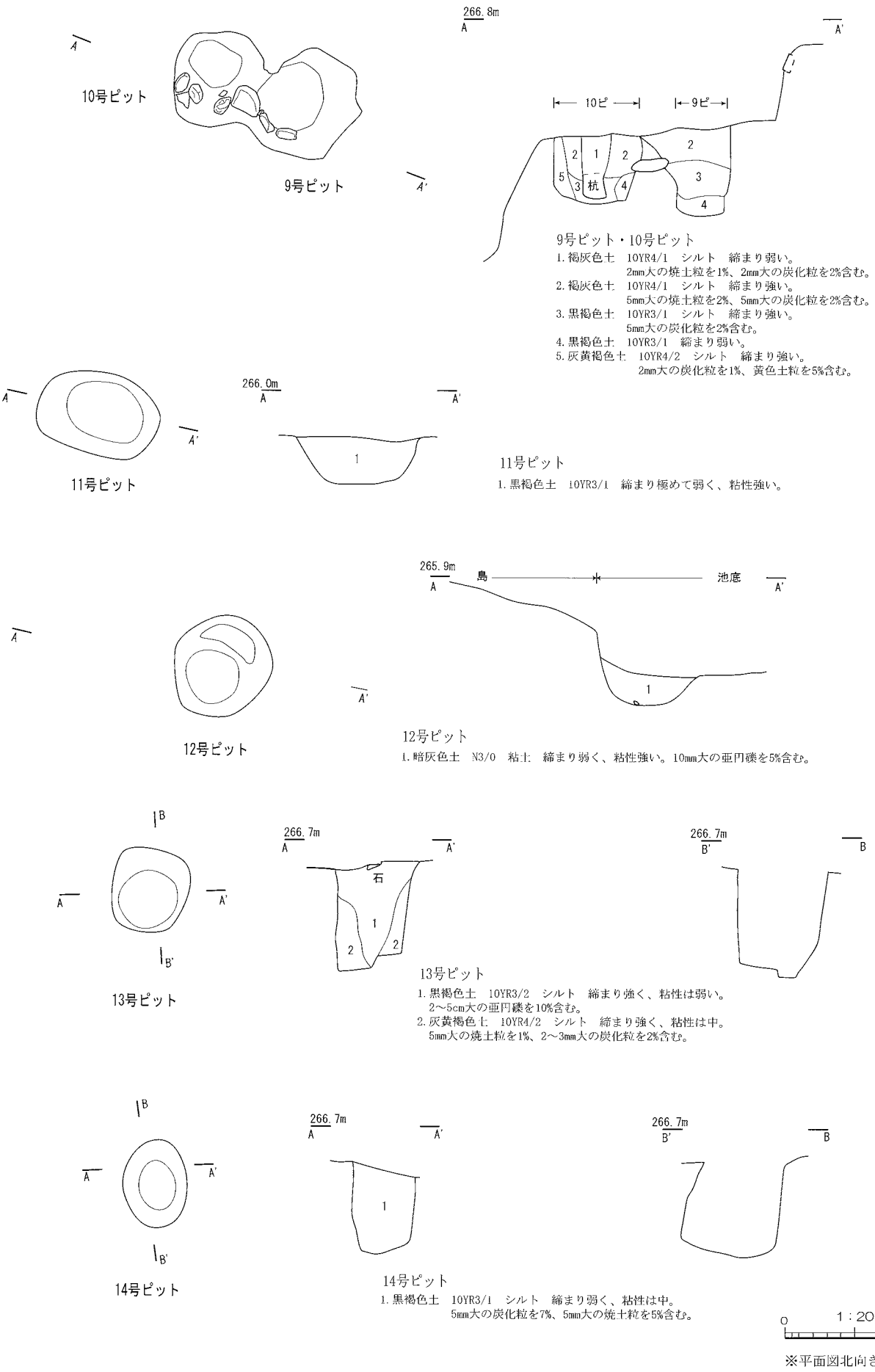
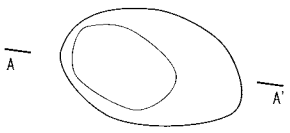
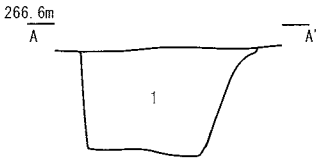

10号ピット
9号ピット
266.8m
A
A'
10ピ
9ピ
杭
9号ピット・10号ピット
1.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり弱い。
2mm大の焼土粒を1%、2mm大の炭化粒を2%含む。
2.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強い。
5mm大の焼土粒を2%、5mm大の炭化粒を2%含む。
3.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強い。
5mm大の炭化粒を2%含む。
4.黒褐色土　10YR3/1　締まり弱い。
5.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強い。
2mm大の炭化粒を1%、黄色土粒を5%含む。
11号ピット
266.0m
11号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
265.9m
島
池底
12号ピット
12号ピット
1.暗灰色土　N3/0　粘土　締まり弱く、粘性強い。10mm大の亜円礫を5%含む。
B
B'
266.7m
石
13号ピット
13号ピット
1.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は弱い。
2～5cm大の亜円礫を10%含む。
2.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の焼土粒を1%、2～3mm大の炭化粒を2%含む。
14号ピット
14号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を7%、5mm大の焼土粒を5%含む。
0
1：20
50cm
※平面図北向き

図 122　ピット（3）

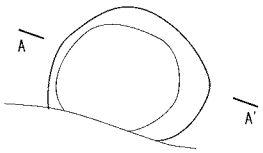


15号ピット

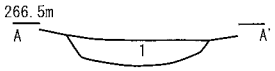


15号ピット

1.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を3%、5mm大の焼土を2%含む。

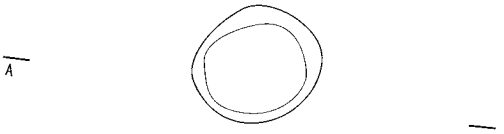


16号ピット

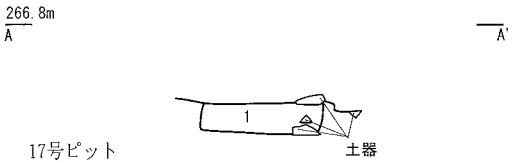


16号ピット

1.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を5%含む。

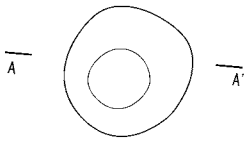


17号ピット

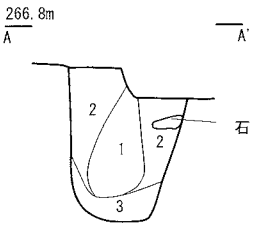


17号ピット

1.褐色土　10YR4/6　シルト　締まり強く、粘性弱い。
3mm大の炭化粒を2%含む。
2.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に中。
5～10mm大の炭化粒を7%、3mm大の焼土粒を1%含む。

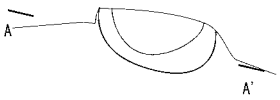


18号ピット

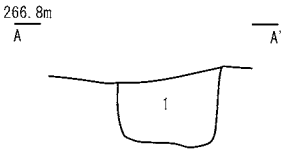


18号ピット

1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。（柱穴部分と考えられる。）
2.暗褐色土　10YR3/3　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を7%、2mm大の焼土粒を2%含む。
3.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり・粘性共に強い。（地山）

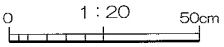


19号ピット



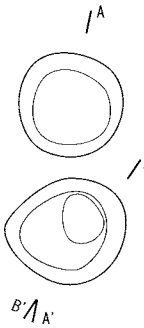
19号ピット

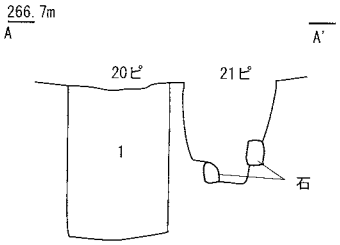
1.褐灰色土　10YR4/1　シルト　締まり強く、粘性は中。
5～10mm大の炭化粒を40%、2～5mm大の焼土粒を10%含む。



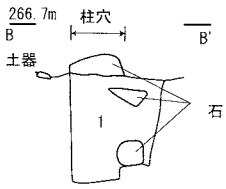
※平面図北向き

図 123　ピット（4）

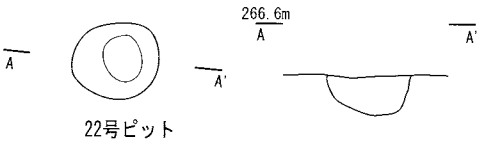




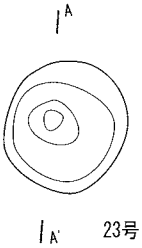
20号ピット
1.黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり強く、粘性は中。
5～10mm大の炭化粒を5%、5mm大の焼土粒を1%含む。

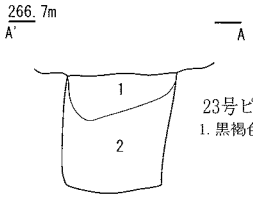


21号ピット
1.黒褐色土　10YR2/3　シルト
締まり強く、粘性は中。

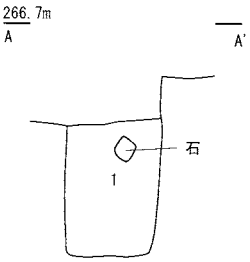


22号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり弱く、粘性は中。

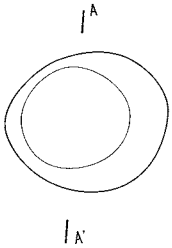


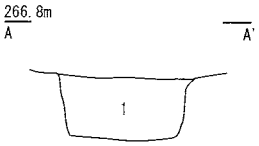


23号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト
締まり弱く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を15%、
5mm大の焼土粒を1%含む。
2.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト
締まり弱く、粘性は強い。

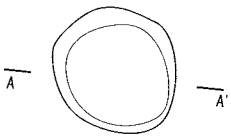


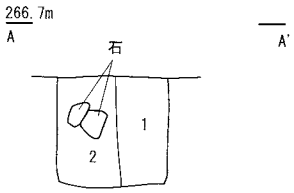
24号ピット
1.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり弱く、粘性は中。
3mm大の炭化粒を2%、褐鉄鉱を5%含む。



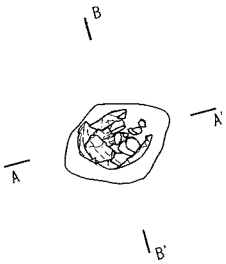


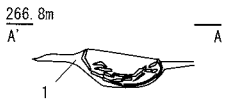
25号ピット
1.黒褐色土　10YR3/2　シルト
締まり強く、粘性は中。

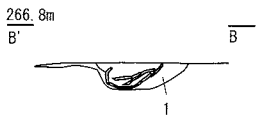




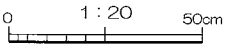
26号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　柱穴痕。締まり強く、
粘性は中。5mm大の炭化粒を2%含む。
2.黒褐色土　10YR2/3　シルト　締まり強く、粘性は中。







27号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり強く、粘性は中。5mm大の炭化粒を2%含む。



※平面図北向き

図124　ピット（5）

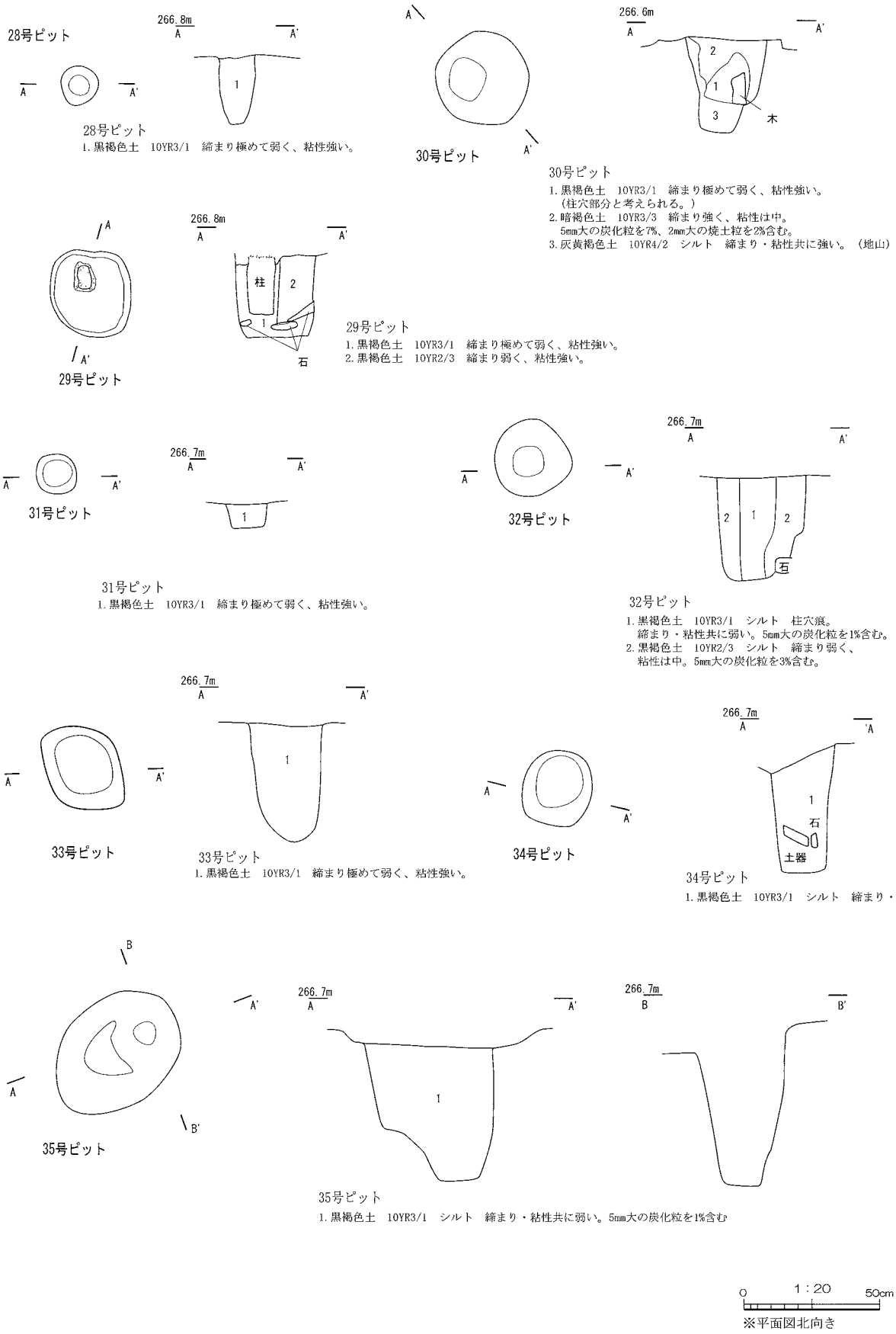

28号ピット
266.8m
A
A'
1
28号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
30号ピット
266.6m
2
1
3
木
30号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
(柱穴部分と考えられる。)
2.暗褐色土　10YR3/3　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を7%、2mm大の焼土粒を2%含む。
3.灰黄褐色土　10YR4/2　シルト　締まり・粘性共に強い。(地山)
柱
2
1
石
29号ピット
29号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
2.黒褐色土　10YR2/3　締まり弱く、粘性強い。
31号ピット
266.7m
31号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
32号ピット
266.7m
2
1
2
石
32号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　柱穴痕。
締まり・粘性共に弱い。5mm大の炭化粒を1%含む。
2.黒褐色土　10YR2/3　シルト　締まり弱く、
粘性は中。5mm大の炭化粒を3%含む。
33号ピット
266.7m
1
33号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
34号ピット
266.7m
1
石
土器
34号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に弱い。
B
B'
35号ピット
266.7m
1
266.7m
B
B'
35号ピット
1.黒褐色土　10YR3/1　シルト　締まり・粘性共に弱い。5mm大の炭化粒を1%含む
0
1：20
50cm
※平面図北向き

図125　ピット（6）

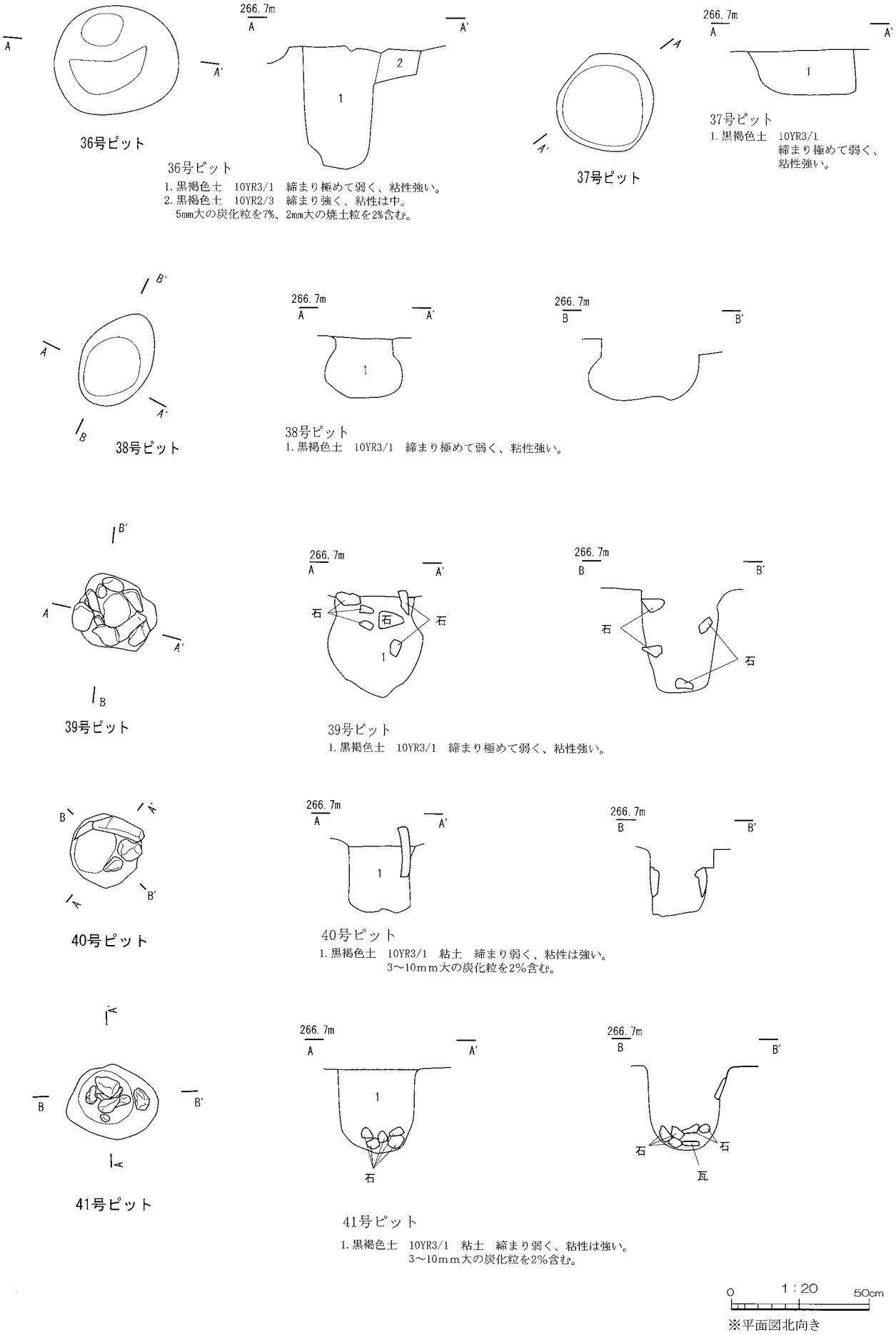
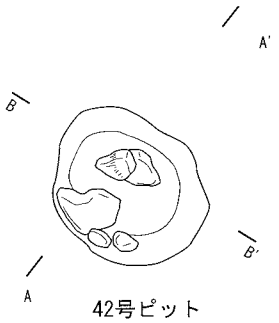
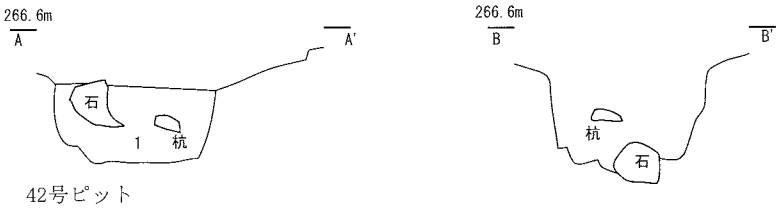

36号ピット
36号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
2. 黒褐色土　10YR2/3　締まり強く、粘性は中。
5mm大の炭化粒を7%、2mm大の焼土粒を2%含む。
37号ピット
37号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1
締まり極めて弱く、
粘性強い。
38号ピット
38号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
39号ピット
39号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　締まり極めて弱く、粘性強い。
40号ピット
40号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
41号ピット
41号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
266.7m
石
瓦
0　1：20　50cm
※平面図北向き

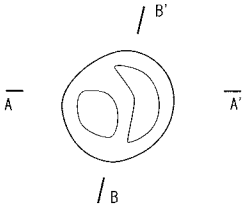
図126　ピット（7）



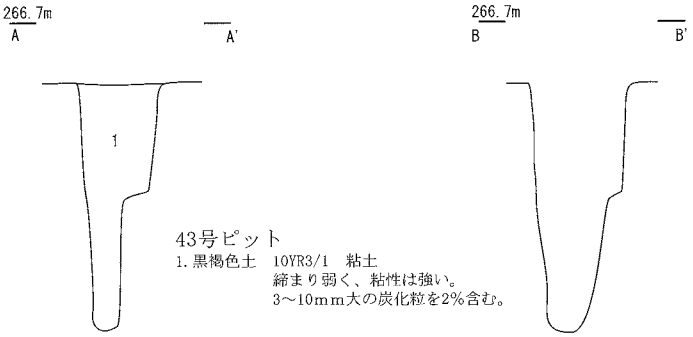
42号ピット



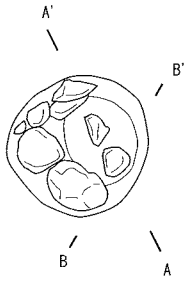
42号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



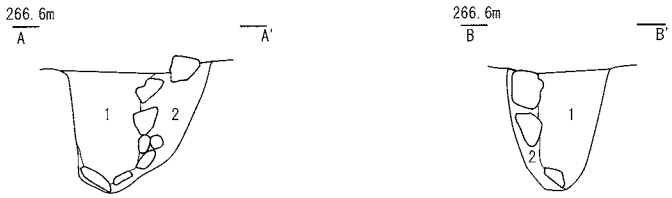
43号ピット



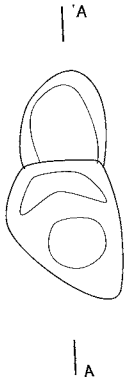
43号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土
締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



44号ピット

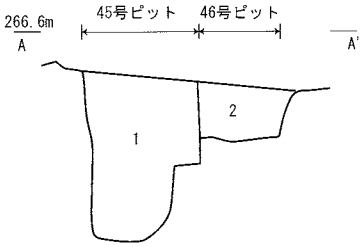


44号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。

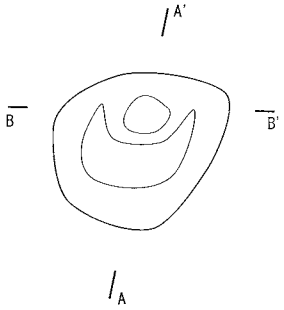


46号ピット

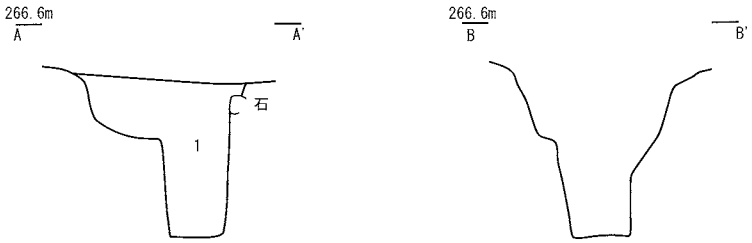
45号ピット



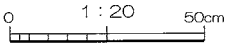
45号・46号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。



47号ピット

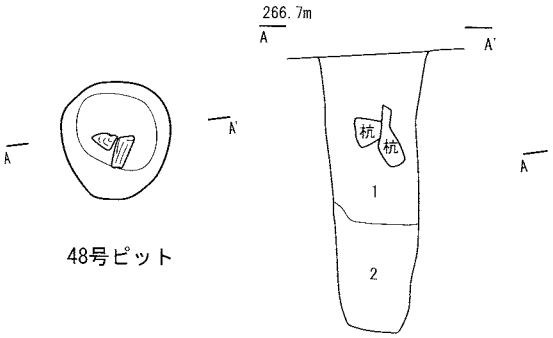


47号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



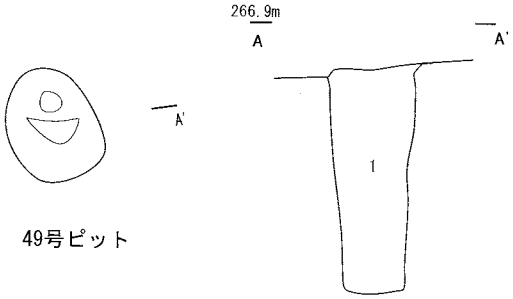
※平面図北向き

図127　ピット（8）



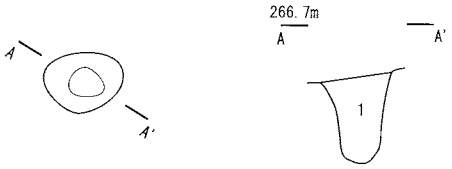
48号ピット

48号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。



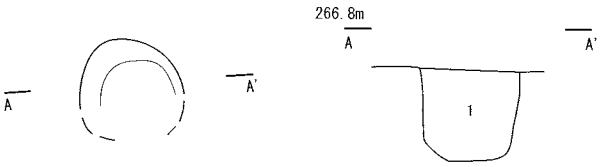
49号ピット

49号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



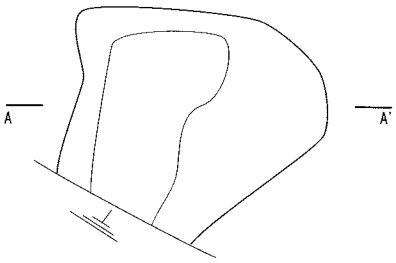
50号ピット

50号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、
粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。

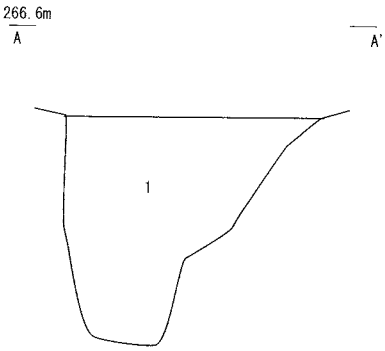


51号ピット

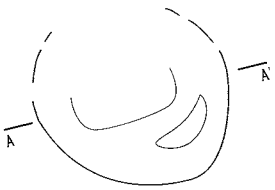
51号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、
粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



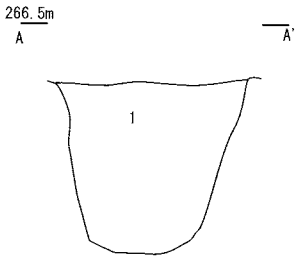
52号ピット



52号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。



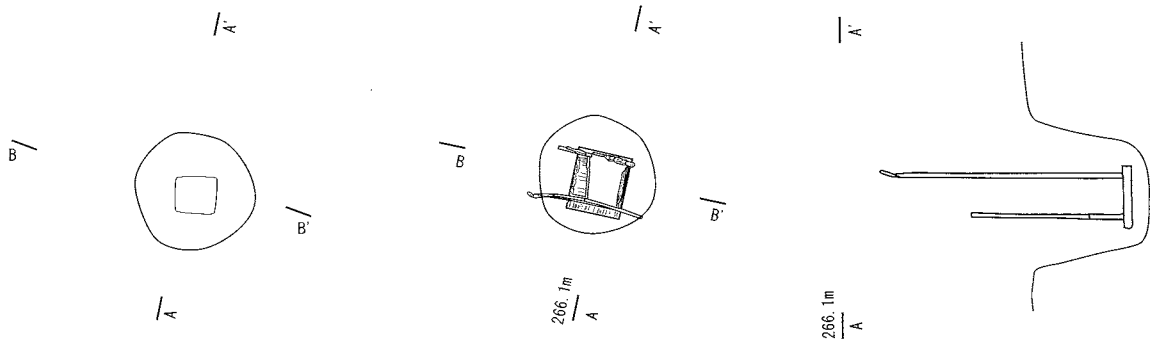
53号ピット



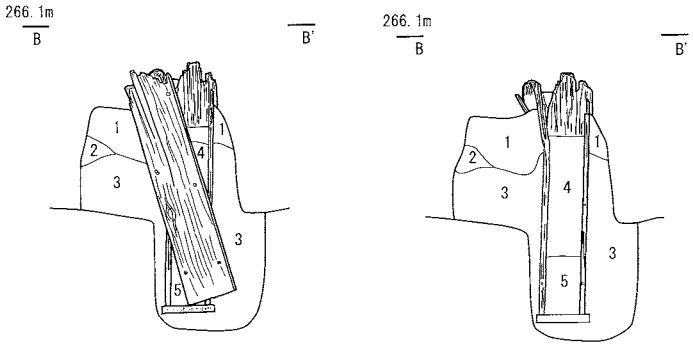
53号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
5～10mm大の炭化粒を2%含む。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

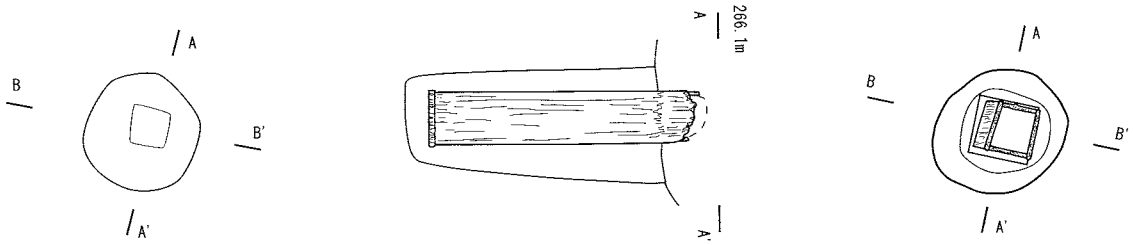
図128　ピット（9）



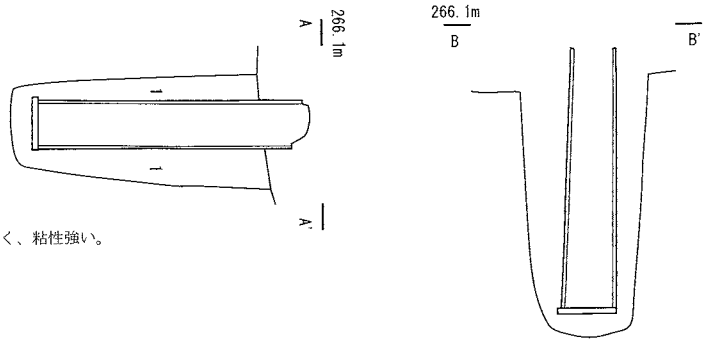
54号ピット



54号ピット
1. 明褐色土　7.5YR5/8　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　10～30mm大の円礫を10%含む。明治庁舎盛土。
2. にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト　締まり強く、粘性は中。
　　30mm大の亜円礫を10%含む。（漸移層？）
3. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
　　3～10mm大の炭化粒を2%含む。
4. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり・粘性共に弱い。
　　5cm大の円礫を15%含む。
5. 褐灰色土　10YR4/1　砂　締まり弱く、粘性無し。



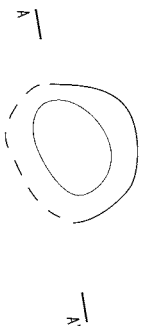
55号ピット



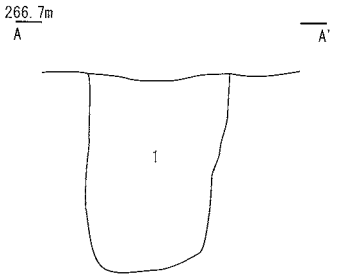
55号ピット
1. 灰黄褐色　10YR4/2 シルト　締まり弱く、粘性強い。

0　1：20　50cm
※平面図北向き

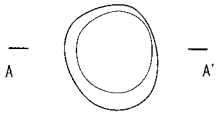
図129　ピット（10）



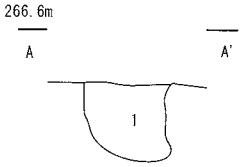
56号ピット



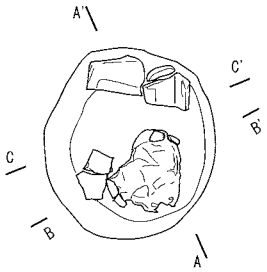
56号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



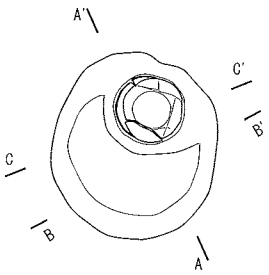
57号ピット



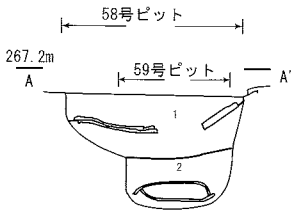
57号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。



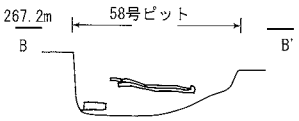
58号ピット

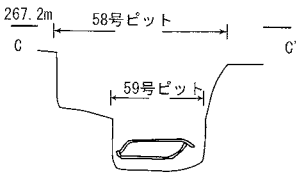


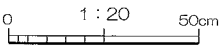
59号ピット



58号・59号ピット
1. 黒褐色土　10YR3/1　粘土　締まり弱く、粘性は強い。
3～10mm大の炭化粒を2%含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　シルト　締まり、粘性共に弱い。
5cm大の円礫を15%含む。







※平面図北向き

図130　ピット（11）

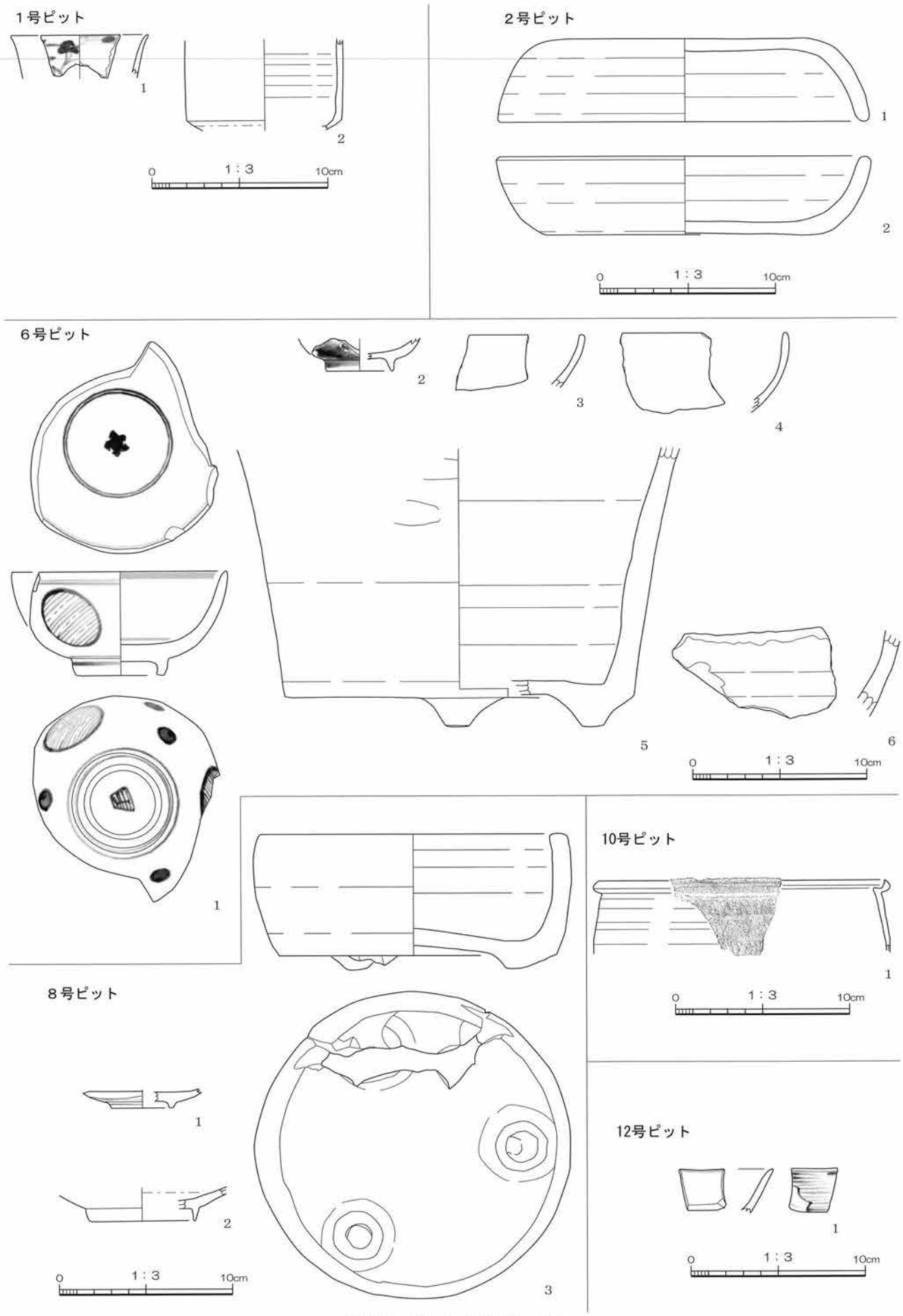


図 131　ピット出土遺物（1）

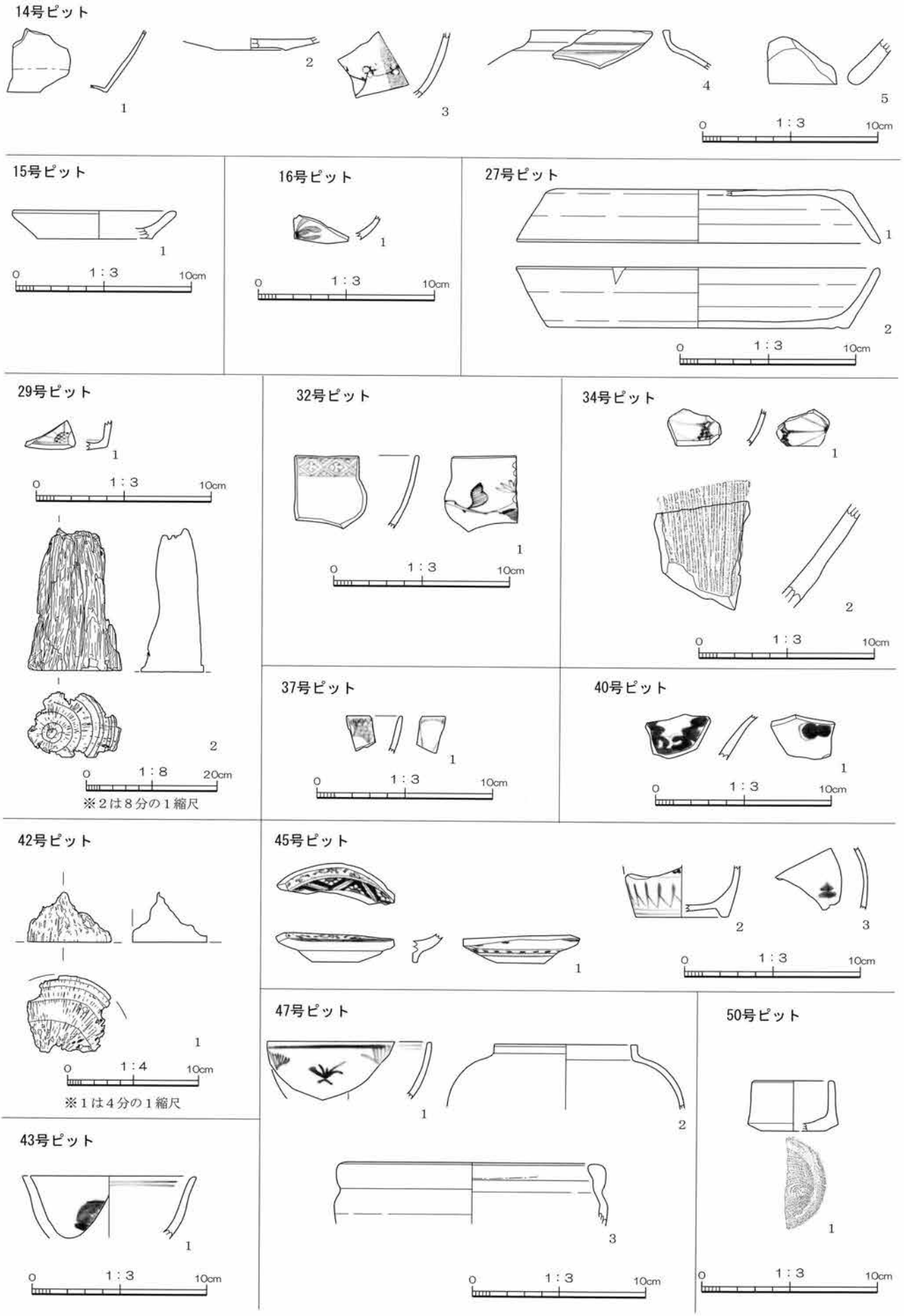


図 132　ピット出土遺物（2）

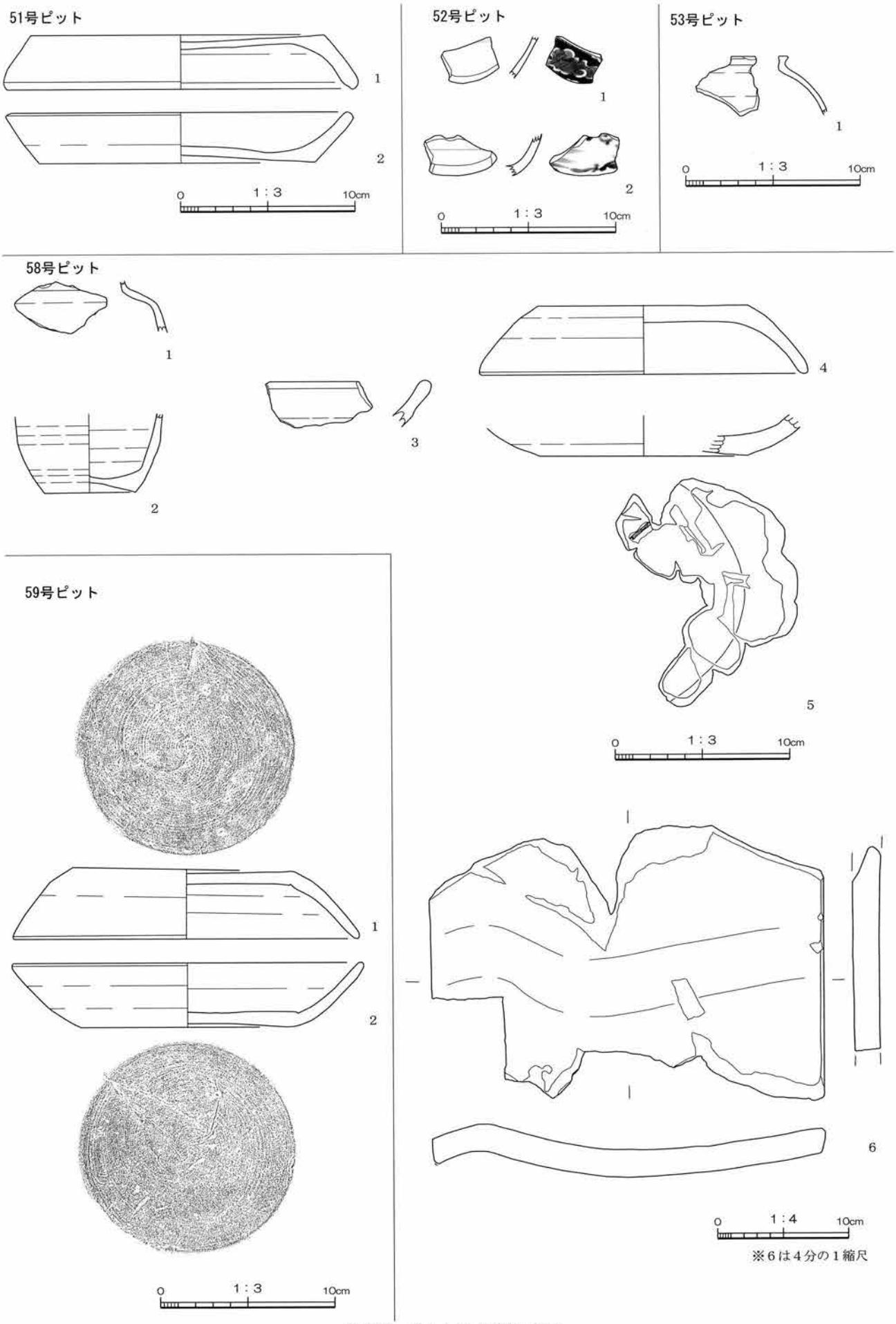
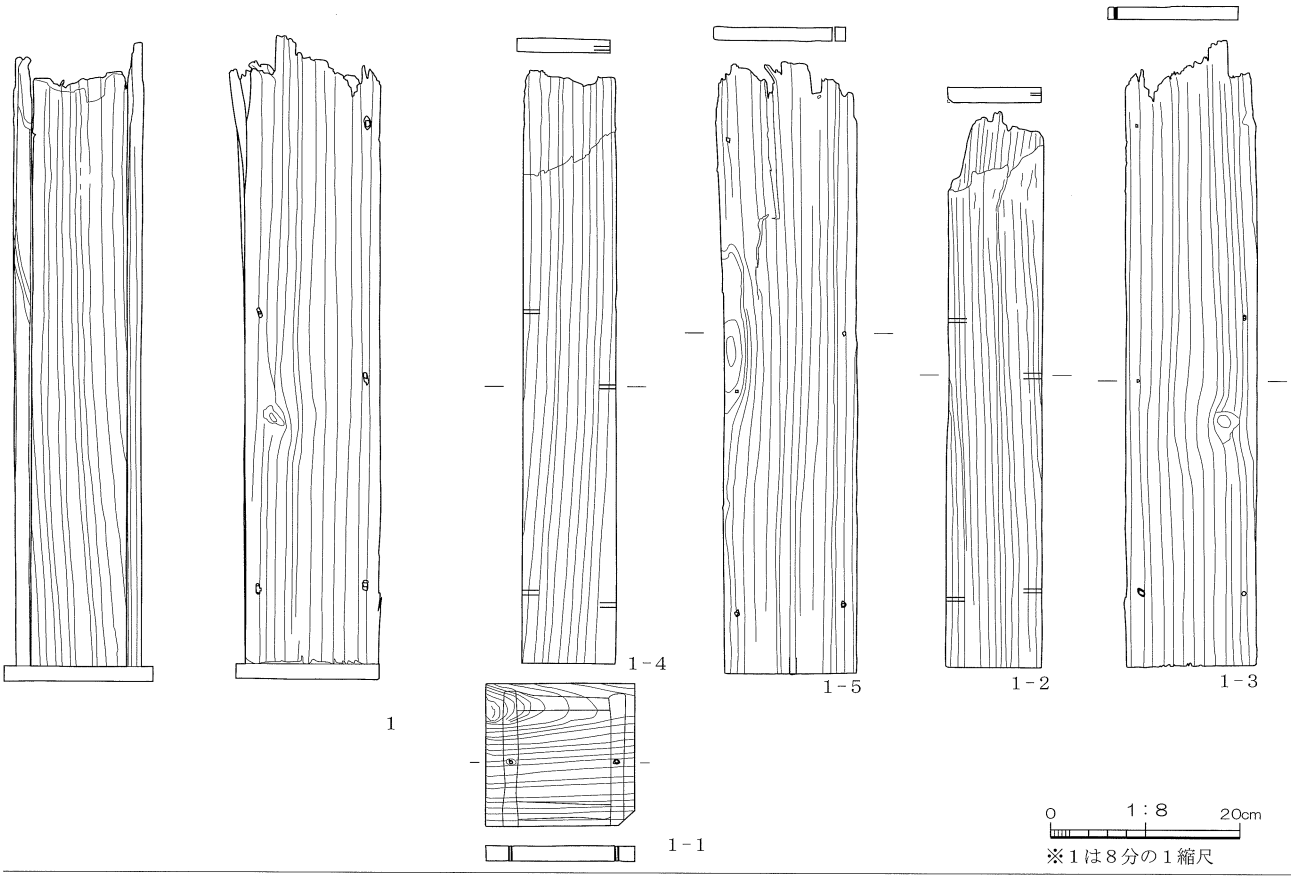


図 133　ピット出土遺物（3）

54号ピット



55号ピット

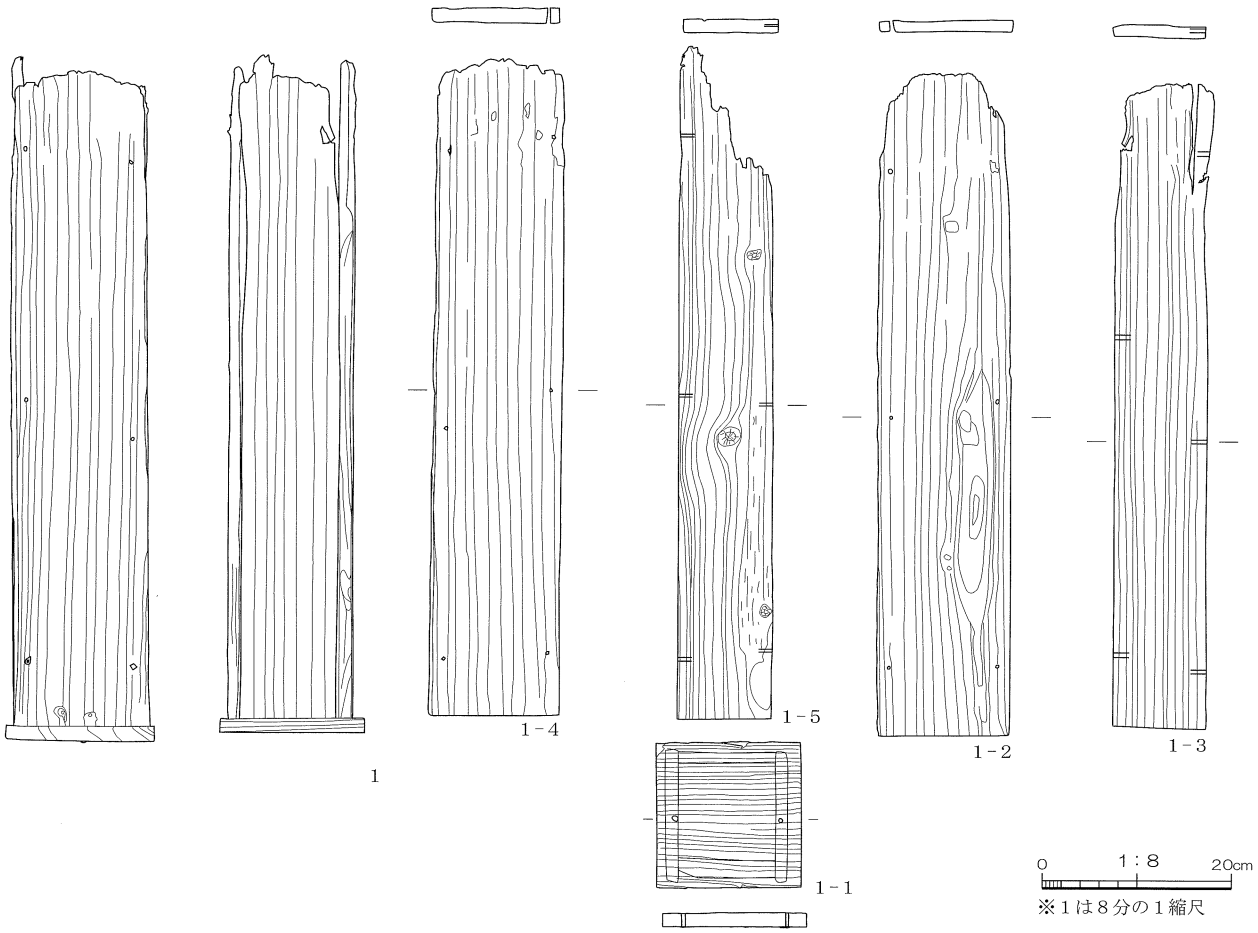


図 134　ピット出土遺物（4）

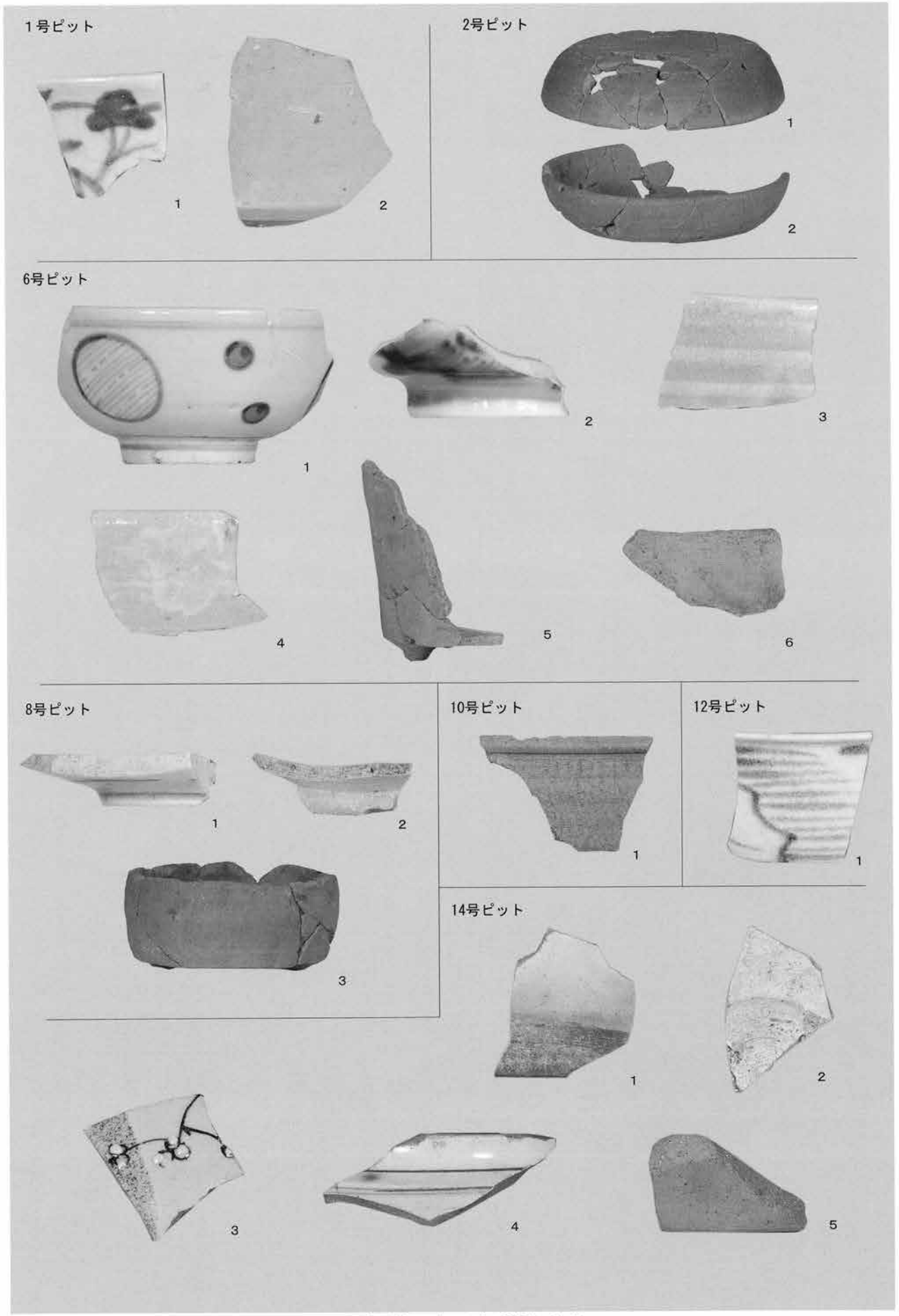


写真 143　ピット出土遺物（1）

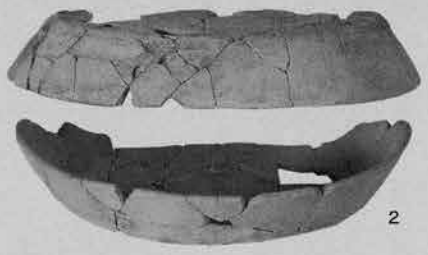
15号ピット

1

16号ピット

1

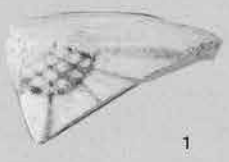
27号ピット



1

2

29号ピット



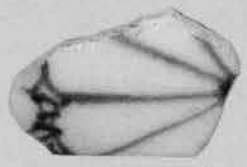
1

2

32号ピット

1

34号ピット



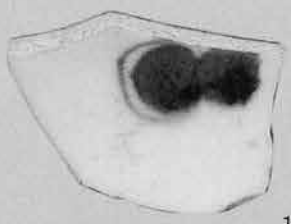
1

2

37号ピット

1

40号ピット

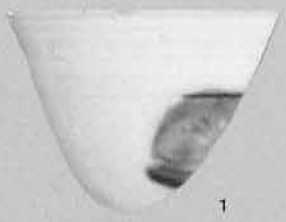


1

42号ピット

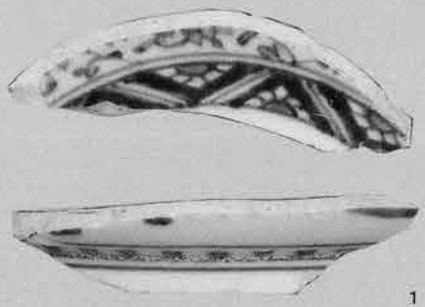
1

43号ピット



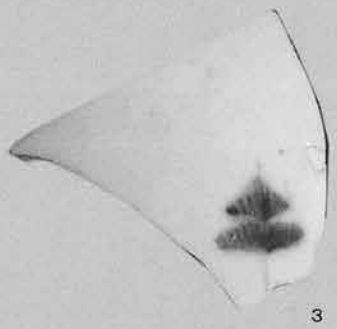
1

45号ピット



1

2



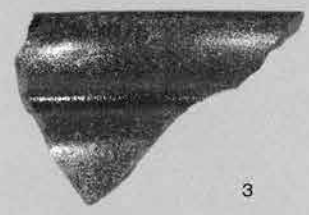
3

写真 144　ピット出土遺物（2）

47号ピット

1

2


3

50号ピット

1

51号ピット

1
2

53号ピット

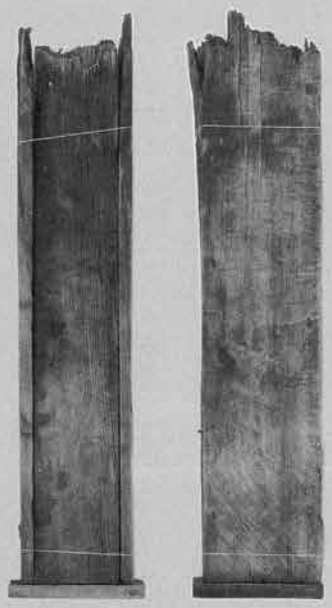
1

52号ピット

1

2

54号ピット


1

55号ピット

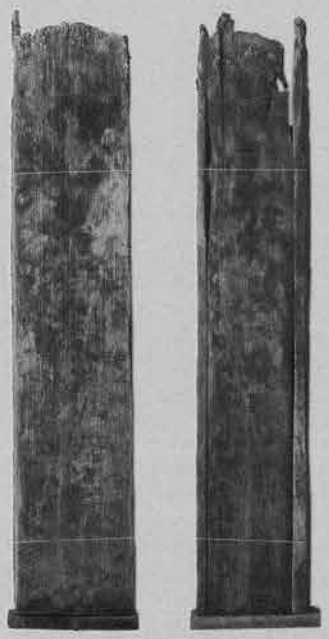

1

写真 145　ピット出土遺物（3）

58号ピット

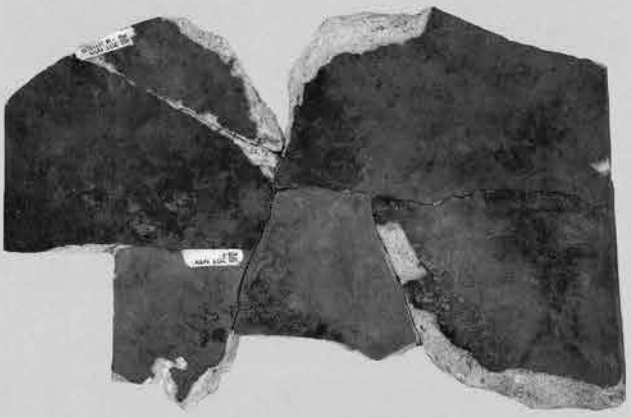
1

2

3

4

5


6

59号ピット

1

2

写真 146　ピット出土遺物（4）

第９節　その他の遺構

１．１号集石（図 135 ～ 139）

Ｉ 12 からＪ 14 グリッドに位置する。検出範囲で長さ 13.6 m、幅 6.4 mである。小石が敷き詰められた中に２条の直行する石列を検出した。石列は南北の列が 1.6 m、東西の列が 8.4 mである。他の遺構との切り合い関係は１号石列が県庁１号基礎に切られ、52 号ピットを切っている。

出土遺物は小石上面で検出されている。遺物は磁器 30 点（１～ 30）、陶器 23 点（31 ～ 53）、土器１点（54）、金属製品１点（55）、銭貨２点（56・57）、瓦４点（58 ～ 61）を図示した。磁器：１・２は丸碗、３は油壺、４は瓶、６は紅皿、８・29 は筒形碗、９・12 は皿、14・24 は端反碗、15・17 は蓋である。陶器：31・50 は灯明受付皿、32・33 は鉢、34 は碗、35・40 は擂鉢、36・37 は瓶、38・42 は蓋、45 は土瓶、47 は土瓶蓋、48 は壺、53 は花瓶である。土器：54 は小皿、金属製品 55 は釘である。銭貨：56 は寛永通宝四文銭、57 は寛永通宝文銭である。瓦：58・59 は平瓦、60 は軒瓦、61 は輪違いである。59 は菱形内にサの刻印がある。

２．１号有機物集中地点（図 140・141）

Ｇ 14 からＨ 14 グリッドに位置する。長さ 82 ㎝、幅 34 ㎝、厚さ３㎝である。シジミが集中して堆積していた。他の遺構との切り合い関係は１号有機物集中が７号ピットを切っている。

出土遺物はシジミ堆積中で検出されている。遺物は石製品１点（１）、土製品１点（２）を図示した。石製品：１は火打ち石、土製品：２は碁石である。

写真 147　１号集石石列検出状況　東から

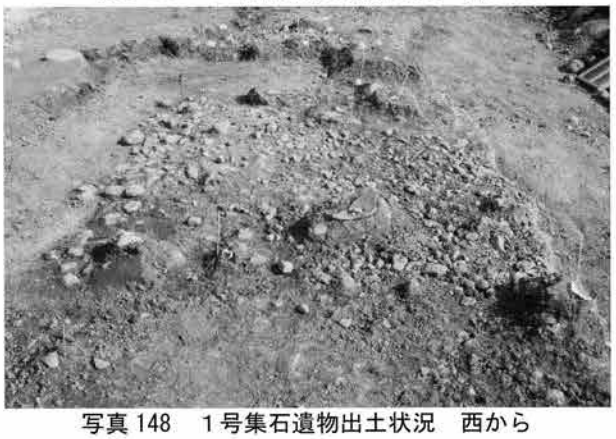


写真 148　１号集石遺物出土状況　西から

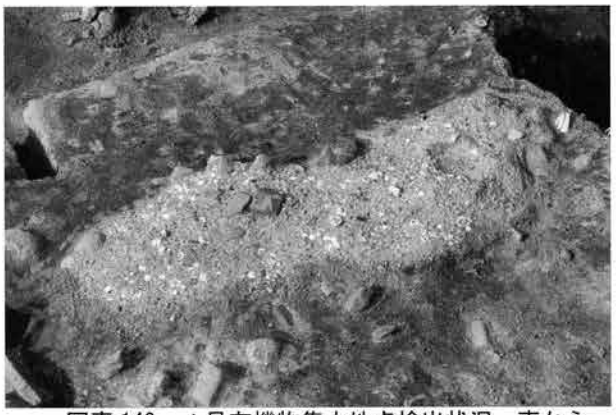


写真 149　１号有機物集中地点検出状況　東から

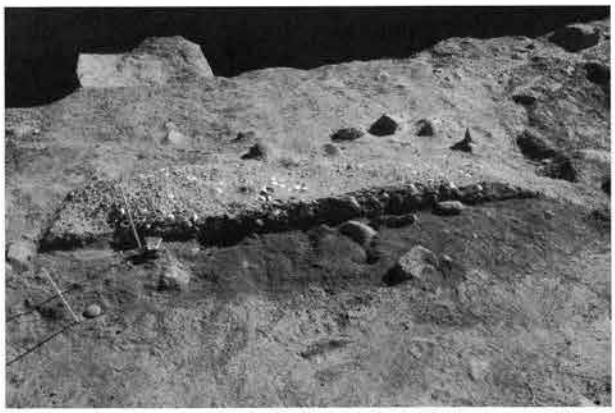


写真 150　１号有機物集中地点土層断面　西から

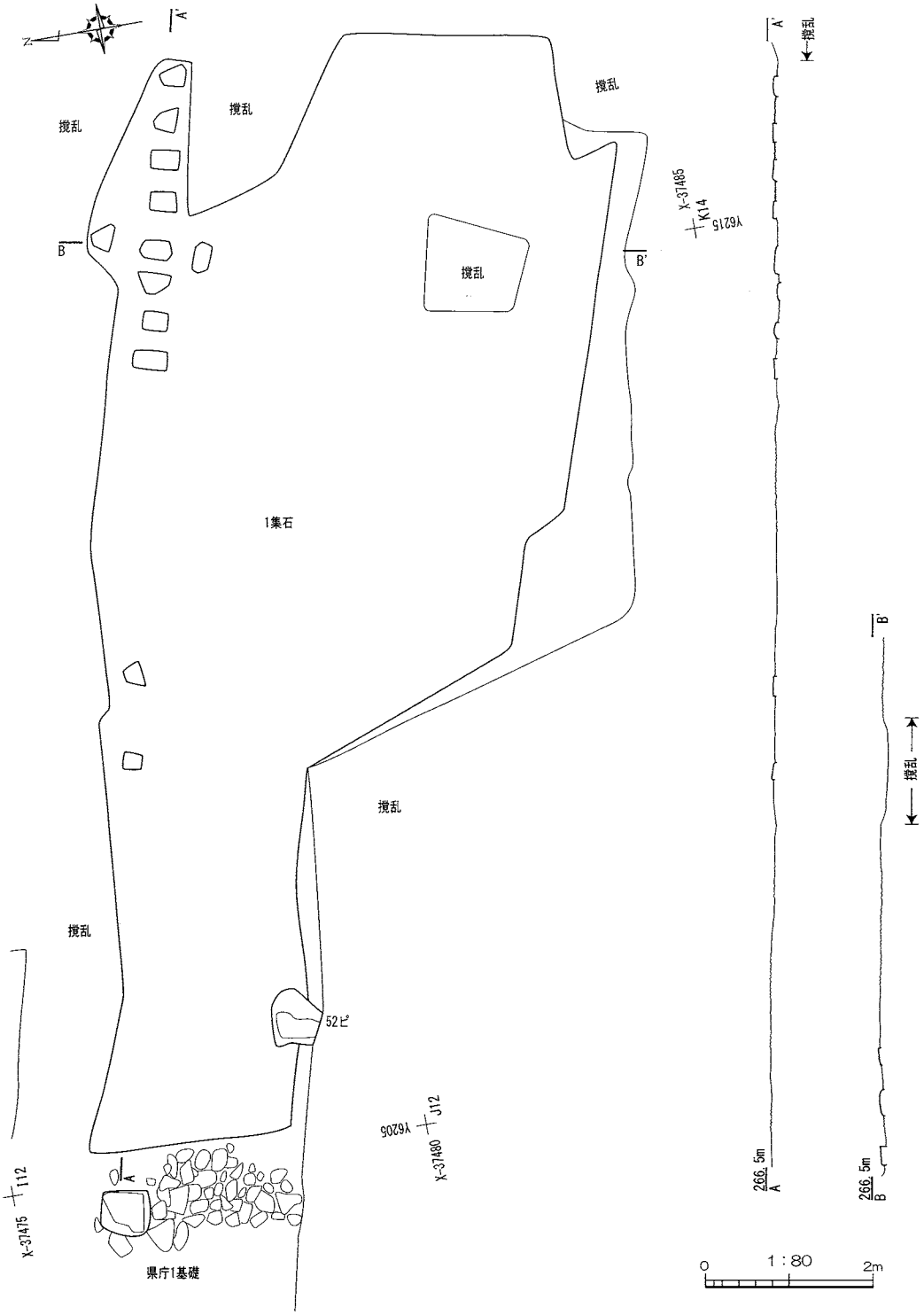

撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
撹乱
1集石
52ピ
県庁1基礎
X-37475
I12
X-37480
Y6206
J12
X-37485
Y6215
K14
A
A'
B
B'
266.5m
0
1:80
2m

図 135　1号集石

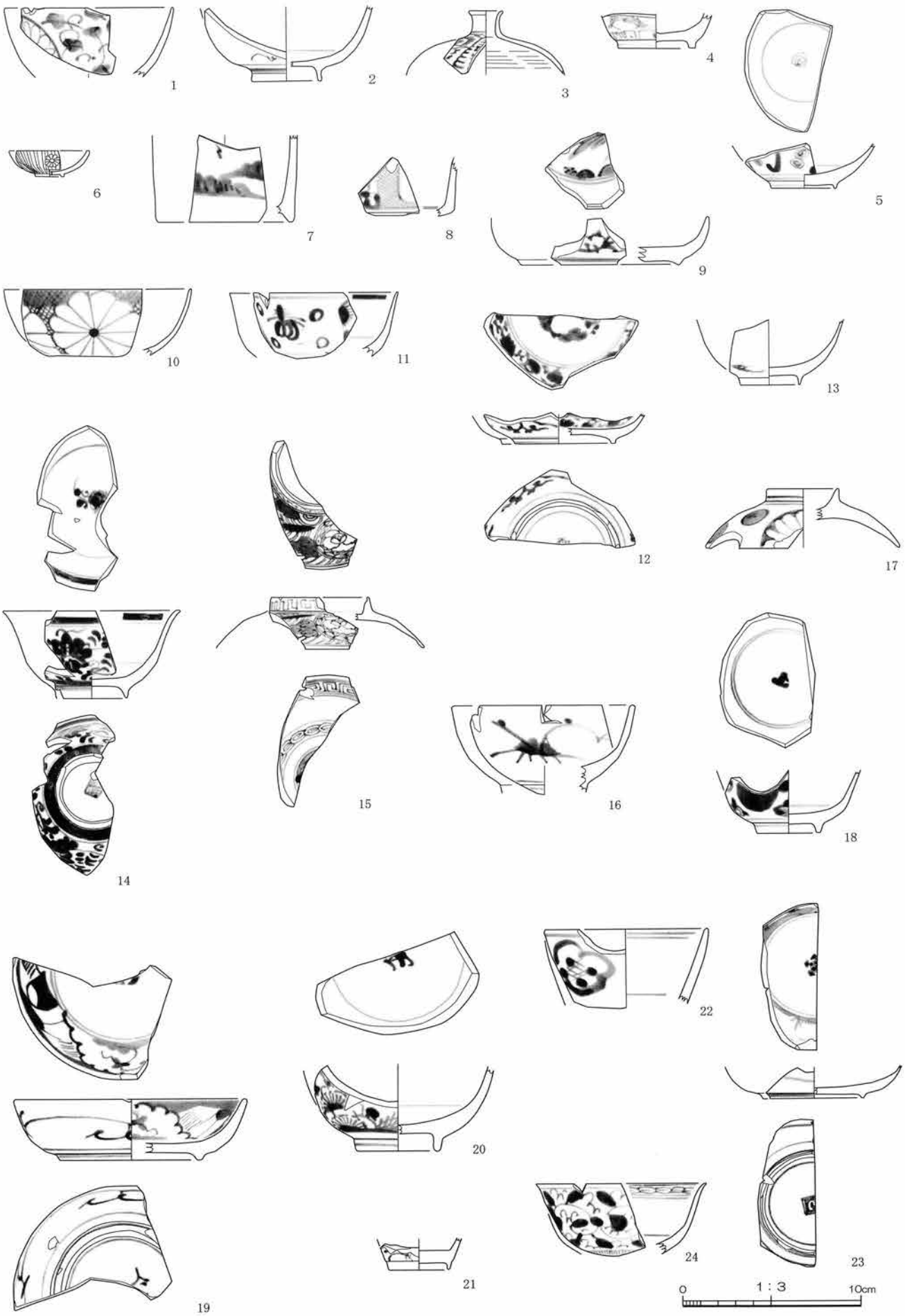


図 136　1号集石出土遺物（1）

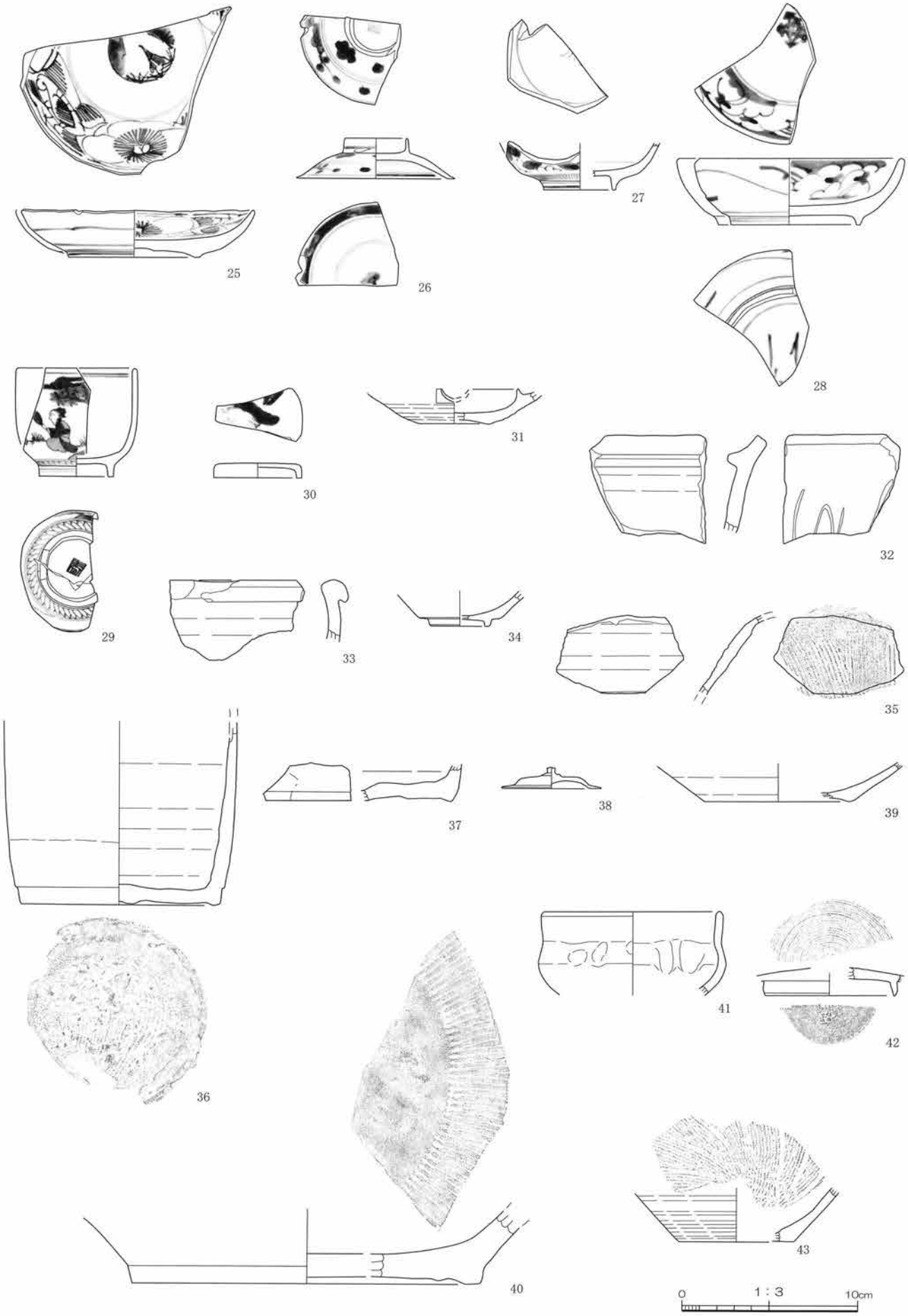
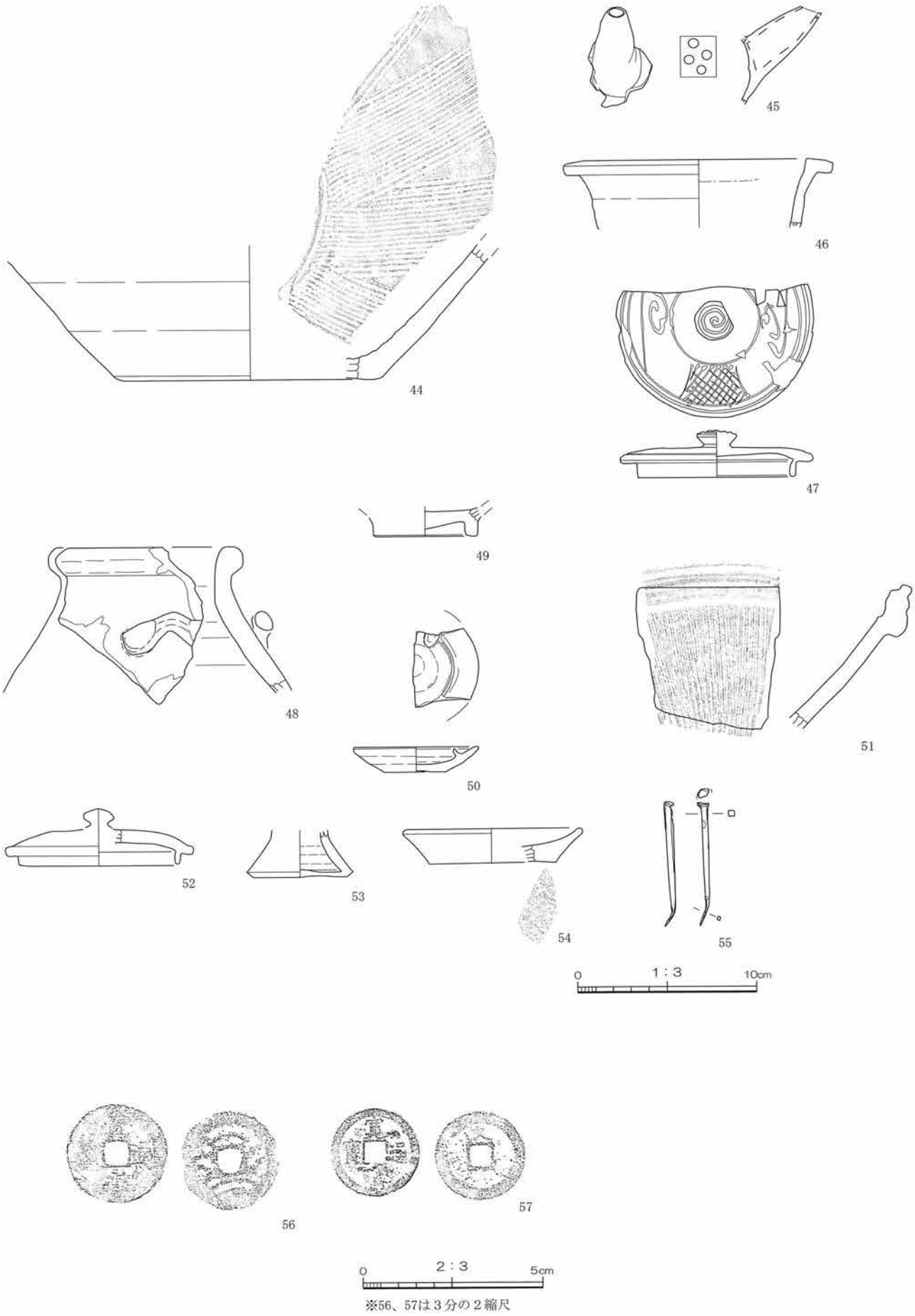


図 137　1号集石出土遺物（2）



※56、57は３分の２縮尺

図 138　１号集石出土遺物（３）

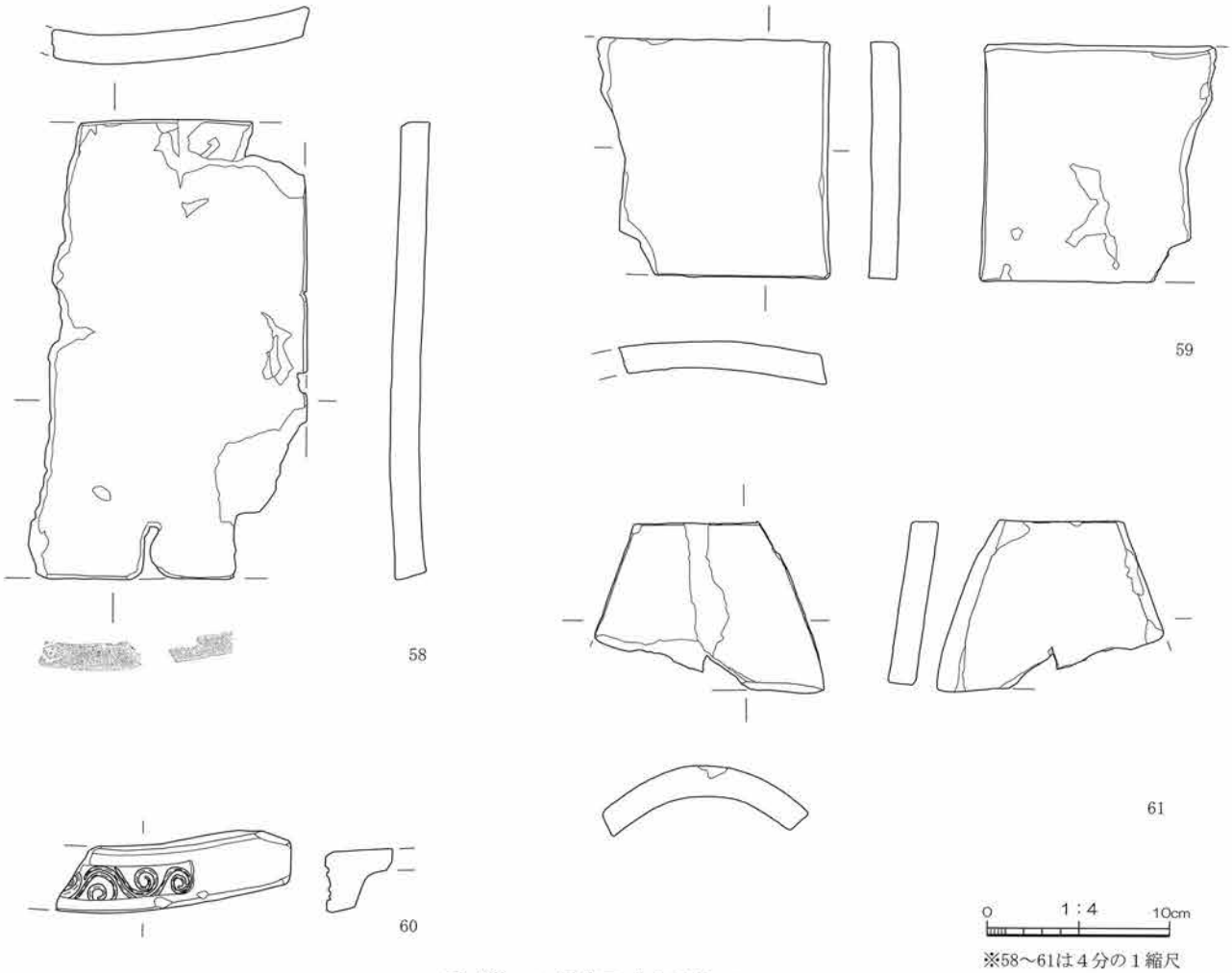


図 139　1号集石出土遺物（4）

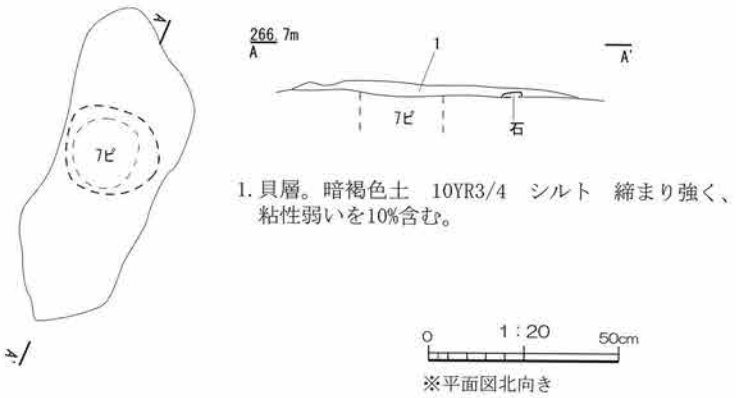


図 140　1号有機物集中地点

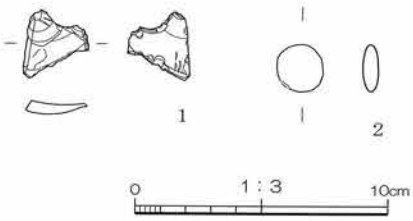


図 141　1号有機物集中地点出土遺物

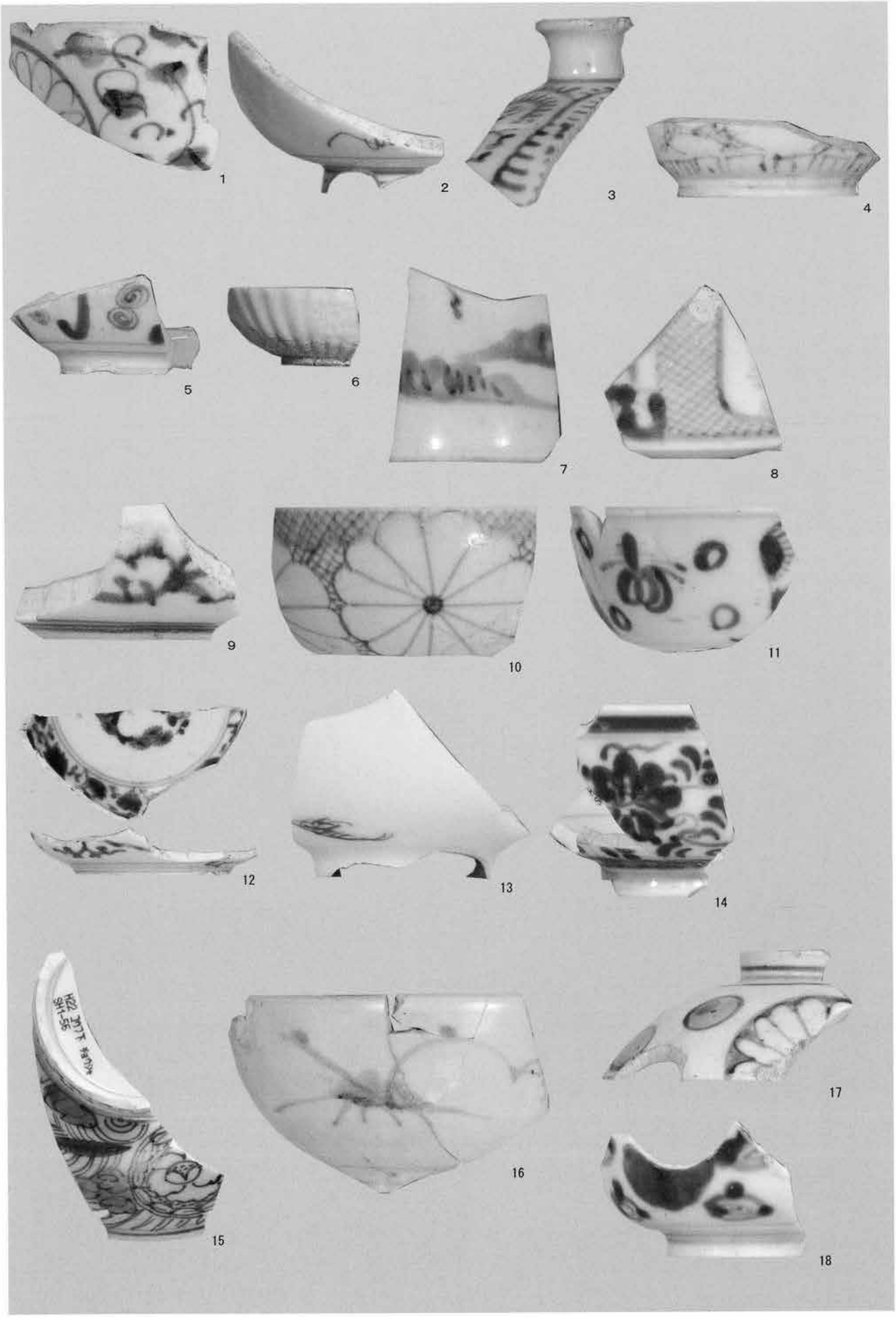


写真 151　1号集石出土遺物（1）

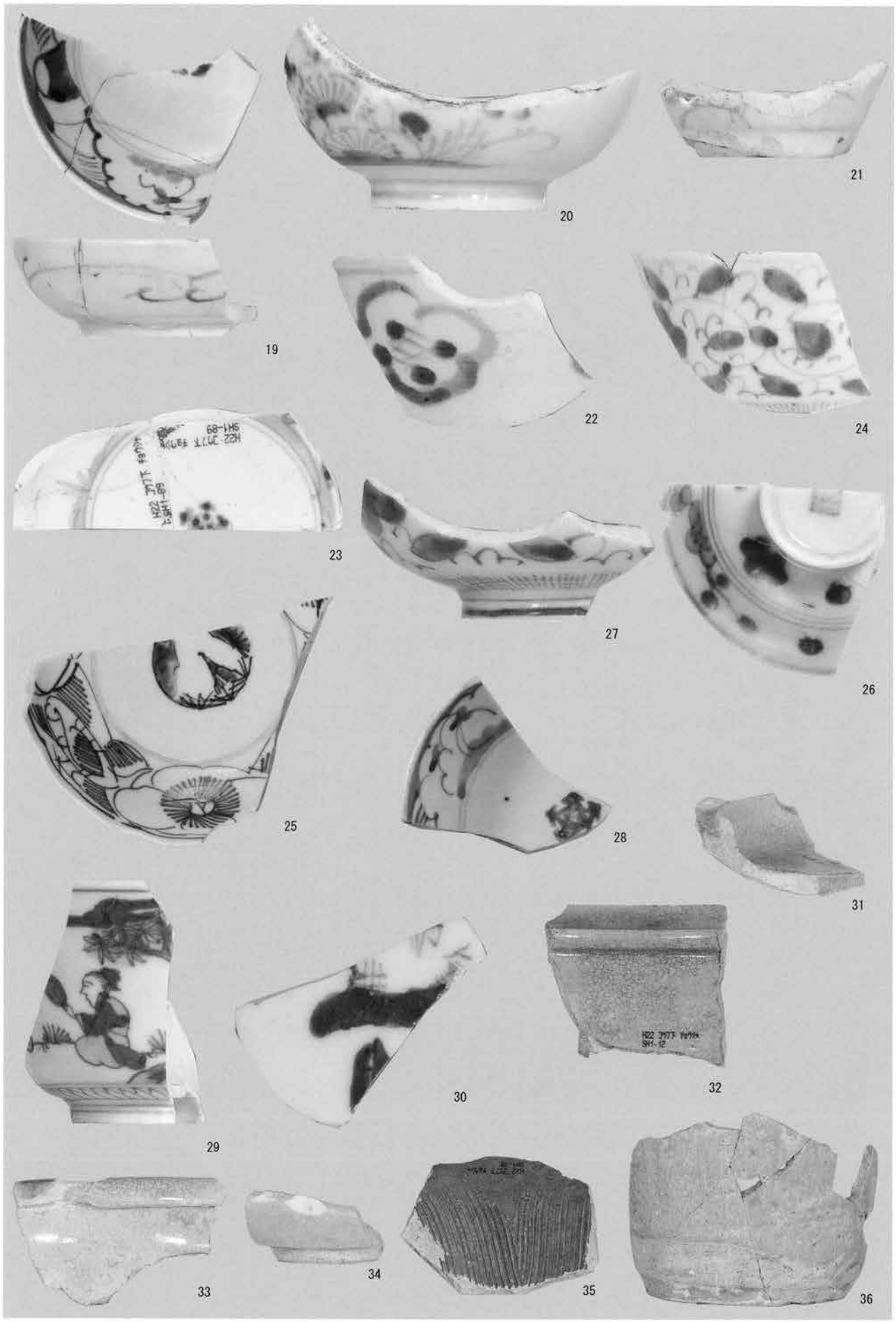


写真 152　1号集石出土遺物（2）

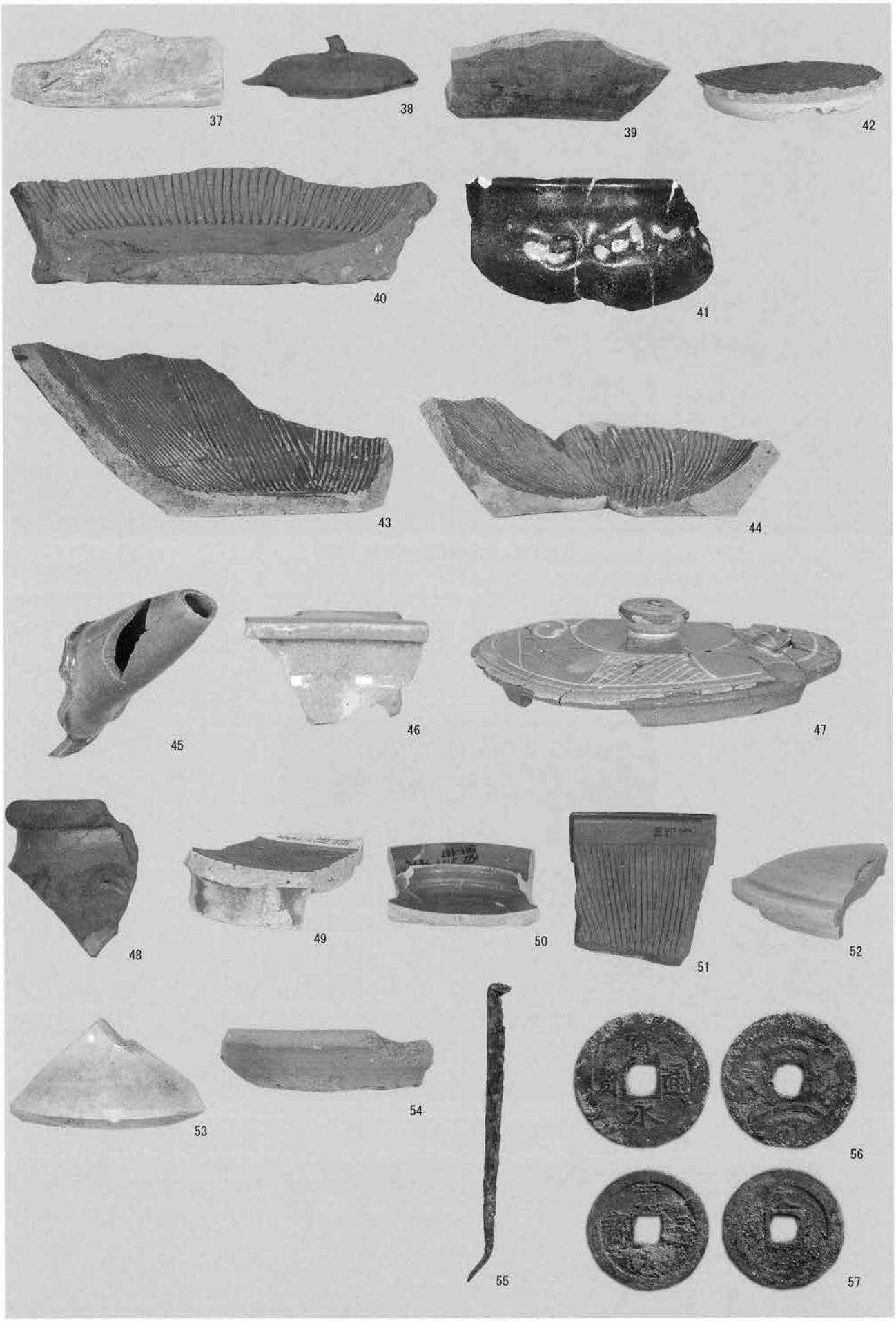


写真 153　1号集石出土遺物（3）

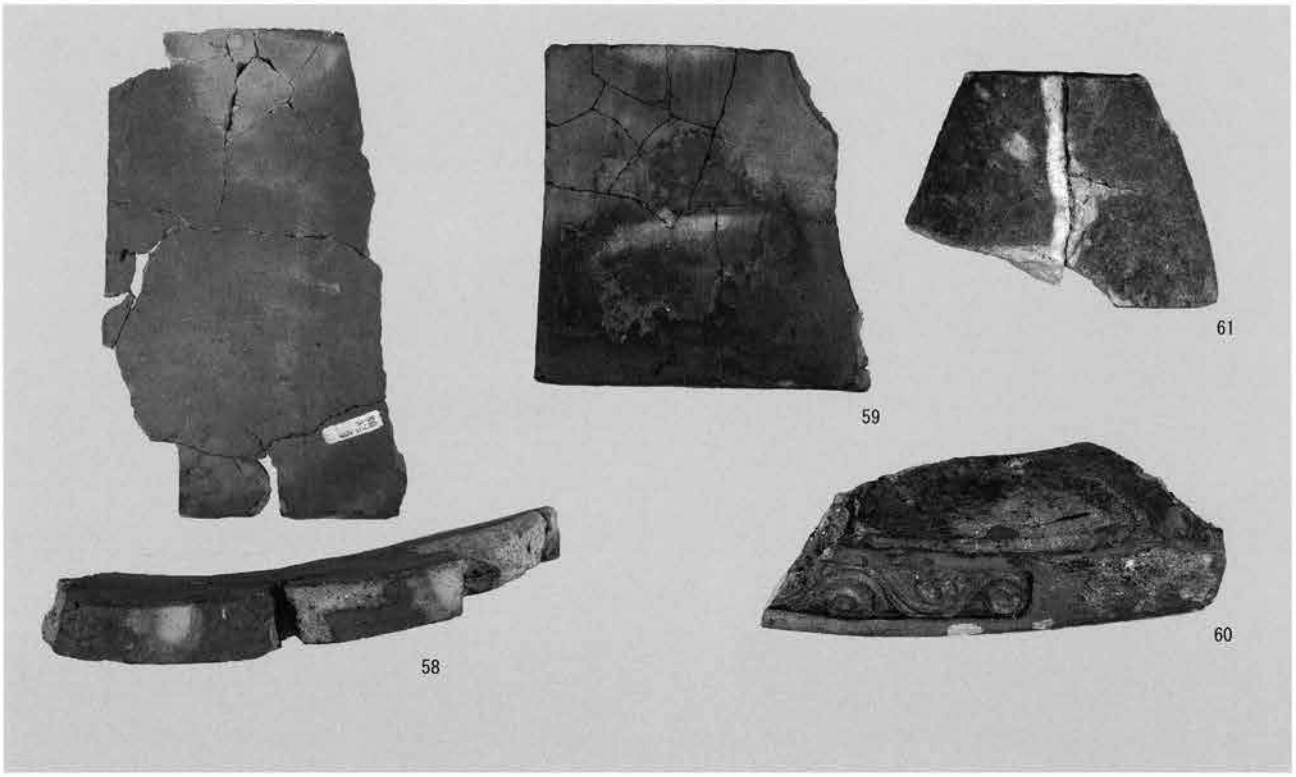


写真 154　1号集石出土遺物（4）

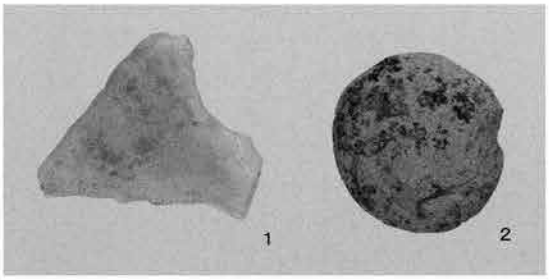


写真 155　1号有機物集中地点出土遺物

第10節　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物をグリッド順に記す。D 11からE 12グリッドとG 11からH 11グリッドの出土遺物の多くは窪地を埋め戻して整地して県庁を建てるときに埋没したものと考えられる。

撹乱B 12グリッド（図142）

遺物は磁器２点（１・２）、陶器２点（３・４）を図示した。磁器：１は瓶、２は広東碗、陶器：３は擂鉢、４は鉢である。

撹乱B 13グリッド（図142）

遺物は磁器２点（１・２）、土器１点（３）、土製品２点（４・５）、硝子製品１点（６）、瓦１（７）点を図示した。磁器：１・２は丸碗、土器：３は焜炉、土製品:４・５は碁石、ガラス製品:６は瓶、瓦:７は軒丸瓦である。６はKikkoManの陽刻がある。

撹乱B 14グリッド（図143）

遺物は磁器３点（１～３）、陶器１点（４）、金属製品２点（５・６）を図示した。磁器：１は蓋、２は香炉、３は筒丸碗である。陶器：４は便器、金属製品：５は釘、６は煙管雁首である。

C 11グリッド（図143・144）

遺物は磁器９点（１～９）、陶器４点（10～13）、石製品１点（14）、金属製品２点（15・16）、瓦１点（17）を図示した。磁器:１は丸碗、２・５は碗、３は瓶、４は皿、６は端反碗、７・９は蓋、８は鉢である。陶器:10は灯明受付皿、11は擂鉢、12は瓶、13は小皿である。石製品:14は火打石、金属製品:15は釘、16は釣り針、瓦:17は軒平瓦である。

撹乱C 11グリッド（図144）

遺物は陶器１点(１)、石製品１点(２)を図示した。陶器：１は壺状、石製品：２は箱状である。

C 12グリッド（図144）

遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器：１は皿である。

撹乱C 13グリッド（図144）

遺物は硝子製品２点（１・２）、石製品１点（３）を図示した。ガラス製品：１・２は瓶である。２は両側面にPAPILIOCLの陽刻がある。石製品：３は石筆石材と思われる。

C 14グリッド（図144）

遺物は陶器１点（１）を図示した。陶器：１は小皿である。

撹乱C 14グリッド（図144）

遺物は磁器４点（１～４）、土器１点（５）を図示した。磁器：１は香炉、２は瓶、３は丸碗、４は皿である。土器：５は小皿である。

C 15グリッド（図145）

遺物は磁器２点（１・２）を図示した。磁器:１・２は碗である。

D 11グリッド（図145・146）

遺物は磁器18点（１～18）、陶器９点（19～27）、土器１点（28）、金属製品１点（29）、瓦４点（30～33）を図示した。磁器:１は蓋、２は瓶、３・13・14は皿、４・17は碗、５・６・11・12・16は丸碗、７・８は筒形碗、９は鉢、10・15は瓶、18は急須である。陶器：19は秉燭、20は餌入れ、21は碗で高台が丸くなるほど摩耗している。22は鉢、23は三島手大皿、24は花瓶、25は土瓶、27は灯明受付皿である。土器：28は風口、金属製品：29はタイピンである。瓦：30は輪違い、31～33は平瓦で32は釘書き状の陰刻、33は三角内に二の刻印がある。

撹乱D 11グリッド（図147）

遺物は磁器１点（１）を図示した。磁器：１は広東碗である。

D 12グリッド（図147～150）

遺物は磁器26点（１～26）、陶器29点（27～55）、土器７点（56～62）、石製品４点（63～66）、土製品７点（67～73）、金属製品２点（74・79）、銭貨４点（75～78）、瓦４点（80～83）を図示した。磁器：１・８は端反碗、２は腰張碗、３は瓶、４・23は丸碗、５・14は皿、６は鍋島皿、10・19は碗、11は鉢、13は急須、16・24は蓋、17は鉢、18・26は端反碗、21は平碗、25は磁器の灯明受付皿などである。陶器：27・50は皿、28・51は鉢、29・54は擂鉢、30～32・55は土瓶、35・43は蓋、36はせんじ碗、37・53は行平鍋、39・47は小皿、41・48は碗、44・45は灯明受付皿などである。土器：56は火鉢、57・58・60は小皿、59は焜炉類、61は焙烙、62は目皿である。石製品:63は碁石、64は磨石、65は硯、66は砥石である。土製品：67～73は碁石、金属製品：74は鋲、79は飾りである。銭貨：75～78は寛永通宝である。75は四文銭、76は文銭である。瓦：80は軒平瓦、81は輪違い、82は軒桟瓦、83は谷平瓦である。

撹乱D 12グリッド（図151）

遺物は磁器２点（１～２）、土器１点（３）、土製品１点（４）、金属製品１点（５）、木製品１点（６）を図示した。磁器：１は皿、２は瓶である。土器：３は鉢と思われる。土製品：４は碁石、金属製品：

５は煙管吸口、木製品：６は部材で中央部に朱塗りが残存している。

Ｄ 13 グリッド（図 151）

遺物は磁器１点（１）、陶器２点（２・３）、瓦２点（４・５）を図示した。磁器：１は蓋、陶器：２はせんじ碗、３は底部に墨書がある。瓦：４・５は漆喰が残存している。なまこ壁と思われる。

Ｅ 10 グリッド（図 151）

遺物は磁器２点（１～２）、陶器１点（３）を図示した。磁器：１は皿、２は蕎麦猪口、陶器：３は蓋である。

Ｅ 11 グリッド（図 152・153）

遺物は磁器８点（１～８）、陶器 12 点（９～20）、土器４点（21～24）、土製品７点（25～31）、金属製品３点（32～34）、瓦

３点（35～37）を図示した。磁器：１・５は広東碗、２・６は蕎麦猪口、３・４は碗、７・８は丸碗である。陶器：９は土瓶、10・11 は蓋、12・16 は擂鉢、13・14 は蓋、15 は碗、17 は小皿、18・20 は鉢、19 は小杉碗である。土器：21 は目皿、22 は焼塩壺蓋、23 は火鉢、24 は小皿である。土製品：25～29 は碁石、30 は土鈴、31 は人形である。金属製品：32 は煙管雁首、33 は煙管吸口、34 は飾り、瓦：35・36 は平瓦、37 は桟瓦で丸の陰刻がある。

撹乱Ｅ 11 グリッド（図 154）

遺物は陶器２点（１・２）を図示した。陶器：１土瓶、２は擂鉢である。

Ｅ 12 グリッド（図 154～161）

遺物は磁器 90 点（１～90）、陶器 54 点（91～144）、土器 14 点（145～158）、ガラス製品２点（159・160）、土製品 20 点（161～180）、金属製品 10 点（181～185・187～190）、銭貨１点（186）、瓦２点（191～192）を図示した。磁器：１・15 は平碗、２・58 は鉢、５～７・83 は端反碗、３・67・87・90 は丸碗、10・33・85 は碗、17 腰張碗、20・40・54 は筒形碗、26 は水滴、30 は急須、34・53 は蓋、35・65・81 は皿、36 は合子蓋、37・76・86 はくらわんか碗、41・57・62・72 広東碗、46 は瓶、60 は燗徳利、66 仏花瓶、69 仏飯器、79 筒丸碗、88 は油壺、89 は紅皿などである。陶器：91・120 は蓋、92・98～100・143 は土瓶、96・118 は行平鍋、97 は小杉碗、102・135 は擂鉢、104・105 は皿、106・124・127 は鍋、107・110・131 は鉢、108・130 は壺、114 は碗、115・139 は瓶、119・136 は小皿、122・138・144 は灯明受付皿、137・141 はミニチュア鍋、140 は水入れなどである。土器：145・151・157・158 は焼塩壺、146 は鉢、147・149・156 は小皿、150・152～154 は焙烙、155 はミニチュア擂鉢である。148 は火鉢と思われる。ガラス製品：159・160 は瓶、土製品：161～175 は碁石、176・179・180 は土鈴、177 は土製模造貨、178 は人形である。金属製品：181 釣針、182・187～190 は釘、183 は柄の金具、185 は楔である。銭貨：186 は寛永通宝四文銭である。瓦：191 は袖瓦、192 は平瓦で丸の陰刻がある。

撹乱Ｅ 12 グリッド（図 161）

遺物は磁器３点（１～３）、陶器２点（４～５）、土器４点（６～９）、銭貨１点（10）を図示した。磁器：１・３は鉢、２は碗である。陶器：４は壺、５は腰錆碗、土器：６は焼塩壺、７～９小皿である。銭貨：10 は寛永通宝である。

Ｆ 10 グリッド（図 162）

遺物は銭貨１点（１）を図示した。銭貨：１は寛永通宝である。２枚が癒着している。

Ｆ 15 グリッド（図 162）

遺物は磁器３点（１～３）、陶器（４～８）、土器１点（９）、土製品１点（10）、金属製品４点（11～14）、銭貨：１点（15）を図示した。磁器：１は皿、２は蓋、３は仏飯器である。陶器：４は捏鉢、５は擂鉢、６は鉢、７・８は蓋である。土器：９は小皿、土製品：10 は碁石である。金属製品：11 は簪、12 は鋲、13 は煙管吸口、14 は飾りである。

撹乱Ｆ 15 グリッド（図 162）

遺物は銭貨１点（１）、金属製品１点（２）を図示した。銭貨：１は十銭硬貨、金属製品：２はボタンである。

Ｇ３グリッド（図 162）

遺物は磁器１点（１）、瓦１点（２）を図示した。磁器：１は碗、瓦：２は平瓦で三角内に二の陰刻がある。

撹乱Ｇ８グリッド（図 162）

遺物はガラス製品１点（１）を図示した。ガラス製品：１は瓶である。

Ｇ 10 グリッド（図 162）

遺物は銭貨１点（１）を図示した。銭貨：１は寛永通宝である。

撹乱Ｇ 10 グリッド（図 163）

遺物は磁器１点（１）、陶器４点（２～５）、土器２点（６・７）、瓦１点（８）を図示した。磁器：１は丸碗、陶器：２・３は蓋、４は擂鉢、５は灯明

受付皿である。土器: 6は小皿、7は焼塩壺である。瓦：8は輪違いである。

G 11グリッド（図163～175）

遺物は磁器135点（1～135）、陶器116点（136～251）、土器7点（252～258）、石製品4点（259～262）、土製品3点（263～265）、金属製品3点（266～268）、銭貨5点（269～273）、瓦7点（274～280）を図示した。磁器：1はくらわんか碗、2・9～11・134は丸碗、4・68は筒丸碗、5・42・125～128は皿、76は鍋島皿、6・79・109・117・123は端反碗、7・ 133は碗、131は広東碗、8・115・124は瓶、12・30・59は小坏、22・40・58・67は燗徳利、32・113・132は蓋、45は鉢、75・90・100は酒盃、120・122は水滴などである。陶器: 136～138・249・250は鉢、139・224・235は碗、210・211・223・231・244は小杉碗、140・161～163は擂鉢、141・190～196・245は土瓶、143・229は鍋、144・158は灯明受付皿、175・200・225は小皿、145～147・201～204・242は蓋、151は土鍋蓋、174は行平鍋蓋、212は行平鍋、154・160は壺、155は火鉢、165・181・188は瓶、248は小坏、251はミニチュア六角瓶などである。土器：252は皿、253は目皿、254・258は火鉢、255は火消し壺、256は焜炉類、257はカマドと思われる。石製品：259～261は石筆、262は滑石加工片である。土製品: 263～265は碁石、金属製品：267は把手、268は釘である。銭貨：269・270・272・273は寛永通宝、271は文久永宝である。瓦：274・279・280は丸瓦、275は桟瓦、276は軒桟瓦、277は袖瓦である。278はなまこ壁と思われる。

撹乱G 11グリッド（図175）

遺物は陶器1点（1）を図示した。陶器：1は小杉碗である。

G 12グリッド（図175～177）

遺物は磁器27点（1～27）、陶器20点（28～47）、土器3点（48～50）、石製品2点（51・52）、土製品1点（53）、金属製品4点（54～57）、瓦3点（58～60）を図示した。磁器：1は端反碗、2は皿、3は瓶、4～9は碗、10は広東碗、11～13は丸碗、18は小坏、25は燗徳利、26は合子などである。陶器：28～30は蓋、31は灯明受付皿、32は土瓶、34は徳利、47は擂鉢、35は瓶、36は行平鍋、43は鉢などである。土器：48は小皿、49コンロ、50はカマドである。石製品：51・52は硯。52は朱墨が残存している。土製品：53は碁石、金属製品：54・55は弾丸、56は煙管吸口、57は鋲である。瓦: 58～60は瓦転用砥石である。

G 14グリッド（図177）

遺物は磁器3点（1～3）、陶器2点（4・5）、土製品3点（6～8）、金属製品2点（9・10）を図示した。1は香炉、2は碗、4は蓋、5は擂鉢、6は碁石、9は煙管雁首、10は釘などである。

G 15グリッド（図177・178）

遺物は磁器2点（1～2）、陶器2点（3～4）、土器1点（5）、土製品2点（6・7）、金属製品1点（8）、銭貨1点（9）を図示した。1は碗、2は皿、3は擂鉢、5は手焙り、6は碁石、8は簪状、9は寛永通宝などである。

撹乱G 15グリッド（図178）

遺物は磁器2点（1・2）、陶器1点（3）、土器1点（4）、金属製品1点（5）を図示した。1は碗、2はレンゲ、3は三島手皿、4は片口状、5は煙管吸口である。

H 5グリッド（図178）

遺物は磁器21点（1・2）、土器1点（3）を図示した。1は酒盃、2は水滴、3は小皿である。

H 7グリッド（図178・179）

遺物は磁器2点（1～2）、陶器1点（3）、土器1点（4）、土製品3点（5～7）、瓦4点（9～12）を図示した。1は碗、3は餌入れ4は小皿、5は碁石、9は輪違い、10は鬼瓦、11は平瓦である。

H 8グリッド（図179・180）

遺物は磁器16点（1～16）、陶器1点（17～26）、硝子製品1点（27）、石製品1点（28）、土製品（29～38）、金属製品1点（39）、銭貨1点（40）を図示した。1は端反碗、2は丸碗、8は水滴、15は餌入れか、16は蓋、18は秉燭、19は灯明受付皿、21は鉢、22は土瓶、23は蓋、27は栓、28は磨石、29は碁石、39は鋲、40は寛永通宝などである。

H 9グリッド（図180・181）

遺物は磁器1点（1）、陶器3点（2～4）、瓦2点（5・6）を図示した。1は碗、2は植木鉢、4は小坏、5は平瓦、6は軒丸瓦である。

H 10グリッド（図181）

遺物は磁器2点（1・2）、土製品1点（3）、銭貨1点（4）、金属製品1点（5）を図示した。1・2は碗、3は碁石、4は寛永通宝、5は煙管吸口である。

撹乱H 10グリッド（図181）

遺物は磁器2点（1・2）、土製品1点（3）を

図示した。1・2は丸碗、3は碁石である。

H 11 グリッド（図 182 ～ 193）

遺物は磁器 99 点（1 ～ 99）、陶器 55 点（100 ～ 154）、土器 10 点（155 ～ 164）、土製品 3 点（165 ～ 167）、石製品 4 点（168 ～ 171）、金属製品 3 点（172・173・175）、銭貨 1 点（174）、瓦 4 点（175 ～ 179 を図示した。1は碗、3は平碗、6は腰張碗、7は丸碗、8は端反碗、14 は皿、18 は筒丸碗、37 は香炉、41 は瓶、43 は小坏、51 は蓋、53 は広東碗、80 は鉢、100 は小杉碗、102 は行平鍋、103 は壺、105 は土瓶、107 は蓋、109 は擂鉢、112 は壺、121 は行平鍋蓋、122 は灯明受付皿、123 は小皿、139 は鍋、130 は碗、131 は徳利、134 は瓶、155 は目皿、156 は火鉢、158 は灯明皿、159 は火鉢、161 は小皿、163・164 はカマド、165 は碁石、168・170 は砥石、169 は硯、172 は鋲、173 は煙管雁首、175 は煙管吸口、174 は寛永通宝、176 は丸瓦、177・178 は平瓦などである。

撹乱H 11 グリッド（図 194）

遺物は磁器 6 点（1 ～ 6）、陶器 9 点（7 ～ 15）、土器 1 点（16）、土製品 1 点（17）を図示した。1は広東碗、2は碗、4は香炉、7は土瓶、8は碗、9は擂鉢、10 は小杉碗、13 は小皿、14 は瓶、15 は水滴、16 は火鉢、17 は碁石などである。

H 12 グリッド（図 195・196）

遺物は磁器 21 点（1 ～ 21）、陶器 13 点（22 ～ 28）、土器 1 点（29）、木製品 1 点（30）を図示した。1は小坏、2は丸碗、4は端反碗、5は腰張碗、15 は壺、19 は皿、22 は陶胎染付碗、23 は鉢、24 は擂鉢、25 は土瓶、27 は脚付灯明受付皿、28 は瓶、29 は焙烙、30 は漆器碗などである。

H 14 グリッド（図 196・197）

遺物は磁器 5 点（1 ～ 5）、陶器 13 点（6 ～ 18）、土器 2 点（19 ～ 20）、石製品 1 点（21）、土製品 2 点（22 ～ 23）、銭貨 1 点（24）、瓦 1 点（25）を図示した。1・2は碗、3は鶏形人形、4は皿、7は捏鉢、8は瓶、9は擂鉢、11 は墨書のある鉢、12 は尿瓶、14 は土瓶、15 は A と陰刻された目皿、18 は鍋、19 は火鉢、20 は皿、21 は砥石、22 は碁石、24 は寛永通宝、25 は桟瓦などである。

撹乱H 15 グリッド（図 197）

遺物は磁器 1 点（1）を図示した。磁器：1は蓋である。

I 4グリッド（図 198）

遺物は瓦 1 点（1）を図示した。1は平瓦である。

I 5グリッド（図 198）

遺物は磁器 1 点（1）、陶器 1 点（2）、土器 1 点（3）、瓦 3 点（4 ～ 6）を図示した。1は碗、2は鉢、3は火鉢、4は平瓦、5は軒桟瓦、6は軒丸瓦である。

I 8グリッド（図 198）

遺物は陶器 3 点（1 ～ 3）、金属製品 1 点（4）を図示した。1は灯明受付皿、2は土瓶、3は蓋、4は釘である。

I 9グリッド（図 198）

遺物は陶器 1 点（1）を図示した。1は鉢である。

撹乱 I 9グリッド（図 198）

遺物は硝子製品 1 点（1）を図示した。1は瓶である。ヤクルト銘がある。

I 10 グリッド（図 198）

遺物は土製品 1 点（1）を図示した。1は碁石である。

I 11 グリッド（図 199）

遺物は磁器 2 点（1 ～ 2）、陶器 2 点（3 ～ 4）、貝製品 1 点（5）、瓦 3 点（6 ～ 8）を図示した。磁器：1は丸碗、2は端反碗、陶器：3は碗、4は小皿、貝製品：5は碁石、瓦：6は丸瓦、7・8は輪違いである。

撹乱 I 11 グリッド（図 198）

遺物は瓦 1 点（1）を図示した。1は輪違いである。

撹乱 I 12 グリッド（図 198）

遺物は磁器 1 点（1）を図示した。1は丸碗である。

J 8グリッド（図 200）

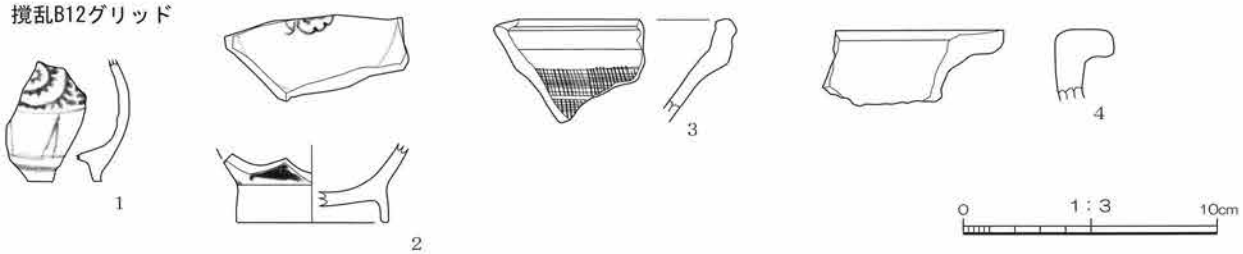
遺物は磁器 5 点（1 ～ 5）、陶器 1 点（6）を図示した。1は鉢、2 ～ 5は碗、6は瓶である。

調査区一括（図 200）

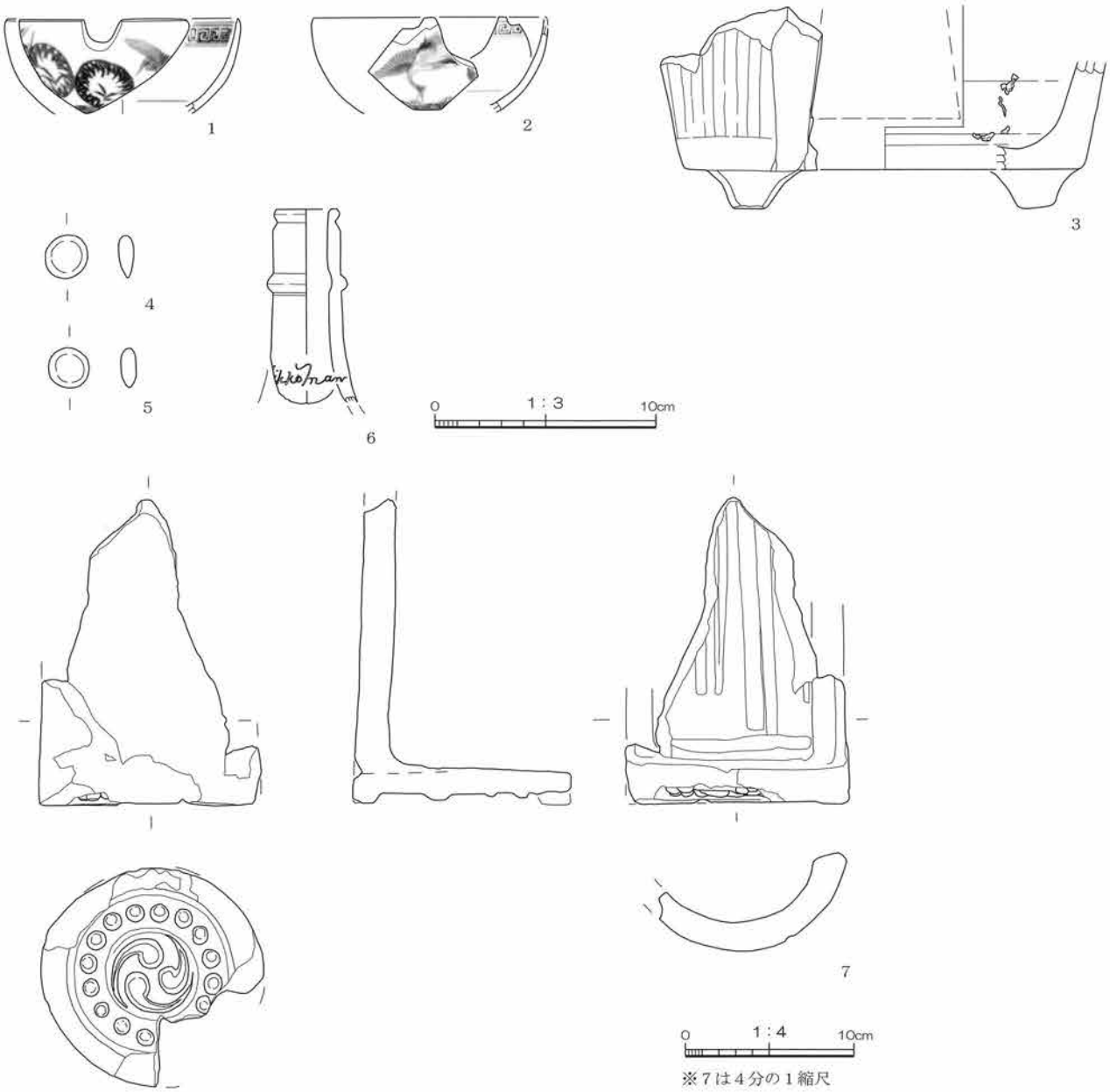
遺物は磁器 3 点（1 ～ 3）、金属製品 1 点（5）、瓦 3 点（5 ～ 7）を図示した。1・2は碗、3は皿、5は軒瓦、6・7はなまこ壁と思われる。

写真 156　G 11 グリッド遺物出土状況

撹乱B12グリッド



撹乱B13グリッド



※7は4分の1縮尺

図142　遺構外出土遺物（1）

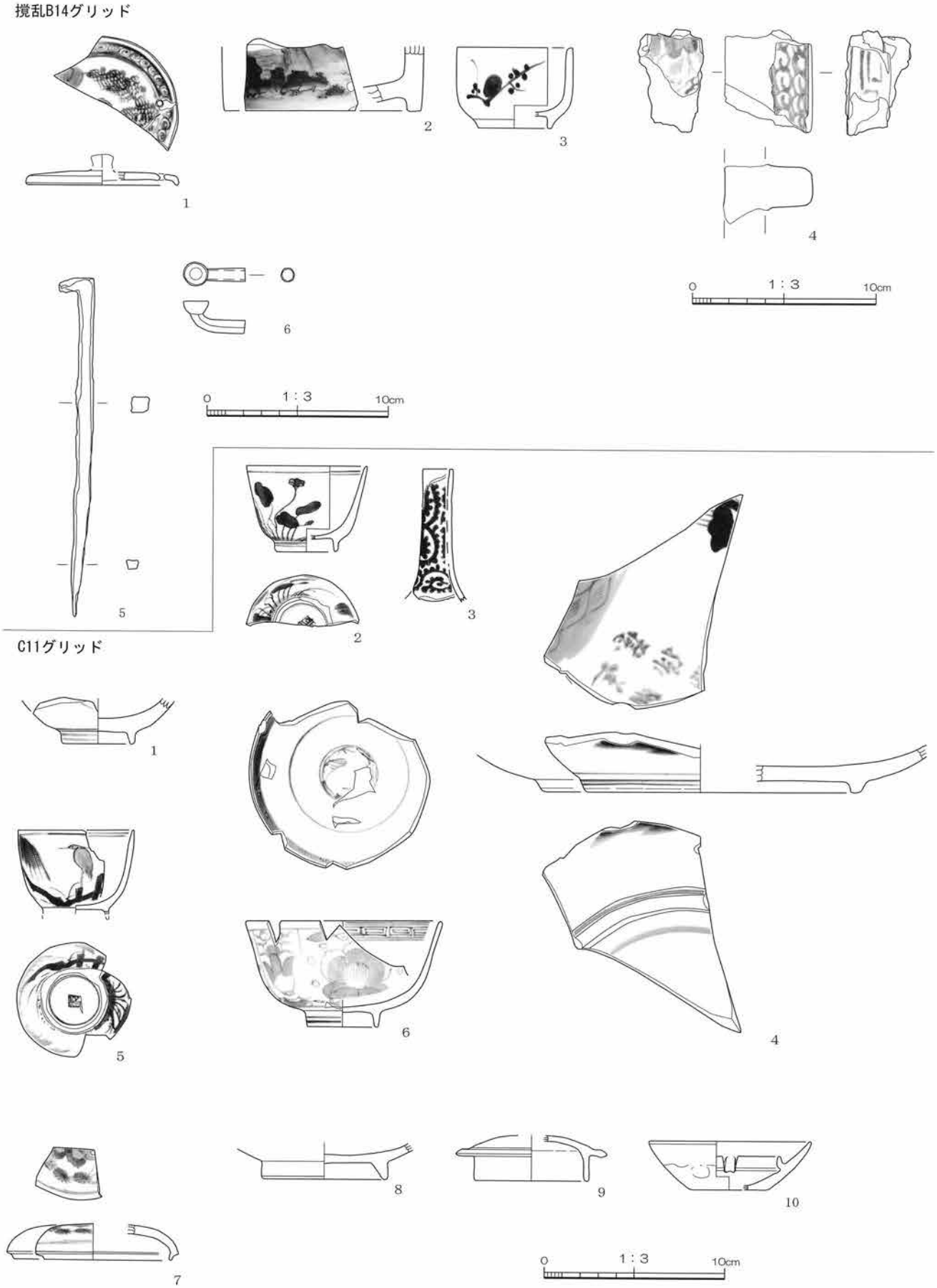
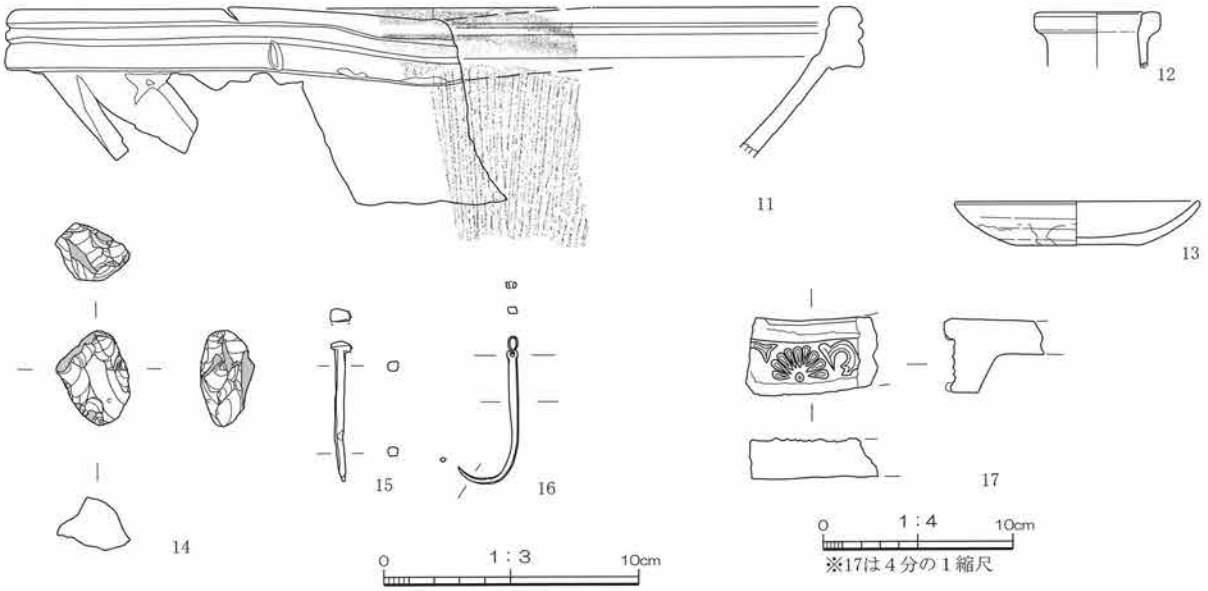
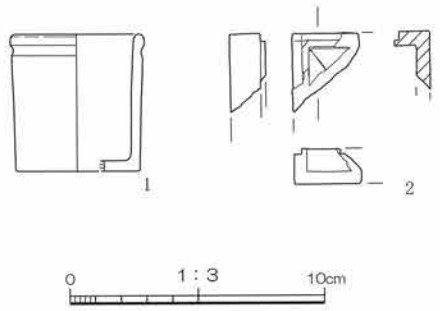


図 143　遺構外出土遺物（2）

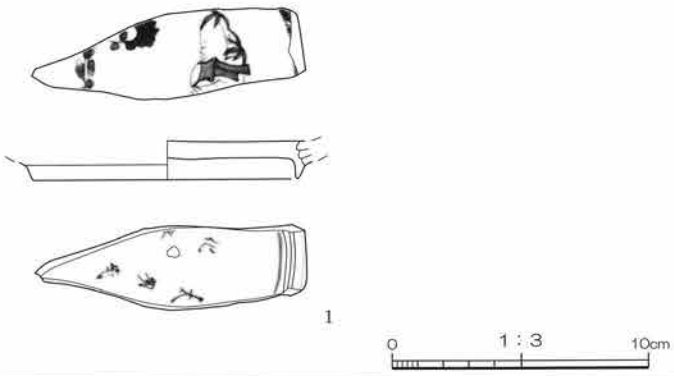
C11グリッド



撹乱C11グリッド

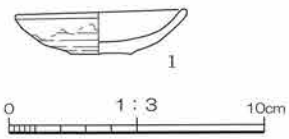


C12グリッド



撹乱C13グリッド

C14グリッド



撹乱C14グリッド

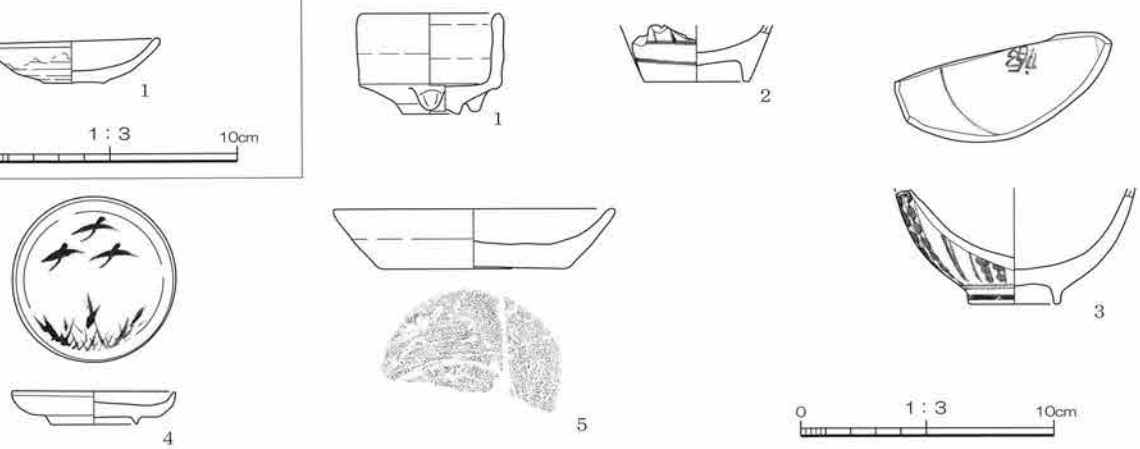


図144　遺構外出土遺物（3）

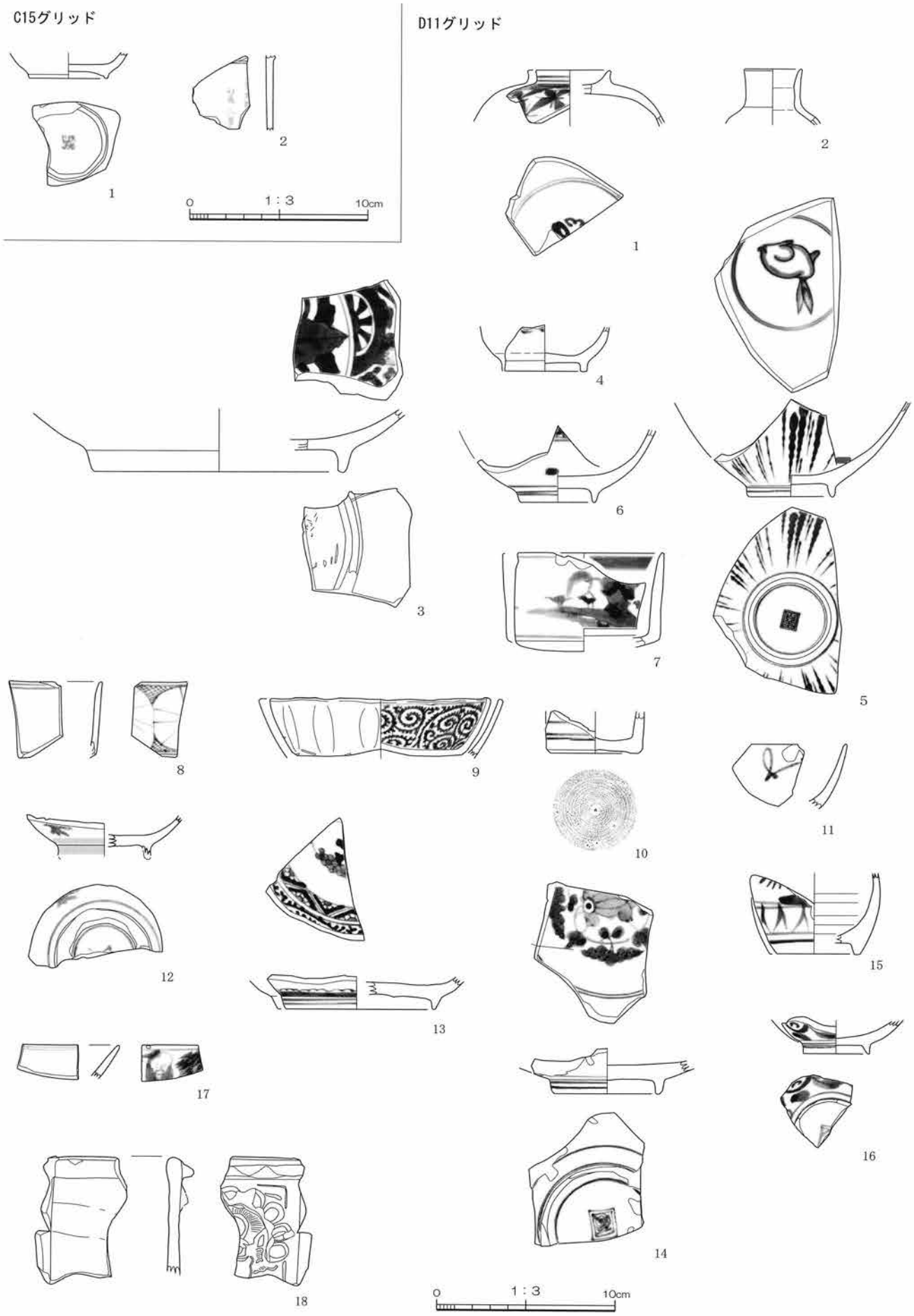


図 145　遺構外出土遺物（4）

D11グリッド

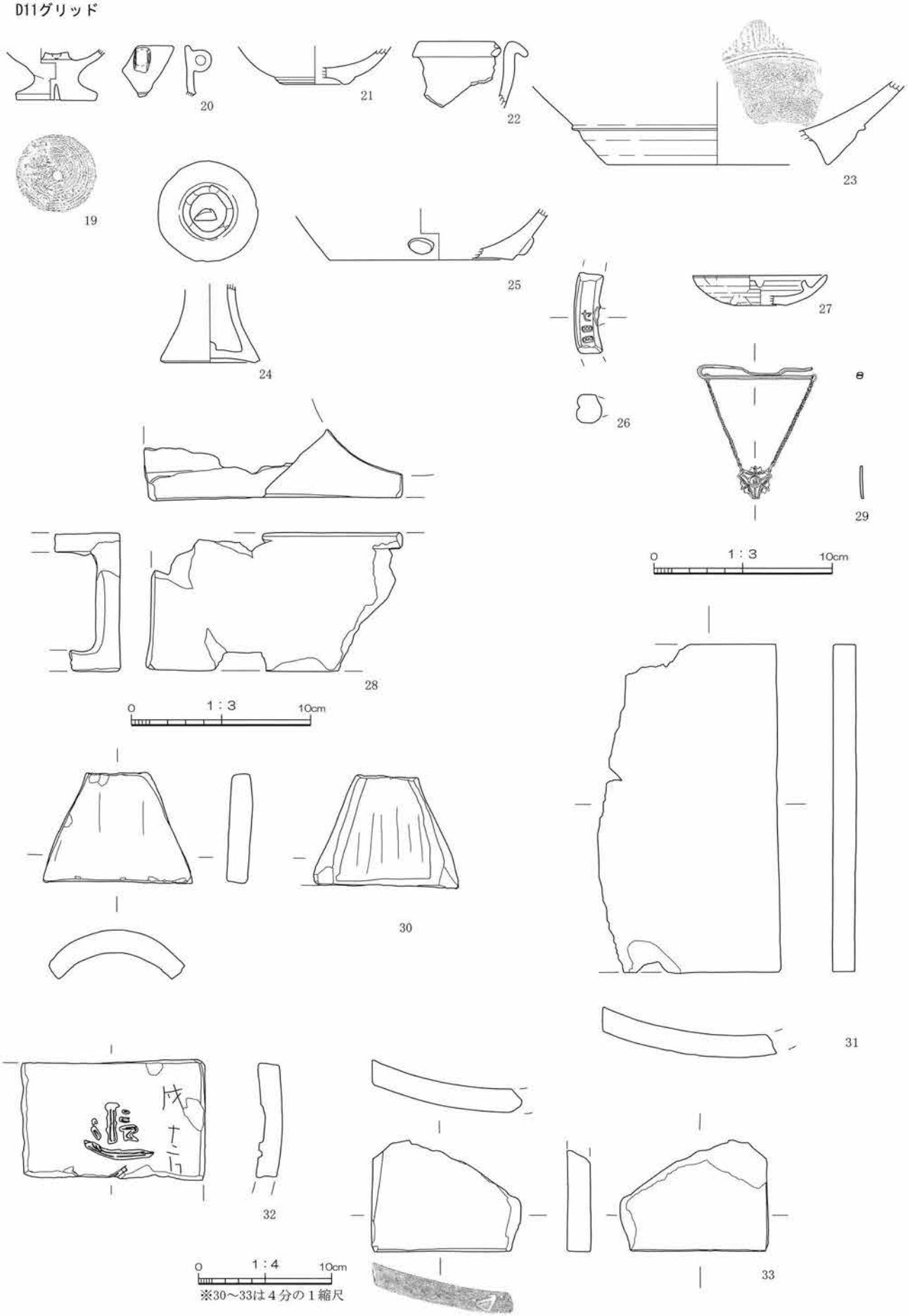


図 146　遺構外出土遺物（５）

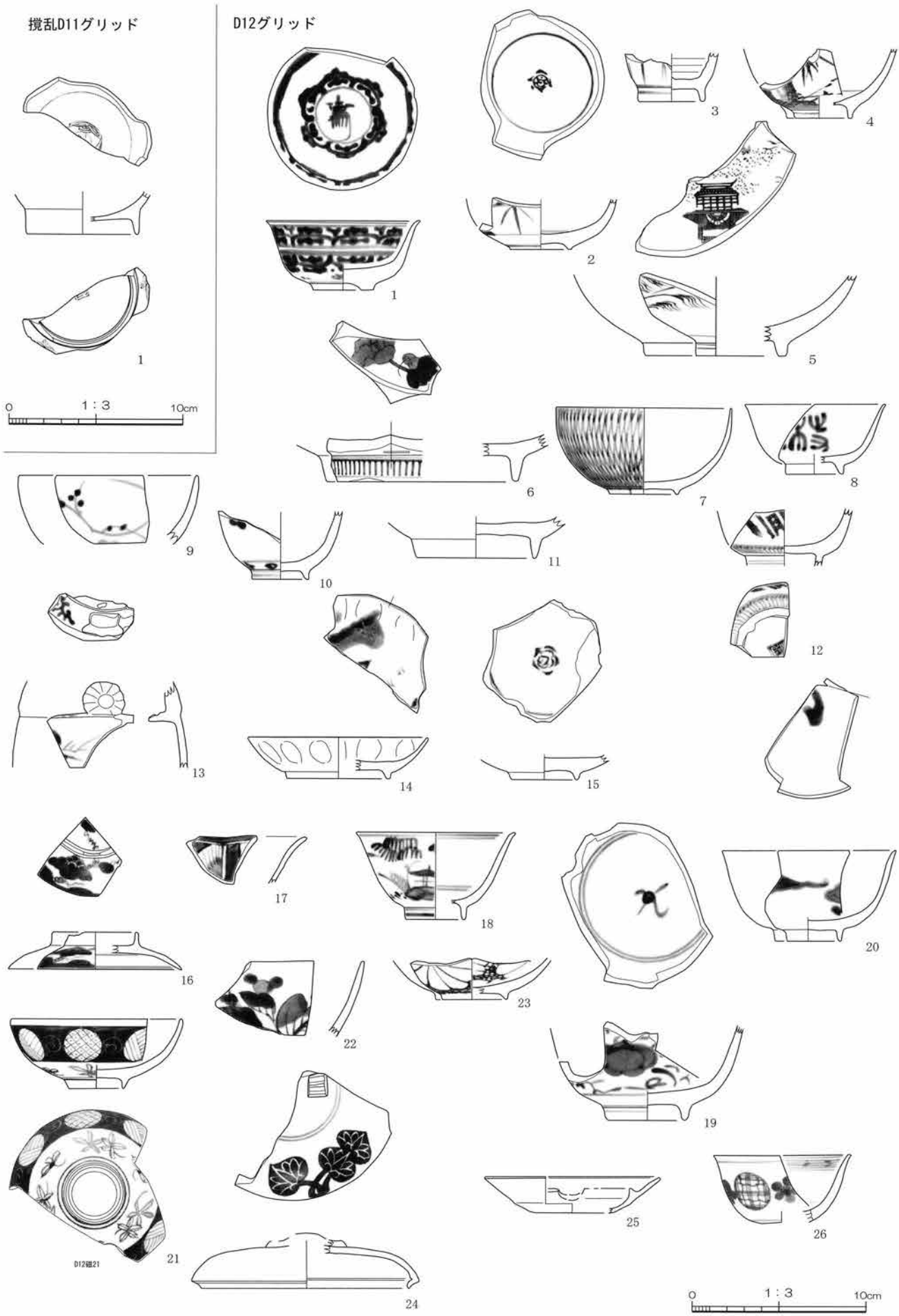


図 147　遺構外出土遺物（6）

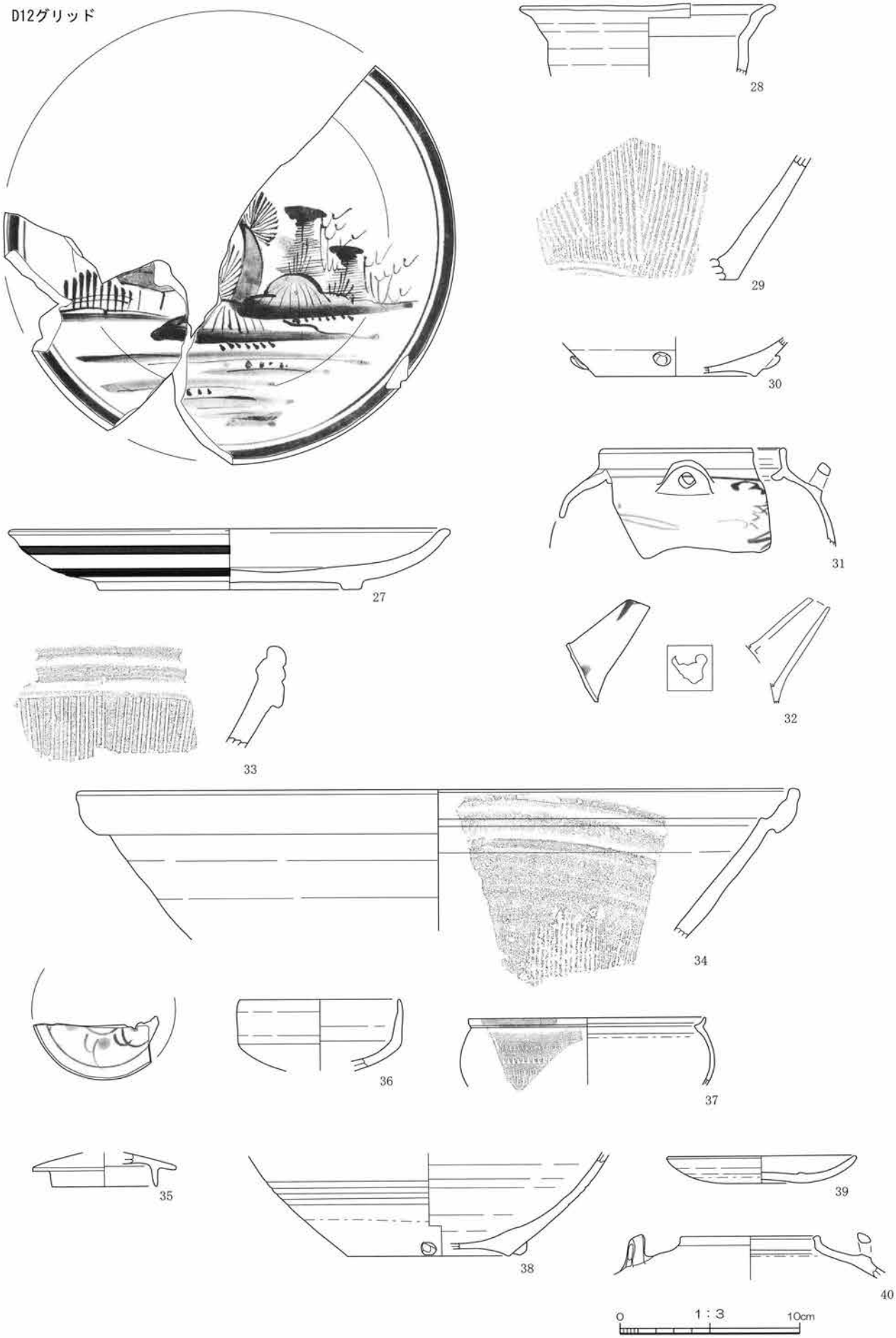


図 148　遺構外出土遺物（7）

D12グリッド

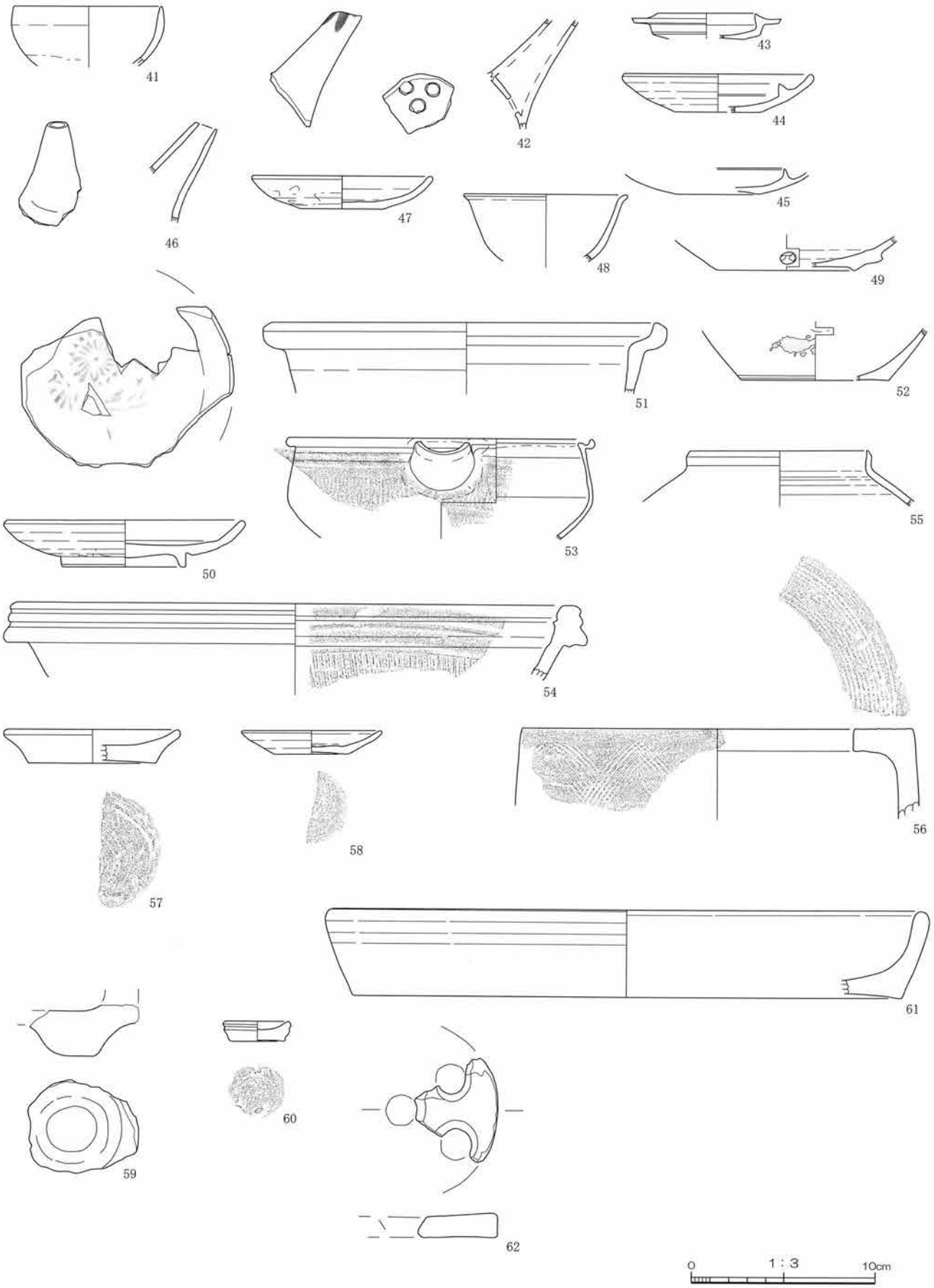


図 149　遺構外出土遺物（8）

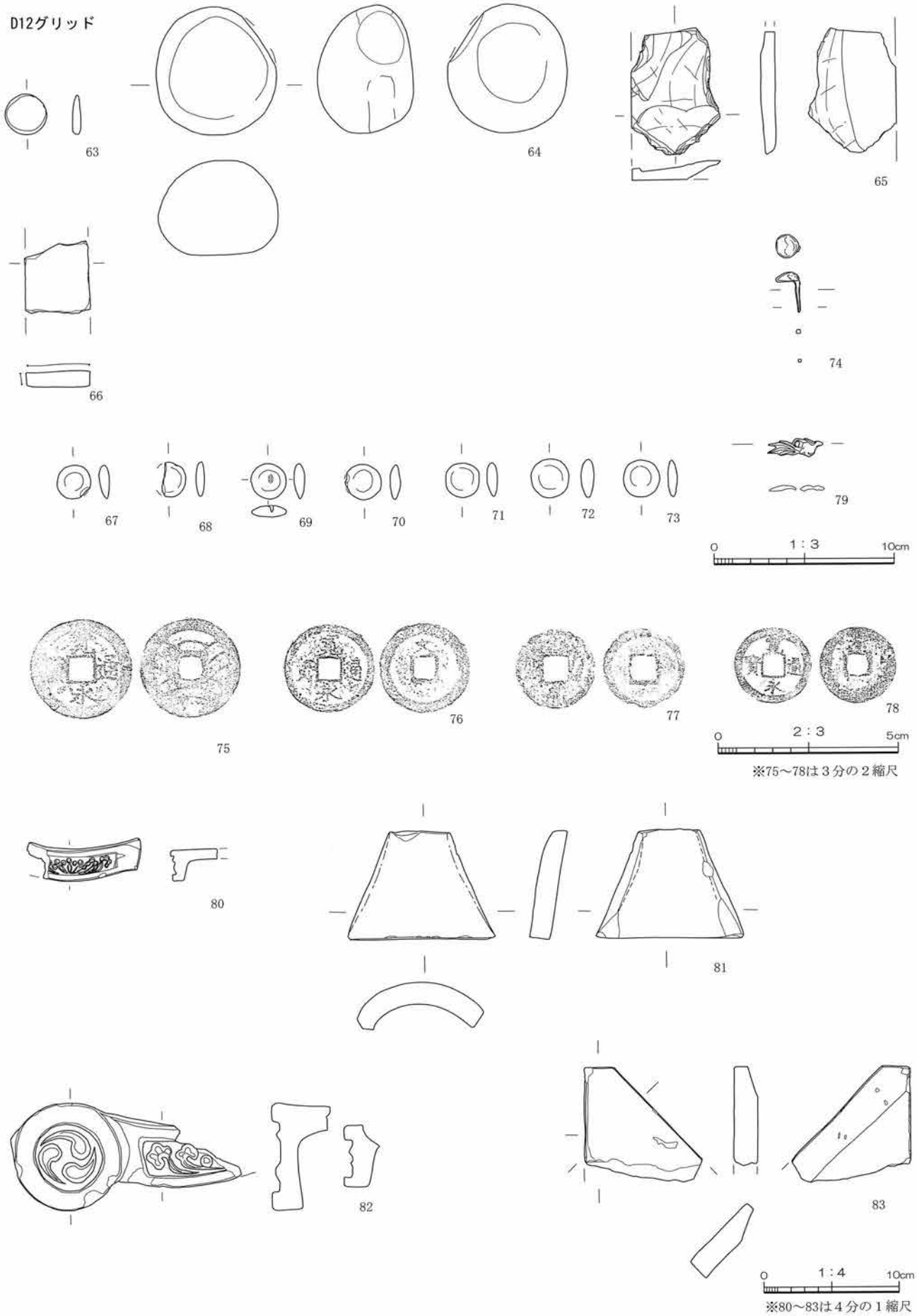
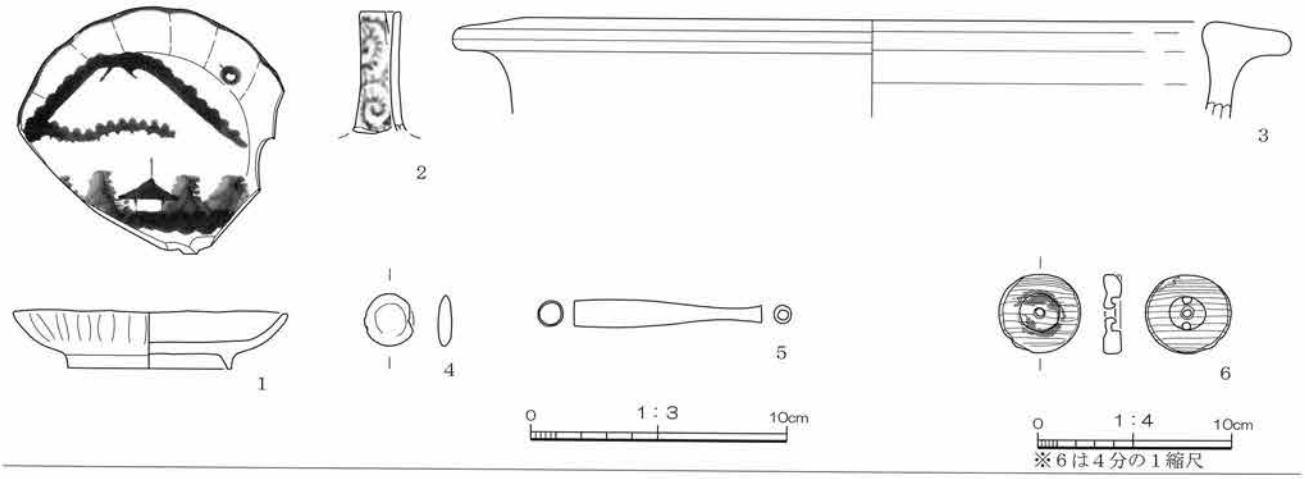
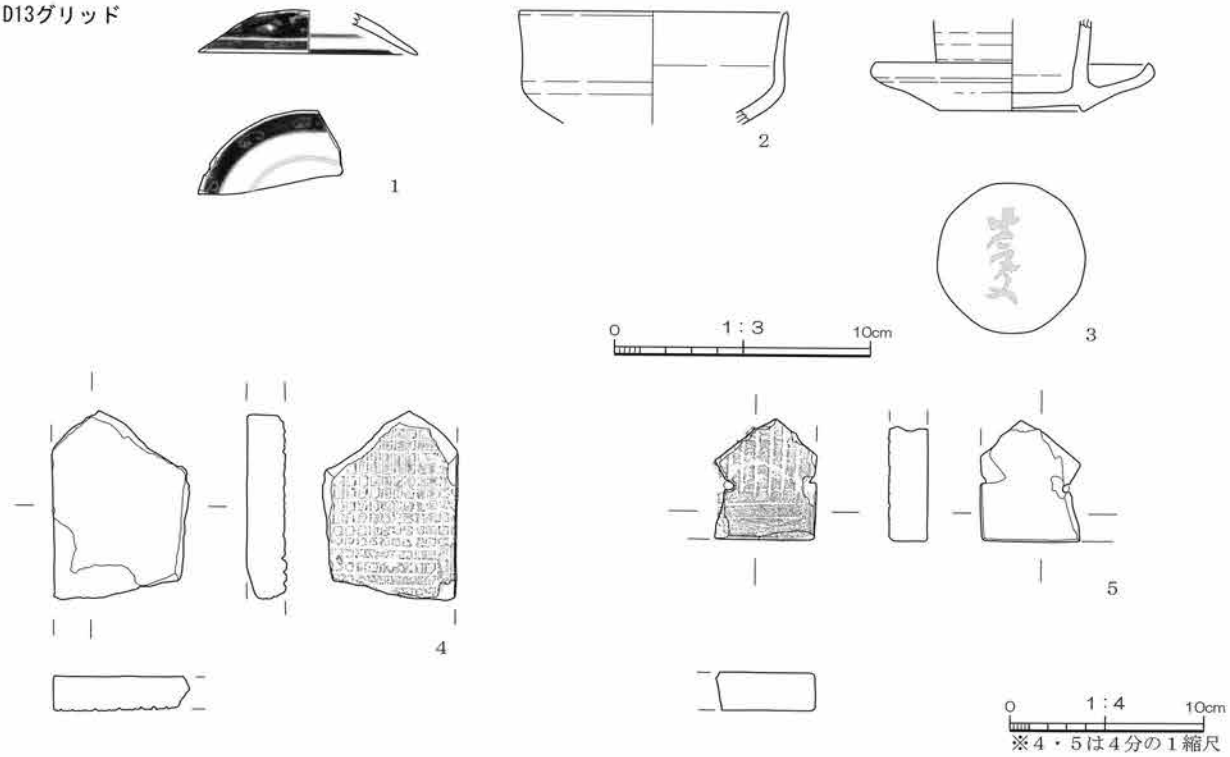


図 150　遺構外出土遺物（９）

撹乱D12グリッド



D13グリッド



E10グリッド

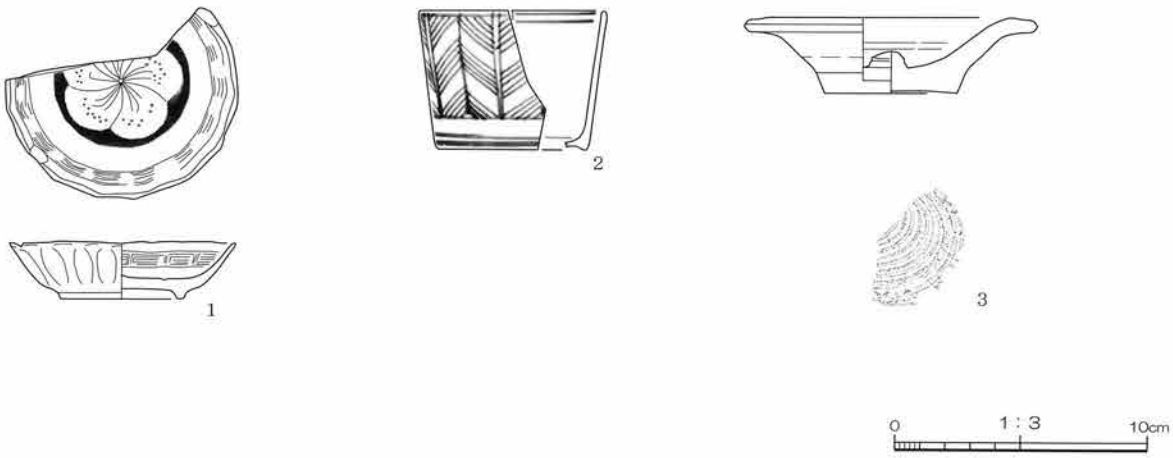


図 151　遺構外出土遺物（10）

E11グリッド

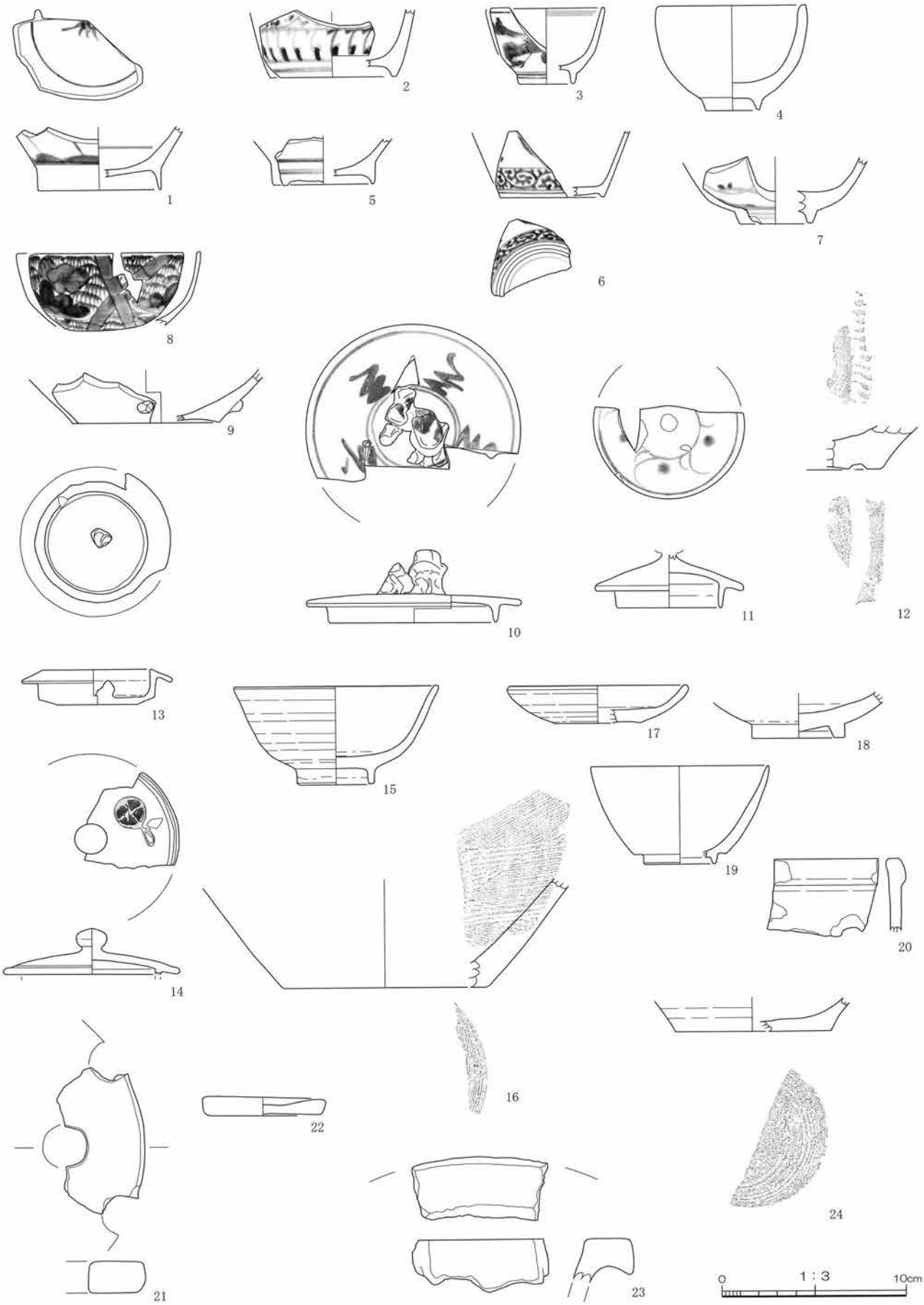


図 152　遺構外出土遺物（11）

E11グリッド

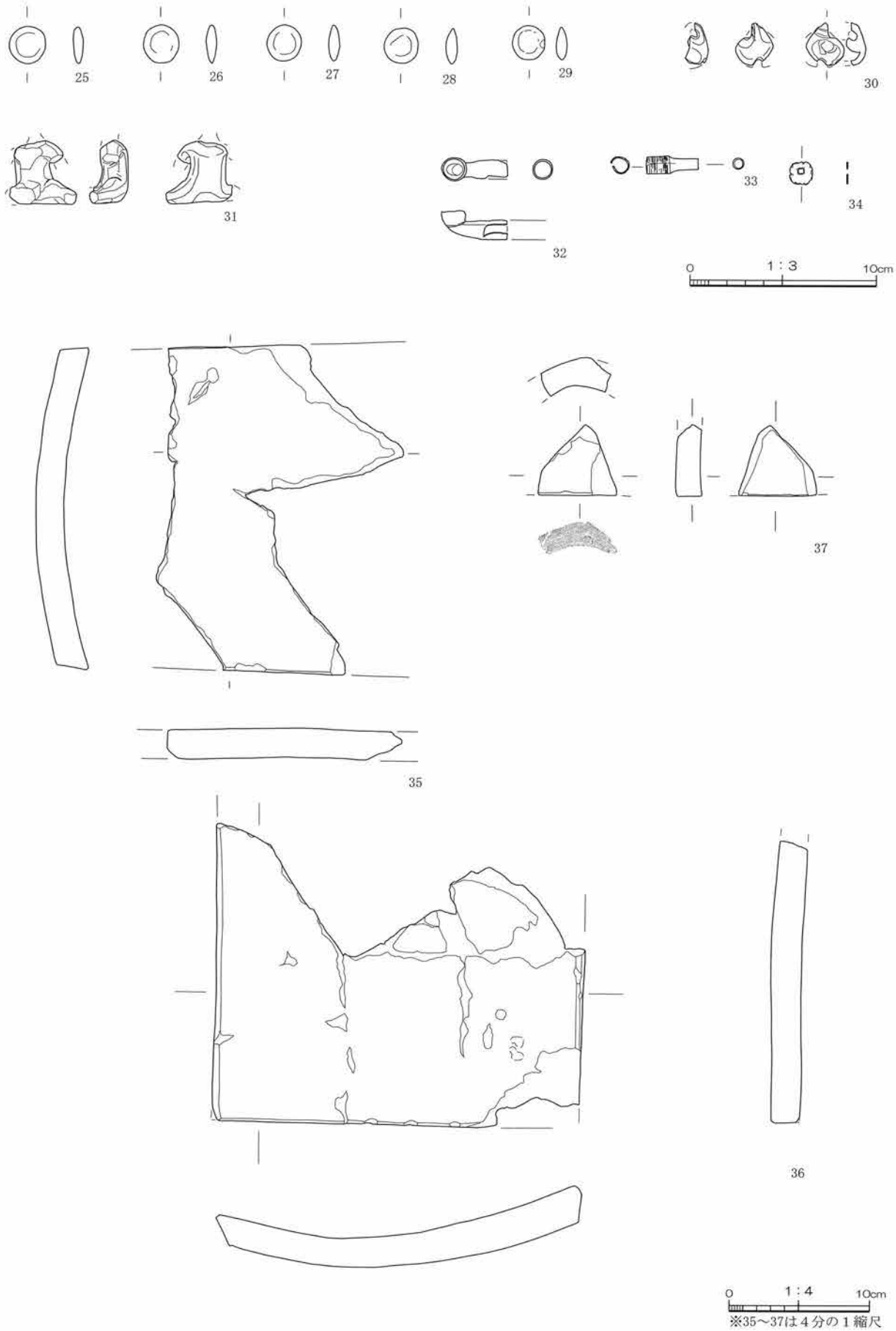


図 153　遺構外出土遺物（12）

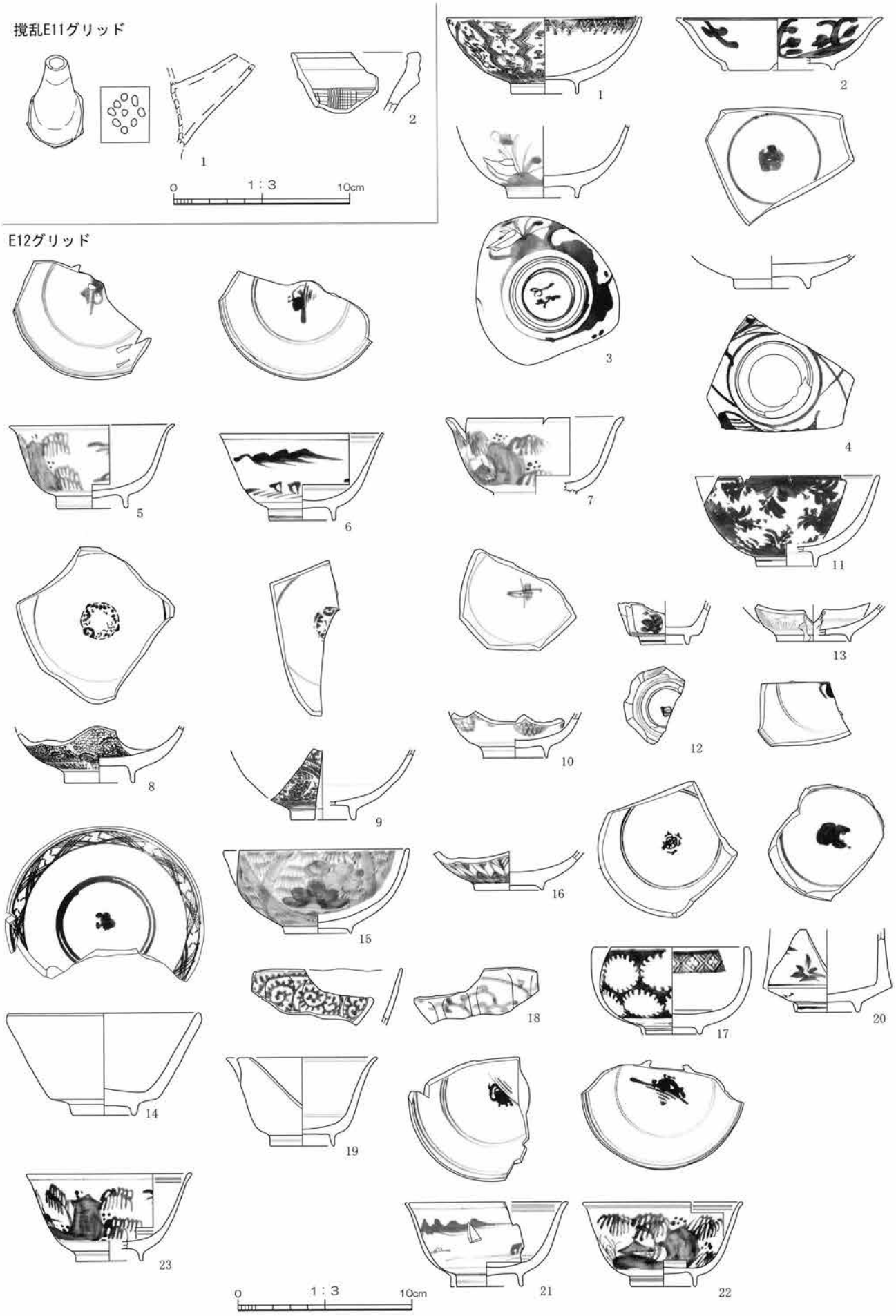


図 154　遺構外出土遺物（13）

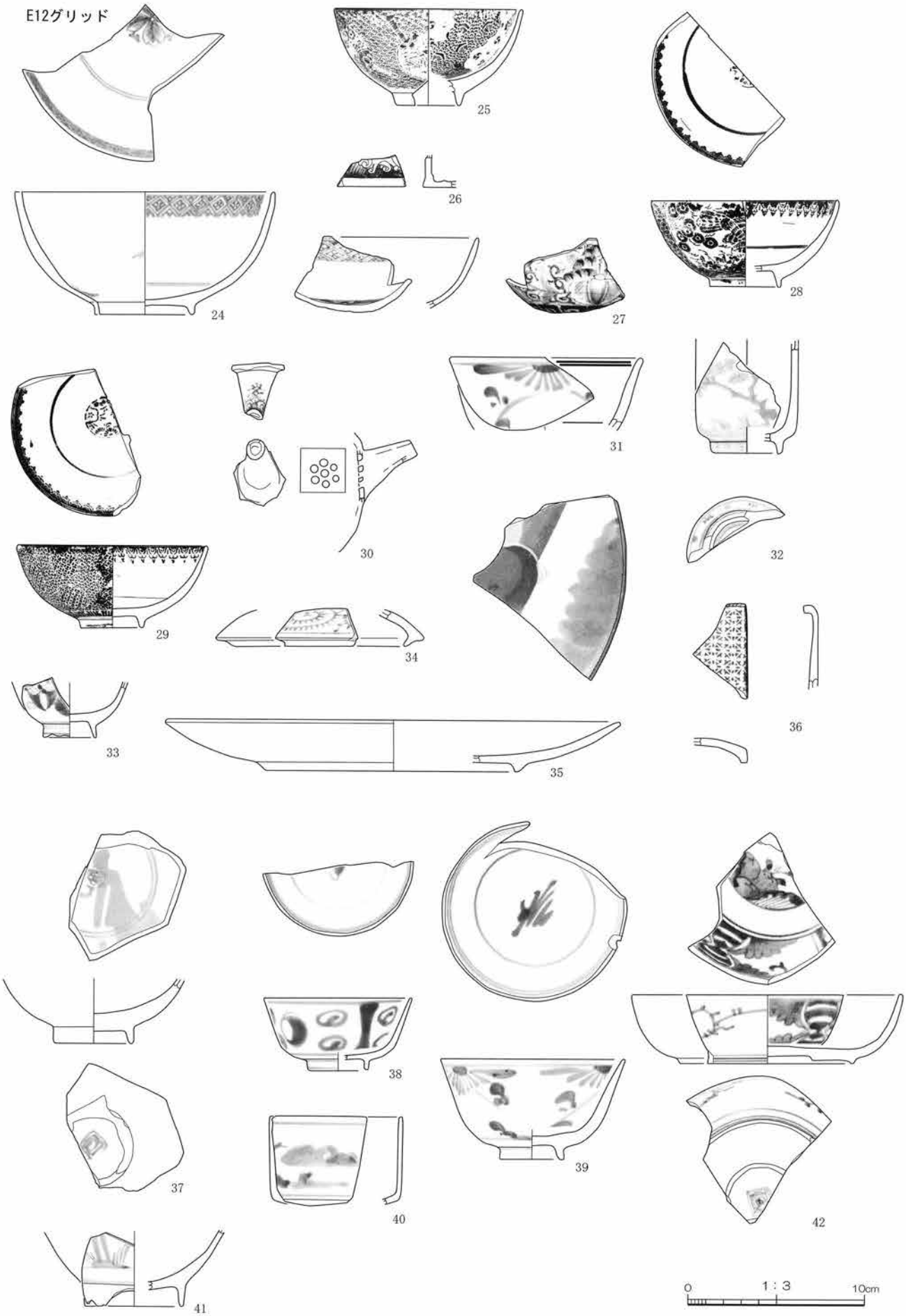


図 155　遺構外出土遺物（14）

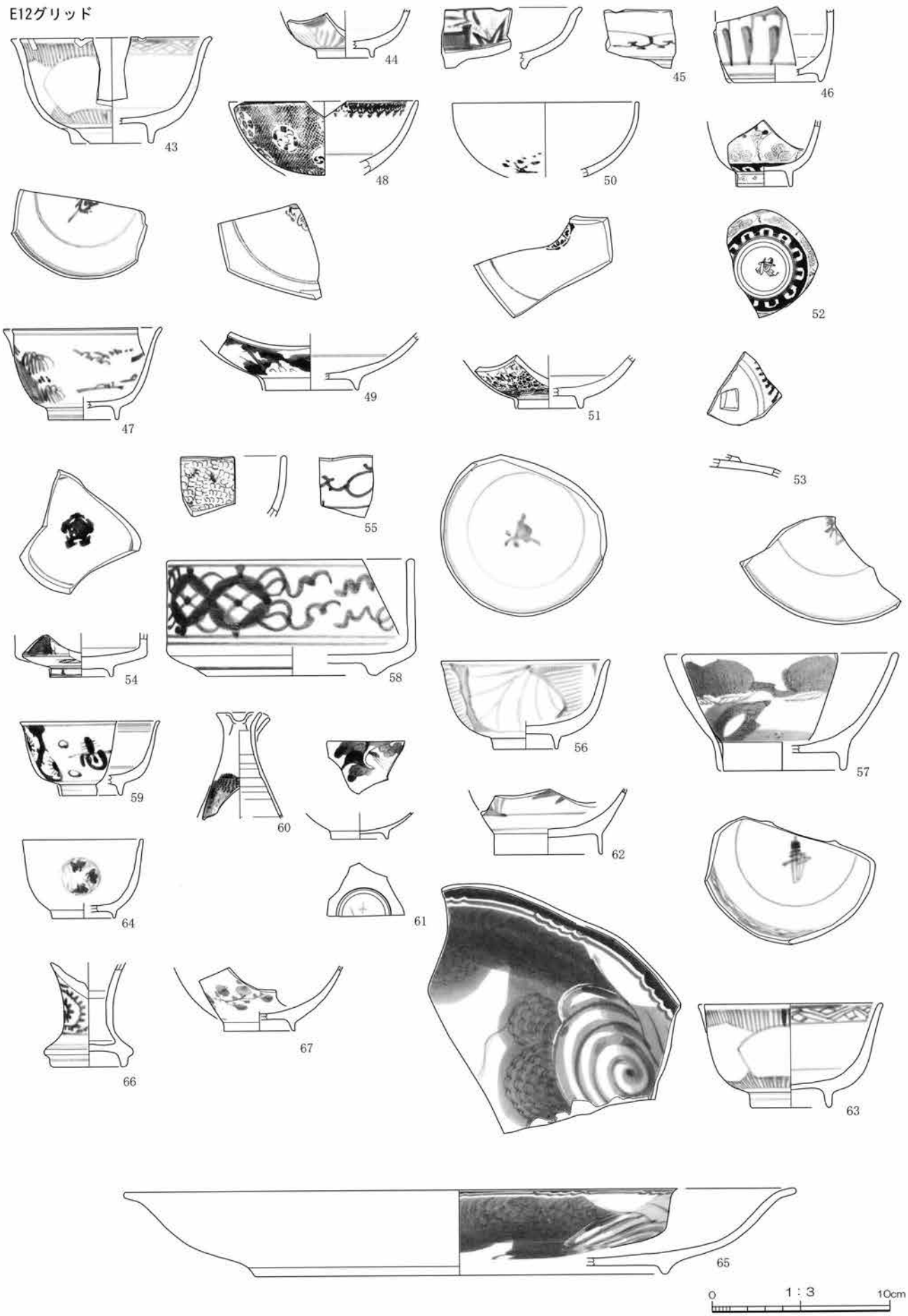


図 156　遺構外出土遺物（15）

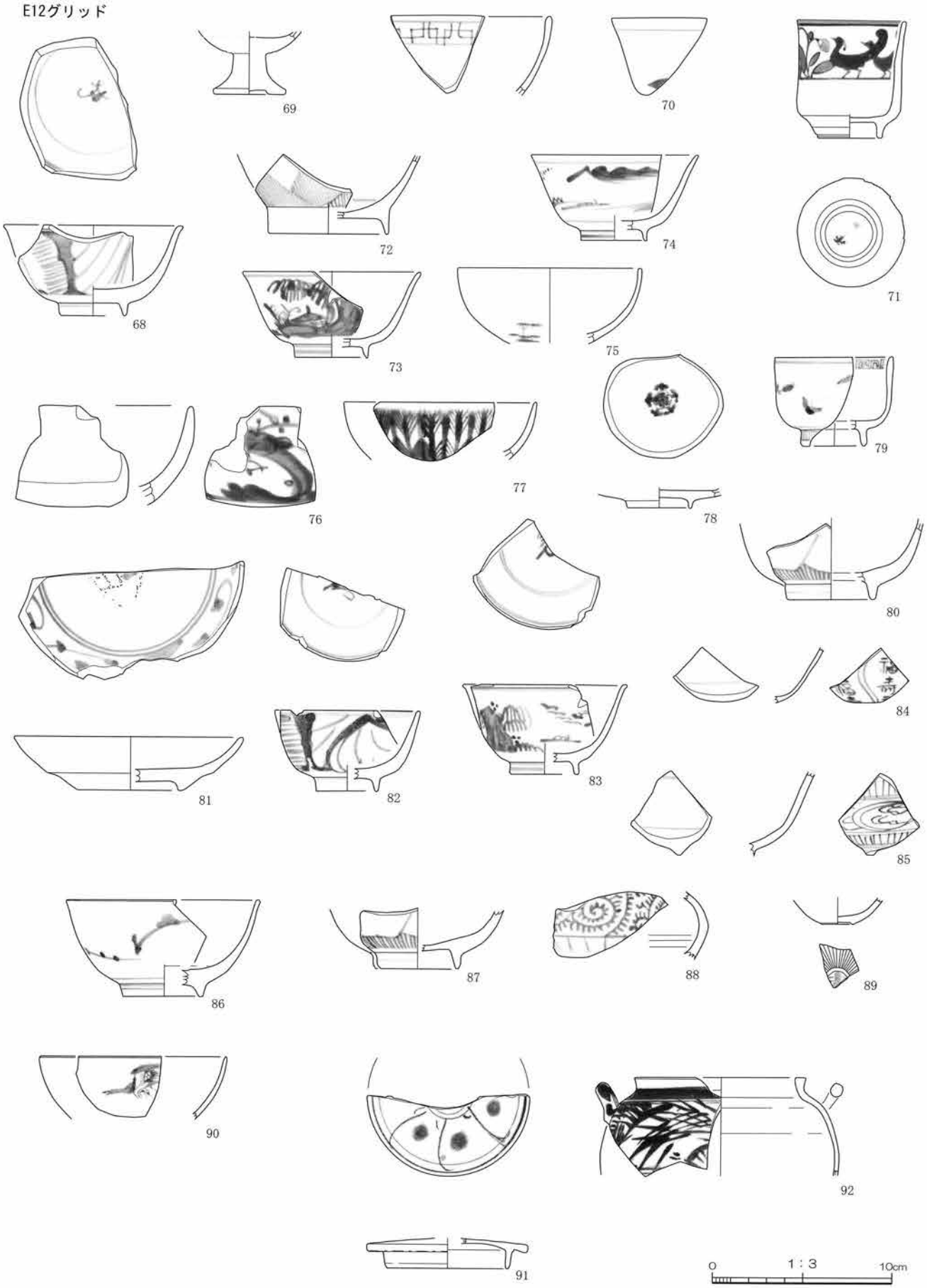


図 157　遺構外出土遺物（16）

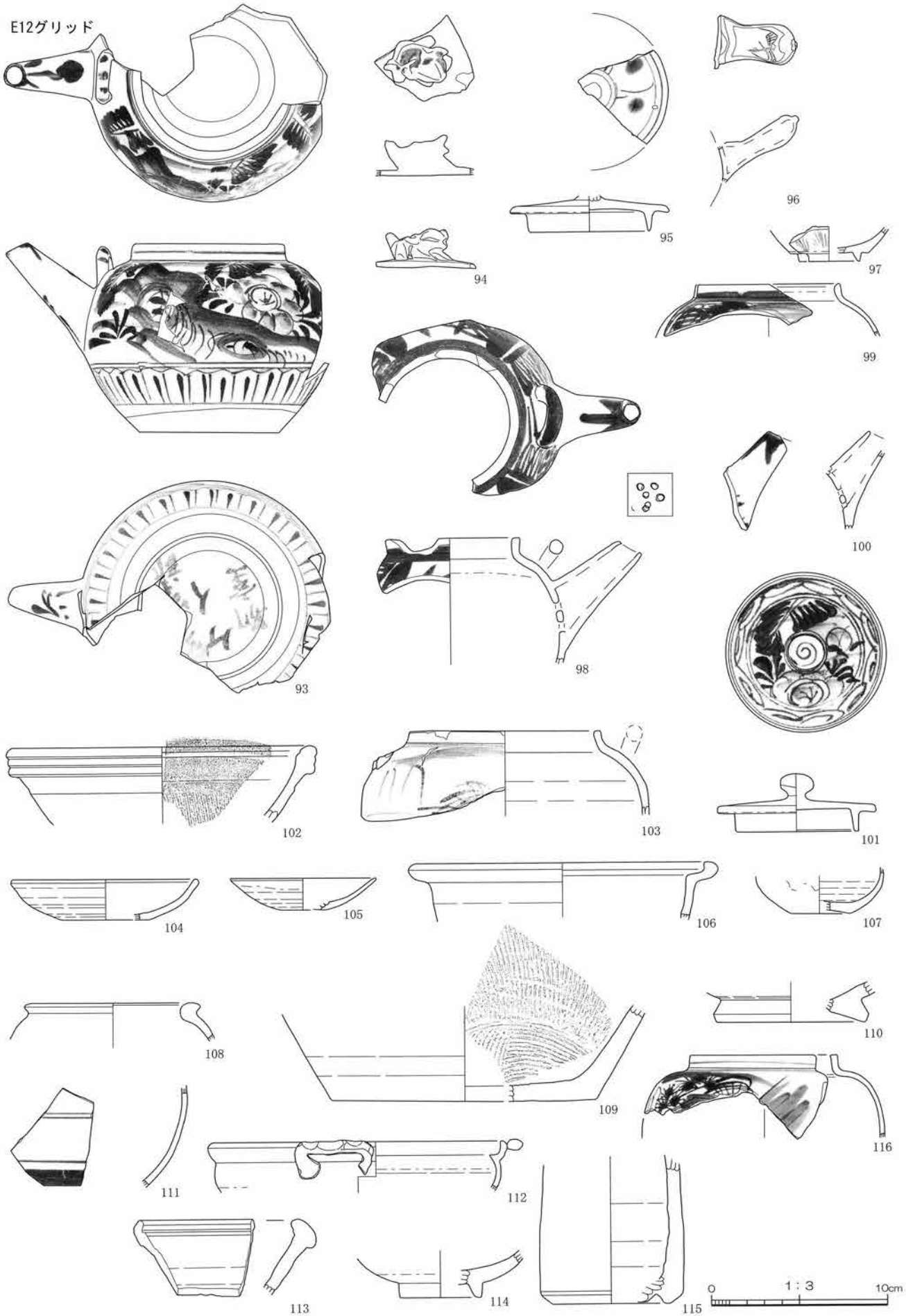


図 158　遺構外出土遺物（17）

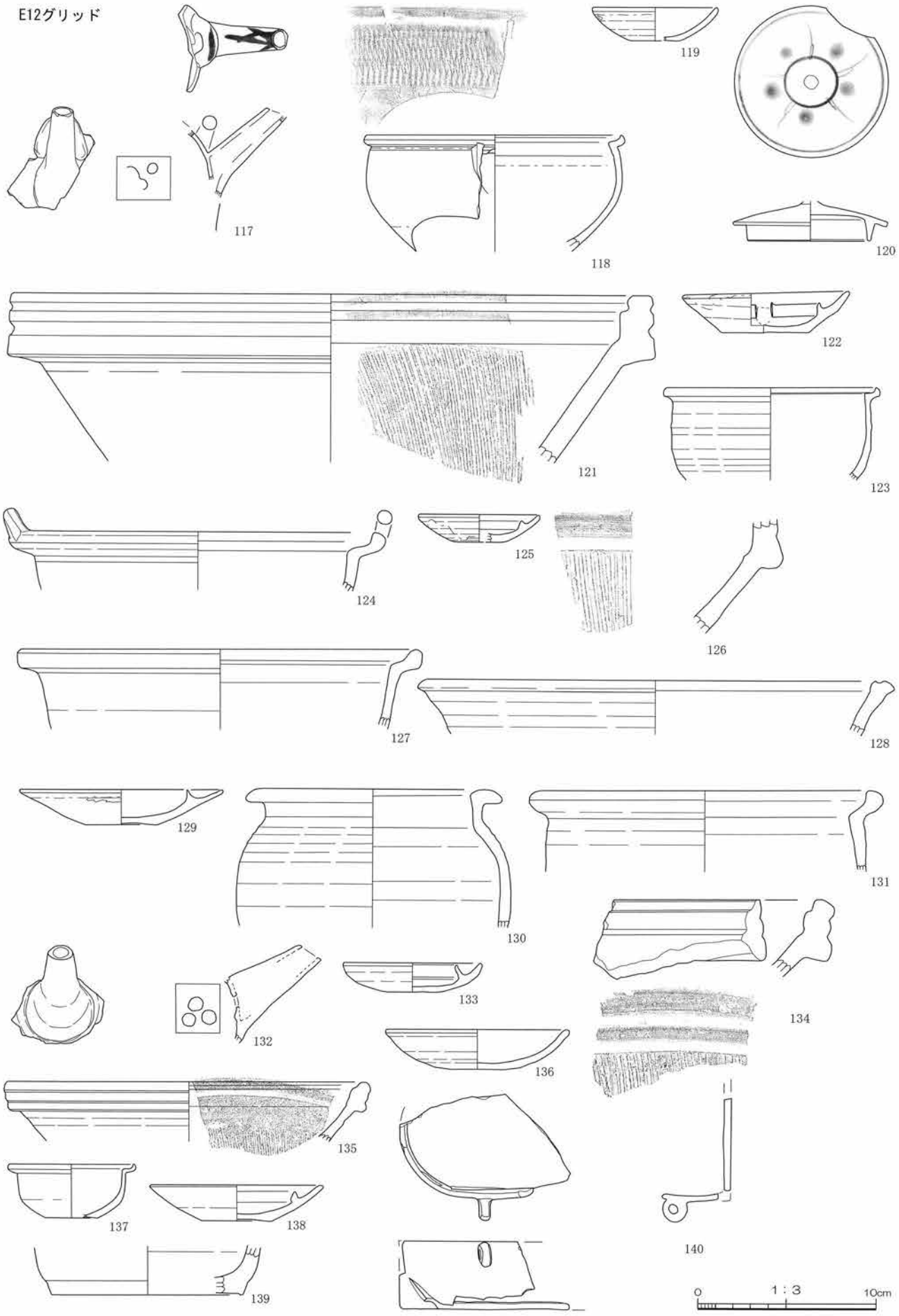


図 159　遺構外出土遺物（18）

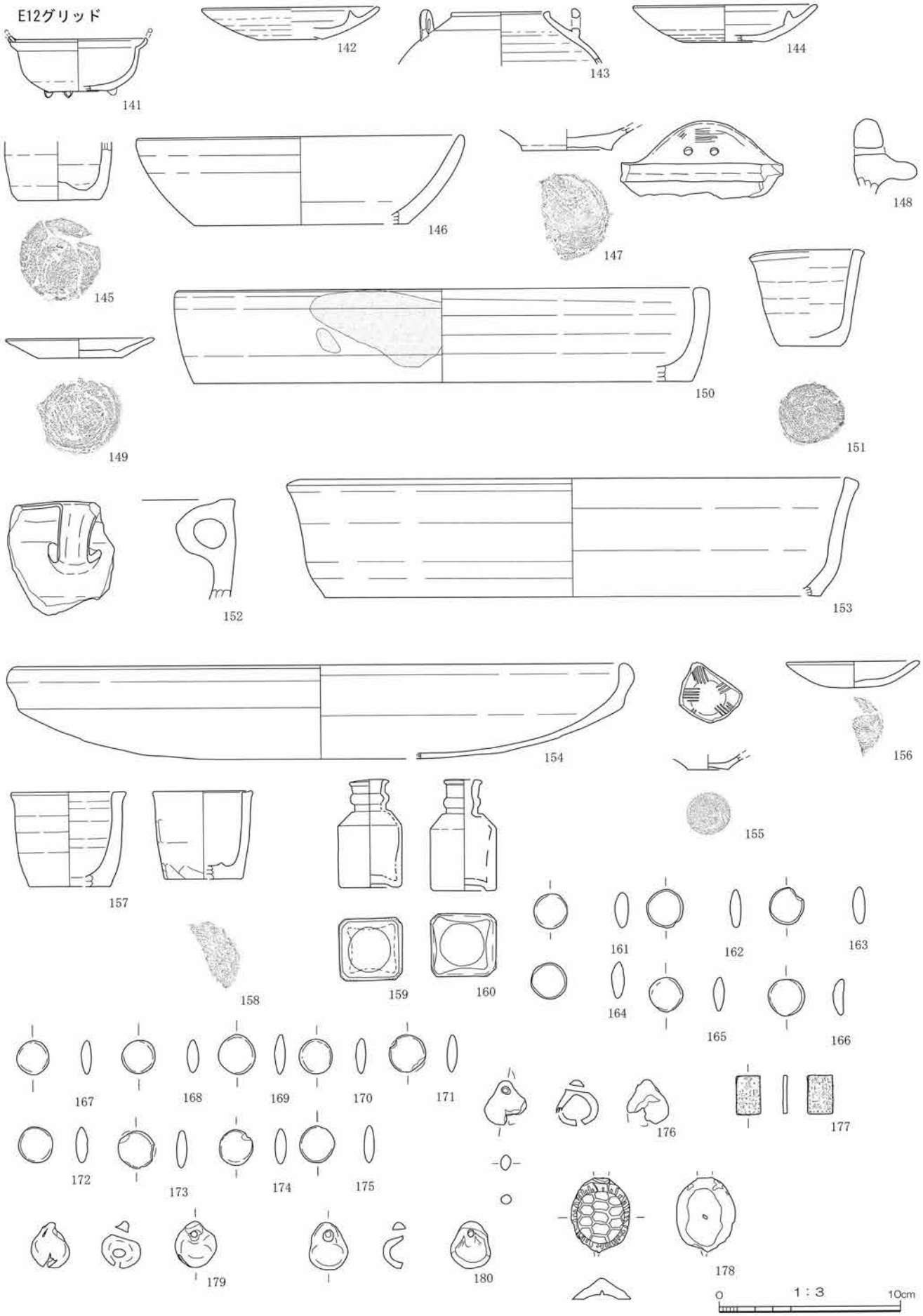


図 160　遺構外出土遺物（19）

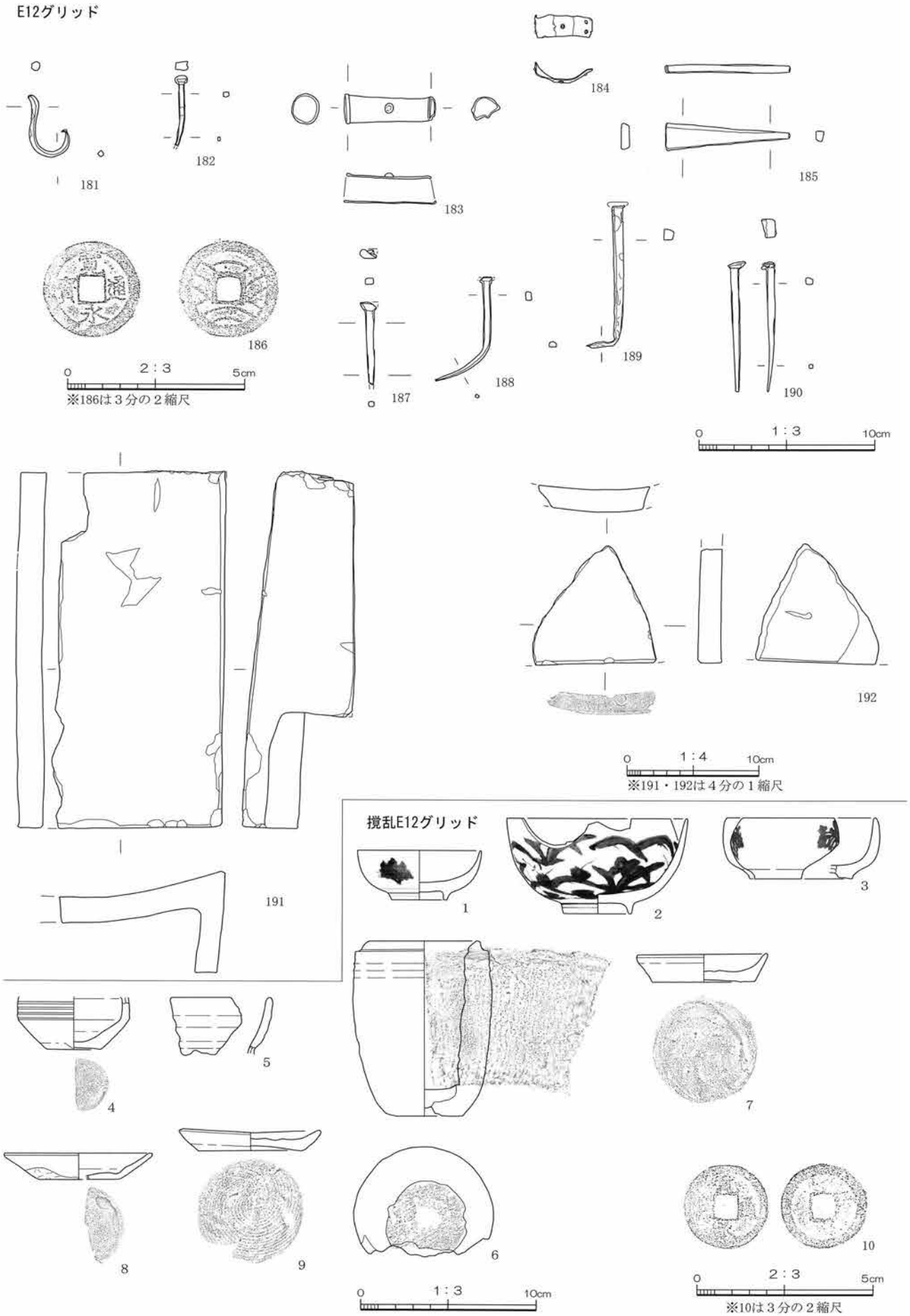


図 161　遺構外出土遺物（20）

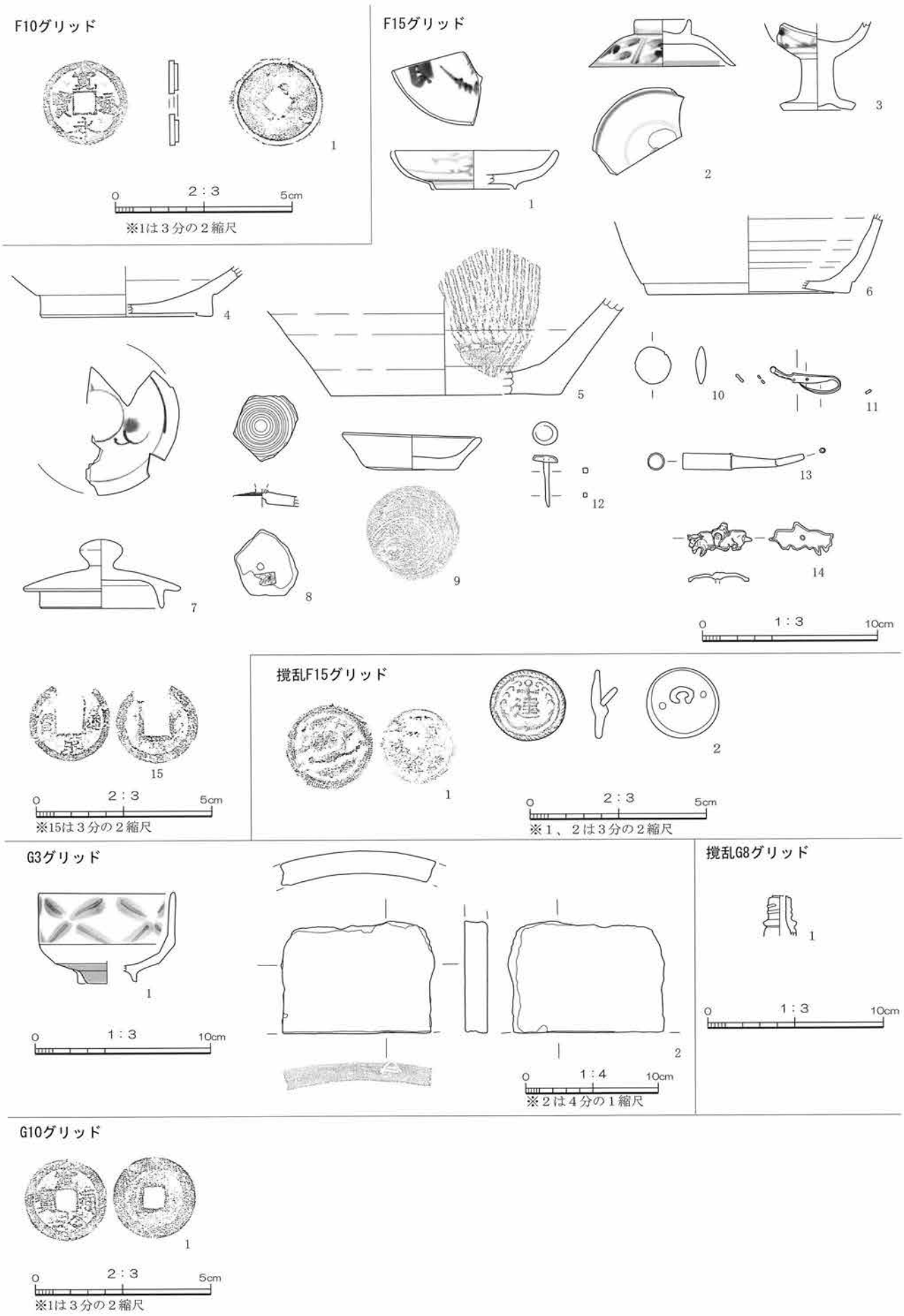


図162　遺構外出土遺物（21）

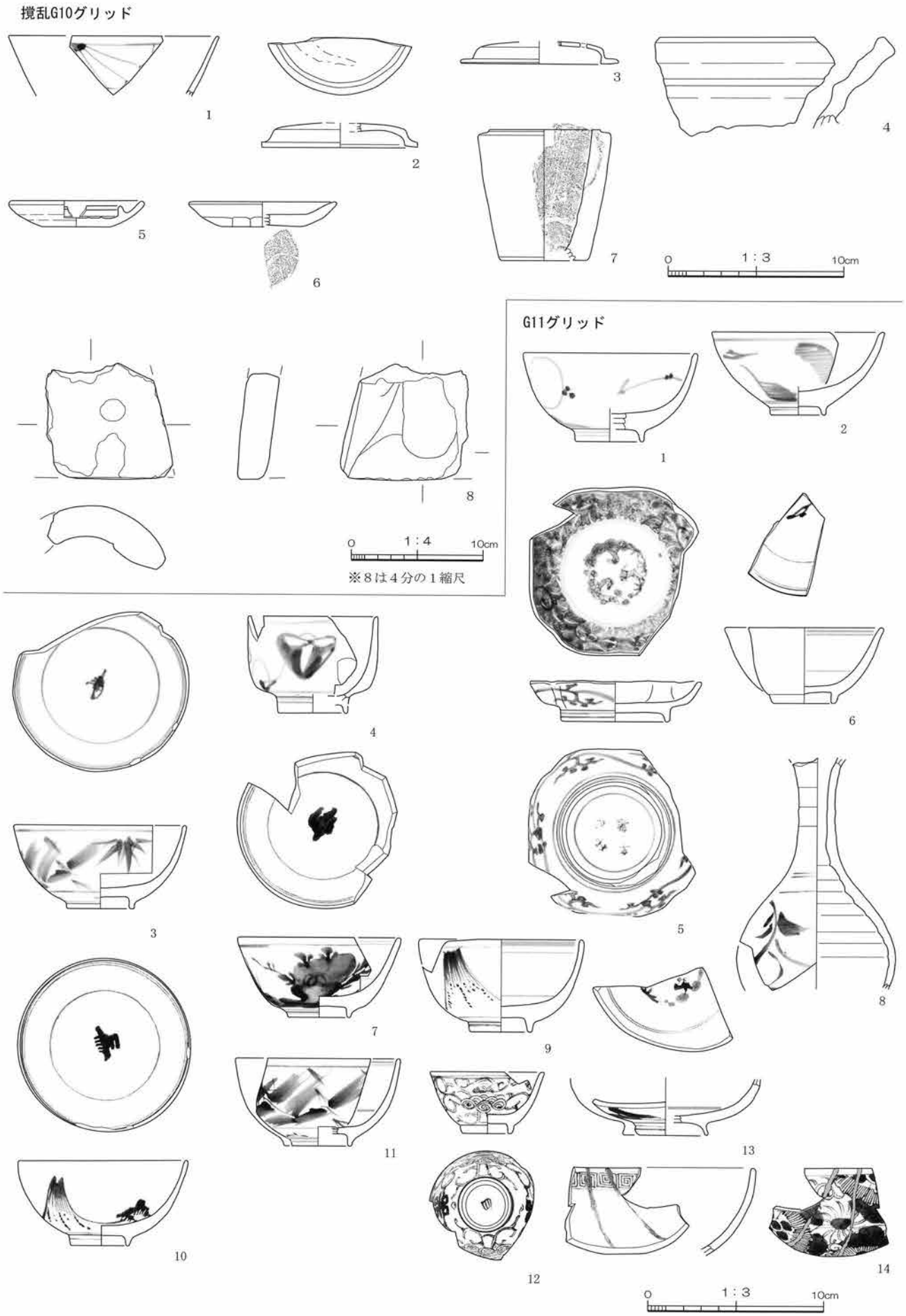


図 163　遺構外出土遺物（22）

G11グリッド

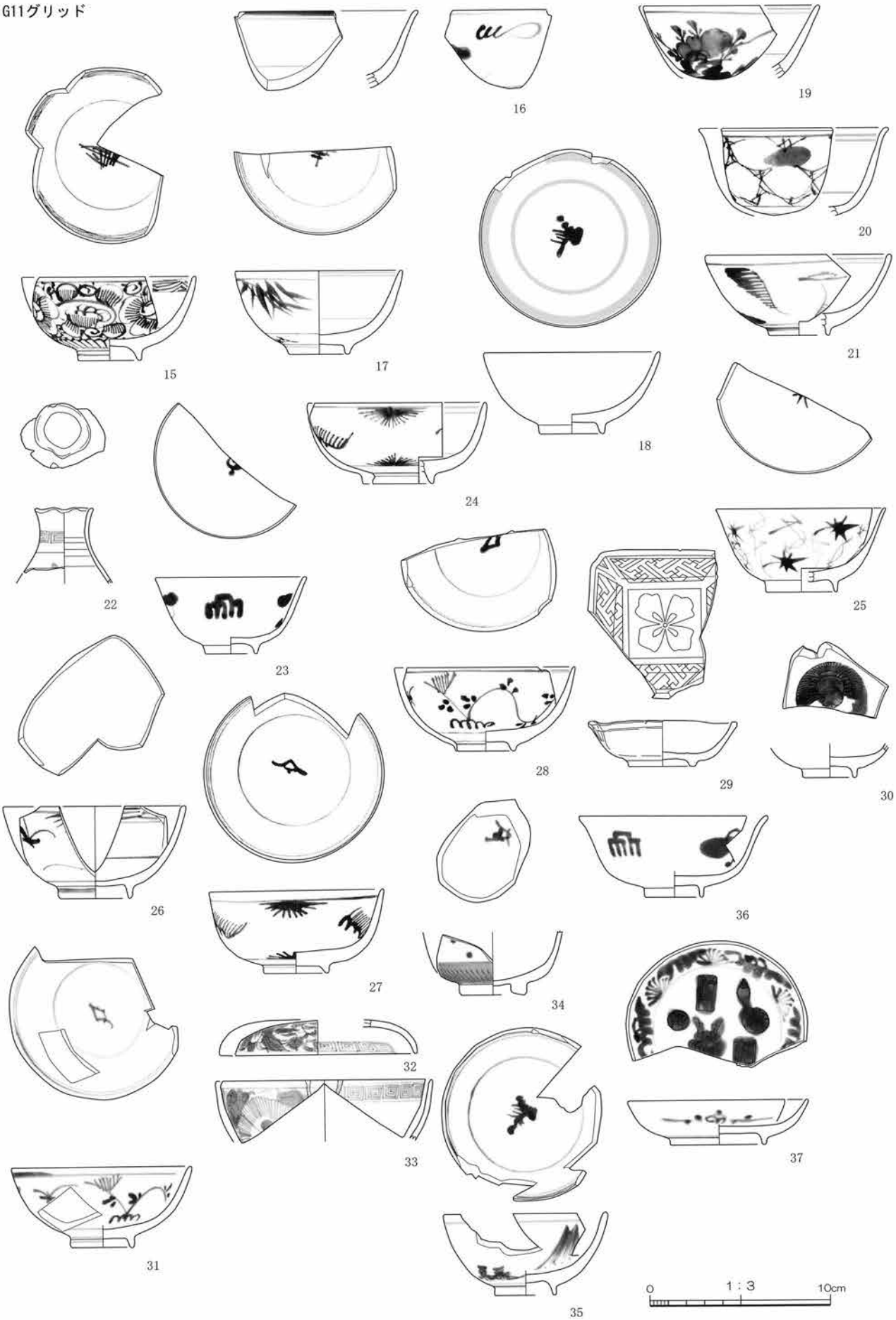


図 164　遺構外出土遺物（23）

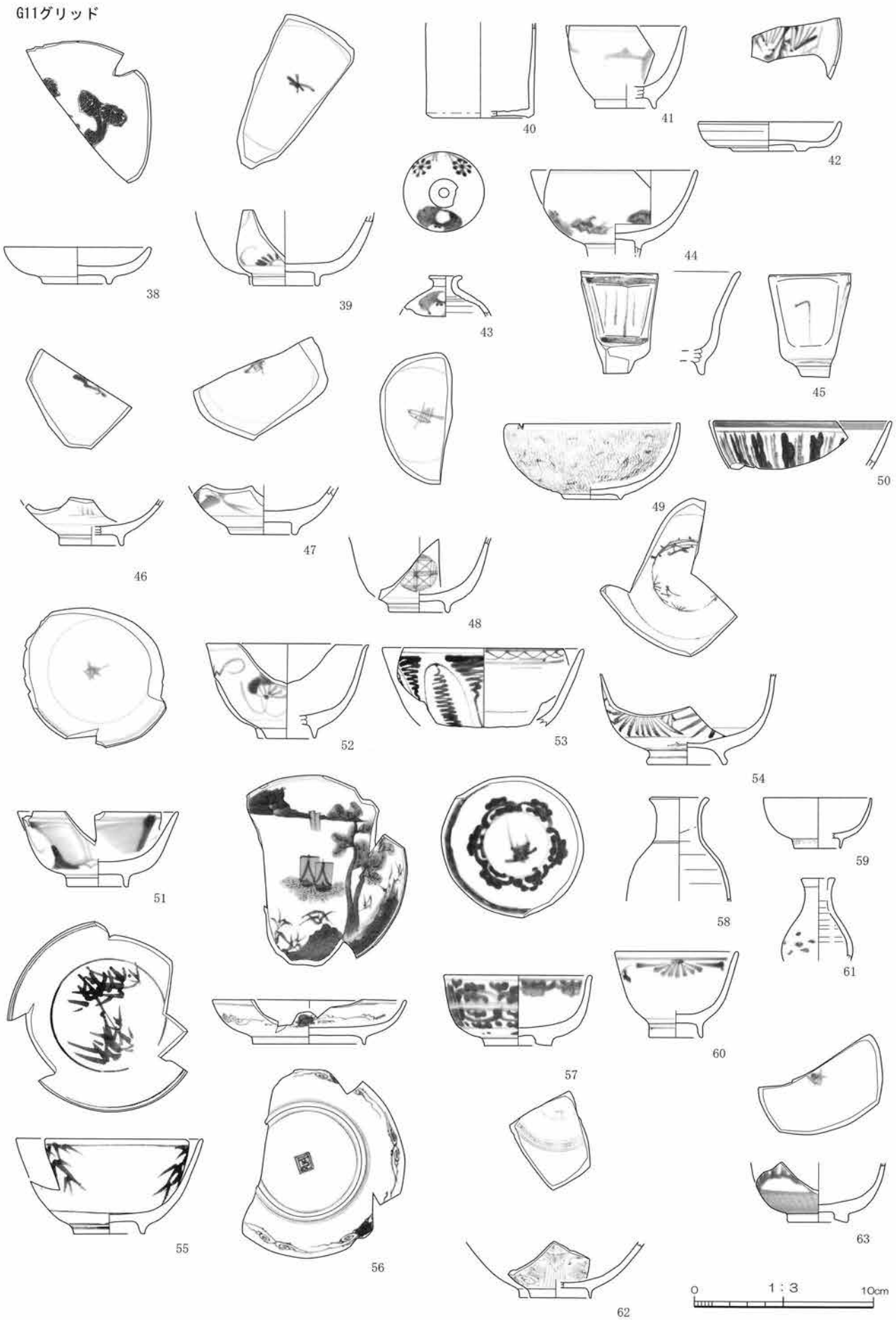


図 165　遺構外出土遺物（24）

G11グリッド

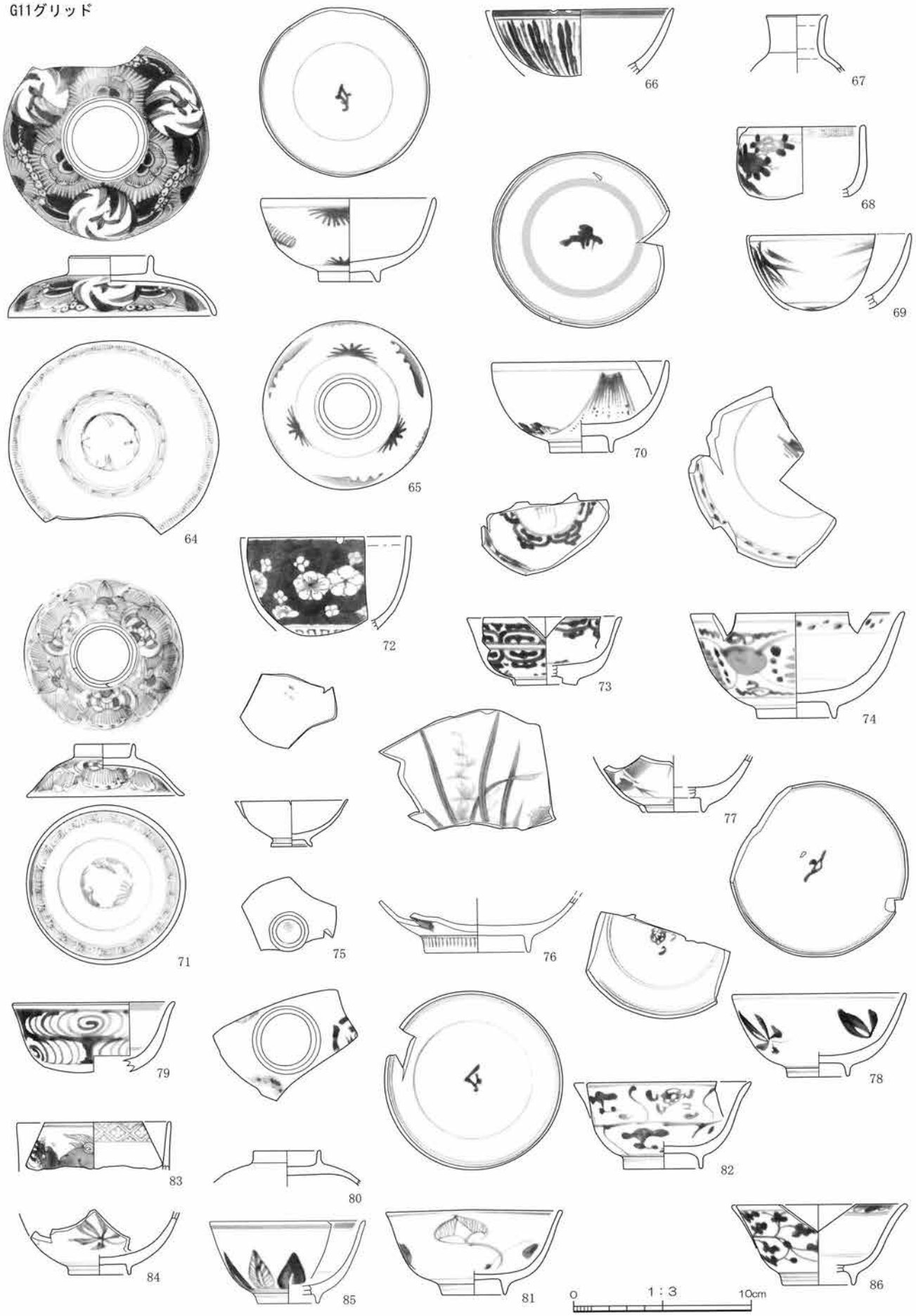


図 166　遺構外出土遺物（25）

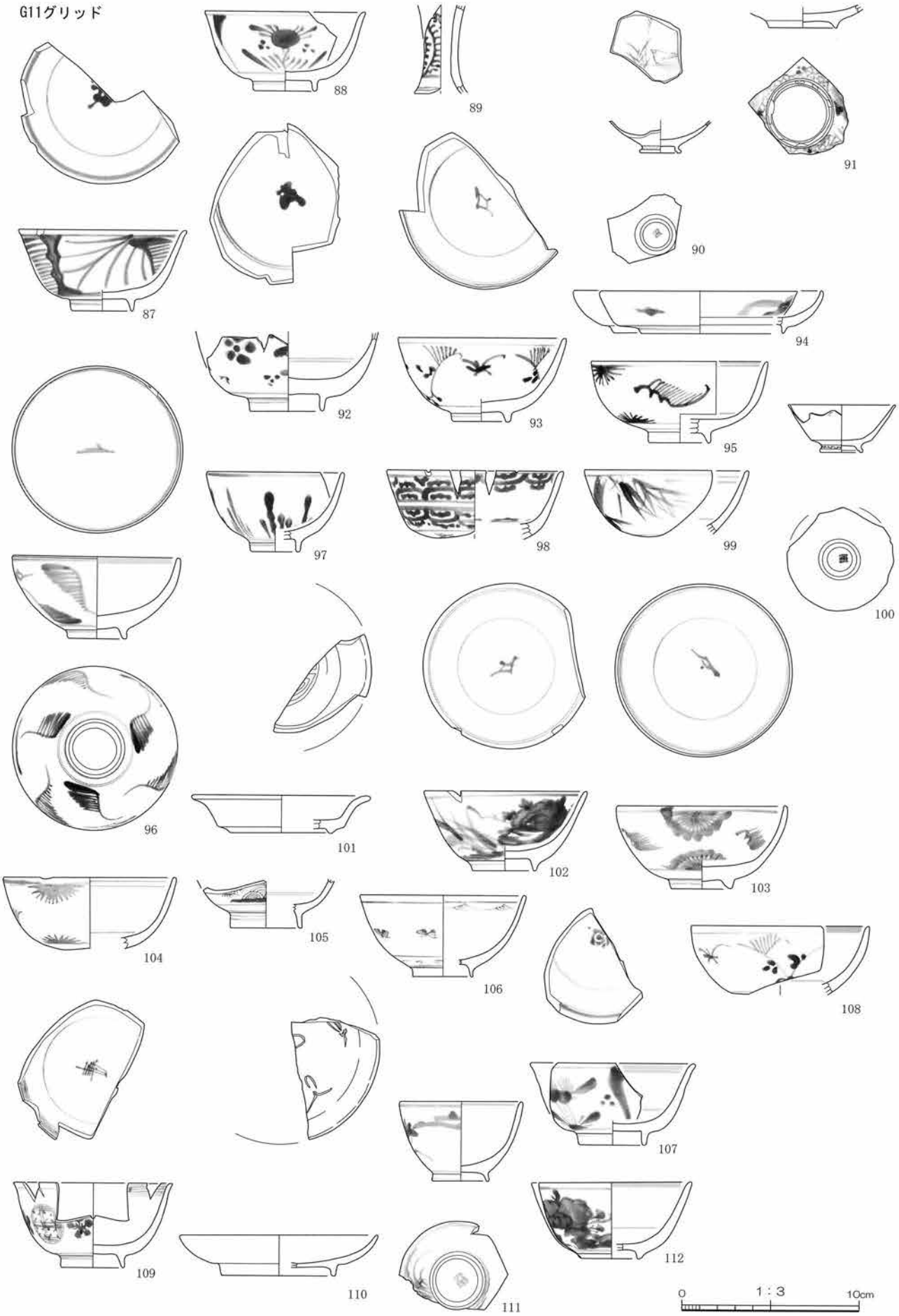


図 167　遺構外出土遺物（26）

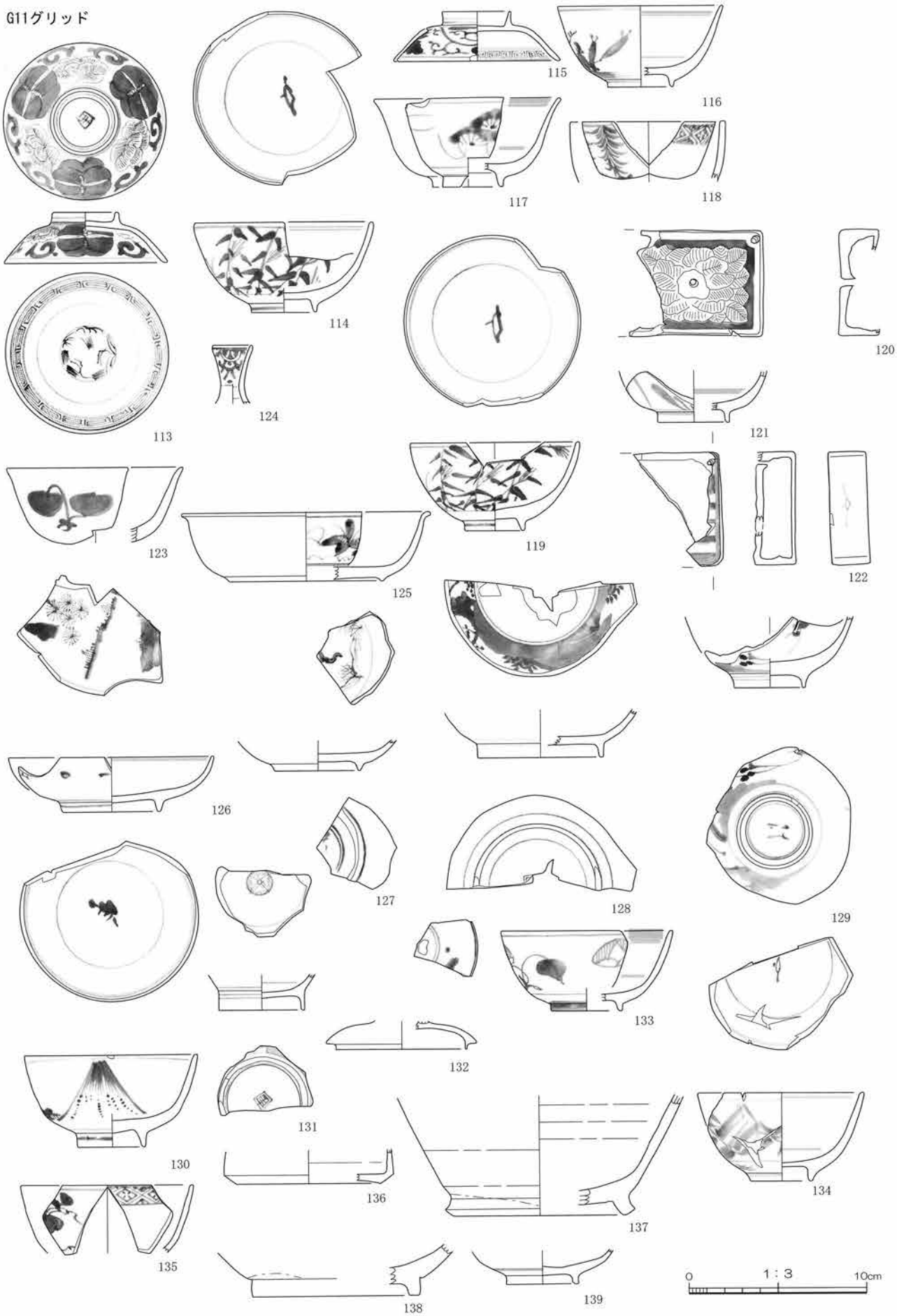


図 168　遺構外出土遺物（27）

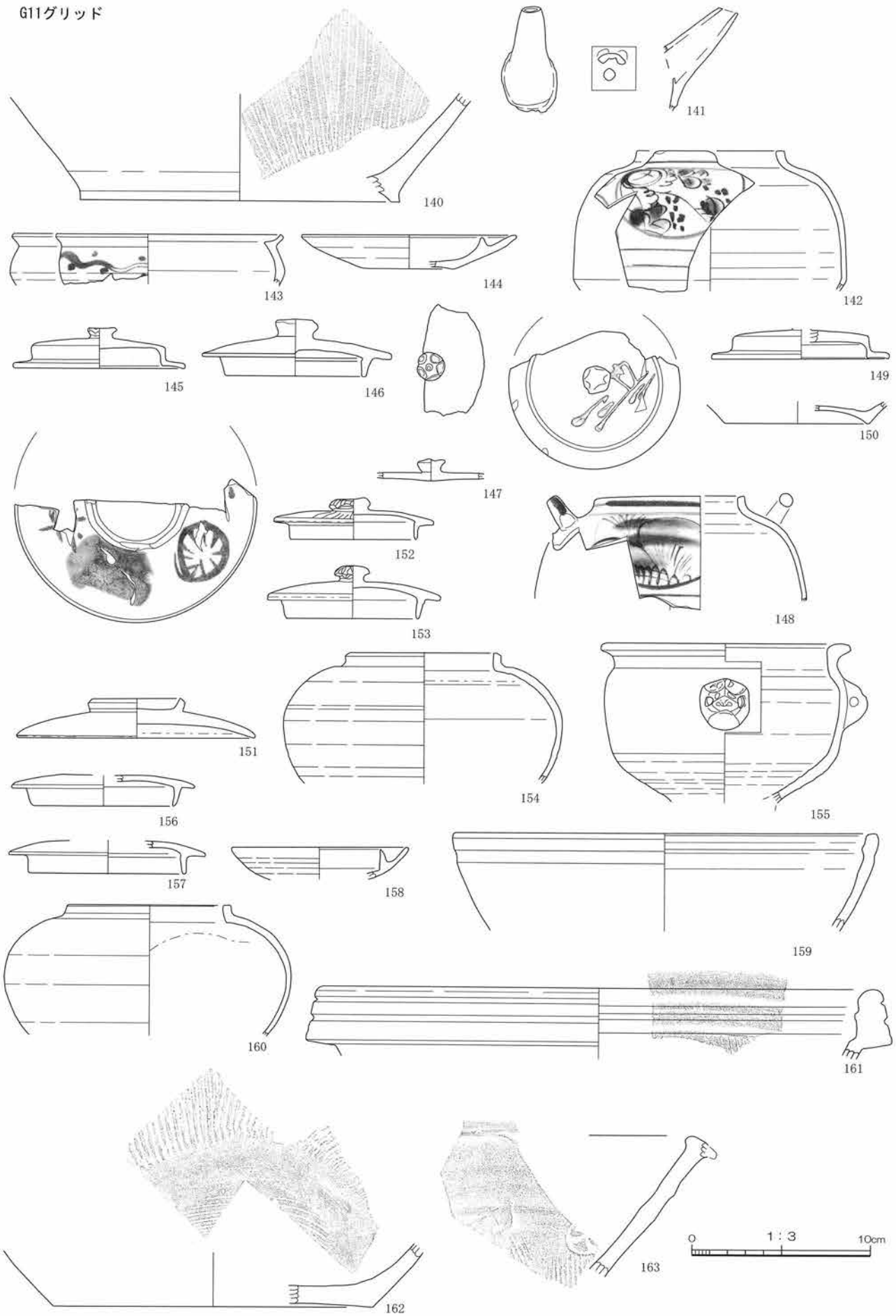


図 169　遺構外出土遺物（28）

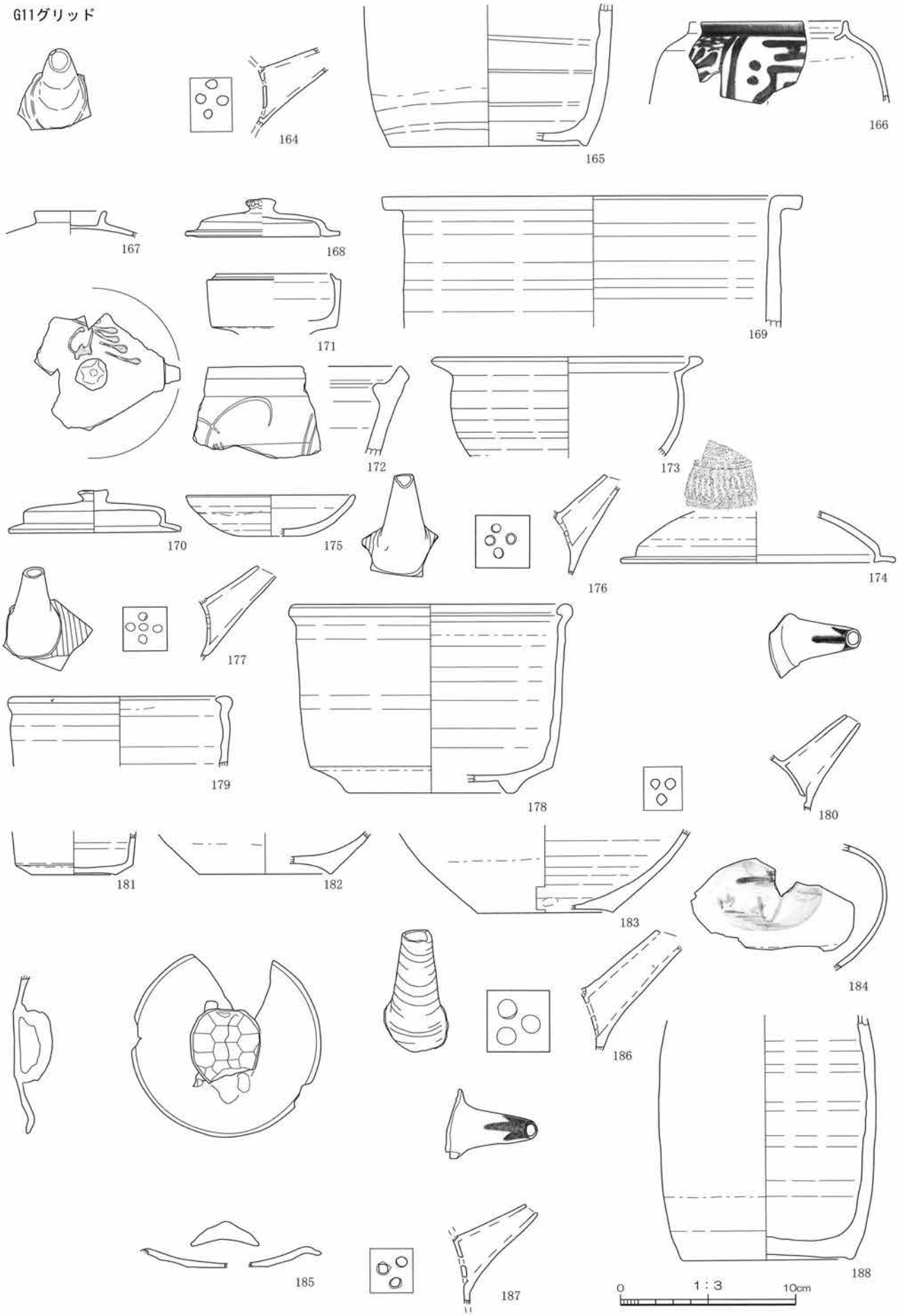


図 170　遺構外出土遺物（29）

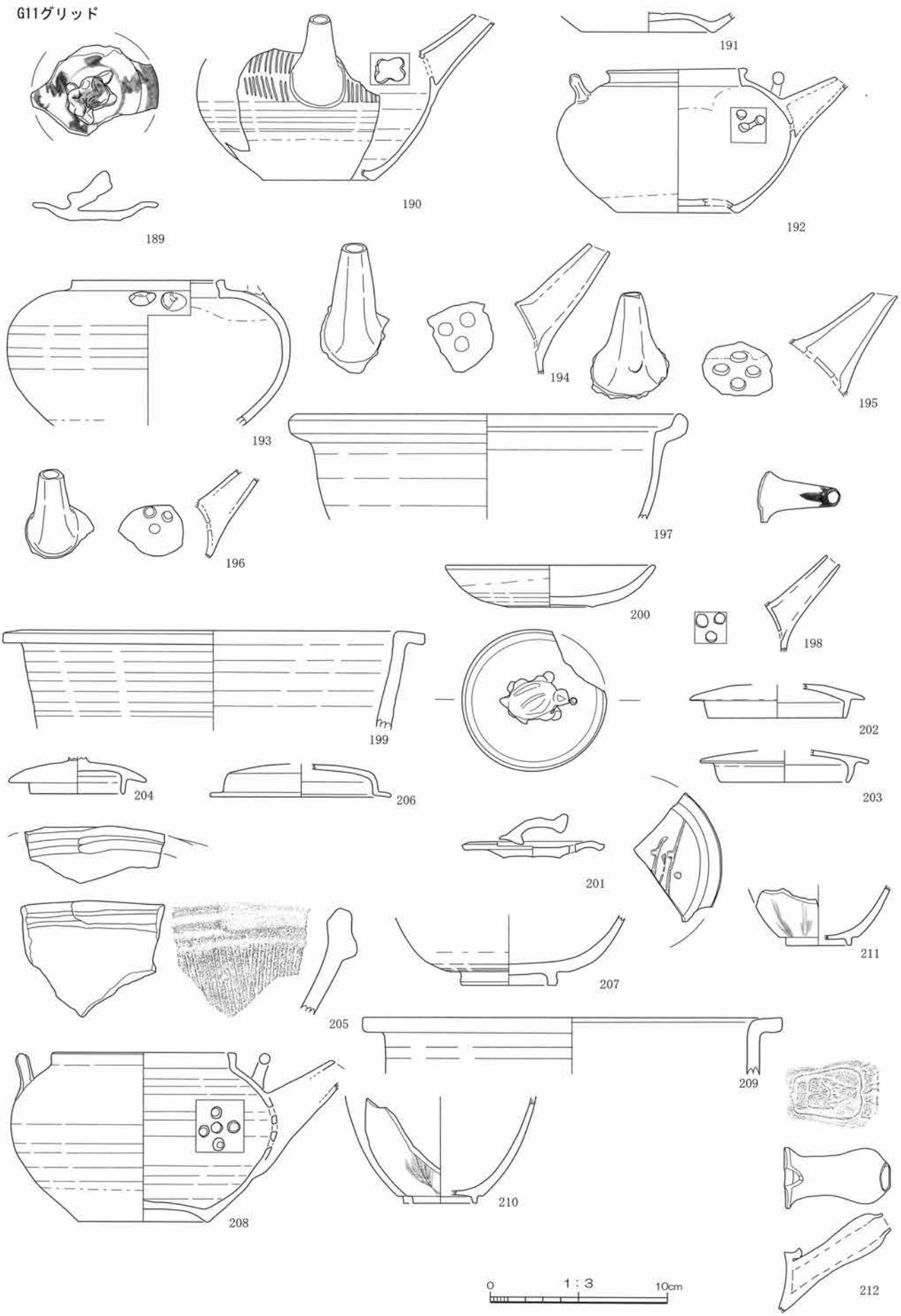


図 171　遺構外出土遺物（30）

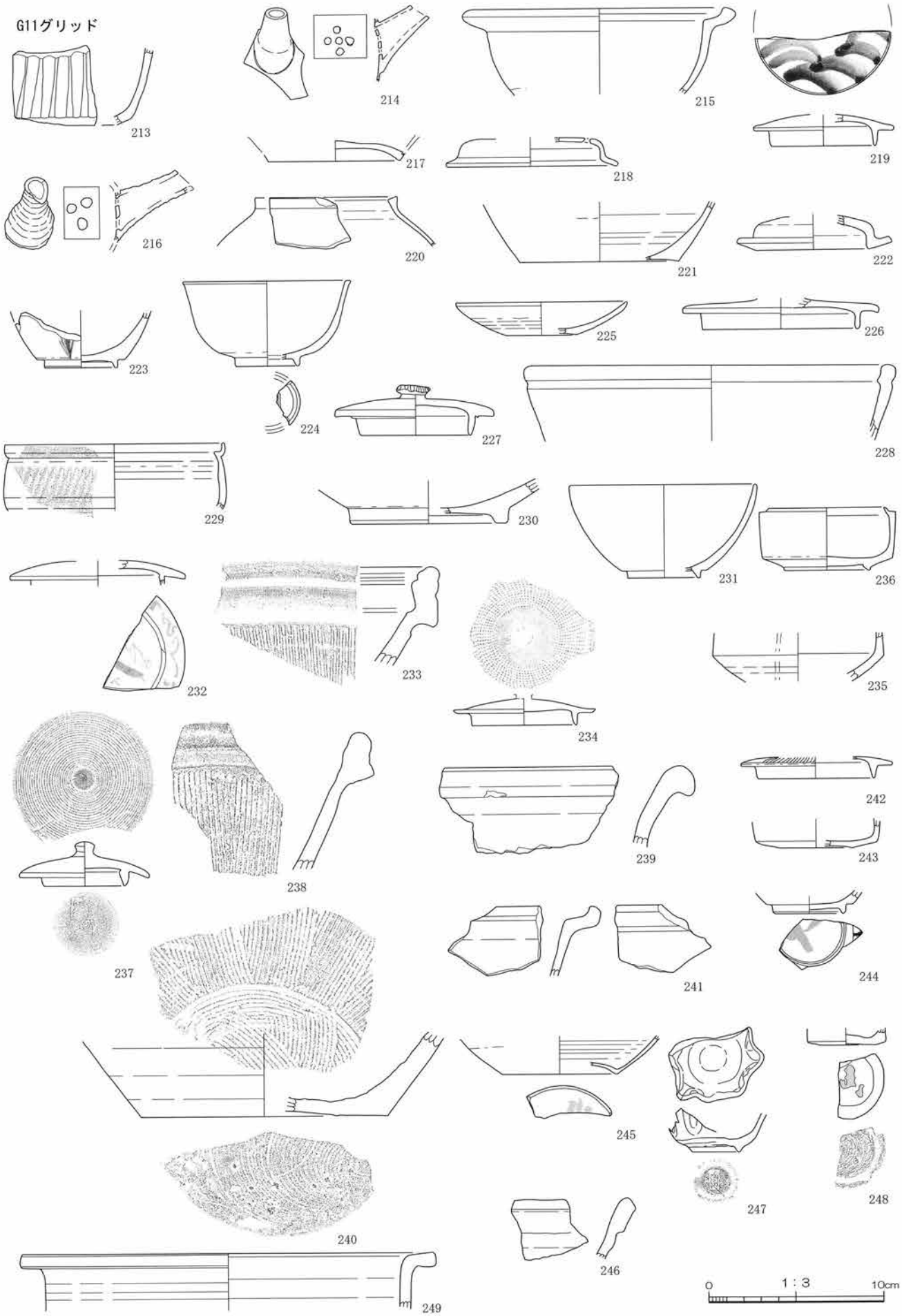


図 172　遺構外出土遺物（31）

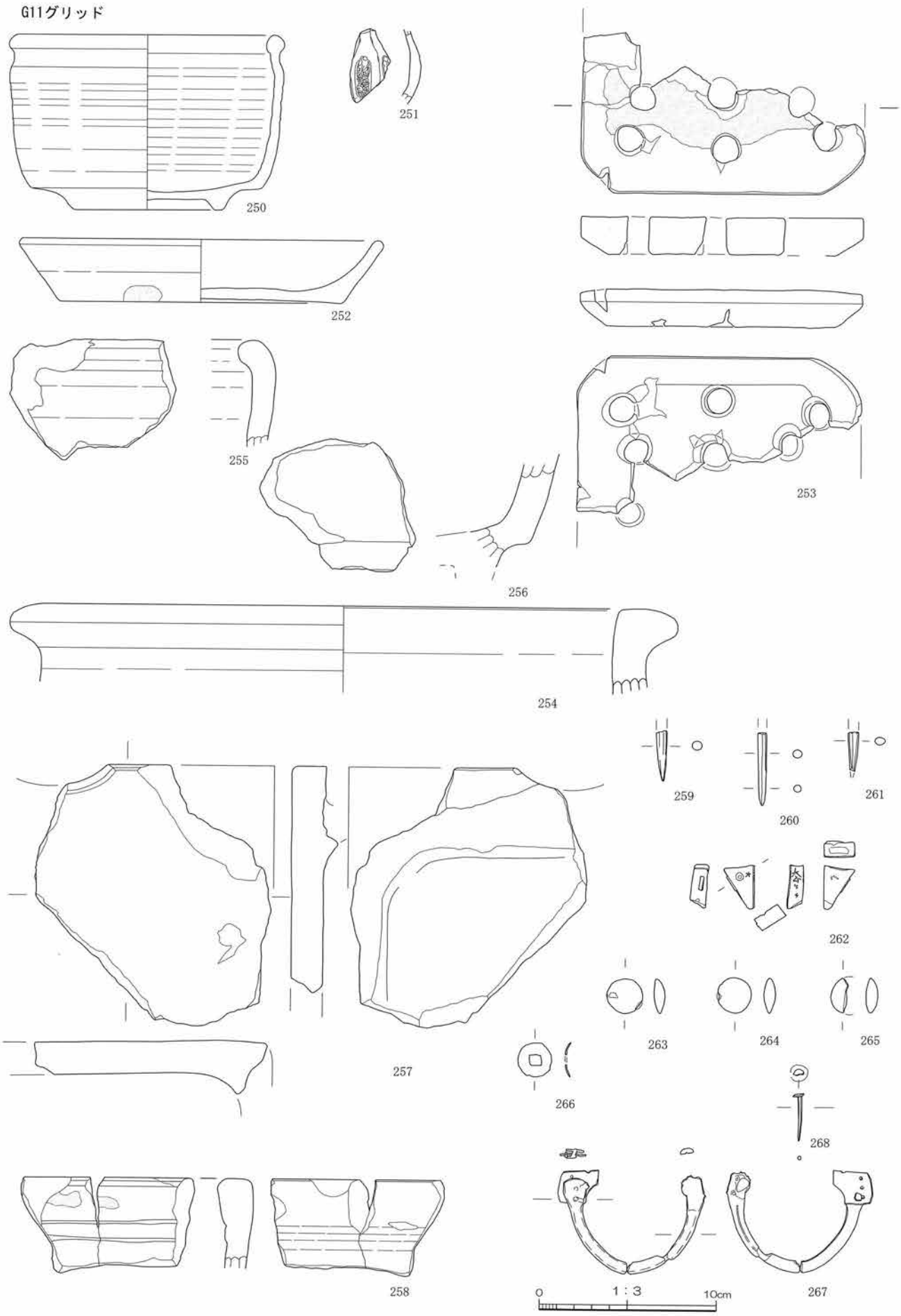


図 173　遺構外出土遺物（32）

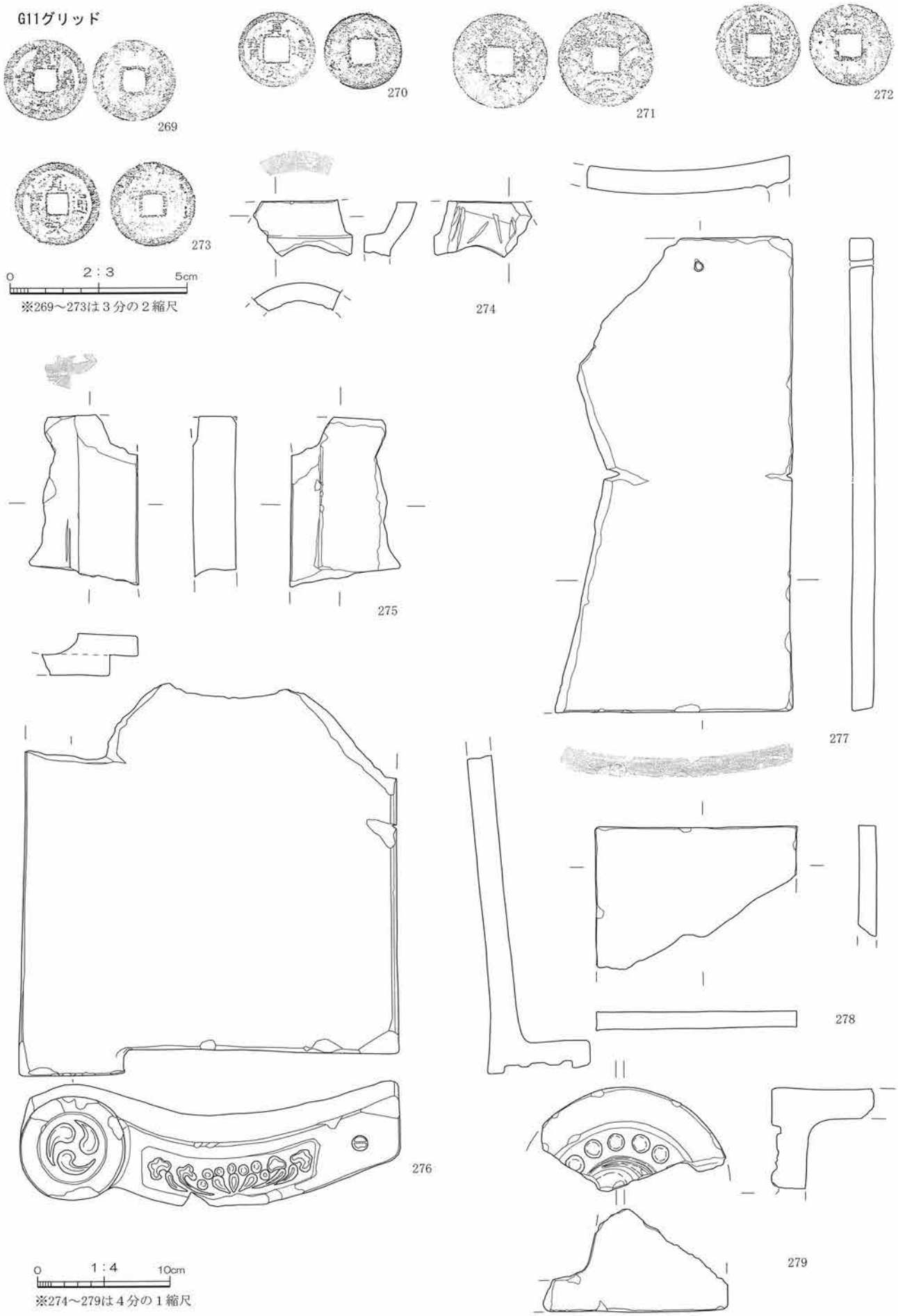


図 174　遺構外出土遺物（33）

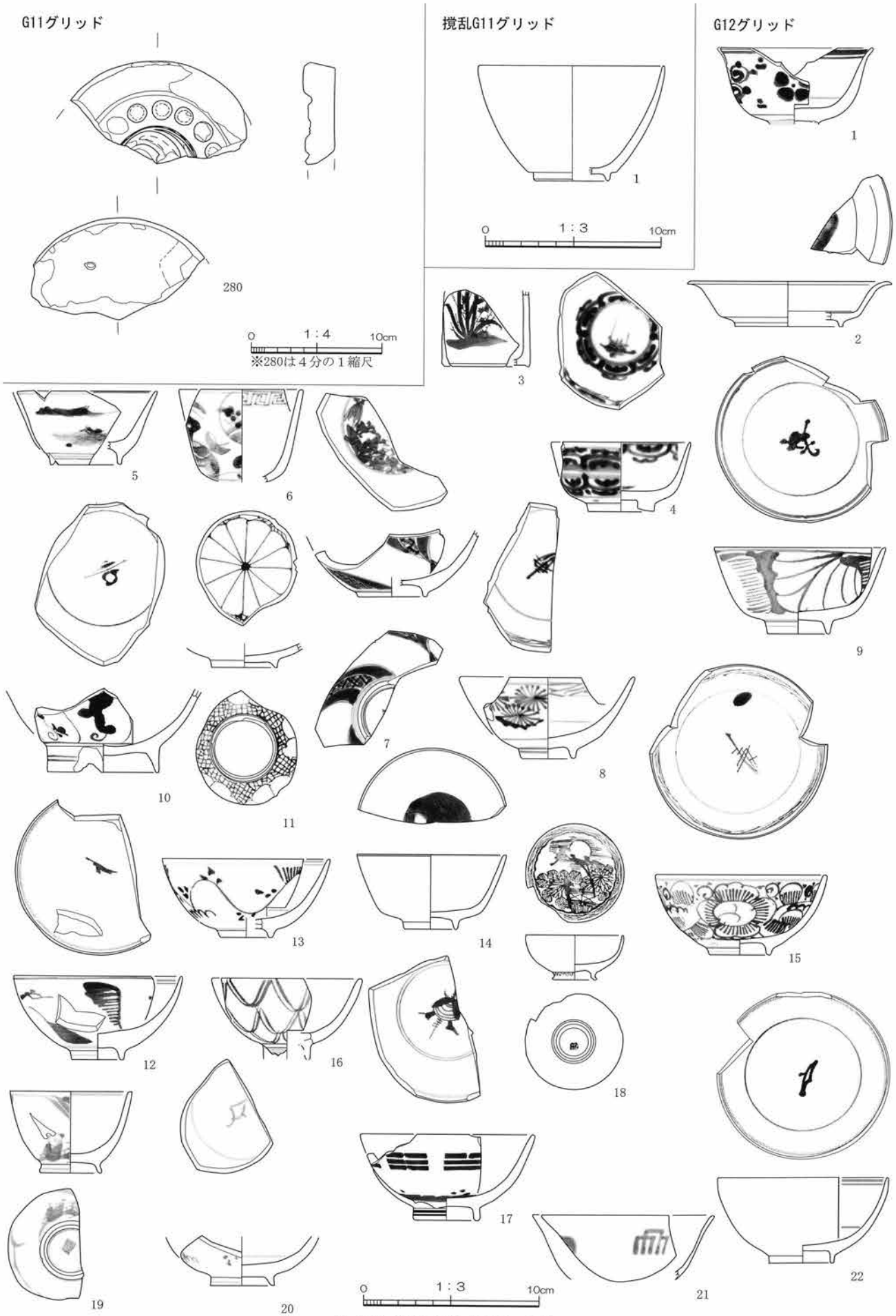


図 175　遺構外出土遺物（34）

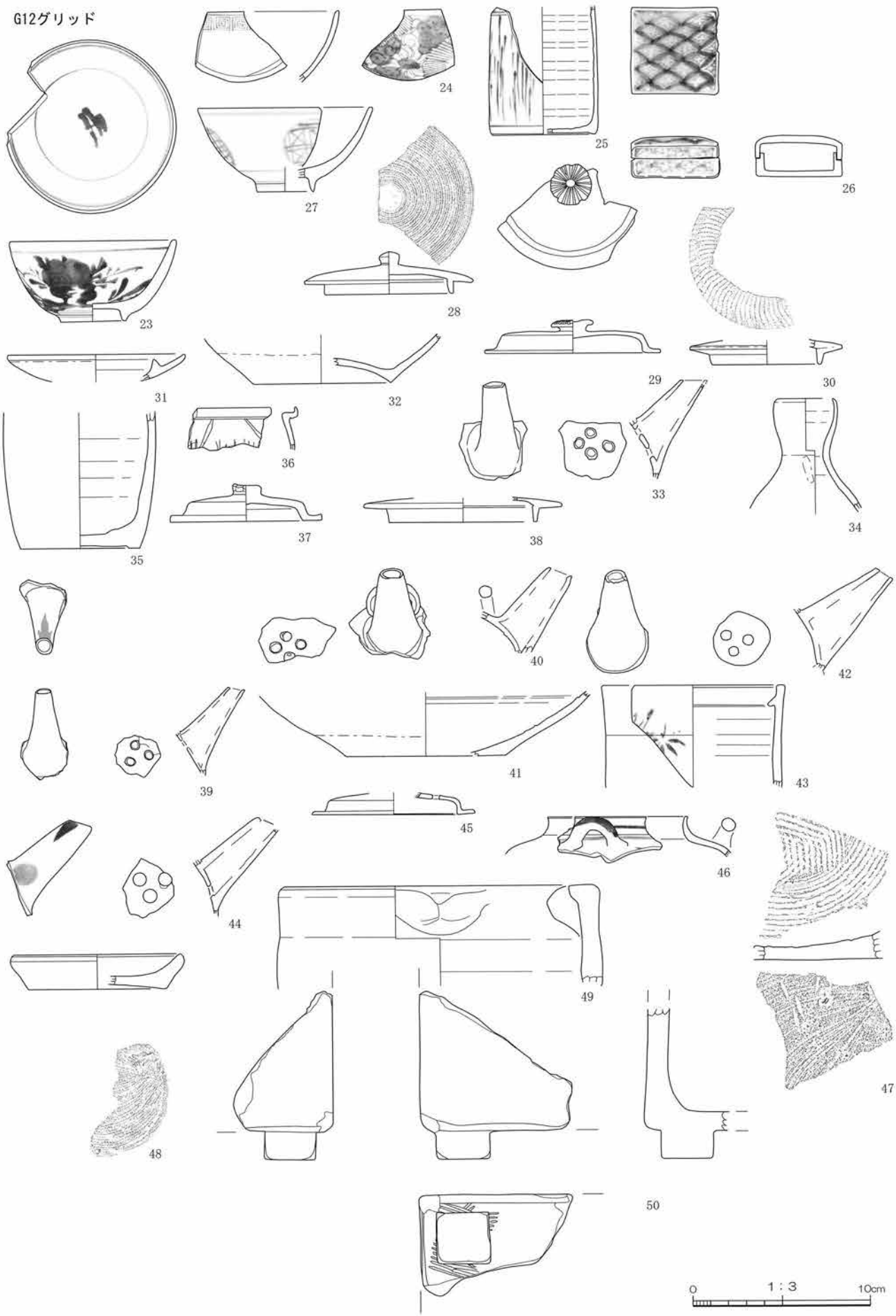


図 176　遺構外出土遺物（35）

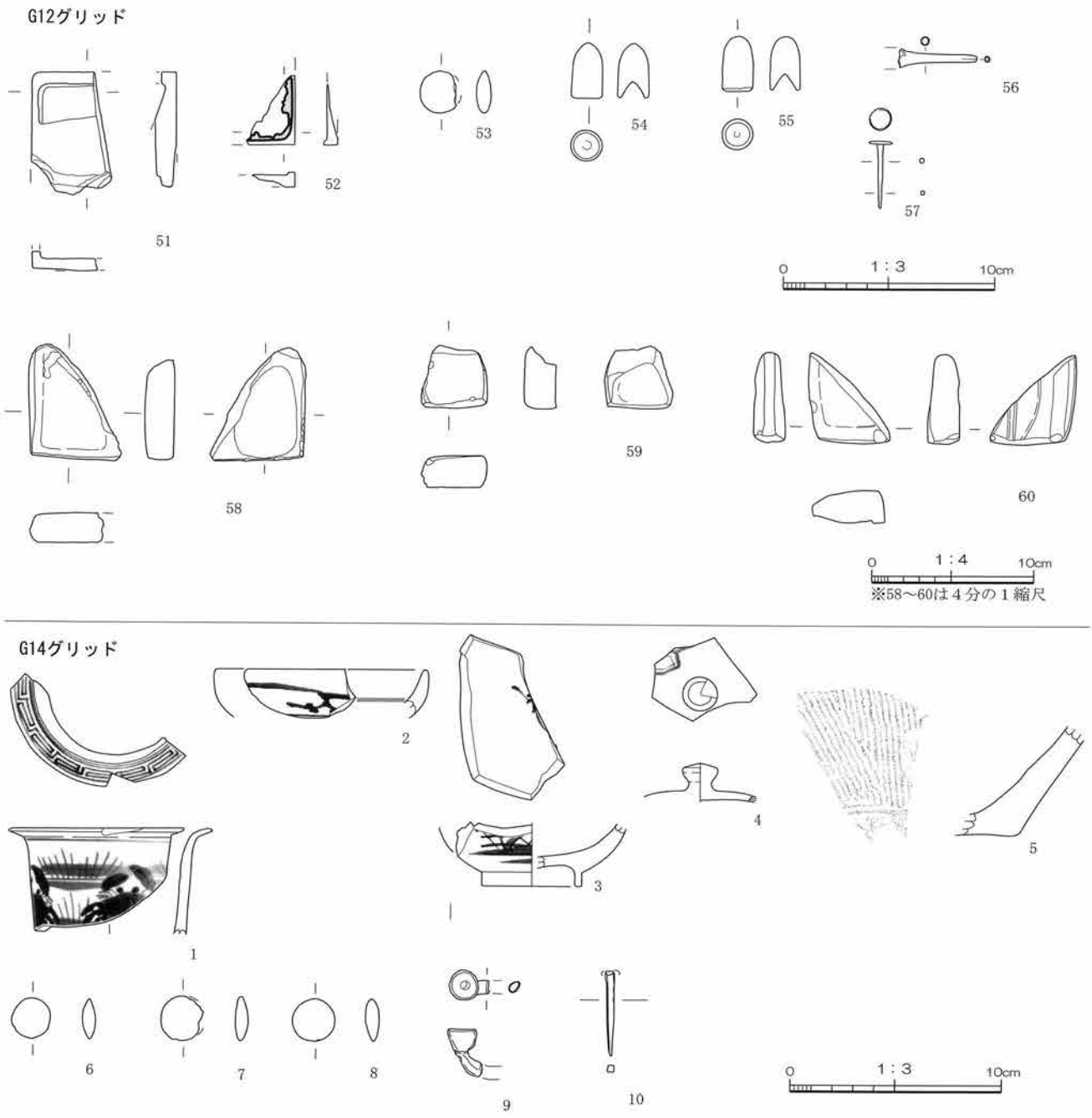


図 177　遺構外出土遺物（36）

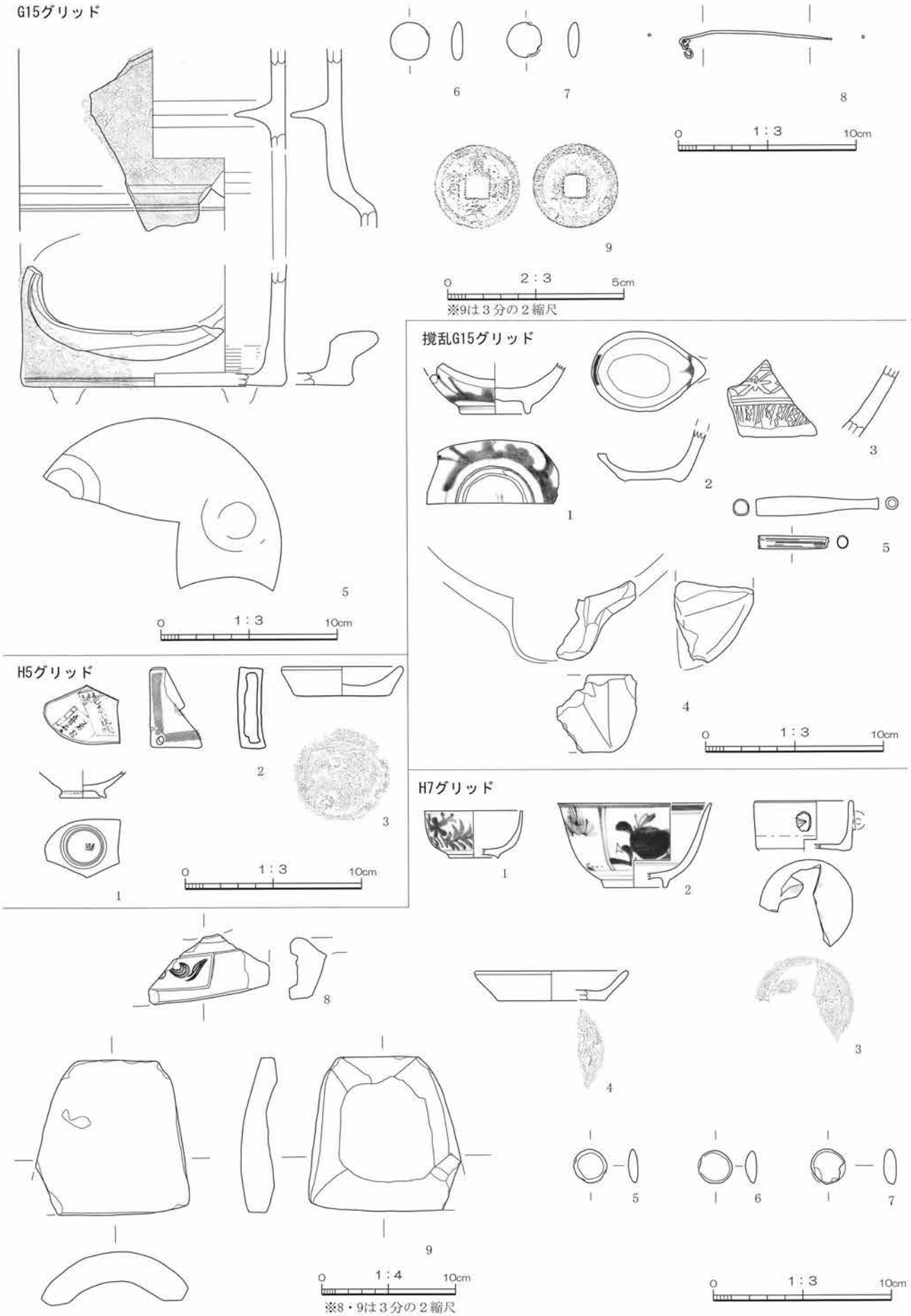


図 178　遺構外出土遺物（37）

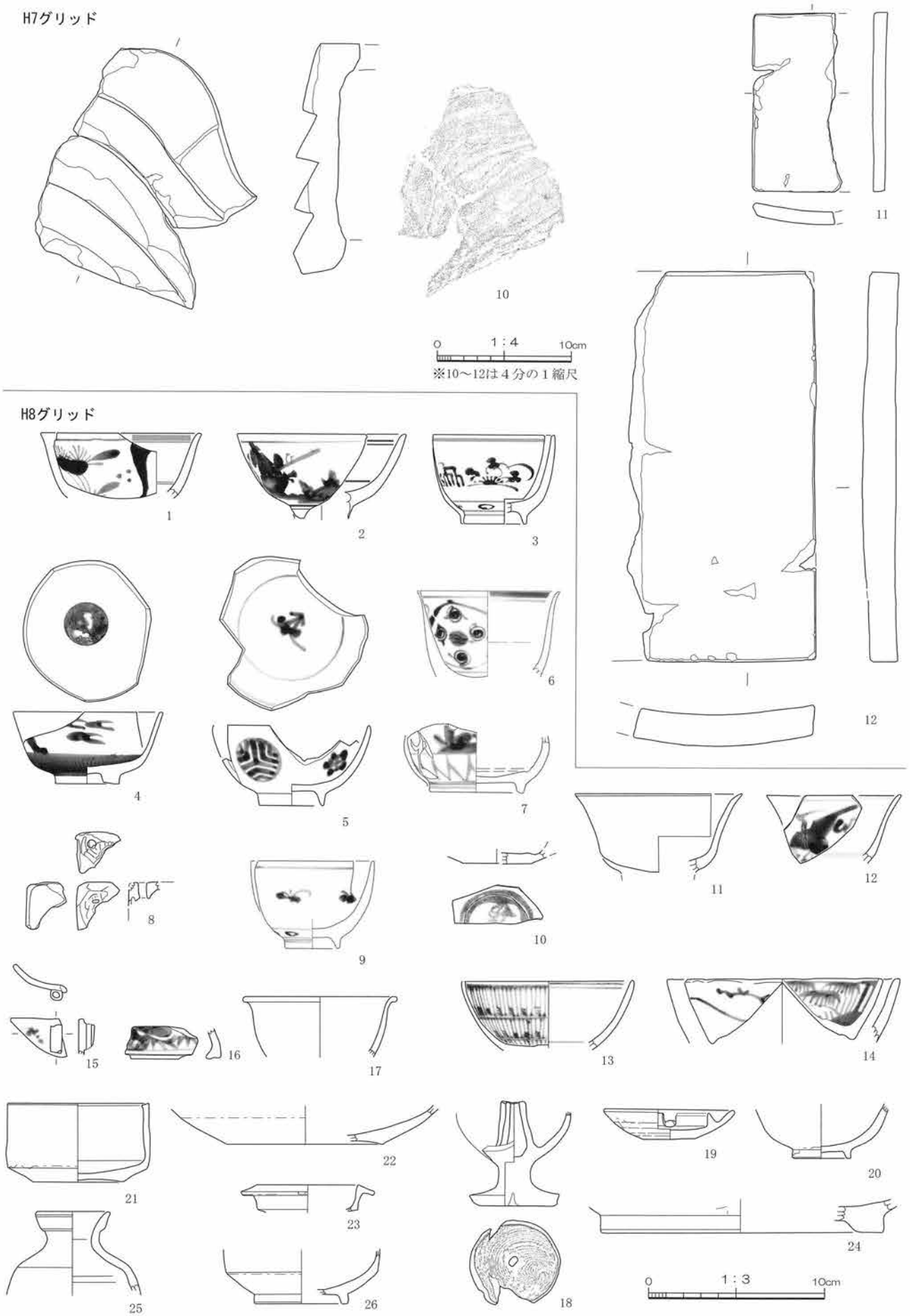


図 179　遺構外出土遺物（38）

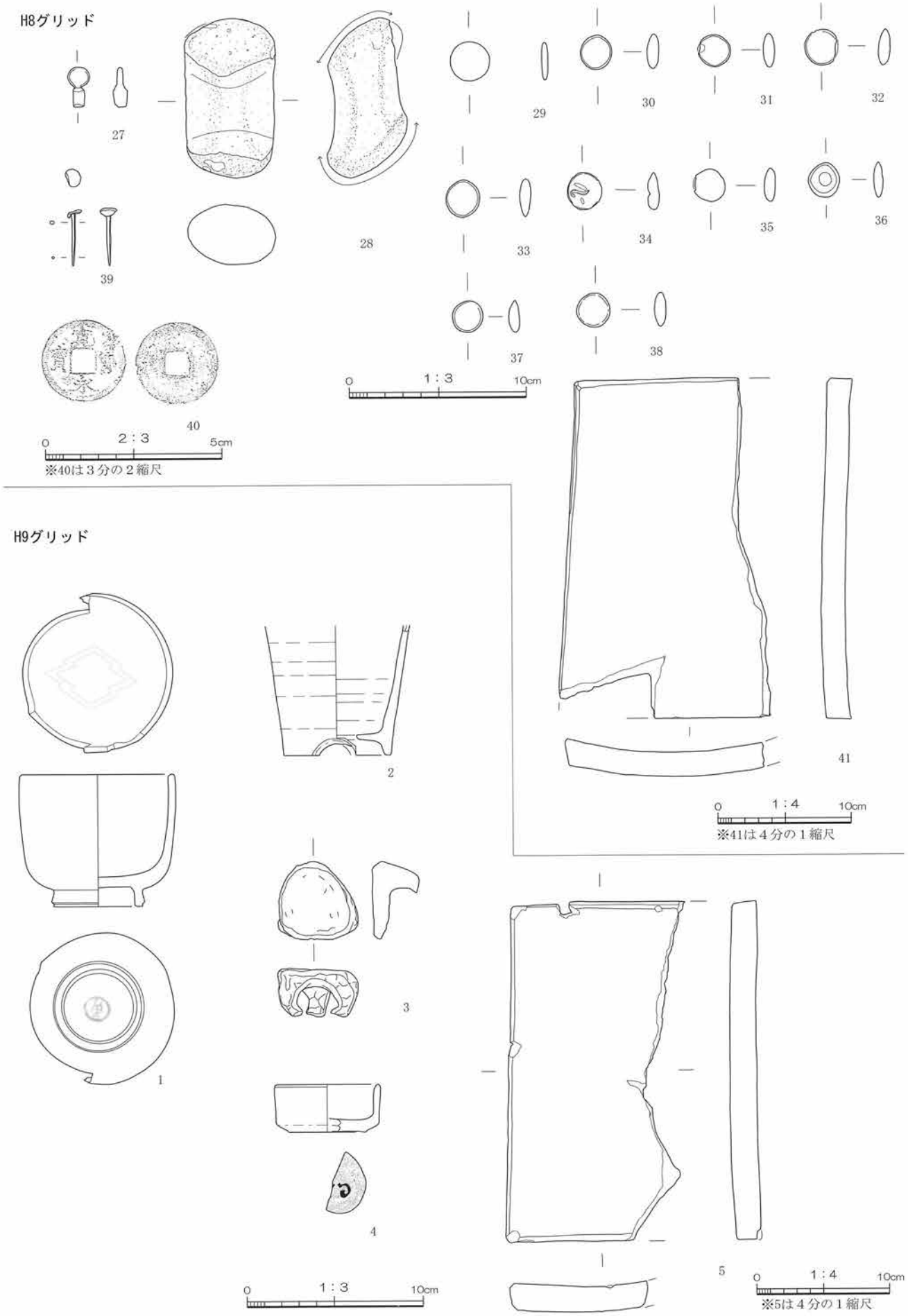
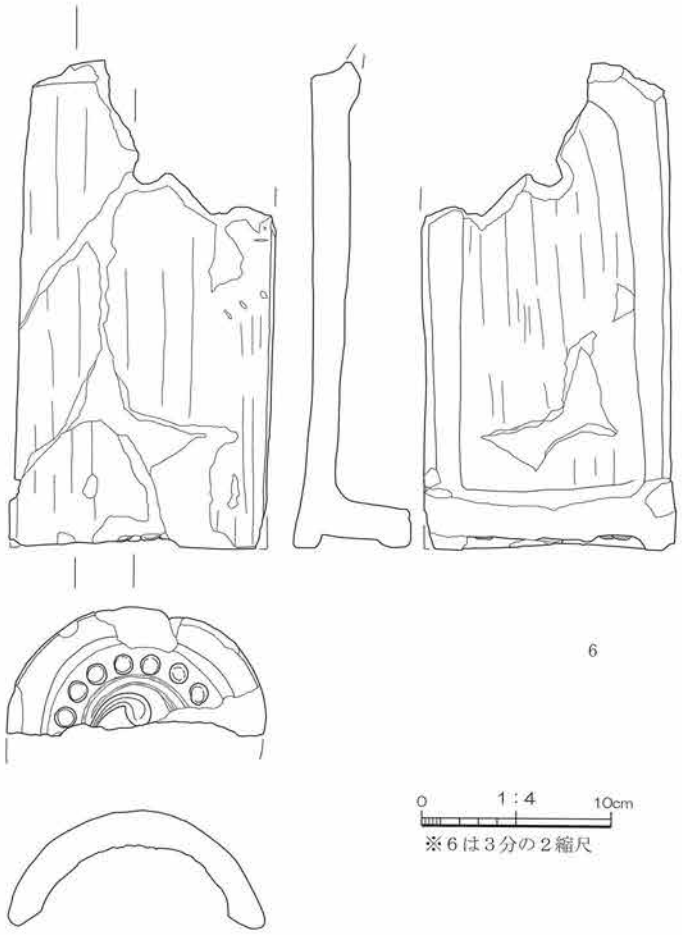
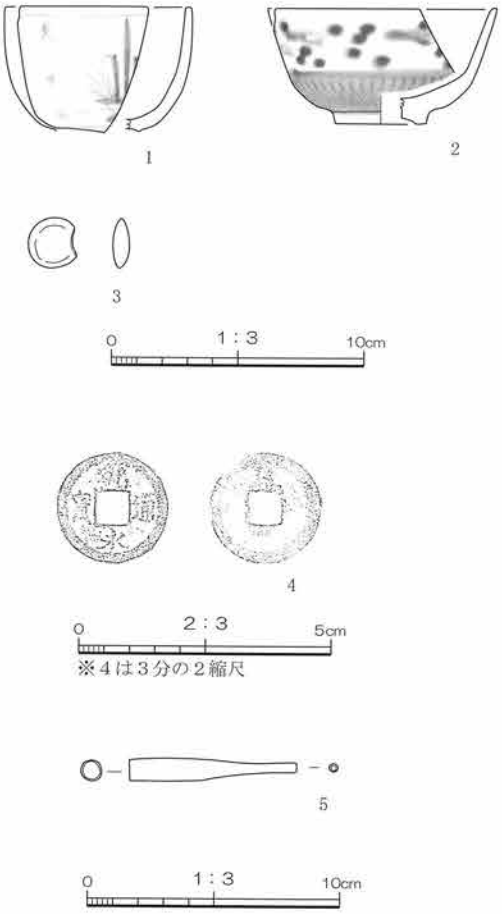


図 180　遺構外出土遺物（39）

H9グリッド



H10グリッド



撹乱H10グリッド

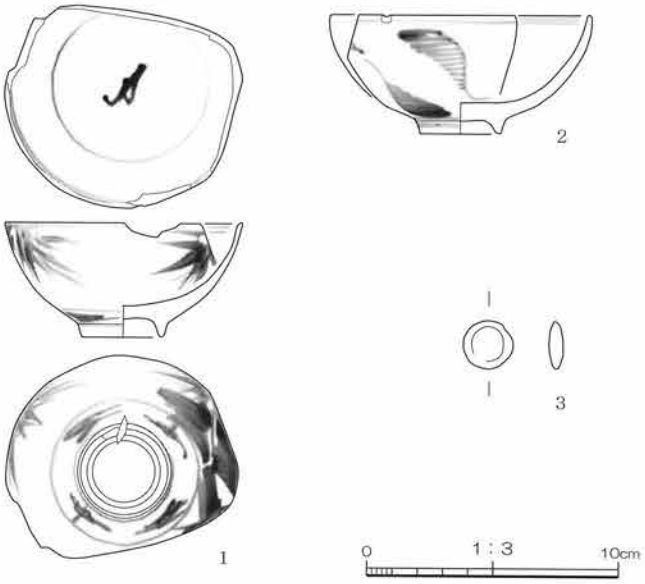


図181　遺構外出土遺物（40）

H11グリッド

図 182　遺構外出土遺物（41）

H11グリッド

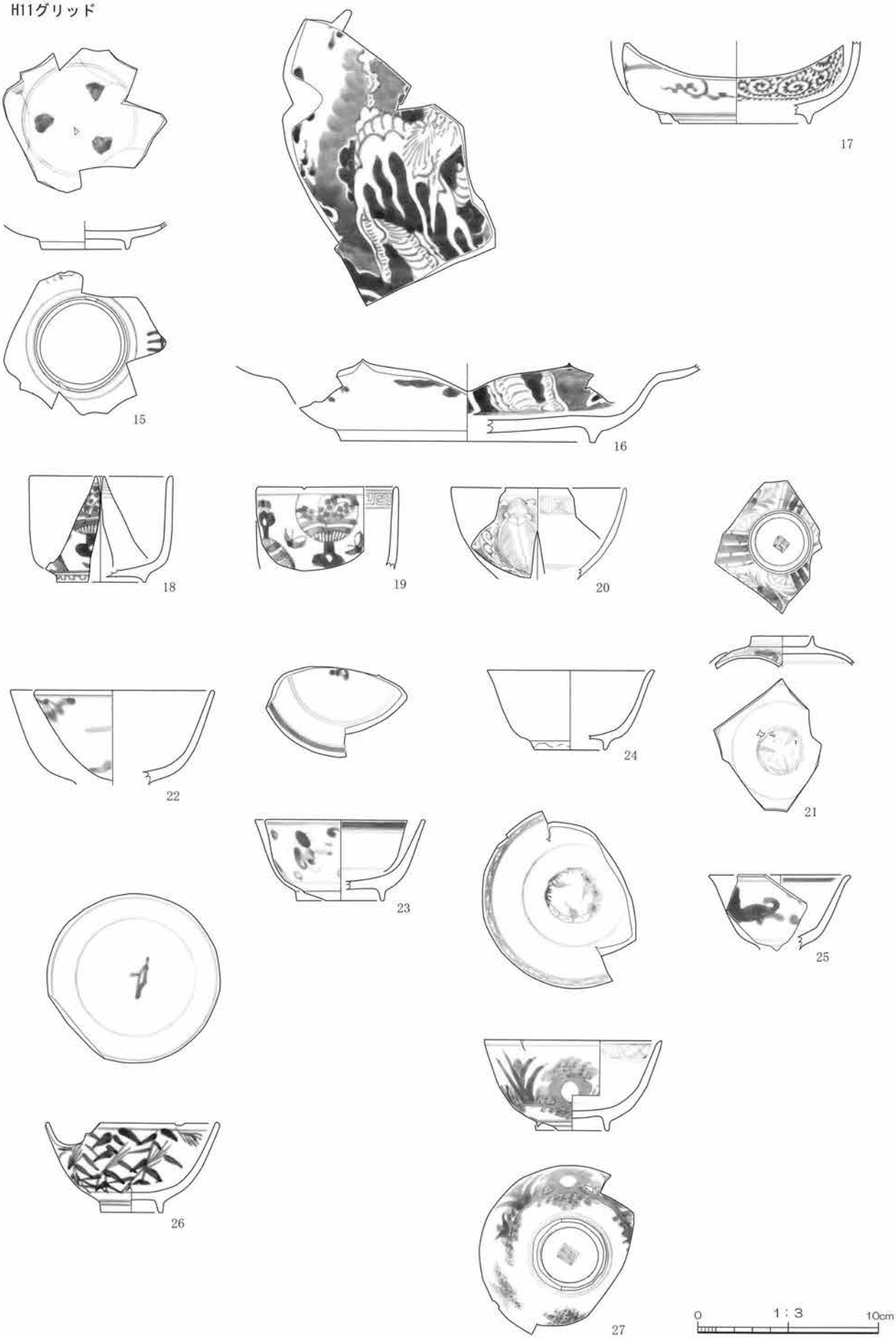


図 183　遺構外出土遺物（42）

H11グリッド

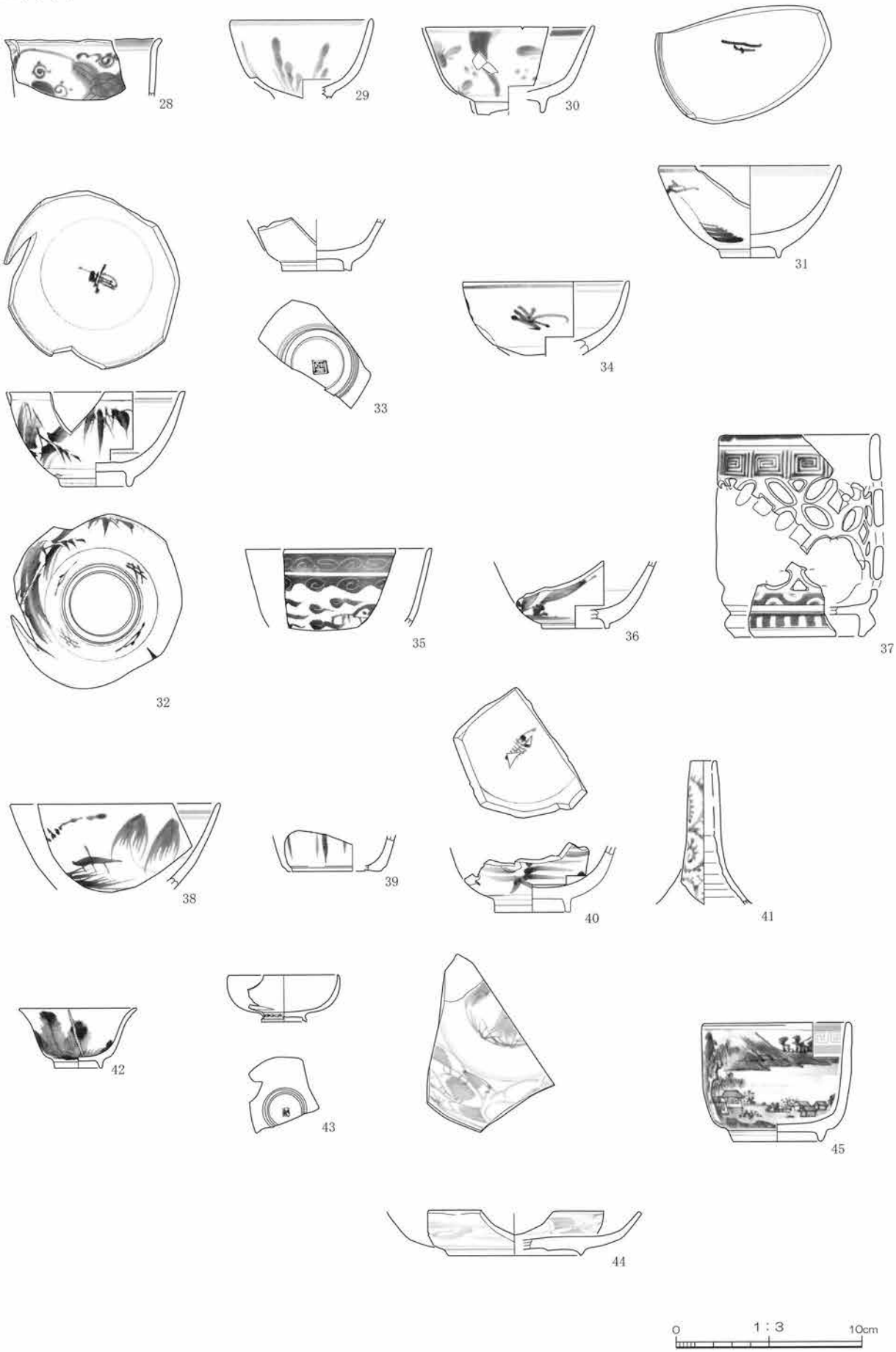


図 184　遺構外出土遺物（43）

H11グリッド

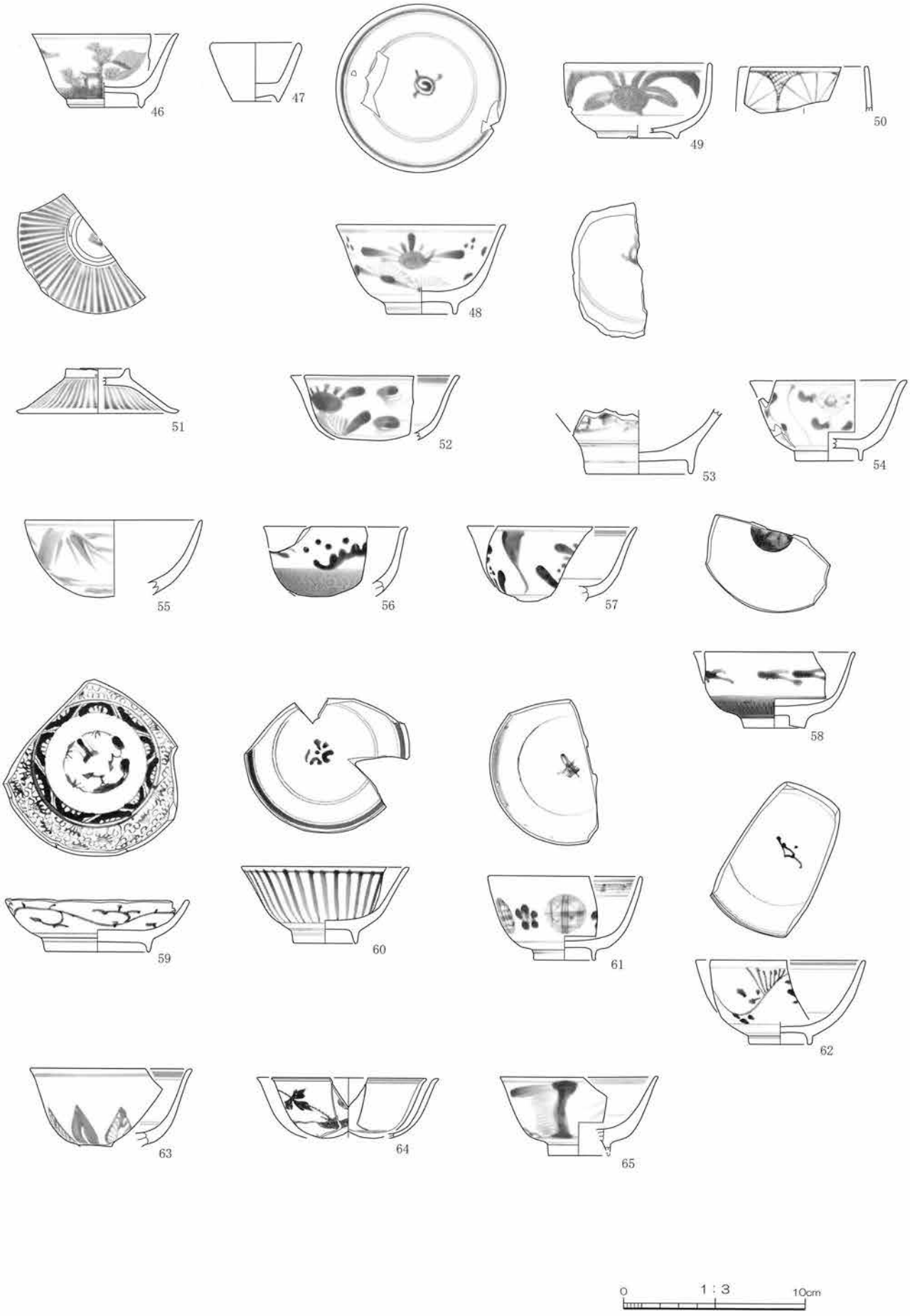


図 185　遺構外出土遺物（44）

H11グリッド

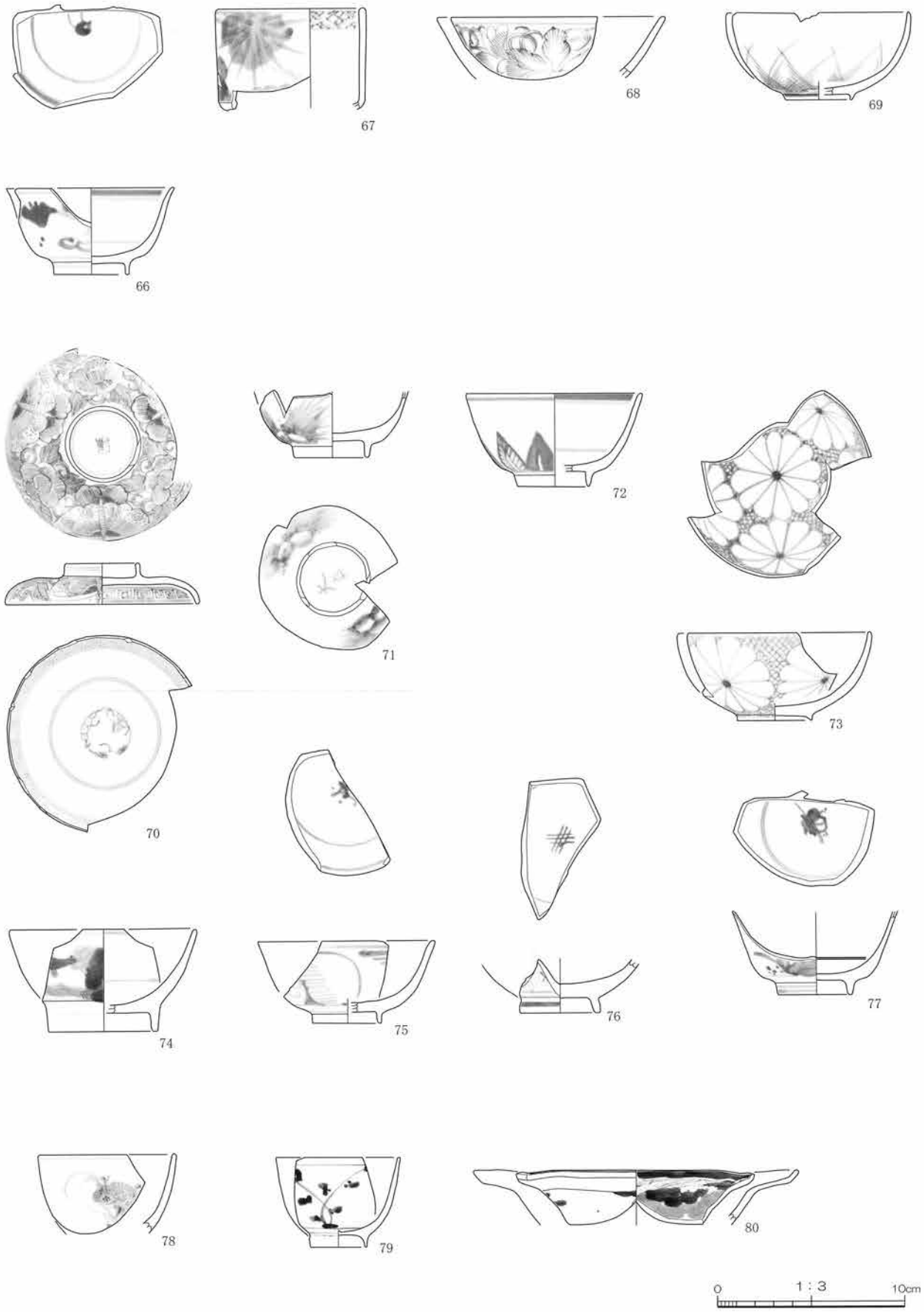


図 186　遺構外出土遺物（45）

H11グリッド

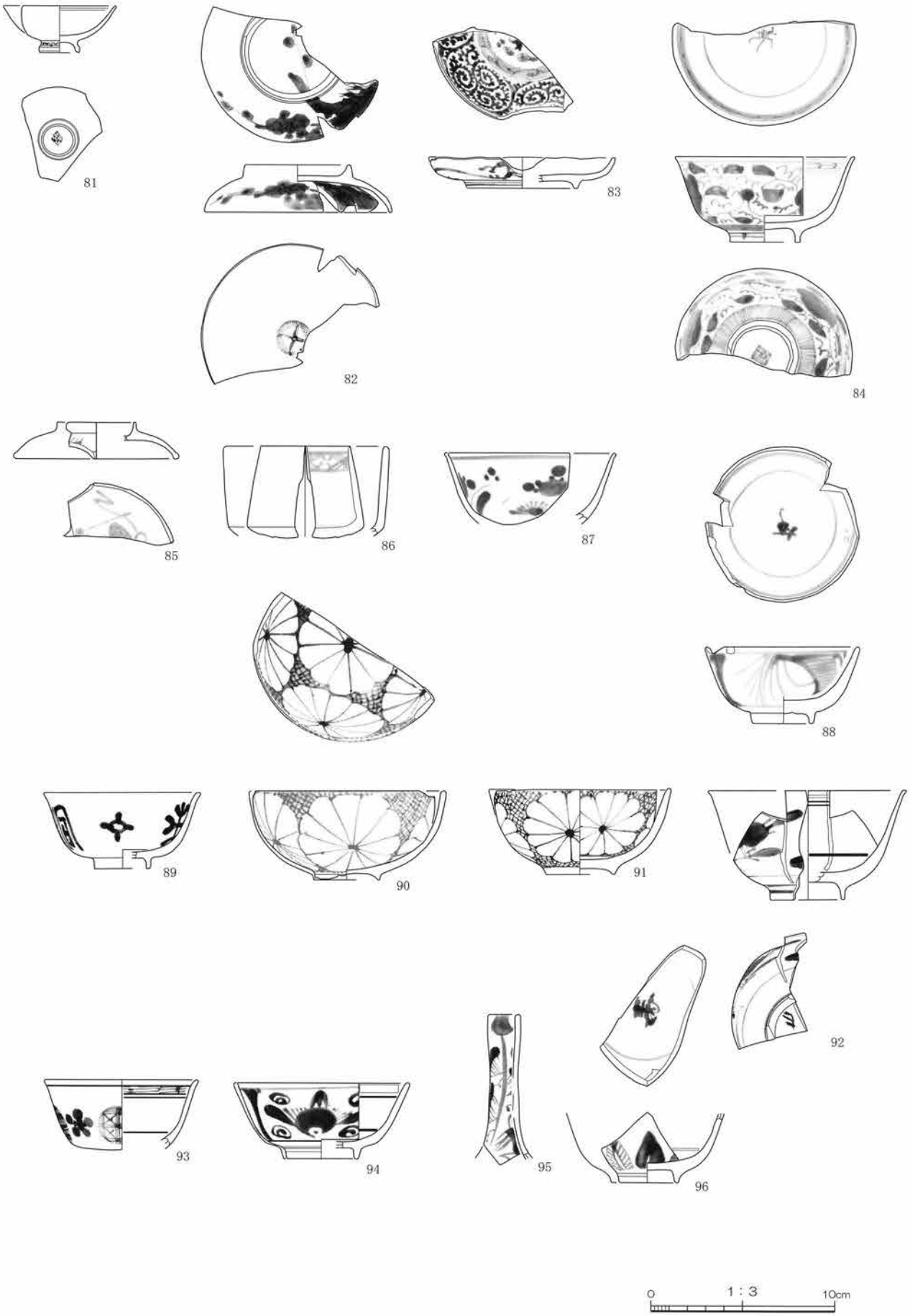


図 187　遺構外出土遺物（46）

H11グリッド

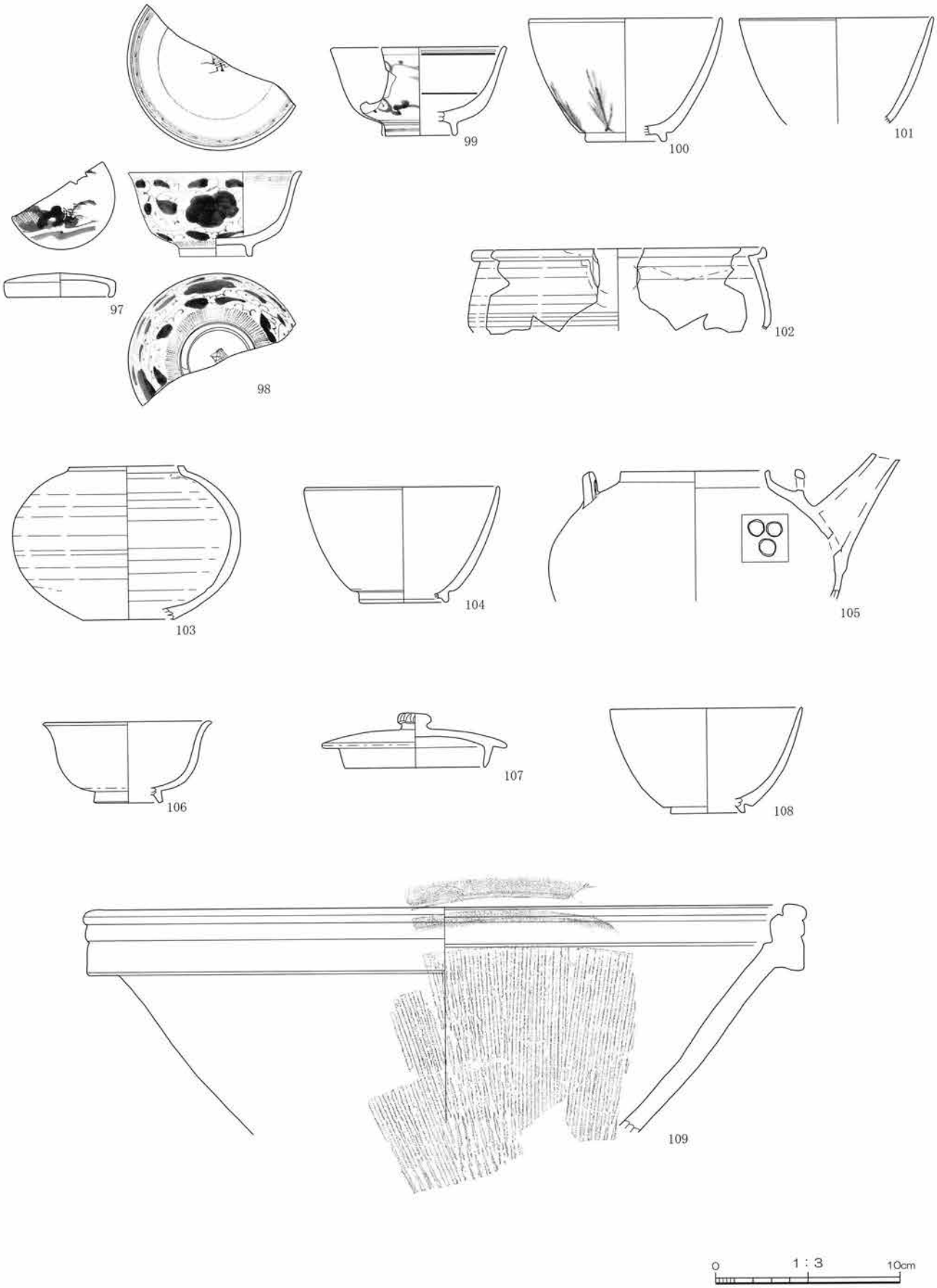


図 188　遺構外出土遺物（47）

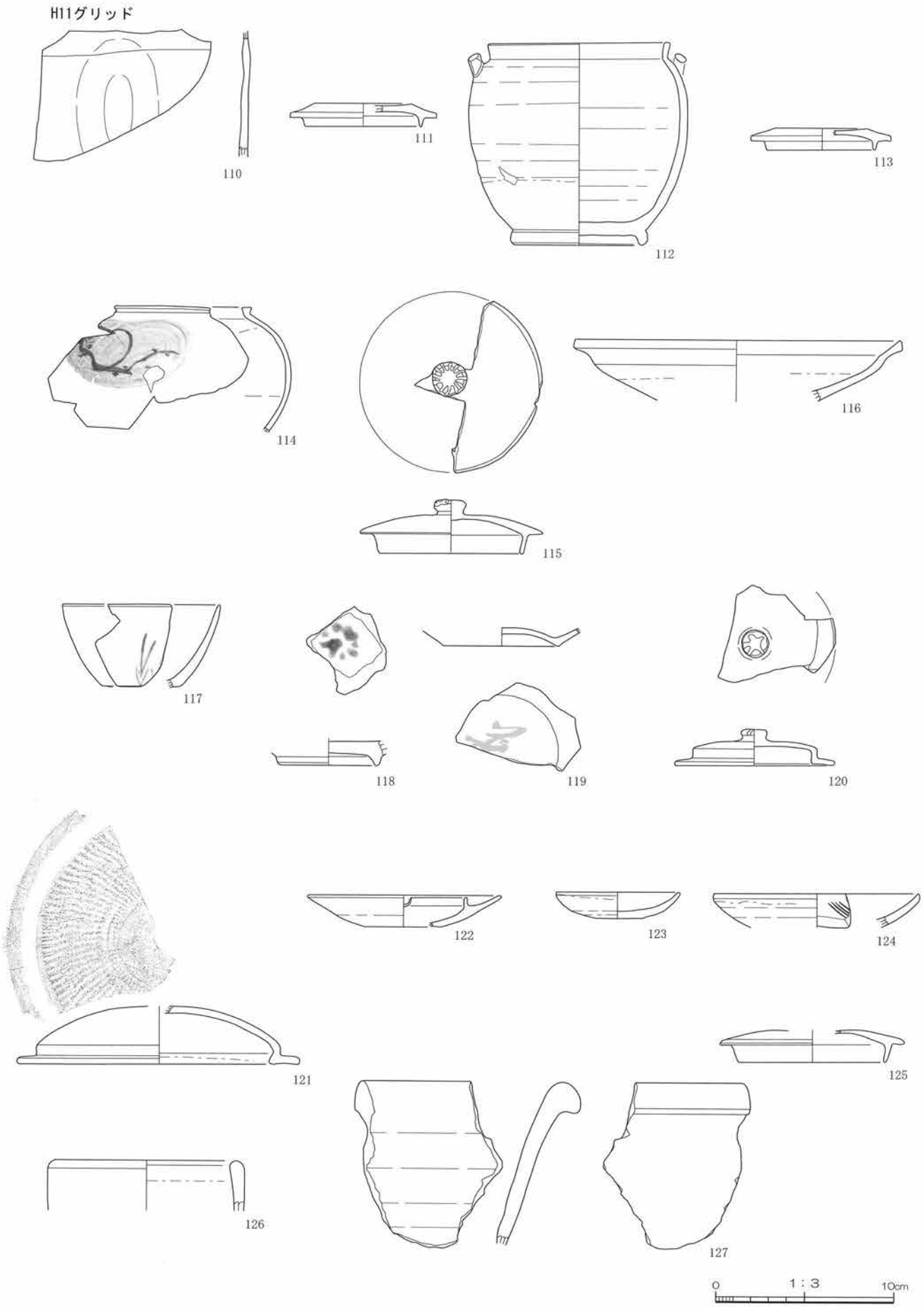


図 189　遺構外出土遺物（48）

H11グリッド

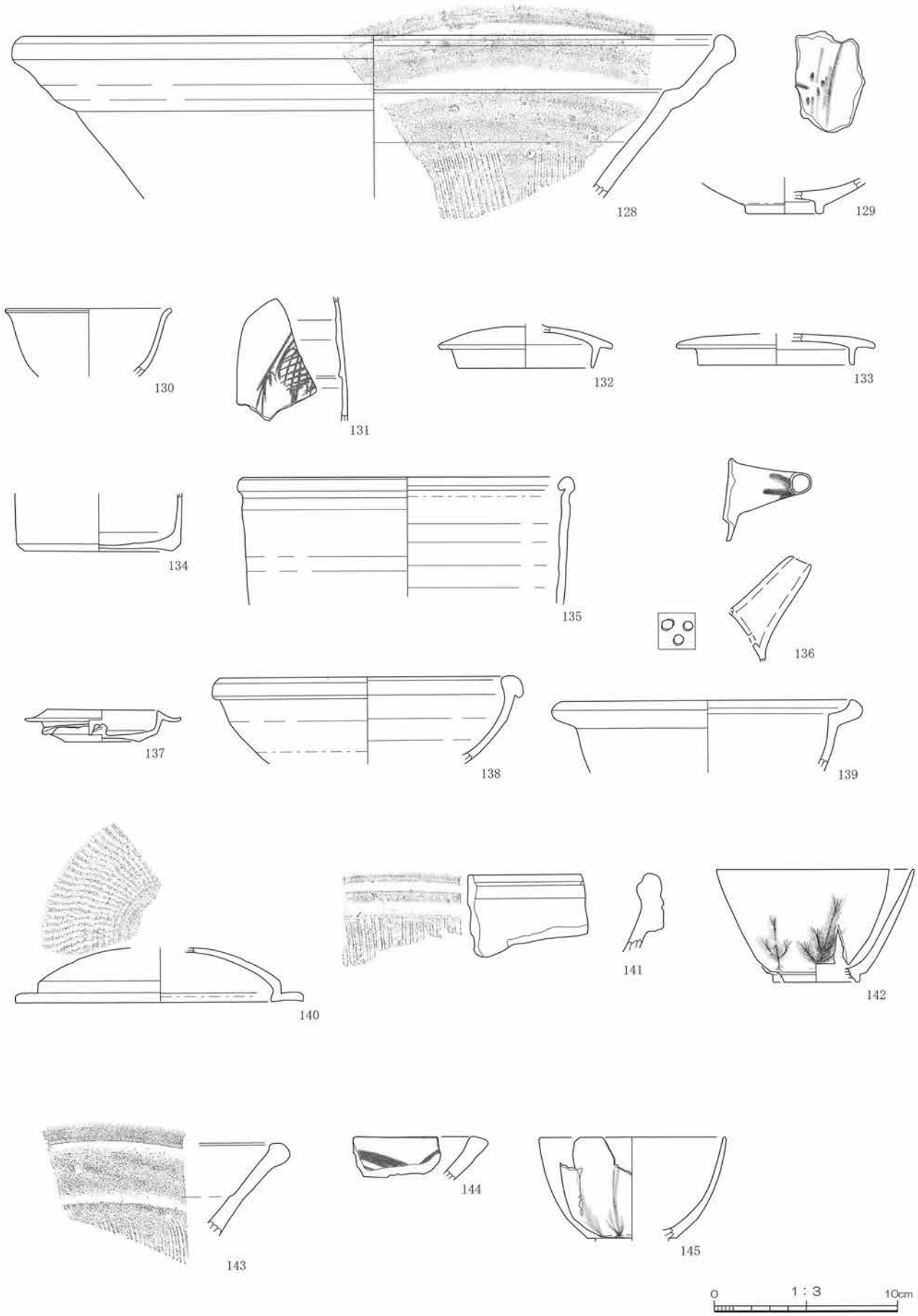


図 190　遺構外出土遺物（49）

H11グリッド

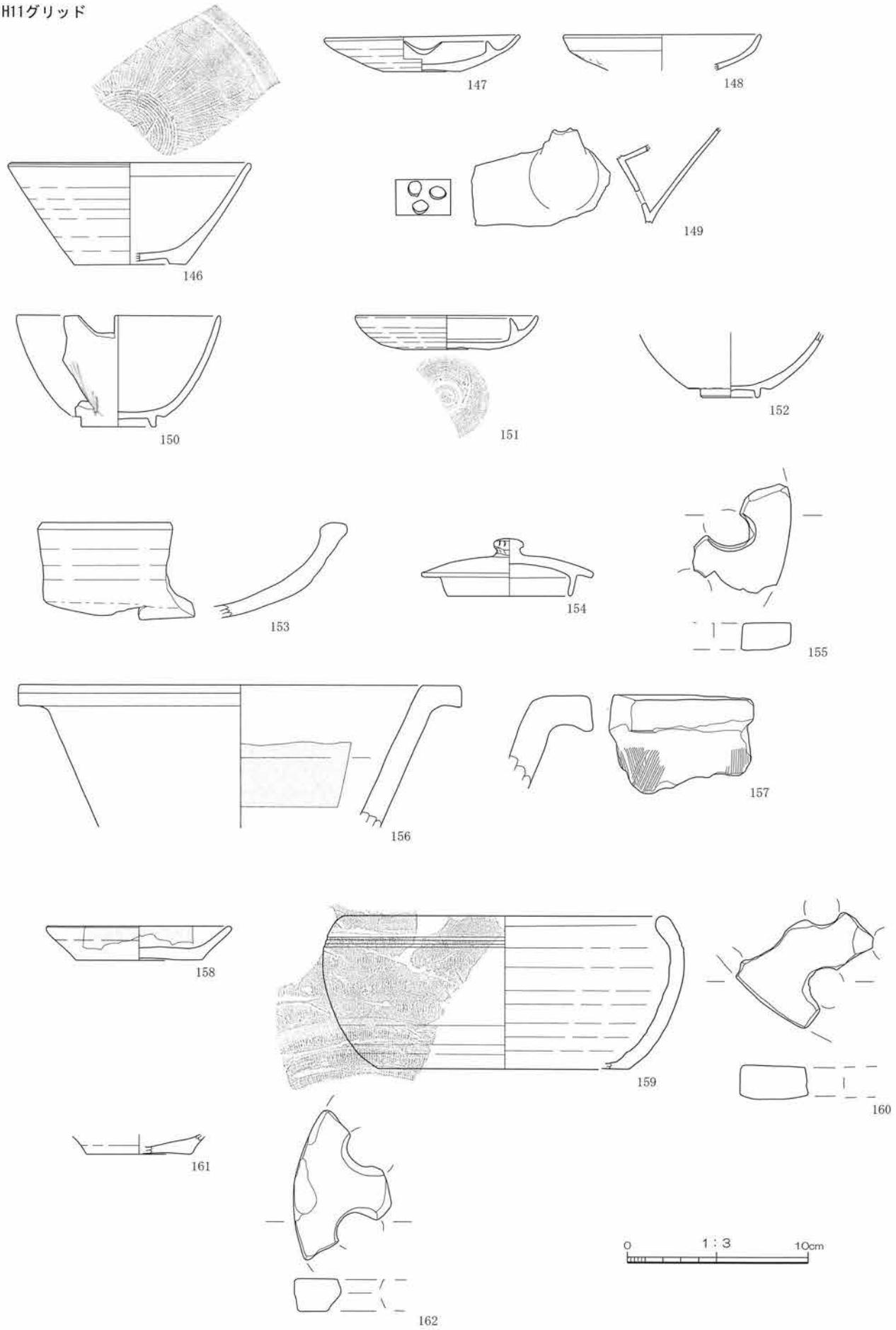
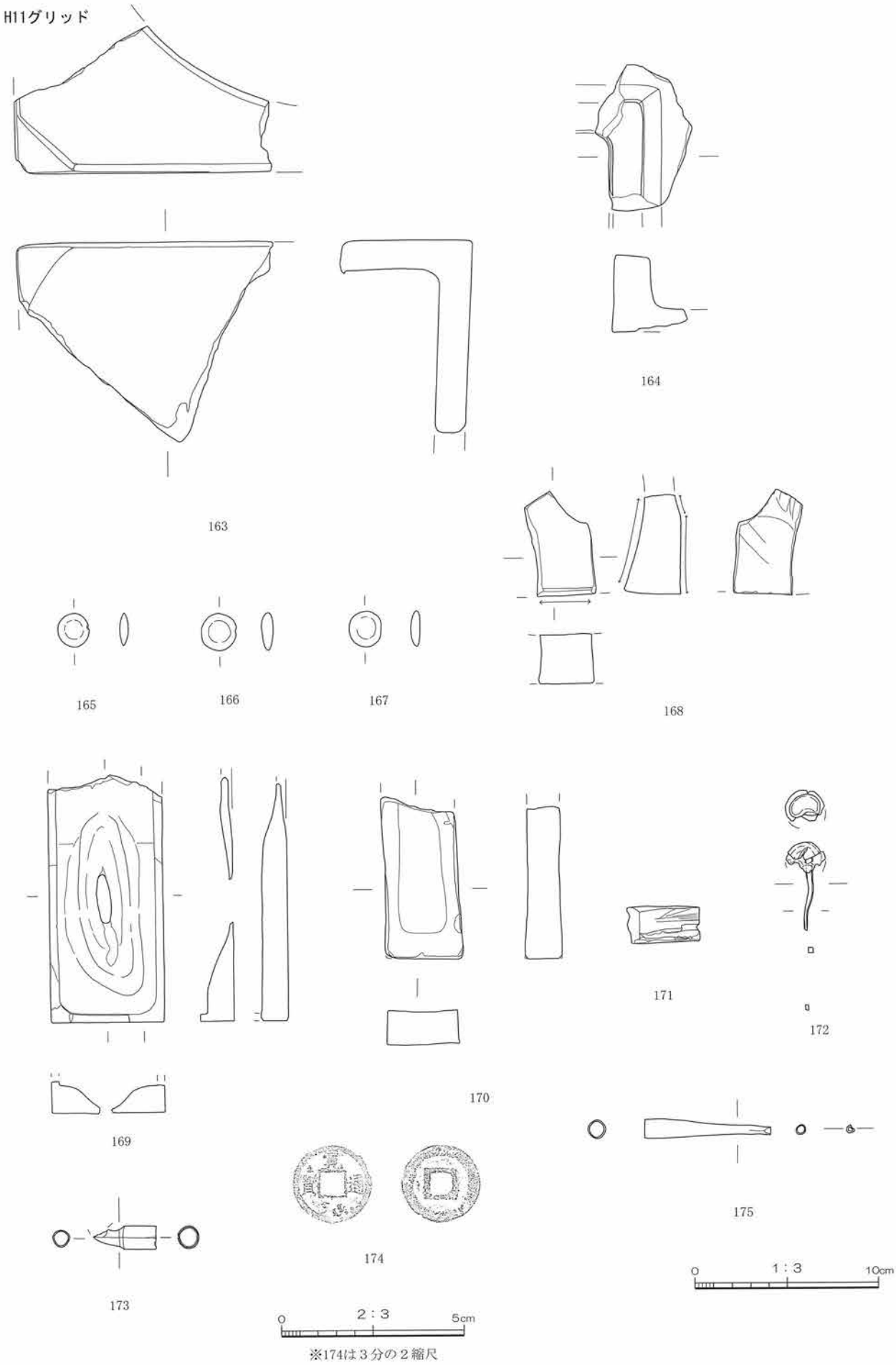


図 191　遺構外出土遺物（50）

H11グリッド



※174は３分の２縮尺

図 192　遺構外出土遺物（51）

H11グリッド

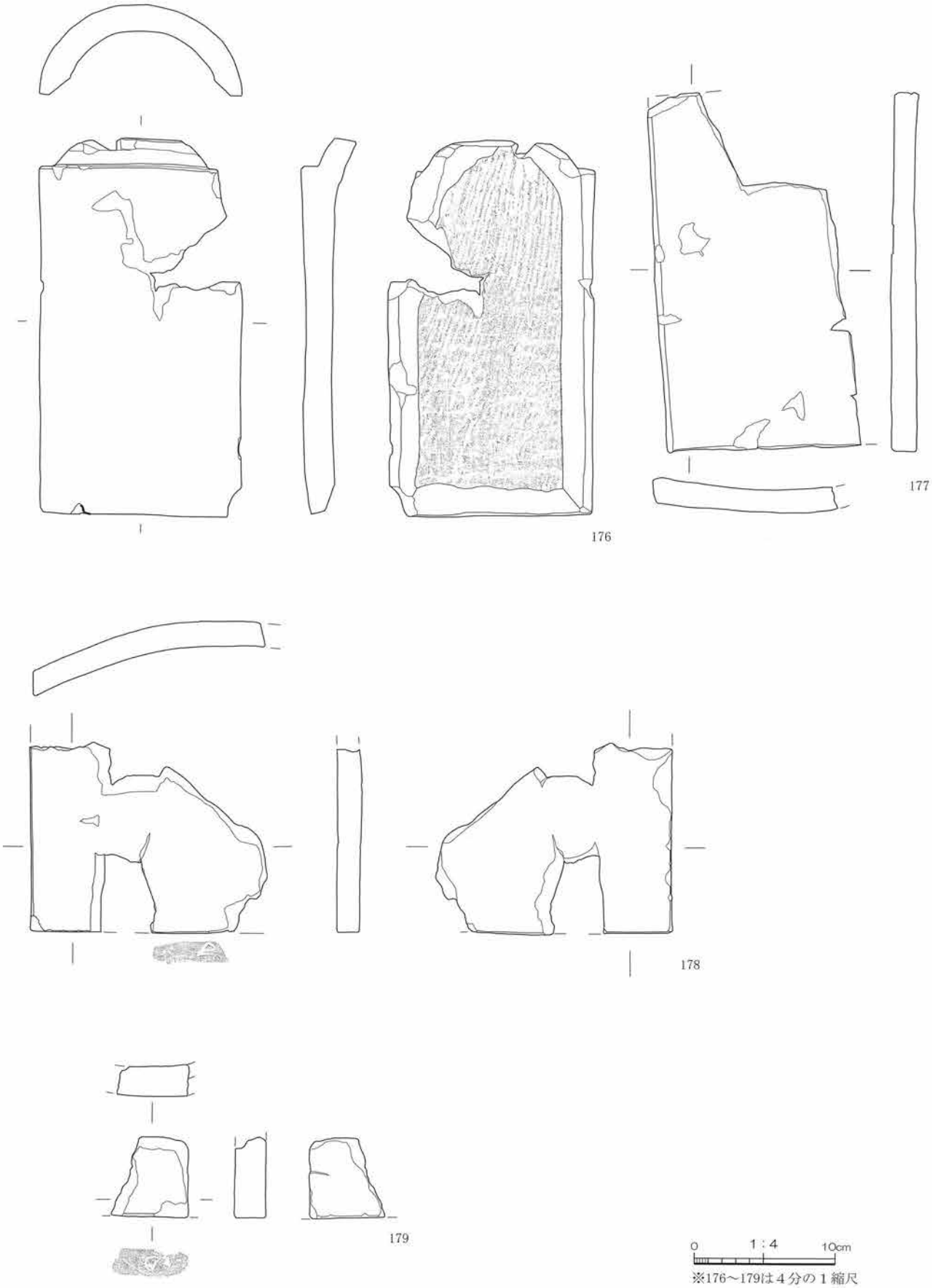


図 193　遺構外出土遺物（52）

撹乱H11グリッド

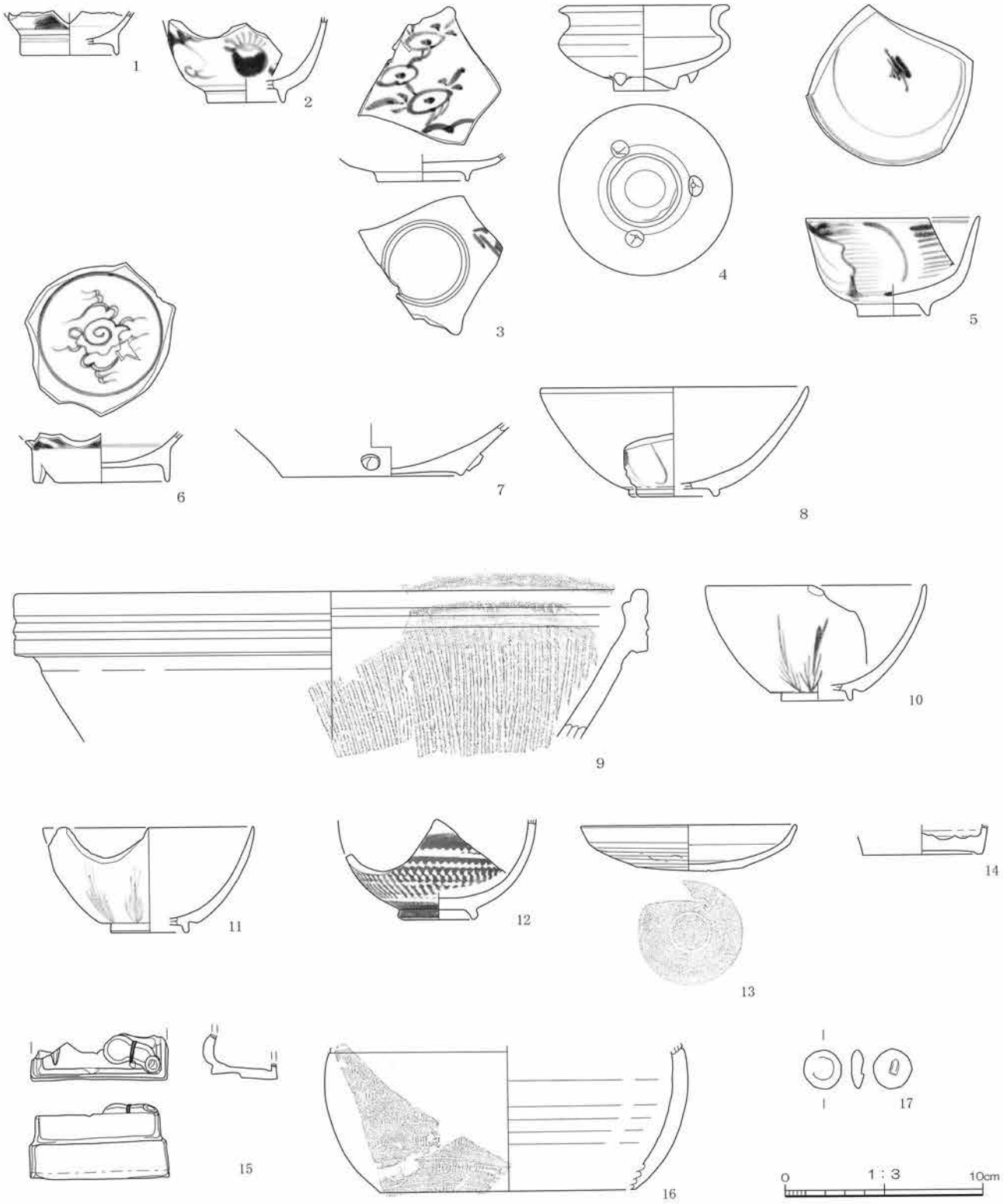


図 194　遺構外出土遺物（53）

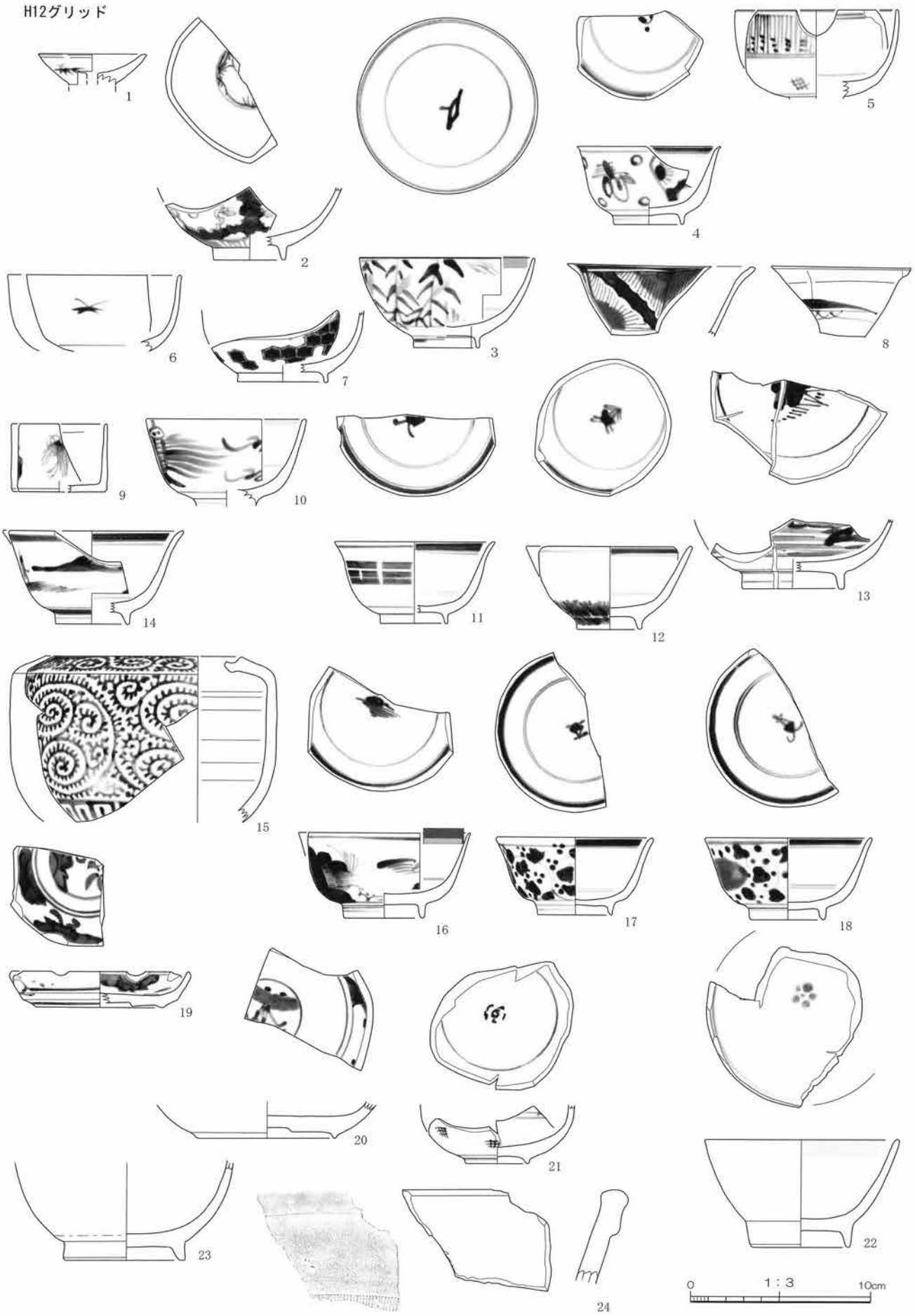


図 195　遺構外出土遺物（54）

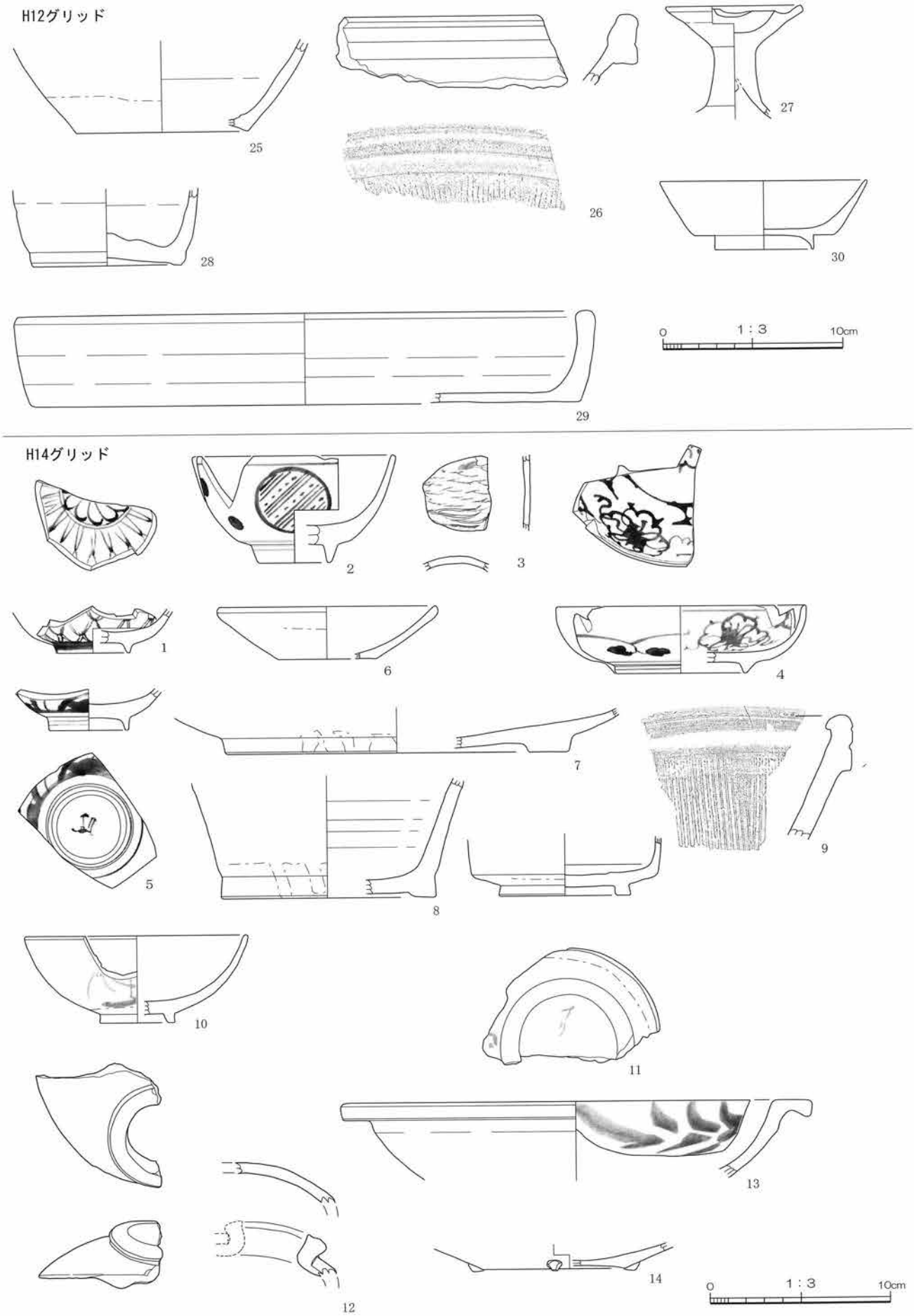


図 196　遺構外出土遺物（55）

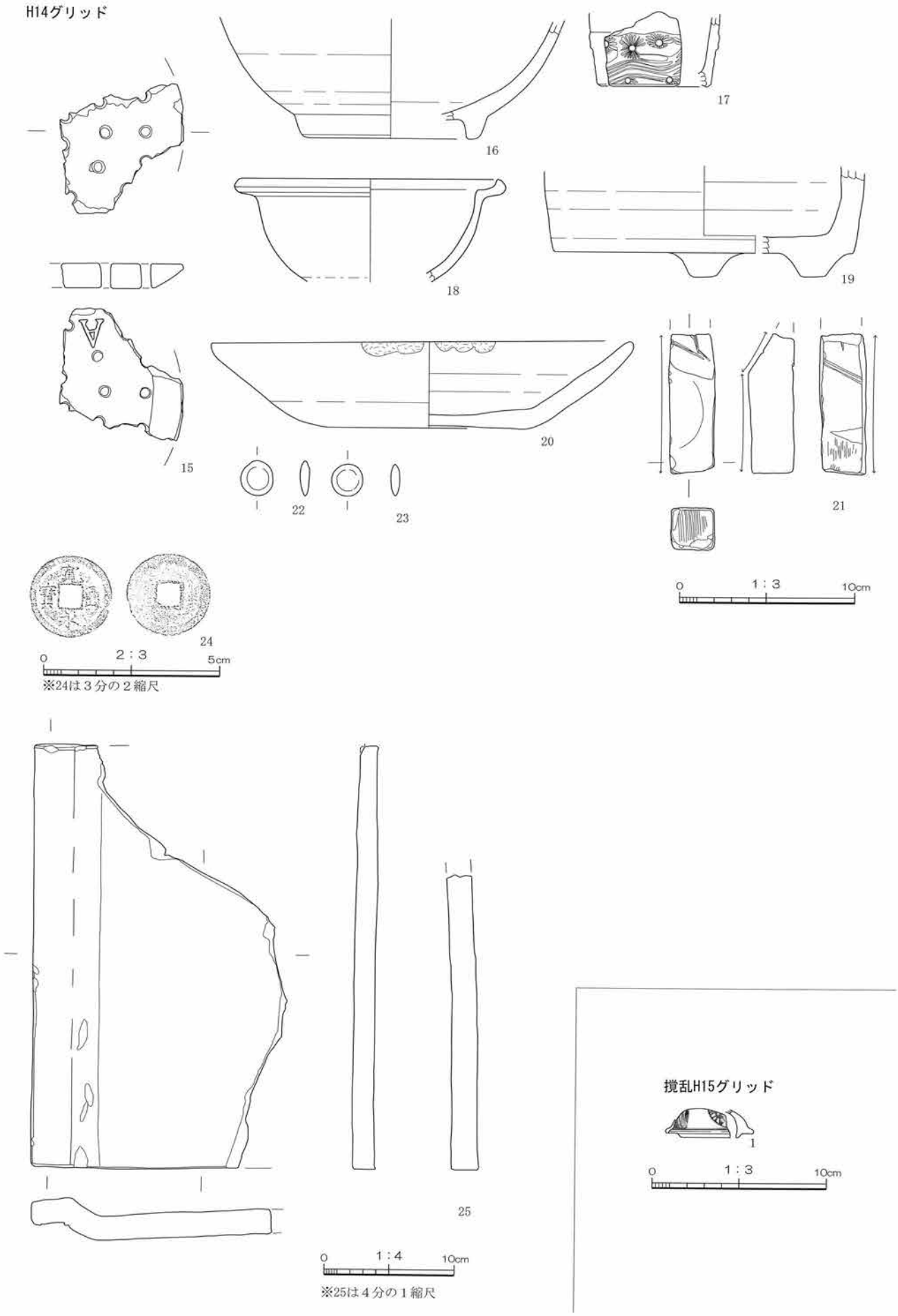
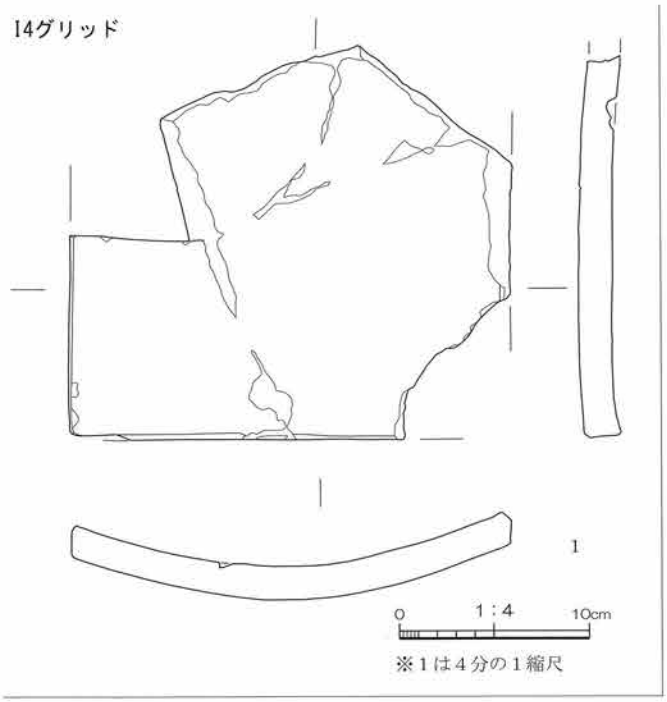
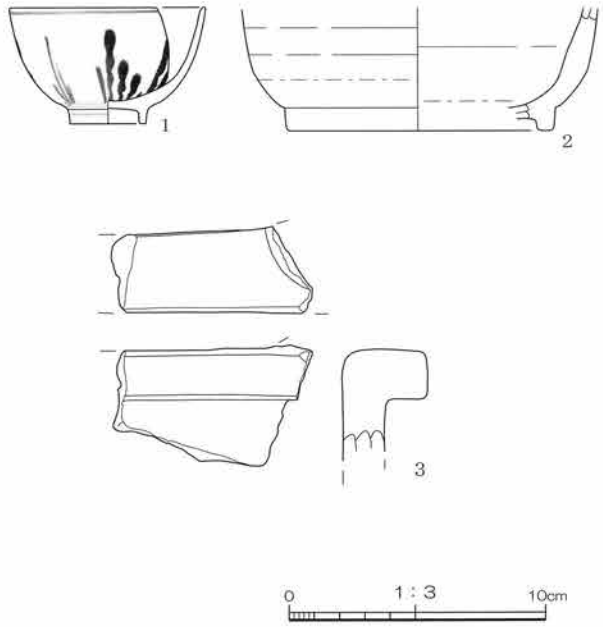


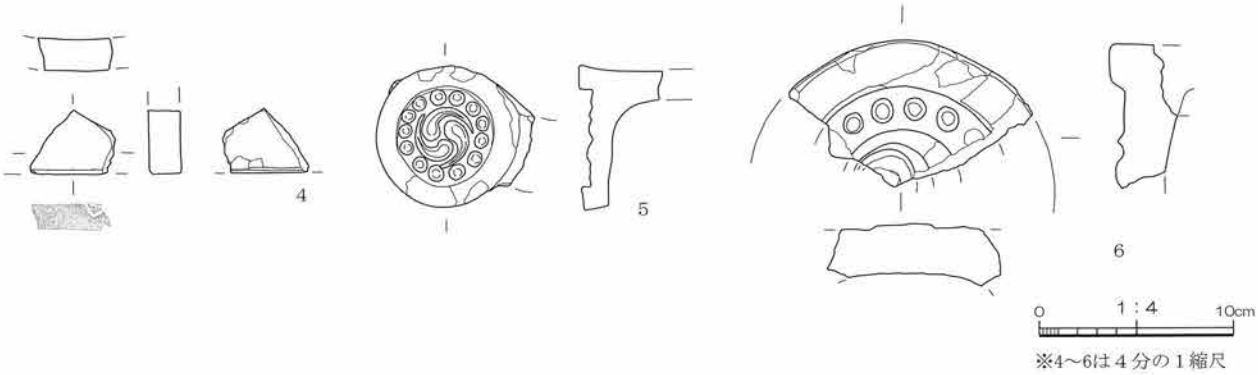
図 197　遺構外出土遺物（56）

I4グリッド

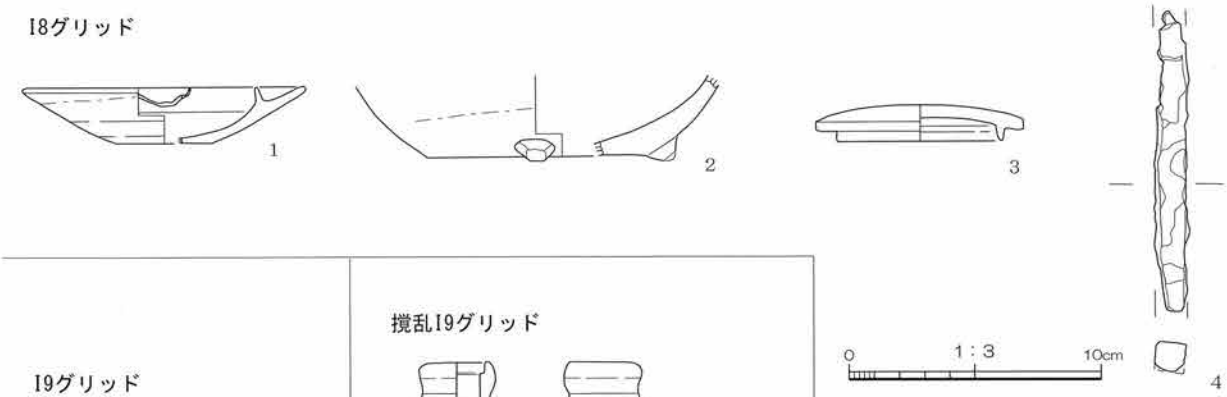


I5グリッド

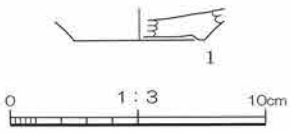




I8グリッド



I9グリッド



撹乱I9グリッド

I10グリッド

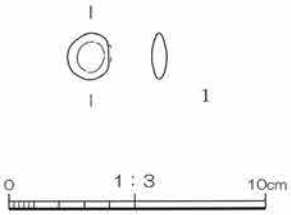
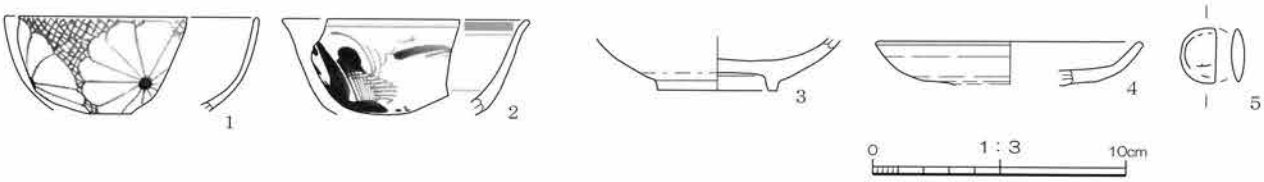
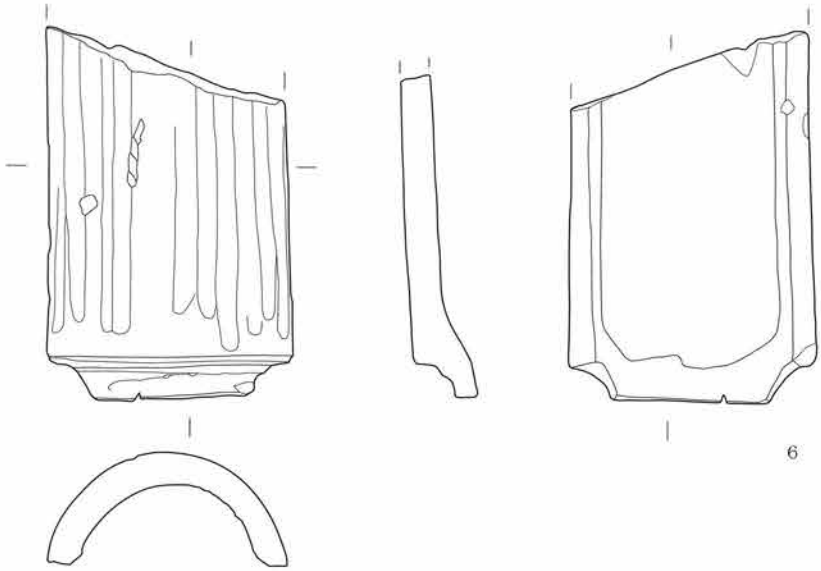
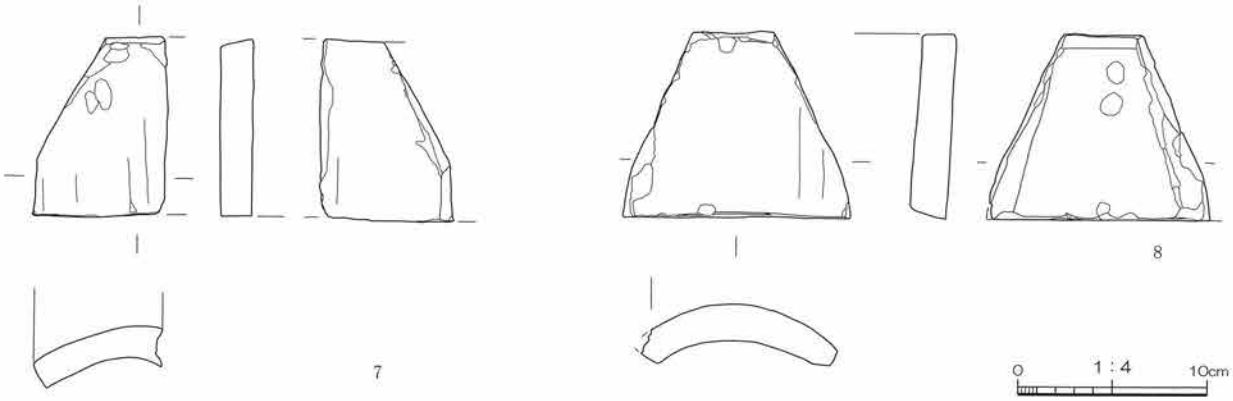


図 198　遺構外出土遺物（57）

I11グリッド

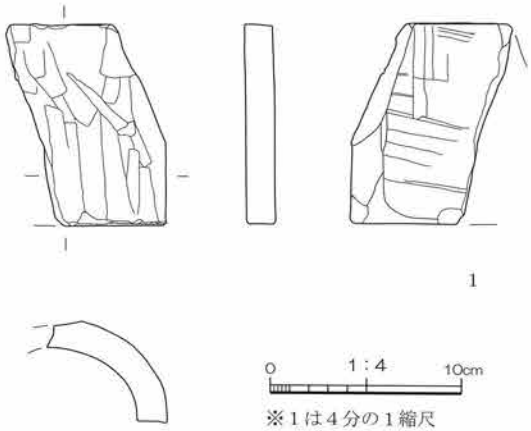






※6～8は4分の1縮尺

撹乱I11グリッド



※1は4分の1縮尺

撹乱I12グリッド

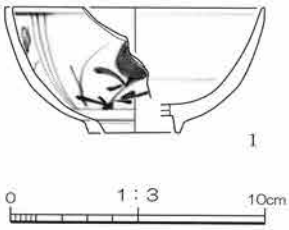


図199　遺構外出土遺物（58）

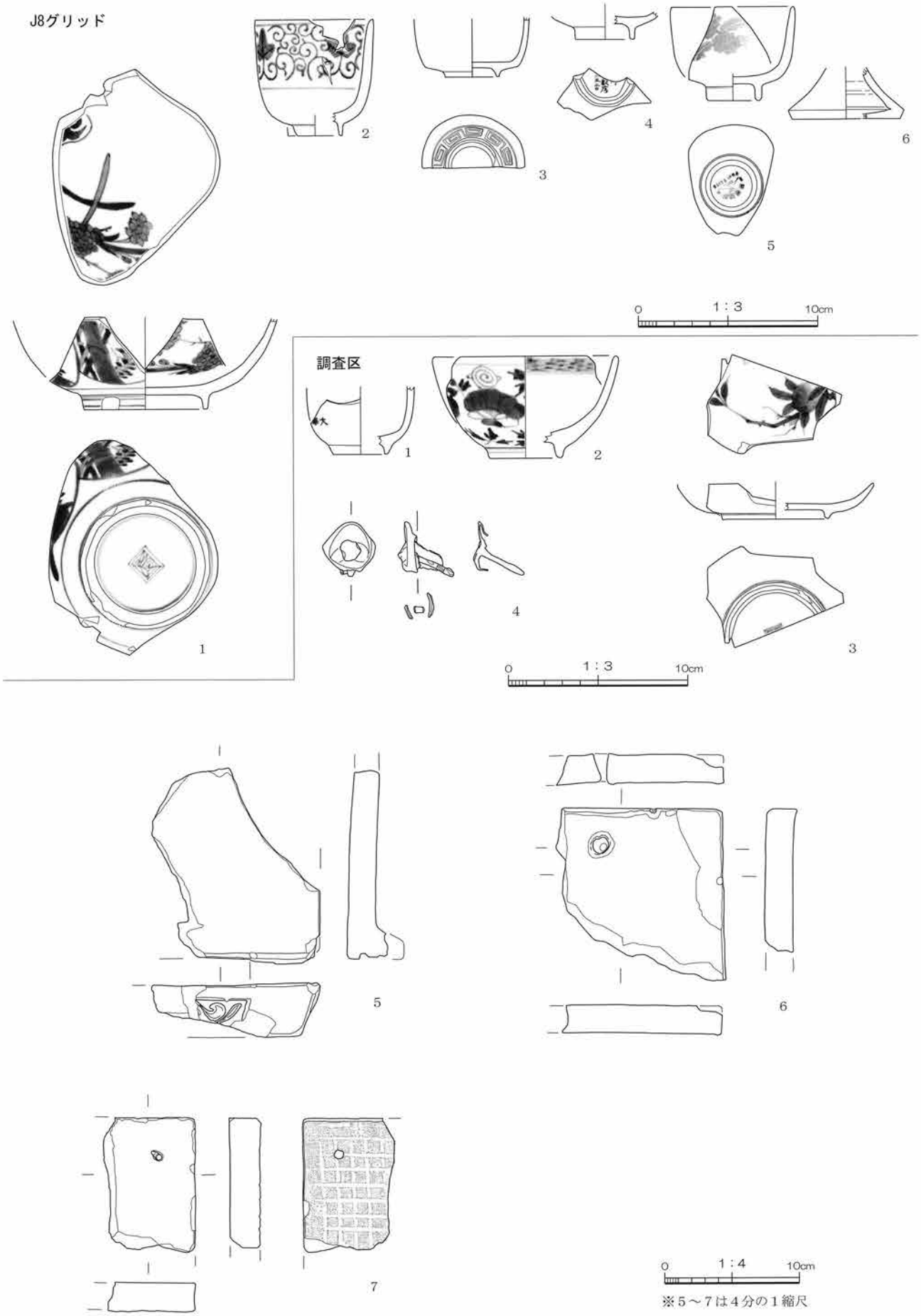


図 200　遺構外出土遺物（59）

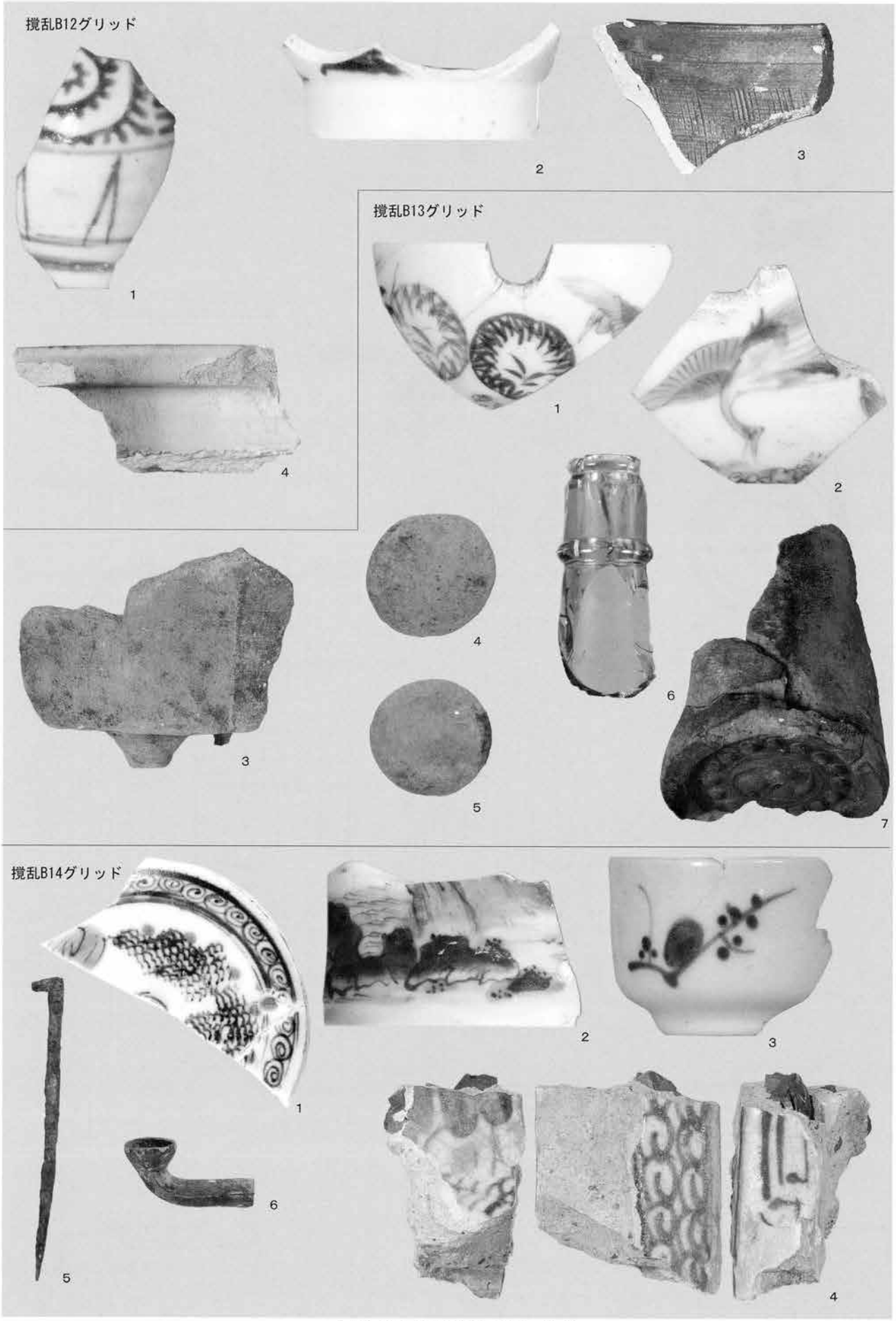


写真 157　遺構外出土遺物（1）

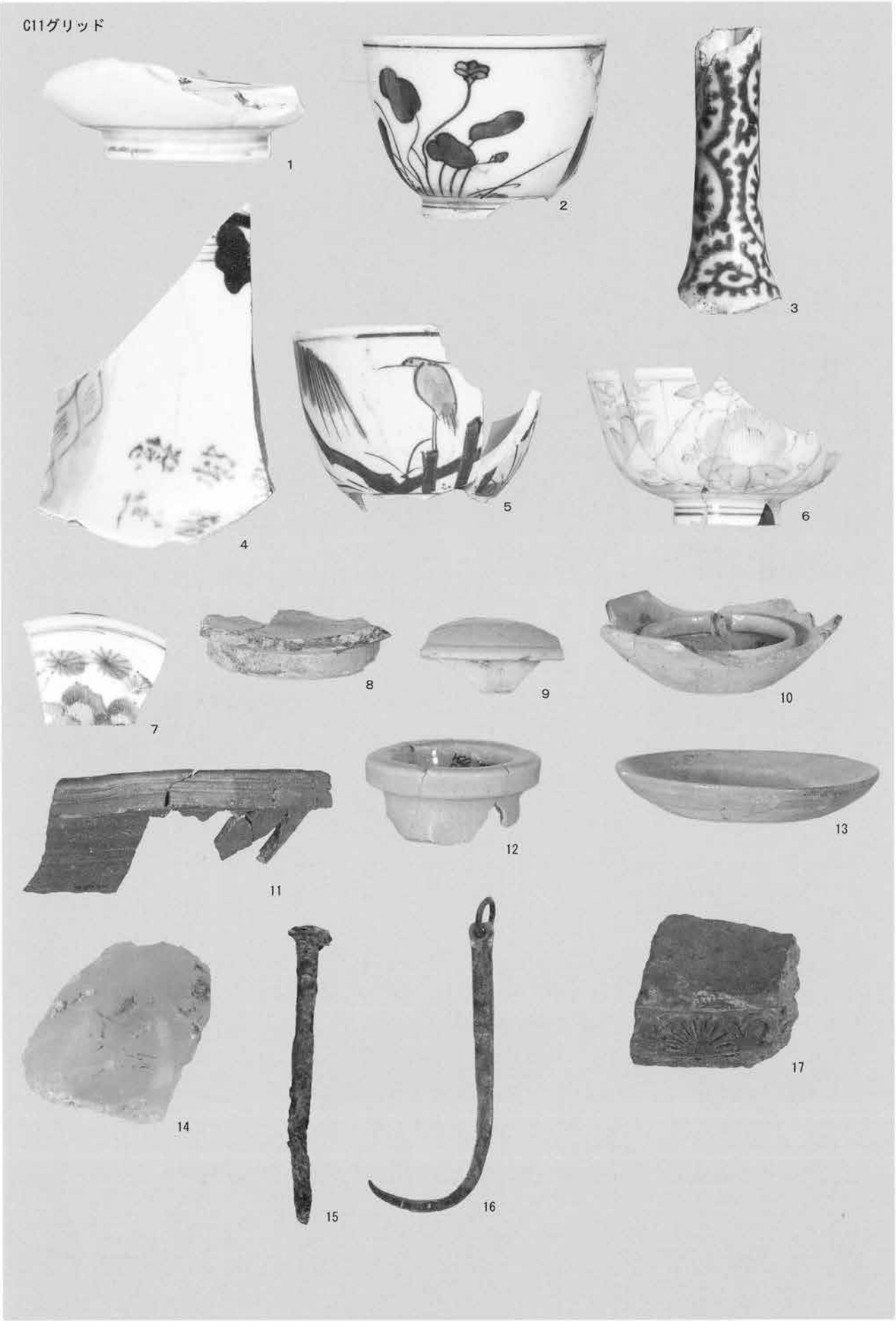


写真 158　遺構外出土遺物（2）

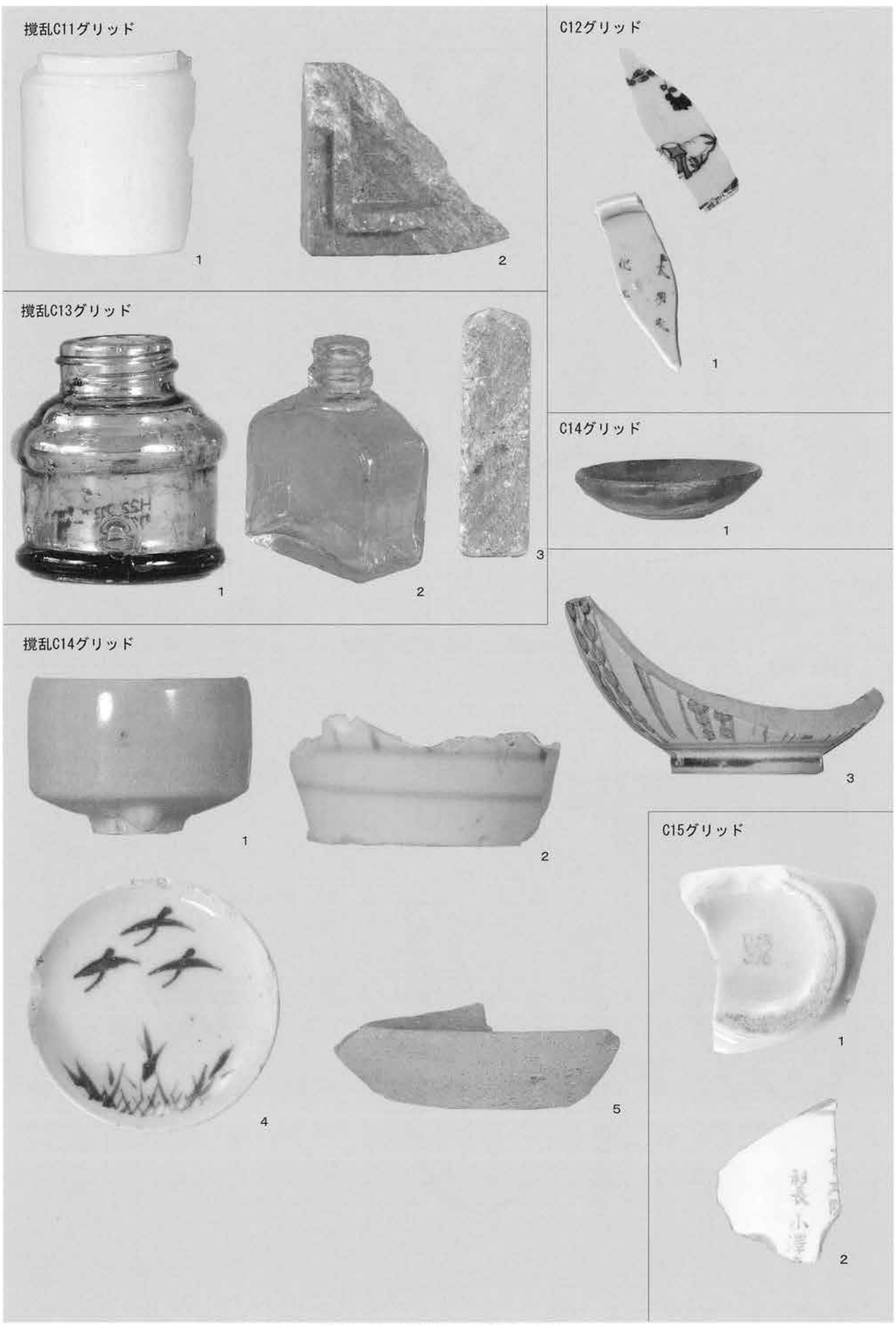


写真 159　遺構外出土遺物（3）

写真 160　遺構外出土遺物（4）

写真 161　遺構外出土遺物（5）

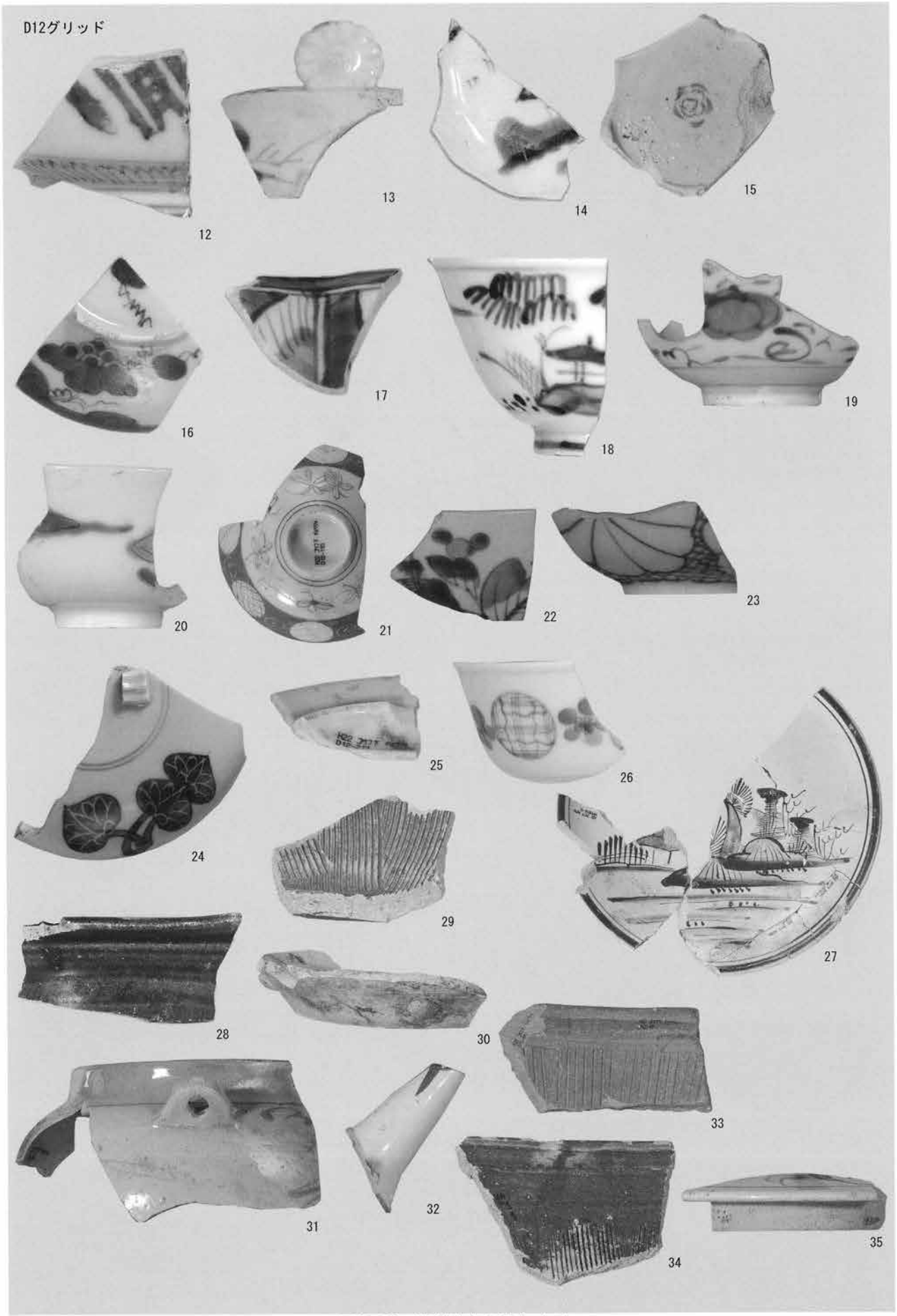


写真 162　遺構外出土遺物（6）

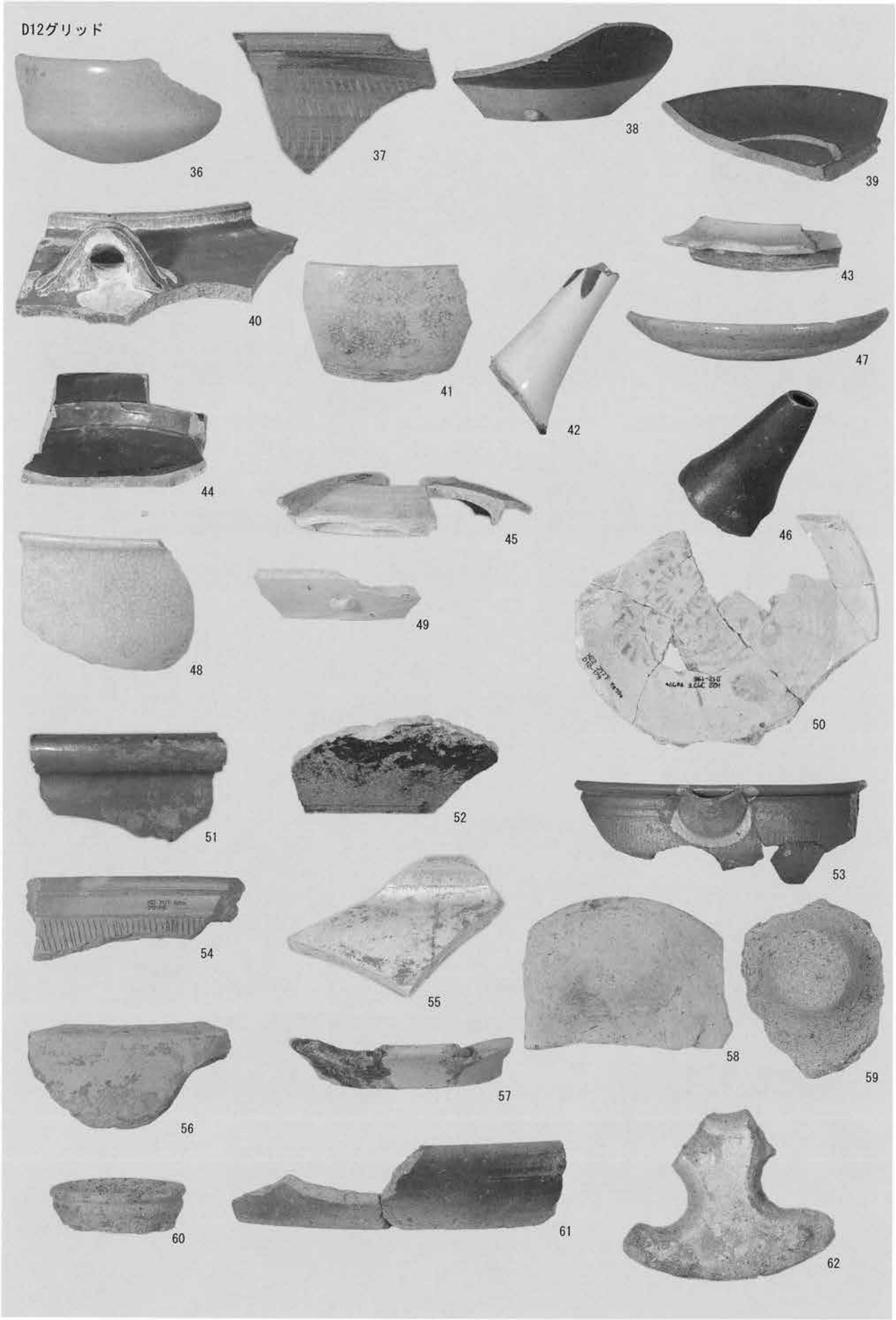


写真 163　遺構外出土遺物（7）

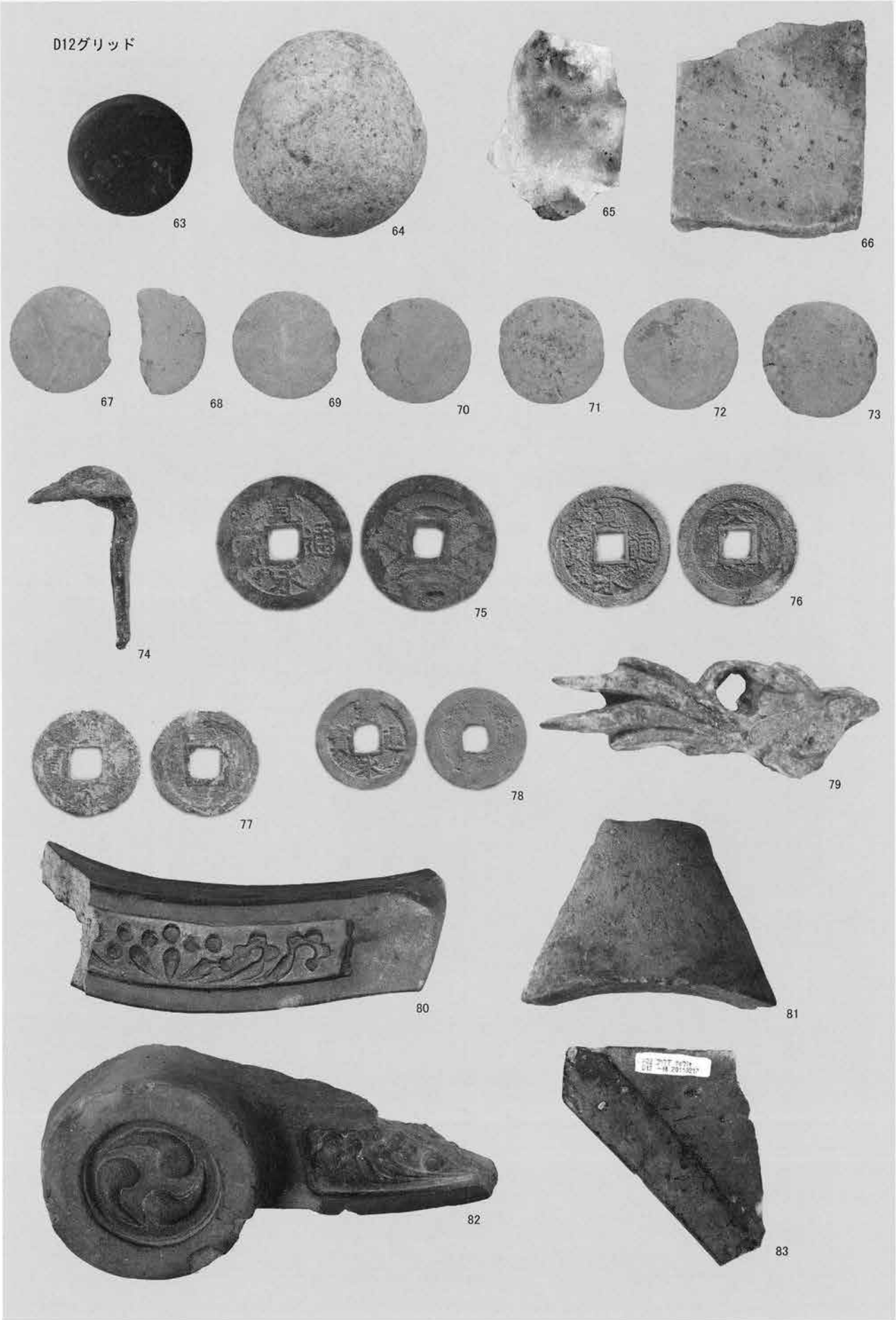


写真 164　遺構外出土遺物（8）

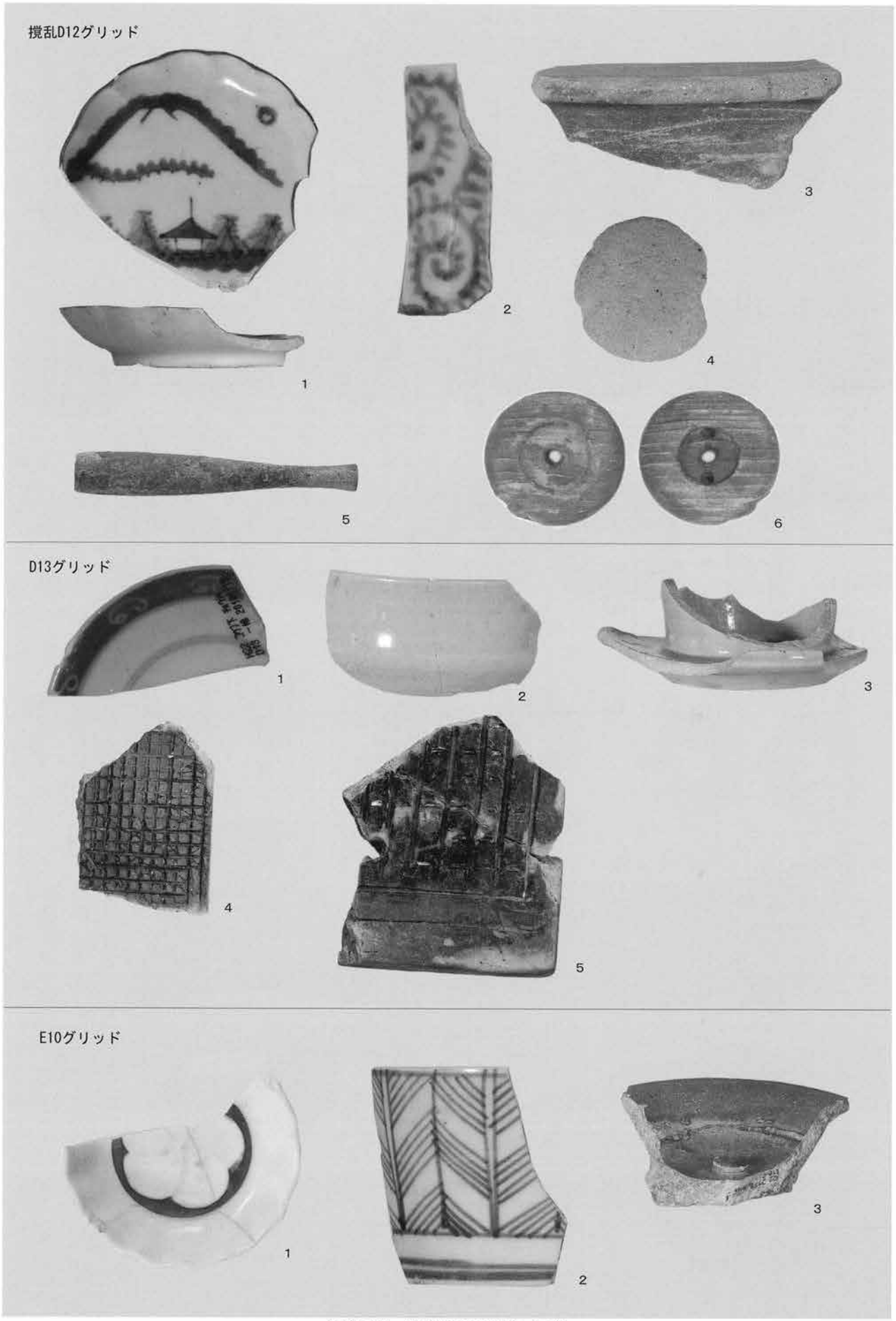


写真 165　遺構外出土遺物（9）

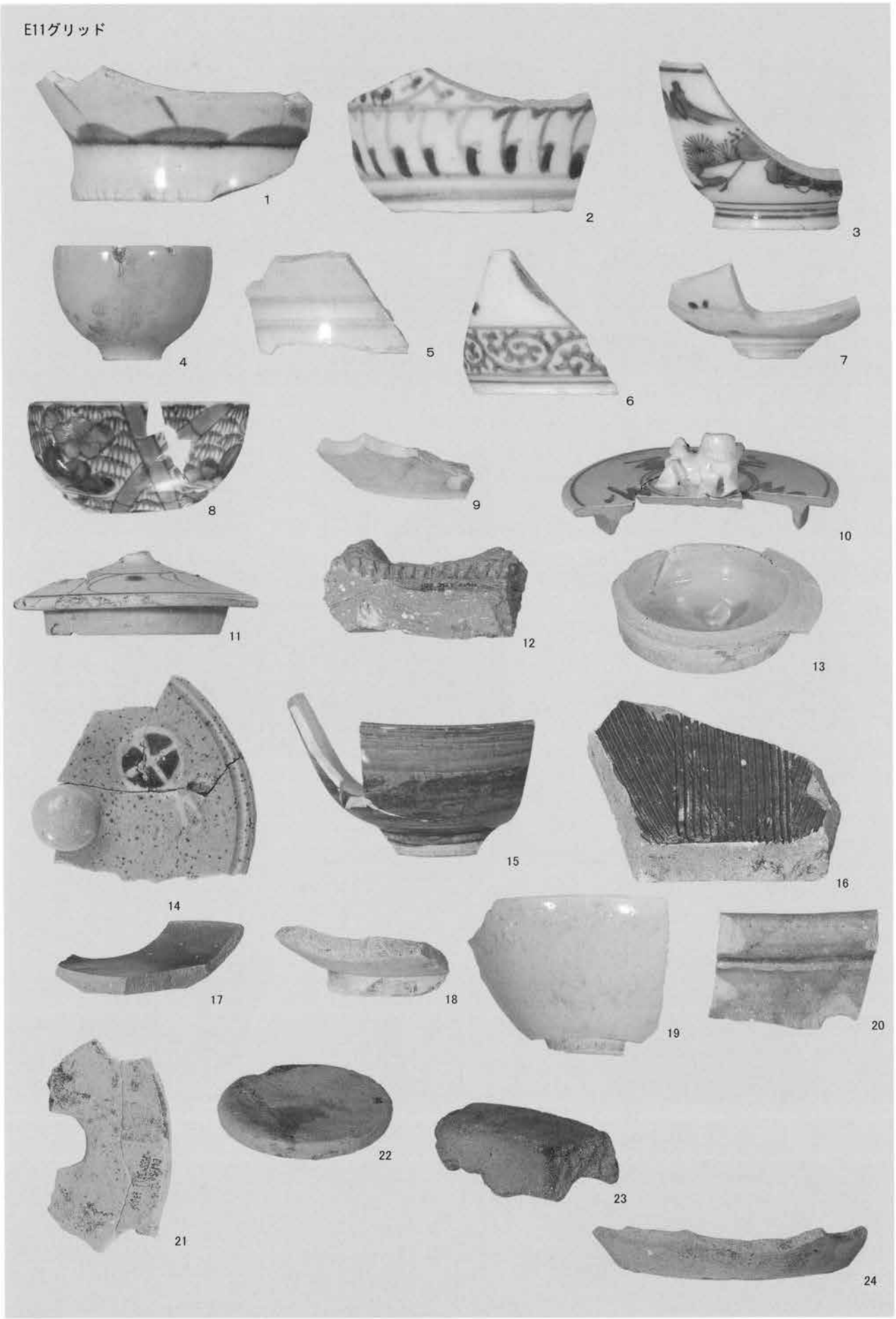


写真 166　遺構外出土遺物（10）

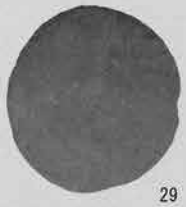
E11グリッド

25

26

27

28


29

30

31

32

33

34

35

36

37

撹乱E11グリッド

1

2

写真 167　遺構外出土遺物（11）

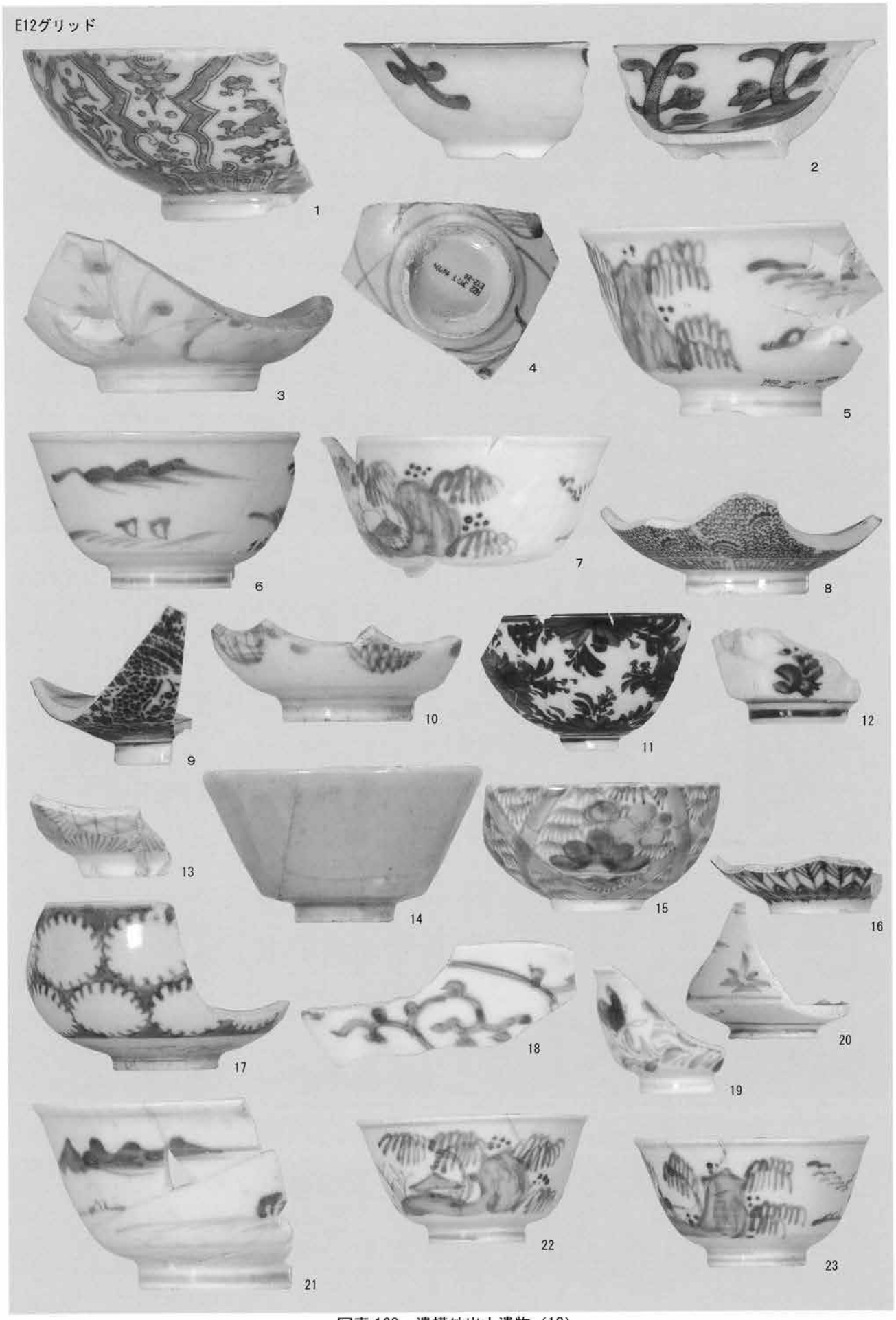


写真 168　遺構外出土遺物（12）

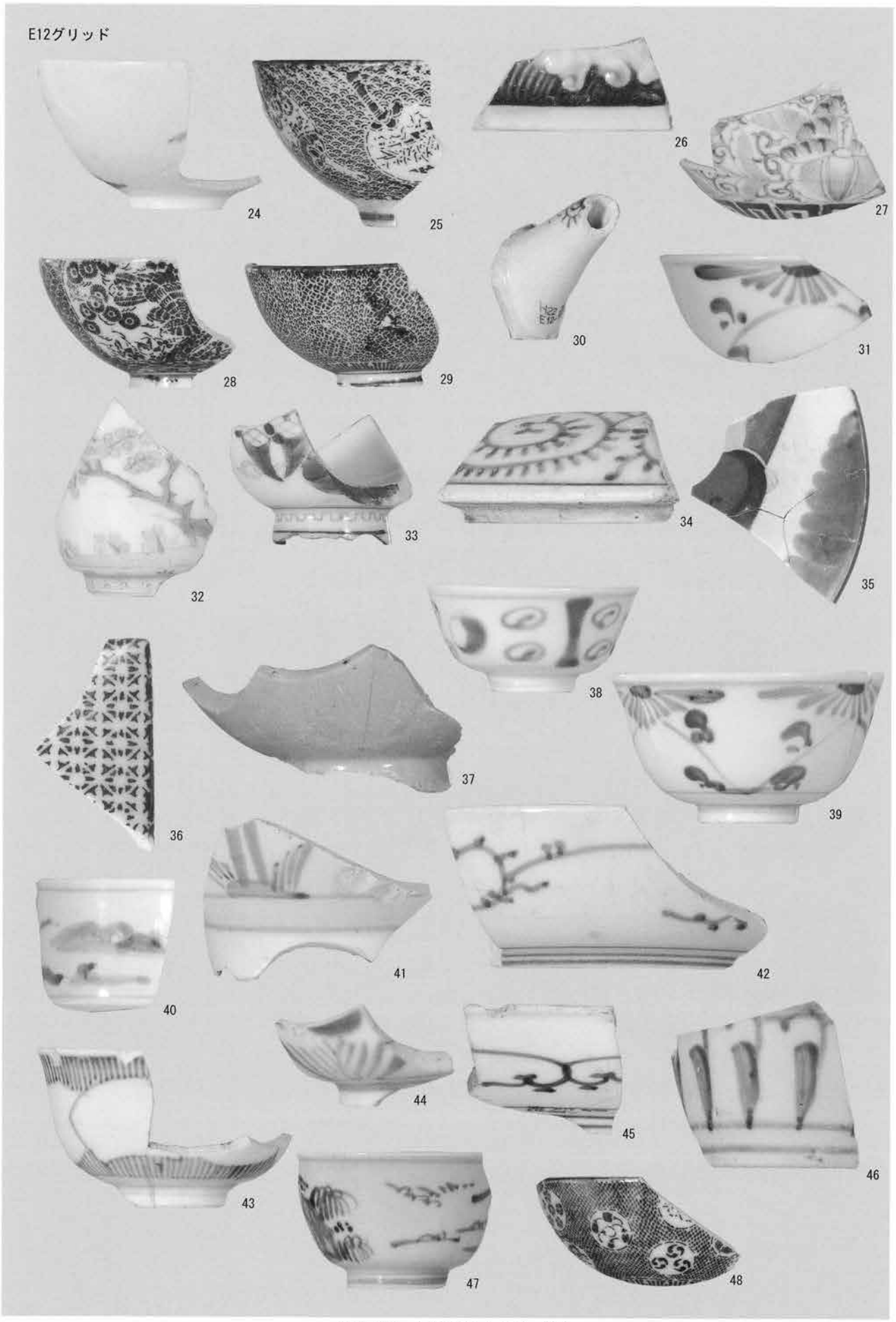


写真 169　遺構外出土遺物（13）

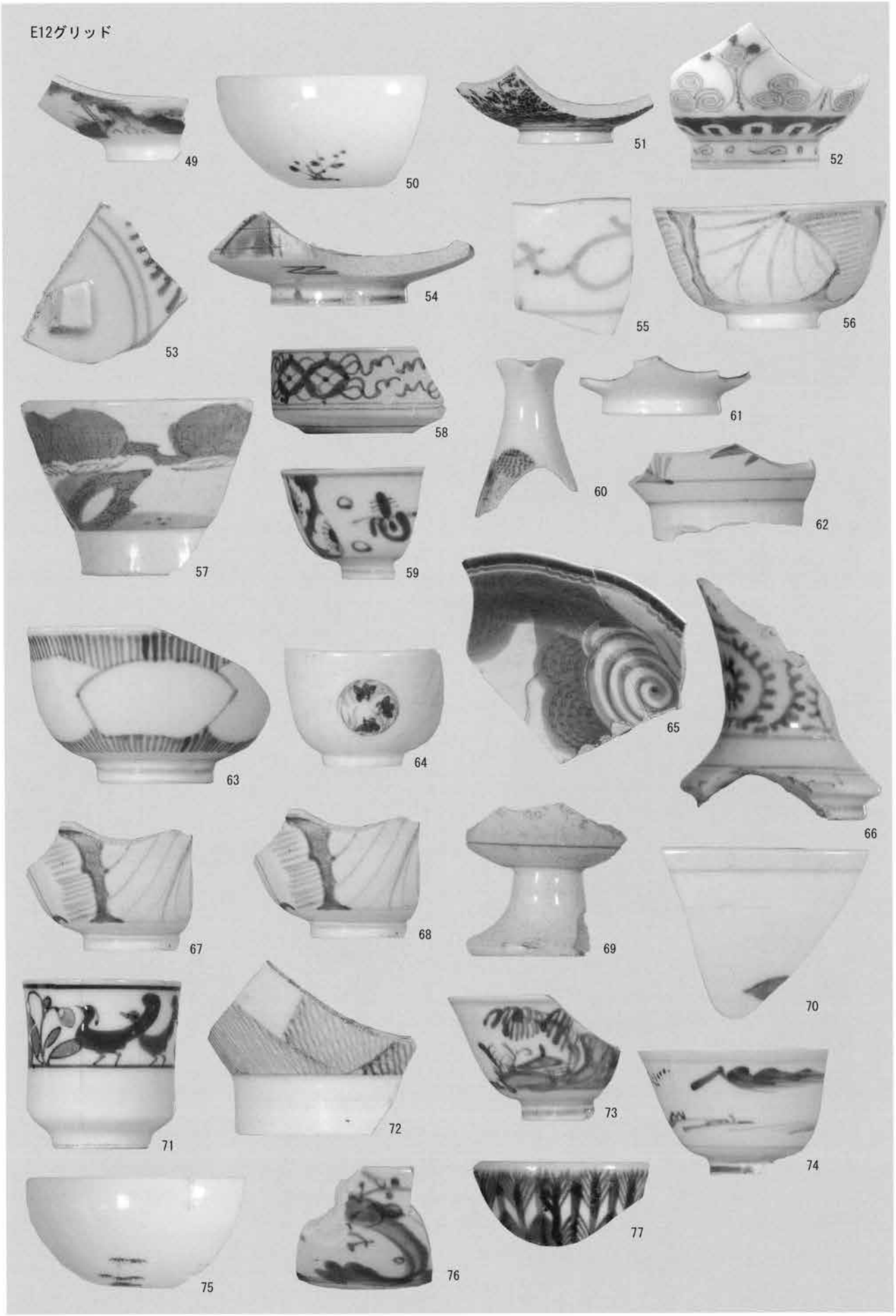


写真 170　遺構外出土遺物（14）

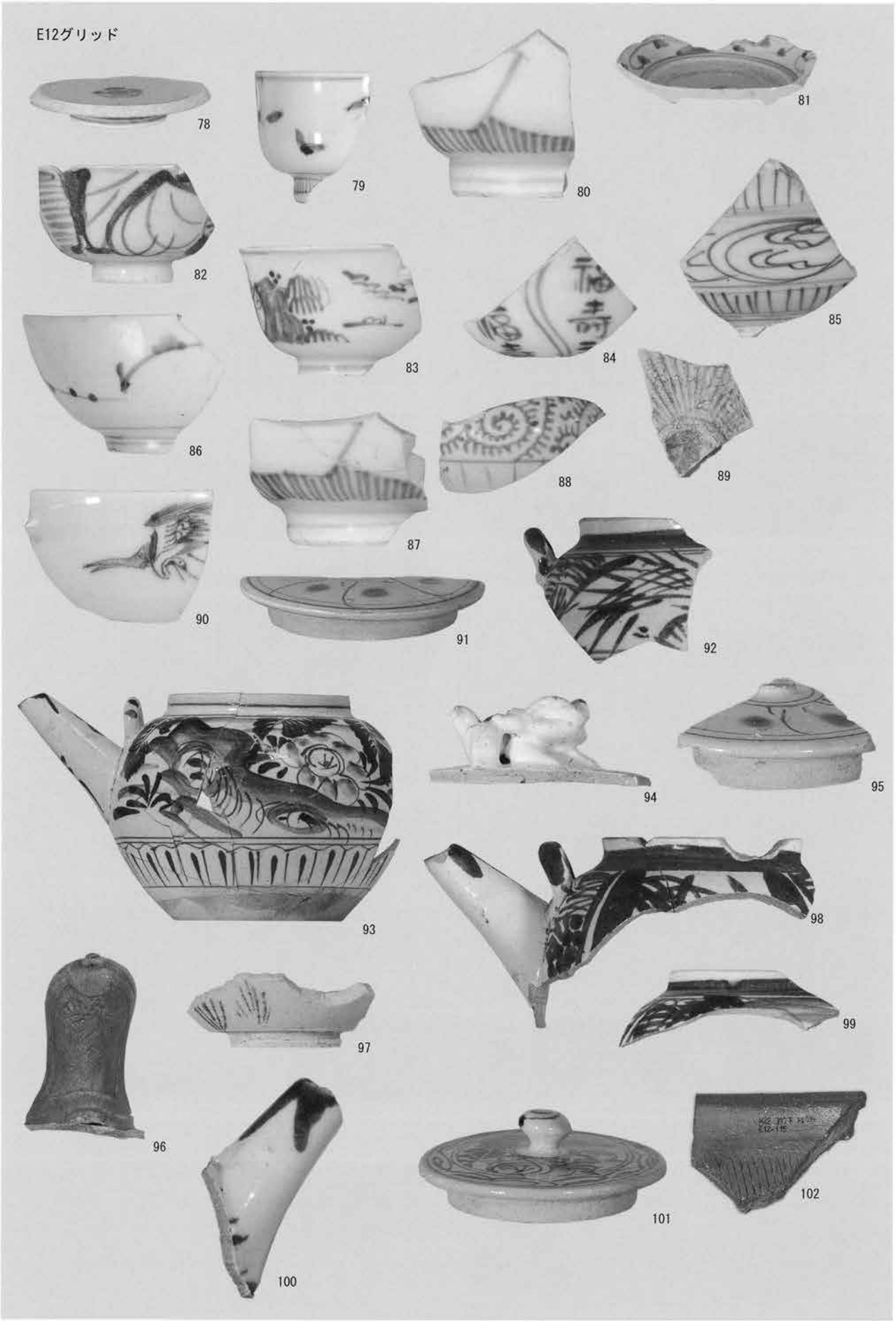


写真 171　遺構外出土遺物（15）

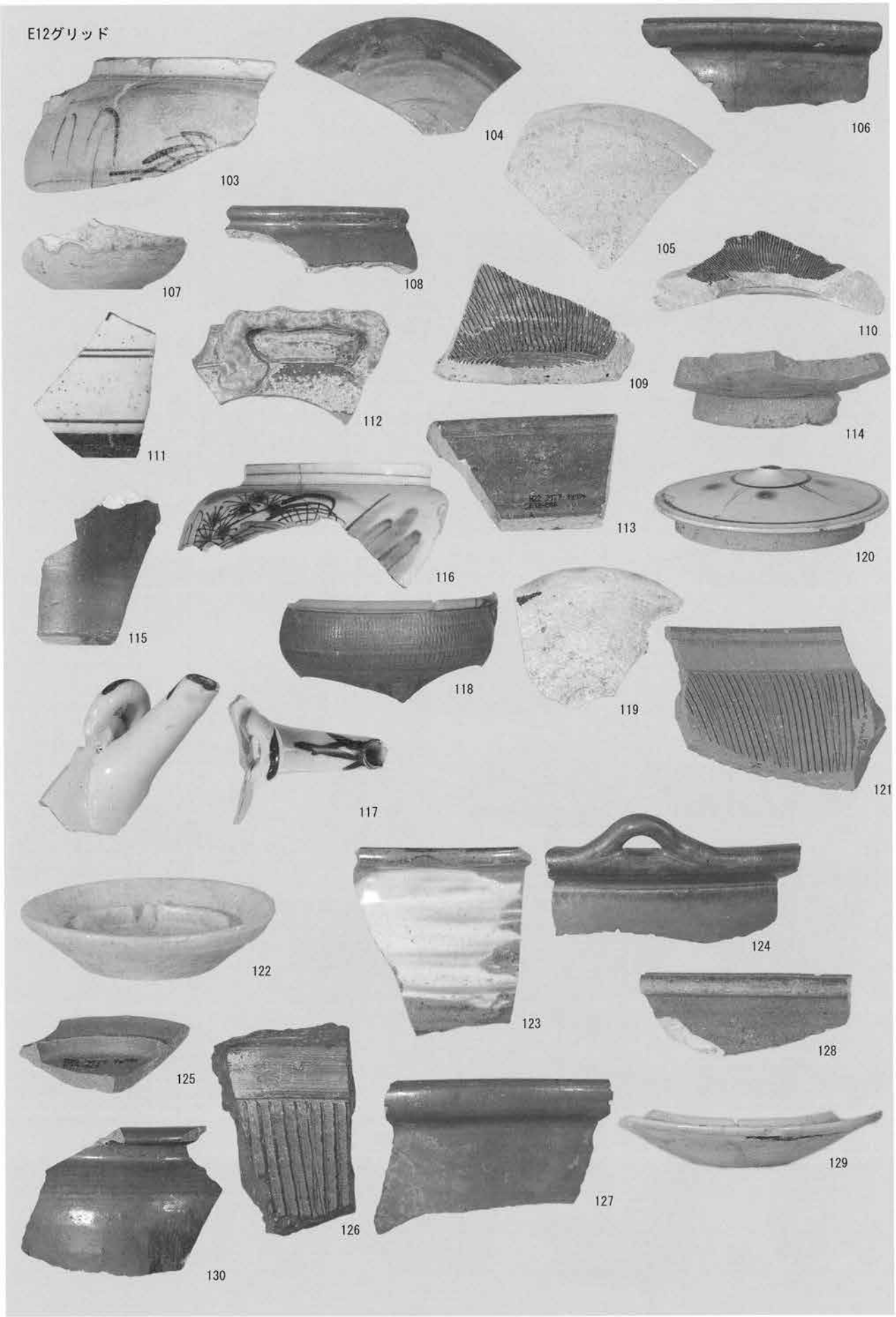


写真 172　遺構外出土遺物（16）

写真 173　遺構外出土遺物（17）

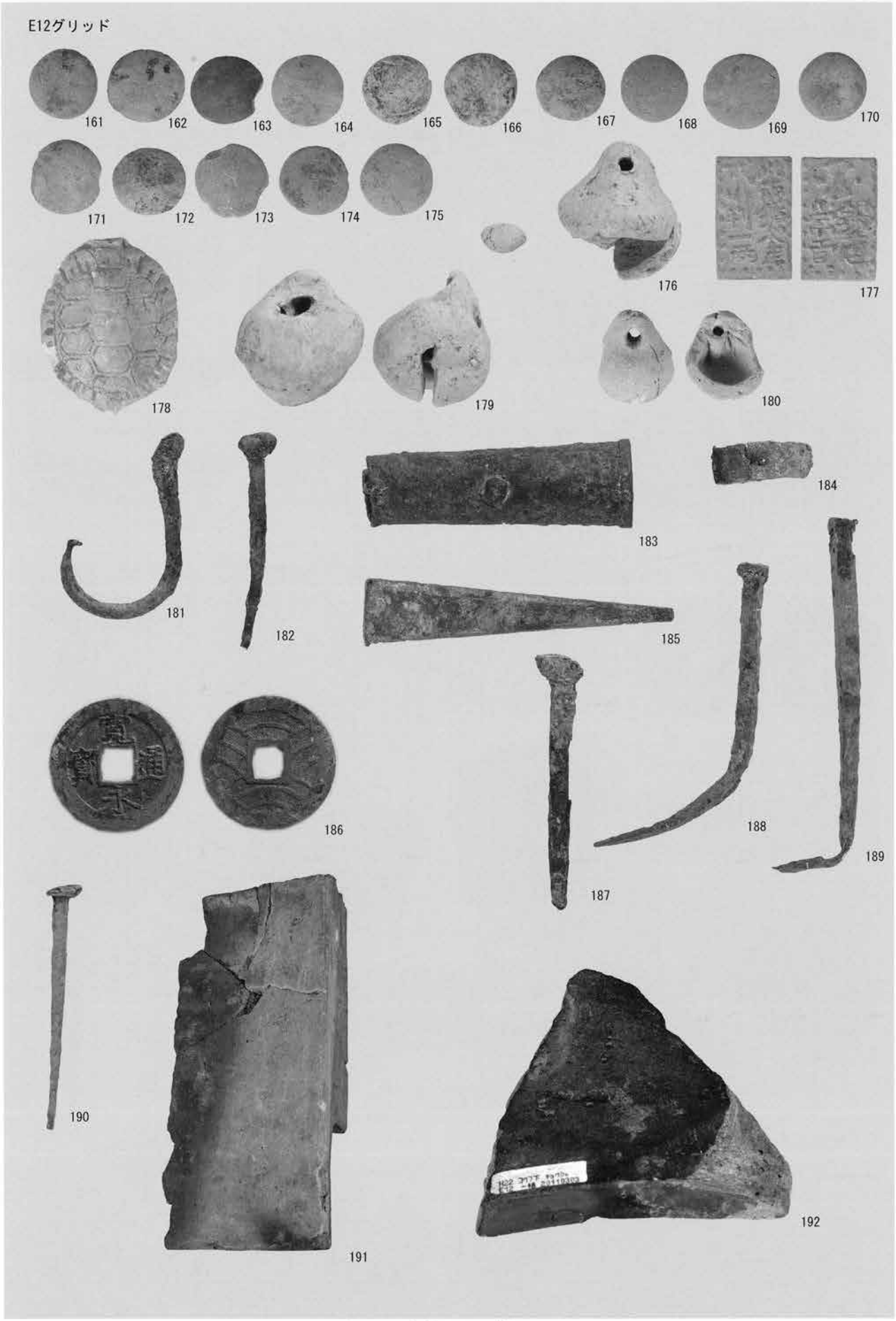


写真 174　遺構外出土遺物（18）

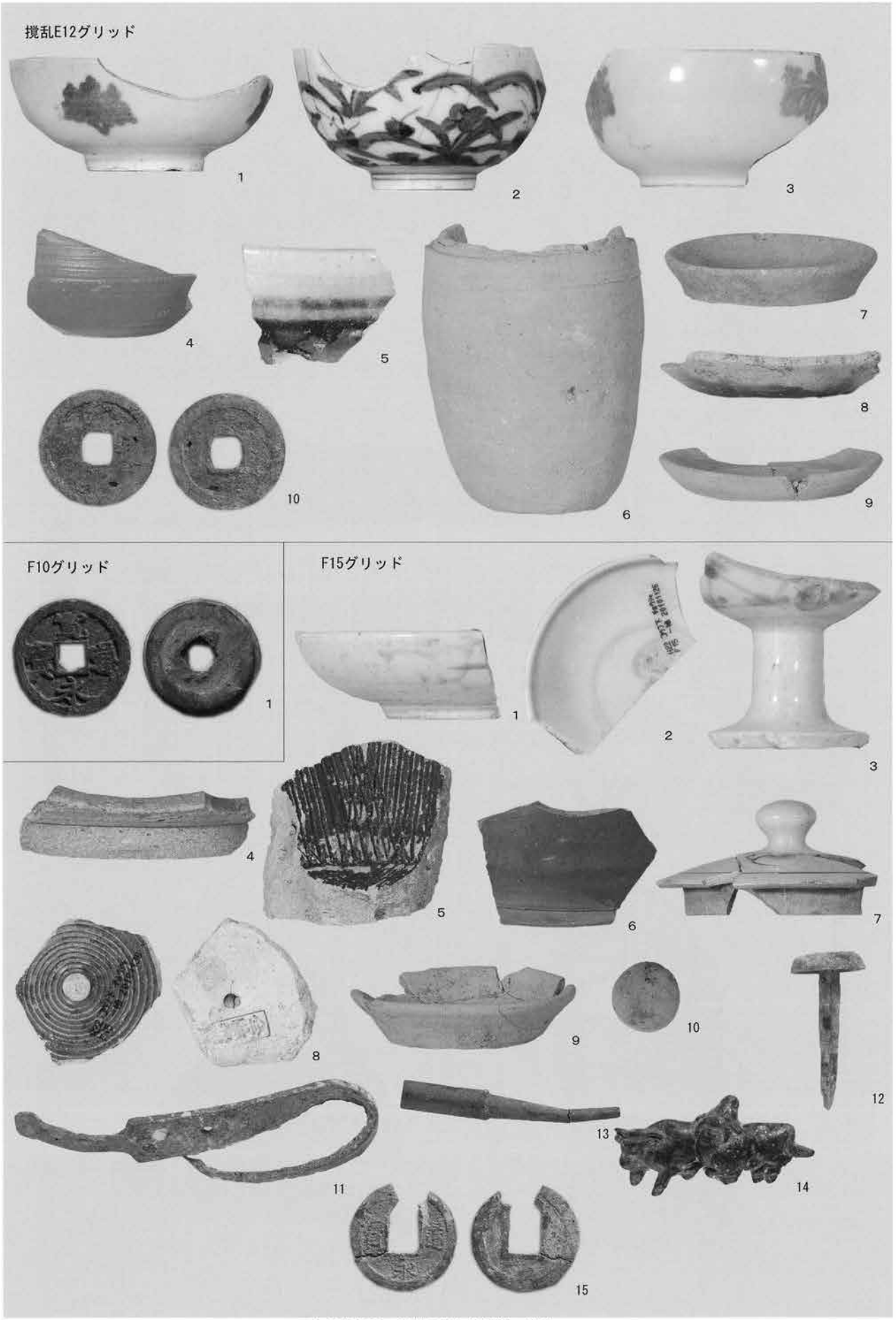


写真 175　遺構外出土遺物（19）

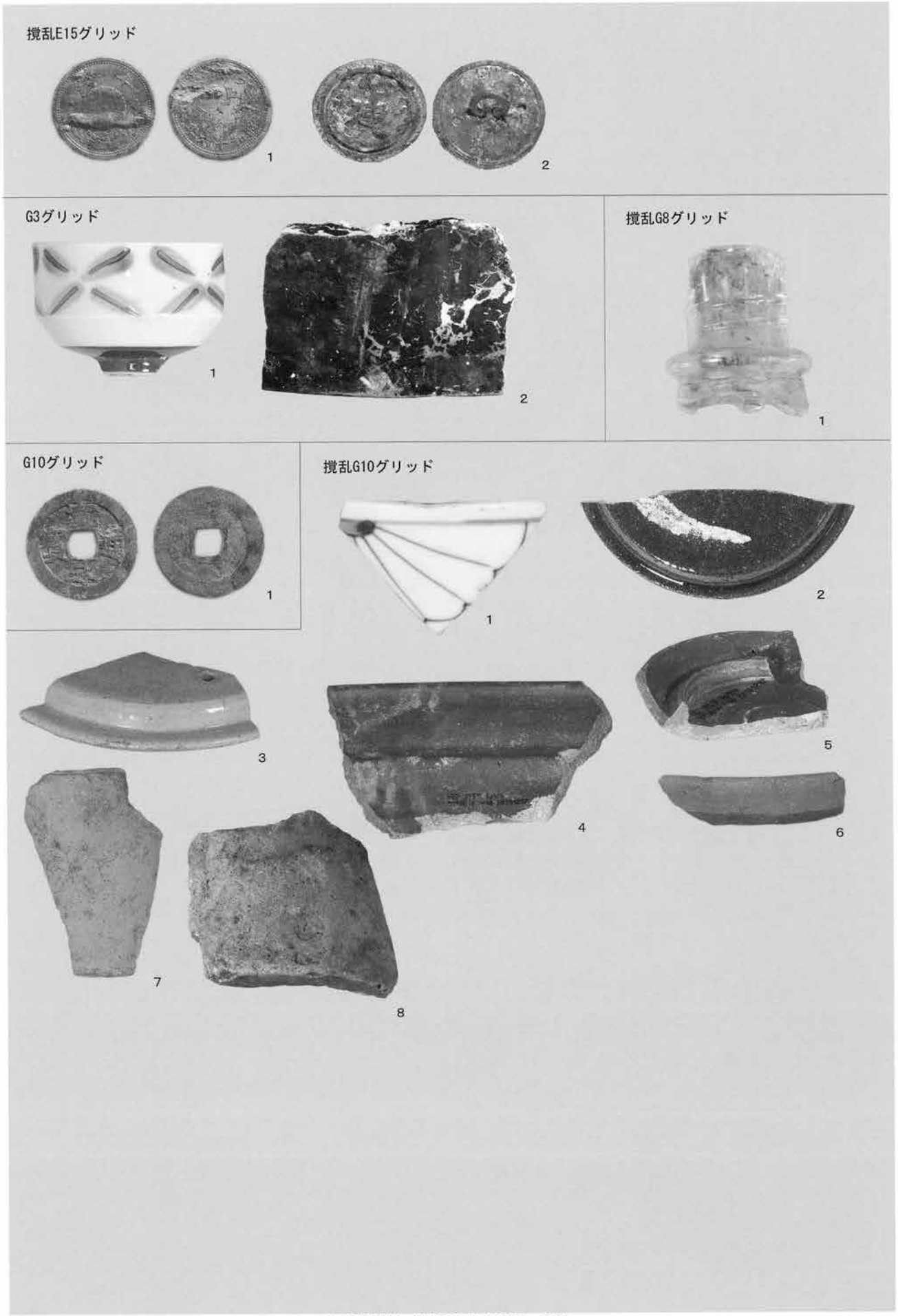


写真 176　遺構外出土遺物（20）

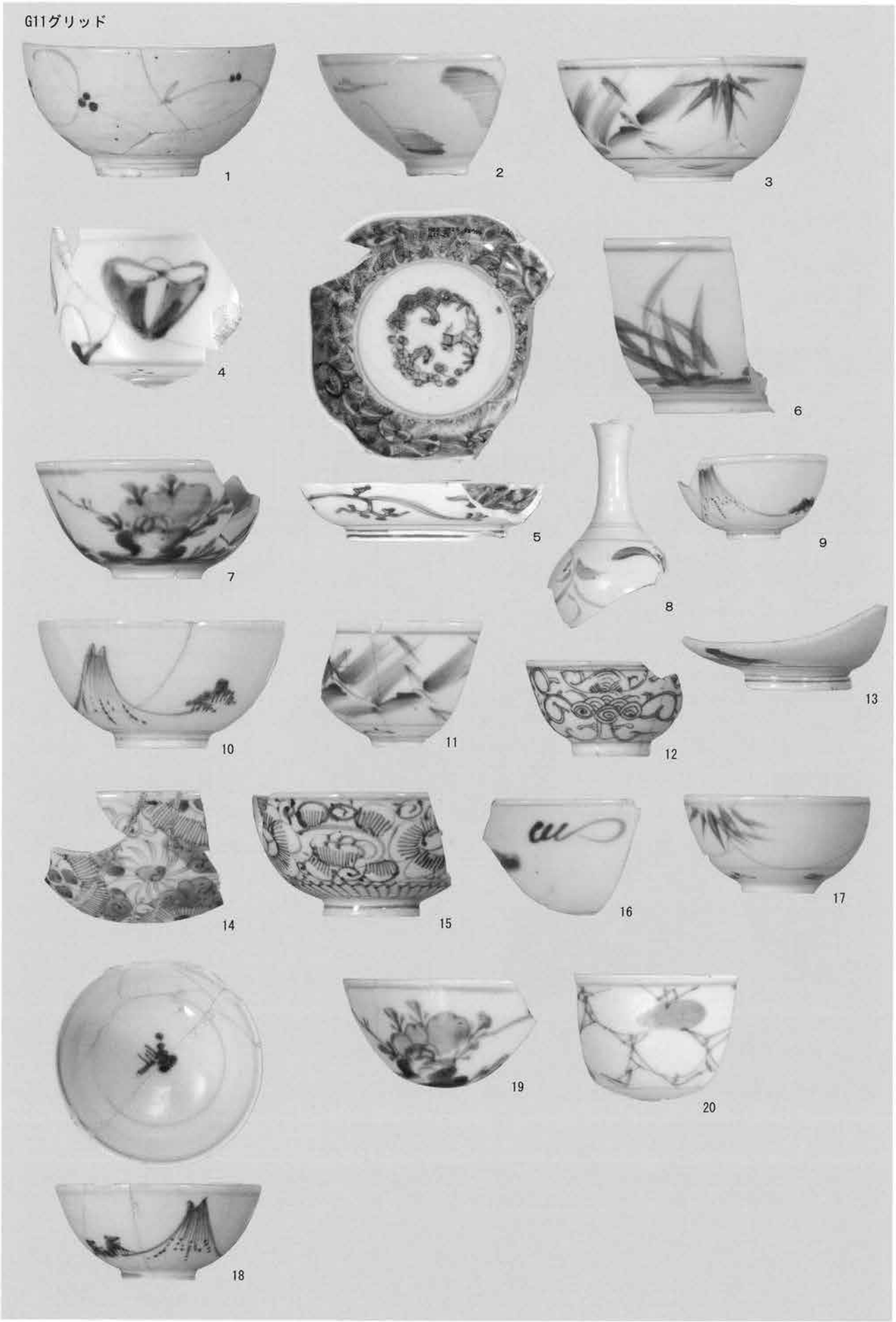


写真 177　遺構外出土遺物（21）

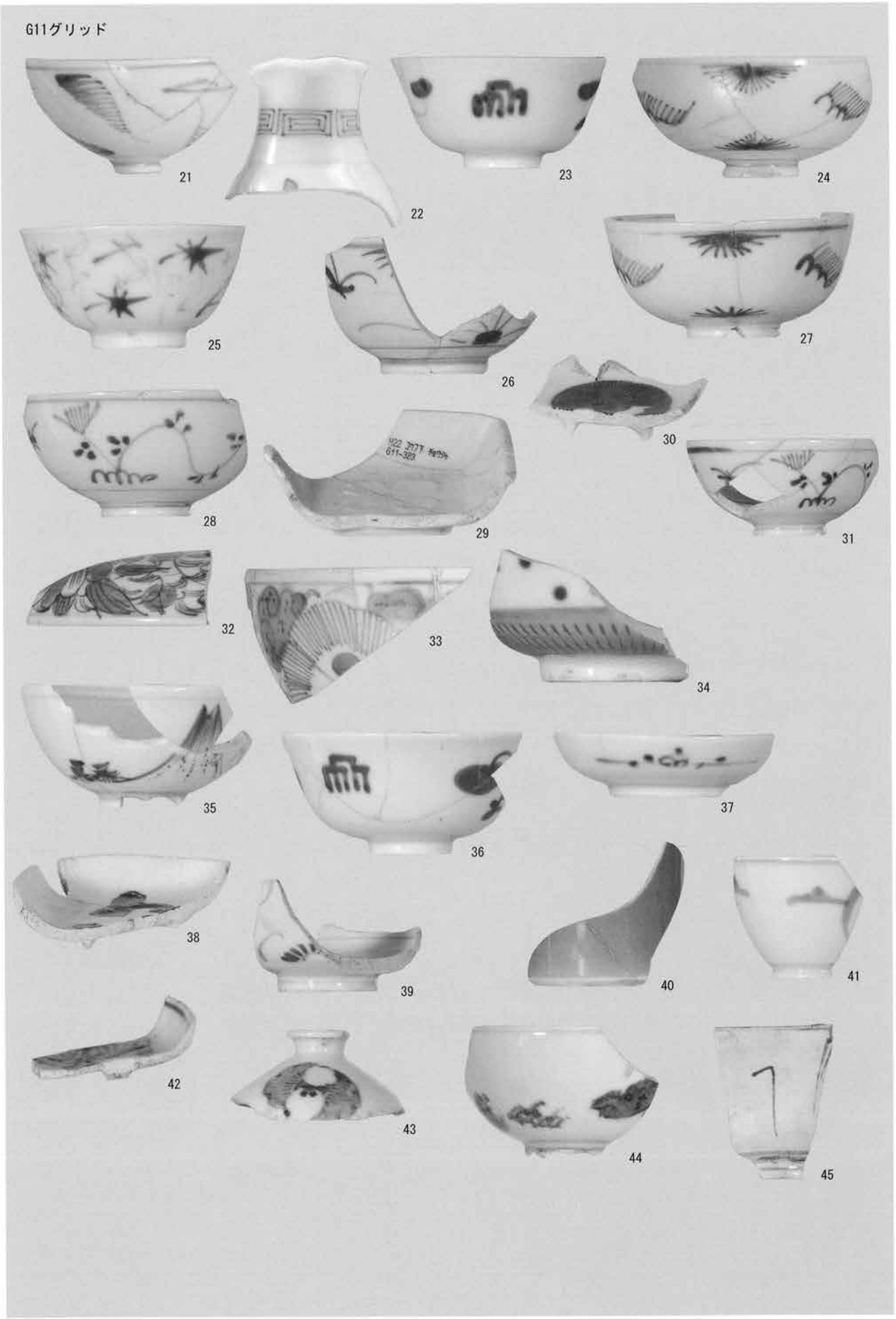


写真 178　遺構外出土遺物（22）

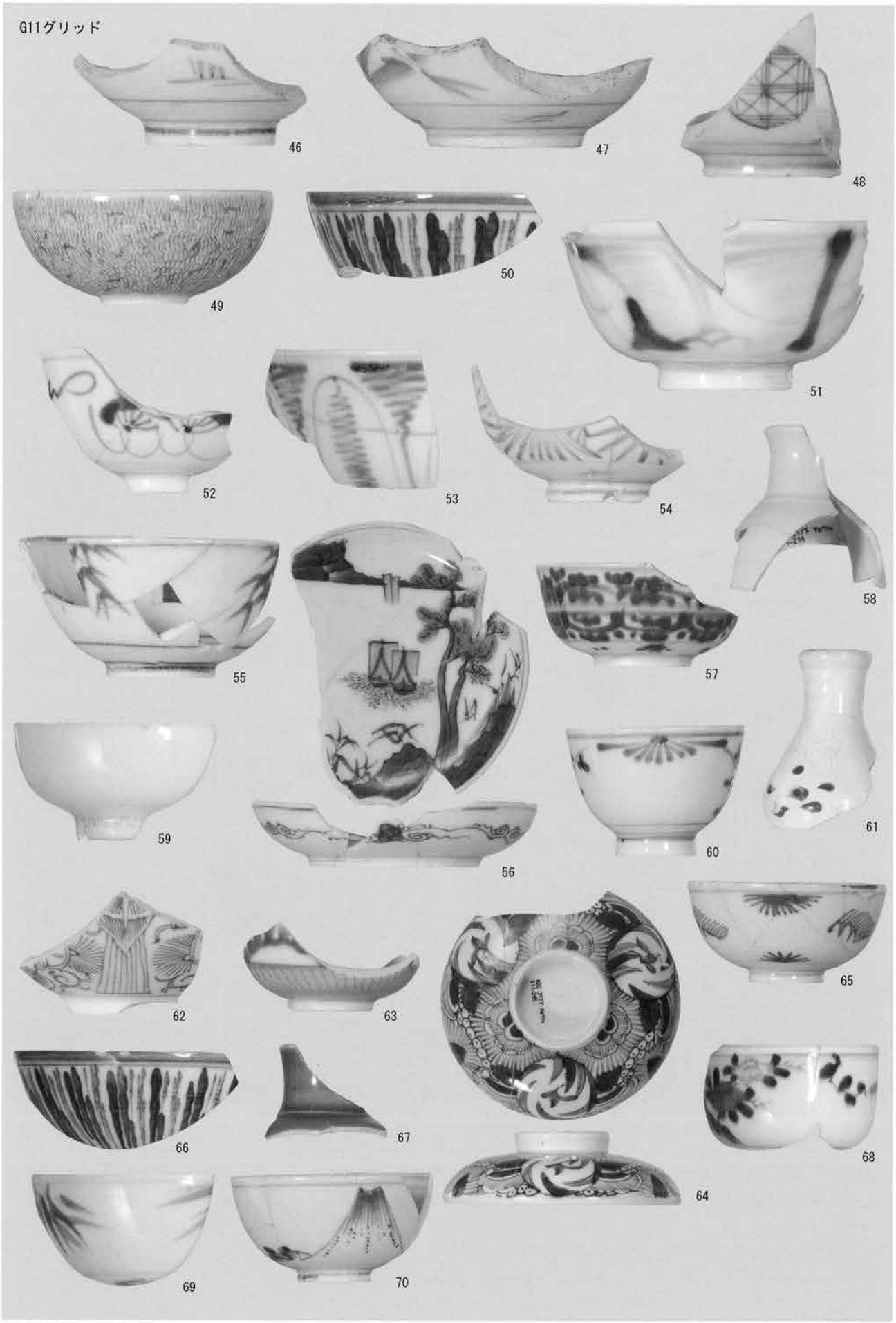


写真 179　遺構外出土遺物（23）

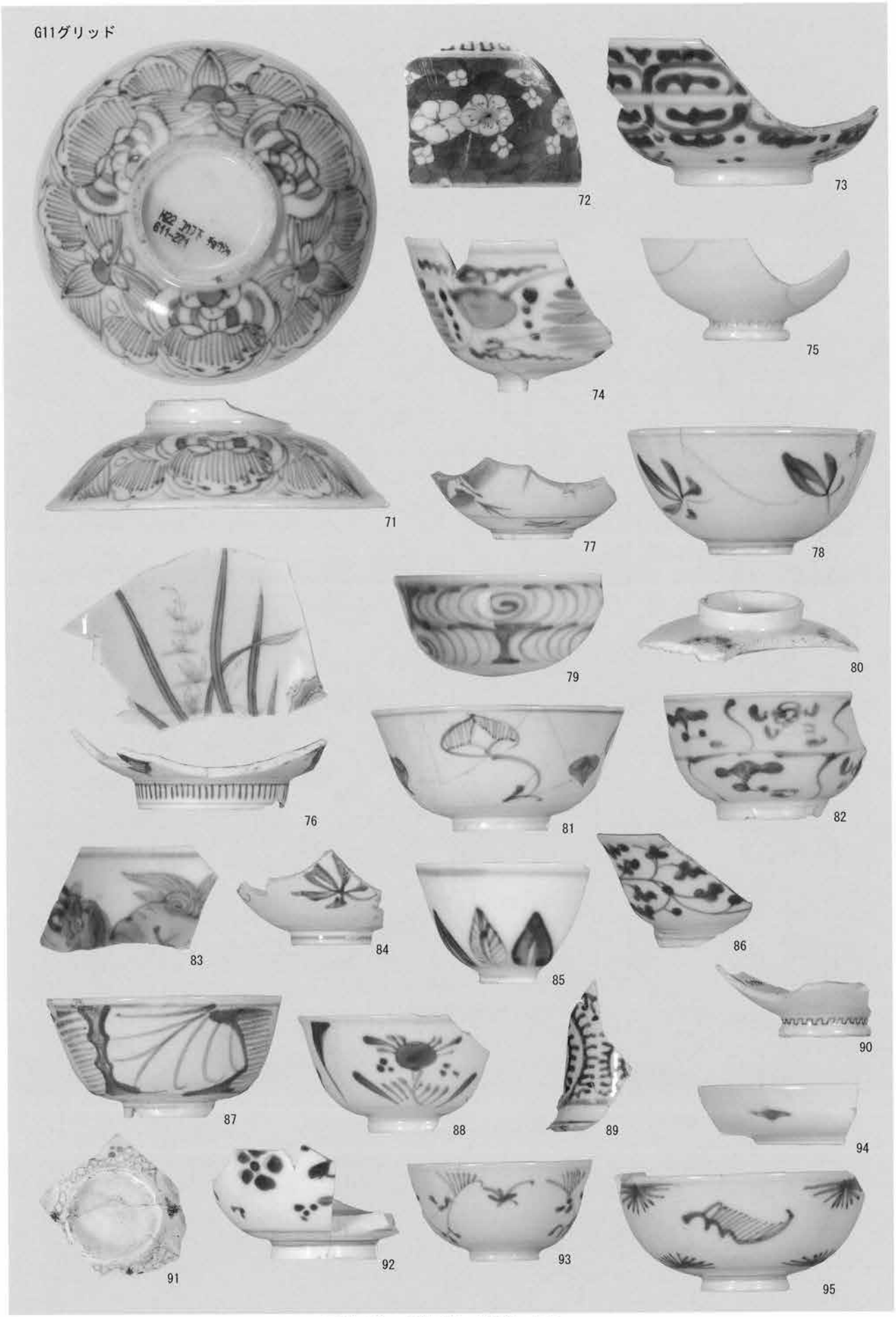


写真 180　遺構外出土遺物（24）

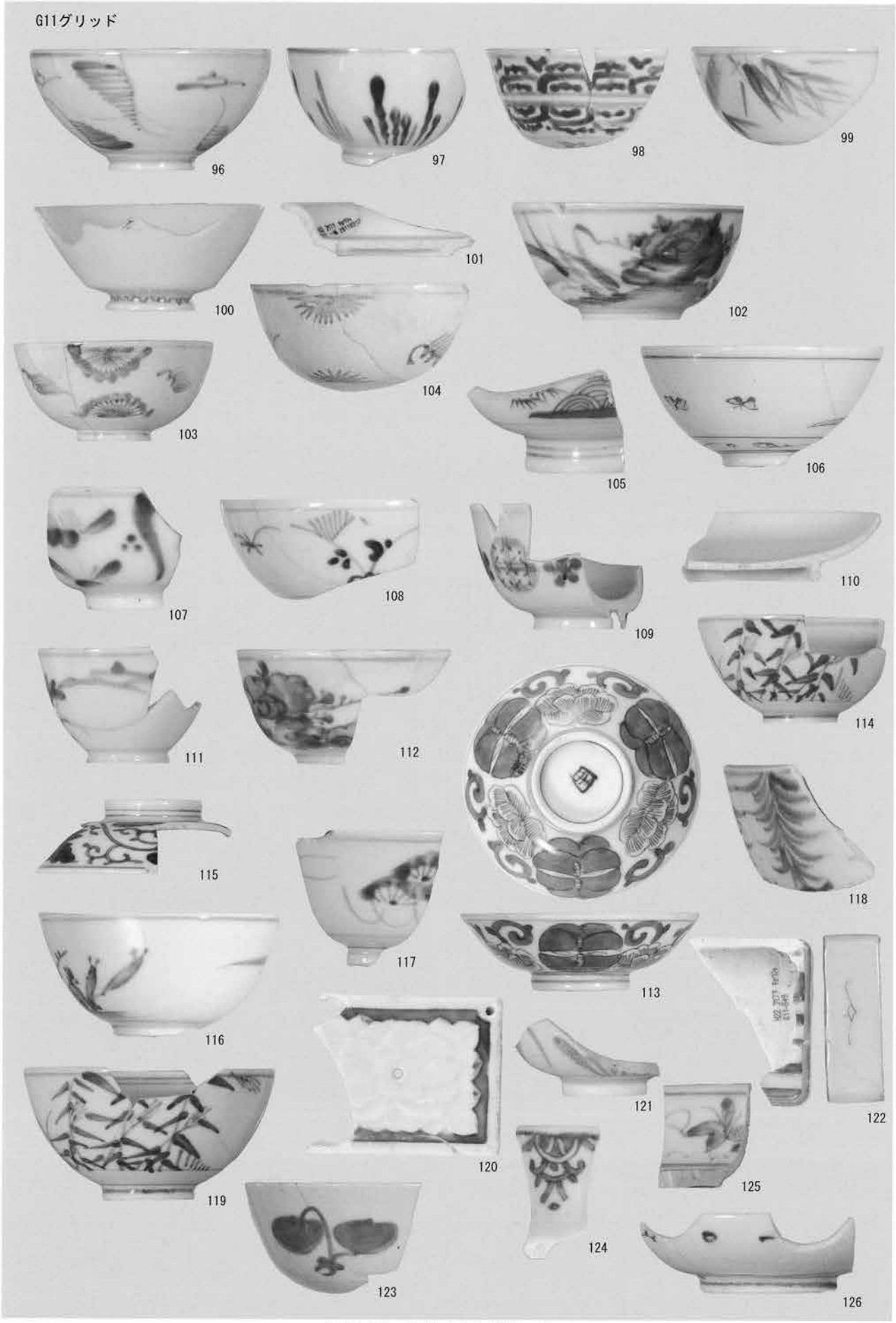


写真 181　遺構外出土遺物（25）

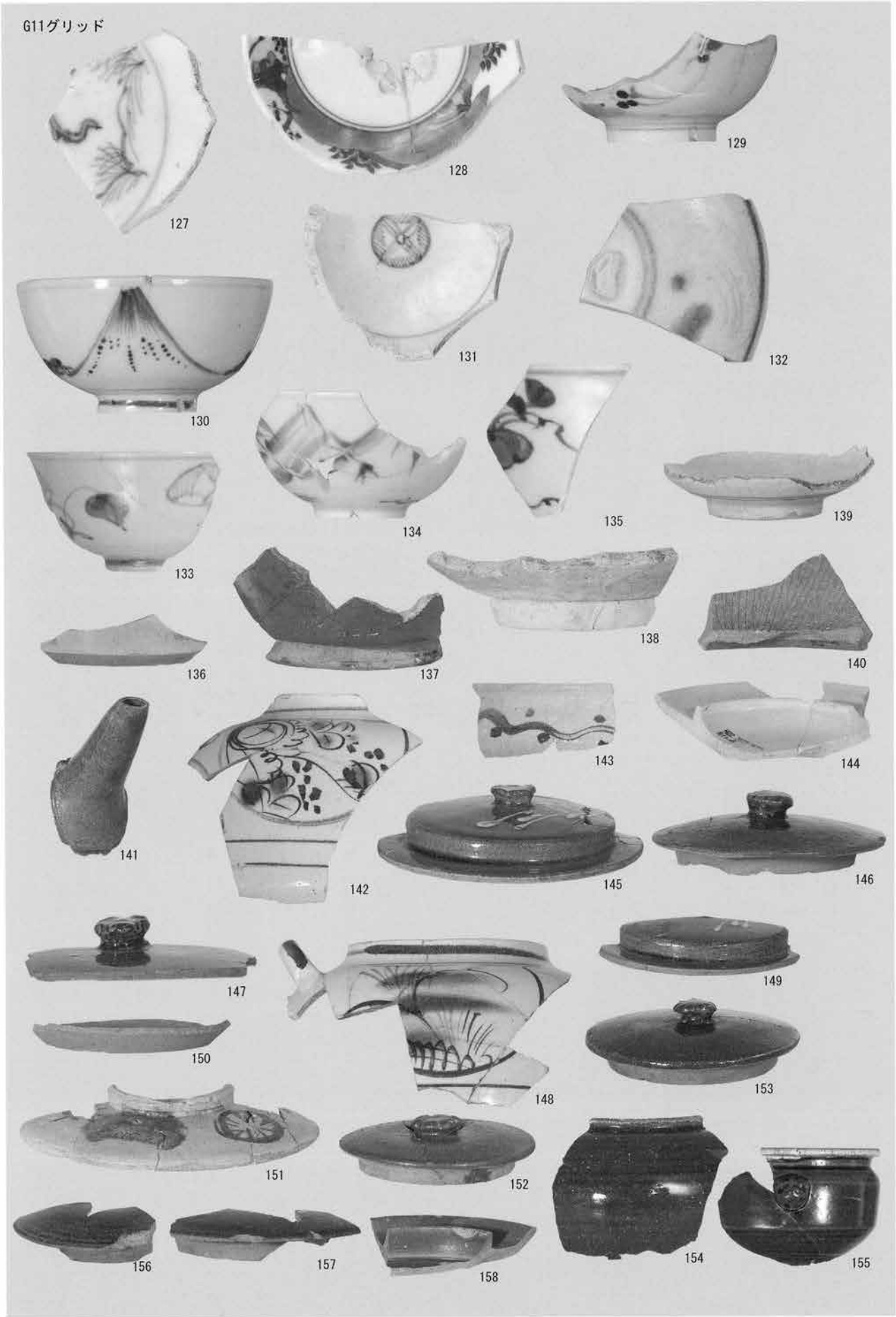


写真 182　遺構外出土遺物（26）

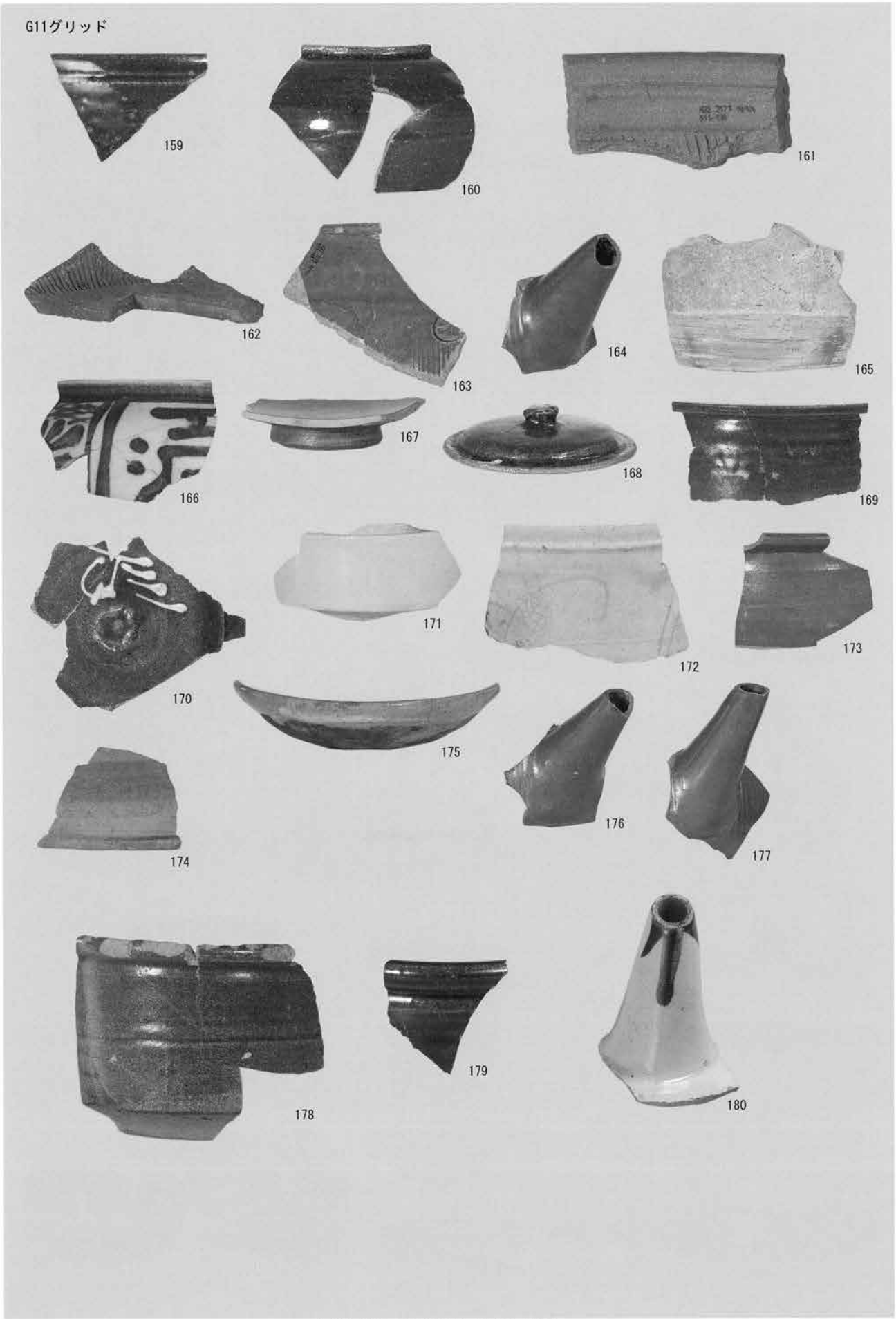


写真 183　遺構外出土遺物（27）

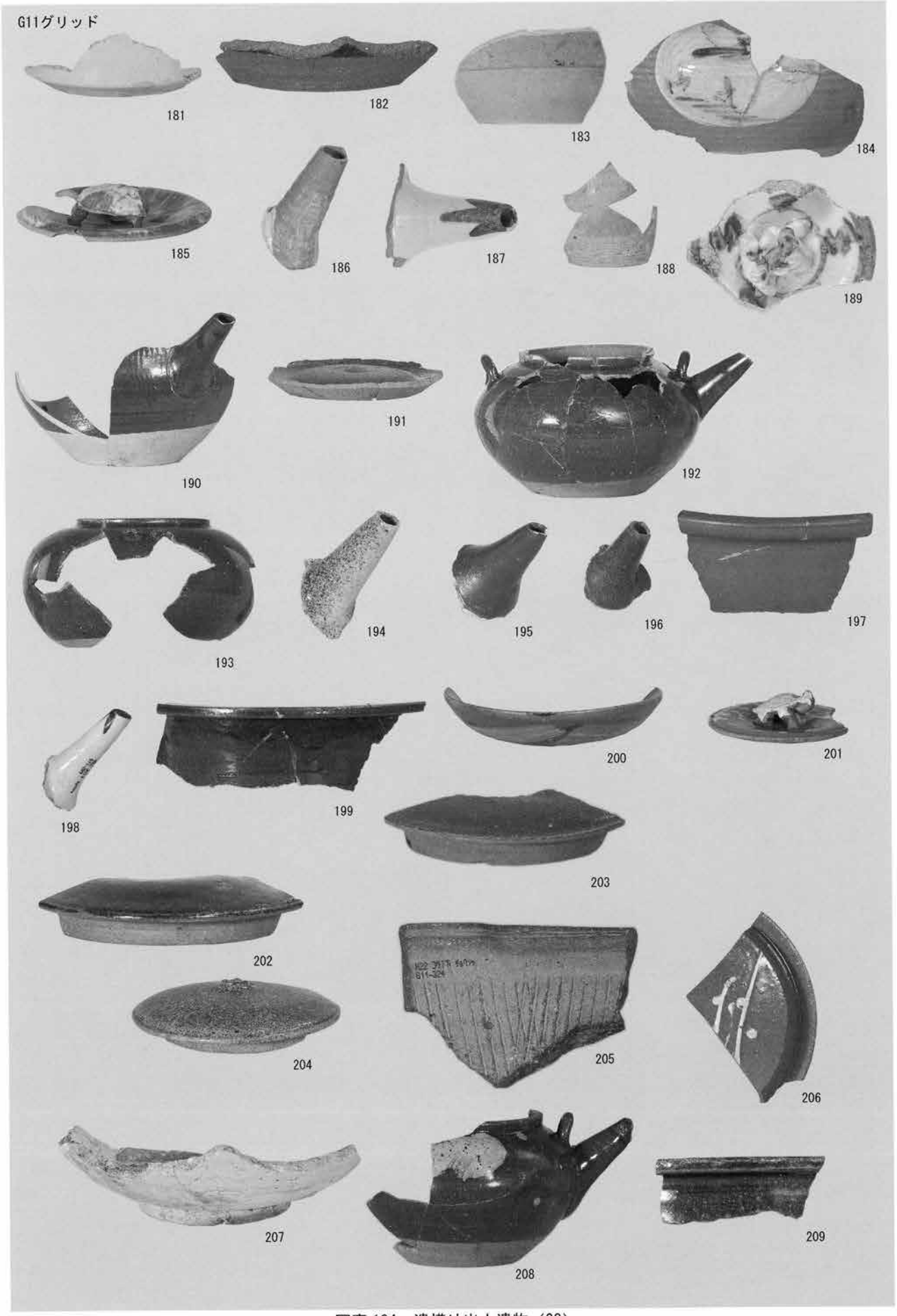


写真 184　遺構外出土遺物（28）

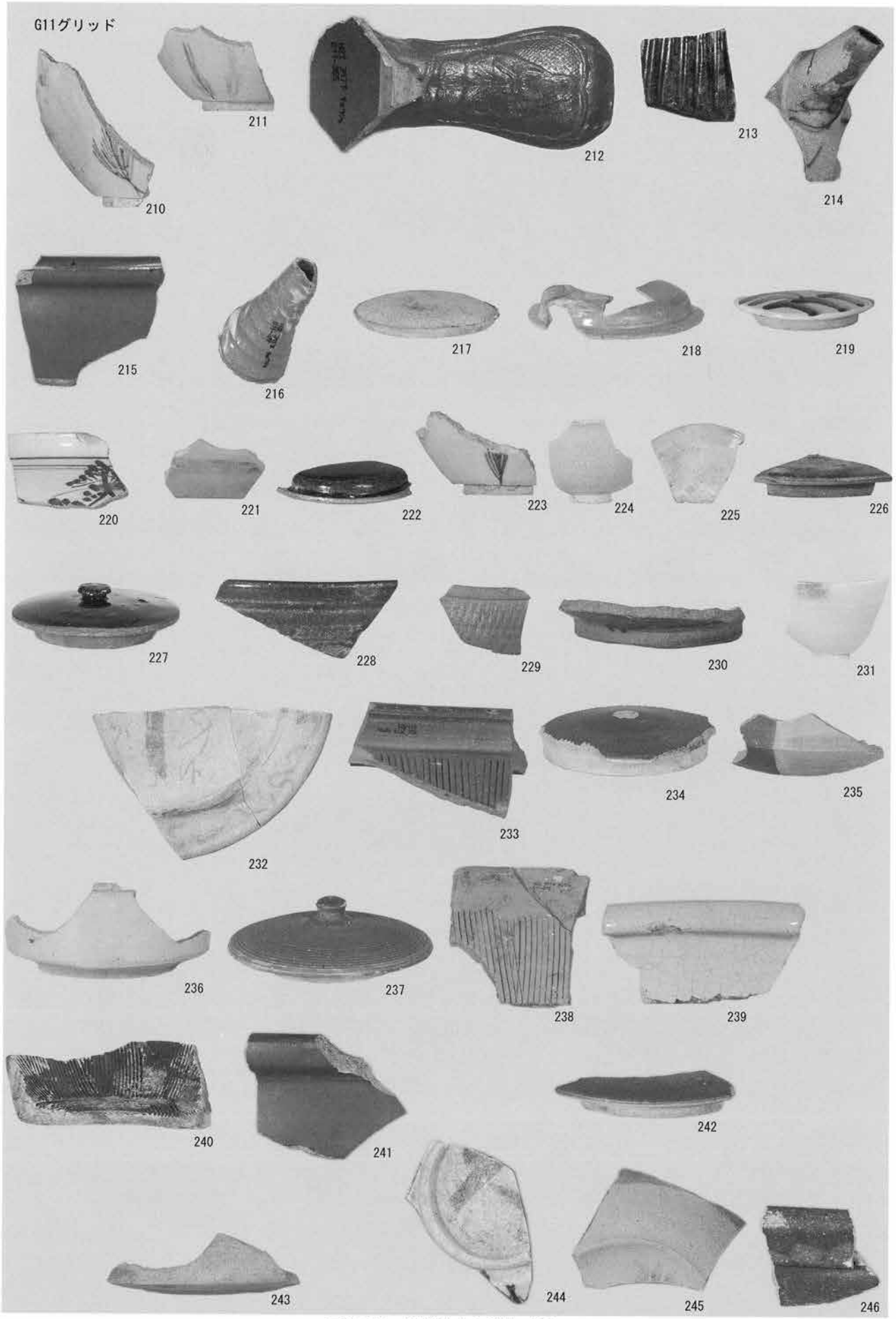


写真 185　遺構外出土遺物（29）

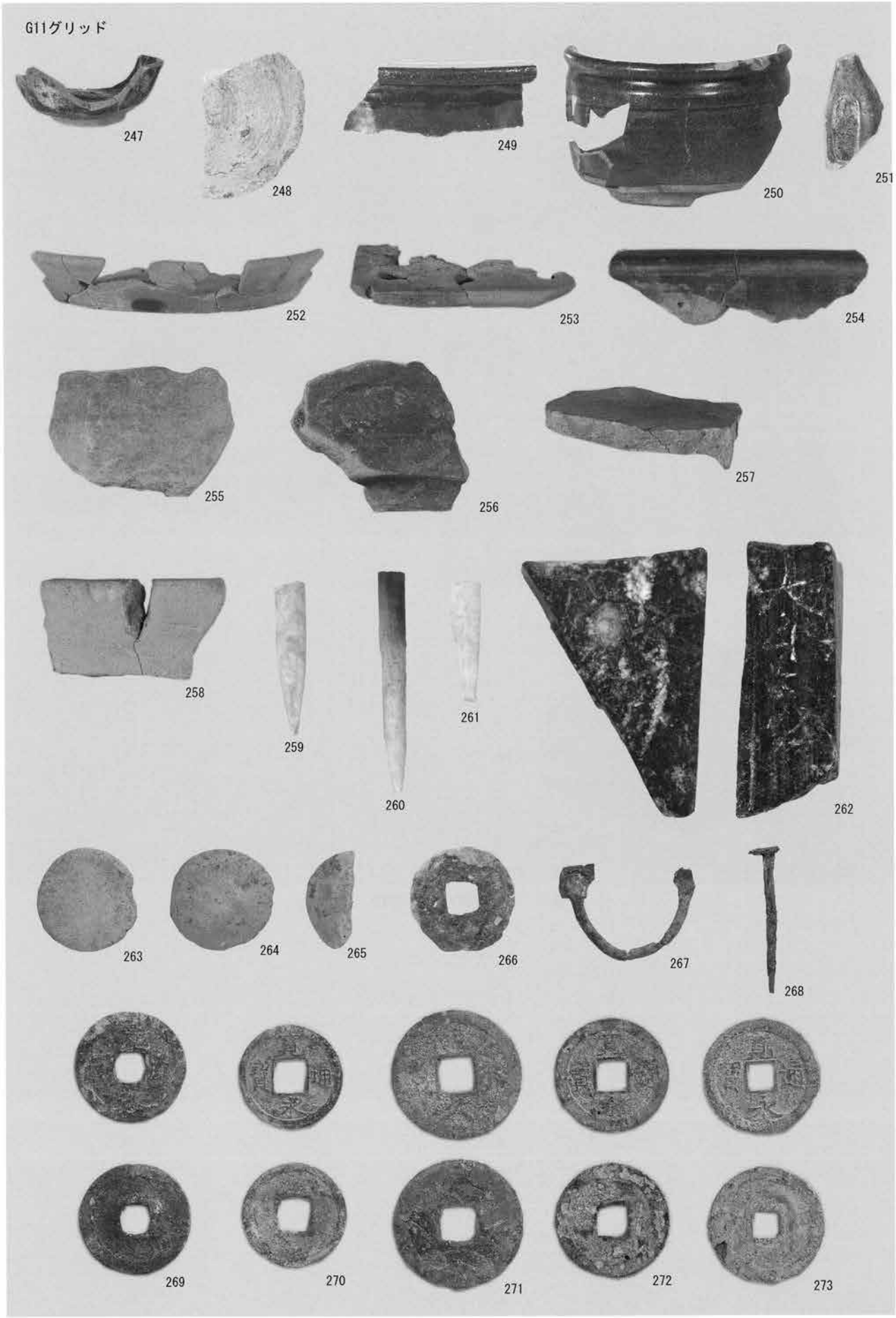


写真 186　遺構外出土遺物（30）

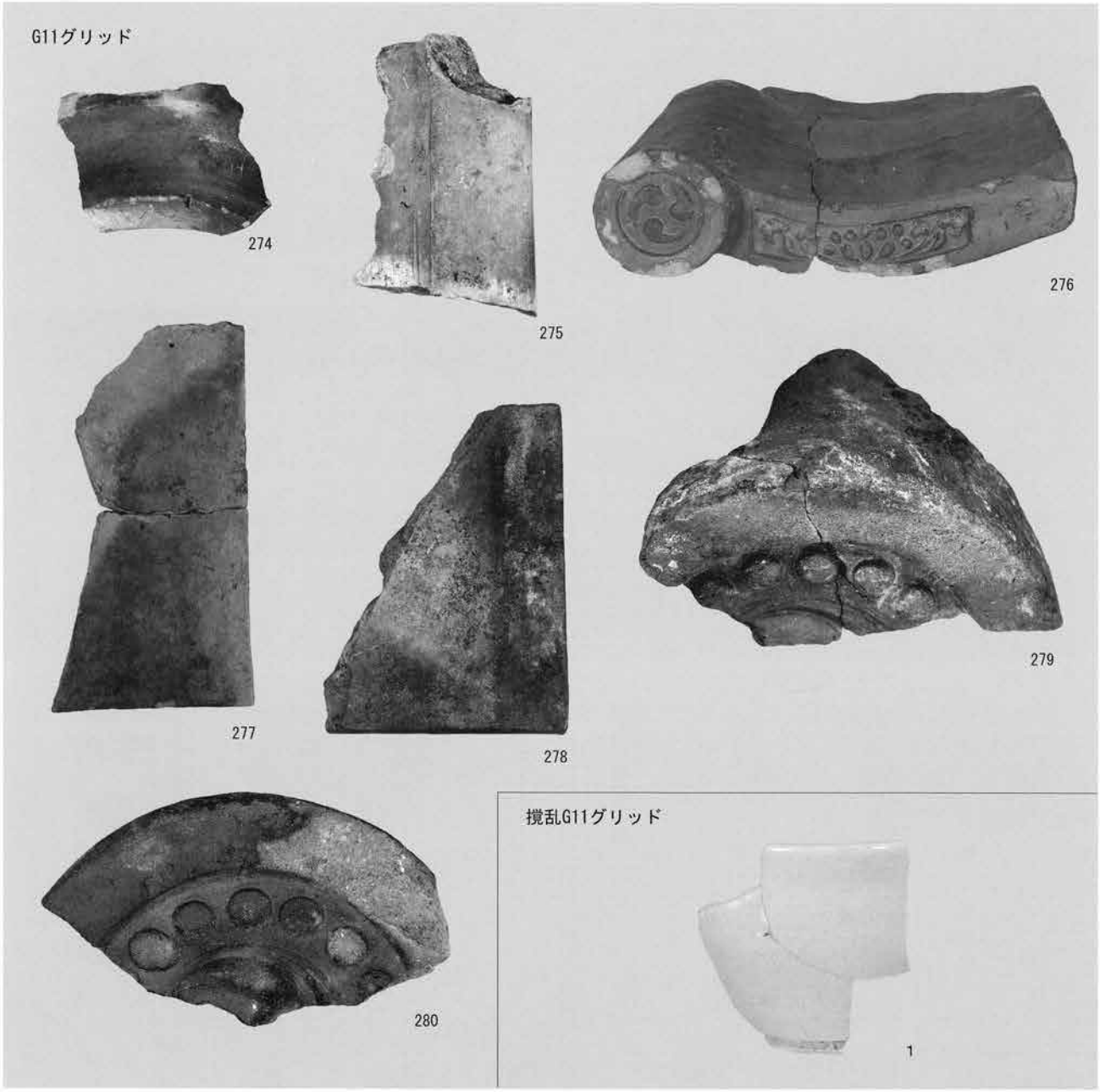


写真 187　遺構外出土遺物（31）

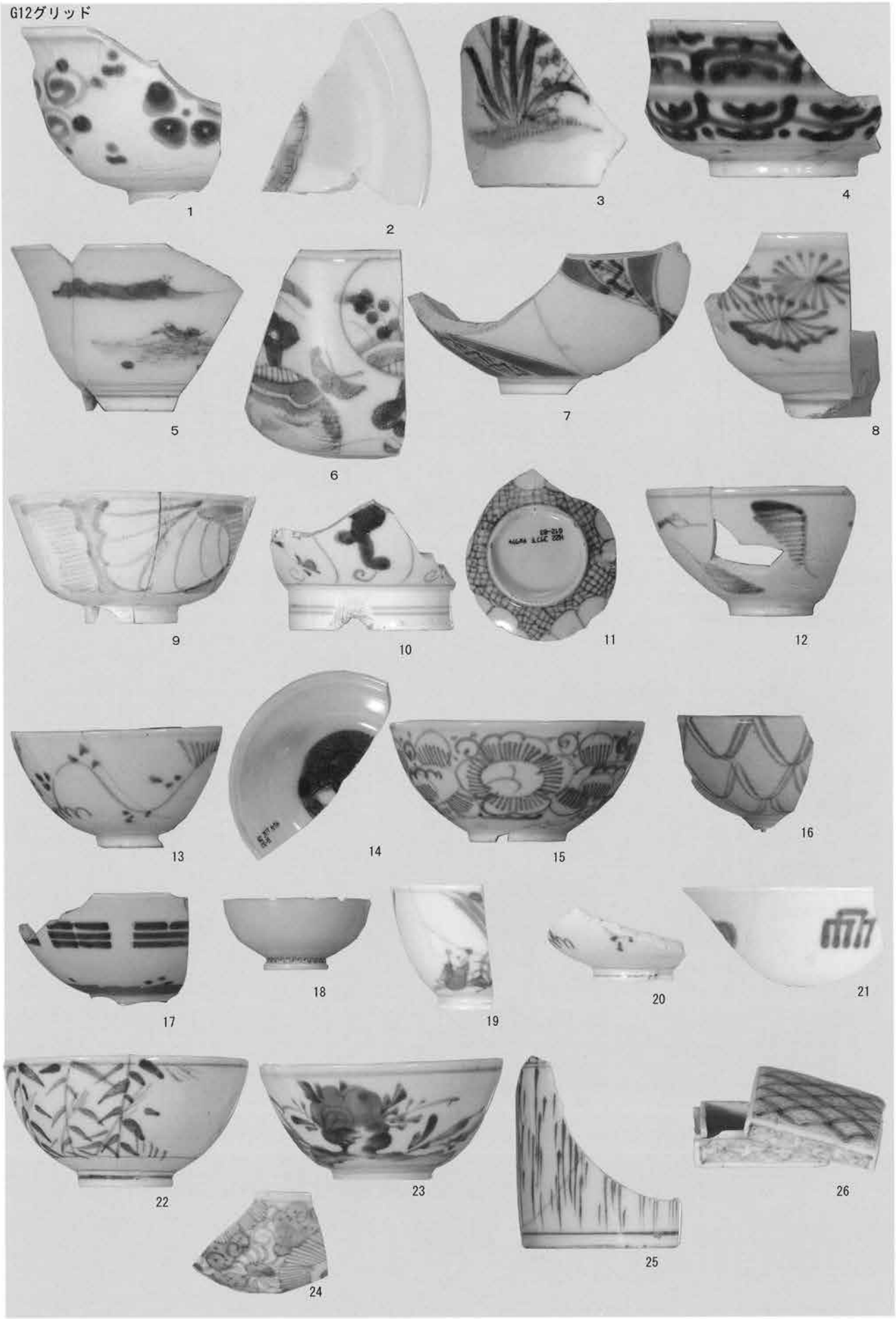


写真 188　遺構外出土遺物（32）

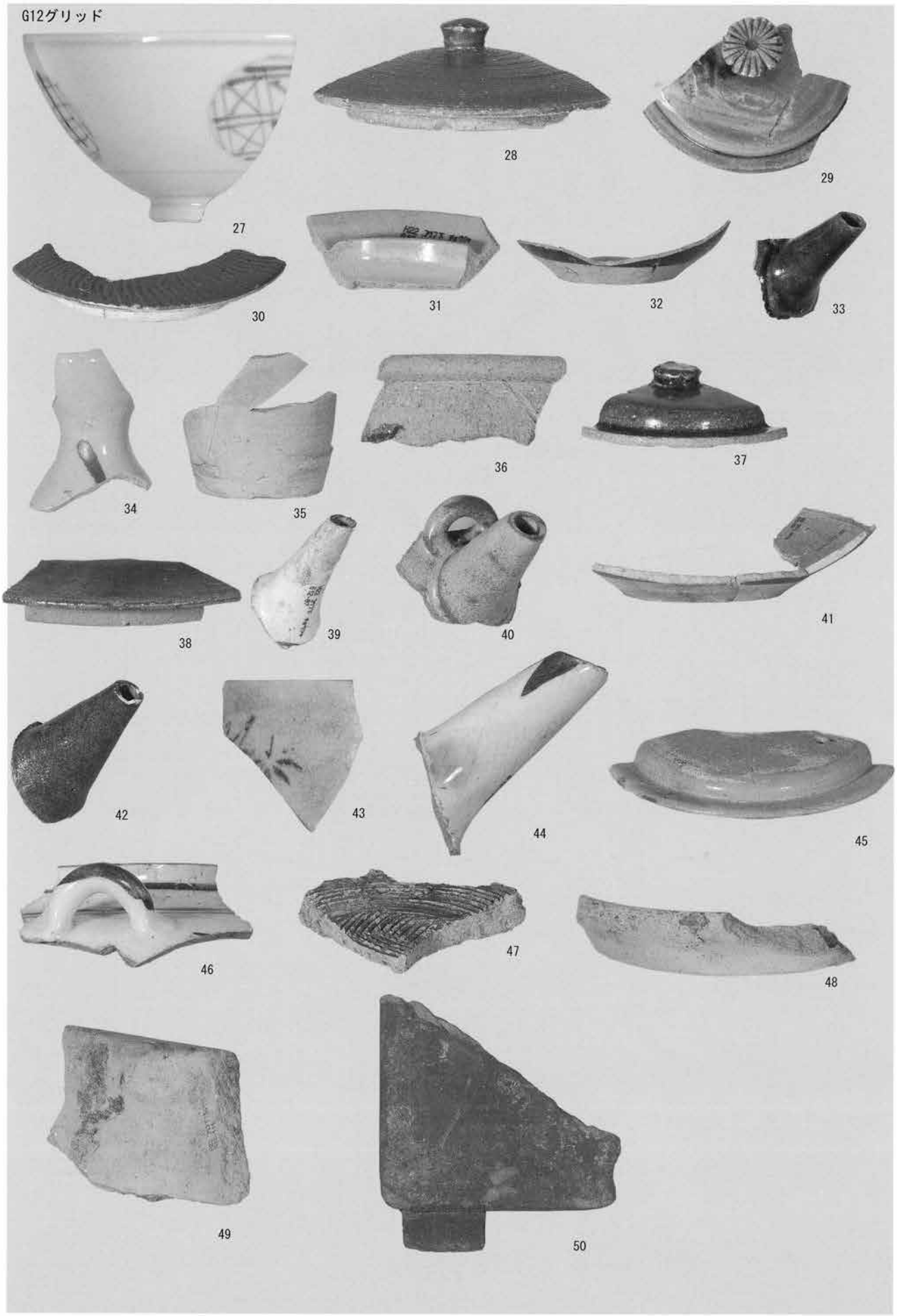


写真 189　遺構外出土遺物（33）

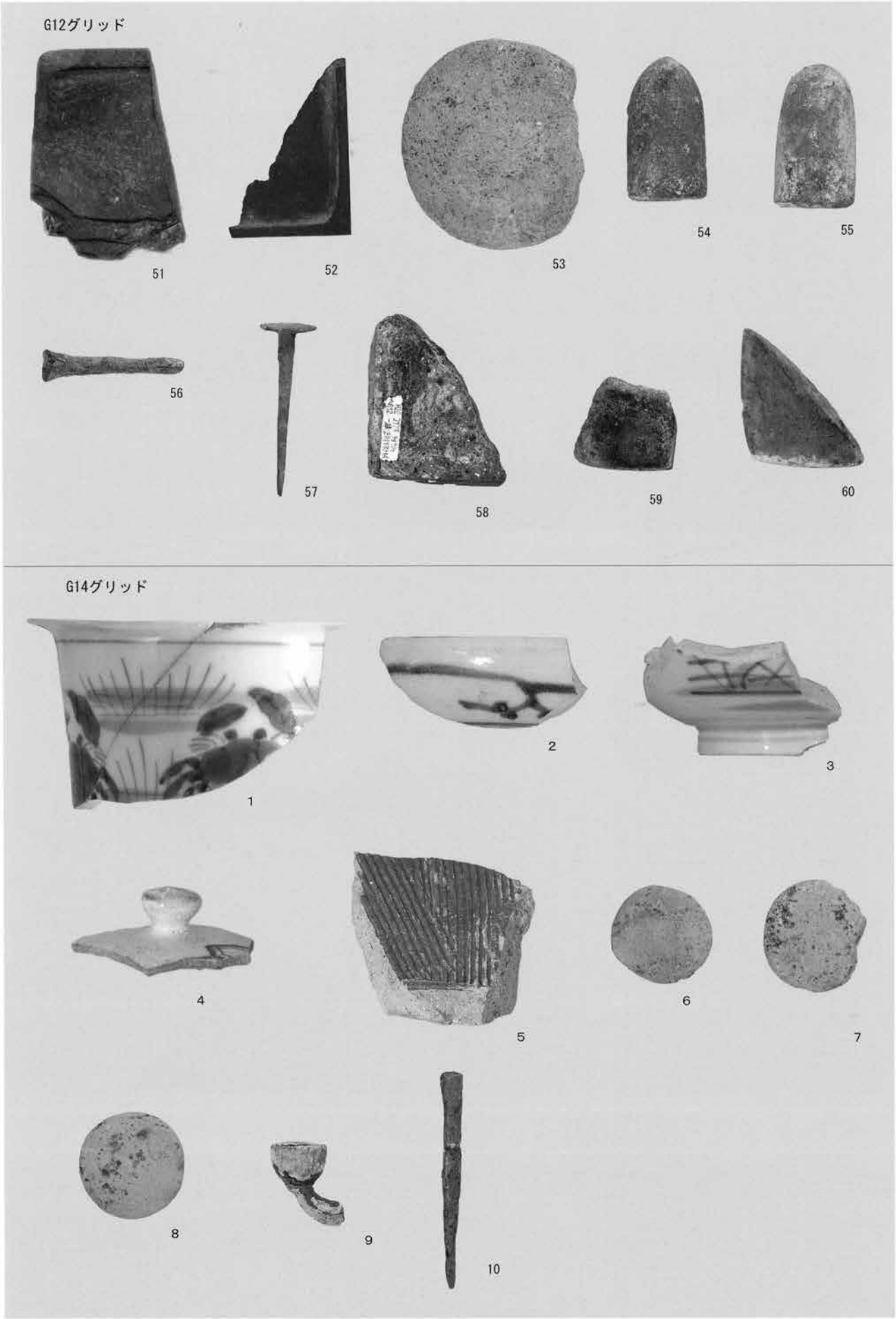


写真 190　遺構外出土遺物（34）

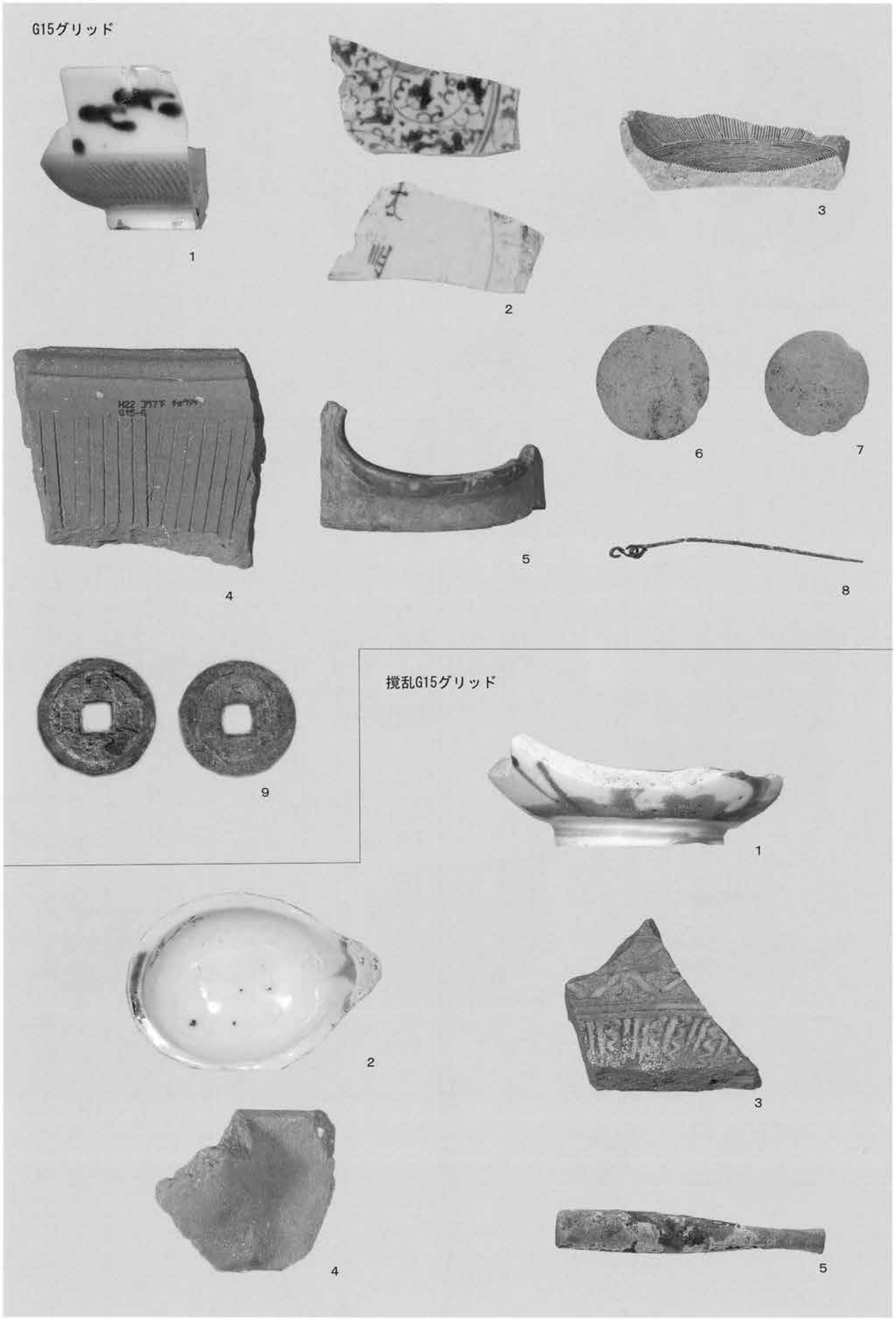


写真 191　遺構外出土遺物（35）

H5グリッド

1

2

3

H7グリッド

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

写真 192　遺構外出土遺物（36）

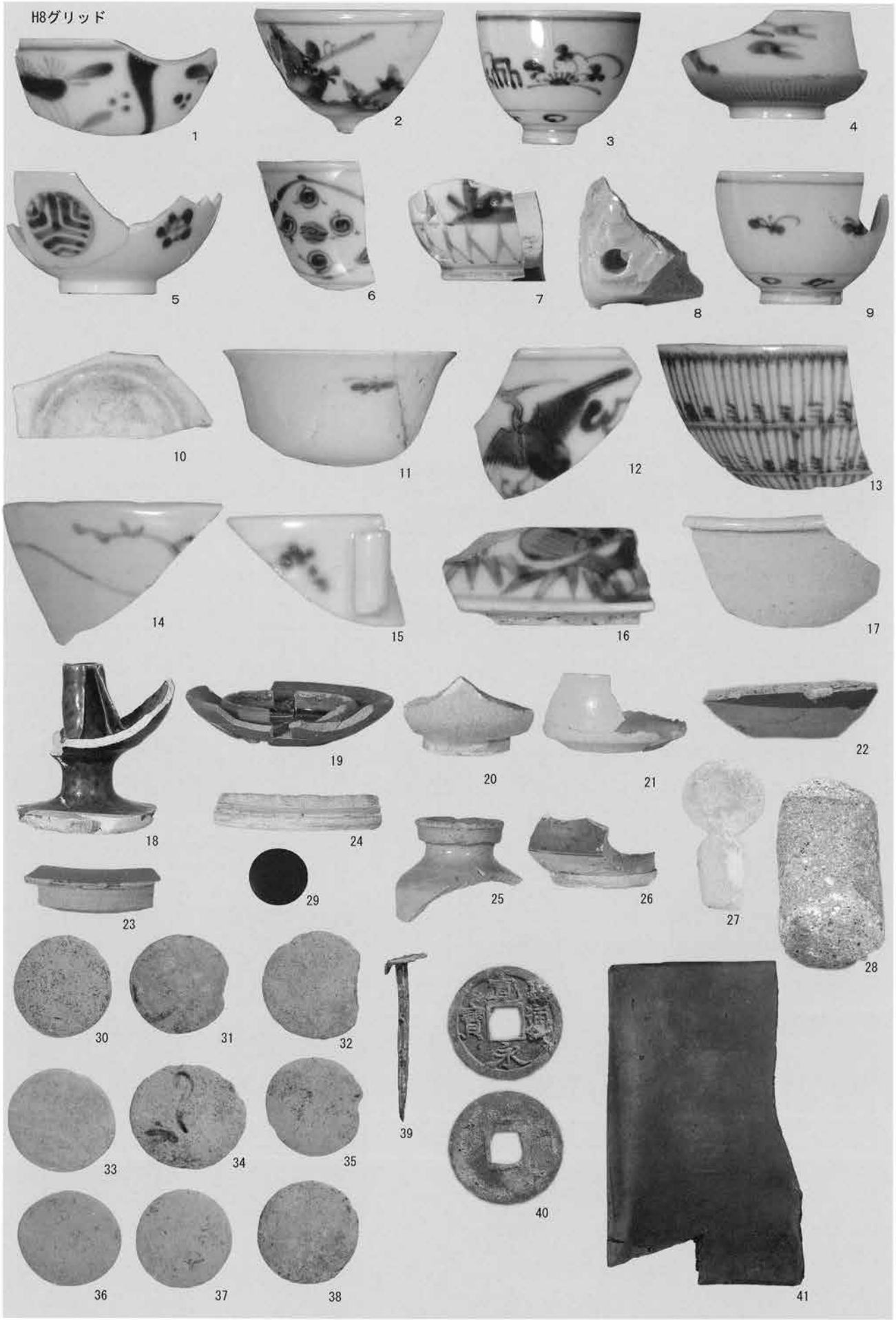


写真 193　遺構外出土遺物（37）

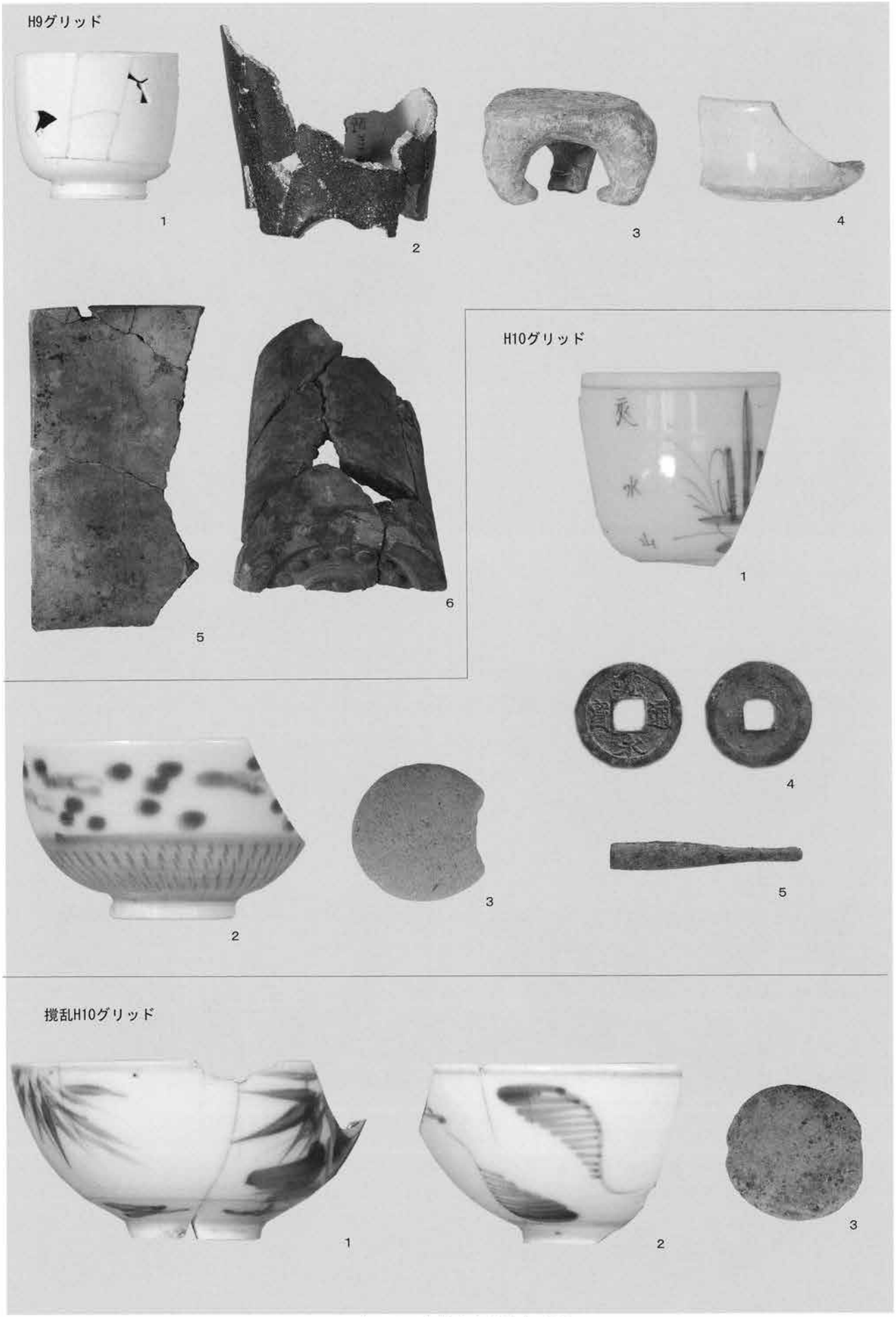


写真 194　遺構外出土遺物（38）

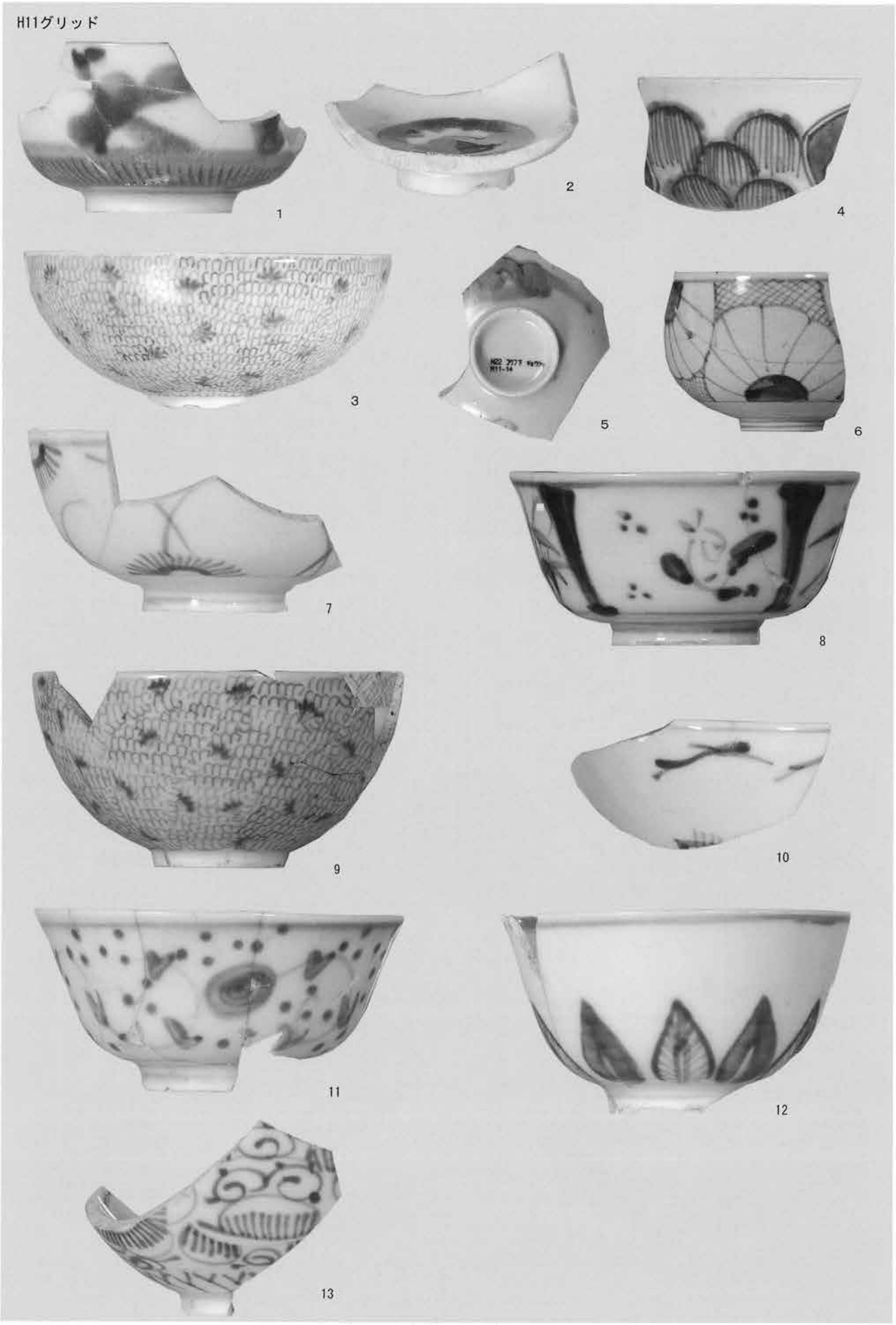


写真 195　遺構外出土遺物（39）

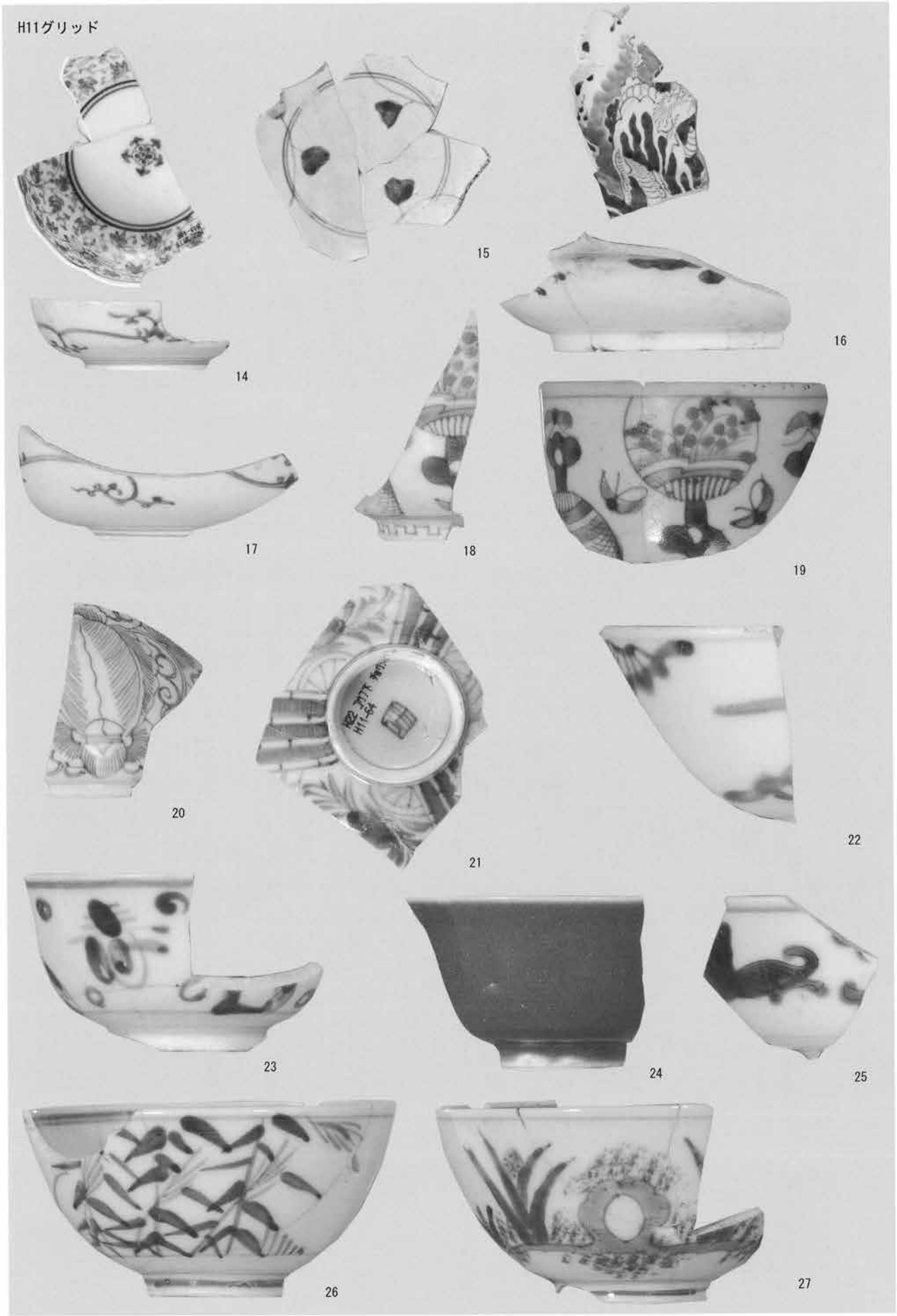


写真 196　遺構外出土遺物（40）

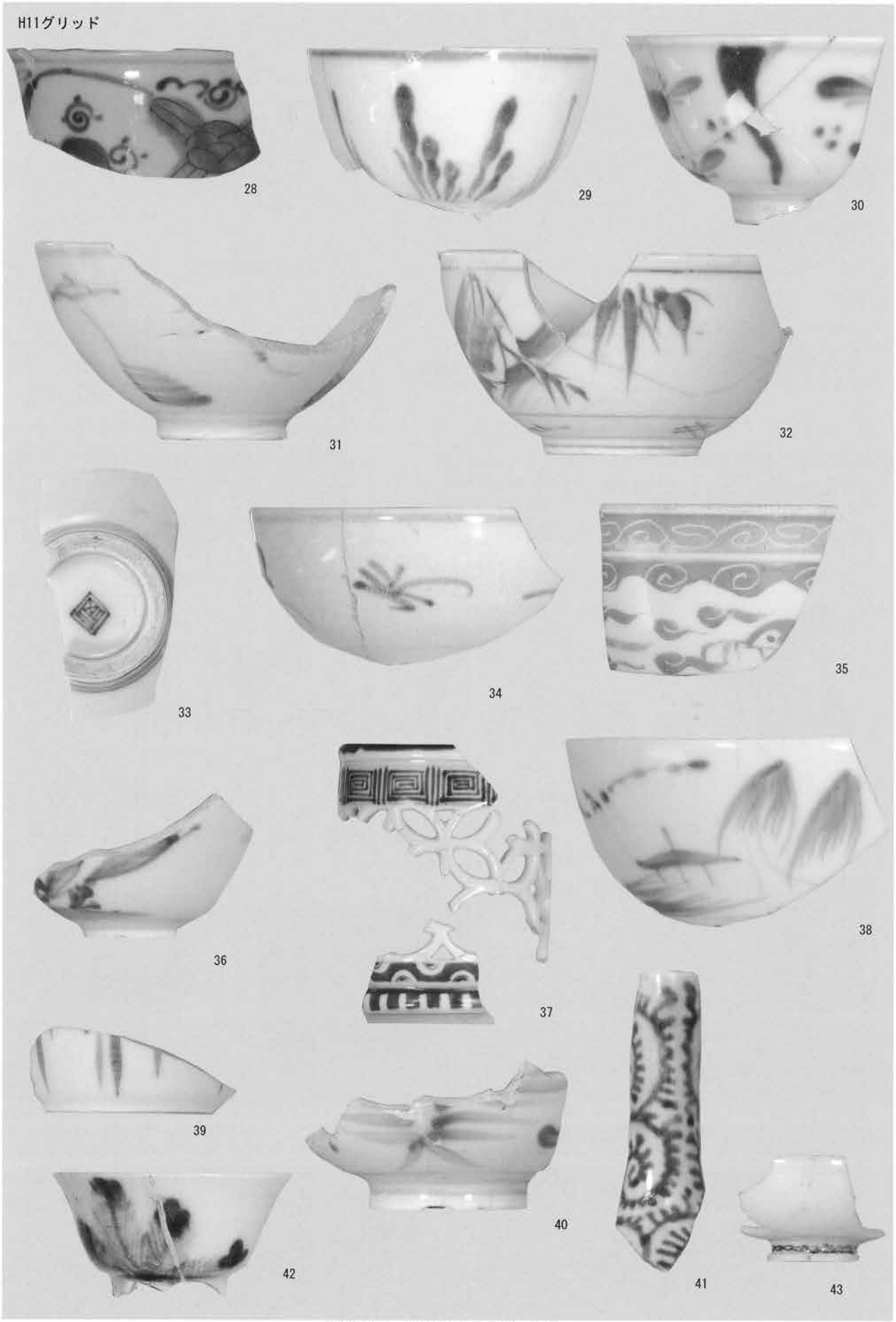


写真 197　遺構外出土遺物（41）

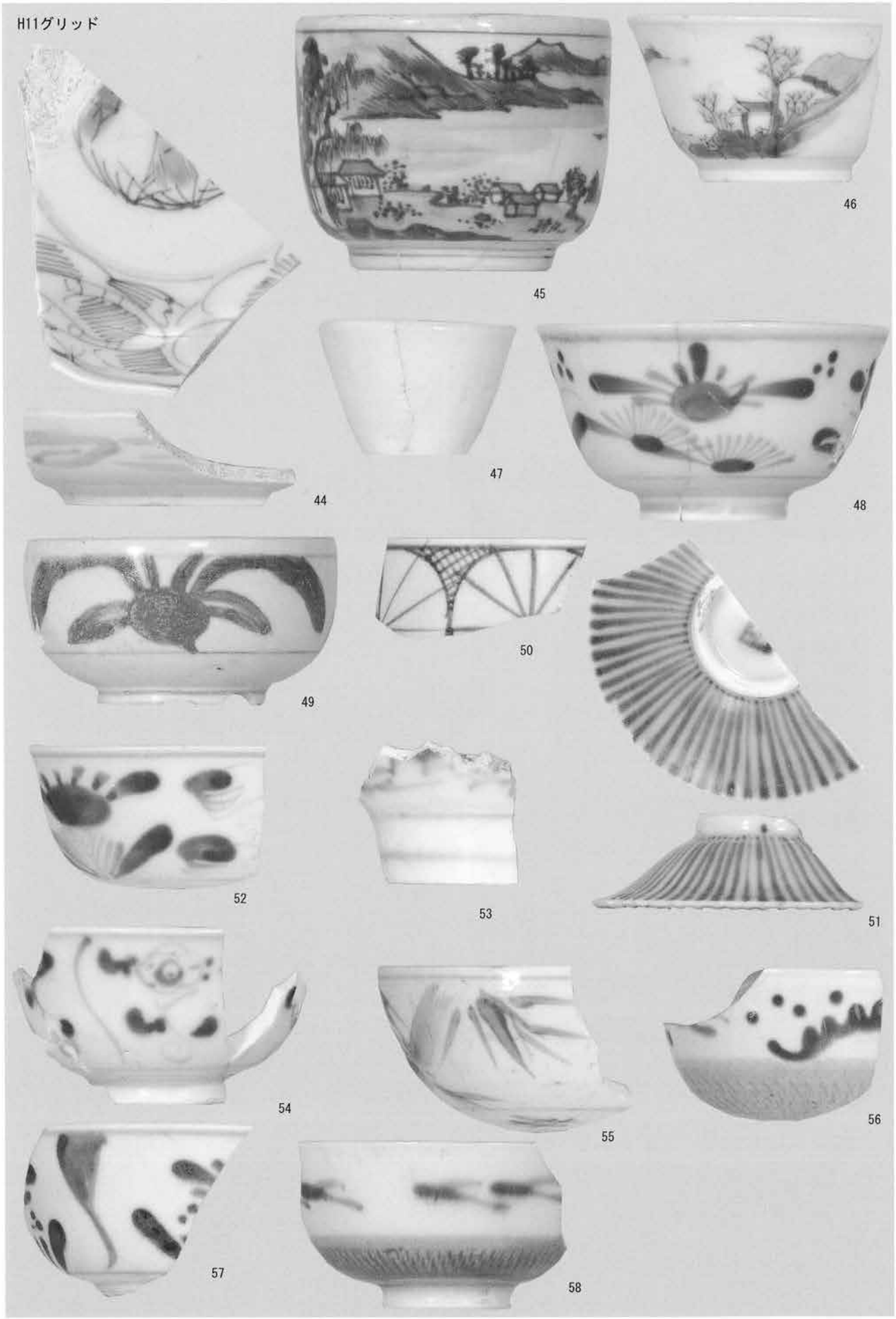


写真 198　遺構外出土遺物（42）

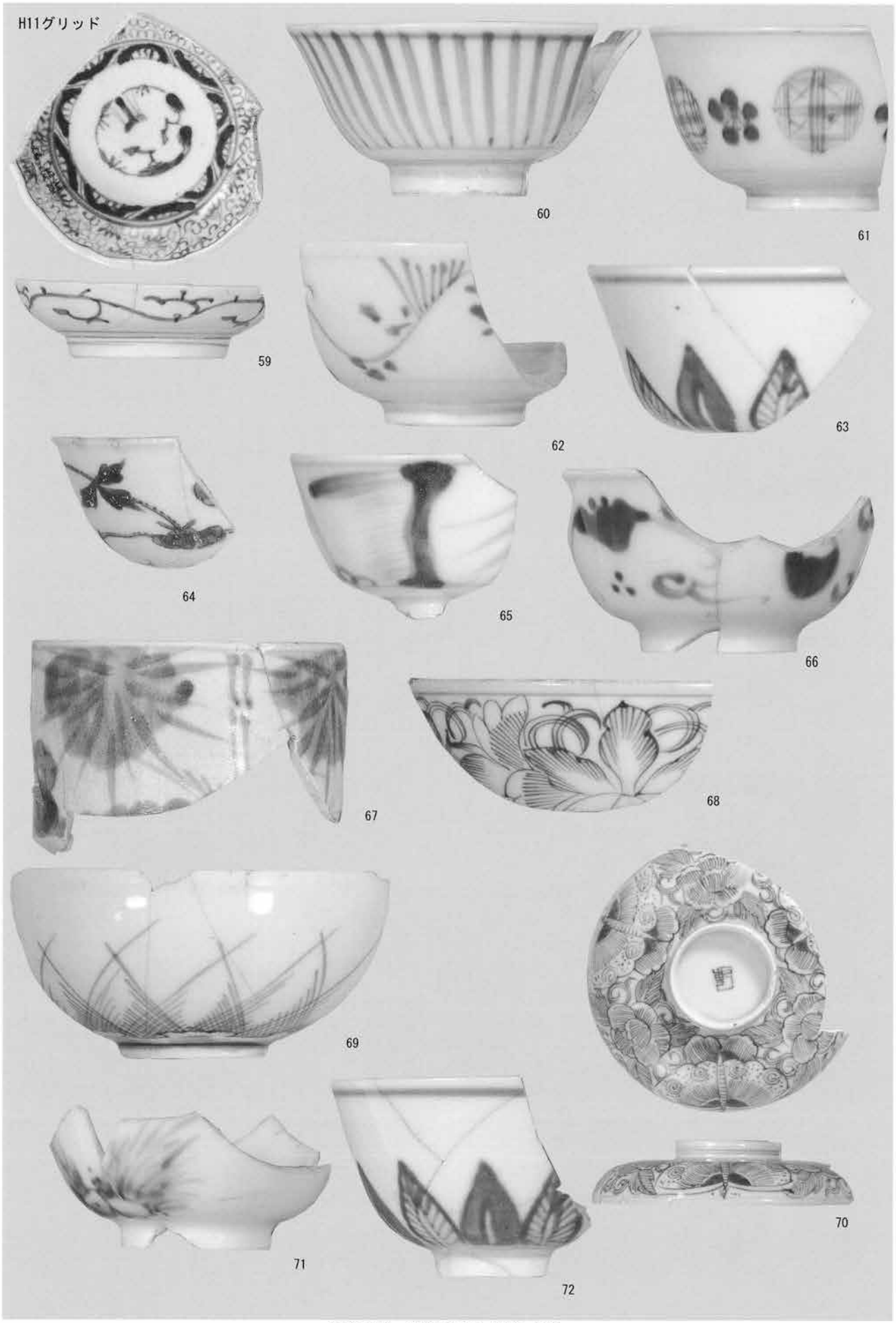


写真 199　遺構外出土遺物（43）

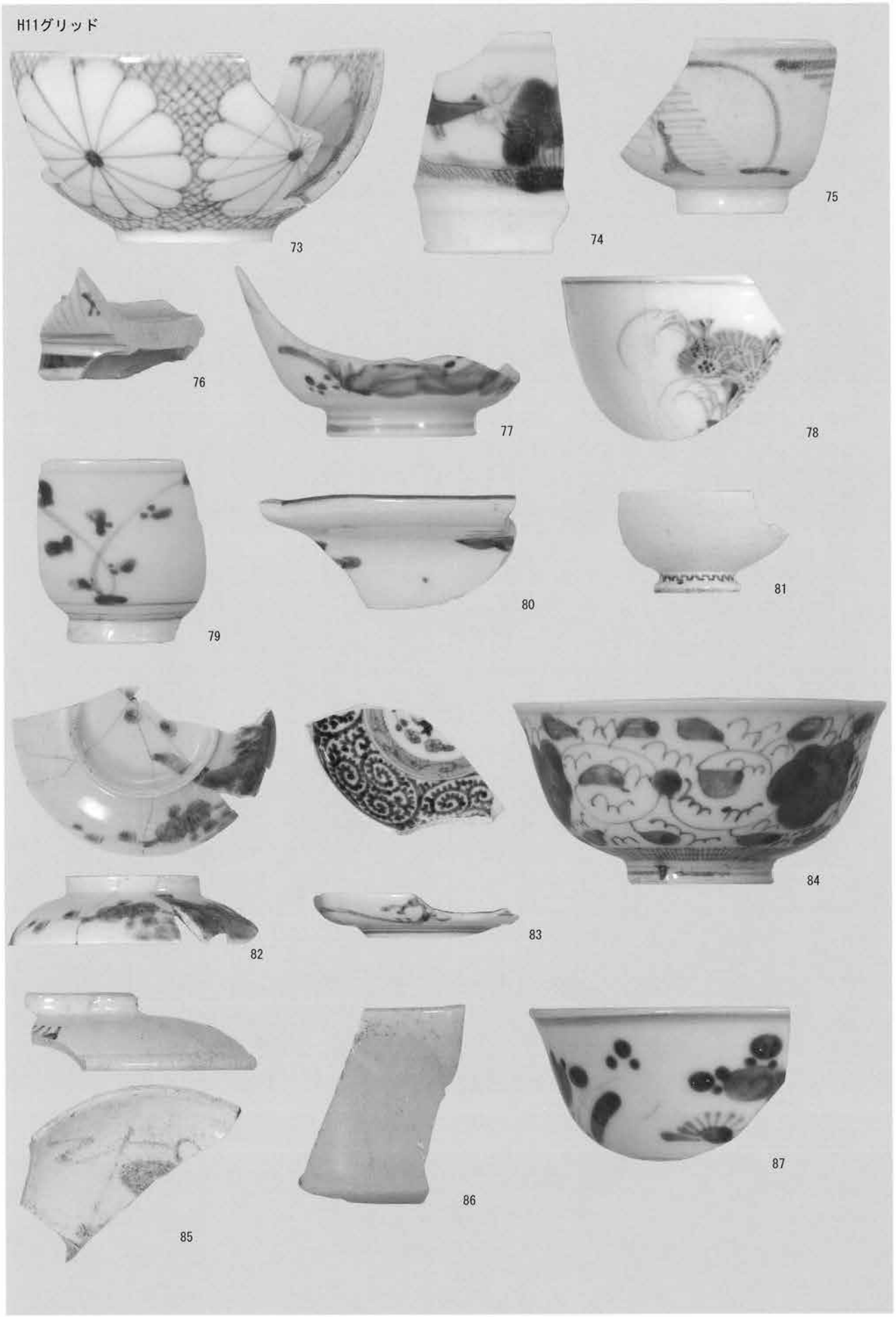


写真 200　遺構外出土遺物（44）

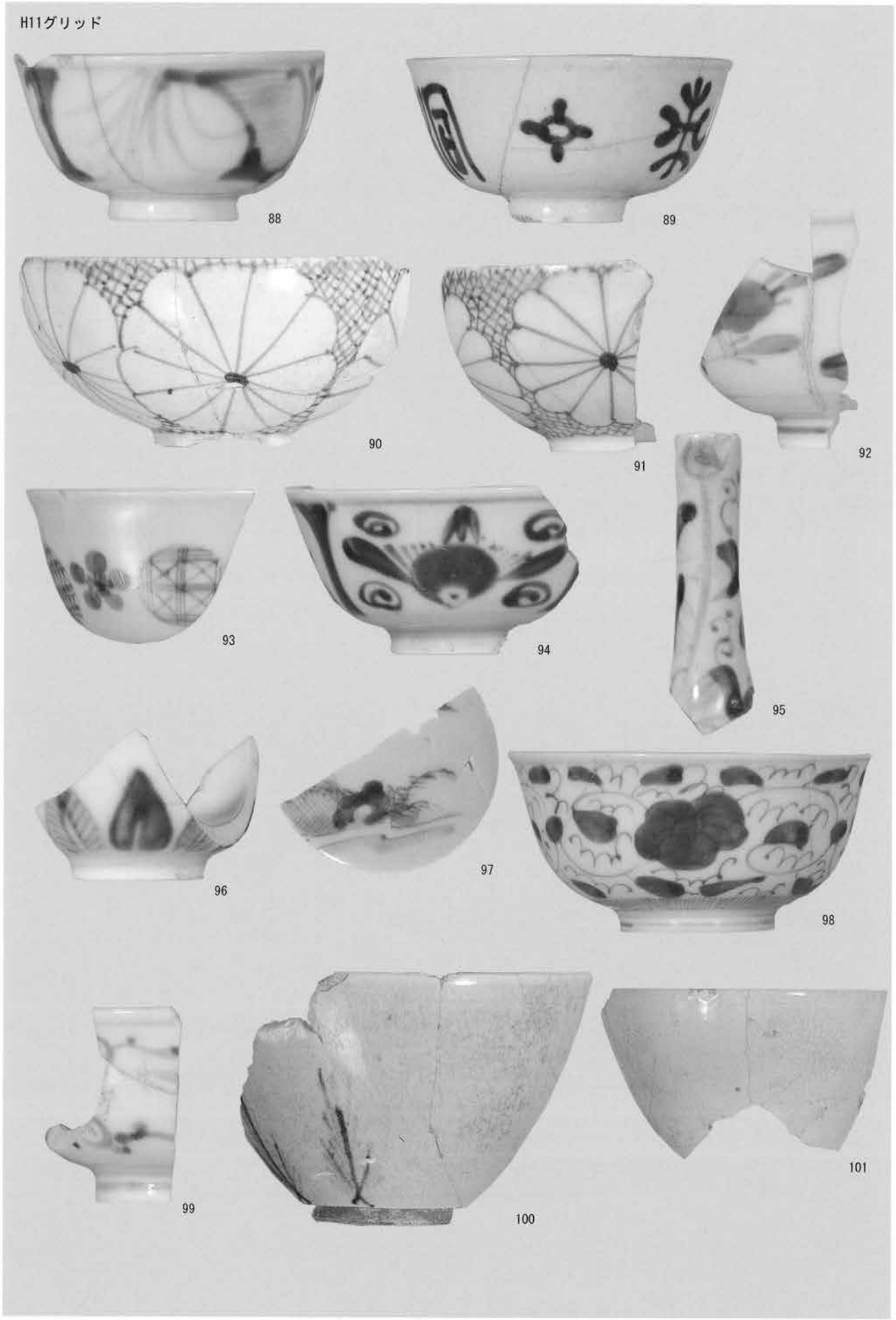


写真 201　遺構外出土遺物（45）

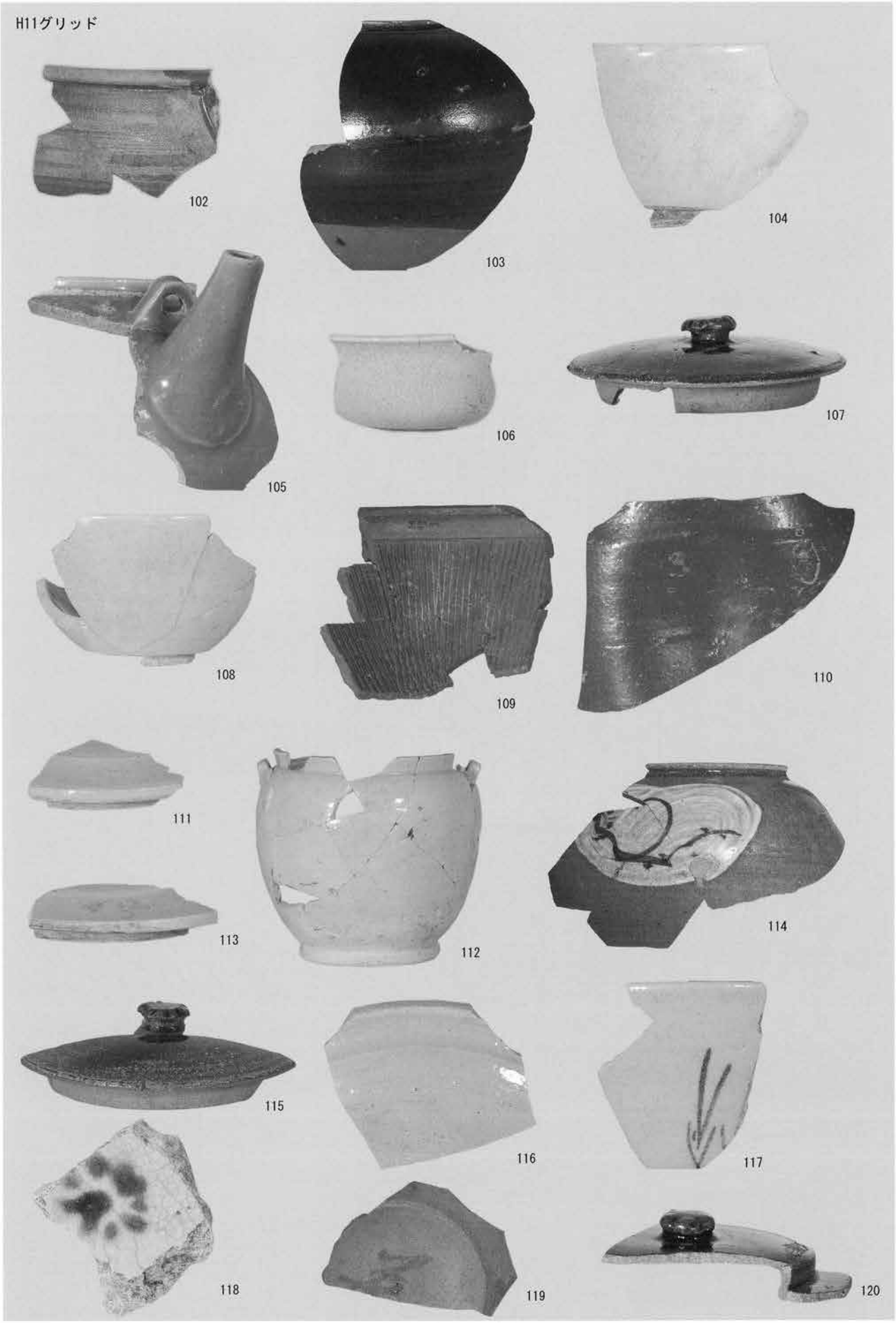


写真 202　遺構外出土遺物（46）

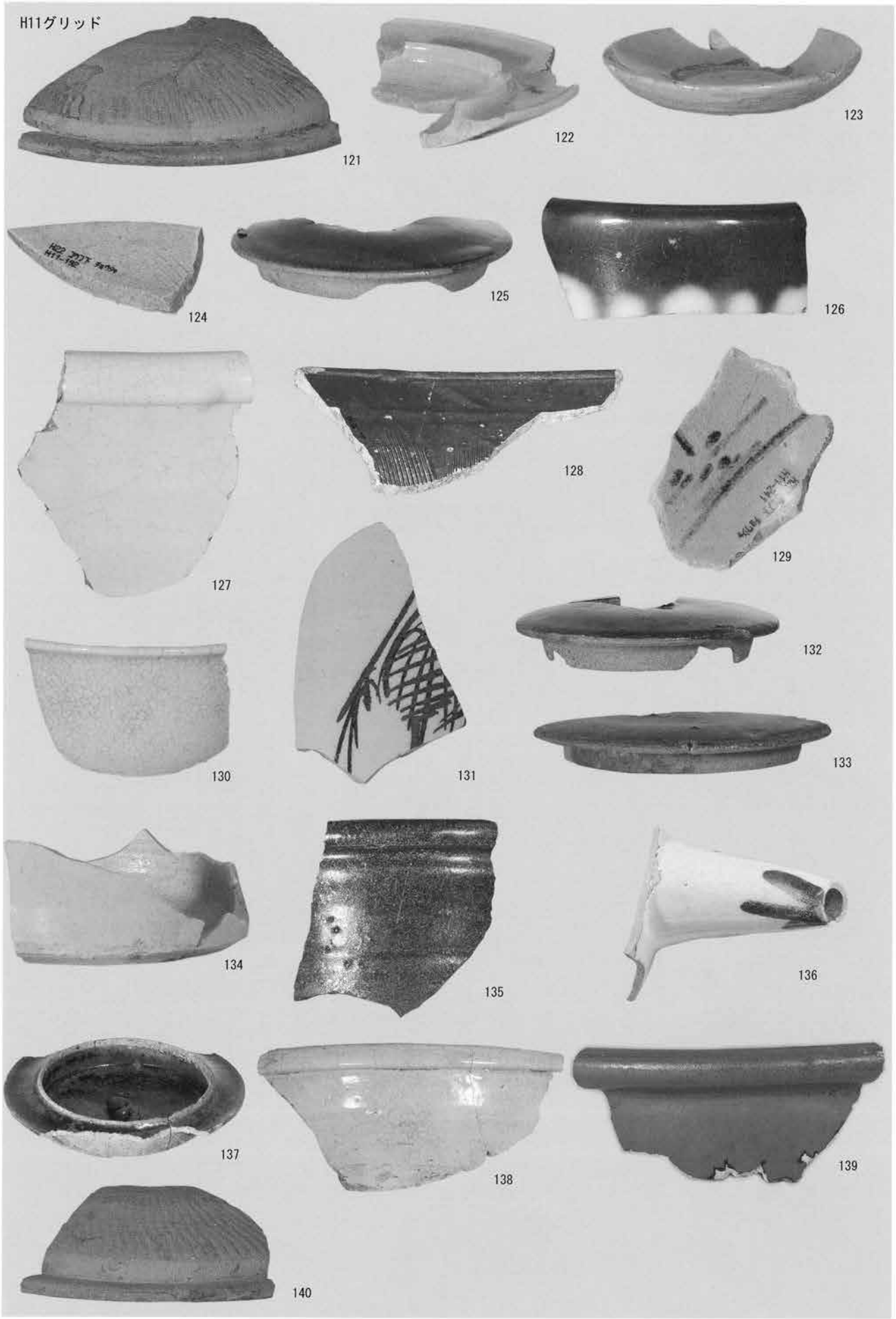


写真 203　遺構外出土遺物（47）

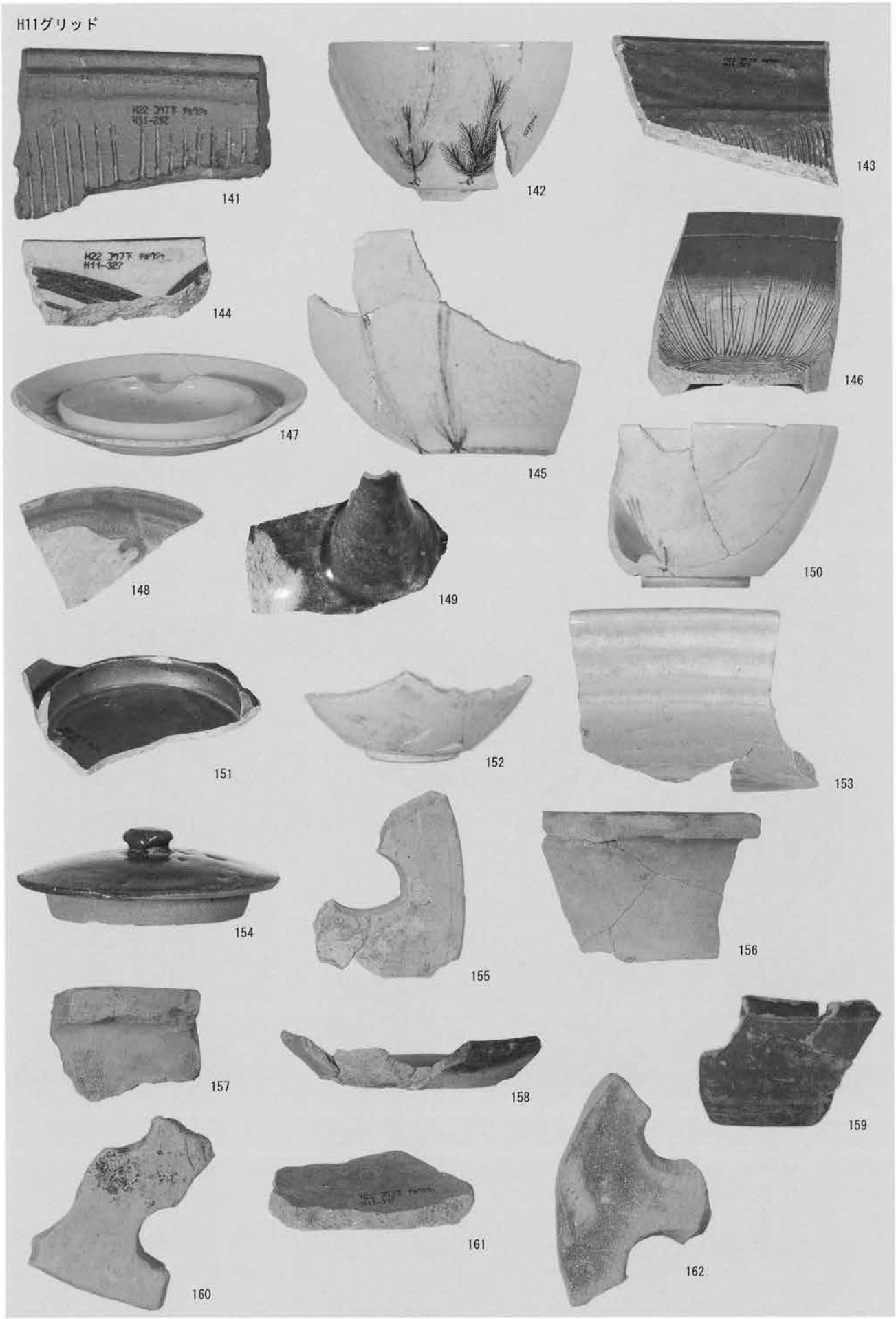


写真 204　遺構外出土遺物（48）

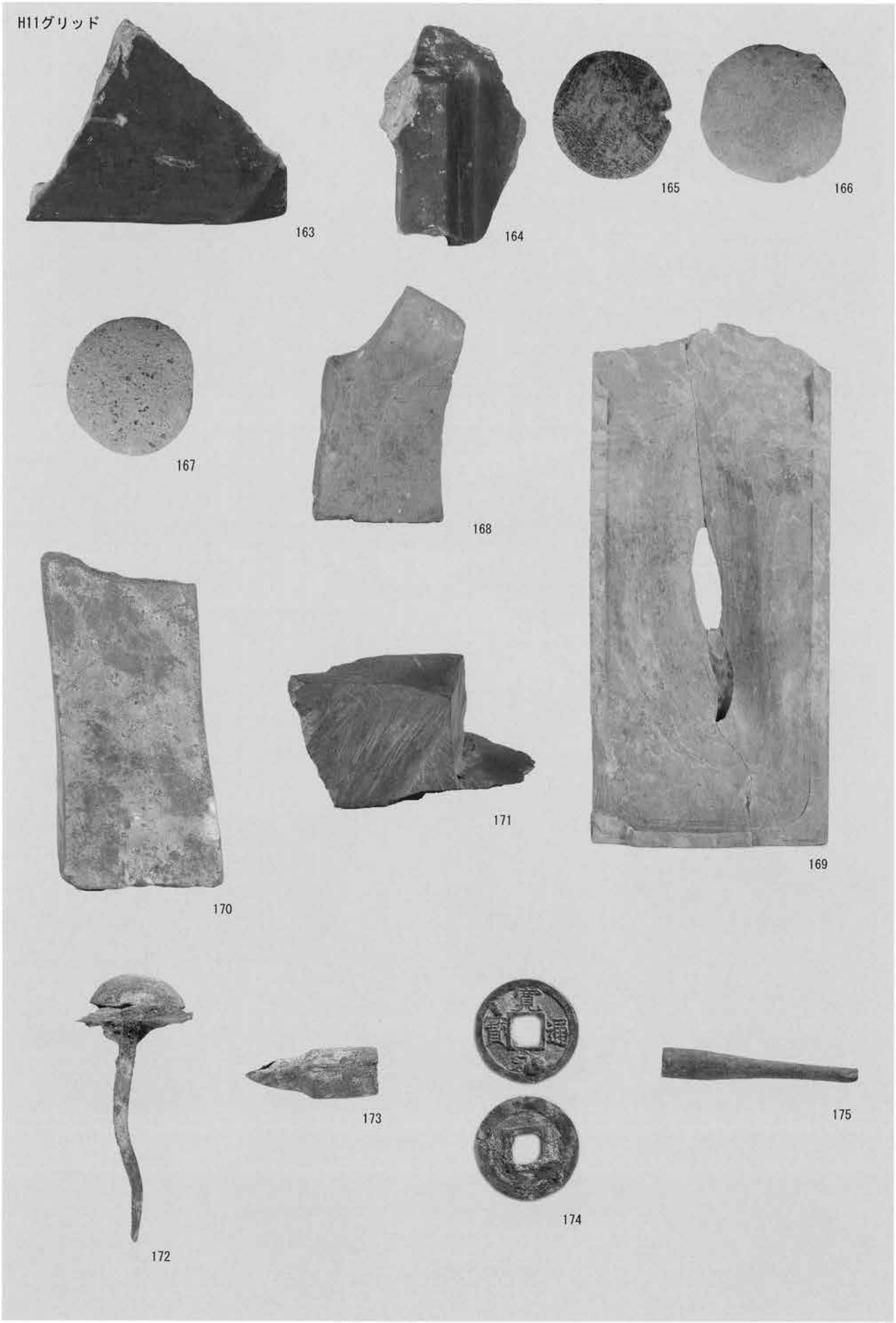


写真 205　遺構外出土遺物（49）

H11グリッド

176

177

178

179

写真 206　遺構外出土遺物（50）

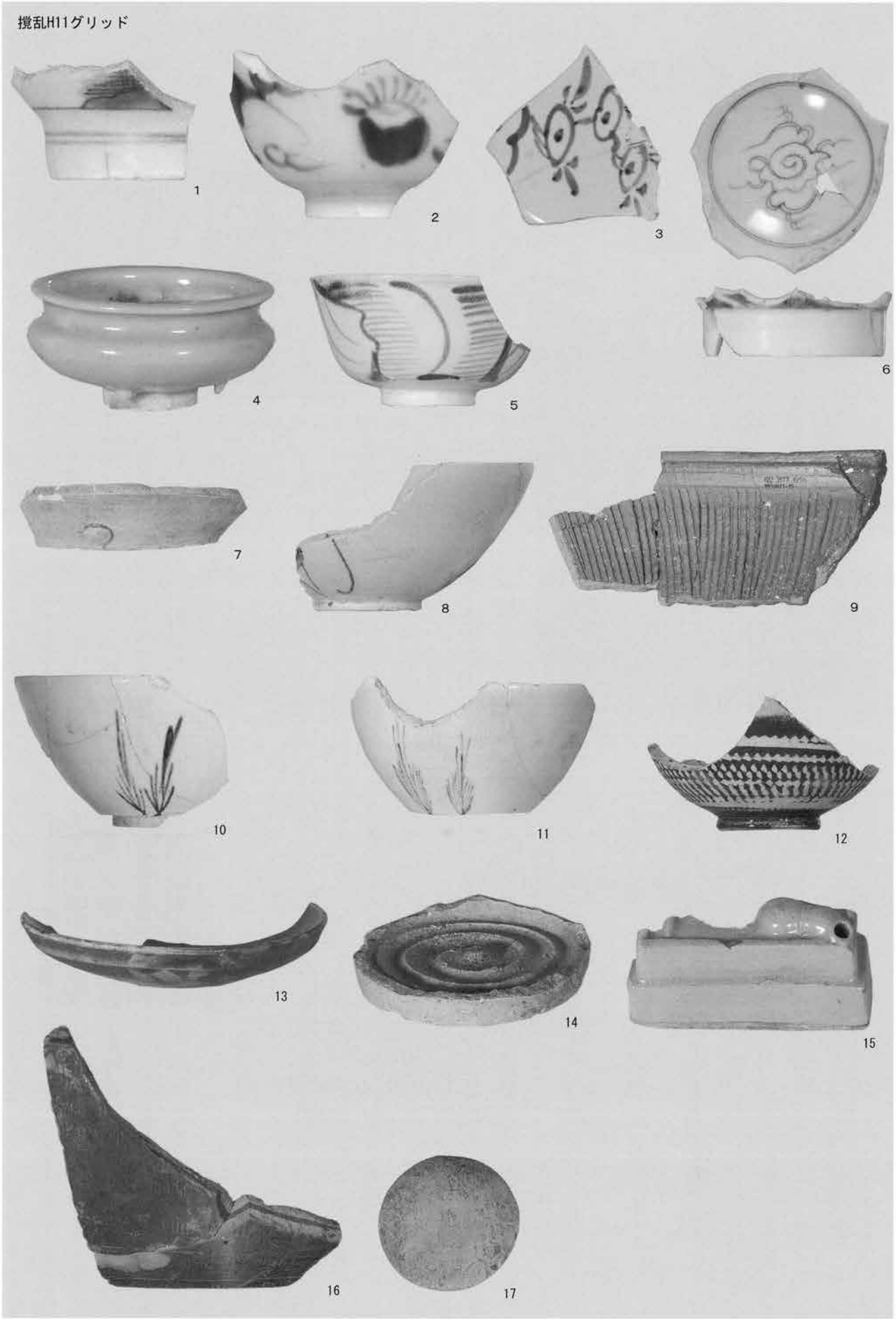


写真 207　遺構外出土遺物（51）

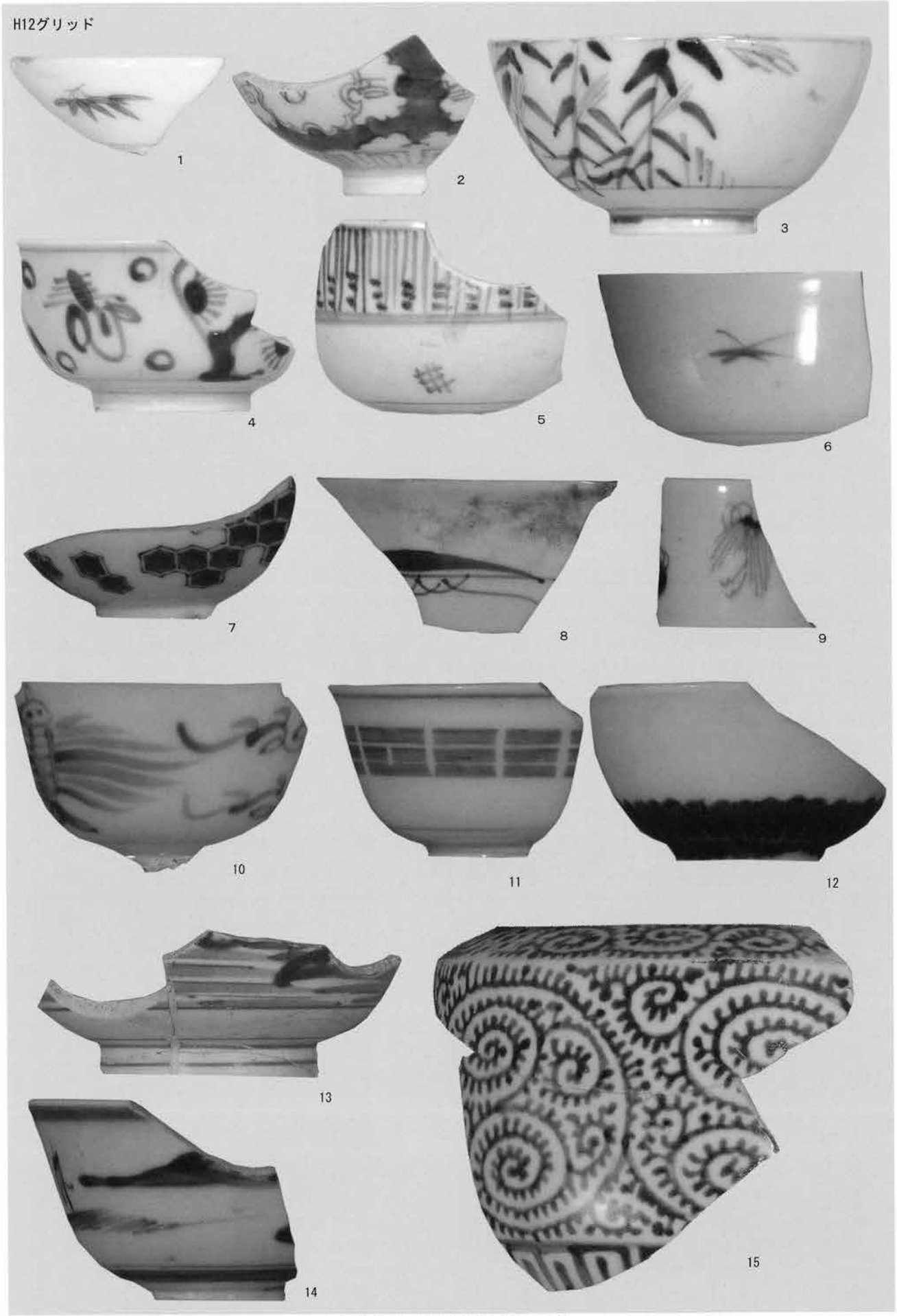
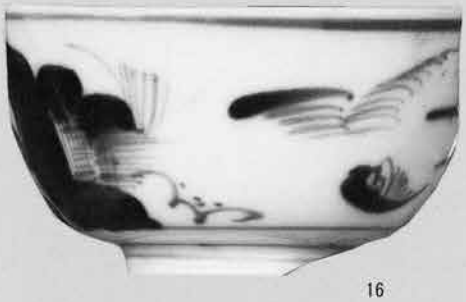


写真 208　遺構外出土遺物（52）

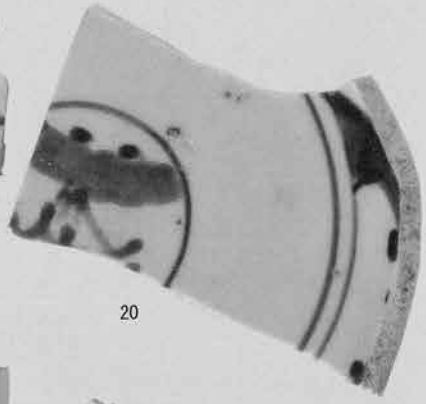
H12グリッド

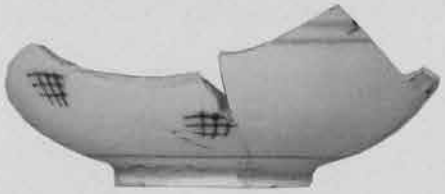

16

17

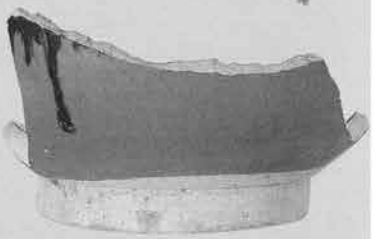
18

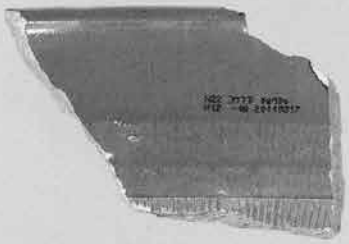
19


20


21

22


23


24

25

26

27

28

29

30

写真 209　遺構外出土遺物（53）

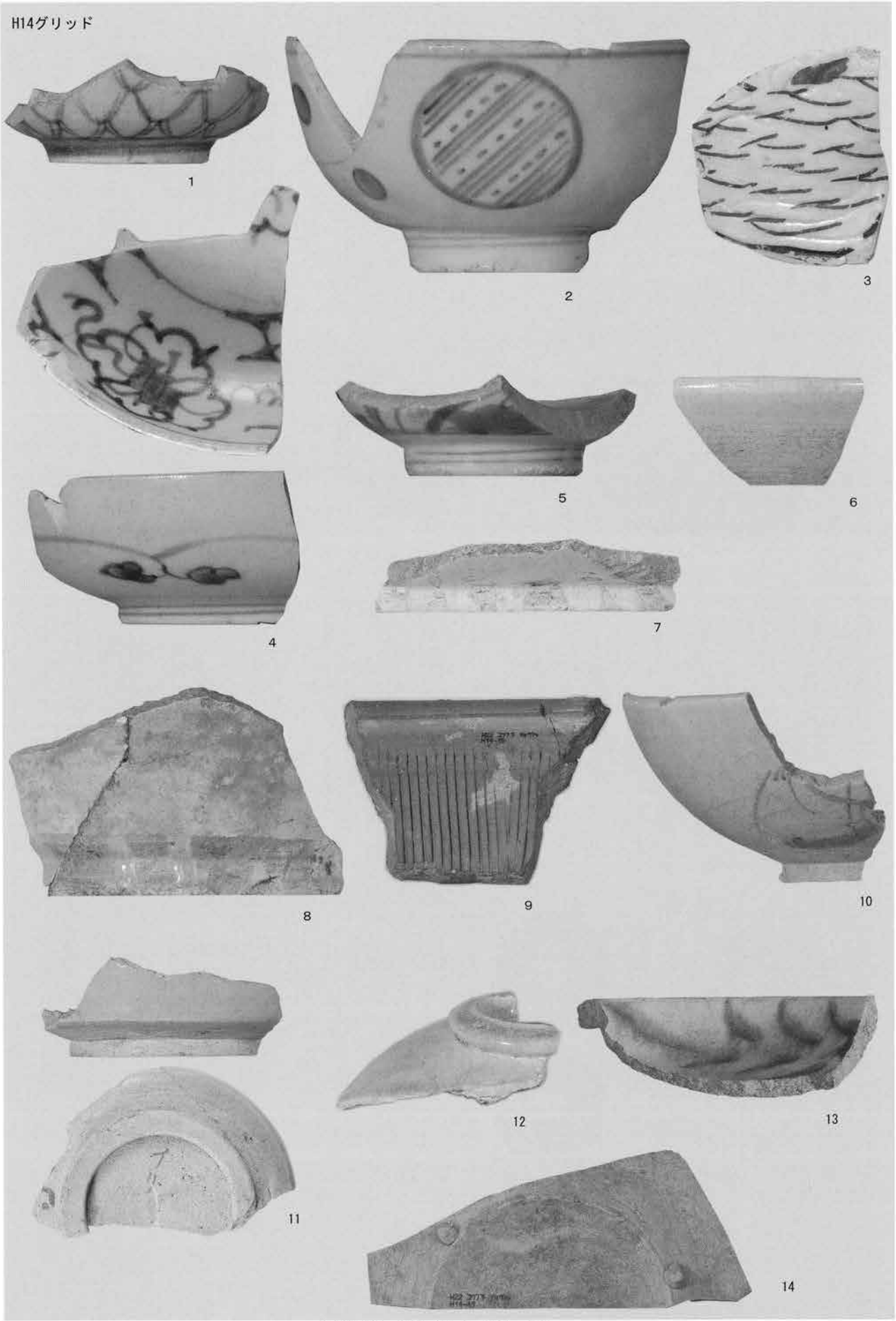


写真 210　遺構外出土遺物（54）

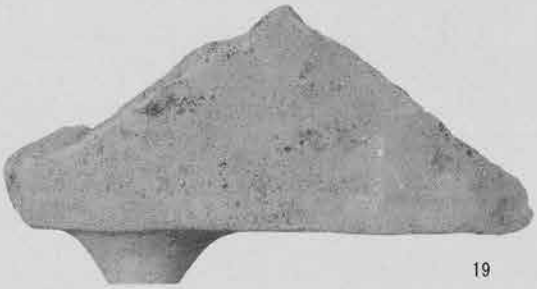
H14グリッド

15

16

17

18


19

20

21

22

23

24

写真 211　遺構外出土遺物（55）

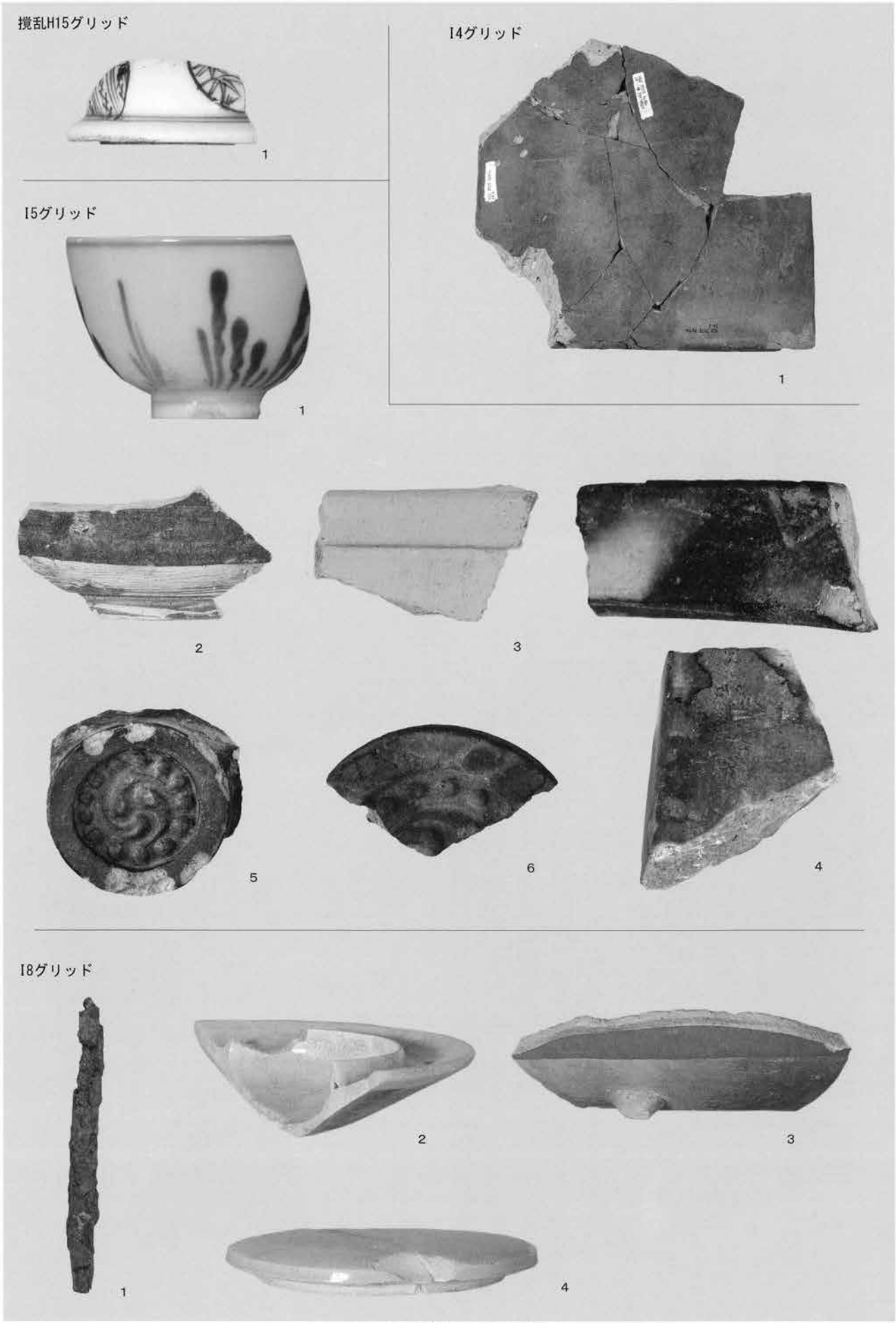


写真 212　遺構外出土遺物（56）

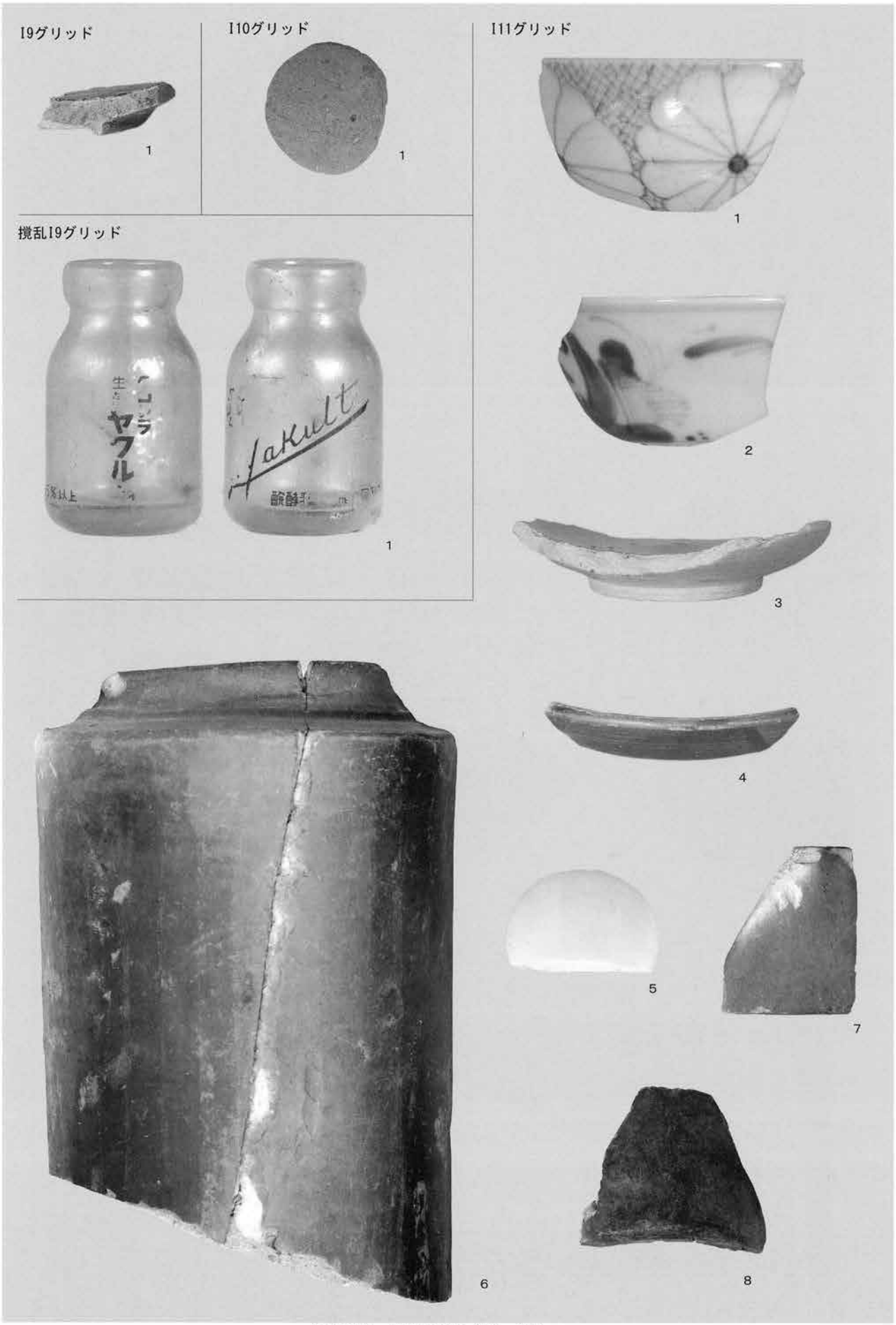


写真 213　遺構外出土遺物（57）

撹乱I11グリッド

1

撹乱I12グリッド

1

J8グリッド

2

1

3

5

4

6

写真 214　遺構外出土遺物（58）

調査区

1

2

3

4

5

6

7

写真 215　遺構外出土遺物（59）

第５章　自然科学分析

第１節　環境考古学分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点の発掘調査では、18 世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる井戸や池が検出された。井戸や池などの堆積物中には、有機質遺体が比較的良好に保存されていることが多い。そこで、これらの遺構から採取された堆積物と、出土した昆虫遺体や貝類について環境考古学分析（花粉分析、微細物分析、昆虫同定、貝類同定）を行い、環境や生業の検討を行うことになった。

花粉分析では、比較的広域な範囲の植生・環境の復原が行われ、遺跡の遺構内の堆積物などからは局地的な植生が推定される。微細物分析では、堆積物中よりやや小型からやや大型の種実遺体や木材遺体を検出・同定することで、環境および植物利用が推定される。昆虫遺体同定は、昆虫が比較的限定された環境で生息する種類が多いことから、環境を知る手がかりとなる。貝類同定では主に食生活の推定ができる。

ここでは、これら複数の分析を併せて行い、江戸時代の甲府城下町における環境と生業や流通の一端を明らかにする。

２．花粉分析

（１）試料と方法

試料は、18 世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる１号池より採取された堆積物である。

（２）方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm3 を採量

２）0.5％リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎

３）水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

４）25％フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）実施

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

（３）結果

１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉 16、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉 10、シダ植物胞子２形態の計 31 である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを作成し図１に示す。主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても検鏡した結果、１分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

トウヒ属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、ツツジ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、マメ科

〔草本花粉〕

オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、セリ亜科、タンポポ亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵

以下にこれらの特徴を示す。

表１　甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点における花粉分析結果

分類群 学名	分類群 和名	1号池
Arboreal pollen	樹木花粉	
Picea	トウヒ属	1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	26
Cryptomeria japonica	スギ	5
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	4
Alnus	ハンノキ属	6
Betula	カバノキ属	6
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	5
Castanea crenata	クリ	13
Fagus	ブナ属	2
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	335
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	2
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	3
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	25
Zanthoxylum	サンショウ属	1
Ericaceae	ツツジ科	1
Fraxinus	トネリコ属	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	10
Saxifragaceae	ユキノシタ科	1
Leguminosae	マメ科	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	
Sagittaria	オモダカ属	1
Gramineae	イネ科	55
Oryza type	イネ属型	7
Cyperaceae	カヤツリグサ科	7
Polygonum	タデ属	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	13
Cruciferae	アブラナ科	7
Apioideae	セリ亜科	1
Lactucoideae	タンポポ亜科	5
Artemisia	ヨモギ属	4
Fern spore	シダ植物胞子	
Monolate type spore	単条溝胞子	3
Trilate type spore	三条溝胞子	3
Arboreal pollen	樹木花粉	436
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	14
Nonarboreal pollen	草本花粉	101
Total pollen	花粉総数	551
Pollen frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の花粉密度	4.3×10^3
Unknown pollen	未同定花粉	10
Fern spore	シダ植物胞子	6
Helminth eggs	寄生虫卵	
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵	1
Total	計	1
Helminth eggs frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の寄生虫卵密度	0.7×10
Stone cell	石細胞	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(+)

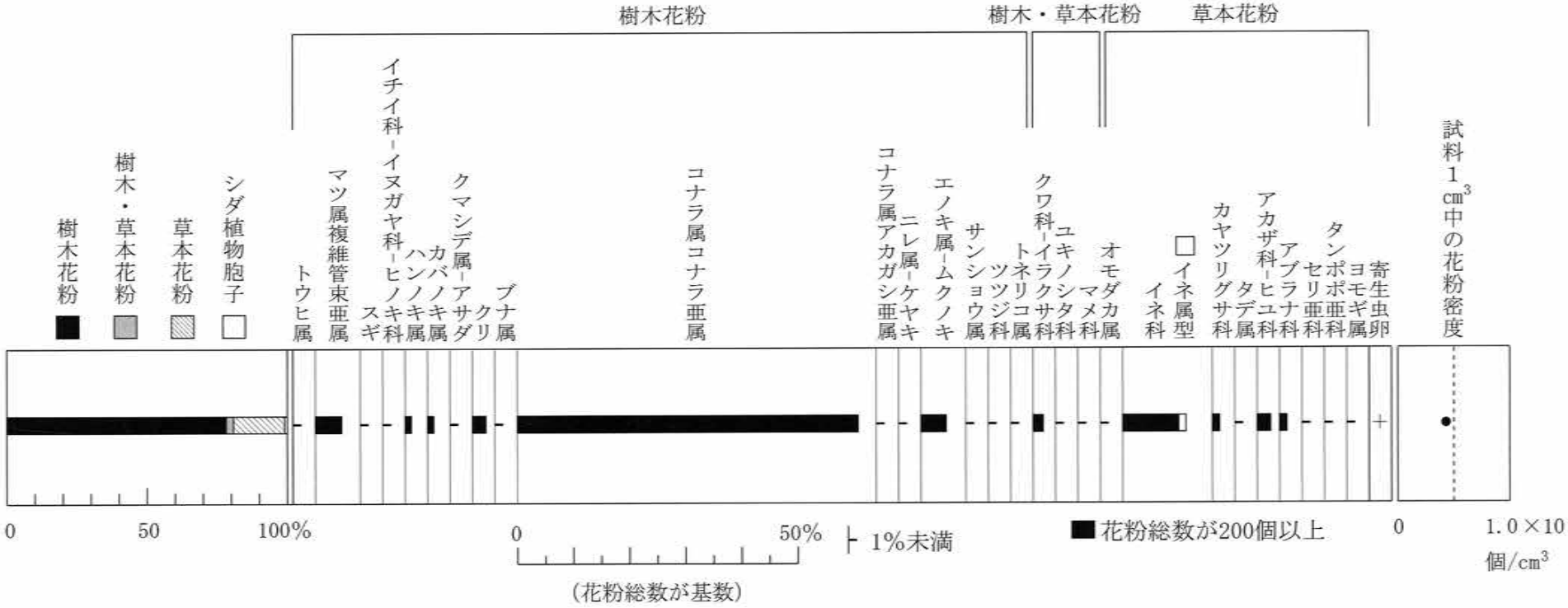


図１　甲府城下町遺跡1号池における花粉ダイアグラム

・回虫　Ascaris (lumbricoides)

回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、堆積年数や薬品処理のため、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ80×60μmあり楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。

2）花粉群集の特徴（図1）

樹木花粉が78.0%、草本花粉が18.0%を占める。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属が高率に優占し、マツ属複維管束亜属、エノキ属－ムクノキ、クリ、ハンノキ属などの樹木花粉が伴われる。わずかにツツジ科、サンショウ属が出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、アカザ科－ヒユ科、アブラナ科、カヤツリグサ科などが出現し、クワ科－イラクサ科が出現する。わずかに回虫卵が検出された。

（4）花粉分析から推定される植生と環境

コナラ属コナラ亜属が多く、周辺地域および近隣にも生育していたとみなされる。ミズナラの落葉広葉樹林要素とコナラやクヌギの二次林要素が考えられるが、微細物分析からコナラ属コナラ節およびコナラ属クヌギ節が同定されており、二次林要素と推定される。マツ属複維管束亜属は同様にアカマツの二次林要素が考えられる。エノキ属－ムクノキは生態から適湿地に生育するエノキ属が考えられ、ハンノキ属は湿地林を形成する。また、クリは二次林種である。以上のことから、コナラやクヌギなどのコナラ属コナラ亜属を主に、アカマツ、クリの二次林が周囲に分布し、特にコナラ属コナラ亜属は1号池の周辺や城下町にもところどころに生育していたと推定される。また城下町周辺の湿潤地にはエノキ属やハンノキ属が分布していた。武家屋敷内または周辺の城下町には、イネ科を中心にアカザ科－ヒユ科、アブラナ科の草本が分布していた。アカザ科－ヒユ科やアブラナ科は排水の良いやや乾燥した人為環境に生育すること、寄生虫卵が検出されることなどからもそうした環境が示唆される。1号池はオモダカ属が検出されていることから、湿地や池状の環境であったと推定される。また、ツツジ科やサンショウ属も植えられていた可能性がある。

3．微細物分析

（1）試料と方法

試料は1号池と同じく、武家屋敷で検出された1号井戸の堆積物である。試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）試料200cm3に水を加え放置し、泥化

2）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別

3）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

（2）結果

1）分類群

種実遺体と炭片が検出された。種実は草本6分類群が同定され、炭化材は3分類群が同定され、他に細片で同定できない破片が多数あった。学名、和名および粒数を表2に示し、主要な分類群を写真に示す。200cm3中の産状をダイアグラムに示す。以下に形態的特徴を記載する。

○種実遺体

・イネ科　Gramineae　穎

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

・カヤツリグサ科　Cyperaceae　果実

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。

・ヒユ属　Amaranthus　種子（完形・破片）　ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、へそがある。断面は両凸レンズ形である。

・スベリヒユ　Portulaca　oleracea　L.　種子　ヒユスベリ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、白い種柄がある。表面全体には突起がある。

・カタバミ属　Oxalis　種子　カタバミ科

茶褐色で楕円形を呈し、上端がとがる。両面には横方向に6～8本の隆起が走る。

・シソ属　Perilla　果実　シソ科

茶褐色で球形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

○炭片

炭片で比較的大きなものでは、以下の3分類群が同定された。アカマツは硬質の炭があり製炭された

表２　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における微細物同定結果

分類群		部位	1号井戸
学名	和名		SE-1
○Seeds and fruits	○種実		
Gramineae	イネ科	穎	1
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	11
Amaranthus	ヒユ属	種子	15
		（破片）	3
Portulaca oleracea L.	スベリヒユ	種子	46
Oxalis	カタバミ属	種子	1
Perilla	シソ属	果実	2
○Charcoal	○炭片		
Pinus densiflora S. et Z.	アカマツ	炭化材片	3
Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節	炭化材片	4
Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節	炭化材片	1
Total	合計		87
unknown fragments	同定不能細片	炭化材細片	20<

（300cm^{3}中0.25mm篩）

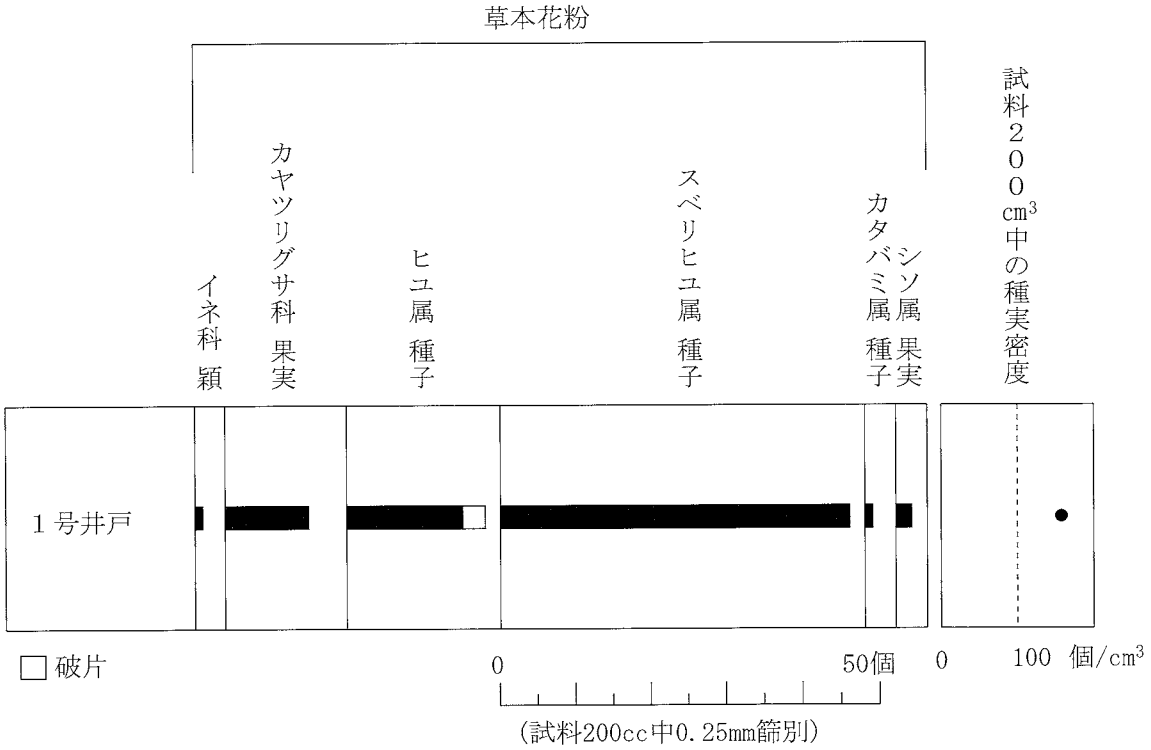


図２　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における微細物（種実）ダイアグラム

木炭である。他は軟質の炭でいわゆる消し炭であった。いずれも細片で精細な顕微鏡写真は撮影できなかった。

・アカマツ　Pinus densiflora S. et Z.　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面では早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔が窓状で、放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものがあり紡錘形を呈する。放射組織は熱により膨らむものが観察される。

・コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科

横断面では年輪のはじめに大型の道管が１～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面で道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面で放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

・コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科

横断面で年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面で道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面で放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがある。

２）１号井戸産出植物遺存体群集の特徴

種実はすべて草本種実であり、スベリヒユが45と多く、次にヒユ属18、カヤツリグサ科11、シソ属２、イネ科１、カタバミ属１が同定された。スベリヒユをはじめ人里や畑地など開けた人為地に生育する草本である。炭片ではコナラ属コナラ節が４、アカマツ３、コナラ属クヌギ節１が同定された。アカマツには硬質の木炭もあった。他に炭片は同定できない微細なものが多数あった。

（３）考察

産出した種実では、スベリヒユ、ヒユ属、カヤツリグサ科を主に、シソ属、イネ科、カタバミ属などの生育が認められ、人里や畑地など比較的乾燥した人為地の環境が推定される。最も多いスベリヒユは小型の丈の低い草本であり、開けた大型の草本が抑制された状況であり、屋敷内の環境が示唆される。炭片は燃焼したものに起因し、樹種はコナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節、アカマツでいずれも二次林要素である。燃料の供給源であった城下町周辺の里山が、コナラやクヌギのコナラ属やアカマツの二次林要素で構成されていたと推定される。アカマツに木炭が含まれることから、製炭された木炭が供給され用いられていた。

４．貝類同定

（１）試料と方法

試料は、18世紀前半の１号井戸、１号池から出土したものと、近代の遺物包含層（H10グリッド）から出土したものである。試料は、肉眼で観察し、形態的特徴を現生標本および貝類図鑑（奥谷編2001）の写真との対比によって同定した。

（２）結果

１号井戸から出土した貝類は、アワビ属、サザエ、マガキ、ハマグリの１属３種が、１号池から出土した貝類はマガキ１種が同定された（表３）。

・アワビ属　Haliotis

本属にはクロアワビ、メガイアワビ、マダカアワビ、エゾアワビなどが含まれており、これらは潮間帯から水深20～30mの岩礁に生息する。１号井戸から１点が出土しており、上記のいずれかと思われるが1/3が破損しており、属までの同定に留めた。破損部を復元すれば、殻の最大径は小さくても10cmを越える。

・サザエ　Turbo cornutus

本種は、潮間帯下部～水深20m、主に岩礁に生息する。殻体から突出する棘の有無、長さ、密度は個体によって変位が著しく、内海では無棘、外海では有棘の個体が多いという傾向がある。１号井戸から１点が出土しており、棘が発達しており、外海で獲られた可能性がある。殻長は、79.1mmを測る。

・アカガイ　Anadara broughtonii

本種は、水深５～50mの内湾の砂泥底に生息する。H10グリッドから左殻１点が出土しており、殻高

表３　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における貝類同定結果

遺構名		分類群 学名	分類群 和名	部位	殻高(mm)	殻長(mm)	備考
H10	17	*Anadara broughtonii*	アカガイ	左	87.2	105.8	
01号井戸	33	*Crassostrea gigas*	マガキ	左			
01号井戸	一括	*Meretrix lusoria*	ハマグリ	左	約35	約45	残存部分
01号井戸	一括	*Haliotis*	アワビ属				
01号井戸	一括	*Turbo cornutus*	サザエ			79.1	トゲ有
01号池	380	*Crassostrea gigas*	マガキ	右			
01号池	572	*Crassostrea gigas*	マガキ	左			

87.2mm、殻長105.8mmを測る大形の個体である。

・マガキ　Crassostrea gigas

本種は、汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底や澪のような所の泥底に生息する。1号井戸から1点(左)、1号池から2点（左1右1）が出土している。やや大きな個体である。

・ハマグリ　Meretrix lusoria

本種は、潮間帯下部から水深20mの内湾の砂泥底に生息する。1号井戸から左殻1点が出土している腹縁の一部が破損しているが、残存部でおよそ殻高35mm、殻長45mmと推定される。

（3）考察

調査地は、18世紀前半は武家屋敷地に相当し、1号井戸と1号池から出土した貝類は屋敷内で生じた生ゴミと考えられる。また、近代には山梨県庁が建設され、その時に整地された土層からもアカガイが1点出土している。出土資料はいずれも食用となる貝種であり、中・近世には美味なもの、高級なものとして位置づけられる。18世紀に成立した『黒白精味集』ではアカガイ、アワビ、カキは「上」に、サザエ、ハマグリは「中」に格付けされている（松下・吉川・山下1988、1989）。このような高級食材が消費されていたことは、当地甲府藩柳沢氏の家老である平岡氏の屋敷地と推定されることと矛盾しないだろう。出土量は少ないが、江戸時代中期には内陸の山梨に、海産貝類が殻付きで持ち込まれていたことを示し、生食を目的としたものであった可能性も考えられる。甲府城下町遺跡では、18世紀～19世紀のカツオやタラなどの海産魚類が出土しており（山梨県立博物館編2008）、近世の流通技術の発達が窺える。現代でも山梨の煮貝は有名であり、江戸時代後期には製造されていたことが知られ、保存加工というだけでなく、加工することで旨みを引き出す効果があった（山梨県立博物館編2008）。食品加工技術の発達も内陸部における海産物の消費を促したことが推測される。

５．昆虫遺体同定

（1）試料と方法

試料は、県庁13号基礎18地点の1点である。堆積物に付着した状態であり、水とエチルアルコールを加えながら堆積物を泥化しながら分離した。同定は、肉眼および実体顕微鏡で観察して行った。

（2）結果

同定の結果、ガムシ属1が同定された（表4）。以下に観察された特徴を記す。

・ガムシ属　Hydrophilus　　ガムシ科

黒色を呈し、胸部と腹部が残存し、頭部、上翅をはじめ他は外れている。後胸突起が腹部まで長く達する。本試料は大きさが2.8cmほどで後胸突起が腹部のどこまで達するかが不鮮明であるため、ガムシ属の同定に留めた。ガムシおよびコガタガムシにあたる。

表４　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における昆虫遺体同定結果

試料名	分類群 学名	分類群 和名	部位
県庁13号基礎　18	*Hydrophilus* (Hydrophilidae)	ガムシ属 (ガムシ科)	胸部・腹部・その他

（3）生息環境

ガムシ属は池や沼など小さな止水に生息することから、県庁13号基礎18地点が池や沼の環境であったと考えられる。

6．まとめ

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点において、18世紀前半当時の武家屋敷の環境考古学分析を行った。18世紀前半の武家屋敷の庭に設けられていたと考えられる1号池の花粉分析では、コナラ属コナラ亜属が優占し、屋敷内および周辺地域および城下町にもコナラ属コナラ亜属の樹木が生育分布していたとみなされた。1号池の微細物分析において検出された炭片からはコナラ属コナラ節およびコナラ属クヌギ節が同定され、このことと一致する。花粉分析で検出されたマツ属複維管束亜属は炭片ではアカマツが対比され、コナラやクヌギなどのコナラ属コナラ亜属を主にアカマツ、クリの二次林種が城下町周辺の里山に分布していた。炭片は燃料に起因すると考えられるが、アカマツの炭片に木炭が含まれており、製炭された炭が供給され用いられていたとみなされる。

武家屋敷内または周辺には、花粉群集からイネ科を中心にアカザ科－ヒユ科、アブラナ科の生育が、種実群集からはスベリヒユ、ヒユ属、カヤツリグサ科を主にシソ属、イネ科、カタバミ属の生育がそれぞれ示唆された。いずれも排水の良いやや乾燥した人為環境に生育するやや小型の草本である。なお、オモダカ属が検出されていることから、1号池は滞水した環境であったと推定される。また、ツツジ科やサンショウ属も生育し、屋敷内に植えられていた可能性も考えられた。

18世紀前半の井戸と池、近代の遺物包含層（H10グリッド）から出土した貝類は、アワビ属、サザエ、マガキ、ハマグリが同定され、内陸の山梨に海産貝類が殻付きで持ち込まれていたことが示唆された。これらは当時比較的高級な食材であり、甲府藩柳沢氏の家老である平岡氏の屋敷地と推定されることと矛盾しない。

県庁13号基礎18地点の昆虫遺体は水生昆虫のガムシ属であり、当地が池や沼の環境であったことが推定された。

参考文献

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p. 82-102.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13, p. 187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p. 21-30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.

笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第2巻生業，雄山閣，p. 131－139.

南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナルNo. 355，ニューサイエンス社，p. 18－22.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p. 242.

日本昆虫学会（1955）原色日本昆虫図鑑甲虫編，保育社.

岡島秀治（1983）日本の甲虫．自然観察シリーズ15生態編，小学館.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝（1985）原色日本甲虫図鑑（Ⅱ），保育社.

森本桂（2007）新訂原色昆虫大図鑑第Ⅱ巻（甲虫篇），北隆館.

奥谷喬司編（2001）日本近海産貝類図鑑，東海大学出版会.

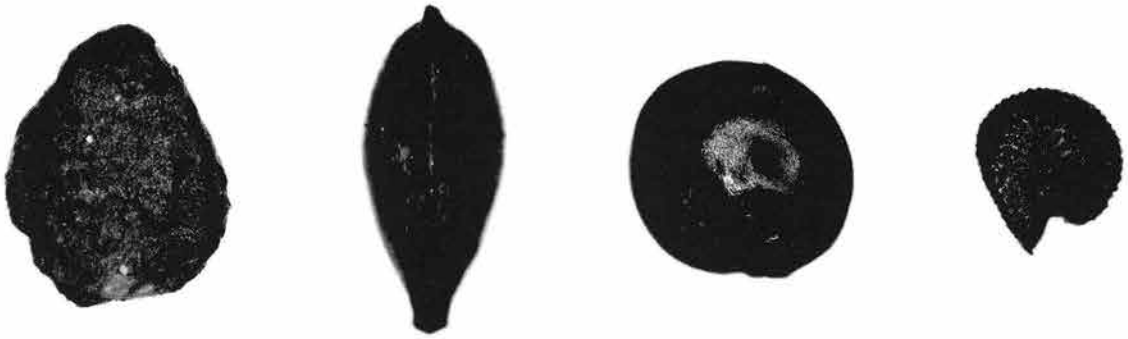
松下幸子・吉川誠次・山下光雄（1988）古典料理の研究（13）－『黒白精味集』について－．千葉大学教育学部研究紀要第36巻第2部．千葉大学教育学部，p. 307-346.

松下幸子・吉川誠次・山下光雄（1989）古典料理の研究（14）－『黒白精味集』中・下巻について－．千葉大学教育学部研究紀要第37巻第2部．千葉大学教育学部，p. 221-290.

山梨県立博物館編（2008）甲州食べ物紀行，山梨県立博物館.

甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の微細物(種実)

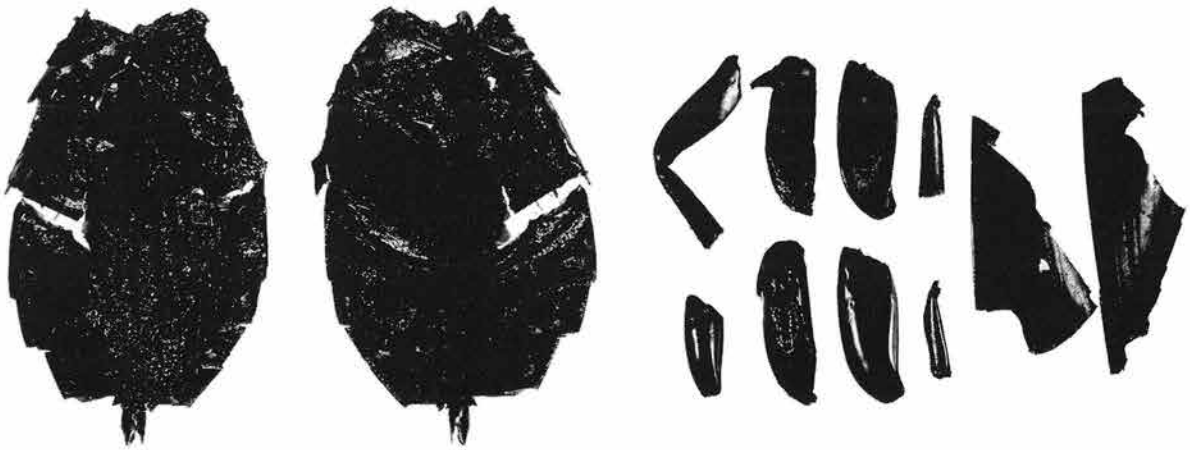
・１号井戸



1　イネ科穎　0.5mm　2　カヤツリグサ科果実　0.5mm　3　ヒユ属種子　0.5mm　4　スベリヒユ種子　0.5mm

5　スベリヒユ種子　0.5mm　6　スベリヒユ種子　0.5mm　7　カタバミ属種子　0.5mm　8　シソ属果実　0.5mm

甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の昆虫



5.0mm　5.0mm

ガムシ属（県庁13号基礎　18）

1　マツ属複維管束亜属

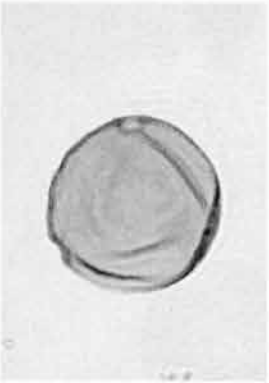
2　スギ

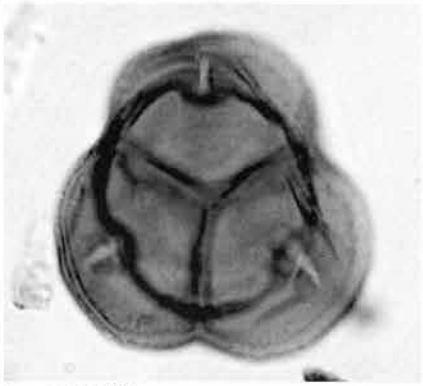
3　ハンノキ属

4　クリ

5　カバノキ属

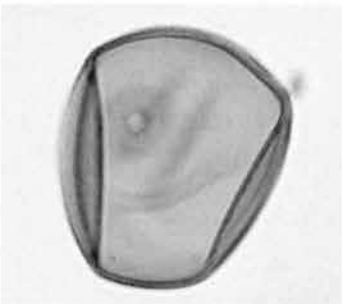
6　コナラ属コナラ亜属


7　エノキ属-ムクノキ

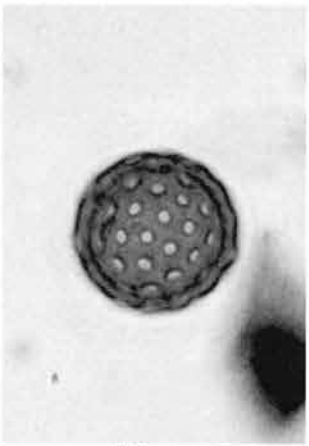

8　ツツジ科

9　マメ科

10　イネ科

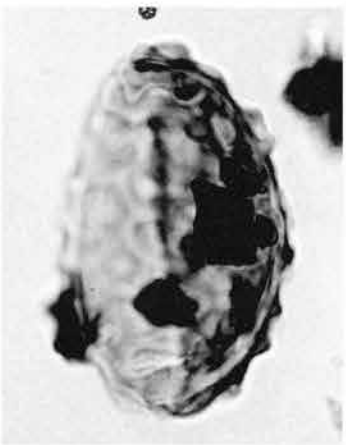

11　イネ属型

12　カヤツリグサ科


13　アカザ科-ヒユ科

14　ヨモギ属

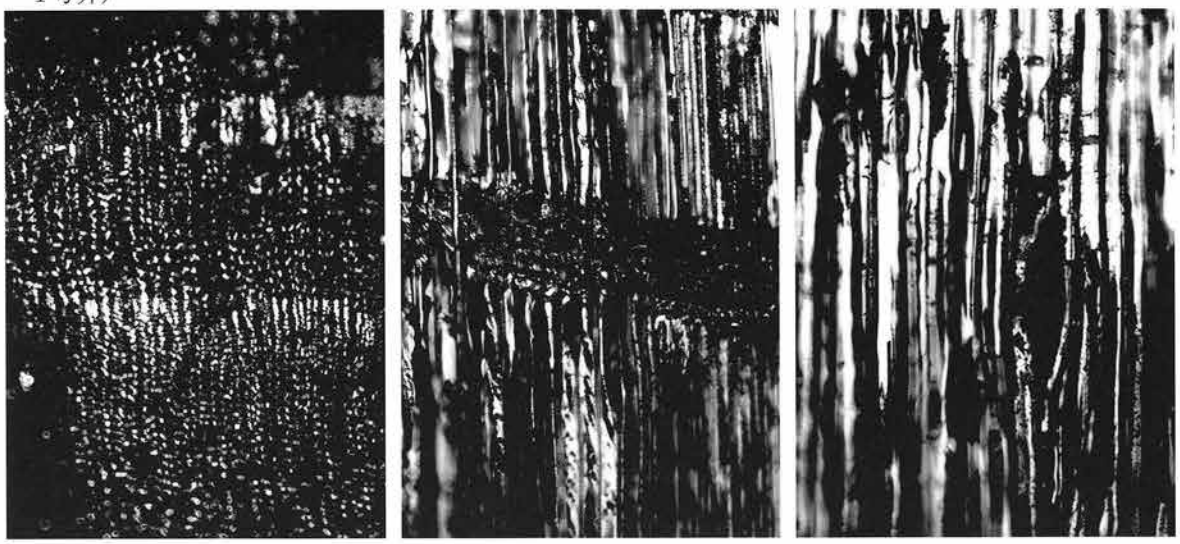
15　シダ植物三条溝胞子


16　回虫卵

10 μm

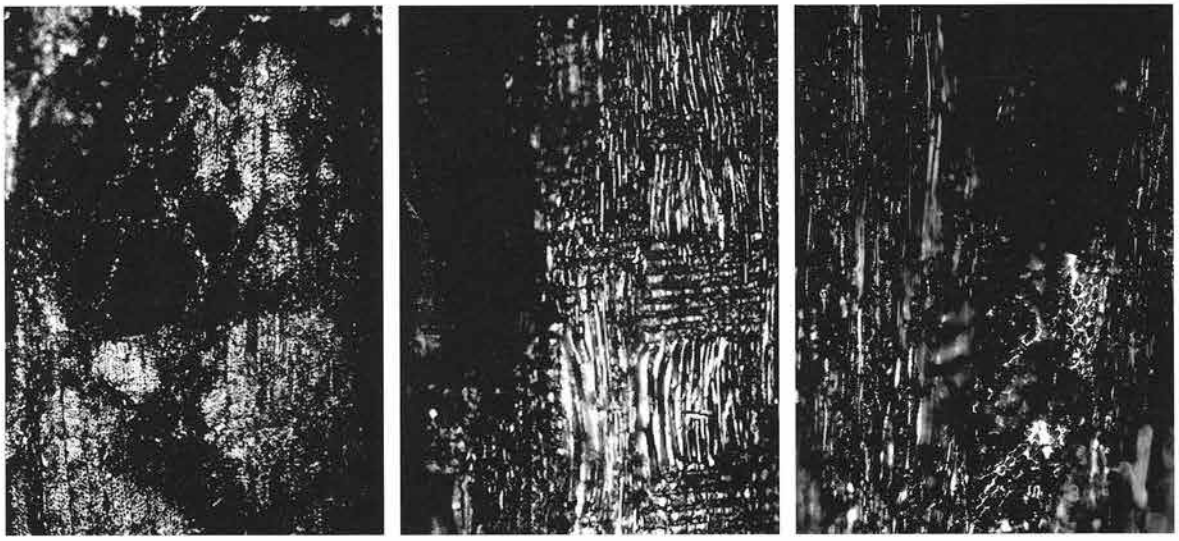
甲府城下町遺跡　市役所庁舎地点の微細物（炭片）

・１号井戸



横断面 ―――― ： 0.15mm　放射断面 ―――― ： 0.15mm　接線断面 ―――― ： 0.15mm

１．マツ属複維管束亜属

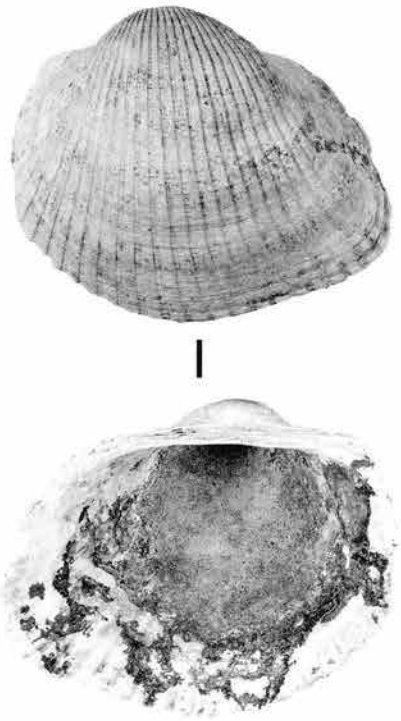


横断面 ―――― ： 0.3mm　放射断面 ―――― ： 0.15mm　接線断面 ―――― ： 0.15mm

２．コナラ属コナラ節

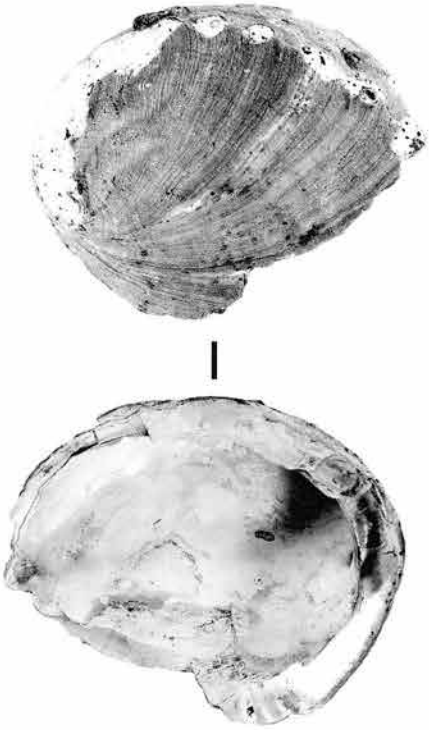
横断面 ―――― ： 0.3mm　放射断面 ―――― ： 0.15mm　接線断面 ―――― ： 0.15mm

３．コナラ属クヌギ節



1.0cm

アカガイ

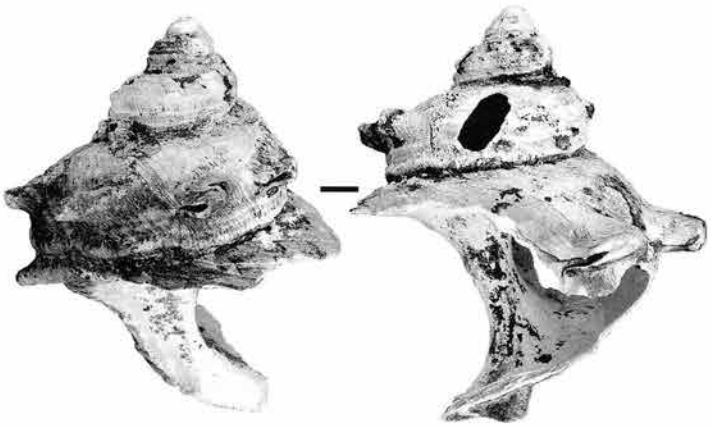


1.0cm

アワビ属

1.0cm

ハマグリ



1.0cm

サザエ

1.0cm

マガキ

第２節　樹種同定

株式会社古環境研究所

１．　はじめに

木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、出土した木材の樹種を明らかにすることで比較的近隣の森林植生の推定が可能である。また、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

ここでは、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点より出土した木材について、木材解剖学的手法を用いて樹種同定を行い、当時の木材利用について検討する。

２．試料

試料は、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点より出土した江戸時代中期～後期の木材 23 点と、明治時代の県庁（洋風建築）の基礎に用いられた木材 11 点の合計 34 点である（表１）。

３．方法

カミソリを用いて試料から新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４．結果

表１に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

１）カラマツ　Larix kaempferi Carr.　マツ科

写真１

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管および垂直、水平両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成さ

表１　甲府城下町遺跡市役所庁舎地点における樹種同定結果

通しNo.	番号	時期	結果（学名／和名）	
1	1号池211	江戸時代中期～後期	*Larix kaempferi* Carr.	カラマツ
2	1号池280	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
3	1号池188	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
4	1号池195	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
5	1号池276	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
	1号池276(横木)	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
6	54号ピット1_5	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
7	54号ピット1_1	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
8	55号ピット1_5	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
9	55号ピット1_1	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
10	29号ピット2	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
11	7号土坑5	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
12	県庁16号基礎3	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
13	2号井戸桶底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
14	1号井戸桶胴	江戸時代中期～後期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
15	2号井戸桶胴	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
16	県庁11号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
17	県庁9号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
18	県庁13号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
19	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
20	県庁10号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
21	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
22	県庁10号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
23	県庁10号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
24	県庁9号基礎枕木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
25	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ
26	1号池277	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
27	1号池279	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
28	8号土坑1	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
29	9号土坑1胴	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
30	9号土坑1底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
31	10号土坑1胴	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
32	10号土坑1底	江戸時代中期～後期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
33	1号池220	江戸時代中期～後期	*Tsuga*	ツガ属
34	県庁9号基礎胴木	明治時代	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.	アカマツ

れる針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は極めて急で、早材部と晩材部では仮道管の細胞壁の厚さの差が著しい。垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はトウヒ型からヒノキ型を示し、１分野に３～５個存在する。放射仮道管の有縁壁孔対の断面は、壁孔縁の先端が丸みを帯びるかややとがったものが多く、孔口も比較的大きい。軸方向仮道管の有縁壁孔が２列のものが見られる。

接線断面：放射組織は単列で１～20細胞高であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりカラマツに同定される。カラマツは本州（石川県、静岡県から宮城県まで）の主に亜高山帯に分布し、北海道では広く植栽されている。落葉の針葉高木で、高さ30ｍ、径１ｍに達する。材は耐久性が強く、建築材、土木材、造船材などに用いられる。

２）ツガ属　Tsuga　マツ科　写真２

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、１分野に２～４個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりツガ属に同定される。ツガには、ツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25ｍ、径50～80cmである。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

３）アカマツ　Pinus densiflora Sieb. et Zucc.　マツ科　写真３・４

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40ｍ、径２ｍに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

４）スギ　Cryptomeria japonica D.Don　スギ科　写真５

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40ｍ、径２ｍに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

５）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.　ヒノキ科　写真６

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で１分野に２個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40ｍ、径1.5ｍに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靭であり、耐朽性、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

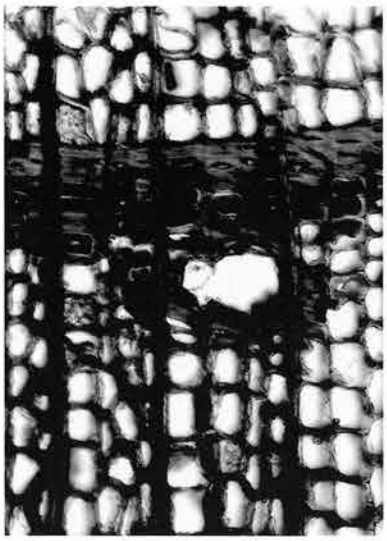
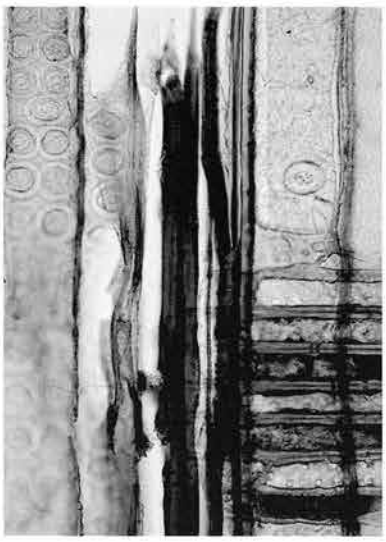
５．考察

同定の結果、甲府城下町遺跡市役所庁舎地点の木材のうち、江戸時代中期～後期の木材23点はスギ10点、ツガ属７点、ヒノキ５点、カラマツ１点であった。いずれも針葉樹であり、木理通直で大きな材がとれる材である。どれも良材であるが、スギやツガ属、カラマツは肌目がやや粗いのに対し、ヒノキは肌目も細かく特に保存性が高く、最良の木材の一つである。スギ、ヒノキ、ツガ（ツガ属）は温帯に広く分布する常緑針葉高木であり、コメツガ（ツガ属）

とカラマツは亜高山帯に分布する常緑針葉高木である。
明治時代の県庁（洋風建築）の基礎に用いられた木材11点は、全てアカマツであった。アカマツは温帯を中心に広く分布するが、二次林や里山を形成する常緑針葉高木である。木理はおおむね通直で肌目はやや粗いが、水湿に良く耐え、また強度の高い材である。そのため、アカマツが建築部材の中でも建物基礎に利用されたと考えられる。

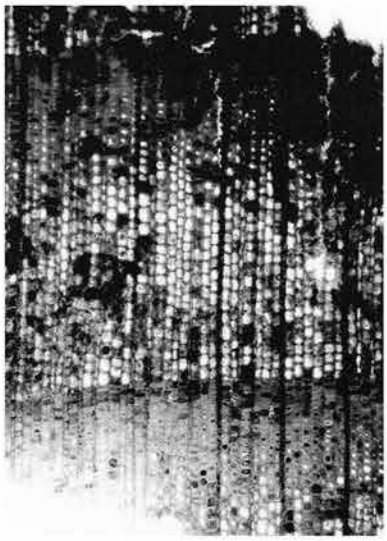
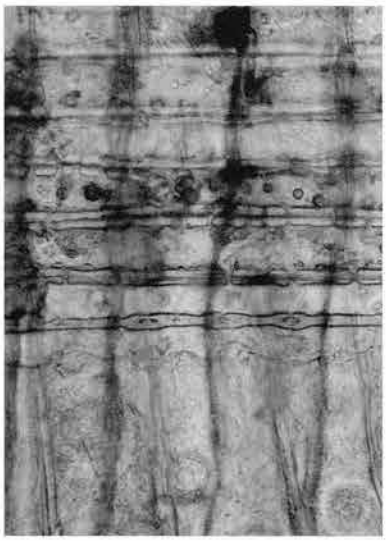
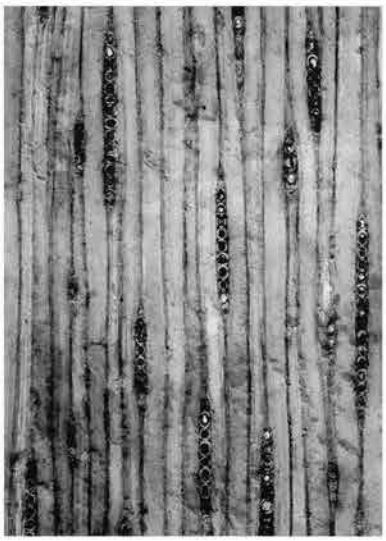
参考文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.
佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p. 242.

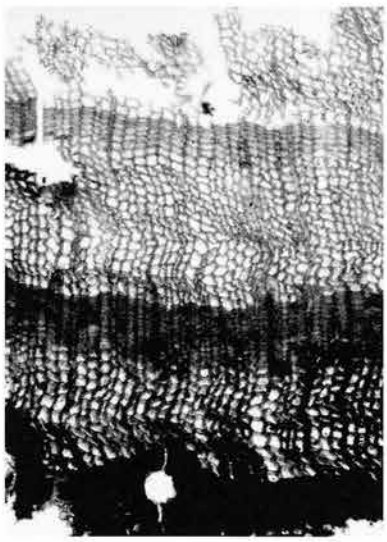
横断面 ―――― : 0.2mm　放射断面 ―――― : 0.1mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

1．1　M2　カラマツ

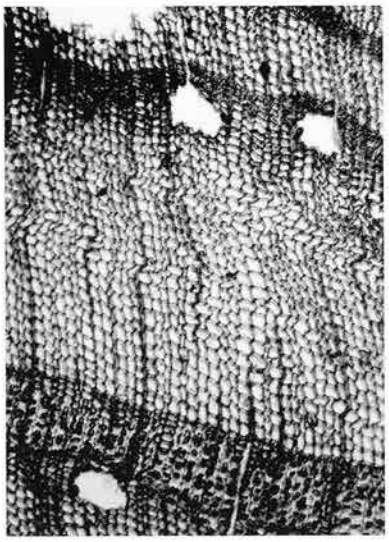
横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

2．7　M262　ツガ属



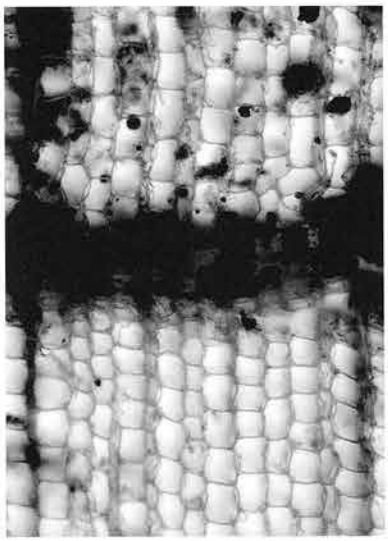
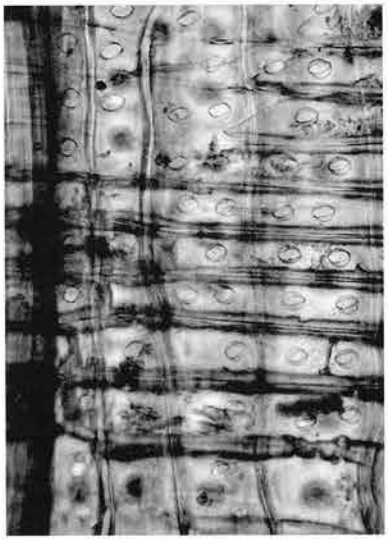
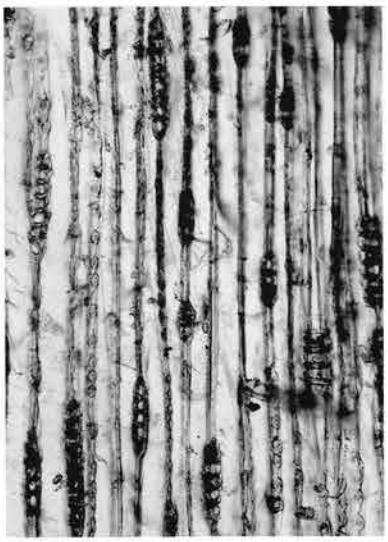
横断面 ―――― : 0.5mm　放射断面 ―――― : 0.05mm　接線断面 ―――― : 0.2mm

3．23　M312　アカマツ



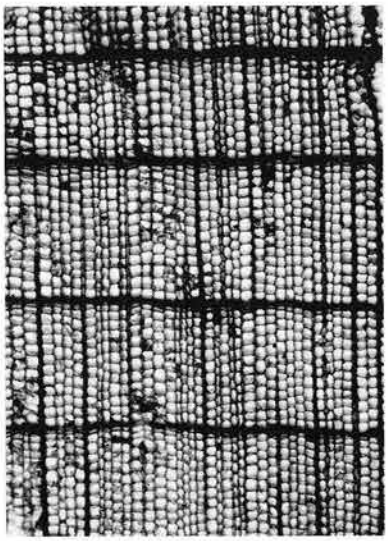
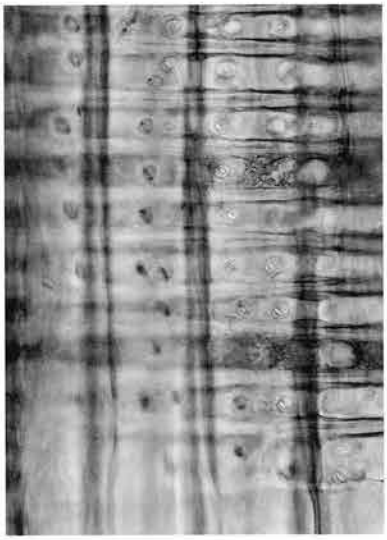
横断面 ―――― ：0.5mm　放射断面 ―――― ：0.05mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

4．25　M314　アカマツ

横断面 ―――― ：0.2mm　放射断面 ―――― ：0.05mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

5．15　M302-1　スギ

横断面 ―――― ：0.5mm　放射断面 ―――― ：0.05mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

6．4　M157　ヒノキ

第３節　人骨・動物骨同定

聖マリアンナ医科大学　澤田純明

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点から出土した近世～近代の人骨と動物骨について、肉眼形態学的検討を実施した。動物骨の計測はDriesch（1976）と茂原（1986）にしたがった。以下に、出土骨の観察所見を遺構別ないしグリッド別にまとめて報告する。なお、焼痕や明瞭な解体痕は見当たらなかった。

１号集石

ヒトの右上顎中切歯（写真1-6）。咬耗はMolnarの２度で、軽度である。舌側面はシャベル状を呈する。齲蝕はなし。歯冠に１本のエナメル質減形成が認められる。人骨は他に見つかっておらず、この上顎中切歯の由来は判然としない。

１号池

イヌの右上腕骨（写真1-14）と左大腿骨骨幹部（写真1-16）、ネズミ科の右下顎骨（写真1-7）、ニワトリの左足根中足骨（写真1-5）、および種不明の骨（らしき）小片が出土した。イヌ上腕骨の最大長は162mm。イヌの左大腿骨骨幹部も大きく、上腕骨と同じ個体のものと思われる。

イヌ上腕骨の最大長をもとに、山内（1958）のIII式で体高を復元したところ、48.1cmの値を得た。これは仙台城三ノ丸遺跡出土犬骨（茂原・小野寺，1985）の体高49.0cmに匹敵する大きさで、日本在来犬の中ではやや大型の部類に属する。中近世の遺跡で比較的大型のイヌが散見されることが確認されており（茂原・小野寺，1987）、本例もそうした様相に通じるものといえよう。

１号井戸

イヌの右橈骨（写真1-15）。最大長は137mmで、比較的大型である。

１号溝

シカの左脛骨骨幹後部断片（写真2-4）。

県庁１号基礎

マダイの右歯骨とタイ科の右舌顎骨（写真1-1・2）。

県庁３号基礎

スズキの腹椎（写真1-3）。

E11グリッド

ウマの左中手骨（写真2-5）と種不明四肢骨片。

E12グリッド

ブタ（またはイノシシ）の右肩甲骨（写真2-1）、シカの左中手骨（写真2-3）、タヌキの左肩甲骨、左上腕骨（写真1-9）、右尺骨（写真1-10）、左尺骨（写真1-11）、左大腿骨骨幹小片、尾椎。ブタの肩甲骨は小さく、関節窩の癒合が完了していないことから未成獣である。

F15グリッド

種不明鳥類の四肢骨小片２点。

G11グリッド

ニワトリの右大腿骨（写真1-4）と種不明魚類の背鰭棘。

H10グリッド

タイ科の血管棘。

H14グリッド

ブタまたはイノシシの右上腕骨（写真2-2）。

I5グリッド

種不明骨片。

I08グリッド

イヌの脳頭蓋（写真1-12）と左上顎骨（写真1-13）。脳頭蓋は大型であり、１号池出土四肢骨と同等のサイズのように見受けられる。

I11グリッド

ネコの右橈骨（写真1-8）。完形が保存。最大長は86mm。

まとめ

甲府城下町遺跡市役所庁舎地点から近世～近代のヒト上顎中切歯１点と動物骨約30点が出土した。動物骨は、少ない点数にも関わらず豊富な種類で構成されており、陸上動物ではイヌ、ネコ、タヌキ、ウマ、シカ、ブタ（またはイノシシ）、ネズミ、ニワトリが同定された。ほかにマダイやスズキといっ

た海産魚類も出土しており、内陸まで海産物が運ばれ消費されていた様相がうかがわれた。

謝辞

動物骨の同定に際し、京都大学名誉教授の茂原信生先生と宮城県東松島市奥松島縄文村歴史資料館の菅原弘樹館長より貴重なご教示を賜った。写真図版の作成には佐伯史子氏のご助力を得た。記して深謝の意を表したい。

文献

Driesch A. 1976. A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Press, Cambridge.

茂原信生．1986．イヌの骨格および歯の計測法．東京大学総合研究資料館標本資料報告，13（東京大学総合研究資料館所蔵長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ）：30-36.

茂原信生・小野寺覚．1985．仙台城三ノ丸跡出土の17世紀犬骨について．仙台市文化財調査報告書第76集，仙台市教育委員会，pp.547-559.

茂原信生・小野寺覚．1987．鎌倉材木座出土の中世犬骨．人類学雑誌，95：361-379.

山内忠平．1958．犬における骨長より体高の推定法．鹿兒島大學農學部學術報告，7：125-131.

（スケールバー：3cm）

1

3

4

5

2

（スケールバー：3cm）

第６章　まとめ

第１節　遺構の時代区分

今回の発掘調査では遺構の切り合い関係、出土遺物などから、近世・近代にかけて大きく３時期に分けて遺構を検出することが出来た。最も古い時期では宝永元年（1704）から享保９年（1729）の甲府藩柳沢氏の領有期のもので、記録にみられる城代の平岡将監屋敷の一部と考えられるものである。この時期の遺構としては１号池、２号集石、１号井戸などがあげられ、屋敷の庭の一部や、食生活の一部を窺うことが出来る。１号池は全貌を確認できたわけではないが、検出範囲のみで周囲 68.2 m、面積 138.4 ㎡の大きさである。池中には周囲 17.3 m、面積 22.2 ㎡の中島が作られている。ひょうたん形に見える池の括れ部には橋が架けられていたと考えられる。池の位置は調査区では西側に位置する。当時で考えると敷地東側が甲府城大手門から真っ直ぐに南下するメインストリートに面していたことになり、東側が表である。一方、西側は甲府城二の堀に面した屋敷の奥になり、１号池は屋敷の奥に設けられた庭園に作られていたといえる。１号池の脇の２号集石では敷き詰められた小石の中に橋へと向かう飛び石が並べられていた様子がわかる。池の縁辺には杭が打たれ土留め板で池の上端が保持されている。その後、１号池と同じ位置に明治期の山梨県庁、昭和期の水道局倉庫が建築されたため、１号池は上部に削平を受け、検出状況では飛び石と池の上端には落差が認められるが、当時は池の上端がより高く、飛び石と平坦面あるいは緩斜面でつながっていたと考えられる。１号井戸からは貝類でマガキ、ハマグリ、アワビ、サザエなどが検出され、いずれもその大きさが大きいことが特徴である。食材としても高級品であるこれらの貝が、内陸の地でしかも大ぶりなものが消費されていたということは、屋敷内での食生活の豊かさを示す貴重な資料となっている。

次の時期区分として享保９年の柳沢氏の大和郡山移封後から幕末までの甲府勤番支配期がある。前述の１号池は陶磁器や土器ばかりではなく、柱などの建材や手鏡の枠、羽子板、下駄、曲物、漆器、桶、柄杓などの日用品が投げ込まれて埋められている。１号井戸も埋められて脇に２号井戸が新設されている。５mの深さを持ち地下水を汲み上げる方式の１号井戸に対し、２号井戸は甲府上水を敷地内に引き込み、大型の桶に貯める方式の井戸である。敷地北側から、底面に粘土が貼られた９号溝が２号井戸まで続いている。９号溝は２号井戸へ到達する直前で埋められた１号井戸の上を通過している。また、９号溝には中継地点として３号井戸が設けられている。この井戸は大手役宅の絵図面上の広場にみられる井戸（流し）に相当すると考えられる。２号井戸が口径 70 ㎝、底径 80 ㎝、深さ 90 ㎝の大型な桶であるのに対し、３号井戸は底径 40 ㎝、残存部位で深さ 20 ㎝の桶である。この桶には胴部に直径 2.5 ㎝の穴が一つと幅９㎝、残存部位で高さ４㎝の四角い窓が一つ開けられている。四角い窓には上水を送水する樋が設置されていたと考えられる。確認できたのは南側の出水側だが北側にも同様に取水側の樋を受ける窓が設けられていたと考えられる。そして、小さな丸い穴が送水途中の地点で上水を利用するための蛇口のような役割を果たしており、これが絵図に見る井戸（流し）の正体であると思われる。

２号井戸の西隣には壁面や底面が焼けた土坑（１号～６号・30 号）が集中している。ここは土間であり、土坑はカマドと考えられる。絵図面中にも井戸の脇には下台所、土間という表記が見て取れる。また、土坑周辺の土層断面の観察から三和土を作ってから、その範囲内で土坑を掘り込み作り替え、移設を繰り返していると考えられる。また、最も新しい１号・２号土坑が円形で焚口が北側を向いているのに対して、それ以前の３号～６号・30 号土坑は方形で焚口が西を向いているという差異が認められるが、いずれにしても水場と炊事場は隣接して長期にわたりセットで使用されていたと考えられる。また、調査区東側では大手役宅の表門から玄関の間に敷かれていた小石と考えられる１号集石が検出されている。１号集石では塀の礎石列と考えられる直行する石列が２条検出されている。

埋められた１号池には新たに埋め桶（７号～ 10 号・13 号土坑）などが設置されている。湯殿や厠といった関連の施設が作られていたと考えられる。

そして、次の時期にこれらの埋め桶も削平を受けて、明治 10 年（1877）に山梨県庁新庁舎が建築されている。検出されたのは内務省型とよばれるＥ字形をした県庁の正面玄関と両翼部の一部である。杭を打ち玉石で補強し、その上に枕木、胴木、根石、礎石と重ね、その隙間を更に玉石で充填することで胴木以下のアカマツを用いた材木が水に浸かるように集水するという基礎構造が明らかになった。

第２節　県庁舎建設前史

1. はじめに

維新直後、大手役宅を県庁舎として利用した後、明治10年（1877）、Ｅ字形平面をなす洋風庁舎を建設した。すでに『山梨県史』[1]に関係資料が翻刻されるとともに、植松光宏氏は県下洋風建築を集成し[2]、石田潤一郎氏は全国都道府県庁舎に対する建築史的考察を行う中で、山梨県庁舎の建築経緯・工費・規模など基礎的諸事実を明らかにし、建築的様態について詳しく考察している[3]。ここでは関係資料を収集するとともに先学に導かれつつ建築経緯を辿ってみる。

2. 建設経緯

維新以降、新庁舎建設までの経緯を踏まえておく。

(1) 甲府城内への移転計画

「御一新ノ際、取敢エズ元甲府勤番支配役宅ヘ修繕ヲ加ヘ[4]」庁舎として利用した。江戸期より多くの年月を経過した建物は、すでにその当初より建替えが問題となっていたようである。明治４年（1871）、城内の楽屋敷と称す建物を修繕した後、転用する許可を大蔵省へ求めている[5]。と同時に役割を終えた役宅や陣屋などを官員住宅として利用する計画であったが、これは不許可となっている[6]。翌年、見積・図面等を添え移転計画は再協議されたが、陸軍省の許可が得られず、従来の建物を修築して利用するよう指示された[7]。

(2) 裁判所設置に伴う改修計画

明治５年（1872）８月８日、大小切税法の廃止が布告された。この後、県下各地で反対運動が起こり、24日の若尾邸焼き討ちを経た９月３日、騒動参加者への弾圧・逮捕へといたる。逮捕者の取調べ・審理のため県庁内に裁判所が設置されることとなり、この過程で改築工事が実施された[8]。翌年２月、工事の精算報告を行い、工事経費462円39銭１厘（以下462.391円のように表記する）の1/3、154.130円を官費支給分として請求している[9]。この頃、山手役宅は県病院及び官員住居として活用されており[10]、明治８年（1875）２月の移転まで病院として利用されたのち民間に払い下げられたようだ[11]。

(3) 新築計画

明治８年２月10日、区長連名の申し出を添え庁舎新築の上申を行った。申し出には「庁中ノ体裁ハ中央ニ長次官ノ席ヲ設ケラレ、諸局ヲ左右前後ニ配置」し、「西洋形ニ擬シ」などと記載され[12]、洋風庁舎で平面形もＥ字もしくはＩ字形とするよう時流を反映した要望を挙げている。翌月、内務省より見合わすよう指示され、いったんは却下された。同年12月15日付にて再び新築の上申を行っている[13]。以後の経緯については石田氏が詳細に考察しており、冗長ともなるため一表にする（表1）。

資料№	日付	内容	
資料(10)	M8年12/15	庁舎新築の上申	元勤番支配の役宅を維新以降、修理・増築して使用してきたが、年間500～600円の修繕費がかかる。新築経費として15,000円程を見込む。
	M9年3/13	指令	国事、多端につき当分見合わせること。
資料(12)	M9年3/18	庁舎改築の再上申	増員により民家に間借りし、事務遂行している。再度、新築許可を求める。
	M9年4/1	指令	経費縮減・見直し後、内訳帳・図面を添えて伺い出すこと。
資料(13)	M9年5/5	新築経費概計を報告	経費内訳帳・図面を提出。外観虚飾を省き、古物、懲役囚を使用するなど経費を削減する予定。
	M9年7/24	指令	会食所・客用便所は不要。門番所を除き、総建坪500坪以内とし、見直し後、再稟議すること。
資料(14) 資料(15) 資料(16)	M9年8/1	新築経費を報告	経費内訳帳・図面を添え、総事業費13,396円12銭9厘とする。
	M9年10/31	指令	算出額13,396円12銭9厘の内2,517円77銭3厘を減額し、10,878円35銭6厘を事業費とする。経費内訳は1/3は官費、2/3は県費とする。
資料(17) 資料(18)	M9年11/13	庁舎建築のため富士川町旧代官所へ移転し、仮庁舎にて事務取扱を開始する。	
資料(21)	M9年11/14	用材の払い下げ願い	国有林の杉・松・栗など計3,742本、金銭にして188円18銭7厘の払い下げを願う。
	M9年12/1	指令	許可となり、代金は大蔵省出納寮へ納めるよう命じる。
資料(23)	M9年11/18	経費請求について	事業費の一部を請求する。
	M9年12/2	指令	官費支給分(3,626円11銭9厘)の内2,500円を支給する。
資料(28)	M10年8/13	経費増額について	敷物代と運送賃が見積より遺漏していたため1,630円30銭5厘増額を願う。
	M10年10/3	指令	経費削減を図った後、再上申すること。
資料(31)	M10年10/19	経費請求について	10年度経費として4,000円を請求する。
	M10年11/6	指令	9年度経費として2,500円支給したが、1,282円32銭9厘過剰に支給したため返納すること。10年度経費は請求額に過剰分を加えた5,282円32銭9厘とする。
資料(35)	M10年11/19	落成式挙行の通達	11/23日午後2時、礼服着用のうえ出頭を命じる。
資料(36)	M10年12/3	開庁報告	11月30日事務取扱の開始を報告
資料(39)	M11年3/7	経費請求について	10年度経費として5,297円61銭を請求する。敷物等の超過分及び暴風被害による追加工事分を加え総事業費14,232円95銭1厘となる。
	M11年6/26	指令	格別の詮議をもって聞届け支給する。
資料(40)	M11年4/4	工事費増加につき内務省より県へ始末書の提出を命じる。	
資料(41) 資料(46)	M11年4/23	県上申書及び藤村県令の進退伺を内務省へ提出する。	
資料(47)	M11年10/22	藤村県令、譴責処分をうける。	

表1. 県庁建築経緯(明治8年～11年)

①起工から竣工まで

明治９年（1876）10月31日付で事業決定[14]を受けた後、翌月13日に仮庁舎で事務取扱を開始した[15]。翌14日付で国中三郡、24ヶ村の官林から3,742本の用材、金額にして188.187円の払い下げを内務省に申し立て、12月１日付で許可を受けた。この間、用材の伐採から搬出・運送まで請負希望する者に対し、申し出るよう各村々へ通達している[16]。資料（26）は工事の進捗状況について「十二月中、用材伐出ニ取リ懸リ、今年四月ニ至リ大工其ノ他ノ職工ヲ雇入レ工事着手致シ候処、六月迄ニ凡ソ三分

通り落成致シ候」と記載する。
実質的な工事着手は、用材・職人とも確保した4月になってからと判明する。

明治10年(1877)10月、風害による追加工事を実施し[17]、翌月23日に開庁[18]、30日に事務取扱を開始している[19]。開庁に先立ち11月5日付で各課へ新庁舎に持ち込む備品等について指示を出し、編纂局などは16日付で持込品などを報告している[20]。竣工日は判然とせず、11月16日～23日間となろうか。約1年に及ぶ建設事業であった。

②経費

当初、工費は「本屋」ほか附属屋5棟に門・柵を加え13,396.129円と算出されていた。各建物の内訳が判明するが、単価等の算出基礎が明示されているのは「大工方」「人足方」「材木方」に限られ、他の「鍛冶方」「屋根方」「壁方」「建具方」「張付方」「地形方」「石方」「塗師方」「ペンキ塗方」などは総額が記入されているだけである(表2)。内務省は「標準例」に基づき2,517.773円を削減し、総工費10,878.356円として許可している[21]。工事期間中、敷物代及び物品運送賃1,287.703円と風害による追加工事費2,066.892円が増加したため総工費は14,232.951円となり、当初より3,354.595円増加している(表3)。

資料(39)に「人民控所」の精算額が載っていないものの、資料(15)に見積額が計上され、資料(48)には修繕の記録もある。一方で精算に際し見積段階にない「雑費」という項目が登場し、1,200円余を計上しているが、これは敷物代及び物品運送代のことであり[22]、資料(39)の合計自体に齟齬は見られず、単に遺漏でもないようだ。こうした表面的な矛盾は、風害後の対処により引き起こされていた。この時、庁舎以外にも勧業製糸場や民家にも被害が及び、この対応のため県は「附属建物ノ中、差向キ新築ヲ要セサルモ格別差シツカエコレ無キ分ハ、暫ク旧形ニ据置キ、其ノ減費ヲ以テ」費用増加分に充当するという方針を立てた[23]。このため費用不足により「人民控所」の建設を取り止めた結果、精算書にその記載がないのであろう。資料(48)に載る修繕の記録は引き続き使用され、「旧形ニ据置」かれた人民控所のことであろう。

建物	内訳	金額	延べ数	単価	備考
本家	内訳 大工方	1,624円87銭5厘	6,499.5人	1人/25銭	
	鍛冶方	464円25銭			
	屋根方	988円50銭			
	壁方	698円25銭			
	建具方	464円25銭			
	張付方	123円80銭			
	地形方	682円60銭			
	石方	387円5銭			
	人足方	774円18銭	合4,301人	1人/18銭	
	材木方	4,098円60銭	合2,277本	1本/1円80銭	
	小計①	10,306円35銭5厘	二階建508坪	1坪/40円57銭6厘余	屋根瓦葺
人民控所	内訳 大工方	168円	672人	1人/25銭	
	鍛冶方	46円			
	屋根方	216円			
	壁方	69円19銭5厘			
	建具方	37円25銭			
	地形方	53円62銭8厘			
	石方	8円64銭			
	人足方	69円12銭	合384人	1人/18銭	
	材木方	312円	合240本	1本/1円30銭	
	小計②	979円83銭3厘	96坪	1坪/10円20銭6厘余	梁間4間・桁行24間 屋根瓦葺、軒高1丈1尺
湯呑所	内訳 大工方	19円25銭	77人	1人/25銭	
	鍛冶方	4円35銭			
	屋根方	24円75銭			
	壁方	3円50銭			
	建具方	2円75銭			
	地形方	1円80銭			
	石方	1円4銭			
	人足方	6円48銭	合36人	1人/18銭	
	材木方	35円75銭	合27.5本	1本/1円30銭	
	小計③	99円67銭	11坪	1坪/9円6銭余	梁間3間・桁行3間 屋根瓦葺、廊下6尺に2間
便所	内訳 大工方	10円	40人	1人/25銭	
	鍛冶方	2円50銭			
	屋根方	17円50銭			
	地形方	1円25銭			
	壁方	8円28銭			
	人足方	4円50銭	合25人	1人/18銭	
	材木方	31円79銭5厘			
	小計④	75円82銭5厘	7坪(廊下含)	1坪/10円80銭余	
表門	内訳 大工方	21円25銭	85人	1人/25銭	
	鍛冶方	17円55銭			
	石方	8円83銭5厘			
	塗師方	9円48銭9厘			
	人足方	6円48銭	合36人	1人/18銭	
	材木方	23円66銭	合11.83本	1本/2円	
	小計⑤	87円26銭4厘			左右潜附
裏門	内訳 大工方	10円75銭	43人	1人/25銭	
	鍛冶方	5円63銭			
	石方	4円25銭			
	塗師方	6円36銭			
	人足方	3円42銭	合19人	1人/18銭	
	材木方	9円65銭6厘	合5.68本	1本/1円70銭	
	小計⑥	40円6銭6厘			
表門番所	内訳 大工方	15円	60人	1人/25銭	
	鍛冶方	4円97銭5厘			
	屋根方	25円87銭5厘			
	壁方	8円45銭			
	建具方	9円60銭			
	地形方	6円37銭5厘			
	石方	3円30銭			
	人足方	8円10銭	合45人	1人/18銭	
	材木方	39円37銭5厘	合26.25本	1本/1円50銭	
	小計⑦	121円5銭	7.5坪	1坪/16円14銭	梁間2間半・桁行3間 屋根瓦葺、軒高1丈
裏門番所	内訳 大工方	8円	32人	1人/25銭	
	鍛冶方	2円80銭			
	屋根方	13円80銭			
	壁方	6円30銭			
	建具方	6円80銭			
	地形方	3円60銭			
	石方	2円40銭			
	人足方	5円4銭	合28人	1人/18銭	
	材木方	21円30銭	合14.2本	1本/1円50銭	
	小計⑧	70円4銭	5坪	1坪/14円8厘	梁間2間半・桁行2間 屋根瓦葺、軒高9尺
吹抜角柵矢来(東～南)	内訳 大工方	187円50銭	750人	1人/25銭	
	鍛冶方	2円50銭3厘			
	石方	79円94銭			
	ペンキ塗方	164円47銭5厘			
	人足方	56円25銭	合312.5人	1人/18銭	
	材木方	265円63銭4厘	合132.817本	1本/2円	
	小計⑨	756円30銭2厘	長延125間・高7尺		矢来下石垣積直し長延べ 129間・石橋2ヶ所
板打丸太柵矢来(西～北)	内訳 大工方	209円25銭	837人	1人/25銭	
	鍛冶方	82円11銭5厘			
	塗師方	44円64銭			
	人足方	100円44銭	合558人	1人/18銭	
	材木方	423円27銭9厘			
	小計⑩	859円72銭4厘	長延186間・高8尺		
合計		13,396円12銭9厘			

表2.建設見積額～資料(15)より作成

No.	建物(構造物)	見積額※①	精算額※②	増減額	増減率
1	本屋	10,306円35銭5厘	11,012円95銭6厘	706円60銭1厘	6.86%
2	人民控所	979円83銭3厘	—	—	
3	湯呑所	99円67銭	134円45銭5厘	34円78銭5厘	34.90%
4	便所	75円82銭5厘	72円51銭4厘	▲3円31銭1厘	4.37%
5	表門	87円26銭4厘	87円91銭2厘	64銭8厘	0.74%
6	裏門	40円6銭6厘	40円69銭6厘	63銭	1.57%
7	表門番所	121円5銭	126円96銭8厘	5円91銭8厘	4.89%
8	裏門番所	70円4銭	86円96銭7厘	16円92銭7厘	24.17%
9	吹抜角柵矢来(東～南)	756円30銭2厘	722円43銭4厘	▲33円86銭8厘	4.48%
10	板打丸太柵矢来(西～北)	859円72銭4厘	660円34銭6厘	▲199円37銭8厘	23.19%
11	雑費	—	1,287円70銭3厘	—	
	見積計	13,396円12銭9厘	—	▲2,517円77銭3厘	※③ 23.14%
	合計(査定額)	10,878円35銭6厘	14,232円95銭1厘	3,354円59銭5厘	30.84%

表3.建設費見積・精算対比表

※①は資料(15)より、※②は資料(39)より、※③は見積計と査定額との増減率を示す。

③図面

i『石田氏前掲書』所載平面図（図1）

中央部を前面に、両翼を前後に突出させたＩ字形であり、明治９年10月時点の計画案であった。氏はこのデザインを「洋風に整えられているが、部屋割りや廊下配置はぎこちなく、特に通路に不必要な面積が割いてあって、無駄が多い」と評する。

ii『山梨県史』所載平面図（図2）

資料（15）に続き掲載されている。題字・注記など無くいかなる図面かも判然としなかったが、石田氏が計画案とした図１に酷似したデザインであるため庁舎平面図と判断した。図１とは異なる箇所も多々あり、一階では右翼部の部屋割りと背後に廊下・階段を設けている点、湯呑所の廊下が短い点、左翼部の部屋割りなどに違いがあり、二階は右翼部北側に至る廊下と階段がある点、中央部及び左翼部に廊下を設けていることなどが挙げられる。

iii『石田氏前掲書』所載平面図（図3）

明治32年（1899）時点の平面図であり、事務室名などが注記されている。中央と左右両翼を前方に突出させたＥ字形であり、一・二階とも前方にベランダをめぐらしている。

iv『明治天皇御巡幸紀』[24] 所載平面図（図4）

明治13年（1880）、本県への行幸に際し県庁舎へ臨幸した。平面Ｅ字形となる平面図が掲載され、附属屋などが詳細に表現されている。

発掘調査から本書作成の過程で県庁舎の設計図・仕様書・その他図面などを捜し求めてきたが、以上４種の平面図を知ることができた。平面Ｉ字形となる図1.2とＥ字形となる図3.4に大別でき、すでに石田氏が指摘するように設計変更されたため２種の図面が存在し、図1.2は計画案で、図3.4が完成形となろう。

内容	内訳	金額	延べ数	単価	備考
囲板塀風破修繕	大工方	7円95銭	26.5人	1人/30銭	
	鍛冶方	1円13銭6厘			
	内訳 5寸釘	16銭3厘	130本	100本/12銭5厘	
	4寸釘	22銭	275本	100本/8銭	
	2寸釘	75銭3厘	2150本	100本/3銭5厘	
	ペンキ塗方	11円26銭8厘	25坪6号1夕	1坪/44銭	
	大工手伝人足	1円44銭	7.2人	1人/20銭	
	材木方	1円88銭			
	内 5分1尺	1円76銭	32枚	1枚/5銭5厘	松長6尺
	4寸角尺〆	12銭	尺〆8厘	1本/1円50銭	松長6尺
	小計	23円67銭4厘	長15間半		
敷物敷替	ヅーク代	19円47銭	16坪5号	1坪/1円18銭	
	形置代	2円20銭		1坪/13銭3厘3毛3絲	
	敷込賃	91銭8厘		1坪/5銭5厘6毛3絲	
	小計	22円58銭8厘			
手摺設置	大工方	3円15銭	10.5人	1人/30銭	
	鍛冶方	19銭3厘			
	内訳 5寸釘	11銭3厘	90本	100本/12銭5厘	
	肘坪	4銭	4組	1組/1銭	
	掛金	4銭	4組	1組/1銭	
	大工手伝人足	40銭	2人	1人/20銭	
	材木方	1円22銭9厘	尺〆4分9厘2毛	尺〆1本/2円9銭1厘	
	小計	4円77銭2厘	長3間半		
張金物設置	鉄張金物	7円38銭	246組	1組/3銭	
窓日覆設置	晒天竺木綿母衣仕立日覆	33円4銭6厘	26掛	1掛/1円27銭1厘	
	日覆真	5円59銭	26組	1組/21銭5厘	
	取付金物	3円18銭5厘	130組	1組/2銭4厘5毛	
	取付賃	2円2厘	26組	1組/7銭7厘	
	小計	43円82銭3厘			
門番所窓日覆設置	晒天竺木綿母衣仕立日覆	14円	11掛	1掛/1円27銭2厘7毛	
	取付賃	26銭5厘	11掛	1掛/2銭4厘9絲	
	小計	14円26銭5厘			
湯呑所他窓日覆設置	晒天竺木綿日覆	6円80銭	10掛	1掛/68銭	
	取付賃	13銭	10掛	1掛/1銭3厘	
	小計	6円93銭			
硝子破損嵌替	硝子板	15円75銭	105枚	1枚/15銭	
	嵌込賃	1円19銭3厘	105枚	1枚/1銭1厘3毛6絲	
	小計	16円94銭3厘			
柵矢来風破修繕	大工方	19円50銭	65人	1人/30銭	
	ペンキ塗方	4円62銭	10坪5号	1坪/44銭	
	手伝人足	1円60銭	8人	1人/20銭	
	材木方	3円19銭5厘	尺〆8分8厘	尺〆1本/3円63銭1厘	
	小計	28円91銭5厘	長15間半		
人民控所中仕切その他修繕	大工方	3円60銭	12人	1人/30銭	
	鍛冶方	49銭5厘			
	内訳 5寸釘	6銭3厘	50本	100本/12銭5厘	
	4寸釘	8銭	100本	100本/8銭	
	1寸5分釘	35銭2厘	1174本	100本/3銭	
	硝子障子代	1円16銭	1本		
	ペンキ塗	3円96銭	9坪	1坪/44銭	
	大工手伝人足	1円8銭	5.4人	1人/20銭	
	材木方	4円79銭8厘			
	内訳 羽目板	2円85銭	30枚	1枚/9銭5厘	杉長7尺
	角尺〆	1円94銭8厘	尺〆5厘3毛	尺〆1本/1円85銭	
	小計	15円9銭3厘			
本舎根太その他修繕	大工方	9円	30人	1人/30銭	
	鍛冶方	56銭			
	内訳 5寸釘	25銭	200本	100本/12銭5厘	
	4寸釘	24銭	300本	100本/8銭	
	3寸釘	7銭	140本	100本/5銭	
	小計	9円56銭			
本舎屋根修繕	亜鉛板	7円87銭5厘	7枚	1枚/1円12銭5厘	幅3尺×長6尺
	同前葺手間	1円50銭	5人	1人/30銭	
	尾葺手間	60銭	2人	1人/30銭	
	手伝人足	80銭	4人	1人/20銭	
	小計	10円77銭5厘			
用水樋伏替修繕	大工方	13円50銭	45人	1人/30銭	
	6寸釘	7円20銭	600本	1本/1円20銭	
	手伝人足	1円80銭	9人	1人/20銭	
	材木代	19円24銭	尺〆10本4分	尺〆1本/1円85銭	
	埋込人足代	6円	30人	1人/20銭	
	埋込用ヘナ土	7円20銭	90荷	1荷/8銭	
	水口石蓋代	55銭6厘	1枚		
	小計	55円49銭6厘			
合計		260円21銭4厘			

表4. 明治11年庁舎修繕費～資料(48)より作成

3. 附属屋の建設・維持管理

庁舎建設直後から更なる附属屋の建設を行うなど引き続き営繕事業を実施している。ここでは建設直後、明治11年（1878）の状況を取り上げる。

庁舎建設中の明治10年（1877）8月、地券台帳その他保存すべき帳簿多数のため、内務省に図面・見積書を添え物置の建設許可を求め、11年度予算で着工するよう指示を受けている[25]。県は指示通り翌年7月再び申し出を行い、見積どおり総工費1,685.415円を要し、土蔵造りの梁間5間・桁行

15間の物置建設を9月20日付にて許可された[26]。約一ヵ月で竣工したらしく、県は10月15日に費用請求している[27]。

この年、7月から9月の三か月分営繕経費として260.214円を内務省に請求している[28]。廊下への手摺設置や庁舎ほか門番所・湯呑所などに日除けのカーテンを設け、台風被害に遭ったのか風損により板塀・柵矢来を修繕し、105枚の硝子替えを行っている（表4）。他に庭木の手入れ37.592円などの経費もあり[29]、県は庁舎建設直後から更なる附属屋の建設を行うとともに、庭木の維持管理や建物修繕などに引き続き多額の経費を必要としている状況が明らかである。

4. その他資料

(1) 図

ⅰ「山梨県庁平面図」山梨県立博物館蔵（図5）

東面して入口を設け、東側街路に沿って建物が並らぶ状況が表現されている。江戸期の役宅図面と規模・平面形・屋敷構えなど基礎的要素に変化なく維新後、明治9年まで役宅を転用・利用していた時を表現している。改築・修繕を受けてはいるものの、役宅の最終形を伝える図となる。

ⅱ「甲府日々新聞」（図6）

明治9年9月25日号に掲載されている市内鳥瞰図である。東側街路に面して門を構え、門から主要建物に向け通路が通じ、東面して玄関部が開口する。玄関脇に県旗を立て、周辺に附属屋が並ぶ状況が表現されている。明治9年11月13日には仮庁舎で事務取扱を開始しているため解体直前の姿を伝える図である。

ⅲ「大正期の甲府市街図」（図7）

E字形庁舎の前面に泉水が、背後に通路で繋がれた議事堂ほか附属屋が建ち並ぶ状況が表現されている。敷地全体、建物群まで表現した図は数少ないものである。庁舎は、昭和初年に移転・新築するため庁舎が最も整備された状況を伝える図であろう。

(2) 写真

数葉の画像が知られ、そのほとんどが正面から撮影されたものである。写真1はそれほど庭木も目立たないため竣工後、時間を経ず撮影されたものであろう。写真3からは門の変更が判明する。

5. 結語

明治4年以降、庁舎建設に際し中央官庁との往復文書や村々への布達など多くの資料を確認していくなかで様々な知見が得られたが、一方で設計図や仕様書など核心的な資料は得られなかった。県庁平面図と伝わる図5や市内に洋風建築が建ち並ぶ図として度々引用される図6などは、大手役宅の最終形を表現した図と位置づけられ、新たな評価を加えることができる。

資料(4)に「椅子等相用ヒ候」とあり執務に際し床坐から椅子座へ転換していることが判明する。石田氏は、洋風物品の使用が庁舎の洋風化を促した一要因と位置づけ、椅子座への転換は中央官庁にやや遅れ、早い府県で明治4年末、翌5年中には各地への波及を確認している。本県でも洋風庁舎建設に先立つ明治5年5月、物品等を洋風に替え、時流と軌を一にした変化が確認できる。一方で新築時、敷物代の経費を計上し忘れ、後に要求している。板敷きだけでは隙間風や冷気の侵入を防げず、敷物が必要となるのであうろうが、洋風化へ意識が転換していない状況を垣間見せている。

註

（1）山梨県立図書館編『山梨県史』第1巻1958～第7巻(1964)

（2）植松光宏『山梨の洋風建築』甲陽書房1977

（3）石田潤一郎『都道府県庁舎－その建築史的考察－』思文閣出版1993

（4）山梨県庁建設資料(1)「明治四年官省指令全」 県立図書館蔵県行政文書（以下資料(1)と略す）

（5）資料(1)

（6）資料(2)

（7）資料(4)、なお資料(3)は、規模の平準化を目的に施行された条文等であり、資料(4)とともに送付された。

（8）資料(5)、なお廃止の布告の直前、8月3日に「司法職務定制」が施行され、司法権は地方官から司法省管轄下の裁判所へと吸収されることとなった。庁舎内への裁判所設置は、逮捕者へ聴取・取調べのため喫緊の課題でもあり、こうした制度変更にも沿った対応であった。

（9）資料(7)

(10) 資料(6)、(8)

(11) 山梨県立中央病院『山梨県立中央病院史』1982年
(12) 資料 (9)
(13) 資料 (10)
(14) 資料 (14)
(15) 資料 (17)、(18)
(16) 資料 (21)、(22)
(17) 資料 (39)、(40)
(18) 資料 (34)、(35)
(19) 資料 (34)、(36)
(20) 資料 (32)
(21) 資料 (14)、(16)
(22) 資料 (39) で「敷物代并諸品運送賃金」として計上している額と同額である。
(23) 資料 (41)、(46)
(24) 昭和15年、皇紀二千六百年を記念して山梨県が編纂した。
(25) 資料 (29)、(30)
(26) 資料 (43)
(27) 資料 (45)
(28) 資料 (48)
(29) 資料 (44)

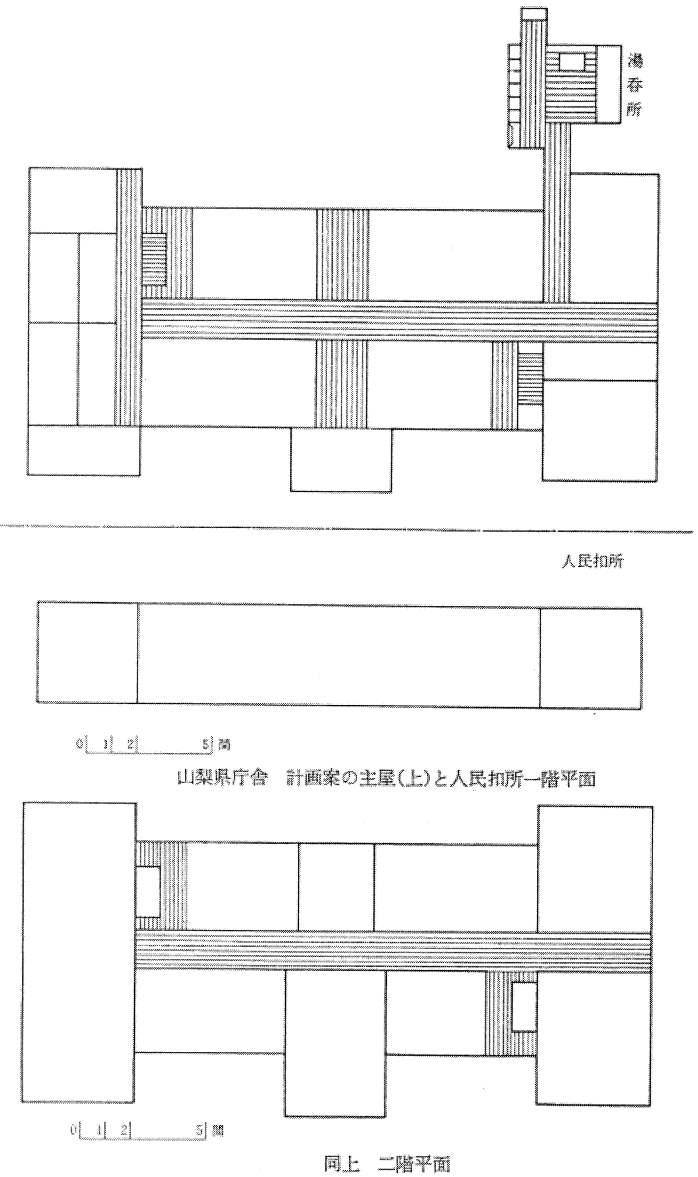


図1　平面図①(石田潤一郎『都道府県庁舎』思文閣出版1993より)

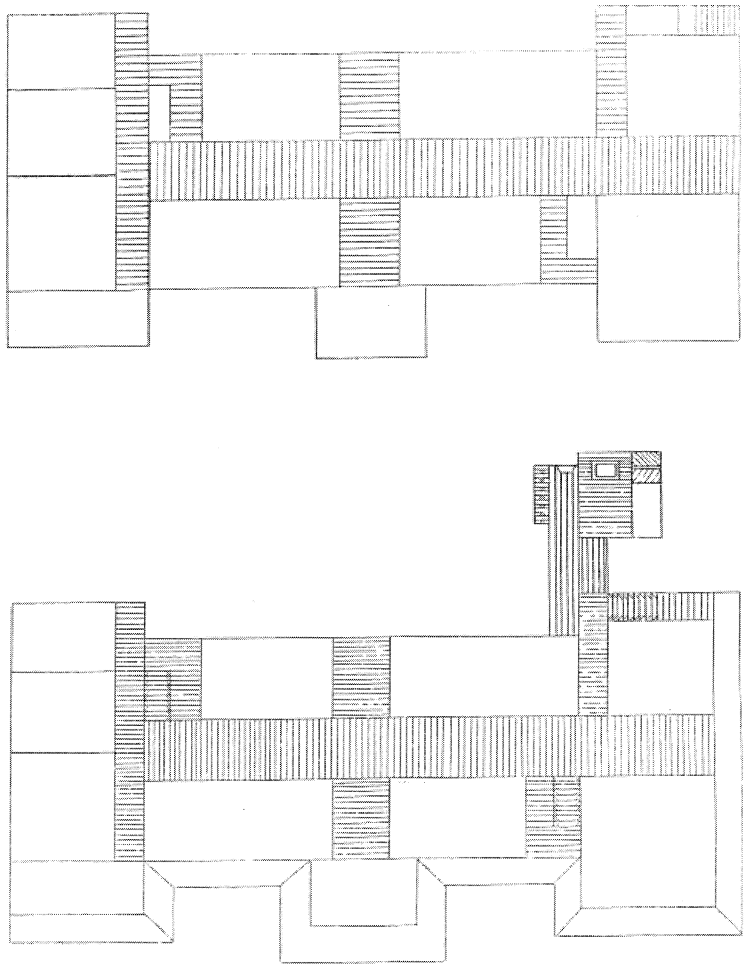
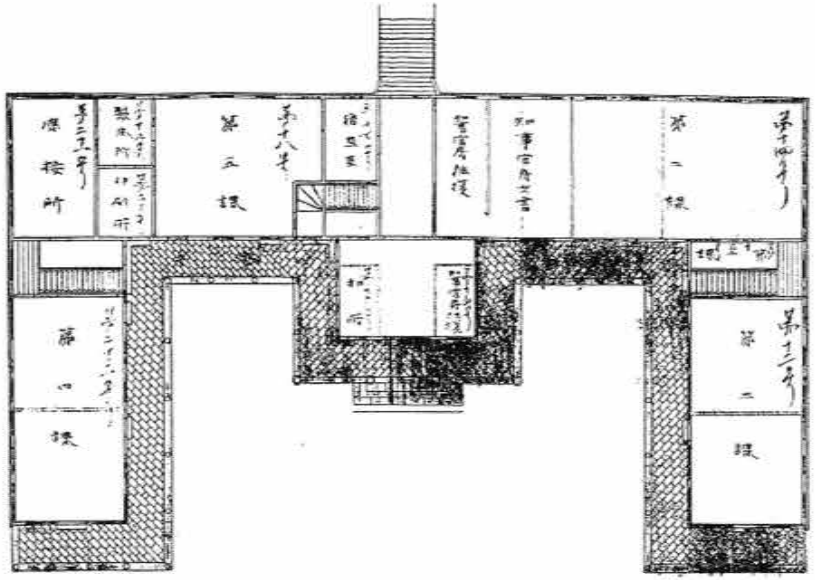
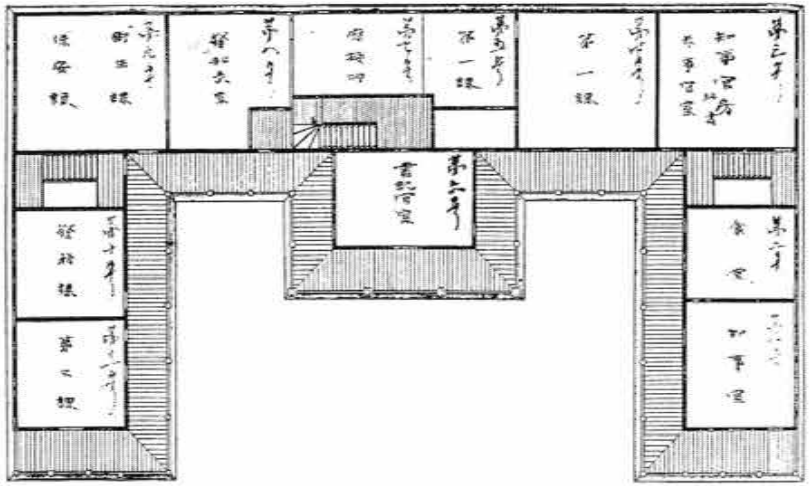


図2　平面図②(『山梨県史』第4巻1961より)



山梨県庁舎　実施案一階平面(明治32年当時)



同上　二階平面

図3　平面図③(石田潤一郎『都道府県庁舎』思文閣出版1993より)

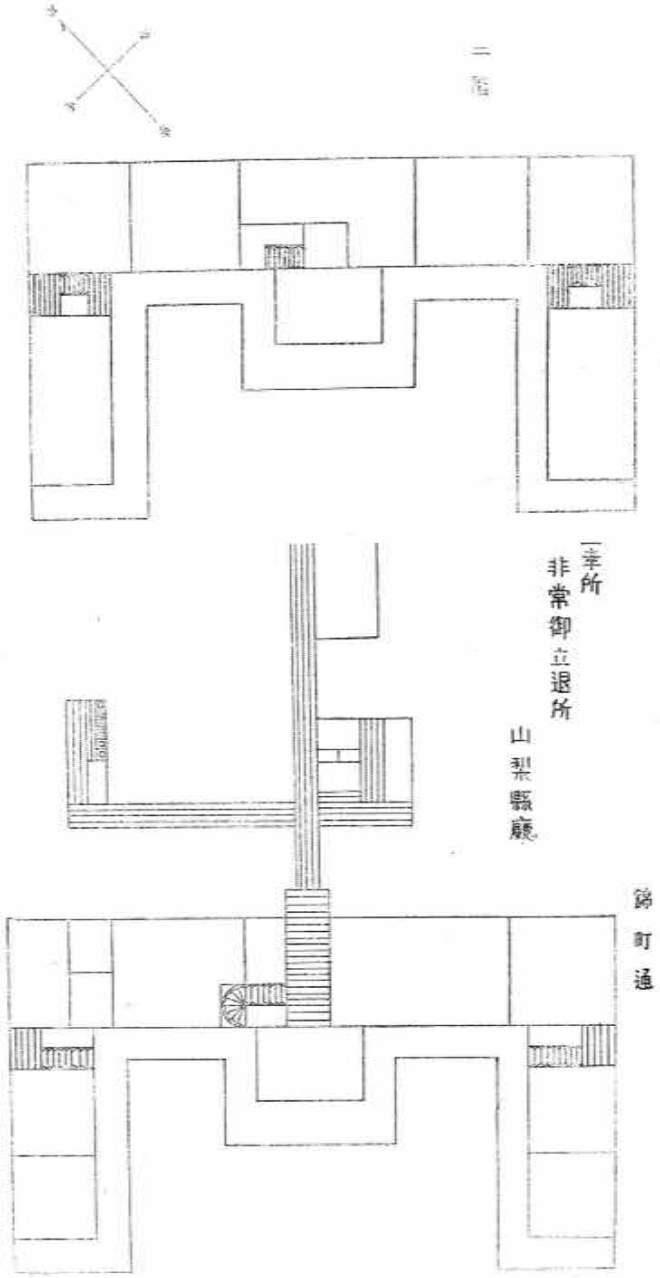


図4　平面図④(『明治天皇御巡幸紀』1940より)

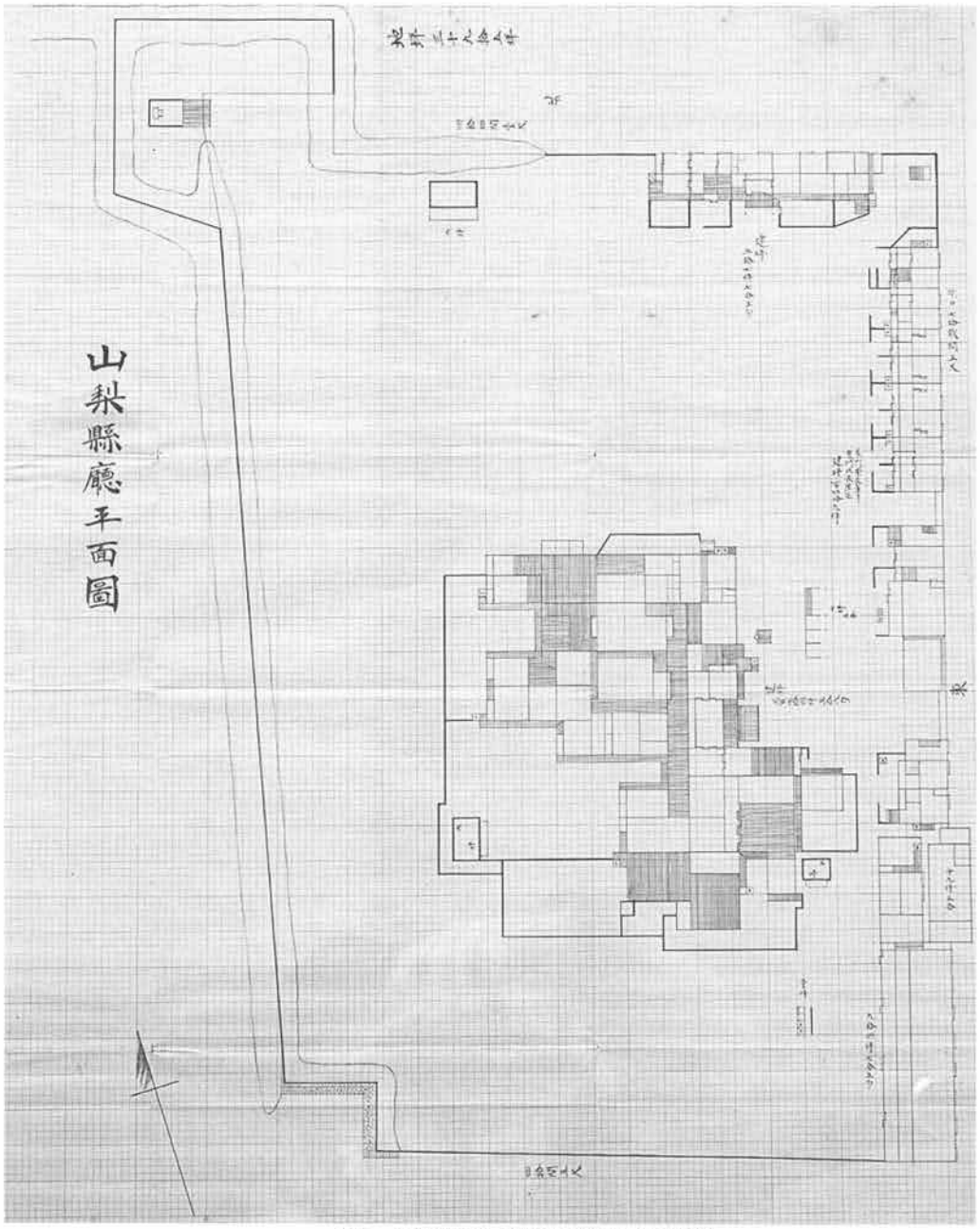


図5　山梨県庁平面図(山梨県立博物館蔵)

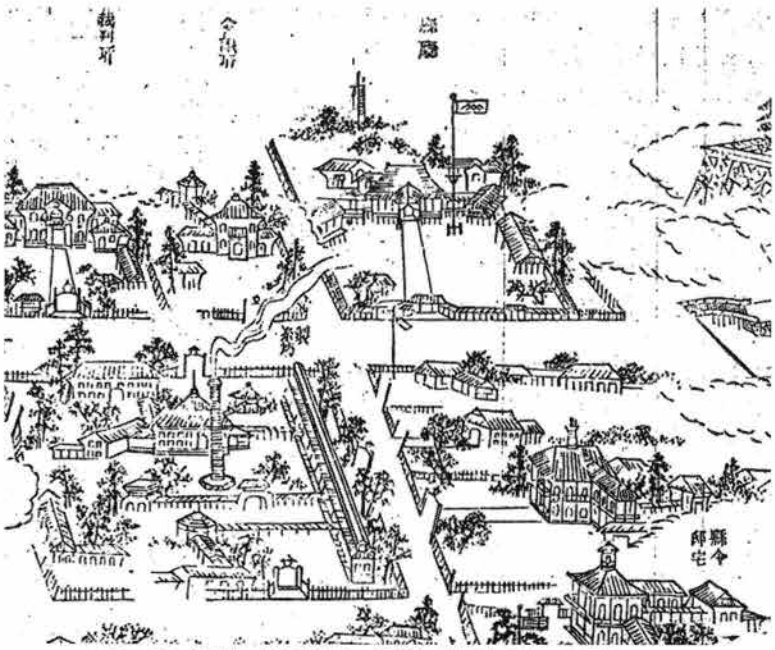


図6　市内俯瞰図(『甲府日々新聞』明治9年9月25日号)

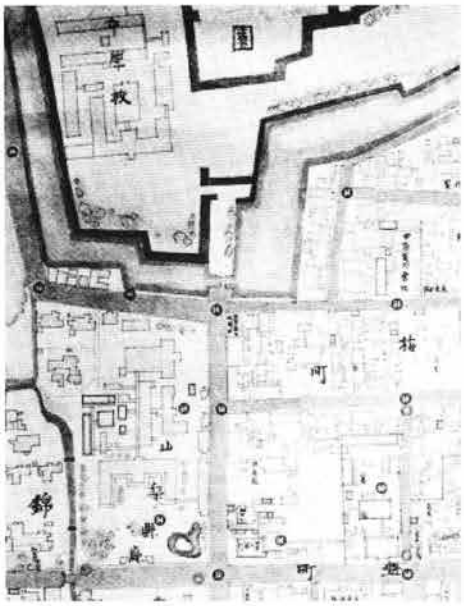


図7　大正期の甲府市街図（『甲府市史史料編』第6巻口絵写真）

写真1　『ふるさとの想い出写真集　明治大正昭和　甲府』
国書刊行会1978より

写真2　『明治・大正・昭和写真集甲府90年』
甲府市役所1881より

写真3　『甲府市今昔写真帖』郷土出版社2004より

写真4　『目で見る甲府の100年』郷土出版社1990より

写真5　『ふるさとの想い出写真集　明治大正昭和　甲府』
国書刊行会1978より

山梨県庁建設資料

(1)「明治四年官省指令　全」　県立図書館蔵県行政文書

県庁建継営繕伺書

当県庁ノ儀者御一新之際不取敢元甲府勤番支配役宅江修繕ヲ加ヘ置候儀ニ有之候処元々城下市中限之諸願伺聴訟等ヲ取扱候迫之場所ニ而何分手狭差支候ニ付今般建継修繕之見積致シ候処元来小家江追々建継候儀ニ而家根向水取等モ不都合ニ而過半建替不致候事而者営繕難行届仮令修繕ヲ加ヘ候而モ皆板屋ニ付毎々風損之憂モ有之其外台所腰掛溜所等ニモ修繕之場所多分有之旁入費相嵩新規建替ト格別之相違モ無之且一時之費用ヲ厭ヒ建出シ修繕致置候而者不都合而已ナラス却而後日之御損失ト見込候ニ付篤ト勘弁致シ候処甲府城内ニ楽屋敷ト唱梁間四間桁行拾八間玄関附瓦屋之建物有之年数者相立チ候得共元堅牢之普請ニ付破損所取繕候ハ々大半ハ其儘用立可申且市在之者共之溜所ニ可相用長屋等モ有之候間更ニ庁中文課之調所一棟取建候ハ々却而建坪モ減後年修繕之費モ薄リ且取締者勿論市在ニ於而モ城中江県庁取建候儀者兼々冀望罷在旁以右楽屋江新規建継致シ不苦候哉為念此段相伺候尤右費用之儀者御規則之通リ三分弐郡中石高割之積リヲ以仕様目論見図面取調委細者追而前条御許可之上可申立積仍之従来之楽屋図面相添此段相伺申候也

辛未八月廿七日　　甲府県　印

大蔵省

御中

書面県庁建増之儀難聞届ニ付在来楽屋内模様替仕様絵図面入費取調巨細内訳帳ヲ以テ可伺出候事

辛未十一月十五日　大蔵大輔　井上　馨　印

大蔵少輔　吉田清成

(2)「明治四年官省指令　全」　県立図書館蔵県行政文書

一　官員住宅新規取建方伺書

右別紙之通去ル七月十二日弁官江進達いたし置候処未ダ何等之御達シモ無之候間早々御下知相成候様御取計有之度此段申上候也

辛未十二月十日　　山梨県　印

大蔵省

御中

官員住宅新規取建方伺書

当県官員住宅之儀旧幕県令陣屋并元勤番支配其外役邸等明屋作有之場所取繕相渡住居為致置候得共元来家数不足ニ而同居或者町屋等ニ寓居之者モ有之不体裁殊ニ在来家作者何レモ年数相立大破及ヒ居就中元県令陣屋内小屋五六軒之儀者木品惣体朽腐僅之風雨ニモ雨漏破損出来即今修復難行届ニ立至リ旁ニ付古家取毀更ニ長家両三棟取建申度候得共一時ニ入費相嵩管下連年違作且風水災ニ而疲弊之村々多高割出金難儀可及ニ付差当リ修復難差加大破之内両三軒取崩右古木取交大属権大属小属権小属住宅都合四軒取建直シ其ノ余者追々取建候様致シ度依而者兼而御達之通惣入費高之三分一官給三分二者管轄石高ヘ割取建可然哉且亦年給ニ由リ家作広狭御定則モ可有哉然ル上者御規則ニ随ヒ積方致シ職業之者江入札申付可成丈々入費不相嵩様吟味致シ早々取建巨細積帳ヲ以御出方之儀申上候様致シ度依之此段御伺候以上

辛未七月十二日　　甲府県　印

弁官

御中

書面官員居宅取建之儀者当五月ヨリ一般被廃止候付可為自費事

辛未十二月廿三日　大蔵大輔　井上　馨　印

大蔵少輔　吉田清成

(3)「明治五年官省指令　坤」　県立図書館蔵県行政文書

県庁建家坪

高三拾万石以下

一　建坪百弐拾弐坪五合

但三拾万石以上者五万石ニ付拾坪増且在来之建家其儘相用候節者当分之内任適宜追々本文之坪数ニ照準シ可引直尤改造都合ニ常五坪以下之増減者不苦候事

(図面は省略)

「県　庁

惣建坪百弐拾弐坪五合」

(4)「明治五年官省指令　坤」　県立図書館蔵県行政文書

県庁建継伺書

当県庁之儀何分手狭差支候ニ付辛未八月中別紙之通相伺候処建増之儀御聞届難相成在来楽屋内模様替仕様絵図面入費取調巨細内訳帳ヲ以可伺出旨御達ニ付模様替之儀勘弁致シ候得共在来建物梁間四間桁行十八間ニ付如何様省略致シ候而も庁中分課之調所出来不申殊ニ椅子等相用候ニ付而ハ手狭ニ而者差支候間後日建継模様替等二重之失費無之様別紙絵図面朱引之通建増致シ度右御聞届之上者仕様入費内訳帳巨細取調差出可申此段相伺候也

壬申五月八日　　山梨県　印

大蔵省

御中

書面元甲府城内楽屋内江県庁建継之儀於陸軍省差障之筋有之候間難聞届候条在来県庁江建継之儀別紙之絵図面ニ照準シ可成丈仕様省略ニ目論見入費巨細内訳帳絵図面相添尚可伺出事

壬申六月廿日　大蔵大輔　井上　馨　印

(5)『山梨県史』第二巻　山梨県立図書館　昭和三十四年

県庁ヲ区分シ之ヲ大蔵省ニ具申ス

先般御達ノ趣ヲ以当県ヘ裁判所被置候ニ付司法省官員水野中検事北畠権少判事田辺大警視其外数名去ル十五日着県ニ付打合ノ上在来ノ庁内ヲ左右ニ区分シ表通リ白洲向并聴訟断獄事務所属ノ書類其他器械等不残引渡シ当県庁ノ儀ハ是迄租税課詰所ヲ模様替ノ上引移シ即今専ラ修繕中ニ有之右修繕入費委細ノ儀ハ追テ清算ノ上

可及御届候へ共差向候儀ニ付不取敢区分ノ模様并修繕ノ箇所ハ絵図面相添此段及御聞候也

壬申九月　山梨県権参事　富岡敬明
山梨県令　土肥実匡

大蔵大輔　井上　馨殿

(6)「明治五年官省指令　坤」　県立図書館蔵県行政文書

元甲府勤番支配明家作病院江御貸渡之儀伺書

元甲府勤番支配役宅

一　病院建家坪弐百四拾弐坪五合
　外二土蔵　三ヶ所

右同断

一　長屋弐棟建家坪弐百四拾坪二合五勺
　内
　壱棟建家坪百六坪
　　内
　　七坪五合　表門
　　拾坪　腰掛所
　　拾三坪五合　医員和田吉奴拝借住居
　　六坪　門番所
　　四拾七坪五合　明家造作無之
　　弐拾壱坪五合　造作無之元厩跡
　壱棟建家坪百三拾四坪弐合五勺
　　内
　　七坪五合　裏門
　　拾八坪五合　官員永井貞義拝借住居
　　弐拾弐坪　澤柳信任同断
　　拾坪七号五勺　高木利敬同断
　　弐拾坪弐合五勺　高橋少属同断
　　拾八坪五合　丸山子堅同断
　　拾壱坪五合　織田良貞拝借住居
　　弐拾五坪弐合五勺　造作無之物置所

右者今般庁内長屋等之外従来所管之官宅御払下被仰出候ニ付当県官宅別紙ヲ以御払下相伺申候然処右邸宅之儀モ元甲府勤番支配役宅ニ付御払下取計可申之処去未年中有志之者集金ヲ以病院取設右明家作貸渡当時専ラ施術罷在候得共創業之際費用多未永続之見居得兼候程之儀ニ付家作御払下相願候余力無之候間其儘病院江無代御貸渡被下度且又長屋向之儀モ元来大破之上笹板葺ニ付風烈之度毎破損当時御払直段ヲ元立ニ致シ御規則之宿代取立候而者修繕入費不引足都而御損失可相成一体右場所者山之手ト唱偏土ニ付相当之宿代取立候而者住居望人有之間敷存候間病院所轄ニ被成下手入等者同所集金之内ヲ以差加拝借望人江者畳建具見積相対ニ而低価之宿代取立住居中破損修復都而可為自費事ニ取極申度別紙絵図面相添此段相伺候也

壬申十月廿三日　山梨県権参事　富岡敬明　㊞
山梨県令　土肥実匡　印

大蔵大輔　井上　馨殿

書面其県所管元甲府勤番支配明家作病院江貸渡之儀者難聞届候条可成丈ケ官員居宅ニ貸渡其余不用之分者入札ヲ以払下ケ家作代ハ土木寮地代者租税寮江可相納尤官宅之儀者御規則之通家格相当之宿代取立可申事

壬申十一月廿三日　大蔵大輔　井上　馨　印

(7)「従明治六年一月至三月大蔵省伺附租税寮　元」　県立図書館蔵県行政文書

県庁模様替営繕入費官給三分一御下伺書

一　金四百六拾弐円三拾九銭壱厘　県庁模様替入費高
　内金百五拾四円拾三銭　三分一官給之分
　金三百八円弐拾六銭壱厘　三分二郡費之分

右者去壬申年九月中当県江裁判所被置候処差向県庁ニ可取設相当之場所無之領民暴動一件多人数糾弾モ有之候ニ付談示ノ上当庁中諸課之詰所悉皆裁判所江引渡従前明間元台所物置所其外模様替県庁諸課詰所ニ相設候営繕入費書面之通有之候間三分一官給之分金百五拾四円拾三銭御下渡有之度別紙絵図面清算帳相添此段相伺候也

明治六年二月廿日　山梨県権参事　富岡敬明　㊞
大蔵大輔　井上　馨殿

書面県庁模様替入費清算高之内三分一金百五拾四円拾三銭下渡候条請取方可申出事

明治六年三月十二日　大蔵大輔　井上　馨　印

(8)「従明治六年十月至十二月大蔵省伺　附租税寮　貞」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第壱号」

元甲府勤番支配明家作病院江御貸渡伺書

元甲府勤番支配役宅

一　建家坪四百八拾弐坪弐合五勺
　内
　長屋弐棟建坪弐百四拾坪弐合五勺

右者元甲府勤番支配役宅之儀去壬申十月中病院江無代御貸渡之儀相伺候処御聞届難相成依而者官宅ニ取設全不用之分ハ入札払取計候様御指令之処各家作者手広ニ付官宅ニ取設候ニ者差向多分之入費相掛候間払下之積入札為致候処存外安置故右入札直段ヲ元立ニ致シ奥向者病院江貸渡長家ハ官宅ニ取設夫々貸渡御規則ニ照準宿代取極当三月中取調書ヲ以相伺置候処追々患者入院寄宿之者相増病室ニ差支候間官宅之振合ヲ以各一邸内悉皆病院江御貸渡有之候様致度此段更ニ相伺候也

明治六年四月九日　山梨県権参事　富岡敬明　印
山梨県権令　藤村紫朗　印

大蔵大輔　井上　馨殿

書面元勤番支配役宅之儀者最前指令之趣も之有候得共特別之詮議ヲ以病院江無代可下渡候条宿代取立ニ不及候尤地所之儀者相当代価ヲ以払下ケ候儀ト相心得代償取調租税寮江可申出候事

明治六年十二月十四日

大蔵大輔　大隈重信　印

(9)「従明治八年一月至三月内務省伺　天」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第九十八号」
県庁新築之義区長ヨリ申出ニ付心得方伺

県庁建築之義ニ付昨明治七年二月中別紙之通区長ヨリ申出候ニ付朱書之通及指図置候処昨今猶又一般江遂協議度旨再応申出候　右ハ実際庁中之不便且軟弱ニシテ修繕費之不軽等ハ申立之通相違無之到底数年ヲ不出大ニ修繕ヲ起シ候歟又ハ新築不致而ハ難相成景況ニ有之一応申出ニ任セ彼等之心得ヲ以テ一般江為致協議候義ハ不苦候哉　然ル上若一統異存無之新築之義申出候様之運ニ至リ候ハバ其節猶具状可仕為心得此段相伺候也

明治八年二月十日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿代理
内務大丞　林友幸殿

(朱書)
「書面県庁改造之儀ニ付区長共申立之趣其県見込之通官民費多端之際、殊ニ管下一般之公益ヲ興起スヘキ告諭致シ置候上ハ総テ建築等ハ見合置可申、尤年分修繕民費相高シ不得止事故モ有之候ハバ右等之情実詳細取調可申出事
明治八年三月十四日　内務卿　大久保利通　印」

当御庁之義ハ元勤番支配役之邸第ヲ修補増築シ御維新以降公庁ニ用ルコト于斯七年其土木ノ軟柔ナルト規模ノ宏大ナラサルヤ倶ニ不便ニ御座候、屋ハ板ヲ以テ葺キ暴風一回忽チ数所ヲ破ラレ暴風至レハ漏水ノ防クヘキナク此ヲ転シ彼局トナシ彼ヲ従シテ此房トナシ故ニ工商ヲシテタニ破壊シ始御営繕ノ浪費ニ不堪而シテ尚遠ク恐憂仕処ハ祝融ノ災也一旦過失アラハ文書烏有ニ属シ官民ノ不幸不可言加之自今諸局御官員ト出庁人民ト応接ニ至ル迄ノ体ヲ見ルニ遙ニ其名ヲ喚テ稍応接所ニ出ツレバ人民又官員ノ名ヲ喚テ後チニ出頭セラルルモ理事ノ都合ト繁雑ノ際ニ当ツテハ徒ニ時間ヲ費シ候儀モ有之其不便ハ勿論且規模ノ狭隘ニシテ粗悪ナルヨリ夏冬共ニ其寒暑ニ堪兼官民共ニ健康ヲ害シ候儀不少依テ愚考候ニ新ニ御建築被為成庁中之体裁ハ中央ニ長次官之席ヲ被設諸局ヲ左右前後ニ配置セラレ而シテ各官員ノ下民ニ接セラルルモ座ナカラ御見聞被為在候様御設相成候ハバ上告下示モ容易ニシテ出庁人民ノ幸不遇之其模様ノ如キハ西洋形ニ擬シ土木ノ堅牢精巧ヲ旨トシ候ハバ第一外ヨリ来ル火難ヲ防キ後来営繕冗費ハ数年ナラスシテ相償ヒ還テ経国ニ稗補可有之様奉存候間冀ハ此際新築之義御挙行有御座度希望仕候　右等経費之儀ハ兼テ其三分一ハ官給之御成規ニ候得共方今万機御多端之際ニ付御先裁相成候上ハ悉皆四郡ニ課出相償候様可仕尤右課出方ハ一般之事情ヲ斟酌仕先ツ以非常預備金或ハ富有之者ニ相謀リ一時仮ニ償ヒ置之ヲ両三年若シクハ四五年ニ課セハ出金モ容易ニシテ敢テ障碍モ無之見込ニ御座候御模様ニ因リ一統江協議其肯否ヲ問ヒ尚連署ヲ以否申可仕候様取計度此段奉伺候以上

区長惣代　栗原信近
新海吉哉

明治七年二月

穴水朝次郎
名取善次郎

山梨県権令　藤村紫朗殿

(朱書)
「書面之趣ハ方今民費多端加之本年第二十一号告諭条件ノ如キ管下一般ノ公益ヲ興起スヘキ急務アリ県庁新築ノ如キハ焼眉之急ト申ニモ無之候条先ツ暫ク見合セ置可申」

(10)「明治九年内務省指令書　第壱」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第五百九十二号」
県庁新築之儀ニ付上申

当県庁之儀ハ元勤番支配役之邸舎ニテ目下難凌場所ニ限リ修理或ハ増築シ維新以降用ヒ来候儀之処固ヨリ規模狭隘軟弱ニシテ実ニ不便且浪費不少即今各課事務取扱ノ為ニ用ユル座席建坪僅ニ八拾坪ニ過ギス課中ノ往復モ猶自由ナラザル如キ景況ニ有之殊ニ家屋ノ如キ屋根ハ板ヲ以葺キ暴風一回忽チ数所ヲ破リ暴風至レハ漏水ノ防クベキナク故ニ年々修繕ノ民費寡キハ三四百円多キハ五六百円ニ至ル依之一昨明治六年来管下区長等相謀リ改築ノ儀再応上申之趣モ有之候処当時学校設立道路修築等民費多端ノ央ニ付其旨相諭シ置候次第之処本年二月猶一般江協議致シ試度段申出候ニ付其意ニ任セ候処先般一同改築希望ニ付速ニ着手向来修繕ノ浪費減省候様処分有之度尤課出方之儀ハ一般之事情ヲ斟酌シ富有之者ニ相謀リ一時仮ニ償ヒ置両三年乃至三四年間ニ賦課シ民間ニ於テ障碍無之様可取計旨申出候県庁ノ体タル前ニ縷述スル所ノ如クナレバ到底新築スルニアラザレバ事務取扱ニモ差支人民ノ望ム所モ又既ニ如此旁好機会ニ付予メ経費ヲ概算スルニ凡壱万五千円内外ニテ附属建家共一切落成ニ可至哉ニ相考候就テハ方今国費御多端ノ央些少ノ費額ト雖モ固ヨリ可差扣筋ニ候得共前条之通如何ニモ陋隘ヲ極メ県庁ノ県庁タル体裁無之且警保地券取扱之人員ハ追々増加シ後備軍駐在士官詰席臨時徴兵検査等モ有之時々差支ヲ生シ目下難相凌景況ニテ自然事務淹滞ニモ関係シ修理ノ民費モ不少事ニ付冀ハ非常之御詮議ヲ以右経費額中江金四千円丈ケ御下附相成度然ルニ於テハ余ハ人民ニ謀リ障碍無之様課出可為致候此段上申候成

明治八年十二月十五日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(朱書)
「書面之趣無余儀事情ニハ相聞候得共国事多端之際ニ付当分見合可申事
明治九年三月十三日　内務卿　大久保利通　印」

(11)「自明治七年至同八年各課伺届　簿書係」　県立図書館蔵県行政文書

御県庁裏門北長家九尺二三間之処拝借仕リ御布達書制本所ニ相用度付テハ右修覆入用別紙積書ノ通リニ御座候間拝借修繕共御聞届被成下度書面ヲ以奉願上候以上

区長副捻代理
尾澤　孝治　㊞
小松道三郎　㊞

明治八年二月十八日

同捻代理
穴水朝次郎 ㊞

山梨県令　藤村紫朗殿

（朱書）
「聞届候事
明治八年二月十八日」

御県庁裏門北長家九尺二三間之処活板所編輯所ニ御模様替御入用
積リ

一　金六円六拾七銭
　此内訳
　金四円六拾弐銭五厘　大工
　　此工数拾八人半　但壱人ニ付金弐拾五銭
　壱　組　代金壱銭五厘　輪鑑
　金拾六銭五厘　屋根方
　内
　壱　坪　郡中短板用　柿板
　壱　人　賃金拾六銭五厘　柿葺師
　六畳半　代金拾三銭　古畳敷込手間
　金壱円弐拾銭　手伝人足
　　此人足八人　但壱人ニ付金拾五銭
　土台
　壱　本　栗長六尺　四寸　三寸
　框
　弐　本　松長六尺　四寸角
　棚
　壱　本　〃長四尺　四寸角
　垂木掛
　壱　本　〃長四尺　四寸　弐寸
　垂木
　三　本　〃長五尺　弐寸角
　木舞
　六　枚　〃長六尺　二寸　五分
　貫
　六　枚　〃長弐間　三寸　八分

■々樋
壱　本　〃長四尺　四寸角
〃根太
壱　本　〃長四尺　弐寸五分角
〃板
弐　枚　〃長六尺　壱尺　壱寸
羽目板并目板
四拾壱枚　松長六尺　壱尺　五分
雲居鴨居
七　本　〃長六尺　四寸　弐分
窓ヒゴ
八　本　〃長六尺　壱寸三分角
天井縁
四　本　〃長九尺　弐寸角
同断
八　本　〃長六尺　同断
天井棹
五　本　〃長九尺　壱寸壱分角
同断
三　本　〃長六尺　同断
〃板
弐拾三枚　〃長六尺　壱尺　壱寸
〃釣木
四　本　〃長弐間　壱寸三分角
根太
三　本　〃長九尺　弐寸五分　弐寸
根太板
五　枚　松長六尺　壱尺　六分

右郡中短木用

右之通御座候以上
明治八年二月十八日

営繕積方
内藤彦兵衛

（12）「明治九年内務省指令書　第弐」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）
「第九十三号」

県庁改築之儀ニ付再上申

県庁改築之儀昨明治八年十二月十五日付（当県第五百九十二号）ヲ以テ縷々上申致シ候処本月十三日付ヲ以テ右上申ニ対シ無余儀事情ニハ御聞込相成候得共国費御多端ノ際ニ付当分見合可申旨御指令相成致服膺候右ハ最前モ詳細申述候通規模狭隘ニシテ各課事務取扱ノ為ニ用ユル座席僅ニ八拾坪ニ過ズ課中互ノ往来スラ猶自由ナラザルガ如キ景況ニテ近時警察地券担当ノ者増員等ニ付テハ即今詰席ニ差支不得止県庁近傍ノ民家借受分局相設ケ事務取扱候体ニテ不便利ハ勿論彼是不都合不少実ニ実際無拠場合ヨリ国費御多端ノ際タルハ乍辨申立候次第ニ付仰冀クハ本年七月以後ニ於テ御許可相成候様致度尤積方等手数ヲ要シ候儀ニ付前条御許可ノ上ハ今日ヨリ取調猶可伺出候条右事情御諒察特別ノ御詮議ヲ以テ何分ノ儀御指示被下度此段再応致上申候也

明治九年三月十八日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（朱書）「書面県庁新築之儀ハ一層費額減縮方注意取調之上内訳帳図面共相副更可伺出事

明治九年四月一日　内務卿　大久保利通　印」

（13）「明治九年内務省指令書　第弐」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）「第百五十号」

県庁改築之儀伺

県庁改築ノ儀ニ付テハ昨年来再応上申致候処右ハ一層費額減縮方注意取調之上内訳帳図面共相副更二可伺出旨本年三月十八日附（当県九十二号）伺ニ対シ四月一日附ヲ以テ御指令有之素ヨリ外観虚飾ヲ省キ実用必需ノ建物而已ヲ以テ概計致シ前書相伺置候儀ニハ候得共猶又一層注意ヲ加ヘ則別冊経費凡積内訳帳絵図面共相添進達致候尤実際ニ臨ミ可成古物又ハ懲役囚等使用此上精々減費ノ方法相立落成之上詳細仕訳書差出候様可致候間右目的ヲ以御許可相成度此段相伺候也

明治九年五月五日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（朱書）「書面建坪過当ニ相見ヘ候条会食所並客用便所等ハ別段取設ケ候ニ不及儀ト相心得其他合建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階トモ総坪五百坪以内ノ積リヲ以テ目論見調直シ図面相副更ニ可伺出事

明治九年七月廿四日　内務卿　大久保利通　印」

（14）「明治九年内務省指令書　第弐」　県立図書館蔵県行政文書

県庁改築ノ儀ニ付上申書

当県庁改築ノ儀ニ付テハ昨年来再三上申候末当県第百五十号伺ニ対シ建坪過当ニ相見候条会食所客用便所等ハ取設ニ不及其他合建坪ノ内門番所ノ分ヲ除キ二階共惣体五百坪以内ノ積リニテ調直シ更ニ可伺出旨客月廿四日附ヲ以テ御指令有之則チ御指令ニ基キ会食所等相遏猶本屋其他取縮メ方種々致計画候得共何分惣体附属建家共五百坪以内ニテハ纏リ兼本屋而已ニテ二階ヲ合シ五百坪ニ相成右ハ実際聊猶容無之次第ニテ此上縮少可致目途無之其他便所湯呑所並人民扣所ノ儀ハ全ク余計ニ相成候得共此三ヶ所ハ是非無クテハ難叶必要ノ建物ニ付旧材相用ヒ成ル可ク入費不相嵩様建設ノ積ヲ以テ取調候間冀ハ今般取調ノ通リヲ以テ御聞届相成度別冊入費内訳帳並図面相副此段申立候也

明治九年八月一日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（朱書）「書面県庁改築之儀ハ聞届候條申立高金壱万三千三百九拾六円拾弐銭九厘ノ内金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ減縮シ更ニ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致尤右金額ニ超過セサル様注意シ落成之上精算帳可差出事

但本文経費ノ内三分ノ一ハ官給其二ハ民費賦課ト可相心得事

明治九年十月三十一日　内務卿　大久保利通　印」

（15）『山梨県史』第四巻　昭和三十六年　山梨県立図書館

別冊　県庁建築凡入費積

一　金壱万三千三百九拾六円拾弐銭九厘

諸建築　一式凡入用

此内訳

一　本家壱棟　但　屋根瓦葺

合坪五百八坪

内　下家弐百五拾四坪

二階同断

金壱万三百六円三拾五銭五厘　但　壱坪ニ付　金四拾円五拾七銭六厘餘

内

金千六百廿四円八拾七銭五厘　大工方

此工数六千四百九拾九人五分　但　壱人ニ付　金廿五銭

金四百六拾四円弐拾五銭　鍛冶方

金九百八拾八円五拾銭　屋根方

金六百九拾八円廿五銭　壁方

金四百六拾四円廿五銭　建具方

金百弐拾三円八拾銭　張付方

金六百八拾弐円六拾銭　地形方

金三百八拾七円五銭　石方

金七百七拾四円拾八銭　人足方

此人足四千三百壱人　但　壱人ニ付　金拾八銭

尺〆弐千弐百七拾七本　材木方

代金四千九拾八円六拾銭　但　尺〆壱本ニ付　金壱円八拾銭

一　人民扣所壱棟　梁間四間　但　屋根瓦葺

桁行廿四間

軒高壱丈壱尺

此坪九拾六坪

金九百七拾九円八拾三銭三厘　但　壱坪ニ付　金拾円廿銭六厘餘

内

金百六拾八円　大工方
此工数六百七拾弐人　但壱人ニ付金廿五銭

金四拾六円　鍛冶方
金弐百拾六円　屋根方
金六拾九円拾九銭壱厘　壁方
金三拾七円弐拾五銭　建具方
金五拾三円六拾弐銭八厘　地形方
金八円六拾四銭　石方
金六拾九円拾弐銭　人足方
此人足三百八拾四人　但壱人ニ付金拾八銭
尺〆弐百四拾本　材木方
代金三百拾弐円　但尺〆壱本ニ付金壱円三拾銭

一　湯屋所壱棟　梁間二間
桁行三間　但屋根瓦葺
附廊下六尺ニ弐間
合壱拾壱坪
金九拾九円六拾七銭　但壱坪ニ付金九円六銭餘
内
金拾九円弐拾五銭　大工方
此工数七拾七人　但壱人ニ付金廿五銭
金四円三拾五銭　鍛冶方
金廿四円七拾五銭　屋根方
金三円五拾銭　壁方
金弐円七拾五銭　建具方
金壱円八拾銭　地形方
金壱円四銭　石方
金六円四拾八銭　人足方
此人足三拾六人　但壱人ニ付金拾八銭
尺〆弐拾七本五分　材木方
代金三拾五円七拾五銭　但尺〆壱本ニ付金壱円三拾銭

一　便所壱棟
廊下共七坪
金七拾五円八拾弐銭五厘　但壱坪ニ付金拾円八拾銭餘
内
金拾円　大工方
此工数四拾人　但壱人ニ付金廿五銭
金弐円五拾銭　鍛冶方
金拾七円五拾銭　屋根方
金壱円廿五銭　地形方
金八円廿八銭　壁方
金四円五拾銭　人足方
此人足弐拾五人　但壱人ニ付金拾八銭
金三拾壱円七拾九銭五厘　材木方

一　表門壱ヶ所　但左右潜附
金八拾七円弐拾六銭四厘
内
金弐拾壱円弐拾五銭　大工方
此工数八拾五人　但壱人ニ付金廿五銭
金拾七円五拾五銭　鍛冶方
金八円八拾三銭五厘　石方
金九円四拾八銭九厘　瀝師方
金六円四拾八銭　人足方
此人足三拾六人　但壱人ニ付金拾八銭
尺〆拾壱本八分三厘　材木方
代金弐拾三円六拾六銭　但尺〆壱本ニ付金弐円

一　裏門壱ヶ所
金四拾円六銭六厘
内
金拾円七拾五銭　大工方
此工数四拾三人　但壱人ニ付金廿五銭
金五円六拾三銭　鍛冶方
金四円弐拾五銭　石方
金六円三拾六銭　瀝師方
金三円四拾弐銭　人足方
此人足拾九人　但壱人ニ付金拾八銭
尺〆五本六分八厘　材木方
代金九円六拾五銭六厘　但尺〆壱本ニ付金壱円七拾銭

一　表門番所　梁間弐間半
桁行三間　但屋根瓦葺
軒高壱丈
此坪七坪五合
金百弐拾壱円五銭　但壱坪ニ付金拾六円拾四銭
内
金拾五円　大工方
此工数六拾人　但壱人ニ付金廿五銭
金四円九拾七銭五厘　鍛冶方
金弐拾五円八拾七銭五厘　屋根方
金八円四拾五銭　壁方
金九円六拾銭　建具方
金六円三拾七銭五厘　地形方
金三円三拾銭　石方
金八円拾銭　人足方
此人足四拾五人　但壱人ニ付金拾八銭
尺〆弐拾六本弐分五厘　材木方
代金三拾九円三拾七銭五厘　但尺〆壱本ニ付金壱円五銭

一　裏門番所　梁間弐間半
桁行弐間　但屋根瓦葺

軒高九尺
此坪五坪
金七拾円四銭　但　壱坪ニ付金拾四円八厘
内
金八円　大工方　但　壱人ニ付金廿五銭
此工数三拾弐人
金弐円八拾銭　鍛冶方
金拾三円八拾銭　屋根方
金六円三拾銭　壁方
金六円八拾銭　建具方
金三円六拾銭　地形方
金弐円四拾銭　石方
金五円四銭　人足方
此人足弐拾八人　但　壱人ニ付金拾八銭
尺〆拾四本弐分　材木方
代金廿壱円三拾銭　但　尺〆壱本ニ付金壱円五拾銭

県庁東ノ方ヨリ南ヘ折廻リ囲吹抜角柵矢来
一　長延百弐拾五間　高七尺
附矢来下石垣積直シ長延百弐拾九間
石橋弐ヶ所
金七百五拾六円三拾銭弐厘
内
金百八拾七円五拾銭　大工方　但　壱人ニ付金廿五銭
此工数七百五拾人
金弐円五拾銭三厘　鍛冶方
金七拾九円九拾四銭　石方
金百六拾四円四拾七銭五厘　ペンキ塗方
金五拾六円弐拾五銭　人足方
此人足三百拾弐人五分　但　壱人ニ付金拾八銭
尺〆百三拾弐本八分壱厘七毛　材木方
代金弐百六拾五円六拾三銭四厘　但　尺〆壱本ニ付金弐円

県庁西ノ方ヨリ北ノ方ヘ折廻シ囲板打丸太柵矢来
一　長延百八拾六間　高八尺
金八百五拾九円七拾弐銭四厘
内
金弐百九円弐拾五銭　大工方
此工数八百三拾七人　但　壱人ニ付廿五銭
金八拾弐円拾壱銭五厘　鍛冶方
金四拾四円六拾四銭　塗師方
金百円四拾四銭　人足方
此人足五百五拾八人　但　壱人ニ付金拾八銭
金四百弐拾三円廿七銭九厘　材木方

右ノ通有之候也

明治九年七月　山梨県令　藤村紫朗

(16)「太政類典第二編　明治四年～明治十年　第百三巻」『国立公文書館』デジタルアーカイブ

十月廿日
大蔵省ヘ達
別紙内務省伺山梨県々庁改築ノ儀朱書ノ通及指令候條金額府県営繕費ノ内ヲ以渡方可取計此旨相達候事内務

内務省伺
山梨県々庁改築ノ儀ハ昨八年以来再応伺出ノ趣モ有之候ニ付建坪減省方等及指令置候末今般別紙ノ通申出事実不得止次第ニ相聞ヘ候間成規標準ニ照シ経費調査仕候処本庁ハ二階造リニ付五割増ヲ加ヘ其他人民扣所湯呑所便所門番所共建坪総計五百七坪五合県積平均一坪金二十二円九十六銭一厘一毛余ニ相当リ則標準二等ニ拠レバ申立高金一万三千三百九十六円十二銭九厘ノ内金二千五百十七円七十七銭三厘相減シ且表裏門周囲柵等ノ分ハ不相当ニモ無之候間県積ヲ用ヒ差引金一万八百七十八円三十五銭六厘ヲ目的ニ着手為致度右ハ御許容ノ上ハ三歩一官費金三千六百二十六円十一銭九厘ハ当年度府県営繕費ノ内ヨリ支出可取計候條至急何分ノ御指揮相成度因テ該県申牒図面共相副此段相伺申候也　十月三日
伺ノ趣聞届官給ノ分金三千六百二十六円十一銭九厘下渡候條大蔵省ヨリ可受取事　十月廿日

この間に、資料(14)「内務省発八月一日付県上申書」あり

山梨県々庁改築経費仕訳書
目論見
申立高
一　金壱万三千三百九十六円十二銭九厘
内
金一万千六百五十二円七十七銭三厘
但本庁建坪二百五十四坪二階家ニ付五割増此坪三百八十一坪人民扣所湯呑所便所及表裏門番所共合建坪百二十六坪五合総計五百七坪五合県積平均一坪ニ付二十二円九十六銭一厘一毛余
内
金二千五百十七円七十七銭三厘　減削見込
差引
○金九千百三十五円　標準二等ニ由リ一坪金十八円ニ積替朱書ノ高引如此
○金千七百四十三円三十五銭六厘
但角柵丸太柵石垣并表裏門石橋共此費標準ニ無之不相当ニモ不相見條付此積ヲ用
○印二口
金一万八百七十八円三十五銭六厘
右ノ通リ
第五科議案　大史歴査
内務省伺山梨県々庁改築ノ儀審按候処該県目論見申立高ノ内官舎営築内規標準二等ニ照シ金二千五百十七円余減削表裏門周囲柵等入費共金一万八百七十八円三十五銭六厘ヲ以テ改築致シ度

趣費用不相当ニモ不相見候間伺ノ趣御許可相成官費ノ分当年度府県営繕費ノ内ヲ以テ御下付相成可然欵左按取調相伺候也　十月六日　内務

(17)「明治九年十月院省寮届」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「各紙」

此般当県庁改築御許可ニ付来ル十三日ヨリ第一区山梨郡甲府富士川町第一番地旧代官所へ仮ニ転庁右改築致着手候間此段御届仕候也

明治九年十一月　山梨県令　藤村紫朗

太政大臣　三条実美殿

内務卿　大久保利通殿

(18)「明治九年管内布達(甲)」　個人蔵

甲第三百四十一号

此般当県庁改築に付右工事中第一区山梨郡甲府富士川町旧山梨裁判所跡へ移転来る十三日より事務取扱候條此旨布達候事

明治九年十一月七日

山梨県令　藤村紫朗

(19)「甲府日々新聞」　明治九年十一月十六日号　県立図書館蔵

乙第百廿二号

各区

区長

戸長

此般第壱区錦町県庁建家払下候條望の者は来る二十日より二十五日迄に第三課土木掛へ申出規則書一覧の上本月三十日限り入札差出候様区内無洩可申達此旨相達候事

明治九年十一月十日　山梨県令藤村紫朗

(20)「明治九年自十一月至十二月内務省指令書　第四」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「第三百七十四号」

県庁改築官費額内御下渡申立書

目途金壱万三千三百九拾六円拾弐銭九厘ノ三分一官給

金四千四百六拾五円三拾七銭六厘三毛ノ内

一　金三千円

右ハ当県庁改築ノ儀御許可ニ付此段致着手候処諸払方ニ差支候間前記之金員官給額内ヲ以仮ニ御下渡有之度此段致上申候也

明治九年十一月十日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(朱書)「書面之趣ハ最前及指令候通申立高之内金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ減縮シ更ニ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致筈ニ付右金額ニ引直シ更ニ可申出事

明治九年十一月十五日　内務卿　大久保利通　印」

(21)「明治九年内務省指令書　第弐」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「第三百七十七号」

県庁改築ニ付用材御下渡之儀申立

此般当県庁改築之儀御聞届ニ相成候ニ付早速着手可致処用材之義悉皆商人又ハ所有人民ヨリ買入候テハ徒ニ空価ヲ張リ迚モ御指令通之費用ニテ成功可致見込無之而已ナラズ近年民間家屋築造之挙盛ニシテ追々伐採近傍最寄ニ於テ可買上見込之場所無之甚差支候間別紙ニ記載之通従来官林並上知官林之立木相当代価ヲ以テ御払下相成度候尤見分之上抜伐致シ山林之繁茂ヲ妨候様之義無之様取計可申此段相伺候至急御指揮被下度候也

明治九年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(朱書)「書面之趣聞届候条立木代金百八拾八円拾八銭七厘ハ大蔵省出納寮へ上納可致尤伐採之節他之立木損傷等無之様精々取締繁茂ヲ不妨様可致注意事

明治九年十二月一日　内務卿　大久保利通　印」

別紙

県庁新築用材官林伐木取調書

一　杉弐百九拾弐本　巨摩郡身延村本遠寺上知官林

角尺〆六百弐拾七本九分　代金三拾七円六拾七銭四厘

但　尺〆壱本二付　金六銭

一　松五拾本　同所

角尺〆百本　代金五円

但　壱本二付　金五銭

一　杉五百本　同所

丸木尺〆五拾八本　代金弐円七拾弐銭六厘

但　壱本二付　金四銭七厘

一　栗拾本　同郡平林村　鷹尾寺上知官林

角尺〆拾壱本二厘　代金六拾銭七厘

但　尺〆壱本二付　金五銭五厘

一　杉三拾本　同所

角尺〆四拾五本　代金弐円七拾銭

但　同壱本二付　金六銭

一　同五百本　同所

丸木尺〆五拾八本　代金弐円七拾弐銭六厘

但　同壱本二付　金四銭七厘

一　杉百八拾本　山梨郡松里村　恵林寺上知官林

角尺〆弐百七拾本　代金拾六円弐拾銭

但　同壱本二付　金六銭

一　同五拾本　同所

丸木尺〆五本弐分五厘　代金弐拾四銭七厘

但　同壱本二付　金四銭七厘

一　杉弐拾本　巨摩郡福井村　三等官林

角尺〆三拾本　代金壱円五拾銭

但　尺〆壱本二付　金五銭

一　杉五拾壱本　巨摩郡津金村

角尺〆七拾六本五分
代金四円五拾九銭

一 杉百弐拾本
丸木尺〆拾二本九分弐厘
代金六拾五銭四厘

一 松拾本
角尺〆拾五本
代金七拾五銭

一 栗四百八拾六本
角尺〆五百二拾六本五厘八毛
代金弐拾九円四拾八銭二厘

一 栗百本
角尺〆百拾本三分
代金六円六銭七厘

一 杉弐拾本
角尺〆廿九本七厘八毛
代金壱円七拾四銭五厘

一 同百三拾七本
（一～三行、綴り合わせのため判読不可）

一 松七拾本
角尺〆百五拾弐本
代金七円六拾銭

一 松百四拾本
角尺〆弐百五拾九本
代金拾弐円九拾五銭

一 松八拾四本
角尺〆百四拾壱本四分
代金七円七銭

一 松弐拾本
角尺〆三拾本
代金壱円五拾銭

一 松七拾本
角尺〆百五本
代金五円弐拾五銭

一 松五本
角尺〆六本七分九厘弐毛
代金三拾四銭

一 松五拾本
角尺〆七拾五本
代金三円七拾五銭

一 松三拾五本

海岸寺上知官林
但 尺〆壱本二付
金六銭

同所
但 尺〆壱本二付
金四銭七厘

山梨郡岡部村
大蔵寺上知官林
但 壱本二付
金五銭

八代郡上黒駒村
三等官林
但 壱本二付
金五銭五厘

巨摩郡榊村
伝嗣院上知官林
但 壱本二付
金五銭五厘

同所カ
但 同壱本二付
金六銭

同所
但 壱本二付
金五銭

山梨郡塚原村
一等官林
但 壱本二付
金五銭

山梨郡上積翠寺村
壱等官林
但 壱本二付
金五銭

山梨郡千代田村
壱等官林
但 壱本二付
金五銭

山梨郡上万力村
壱等官林
但 尺〆壱本二付
金五銭

山梨郡三ノ蔵村
壱等官林
但 同壱本二付
金五銭

巨摩郡竜王村
壱等官林
但 尺〆壱本二付
金五銭

巨摩郡菅原村
一等官林
但 尺〆壱本二付
金五銭

巨摩郡鳳来村

角尺〆五拾弐本五分
代金弐円六拾弐銭五厘

一 杉三拾本
角尺〆四拾五本
代金弐円七拾銭

一 杉百三拾本
丸木尺〆拾五本八厘
代金七拾銭九厘

一 杉弐拾本
角尺〆三拾本
代金壱円八拾銭

一 同百弐拾三本
丸木尺〆拾四本弐分六厘八毛
代金六拾七銭壱厘

一 杉拾本
角尺〆拾五本
代金九拾銭

一 杉百拾六本
角尺〆拾三本四分五厘六毛
代金六拾二銭弐厘

一 松三拾五本
角尺〆五拾弐本五分
代金弐円六拾弐銭五厘

一 杉三本
角尺〆四本五分
代金弐拾七銭

一 杉五本
角尺〆七本五分
代金四拾五銭

一 松百五拾本
角尺〆弐百七拾八本
代金拾二円九拾銭

一 松九拾本
角尺〆百八拾弐本
代金九円拾銭

壱等官林
但 尺〆壱本二付
金五銭

巨摩郡秋田村
清光寺上知官林
但 尺〆壱本二付
金六銭

同所
但 壱本二付
金四銭七厘

巨摩郡菅原村
長光寺上知官林
但 壱本二付
金六銭

同所
但 壱本二付
金四銭七厘

巨摩郡日ノ春村
明要寺上知官林
但 壱本二付
金六銭

同所
但 壱本二付
金四銭七厘

巨摩郡清春村
壱等官林
但 壱本二付
金五銭

八代郡祝村
正宗寺上知官林
但 壱本二付
金六銭

八代郡祝村
専福寺上知官林
但 壱本二付
金六銭

山梨郡里垣村
三等官林
但 壱本二付
金五銭

山梨郡古府中村
壱等官林
但 壱本二付
金五銭

総計
木数三千七百四拾弐本
尺〆三千四百七拾九本四分壱厘七毛
代金百八拾八円拾八銭七厘

右之通ニ候也
明治九年十一月　山梨県令　藤村紫朗

(22)「明治九年山梨県内号達　全」　県立図書館蔵県行政文書

丙第六十五号

第一区ヨリ廿八区迄

区　長

戸　長

県庁改築ニ付別記ノ村々ヨリ用材伐出候條根伐角取運送共受負致シ度者ハ本月廿五日迄ニ第三課土木掛へ申出候様区内無洩可触示此旨相達候事

明治九年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗

記

第十八区　巨麻郡　身延村　一　一等官林

第十五区　同郡　平林村　一　同断

第廿八区　山梨郡　松里村　一　同断

第十八区　巨麻郡　福居村　一　三等官林

第八区　同郡　津金村　一　上知官林

第廿三区　八代郡　上黒駒村　一　三等官林

第十四区　巨麻郡　榊村　一　上知官林

第二区　山梨郡　里垣村　一　三等官林

第四区　同郡　古府中村　一　一等官林

同区　同郡　塚原村　一　一等官林

同区　同郡　上積翠寺村　一　一等官林

第四区　同郡　千代田村　一　一等官林

第廿六区　同郡　上万力村　一　一等官林

第六区　巨麻郡　三ノ蔵村　一　一等官林

第三区　同郡　龍王村　一　一等官林

第十一区　巨麻郡　菅原村　一　一等官林　上知官林

同区　同郡　鳳来村　一　一等官林

第十区　同郡　秋田村　一　上知官林

同区　巨麻郡　日ノ春村　一　上知官林

第十区　同郡　清春村　一　一等官林

第廿四区　八代郡　祝村　一　上知官林

(23)「明治九年内務省指令書　第四」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「第三百八十五号」

県庁改築冒費額内御下渡再申立書

目途金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ノ三分一

官給金三千三百九拾弐円七拾八銭五厘三毛ノ内

一　金弐千五百円

右ハ当県庁改築之義御許可ニ付此般致着手候処諸払方ニ差支候間官費之額内之金員御下渡有之義本月十日付第三百七十四号ヲ以申立候処計算相違ニ付御指令ニ依リ即金額引直シ前記之通官給額内ヲ以仮ニ御下渡有之度此段申立候也

明治九年十一月十八日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

（朱書）
「書面県庁改築入費目的高金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ノ三分一官給金三千六百弐拾六円拾壱銭九厘之内金弐千五百円内渡ト シテ当省ヨリ可下渡事
但申牒書三分一官給之金額ハ違算ト見做シ本文之通正算候條此旨可相心得事
明治九年十二月二日　内務卿　大久保利通　印」

（24）「明治九・十年分院省寮司伺　第一課」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）
「第百七号」
令　印　大書記官　印　二等属　印
人民扣所諸費之儀ニ付伺
県庁内ニ設置有之人民扣所ニ係ル需用品（膝掛火鉢炭油之類）及小使給料等之諸費ハ従前民費ニ賦課シ来候処右等モ本年第十六号公達ニヨリ官費支給致シ可然哉此段相伺候也
明治十年三月　山梨県令　藤村紫朗
内務卿　大久保利通殿代理
内務少輔　前嶋密殿

（朱書）
「書面伺之通
但官費支給之儀ハ本年第弐拾八号公達之通可相心得事
内務卿　大久保利通殿代理
明治十年三月廿七日　内務少輔　前嶋密　印」

（25）「明治十年内務省届　乾　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

（表題）
「明治十年度
諸官舎営繕費予算内訳簿
山梨県」

定額常費之部
目論見高
一　金四百弐拾四銭　諸官舎営繕費
内訳
金弐百四円五拾二銭五厘　県庁舎修繕費
金九拾壱円五拾銭　県庁長屋修繕費
金百四円弐拾壱銭五厘　県庁外囲修繕費

額外常費之部
目論見高
一　金七千六百拾四円八拾四銭九厘　県庁改築費
但九年十月三十一日伺済目論見高惣経費金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘本年六月三十日迄三歩通出来見込み三歩引去残七歩通金七千六百拾四円八拾四銭九厘七月以降ニ跨候見込ニ付改而皆官費当如此
二　額
合計金八千拾五円八銭九厘
内金七千六百拾四円八拾四銭九厘　新営
金四百円弐拾四銭　修繕
右者明治十年七月ヨリ同十一年六月迄営繕費予算書面之通ニ有之候也
明治十年五月三日　山梨県令　藤村紫朗

（26）「明治十年内務省届　坤　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

明治　年　月　日受付
十年八月一日成案　八等属　岩崎奇一　印
令　印
書記官
一等属
第三課長　属　印　印
警部
内務省へ御届案
県庁改築工事之模様御届
当県庁改築之儀客年十二月中用材伐出ニ取懸リ今年四月ニ至リ大工其侘之職工ヲ雇入工事着手致シ候処六月迄ニ凡三分通落成致シ候右者官舎営繕費之分七月以後官費ニ可相立旨御達有之候ニ付費途之割合ニ関係致シ候間中段及御届置候也
十年八月二日　山梨県令　藤村紫朗
内務卿　大久保利通殿代理
内務少属　前嶋密殿

（27）「明治十年従十月至十二月内務省指令書　人　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）
「第三百八十五号」
県庁改築官費額内御下渡申立書
目途金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘之内
一　金三千円　此度御下渡可相願分
外金弐千五百円　先般御下渡相成候分
合金五千五百円
是ハ当六月迄ニ工事三分通出来ニ付目的費額三分通之三分一金千八拾七円八拾三銭五厘之官給并残リ七分通金七千六百拾四円八拾四銭九厘ハ七月後之工事ニ係リ候費額ニ付全官給可相成分共合計金八千七百弐円六拾八銭四厘之内
右ハ当県庁改築之儀工事凡五分通落成致シ先般御下渡之金員已ニ遣払即今諸仏方差支候間官費額内之金員尚又前記之通御下渡相成度此段申立候也
明治十年八月二日　山梨県令　藤村紫朗　印
内務卿　大久保利通殿代理
内務少輔　前嶋密殿

（朱書）
「書面之趣ハ九年度ニ於テ事業落成之費用中仕切精算相立候上可下渡候條至急取調可申出事
明治十年十月十日　内務卿　大久保利通　印」

(28)「明治十年従十月至十二月内務省指令書　人　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第四百五号」
　　県庁改築費増額之儀ニ付上申

当県庁改築之儀客年十月中伺ヲ経已ニ着手即今工事凡五歩通落成候処先般指出候積リ書之内敷物代并諸買上品運送賃之ニ廉調洩ニ相成右ハ経費目的金之内ニテ取賄ヒ可申哉ニ候得共目的金之儀モ最初申立候目論見金高之内金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ減セラレ更ニ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手致シ候様御指令相成候次第ニ付落成ノ上ハ多少不足可相立モ難図旁右調洩之分金千六百三拾円三拾銭五厘ヲ取賄候儀ハ難相整候間別途御下渡相成度別紙積リ書一通相添此段申立候條至急御指揮有之度候也

明治十年八月十三日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(朱書)
「書面申出之趣ハ当初取調之節粗漏ニ出不都合ニ候得共既往無餘儀事ニ付遂テ何分ノ可及詮議付テハ目今営繕費節略之際ニ付敷物ノ如キハ可成下品相用ヒ精々入費減省方注意シ再取調更ニ可申出事

明治十年十月三日　内務卿　大久保利通　印」

(29)「明治十一年内務省指令書　第壱」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第四百七号」
　　県庁内物置土蔵取設之儀伺

当県庁改築之儀客年十月中伺ヲ経既ニ着手落成ノ期モ不遠然ル処地券台帳其他保存スヘキ帳簿夥多有之就中地券台帳ノ如キハ三百枚ヲ以一簿トセシモノ凡弐万冊以上有之是而已ニテモ凡七拾坪ノ場所ヲ要シ候儀之処新築庁内ニハ一切之ヲ納ルルノ空室ナク落成移庁ノ運ニ至リ候共忽チ差閊候條物置土蔵一棟建設致シ度別紙図面並目論見帳相添此段相伺候至急御指揮ヲ仰キ候也

明治十年八月十四日　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　大久保利通殿

(朱書)
「書面土蔵新設之儀ハ詮議之次第有之候條会計来十一年度ニ於テ起工之積本年七月後ニ至リ更ニ可申出事

但本文費額ハ来年度予算簿ヘ記入可致且別冊目論見帳及図面共一ト先下戻シ候事

明治十一年三月一日　内務卿　大久保利通　印」

(30)『山梨県史』第七巻　山梨県立図書館　昭和三十九年

別冊　　物置土蔵新築仕様目論見

中等

一　物置土蔵　　壱棟

桁行　拾五間　但　尋常平家屋根瓦葺切妻高高配六寸

梁間　　五間

右仕様地所高低平均地堅メ致シ礎ハ青石角八寸ヲ二タ重ネニ致シ土台檜長弐間五寸角柱杉長弐間半五寸五分角桁松長弐間巾八寸厚六寸梁松長壱丈六尺巾壱尺厚六寸ヲ用ユ

皆官費

一　金千六百八拾五円四拾壱銭五厘　　土蔵新築費

但　平家建坪七拾五坪壱坪ニ付金廿弐円四拾七銭弐厘餘

内訳

金千弐百五拾六円弐拾五銭　　大工方

内

金七百五拾円　　竹木諸材代

金五拾六円廿五銭　　諸鉄物代

金四百五拾円　　大工諸工賃

但　此工数千五百人壱坪ニ付廿人掛壱人ニ付金二拾銭

金弐百五円拾六銭五厘　　大工方

内

金九拾七円六拾弐銭　　瓦代

金四拾壱円三拾弐銭　　屋根葺賃工代共

但　屋根坪百三坪三合葺立屋根漆喰ヒ迄壱坪ニ付金四拾銭

金六拾六円廿弐銭五厘　　壁塗賃工代共

但　坪数八十八坪三合小廻掻ヨリ上塗迄壱坪ニ付金七拾五銭上塗ハ白土ヲ用

金弐拾八円五拾銭　　建具方

内

金拾五円　　入口裏白戸五枚代

但　木品檜壱枚ニ付金三円

金拾二円五拾銭　　窓裏白戸九枚

但　木品檜壱枚ニ付金壱円五拾銭

金百弐拾円　　石工方

内

金九拾六円　　礎石八拾間代

但　切石壱間ニ付金壱円弐拾銭

金弐拾四円　　砂石八百荷代

但　壱荷ニ付金三銭

金六拾九円　　人夫方

内

金四拾五円　　大工手伝賃

但　此人夫弐百廿五人壱人ニ付金弐拾銭

金弐拾四円　　地形人足賃

但　此人足百弐拾人壱人ニ付金弐拾銭

金六円五拾銭　　諸色代

内

金五円　　足場損料

金壱円五拾銭　　縄其外代

右ノ通相違無之候

明治十年八月十四日　　山梨県令　藤村紫朗

(31)「明治十年従十月至十二月内務省指令書　人　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)
「第四百八拾七号」
　　県庁改築官費額内御下渡申立書

目的金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘之内

一　金四千円　　此度御下渡奉願分
　外金弐千五百円　　先般御下渡相成候分
　合金六千五百円
　　是ハ当六月迄事業落成之分ニ係ル入費金三千六百五拾三円壱銭弐厘之三分一金千弐百拾七円六拾七銭壱厘及ヒ七月後之工事ニ係ル費金七千弐百弐拾五円三拾四銭四厘共金官給可相成金額八千四百拾三円壱銭五厘之内
右ハ当県庁改築之儀本月中事業落成之目途ニ付去ル八月当県第三百八十五号ヲ以官費額内之金員御下渡之儀申立候処九年度ニ於テ事業落成之費用中仕切精算相立候上御下渡可相成トノ御指令ニ付則中仕切精算帳取調進達致シ候間前記之金員至急御下渡相成度此段申立候也
明治十年十月十九日　山梨県令　藤村紫朗　印
　内務卿　大久保利通殿

（朱書）「書面九年度ニ於テ事業落成之費用金千弐百拾七円六拾七銭壱厘中仕切精算之儀ハ聞置候得共右金額既ニ下渡置候金弐千五百円ニ差引金千弐百八拾弐円三拾弐銭過剰ニ属シ十年度費額ニ組入ルヘキ分ニ付同金額ハ証書（券）ヲ以返納致スベシ尤此度請求高四千円ヘ返納高ヲ加合金五千弐百八拾弐円三拾弐銭九厘ハ十年度費額トシテ更ニ可下渡事
明治十年十一月六日　内務卿　大久保利通　印」

（32）「明治七年至十年内外往復　史誌編輯局」　県立図書館蔵県行政文書

近々県庁新築落成ニ付テハ椅子テーフル書棚等迄新調相成候間従前各課備付相成居候雑具ノ内粗悪ノ品ハ勿論必用ニ無之分ハ悉皆廃シ相成候ニ付移転ノ際右等ノ品ハ当庁ヘ相残シ候様上局ヨリ御談有之候ニ付猶実物ニ就テ御談も可致候得共成丈不体裁品ハ新庁ヘ御持越不相成様御取計可被成候尤も廃シノ物品ハ何レモ取纏メ当課ヘ御引渡可被成候此段為御心得及御通知候也
明治十年十一月五日　　第六課
　各課御中

記

一　箪笥　　壱棹
一　書籍函　　四個
　内　甲斐国史入壱　三寸絵図入壱
　　廣輿学典入壱　歴史原稿入壱
一　硯箱　　七個
以上新県庁ヘ持越ノ分

一　書棚　　弐架
一　テーブル　　七脚
一　椅子　　同
一　箱類　　三個
以上残置ノ分
右之通候也
　十年十一月十六日　　編輯局
　第六課
御中

（33）「明治十年内務省届　坤　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

明治　年　月　日受付
　十年十一月九日成案　　八等属　岩崎奇一　印
令　印
　書記官
　一等属　印
　第三課長　属　印　印
　　警部
　内務省ヘ御申立案
　県庁改築費返納申立書
当県庁改築費之内九年度御下渡之分過剰相成候間別紙返納証書一葉致進達候也
十年十一月十二日　山梨県令　藤村紫朗
　内務卿　大久保利通殿

返納証書
一　金千弐百八拾弐円三拾弐銭九厘
　是ハ県庁改築費之内金弐千五百円明治九年十二月御下渡之処九年度ニ於テ事業落成之分ニ係ル官費金千弐百拾七円六拾七銭壱厘ヲ引去全過剰分
右返納候也
明治十年十一月十二日　山梨県令　藤村紫朗
　内務卿　大久保利通殿

（34）「明治十年山梨県甲号布達　坤」　個人蔵

甲第三百七号
第一区甲府錦町新築県庁落成に付来る二十三日開庁同三十日より事務取扱候事
右に付来る廿四日より廿八日迄五日の間庶人庁中縦覧を許す
右布達候事
明治十年十一月十四日　山梨県令　藤村紫朗

（35）「明治十年本庁達　書記局」『山梨県行政文書』山梨県立図書館蔵

第六十四号　　各課
県庁新築落成ニ付来ル廿三日開庁候條同日午後第二時各課準等外以上礼服着用出頭可致此旨相達候事
明治十年十一月十九日
　本庁

（36）「明治十年内務省届　坤　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

県庁改築落成ニ付復帰御届
当県第一区山梨郡錦町県庁改築落成ニ付去月三十日本庁江復帰致シ候間此段致御届候也

明治十年十二月三日　山梨県令　藤村紫朗
太政大臣　三条実美殿
内務卿　大久保利通殿

(37)「明治十年本庁達　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

第六十八号　　各　課

庁内各室出入ノ節其戸ヲ明放シ置ク可ラス庁中靴ノ外ハキモノヲ禁ス

右相達候事

明治十年十二月十日　　本　局

(38)「明治十年山梨県甲号布達　坤」　個人蔵

甲第三百三拾号

此般第一区富士川町仮県庁建家払下候條望の者ハ来る廿日より廿二日迄の内第三課へ申出建家并規則書一覧の上本月廿七日限入札可差出此旨布達候事

明治十年十二月十一日　山梨県令　藤村紫朗

(39)『山梨県史』第七巻　山梨県立図書館　昭和三十九年

県庁改築費ヲ内務省ニ申請ス

第百七拾八号

一　金八千四百四拾三円壱銭五厘

是ハ県庁改築費目的金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘之内十年六月迄事業落成之分ニ係ル入費金三千六百五拾三円壱銭弐厘之三分二民費金弐千四百三拾五円三拾四銭壱厘ヲ引去ル残リ

一　金千弐百八拾七円七拾銭三厘

是ハ十年八月中別途御下渡之儀申立候敷物代并諸品運送賃金千六百三拾円三拾銭御座候処敷物ノ儀可成下品相用候様御指令之趣も有之候ニ付入費減省方注意致シ実費本條之通有之候

一　金弐千六拾六円八拾九銭弐厘

是ハ目論見金高壱万三千三百九拾六円拾弐銭九厘之内金弐千五百拾七円七拾七銭三厘ヲ減縮シ更ニ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致旨予テ御指令相成候ニ付一層減縮方注意致シ候得共工事中風害ニ罹リ重複之費用相掛リ御指令通ニハ減シ兼目的金額より超過致シ候分

合金壱万千七百九拾七円六拾壱銭

内　　十年中御下渡相成分

金六千五百円　　十年中御下渡相成分

残金五千弐百九拾七円六拾壱銭　　此度御下渡奉願分

右ハ客年中及御届候通当県庁改築落成ニ付入費精算候処官給可相成分前書之通有之右ハ初発改築之儀相窺候節指出候目論見帳ハ再度節減ヲ盡シタルモノニテ坪数工数諸品代ニ至ル迄一ツトシテ減縮可致廉無之候得共予テ御指令之趣モ有之ニ付実ニ無理ナル節省ヲ加ヘ目的金額より超過セサル様注意罷在候中不図客年十月之暴風ニテ稍落成ニ臨ミタル本履ニ狂ヒヲ生シ壁ヲ敗リ瓦ヲ飛シ其侘破損不尠為之重複ノ入費ヲ要シ候ニ付終ニ目的金額ヨリ金弐千円餘之超過ト相成方今国費御多端之際請求之儀申立兼候得共右之次第不得已事ニ付事情御調察速ニ残金御下渡相成度精算帳相添此如申立候也

明治十一年三月七日　　山梨県令　藤村紫朗
内務卿　大久保利通殿

指　令　　書面県庁改築費及風害重複之費用共目的金額ヨリ超過之分増費受取方請求之趣格別之詮議ヲ以此度限聞届相当下渡スヘキ経費共合金五千弐百九拾七円六拾壱銭当省ヨリ可下渡事

明治十一年六月廿六日　　内務卿　伊藤博文

別　冊　　精算帳ハ略シテ其合計ノミヲ挙ク

一　金壱萬千壱拾弐円九拾五銭六厘　　本館
一　金百参拾四円四拾五銭五厘　　湯呑所
一　金七拾弐円五拾壱銭四厘　　便所
一　金八拾七円九拾壱銭弐厘　　表門
一　金四拾円六拾九銭六厘　　裏門
一　金百廿六円九拾六銭八厘　　表門番所
一　金八拾六円九拾六銭七厘　　裏門番所
一　金七百廿弐円四拾三銭四厘　　吹抜　柵矢来
一　金六百六拾円三拾四銭六厘　　板打　柵矢来
一　金千弐百八拾七円七拾銭三厘　　雑費
通計金壱萬四千弐百三拾弐円九拾五銭壱厘

内　訳

金壱萬千七百九拾七円六拾壱銭　　官費
金弐千四百三拾五円三拾四銭壱厘　　民費

(40)「明治十一年内務省達　本局書記」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「庶第百七十八号」　　山　梨　県

県庁新築費ノ儀ハ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致旨明治九年十月指令ニ及ヒ同金高中追々下渡置候末今度落成ニ至指令金高ヨリ超過之分及風害重複之費用共合金弐千六拾六円八拾九銭弐厘増費請取方申出候処右様巨多之経費其時々請求ニ不及仕払取計候段頗ル不都合之筋ニ付専断之始末心得方可申出候此旨相達候事

明治十一年四月四日　　内務卿　大久保利通代理
内務少輔　林　友幸　印

(41)「太政類典第三編　明治十一年～明治十二年　第二十二巻」『国立公文書館』デジタルアーカイブ

六月廿二日

山梨県庁改築増費交付

内務省伺

山梨県庁改築ノ儀一昨九年十月御許可ノ上金一万円余ヲ目的トシ建築着手ノ儀指令イタシ置キ此程落成ニ至許可金高ヨリ超過

ノ分金弐千円余増受取請求有之委曲別紙甲乙号ノ通リニ有之依テ審按候ニ最前指令ノ金額ハ目的高ニ付僅少ノ超過ハ不得止筋ニ候ヘトモ風害重複ノ費用ヲ加フルニ致セニ千円余ノ超過ヲイタス如キハ甚以不注意ノ至殊ニ何等申出モ無之擅ニ遣払候始末不束ニ付心得方其筋ヘ可申出旨相達置候ニ付専断ノ所業ハ相当御処分可相成候ヘトモ前顕金額ノ如キハ既ニ仕払後ニ付超過高金弐千六拾六円八拾九銭弐厘請求ノ通下渡取計度此段相伺候也

六月七日

伺ノ趣聞届候事　六月廿二日

甲　山梨県上申　内務省宛

以下、資料(39)と同文

乙　同上　同上

県庁新築費ノ儀ハ目的金高予テ御指令ノ趣モ有之候処風害重複ノ費用等右目的金額ヨリ超過ノ分今般落成ニイタリ受取方申立右様巨多ノ経費其時々請求ニ不及仕払ヒ候段頗ル不都合ノ筋ニ付専擅ノ始末心得方可申出旨御達ノ趣謹承イタシ候全体右新築ニ付テハ当初ニヲイテ精密節減シ費額目論見相伺候処猶其内弐千五百円余ヲ減シ目的金額御定相成候ニ付一層節省右金額ヨリ超過セザル様注意可致旨主任ノモノヘ相達シ専ラ質素簡便ヲ主トシ彼ヲ省キ此ヲ節シ弥縫経営着手稍成功ヲ垂ントスルニ際シ昨十年十月未曾有ノ風災有之タメニ本廈傾斜シ壁ヲ破リ瓦ヲ飛シ其他数ヶ所ノ損害ヲ被リ右修復ノ工費凡ソ千円余ノ重複ヲ生シ候ニ付其節詳細取調増費請求可致処同時当県勧業製糸場モ悉皆倒壊シ其再築費モ官貸ヲ仰キ且一般人民風災救助等夥多費用ヲ要シ殊ニ西南変動以来国費頗ル御多端中右等重複ノ費用ヲ請求候ハ実ニ痛心難堪儀ニ候右附属建物ノ中差向キ新築ヲ要セサルモ格別差閊無之分ハ暫ク旧形ニ据置其減費ヲ以テ此ノ複費ヲ補ヒ別途増費ヲ請求セスシテ填償ノ道相立候様申付取調為致候処凡ソ重複ノ増費ヲ相当スヘキ減額ヲ算出候ニ付当時請求不致候処其後風災ニ罹ル民害建監修繕等一時ニ差湊ヒ候ヨリ諸職工賃銭及建築用品等非常ニ騰貴シ是カ為メ遂ニ始終ノ目算ニ齟齬ヲ生シ落成ノ上全ク金弐千六拾六円八十九銭二厘ノ増費ト相成恐惶ニ不堪旨主任ノモノヨリ申出折角節省ノ苦慮モ其効無キニ立イタリ候ノミナラス請求ノ順序ヲ誤リ甚タ不都合ヲ醸シ候ニ付相当懲戒ノ処分可致積尤下官并大書記官ヲイテモ監査不行届ノ段ハ固ヨリ不免其責儀ニ付其筋ヘ待罪書可差出心得ニ有之候此段具申候也　四月廿二日

調査局議案

別紙内務省伺山梨県々庁改築経費増額ノ分御下渡ノ件審按候処最前御裁可ノ金額ヨリ超過ノ分不経伺遣払候段不都合ノイタリニ候ヘトモ事既往ニ属シ今更イタシ方モ無之次第ニ付申請ノ通御許可相成候外有之間敖因テ御指令按左ニ相伺候也　六月十二日　大蔵省ヘ通牒如例

(42)「明治十一年内務省届　書記局」　県立図書館蔵県行政文書

明治　年　月　日受付

十一年七月一日成案　九等属　久保田恭礼　㊞

令　㊞

書記官

一等属　㊞　第三課長　㊞　属　㊞

書記局長　属　㊞

(朱書)「第四百八十壱号」

内務省ヘ申立案

県庁改築費受取方申立

一　金五千弐百九拾七円六拾壱銭

但県庁改築費及風害重複之費用トモ目的金額ヨリ超過之分十一年六月廿六日御指令済

右御渡有之候也

明治十一年七月二日　山梨県令藤村紫朗

内務卿　大久保利通殿

(43)「明治十一年従七月至十二月　内務省指令書　第二」　県立図書館蔵県行政文書

(朱書)「第五百八号」

県庁物置土蔵建設之儀申立

地券台帳其他諸帳簿夥多ニシテ保蔵スヘキ場所無之差閊候ニ付物置土蔵壱棟建設之儀客歳八月十日付ヲ以伺出候処本年三月一日付ヲ以詮議之次第有之会計十一年度ニ於テ起工之積本年七月後ニ至リ可申出旨御指令相成候ニ付今般更ニ別冊目論見帳并絵図面相添申立候条至急御許可相成度候也

明治十一年七月十日　山梨県令　藤村紫朗　㊞

内務卿　伊藤博文殿

(朱書)「書面物置土蔵新築之儀聞届候条金千六百八拾五円四拾壱銭五厘ヲ目的ニ着手シ落成之上図面相添金額受取方可申出事

明治十一年九月廿日　内務卿　伊藤博文　㊞」

(44)「■年ヨリ十二年迄官省指令原書　出納課」　県立図書館蔵県行政文書

明治十一　年　月　日受付

年八月廿日成案　四等属　相曽長能　㊞

令　㊞

書記官　㊞

一等属

第六課長　属　㊞

第三課長　㊞　属　㊞

(朱書)「第六百十五号」

大蔵省ヘ伺案

県庁邸内樹木手入諸費之儀ニ付伺

当県庁邸内ニ従前有之樹木并客歳新築之際移栽致シ候分トモ手入

及培養霜除ヶ等ノ諸費ヲ要シ候ニ付予算候処金額別紙仕訳書之通有之候依テ右費目ハ定額常費中ヨリ支出致シ可然哉此段相伺候也

明治十一年八月　　山梨県令　藤村紫朗

大蔵卿　大隈重信殿

（朱書）「第四千三百八十七号

伺之通可相心得事

明治十一年九月十二日　　大蔵卿　伊藤博文　印」

邸内樹木手入費予算内訳書

一　金三拾七円五拾九銭弐厘　　定額常費

内

金三拾七円五拾七銭　　給与　人足費

是ハ平素手入并霜除ヶ補理之節使用之分

金拾円弐銭弐厘　　庁中費　需用費

内

金五円　　肥シ代

金五円弐銭弐厘　　霜除ヶ用藁縄代

右之通有之候也

明治十一年八月　　山梨県令　藤村紫朗

（45）「明治十一年従七月至十二月内務省指令書　第三」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）「第七百三十九号」

県庁物置土蔵建築費御下渡之儀上申

一　金千六百八拾五円四拾壱銭五厘

右ハ県庁物置土蔵建築之儀本年七月十日当県第五百八号ヲ以テ相伺候処客月廿日附御指揮ノ旨ニヨリ即今落成候ニ付前記金額御下渡相成度候依之図面相添此段聞申候也

明治十一年十月十五日　　山梨県令　藤村紫朗　印

内務卿　伊藤博文殿

（朱書）「書面精算聞届金千六百八拾五円四拾壱銭五厘当省ヨリ可下渡事

明治十一年十一月三十日　内務卿　伊藤博文　印」

（付箋）「物置土蔵図　　梁間　五間

桁行　拾五間」

（46）「太政類典第三編　明治十一年～明治十二年　第五巻」『国立公文書館』デジタルアーカイブ

十月二十二日

山梨県令従五位藤村紫朗へ達

県庁新築費増額ノ儀ハ其際情況ヲ具シ請求スベキノ処無其儀専断ヲ以テ消費候段不都合ニ付譴責ス

藤村山梨県令　西村同県大書記官　伺　各　通

当県庁新築ニ付テハ費用節減ヲ主トシ去ル明治九年八月中再応目論見金高内務省ヘ稟議候処右額ノ内猶弐千五百円余ヲ減シ金壱万八百七拾八円三拾五銭六厘ヲ目的ニ着手可致旨指令有之候ニ付一層節省右額ヨリ超過セザル様注意可致旨主任ノモノヘ相達シ総テ質素簡便ニ基キヲ彼ヲ省キ此ヲ節シ弥縫経営着手稍成功ヲ垂ントスルニ際シ昨十年十月未曾有ノ風災有之為メニ本廈傾斜シ壁ヲ破リ瓦ヲ飛シ其他数ヶ所ノ損害ヲ被リ右修復ノ工費凡ソ千円余ノ重複ニ相成候ニ付其節詳細取調ヘ内務省ヘ増費請求可致処予テ当県ニ設置スル所ノ勧業製糸場モ同時悉皆倒壊シ其再築費モ官貸ヲ仰キ且一般人民風災救助等夥多ノ費用ヲ要シ殊ニ西南変動以来国費頗ル御多端中右等重複ノ費用ヲ請求候ハ実ニ痛心難堪義ニ付右附属建物ノ中差向キ新築ヲ要セサルモ格別差閊無之分ハ暫ク旧形ニ据置キ其減費ヲ以テ此ノ複費ニ充テ別途増費ヲ請求セスシテ補償ノ道相立候様及指図取調為致候処凡ソ重複ノ増費ニ相当スヘキ減額ヲ算出候ニ付当時請求不致義ノ処其後風災ニ罹ル民家建築修繕等一時ニ差湊ヒ候ヨリ諸職工賃銭及建築用品等非常ニ騰貴シ是カ為メ遂ニ始終ノ目算ニ齟齬ヲ生シ落成ノ上全ク金弐千六拾六円八十九銭二厘ノ増費ト相成恐惶ニ不堪旨主任ノ者ヨリ申出折角節省ノ苦慮モ其効ナキニ立至リ不都合ニハ候ヘモ不得止次第ニ付此般内務省ヘ請求方申出主任ノ者ハ懲戒例ニ依リ処分可致心得ニ候乍去右様不都合相醸シ候ハ畢竟下官監査不行届ヨリ請求ノ順序ヲ誤リ深ク恐懼仕候依テ始末ヲ具申シ謹テ進退奉伺候也　四月廿三日

内務省回答

山梨県令藤村紫朗大書記官西村亮吉県庁新築費用ノ義進退伺出候ニ付意見可申出旨御照会ノ趣致承知候該県庁新築費用壱万八百七拾八円余ノ目的ヲ以テ着手ノ義九年十月中己聞届置十年十月中風損修復ノ工費有之趣ヲ以テ今般落成ノ上弐千六拾六円余ノ増費下渡ノ義申出候処既ニ新築聞置候上ハ仮令多少ノ増費ヲ要スルアルモ固ヨリ中止ス可カラサル義ニ候ヘハ情況具陳其増費ヲ請求候ハ々到底下付相成候外無之義ニ候処之レヲ請求セス専断ヲ以テ費消候儀不都合ニハ候ヘトモ前述ノ次第ニ付事情酌量過失ノ軽キモノトナシ県令藤村紫朗ハ懲戒例第三条ニ依テ御処分相成大書記官西村亮吉ハ不問ニ措カレ可然此段及御回答候也　十月

山梨県大書記官西村亮吉ヘ通牒　書記官

別紙進退伺出ノ趣不被及御沙汰候此旨及通牒候也　十二月廿二日

書記官議案

山梨県庁新築ノ儀ハ予テ几裁ノ金額ヲ以テ可取計筈ノ処風災ノタメ弐千六拾六円余ノ増額ニ及ヒ右金額専断ヲ以テ消費候段不都合ニ付別紙ノ通県令藤村紫朗大書記官西村亮吉ヨリ進退伺出候ニ付本人御処分ノ義ハ内務卿意見ノ通県令藤村紫朗ハ懲戒例第三条ニ拠リ御譴責相成大書記官西村亮吉ハ不問ニ付セラルヘキヤ仰高裁候也　十月九日　○内務省ヘ通牒

（47）「藤村紫朗履歴書　明治15・12・27」『山梨県史　資料編14』平成8年

明治十一年十月廿五日

一　県庁新築増額ノ儀ハ其際情況ヲ具シ請求スベキノ処無其儀専

断ヲ以テ消費候段不都合ニ付譴責ス
明治十一年十月廿二日　太政大臣　三条実美

（48）「明治十一年従七月至十二月内務省指令書　第三」　県立図書館蔵県行政文書

（朱書）
「第八百四拾五号」
県庁修繕費御下渡之儀申立
一　金弐百六拾円弐拾壱銭四厘
右ハ県庁営繕費受取方三ヶ月毎取纏出来形清算帳相添可申出旨客歳御省乙第九拾八号同百拾弐号御達ニ照準県庁修繕費本年七月ヨリ九月マデ三ヶ月分精算帳致進達候間右費用御下渡相成度此段及聞申候也
明治十一年十二月七日　山梨県令　藤村紫朗　印
内務卿　伊藤博文殿

（朱書）
「書面精算高金弐百六拾円弐拾壱銭四厘当省ヨリ可下渡事
明治十一年十二月廿七日　内務卿　伊藤博文　印」

（表紙）
「明治十一年十二月
県庁営繕費精算帳
山梨県」

明治十一年（従七月至九月）　県庁営繕費精算帳

一　金弐拾三円六拾七銭四厘　県庁西之方囲板塀拾五間半風破修繕入用
此　訳
金七円九拾五銭　大工方　但　壱人二付　金三拾銭
此工数二拾六人五分

金壱円拾三銭六厘　鍛冶方
内
百三拾本　五寸釘　但　百本二付　金拾弐銭五厘
代金拾六銭三厘
弐百七拾五本　四寸釘　但　百本二付　金八銭
代金弐拾弐銭
弐千百五拾本　弐寸釘　但　百本二付　金三銭五厘
代金七拾五銭三厘

金拾壱円弐拾六銭八厘　ペンキ塗　但　壱坪二付　金四拾四銭
此坪廿拾五坪六合壱夕

金壱円四拾四銭　大工手伝人足　但　壱人二付　金弐拾銭
此人足七人弐分

金壱円八拾八銭　材木方
内
三拾弐枚　五分　堀板松長六尺
壱尺　代金壱円七拾六銭　但　壱枚二付　金五銭五厘
壱本　尺〆八厘　松　同長六尺
代金拾弐銭　四寸角　但　尺〆壱本二付　金壱円五拾銭

一　金弐拾弐円五拾八銭八厘　県庁本舎敷物損所敷替入用
此　訳
金拾九円四拾七銭　ゾーク拾六坪五合代　但　壱坪二付　金壱円拾八銭
此工数二拾六人五分

金弐円弐拾銭　同前形置代　但　壱坪二付　金拾二銭三厘三毛三絲
此工数二拾六人五分

金九拾壱銭八厘　同前敷込代　但　壱坪二付　金五銭五厘六毛三絲
此工数二拾六人五分

一　金四円七拾七銭弐厘　県庁本舎廊下ヘ手摺長延三間半取設入費
此　訳
金三円拾五銭　大工方　但　壱人二付　金三拾銭
此工数拾人五分

金拾九銭三厘　鍛冶方
内
九拾本　五寸釘　但　百本二付　金拾弐銭五厘
代金拾壱銭三厘
四　組　肘　坪　但　壱組二付　金壱銭
代金四銭
四　組　掛　金　但　壱組二付　金壱銭
代金四銭

金四拾銭　手伝人足　但　壱人二付　金弐拾銭
此人足弐人

金壱円弐銭九厘　材木方
内
尺〆弐分六厘三毛　笠木　弐寸五分　三寸五分
四　挺　杉長九尺
尺〆壱分九毛　束　同長弐尺五寸　同断
六　挺
尺〆壱分弐厘　筋違木　同長九尺　弐寸角
四　挺

合角尺〆四分九厘弐毛　但　尺〆壱本二付　金弐円九銭壱厘
代金壱円弐銭九厘

一　金七円三拾八銭　県庁本舎窓障子ヘ弾金物取付入費
此　訳
弐百四拾六組　鉄弾金物　但　壱組二付　金三銭
代金七円三拾八銭

一　金四拾三円八拾弐銭三厘　県庁本舎窓日覆取設入費

此　訳
弐拾六掛　晒天竺木綿母衣仕立日覆
代金三拾三円四銭六厘　但　壱掛二付　金壱円弐拾七銭壱厘
弐拾六組　日覆真
代金五円五拾九銭　但　壱組二付　金弐拾壱銭五厘
百三拾組　同前取付金物
代金三円拾八銭五厘　但　壱組二付　金弐銭四厘五毛
弐拾六組　同前取付賃
賃金弐円弐厘　但　壱組二付　金七銭七厘

一　金拾四円弐拾六銭五厘　県庁表裏角一番所窓日覆取設入費
此　訳
拾壱掛　晒天竺木綿母衣仕立日覆
代金拾四円　但　壱掛二付　金壱円弐拾七銭弐厘七毛
拾壱掛　同前取付賃
賃金弐拾六銭五厘　但　壱掛二付　金弐銭四厘九絲

一　金六円九拾三銭　県庁湯呑所并警察人民控所仮穢倉窓日覆取設入費
此　訳
拾　掛　幅五尺　丈七尺　晒天竺木綿日覆
代金六円八拾戦　但　壱掛三付　金六拾八銭
拾　掛　同前取付賃
賃金拾三銭　但　壱掛三付　金壱銭三厘

一　金拾六円九拾四銭三厘　県庁本舎建貫硝子破損欠替入費
此　訳
百五枚　幅壱尺三寸　長壱尺五寸　硝子板
代金拾五円七拾五銭　但　壱枚二付　金拾五銭
百五枚　同前嵌込賃
賃金壱円拾九銭三厘　但　壱枚二付　金壱銭壱厘三毛六絲

一　金弐拾八円九拾壱銭五厘　県庁北之方ヨリ西へ折廻シ柵矢来長延六拾四間半風破修繕入用
此　訳
金拾九円五拾銭　大工方
此工数六拾五人　但　壱人二付　金三拾銭
金四円六拾弐銭　ペンキ塗
此坪拾坪五合　但　壱坪二付　金四拾四銭
金壱円六拾銭　手伝人足
此人足八人　但　壱人二付　金弐拾銭

金三円拾九銭五厘　材木方
内
尺〆六分四厘　板
八　本　桧長六尺　四寸角
尺〆弐分四厘　笠木　三寸
弐　挺　同長弐間　四寸
合角尺〆八分八厘
代金三円拾九銭五厘　但　尺〆壱本二付　金三円六拾三銭壱厘

一　金拾五円九銭三厘　県庁人民控所中仕切其外損所修繕入費
此　訳
金三円六拾銭　大工方
此工数拾弐人　但　壱人二付　金三拾銭
金四拾九銭五厘　鍛冶方
内
五拾本　五寸釘
代金六銭三厘　但　百本二付　金拾弐銭五厘
百　本　四寸釘
代金八銭
千百七拾四本　壱寸五分釘
代金三拾五銭弐厘　但　百本二付　金三銭
金壱円拾六銭　竪三尺弐寸　横三尺五寸　硝子障子壱本代
金三円九拾六銭　ペンキ塗
此坪九坪　但　壱坪二付　金四拾四銭
金壱円八銭　手伝人足
此人足五人四分　但　壱人二付　金弐拾銭
金四円七拾九銭八厘　材木方
内
尺〆弐分五厘　土台
壱　挺　松長二間　五寸角
尺〆弐分八毛　板
壱　本　同長壱丈　同断
尺〆壱分六厘七毛　同
壱　本　同長八尺　同断
尺〆八厘三毛　鴨居
壱　挺　同長八尺　弐寸五分　五寸
尺〆壱分弐厘五毛　同
弐　挺　同長六尺　同断
尺〆壱分　桟木
五　本　同長八尺　壱寸五分　弐寸
尺〆壱分弐厘　同
八　本　同長六尺　同断　六分
三拾枚　羽目板杉長七尺　壱尺
代金弐円八拾五銭　但　壱枚二付　金九銭五厘

合角尺〆壱本五厘三毛
代金壱円九拾四銭八厘　但　尺〆壱本ニ付　金壱円八拾五銭

一　金九円五拾六銭　県庁本倉根太其外所々損所修繕入費
此　訳
金九円　大工方　但　壱人ニ付　金三拾銭
此工数三拾人

金五拾六銭　鍛冶方
内
弐百本　五寸釘　但　百本ニ付　金拾弐銭五厘
代金弐拾五銭
三百本　四寸釘　但　百本ニ付　金八銭
代金弐拾四銭
百四拾本　三寸釘　但　百本ニ付　金五銭
代金七銭

一　金拾円七拾七銭五厘　県庁本倉屋根谷長延六間損所修繕入費
此　訳
七枚　幅二尺　長六尺　亜鉛板　但　壱枚ニ付　金壱円拾一銭五厘
代金七円八拾七銭五厘

五人　賃金壱円五拾銭　同前葺手間　但　壱枚ニ付　金三拾銭

弐人　賃金六拾銭　尾葺手間　但　壱枚ニ付　金三拾銭

四人　賃金八拾銭　手伝人足　但　壱人ニ付　金弐拾銭

一　金五拾五円四拾九銭六厘　県庁用水樋長延三拾間伏替修繕入費
此　訳
金拾三円五拾銭　大工方　但　壱人ニ付　金三拾銭
此工数四拾五人

金七円弐拾銭　皆折六寸釘六百本代　但　百本ニ付　金壱円弐拾銭

金壱円八拾銭　手伝人足　但　壱人ニ付　金弐拾銭
此人足九人

金拾九円弐拾四銭　樋木松長壱丈三尺八寸角
拾五挺代　但　尺〆壱本ニ付　金壱円八拾五銭
此尺〆拾本四分

金六円　樋路深弐尺上口弐尺長延
三拾間板割埋込人足　但　壱人ニ付　金弐拾銭
此人足三拾人

金七円弐拾銭

金五拾五銭六厘

合金弐百六拾円弐拾壱銭四厘
右之通相違無之候也
明治十一年十一月

山梨県令　藤村紫朗

樋埋込用ヘナ土九拾荷代　但　壱荷ニ付　金八銭

水口石蓋壱枚代

第３節　甲府城下町遺跡出土の焼塩壺について

海水から作られた粗塩を臼で細かく砕き、蓋をした素焼きの壺に詰めて、壺ごと焼くことによって白い良質な精製塩（壺焼塩）が得られる。この壺焼塩の製造と流通に使用された容器が焼塩壺である。元来は武家の宴席で用いたり、贈答品とされた「高級品」であったようである。これまでの甲府城下町遺跡の調査では、日向町遺跡第２地点、北口二丁目桜シルク跡地点、集会場地点、北口二丁目舞鶴城公園西通り線地点などで焼塩壺が出土している。いずれも武家屋敷地である二ノ堀の内郭に位置する。出土数はあまり多くなく日向町遺跡第２地点の９点、桜シルク跡地点の５点が目立つ程度である。今回の調査地点では、26 点（身 15 点・蓋 11 点）と比較的多くの焼塩壺が出土した（図１）。ここではその資料を紹介しつつ、若干の推察を行ってみたい。

１号池からは蓋４点･身６点の焼塩壺が出土した。身と蓋がセットとなって出土した例はなかった。１号池は中島を持つ大きな池で、調査区南西部の大部分を占める。池は、柳沢氏の家老平岡将監の屋敷に関わる遺構と考えられる。

上段の４点は蓋である。裏面に布目があり、断面形は逆凹字形である。他の６点は身である。蓋受けを持ち、コップ形を呈す。内面には布目が見られ、板状の粘土を芯に巻きつけて成形したものと考えられる。113 は「泉州麻」、117 は「泉州麻生」、133 には「泉州・・」の刻印がある。113 は「麻生」の「生」の一画目まで描きかけて止めているように見える。刻印が体部の下位にあるため、スペースがなくなってしまったのだろうか。145 は平行する線刻が見られるが文字は確認できない。底部は粘土塊を充填して製作した痕跡が明瞭に残る。１号池出土の焼塩壺は、その形状や刻印、成形技法から 18 世紀前半までの時期に製作されたものと考えられる。

１号池以外の場所で出土した焼塩壺は、蓋７点・身９点である。セットでの出土例はない。いずれも調査区の東半から出土した。蓋では断面形が逆凹字形のものの他に、１号溝 54 や 28 号土坑７など凹みがほとんどなくなって平らになっているものがある。身では、撹乱Ｇ 10 グリッド出土のものは、板作り成形されているが、蓋受けが退化しており、器形も体部の立ち上がりがゆるやかになっている。37 号土坑とＥ 12 グリッド出土の５点は、１号池出土のものに比べて明らかに寸詰まりで薄手になっている。底部には回転糸切り痕が残り、ロクロ成形されたものである。これらの蓋と身の製作時期は 18 世紀後半から 19 世紀にかけてのものと考えられ、調査地点に甲府勤番の大手役宅が存在していた時期である。

最後に、大手役宅の様子が描かれた『甲府郭内追手御役宅絵図』に遺構図を重ね、焼塩壺の出土分布から推察される点を挙げてみたい（図２）。なお、図面の重ね方は絵図上の東側と南側の屋敷境が現道に一致すると仮定した。絵図の位置、縮尺等に検討の余地はあるが、分布のおおよその傾向はつかめるものと考える。

焼塩壺の出土地点は、１号池で出土したもの、大手役宅北東角の台所あたりと推測される位置から北へ広がるものと、役宅東側の長屋門あたりと推測される位置のものの三つに分かれる。

１号池出土のものは、大手役宅の成立時期には池が埋没していたと考えられることや「高級品」である焼塩壺が 10 点も出土したことを考え合わせると、

大手役宅成立以前の柳沢氏領国期（1704 ～ 1729 年）の家老平岡将監の屋敷で使われ、使用後に池に投棄されたものである可能性が高い。

大手役宅北側出土のものは、台所や井戸など役宅の炊事場がある所から北側に広がる空間に、役宅で使用した焼塩壺やその他の不要となった陶磁器などを捨てるゴミ穴等の存在を考えることができる。ただし 26 号土坑は、１号池と同様な時期の焼塩壺ばかりが出土していることから、平岡将監屋敷の時期のものとも考えられる。屋敷の絵図なども見つかっておらず、その様子は不明であるが、平岡将監屋敷の炊事場の立地も大手役宅期とあまり変わらなかったのかもしれない。

大手役宅東側出土のものについては、役宅の東側には長屋が連なっており、甲府勤番支配に仕えて長屋に暮らす人々の炊事にも壺焼塩が使われることがあったのではないかと想像している。この付近で出土した焼塩壺は３点であるが、その内、２点は大手役宅期のものと考えられる。「高級品」とされる壺焼塩であるが、少なくとも大手役宅の時期（1730 ～ 1867 年）には、そこに暮らす人々も壺焼塩を味わっていたのかもしれない。

参考文献：『図説　江戸考古学事典』

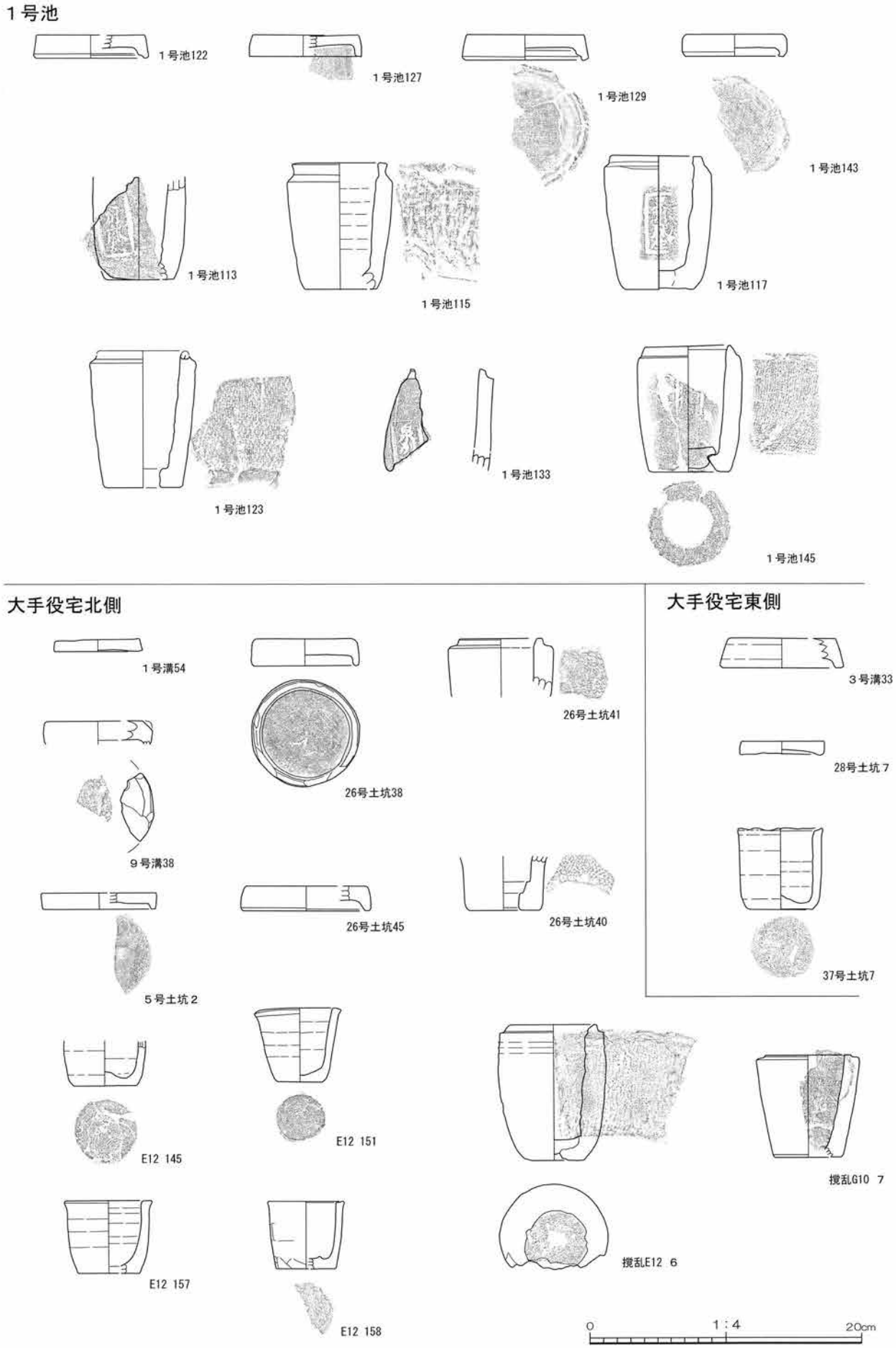


図1　甲府城下町遺跡市役所地点出土の焼塩壺（S=1/4）

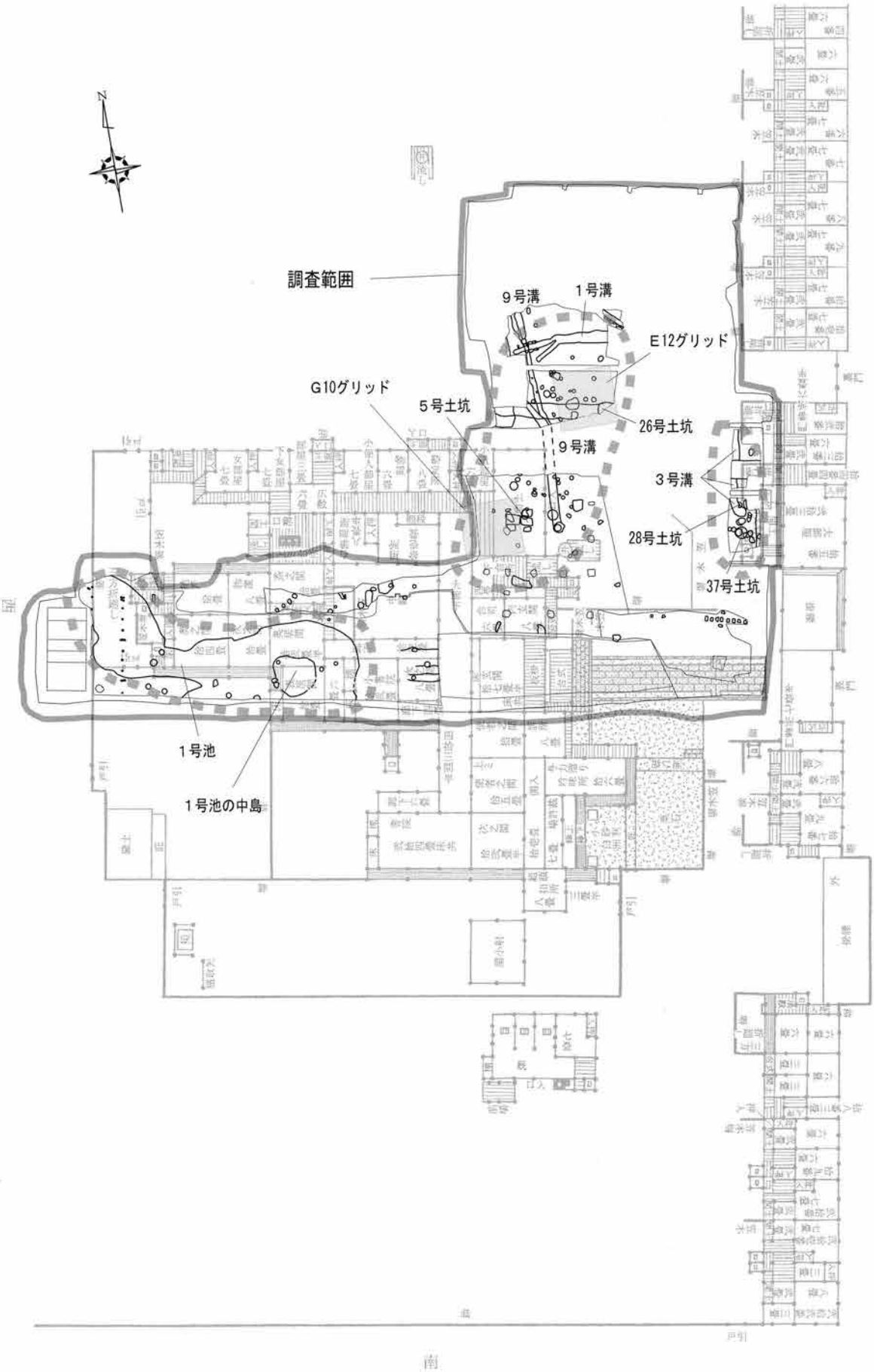


図２　『甲府郭内追手御役宅絵図』（東北大学収蔵）と焼塩壺出土地点（S=1/500）

第４節　甲府城下町遺跡出土の真牡蠣について

今回の調査で、当時の食生活の分かる動物骨、魚骨、貝殻が出土した。特に目を引いたのは、県内では鰍沢河岸跡遺跡でもマガキの殻は出土しているが、こんな大きな殻はめったに見たことがない、と言うような巨大なマガキの殻。

江戸時代、牡蠣は、日本最初の魚類図鑑『日東魚譜』に紹介されている。『日東魚譜』には、1. 享保４年（1719） 2. 享保 16 年（1731）3. 享保 21 年（＝元文元年、1736） 4. 元文６（＝寛保元年、1741）の４種類があり、それぞれ構成・所収品数・図の出来が異なる。

写真は 4. 元文６年版の牡蠣の紹介箇所の一部である。（国立国会図書館デジタル化資料より引用）

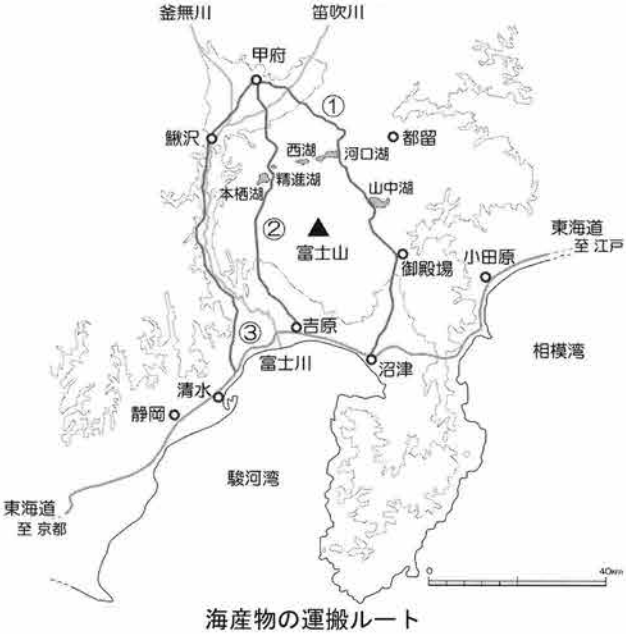
内容は、牡蠣の当字、名前の由来、生態、気味（香と味）、効能が紹介されている。効能には、炙食、煮食、生食の場合の効能が紹介されている。

山梨の食文化に関しては、『甲州食べもの紀行－山国の豊かな食文化－』論考２「山梨の食文化を記録した歴史資料について」で詳細な分析が行われている。そこで、今回はマガキに焦点を当てて、当時の料理本、紀行文から実際にどのようにして料理していたのかを見てみる。

その前に、海から離れている甲府まではどのようにして海産物は運ばれていたのだろうか。

ルートは、①沼津から御坂峠を越え黒駒道を行く「鎌倉往還」、②富士吉原から本栖湖・精進湖の間を抜けて古関、右左口を経由する「中道往還」（「魚の道」）③富士川の３つのルートが知られている。

今回の調査で貝類は、マガキの他に赤貝、アワ



海産物の運搬ルート

ビ、ハマグリ、サザエの殻が出土している。その産地は、例えば、沼津あたりと考えると、江戸と比べて近く、生のまま運搬出来る可能性はあったかもしれないが、江戸からの生牡蠣は難しいのではないだろうか。

江戸時代、甲府に最も近いカキの産地は江戸であった[i]。カキの価格は安く 。大阪はカキご飯にして食べていた[ii]事は紹介されているが、江戸の庶民がどのようにして食べたのかは紹介されていない[ii]。

上流階級は「カキの吸い物」「カキのてんぷら」を食べていたという記録がある[iii]。県内では前出資料中には[iv]「牡蠣」は登場していない。したがって県内のカキの料理方法は良く分かっていない。可能性として、大きなカキ殻は「貝鮑」のように盛付けのために使用されたかもしれない。

また、食用としてではなく、カキ殻は漆喰、石灰の代用品、薬として活用されていた[v]とも紹介されている。

[i]『和漢三才図会』（宝徳三（1713）年、寺島良安）巻六十七「武蔵国土産 品川」

[ii]『類聚近世風俗志』（明治四十一（1908）（原名『守貞謾稿』（天保八（1837）～嘉永六（1853））（喜田川季荘著，室松岩雄等編）「第五編 生業下」

[iii]『鬼平舌つづみ』（2004 年、文藝春秋社編）（底

本は『料理物語』（寛永二十（1643）、著者・出版社不詳）

[iv]『甲州食べもの紀行－山国の豊かな食文化－』論考２「山梨の食文化を記録した歴史資料について」

[v]『大和本草』（宝永六（1709）年、貝原益軒）巻十四「牡蠣」

第５節　まとめ

調査地は江戸中期以降、現在まで県市の行政をつかさどる公的施設が存在し続けた場所である。宝永元年（1704）～享保９年（1729）の甲府藩柳沢氏の領有期には城代の平岡将監屋敷、その後幕末までは甲府勤番支配大手役宅、明治期には山梨県庁、県庁移転後の昭和期には甲府郵便局、甲府水道局と続き、昭和34年（1959）に甲府市役所が建設されている。そしてまた、このたび甲府市役所の新庁舎が建設される。行政の中枢地として使用され続け、新しいものが作られ続けるということは、裏返すとそれだけ以前のものが見えにくくなるということになる。このような状況の中で今回の調査では江戸中期の屋敷内に作られた池を持つ庭園の様子や、内陸の地にもかかわらず大きなマガキなど高価な海産物を消費する豊かな食生活、幕末までの間の勤番支配役宅に見る、表門周辺の様子や甲府上水を引き込んだ巧みな水利用、炊事場の様子などをうかがい知ることが出来た。

また、写真にも残る明治期の山梨県庁のＥ字形に南を向いた洋風庁舎の基礎構造を知ることができた。最下層の杭から規則的に配列され緻密に計算されていることや、基礎中間に玉石を用いることで下層の胴木・枕木材が水に浸かりやすくして、木材が朽ちたり、腐食したりしないように考慮さていることなど明治期の技術を明らかにできた。また一方では、礎石、根石は加工されているが定型ではなく、それぞれまちまちな形をしており、２寸幅や３寸幅の矢穴を持つものもあることから、転用品である可能性も考えられ、当時の建築費用のやりくりの苦労もうかがうことが出来た。

このように今回の調査では比較的大型の遺構が目立つ傾向にある。しかし、一方で貴重な小さな遺構も検出している。いずれも土間の縁辺部で検出した２号・27号・51号・58号・59号の各ピットからは埋納された胞衣皿が検出されている。出産後に後産を入れて埋納した容器で上皿と下皿を重ね合わせて使用された。胞衣埋納の目的に関しては諸説あるが、子供の行く末を願う行為とするものもある。また、胞衣埋納遺構は近世江戸地域の検出事例に比べ、他地域では希少な遺構とされる。このような遺構が集中して検出されたのは勤番士が江戸からの風習を持ち込んで来ていたためということが考えられる。いずれにしてもこの地で新しい命が産まれ、慈しまれていたということが、分かったことは非常に喜ばしいことと思われる。今回検出した胞衣皿の中には「寿」の文字が確認できたものはないが、58号ピットの共伴遺物の痕跡の可能性を検出できた。下皿には中空の錆が僅かに付着しており、共伴埋納された針の地金が腐食し、周囲の錆のみが残存した状態を推量することが出来る。さらには、針の共伴埋納とすると女児に対する祈りが込められた胞衣埋納ということも想像することが出来る。

今回の調査では行政の中枢を継続する地という立地条件にもかかわらず、大小の多くの遺構、遺物を検出するに至り、各時期の様子を一部ながらも明らかにすることが出来ことは貴重な成果と考える。

【参考・引用文献】

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究事典』　柏書房

九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』

甲府市教育委員会他　2001『甲府城下町遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告15

甲府市教育委員会　2002『甲府城下町遺跡Ⅱ』甲府市文化財調査報告19

甲府市教育委員会　2006『甲府城下町遺跡Ⅲ』甲府市文化財調査報告33

甲府市教育委員会他　2007『甲府城下町遺跡Ⅳ』甲府市文化財調査報告39

甲府市教育委員会　2009『甲府城下町遺跡Ⅴ』甲府市文化財調査報告52

甲府市教育委員会他　2012『甲府城下町遺跡Ⅵ』甲府市文化財調査報告57

甲府市教育委員会他　2012『甲府城下町遺跡Ⅶ』甲府市文化財調査報告61

甲府市史編さん委員会　1992『甲府市史　通史編第二巻　近世』

山梨県教育委員会　2004『甲府城下町遺跡（日向町遺跡第２地点）』

山梨県教育委員会　2005『県指定史跡甲府城跡』

山梨県教育委員会　2007『甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）』

遺物観察表

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
9	県庁1号基礎	1	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.2		4.5			密	
9	県庁1号基礎	2	磁器	碗	復元	10			残存	2.9			密	
9	県庁1号基礎	3	磁器	碗	復元	10.4			残存	4.6			密	
9	県庁1号基礎	4	磁器	碗			復元	4.6	残存	2.8			密	
9	県庁1号基礎	5	磁器	碗			復元	3.6	残存	4.4			密	
9	県庁1号基礎	6	磁器	碗					残存	4			微密	
9	県庁1号基礎	7	磁器	碗			復元	1.6	残存	2.5			密	
9	県庁1号基礎	8	磁器	碗				3	残存	2.4			密	
9	県庁1号基礎	9	磁器	碗	復元	9	復元	3.2		4.9		灰白	密	
9	県庁1号基礎	10	磁器	碗	復元	8.8	復元	3		4.3			微密	
9	県庁1号基礎	11	磁器	碗	復元	9			残存	4.5			密	
9	県庁1号基礎	12	磁器	碗					残存	3.5		焼継	密	
9	県庁1号基礎	13	磁器	碗					残存	1.5			密	
9	県庁1号基礎	14	磁器	碗					残存	3.8			密	
9	県庁1号基礎	15	磁器	皿	復元	15.8	復元	7.4		2.95			密	
9	県庁1号基礎	16	磁器	皿			復元	9.8	残存	1.2		蛇の目釉剥ぎ	密	
9	県庁1号基礎	17	磁器	皿					残存	2.2			密	
9	県庁1号基礎	18	磁器	徳利					残存	5.8			微密	
9	県庁1号基礎	19	陶器	灯明受皿	復元	10.8	復元	4.6		2		受部径(復元)7		
9	県庁1号基礎	20	陶器	灯明皿		9.8		4.4		2		受部径5.8		
9	県庁1号基礎	21	陶器	瓶			復元	4.4	残存	1.6		白灰釉		
9	県庁1号基礎	22	陶器	土鍋					残存	2.6	口縁部	内外面施釉・ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・外面:ﾄﾋﾞｶﾞﾝﾅ		
9	県庁1号基礎	23	陶器	蓋					残存	1.3		上面径(復元)8.2・受部径(復元)6.4		
9	県庁1号基礎	24	陶器	土瓶					残存	5.5				
9	県庁1号基礎	25	陶器	瓶			復元	10	残存	2.7		白灰釉		
9	県庁1号基礎	26	陶器	甕					残存	3				
10	県庁1号基礎	27	陶器	擂鉢			復元	17	残存	6.9				
10	県庁1号基礎	28	陶器	擂鉢			復元	13.6	残存	3.5				
10	県庁1号基礎	29	陶器	秉燭		4.8		3.6		4		底部糸切痕		
10	県庁1号基礎	30	硝子	蓋		2.5		3.5				緑色透明　17.64g		
10	県庁1号基礎	31	硝子	蓋		2.7		5				透明　38.73g		
10	県庁1号基礎	32	金属	釘	残存	6.6	残存	0.5				7.93g		
10	県庁1号基礎	33	金属	鎹	残存	15.4	残存	0.7	残存	0.6		30.29g		
10	県庁1号基礎	34	金属	不明		1.5		2				4.22g		
10	県庁1号基礎	35	瓦	軒桟瓦	残存	3.5	残存	12.3		2.2		瓦当径　7.1cm	密	
10	県庁1号基礎	36	瓦	軒桟瓦	残存	4	残存	5.5		1.2			密	
12	県庁2号基礎	1	磁器	碗			復元	3.2	残存	2.2			密	
12	県庁2号基礎	2	陶器	碗				4.8	残存	1.1	底部			
14	県庁3号基礎	1	磁器	碗			復元	6.2	残存	2.2		口縁口紅	密	
14	県庁3号基礎	2	磁器	碗	復元	8.6	復元	3.5		5			密	
14	県庁3号基礎	3	磁器	皿					残存	2.6			密	
14	県庁3号基礎	4	陶器	小皿		5.4		4.3		1.5				
14	県庁3号基礎	5	陶器	碗		10			残存	3.2		鉄釉		
14	県庁3号基礎	6	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.45g		
14	県庁3号基礎	7	金属	銭		2.5		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)文銭(寛文期1661～1672年)　一文銭　銅銭　3.82g		
16	県庁4号基礎	1	磁器	碗			復元	4.4	残存	3.2			密	
16	県庁4号基礎	2	陶器	擂鉢					残存	3.8		鉄釉		
18	県庁5号基礎	1	磁器	皿			復元	12.8	残存	2.5			密	
18	県庁5号基礎	2	陶器	擂鉢					残存	3.1				
20	県庁6号基礎	1	磁器	碗	復元	9.2			残存	4.2			密	
20	県庁6号基礎	2	磁器	碗	復元	10.2			残存	3			密	
20	県庁6号基礎	3	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.8			密	
20	県庁6号基礎	4	磁器	碗			復元	4.4	残存	2.4			密	
20	県庁6号基礎	5	磁器	碗			復元	3.2	残存	3			密	
20	県庁6号基礎	6	磁器	碗	復元	9	復元	4.6		4.4			密	
20	県庁6号基礎	7	陶器	碗			復元	4	残存	1		内外面施釉・糸切痕		
20	県庁6号基礎	8	陶器	蓋	復元	9.6				2.9		受部径(復元)7.6		
20	県庁6号基礎	9	陶器	土瓶			復元	7	残存	1.8	底部	内面施釉・ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・外面緑釉・張付		
20	県庁6号基礎	10	陶器	土瓶			復元	8.8	残存	3		内外ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・内面ｽｽ付着・外面施釉		
20	県庁6号基礎	11	陶器	鉢	復元	10			残存	2.8		内外ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
20	県庁6号基礎	12	陶器	擂鉢			復元	18.4	残存	3.9				
20	県庁6号基礎	13	陶器	土管					残存	4.7				
20	県庁6号基礎	14	瓦	軒丸または軒桟瓦瓦当	残存	7.5	残存	5.7		1.7		瓦当厚　2.7cm	密	
22	県庁7号基礎	1	磁器	碗					残存	3.8			密	
22	県庁7号基礎	2	磁器	碗			復元	8.2	残存	4.5			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
22	県庁7号基礎	3	磁器	碗			復元	3.8	残存	3.4			密	
22	県庁7号基礎	4	磁器	碗	復元	6.8			残存	4.5			密	
22	県庁7号基礎	5	磁器	碗	復元	10.2	復元	4		5.3			密	
22	県庁7号基礎	6	陶器	灯明皿	復元	10	復元	4.4		2.1		受部径(復元)7		
22	県庁7号基礎	7	陶器	甕					残存	5.2				
22	県庁7号基礎	8	陶器	灯明皿	復元	12.2	復元	5		2.1		受部径(復元)8		
22	県庁7号基礎	9	陶器	擂鉢					残存	5				
22	県庁7号基礎	10	土器	蓋						4.7				
22	県庁7号基礎	11	金属	鎹	残存	12.8		0.65		0.75		27.76g		
24	県庁8号基礎	1	磁器	碗					残存	3.3			密	
24	県庁8号基礎	2	磁器	碗	復元	7		3		5.2			密	
26	県庁9号基礎	1	陶器	皿					残存	0.9	底部			
26	県庁9号基礎	2	金属	鎹	残存	13		0.6		0.7		22.05g		
26	県庁9号基礎	3	金属	鎹	残存	12.5		0.8		0.8		20.12g		
26	県庁9号基礎	4	金属	鎹	残存	10.8		0.7		0.6		21.10g		
29	県庁10号基礎	1	磁器	花瓶					残存	5.4		N8/ 灰白	密	
29	県庁10号基礎	2	磁器	表札	残存	8.7	残存	7.7	残存	2.2			密	
29	県庁10号基礎	3	磁器	皿	復元	11.8	復元	6		2.1			密	
29	県庁10号基礎	4	磁器	碗					残存	4.7			密	
29	県庁10号基礎	5	磁器	碗					残存	4			密	
29	県庁10号基礎	6	磁器	輪花皿					残存	2.8			密	
29	県庁10号基礎	7	磁器	碗					残存	3			密	
29	県庁10号基礎	8	磁器	灯明皿	復元	7.8		2.9		1.6			密	
29	県庁10号基礎	9	磁器	碗					残存	2.6				
29	県庁10号基礎	10	陶器	土瓶					残存	4.2	注口	表:鉄釉・裏:上部注口から下は無釉		
29	県庁10号基礎	11	樹脂	箸	残存	16.7	残存	6		6				
29	県庁10号基礎	12	樹脂	不明	残存	4.3	残存	2.7		1.7		10.39g		
29	県庁10号基礎	13	樹脂	札		5.6		3.6		0.1		2.15g		
29	県庁10号基礎	14	金属	鎹	残存	13.5		2.4				20.67g		
29	県庁10号基礎	15	金属	鎹	残存	13.5	残存	2.7		0.7		21.39g		
29	県庁10号基礎	16	金属	鎹	残存	5.4		2.8		0.7		9.54g		
29	県庁10号基礎	17	金属	鎹	残存	4.9		2.2		0.6		6.61g		
29	県庁10号基礎	18	金属	鎹	残存	14		2.9		0.6		28.44g		
29	県庁10号基礎	19	金属	鎹	残存	13.6						23.44g		
29	県庁10号基礎	20	金属	鎹	残存	14	残存	2.7		0.8		27.62g		
30	県庁10号基礎	21	金属	鎹	残存	15		3.2				34.43g		
30	県庁10号基礎	22	金属	鎹	残存	14.4		2.6		0.6		30.80g		
30	県庁10号基礎	23	金属	鎹	残存	13.7		2.3		0.8		22.77g		
30	県庁10号基礎	24	金属	鎹	残存	4.8		3		0.6		4.92g		
30	県庁10号基礎	25	金属	鎹	残存	5.4		3.6		0.7		8.65g		
30	県庁10号基礎	26	金属	鎹	残存	14.4		0.8		0.7		29.29g		
30	県庁10号基礎	27	金属	鎹	残存	7.5		3.2		0.6		10.89g		
30	県庁10号基礎	28	金属	鎹	残存	15.9		2.5		0.6		28.80g		
30	県庁10号基礎	29	金属	鎹	残存	14		3		0.7		24.83g		
30	県庁10号基礎	30	金属	鎹	残存	14.3		3.2				25.68g		
30	県庁10号基礎	31	瓦	袖瓦または軒平瓦水伏瓦	残存	6.3	残存	10		1.5			密	
30	県庁10号基礎	32	瓦	袖瓦または軒平瓦水伏瓦	残存	4.7	残存	7.9		3.4			密	
32	県庁11号基礎	1	磁器	碗	復元	10	復元	3		5		2.5Y 8/1 灰白	密	
32	県庁11号基礎	2	磁器	皿	復元	11.4	復元	3.2		3.5		蛇の目釉剥ぎ	密	
32	県庁11号基礎	3	磁器	皿	復元	15.4			残存	2.9			密	
32	県庁11号基礎	4	磁器	札		4		4		0.5			密	
32	県庁11号基礎	5	陶器	碗	復元	5.4		5		3				
32	県庁11号基礎	6	陶器	小皿	復元	6			残存	1.8				
32	県庁11号基礎	7	陶器	茶碗					残存	4.3		染付有り		
32	県庁11号基礎	8	陶器	花瓶		4.6			残存	6.6	首～口縁部			
32	県庁11号基礎	9	陶器	鉢					残存	3.3		表施釉		
32	県庁11号基礎	10	陶器	皿			復元	4	残存	1.7				
32	県庁11号基礎	11	金属	鎹	残存	5.2		3.6		0.65		15.20g		
32	県庁11号基礎	12	瓦	輪違い	残存	8.9	残存	9		2.3			密	
34	県庁12号基礎	1	金属	鎹	残存	11.2		0.6		0.65		22.13g		
36	県庁13号基礎	1	磁器	瓶	復元	6	復元	5		7.7			密	
36	県庁13号基礎	2	磁器	碗			復元	4.4	残存	2.2			密	
36	県庁13号基礎	3	陶器	碗				5.4	残存	1.9		ほぼ全体に施釉		
36	県庁13号基礎	4	金属	鎹	残存	15.5		2.7		0.6		26.46g		
36	県庁13号基礎	5	金属	鎹	残存	12.3		0.7				13.39g		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
36	県庁13号基礎	6	金属	銭		2.5		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)文銭(寛文期1661～1672年)　一文銭　銅銭　3.11g		
36	県庁13号基礎	7	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.85g		
36	県庁13号基礎	8	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.91g		
36	県庁13号基礎	9	木製品	曲物				13.5		0.1	底部			
36	県庁13号基礎	10	木製品	曲物	残存	9.1	残存	7.7		1.8	底部			
38	県庁15号基礎	1	磁器	皿	復元	9.8		6		1.9			密	
38	県庁15号基礎	2	陶器	擂鉢					残存	5.9		内外鉄釉		
40	県庁16号基礎	1	木製品	角材	残存	49		10		8.8				
40	県庁16号基礎	2	木製品	板材		16.4		14.3		0.8				
40	県庁16号基礎	3	木製品	角材		64		8		8				
41	県庁盛土	1	磁器	碗	復元	9.8			残存	3.2			密	
41	県庁盛土	2	陶器	碗					残存	3	体部	内面無釉・外面染付		
41	県庁盛土	3	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝　古寛永(1656年以前)　一文銭　銅銭　2.63g		
41	県庁盛土	4	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝　古寛永(1656年以前)　一文銭　銅銭　3.08g		
41	県庁盛土	5	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝　古寛永(1656年以前)　一文銭　銅銭　3.52g		
41	県庁盛土	6	金属	銭		2.35		0.65		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　3.07g		
43	1号建物	1	磁器	瓶			復元	4	残存	7		灰白	密	
43	1号建物	2	磁器	碗					残存	1.5			密	
43	1号建物	3	磁器	香炉	復元	8.8	復元	4.6		7.3		焼継	密	
43	1号建物	4	磁器	碗	復元	10	復元	3.8		5.2		灰白	密	
43	1号建物	5	磁器	蓋					残存	1.1			密	
43	1号建物	6	磁器	碗			復元	2.4	残存	3.5		灰白	密	
43	1号建物	7	磁器	碗					残存	4		灰白	密	
43	1号建物	8	陶器	蓋					残存	2.1	口縁部	上面径7.2・受部径9.6		
43	1号建物	9	陶器	土瓶	復元	6.4			残存	6	口縁～体部			
43	1号建物	10	陶器	鉢			復元	12	残存	2.1	底部			
43	1号建物	11	陶器	擂鉢			復元	14	残存	4.4		内外鉄釉		
43	1号建物	12	陶器	碗	復元	6.8	復元	6		2.5		内外面施釉		
43	1号建物	13	陶器	行平鍋					残存	4.4		内外面施釉		
43	1号建物	14	陶器	碗			復元	6	残存	2.3		内外面施釉		
43	1号建物	15	陶器	壺					残存	4.6		内面模様有り		
43	1号建物	16	金属	煙管	残存	7.2						吸口　小口径　1cm　口付径　0.5cm　7.24g		
43	1号建物	17	木製品	曲物	残存	4.6	残存	2.5		0.25	底部			
43	1号建物	18	瓦	平瓦		26.3		23.5		1.5			密	
45	1号溝	1	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.5			密	
45	1号溝	2	磁器	蓋	復元	5.5			残存	1.3		灰白	密	
45	1号溝	3	磁器	蓋					残存	1		灰白	密	
45	1号溝	4	磁器	碗			復元	5.8		6.2			密	
45	1号溝	5	磁器	碗			復元	3.4	残存	2.2		灰白	密	
45	1号溝	6	磁器	碗					残存	3.3		灰白	密	
45	1号溝	7	磁器	碗	復元	9.4			残存	2.5		灰白	密	
45	1号溝	8	磁器	碗	復元	9.8			残存	4.7			密	
45	1号溝	9	磁器	碗	復元	9.8			残存	2.8		灰白	密	
45	1号溝	10	磁器	碗	復元	11.8	復元	4.2		5.7		灰白	密	
45	1号溝	11	磁器	皿			復元	10	残存	3		灰白	密	
45	1号溝	12	磁器	碗			復元	6	残存	4.4		灰白	密	
45	1号溝	13	磁器	碗			復元	6	残存	3.7		灰白	密	
45	1号溝	14	磁器	碗	復元	11			残存	2.5		灰白	密	
45	1号溝	15	磁器	水滴					残存	1.5		灰白	密	
45	1号溝	16	磁器	皿	復元	13	復元	7		3		7.5Y8/1　灰白　口縁部口紅あり　高台蛇の目釉剥ぎ	密	
45	1号溝	17	磁器	碗			復元	3	残存	2.8			密	
45	1号溝	18	磁器	大皿					残存	4.1		灰白	密	
45	1号溝	19	磁器	碗					残存	2.5		灰白	密	
45	1号溝	20	磁器	碗	復元	9			残存	3		灰白	密	
45	1号溝	21	磁器	碗			復元	4.6	残存	2.9		灰白	密	
45	1号溝	22	磁器	碗			復元	4	残存	2.2			密	
45	1号溝	23	磁器	蓋			復元	11.4	残存	1.9		灰白	密	
45	1号溝	24	磁器	皿					残存	2		灰白	密	
45	1号溝	25	磁器	蓋	復元	5.4			残存	1.7		灰白	密	
45	1号溝	26	磁器	碗	復元	9.8			残存	3.6		灰白	密	
45	1号溝	27	陶器	鍋	復元	14.2			残存	4.9		内外施釉		
45	1号溝	28	陶器	蓋					残存	0.7	口縁～底部	受部径(復元)9.4		
46	1号溝	29	陶器	捏ね鉢			復元	16.9	残存	2.3	底部	貫入有り		
46	1号溝	30	陶器	蓋	復元	14			残存	3.5	体部～口縁部			
46	1号溝	31	陶器	土瓶			復元	8.8	残存	2		無釉		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
46	1号溝	32	陶器	碗			復元	6	残存	1.6	底部	墨書有り		
46	1号溝	33	陶器	瓶			復元	6.6	残存	3.1	底部	灰釉		
46	1号溝	34	陶器	擂鉢			復元	14.8	残存	6.2	体部～底部			
46	1号溝	35	陶器	鉢			復元	7.75	残存	6.4	体部～底部	貫入有り		
46	1号溝	36	陶器	土瓶					残存	4.8	注口			
46	1号溝	37	陶器	鉢(把手付)					残存	3.2	口縁部			
46	1号溝	38	陶器	土瓶			復元	9.4	残存	1.6				
46	1号溝	39	陶器	小皿	復元	8.4			残存	1.3	口縁部			
46	1号溝	40	陶器	秉燭			復元	5.2	残存	3.1		中心に穴あり		
46	1号溝	41	陶器	灯明皿	復元	12	復元	7	残存	2.2		受部径(復元)7.6		
46	1号溝	42	陶器	土瓶			復元	6.2	残存	1.4		飾り有り		
46	1号溝	43	陶器	碗	復元	37.6			残存	6.8	口縁～			
46	1号溝	44	陶器	甕	復元	19.2			残存	6.3	口縁～			
46	1号溝	45	陶器	碗			復元	6.8	残存	2.3				
46	1号溝	46	陶器	擂鉢					残存	4.3				
46	1号溝	47	陶器	土瓶					残存	3.7	注口			
46	1号溝	48	陶器	擂鉢					残存	5.3				
47	1号溝	49	陶器	灯明皿	復元	5.2	復元	5		1.75	上部～底部	受部径(復元)7.6		
47	1号溝	50	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	2.1		受部径(復元)8		
47	1号溝	51	陶器	皿			復元	3.6	残存	0.9				
47	1号溝	52	陶器	瓶					残存	2.4				
47	1号溝	53	陶器	碗			復元	4	残存	2.3				
47	1号溝	54	土器	焼塩壺				6.5		0.9	蓋			
47	1号溝	55	土器	小皿						3.7				
47	1号溝	56	土器	小皿						5				
47	1号溝	57	土製品	碁石		1.9	残存	1.8		0.5		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
47	1号溝	58	土製品	碁石		2		2		0.5		5YR 6/8 橙	密	
47	1号溝	59	金属	針	残存	2.1	残存	0.15				0.26g		
47	1号溝	60	金属	針	残存	1	残存	0.15				0.04g		
47	1号溝	61	金属	飾り	残存	1.8	残存	1.8		0.05		0.38g		
47	1号溝	62	金属	飾り	残存	2.9	残存	1.7	残存	0.2		3.67g		
47	1号溝	63	木製品	曲物		7.4		4		0.2	底部	漆器		
47	1号溝	64	木製品	椀				5.4		2.6		漆器、樹種ブナ族		
47	1号溝	65	瓦	桟瓦	残存	22.4	残存	9.6		2		桟長 21.5cm 桟幅 4cm	密	
47	1号溝	66	瓦	平または桟瓦	残存	26.1	残存	12.7		2.2			密	
47	1号溝	67	瓦	桟瓦	残存	21.5	残存	10.9		1.9			密	
48	2号溝	1	磁器	碗	復元	7		2.6		5		外側 緑釉 口縁口紅あり	密	
48	2号溝	2	磁器	碗					残存	4.6			密	
48	2号溝	3	磁器	皿					残存	1.3			密	
48	2号溝	4	磁器	碗	復元	8.6		3.8		4.8			密	
48	2号溝	5	磁器	碗			復元	3.6	残存	5.8			密	
48	2号溝	6	磁器	皿	復元	11	復元	6.4		2.6		灰白	密	
48	2号溝	7	磁器	皿			復元	11.6	残存	2.6		灰白	密	
48	2号溝	8	磁器	碗	復元	12.4			残存	4.3			密	
48	2号溝	9	磁器	碗			復元	3	残存	2.4		灰白	密	
48	2号溝	10	磁器	碗	復元	10	復元	4.6		5.2			密	
48	2号溝	11	磁器	碗	復元	9	復元	4		4.3			密	
48	2号溝	12	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.8			密	
48	2号溝	13	磁器	碗					残存	4.6			密	
48	2号溝	14	磁器	碗					残存	2.6			密	
48	2号溝	15	磁器	碗			復元	4.4	残存	1.6			密	
48	2号溝	16	磁器	皿					残存	3.3			密	
48	2号溝	17	磁器	碗					残存	3.2			密	
48	2号溝	18	磁器	碗					残存	5.8			密	
48	2号溝	19	陶器	皿	復元	8	復元	4		2.3				
48	2号溝	20	陶器	碗	復元	11.8			残存	3.5		内外灰釉		
48	2号溝	21	陶器	皿	復元	12	復元	5.8	残存	1.5		ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 鉄釉		
48	2号溝	22	陶器	土瓶			復元	8	残存	2.5		鉄釉 ｽｽ付着		
49	2号溝	23	陶器	花瓶		2.8		5.6	残存	4.6				
49	2号溝	24	陶器	瓶			復元	10	残存	8.8		内外ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外(底部迄)鉄釉有り		
49	2号溝	25	陶器	擂鉢					残存	4.5		内外面鉄釉有り		
49	2号溝	26	陶器	土瓶					残存	5.6		染付・外面灰釉		
49	2号溝	27	陶器	皿			復元	14.4	残存	2.2				
49	2号溝	28	陶器	擂鉢			復元	13	残存	2.8		外面鉄釉・底部沈線		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
49	2号溝	29	陶器	灯明皿	復元	9.6			残存	1.8		受部径(復元)6.6		
49	2号溝	30	土器	小皿				7		1.3				
49	2号溝	31	土製品	碁石		1.9	残存	1.7		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
49	2号溝	32	木製品	箸		17.4		0.6		0.4				
49	2号溝	33	瓦	桟瓦	残存	14.2	残存	18		1.7		刻印陰刻(丸)	密	
49	2号溝	34	瓦	桟瓦	残存	26	残存	21.1		1.6			やや密	
50	2号溝	35	瓦	桟瓦		26.4	残存	22.4		1.2		桟長 22cm 桟幅 4cm	やや密	
50	2号溝	36	瓦	桟瓦	残存	25.4	残存	21.3		1.6		桟長 21.5cm 桟幅 4cm	密	
50	2号溝	37	瓦	桟瓦		35.7		27.5		1.9		刻印陰刻(丸内一文字)	密	
51	2号溝	38	瓦	桟瓦	残存	12	残存	11.5		1.7		刻印陰刻(丸)	密	
51	2号溝	39	瓦	平または桟瓦	残存	12.8	残存	10.7		2		刻印陰刻(丸)	密	
51	2号溝	40	瓦	軒袖瓦	残存	12.2	残存	7.4		2			密	
51	2号溝	41	瓦	袖瓦		26.4		23.8		1.5			やや密	
52	8号溝	1	磁器	碗					残存	3.6		灰白	密	
52	8号溝	2	磁器	瓶					残存	2.3		緑釉	密	
52	8号溝	3	磁器	碗					残存	4			密	
52	8号溝	4	磁器	碗					残存	4		外側 施釉 内側 無釉	密	
52	8号溝	5	磁器	碗			復元	4	残存	2.3			密	
52	8号溝	6	陶器	鉢					残存	2.7		外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・緑釉		
52	8号溝	7	陶器	土瓶					残存	3.9				
52	8号溝	8	陶器	擂鉢					残存	5.4				
52	8号溝	9	陶器	茶碗			復元	4	残存	2.3	底部～胴部	内外面施釉		
52	8号溝	10	陶器	坏	復元	6.6	復元	3		2.3	底部～口縁部	内外鉄釉・外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
52	8号溝	11	陶器	擂鉢					残存	6				
54	3号溝	1	磁器	碗			復元	3.8	残存	2.4			密	
54	3号溝	2	磁器	蓋					残存	1.4			密	
54	3号溝	3	磁器	皿	復元	9.6	復元	4.6		2			密	
54	3号溝	4	磁器	油壺			復元	4.4	残存	6.3			密	
54	3号溝	5	磁器	小杯	復元	6.8	復元	2.8		3			密	
54	3号溝	6	磁器	小杯	復元	6.4			残存	2.5			密	
54	3号溝	7	磁器	碗			復元	6.4	残存	3.5			密	
54	3号溝	8	磁器	碗	復元	11.8			残存	3.7			密	
54	3号溝	9	陶器	擂鉢					残存	5.6				
54	3号溝	10	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	2.3		受部径(復元)8		
54	3号溝	11	陶器	碗					残存	4.1		全体に施釉		
54	3号溝	12	陶器	鍋	復元	20			残存	4.3		全体に施釉		
54	3号溝	13	陶器	土瓶					残存	5.3	注口	染付・風模様有り 全体に施釉		
54	3号溝	14	陶器	土瓶			復元	8.4	残存	1.5		内面:施釉 外面:無釉		
54	3号溝	15	陶器	擂鉢					残存	3.8				
54	3号溝	16	陶器	瓶					残存	3.6		染付・絵模様有り 外面施釉		
54	3号溝	17	陶器	擂鉢			復元	18.2	残存	5.5	底部	見込部に施釉		
54	3号溝	18	陶器	碗	復元	8.2	復元	4.4		5.7	口縁～底部	内外面施釉		
54	3号溝	19	陶器	甕			復元	11.8	残存	6.8	体部～底部	内外面施釉 底部無釉		
54	3号溝	20	陶器	灯明皿			復元	4.6	残存	1	底部	内外面施釉		
55	3号溝	21	陶器	行平鍋	復元	17.2	復元	7		7.4				
55	3号溝	22	陶器	皿			復元	8.6	残存	1.7	底部	内面施釉 外面に炭付着		
55	3号溝	23	陶器	行平鍋	復元	17.2			残存	6.1				
55	3号溝	24	陶器	行平鍋					残存	3.3		内面釉有り		
55	3号溝	25	陶器	擂鉢					残存	4.7		内外面鉄釉		
55	3号溝	26	陶器	蓋					残存	1.2		つまみ径:0.9 内面鉄釉		
55	3号溝	27	陶器	擂鉢					残存	7.1		内外鉄釉		
55	3号溝	28	陶器	擂鉢					残存	7.9		内外鉄釉		
55	3号溝	29	陶器	蓋					残存	1.7		つまみ径:1.5 外面鉄釉		
55	3号溝	30	陶器	鉢					残存	4		内外鉄釉		
55	3号溝	31	土器	火鉢						6				
55	3号溝	32	土器	火鉢		18		15.8		8.7				
55	3号溝	33	土器	焼塩壺		9		8		2.2	蓋			
55	3号溝	34	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
55	3号溝	35	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
55	3号溝	36	土製品	碁石		2	残存	1.9		0.5		7.5YR 7/4 にぶい橙	密	
55	3号溝	37	金属	煙管	残存	4.6	残存	1				吸口 小口径 1cm 口付径 0.7cm 5.18g(中の土を含む)		
55	3号溝	38	金属	煙管	残存	4.5	残存	0.5				吸口 小口径 0.5cm 口付径 0.4cm 0.90g		
56	3号溝	39	瓦	丸瓦	残存	17.5	残存	16		2.1			やや密	
56	3号溝	40	瓦	丸瓦	残存	17.8	残存	14.5		2			やや密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
57	4号溝	1	磁器	碗					残存	2		7.5Y8/1 灰白	密	
57	4号溝	2	磁器	小杯			復元	2.4	残存	1.8			密	
57	4号溝	3	磁器	碗	復元	9.6			残存	4.1			密	
57	4号溝	4	磁器	碗			復元	5	残存	3.8			密	
57	4号溝	5	磁器	碗					残存	2.6		焼継あり	密	
57	4号溝	6	陶器	擂鉢					残存	6.6				
57	4号溝	7	陶器	擂鉢					残存	6.3				
57	4号溝	8	陶器	皿					残存	1.7		内面施釉		
57	4号溝	9	陶器	瓶	復元	7.6			残存	7.1		外面緑釉　内面無釉		
57	4号溝	10	土器	火鉢						4.3				
57	4号溝	11	金属	釘	残存	11.5	残存	0.8				8.56g		
58	5号溝	1	磁器	小杯	復元	5.8	復元	2.6		3.05			密	
58	5号溝	2	磁器	碗			復元	4.2	残存	3.9			密	
58	5号溝	3	磁器	碗	復元	7.6	復元	2.6		3.8			密	
58	5号溝	4	磁器	紅皿	復元	4.6		2.2		1.35		5Y8/1 灰白	密	
58	5号溝	5	磁器	碗					残存	2.5			密	
58	5号溝	6	磁器	蓋	復元	9			残存	1.8			密	
58	5号溝	7	磁器	皿(八角)	復元	13.8	復元	7.2		4.4			密	
58	5号溝	8	磁器	碗	復元	7			残存	3.4			密	
58	5号溝	9	磁器	碗	復元	11			残存	3.4			密	
58	5号溝	10	磁器	碗	復元	10.6			残存	3.7			密	
58	5号溝	11	磁器	碗			復元	6.4	残存	5			密	
58	5号溝	12	磁器	碗					残存	4.1			密	
58	5号溝	13	磁器	皿	復元	16.3	復元	10.7		4.8			密	
58	5号溝	14	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.2		4.2		口縁部口紅あり	密	
58	5号溝	15	陶器	碗			復元	5.2	残存	2.4		陶胎染付		
58	5号溝	16	陶器	皿			復元	6.8	残存	1.7		内面施釉		
58	5号溝	17	陶器	鉢			復元	9.4	残存	4		外面一部施釉		
58	5号溝	18	陶器	擂鉢				13.2	残存	3		外面一部施釉		
58	5号溝	19	陶器	蓋						2.1		内部に刻印有り		
59	5号溝	20	陶器	擂鉢					残存	8.4				
59	5号溝	21	陶器	皿					残存	1.8		内外透明釉		
59	5号溝	22	陶器	瓶	復元	10.6				7.3		透明釉・外面染付		
59	5号溝	23	陶器	鉢			復元	10.4	残存	2		内外鉄釉		
59	5号溝	24	陶器	碗	復元	14.4			残存	4.3		内外緑釉		
59	5号溝	25	陶器	土瓶			復元	10	残存	1.3		内面鉄釉・外面無釉		
59	5号溝	26	陶器	土瓶	復元	8.4			残存	4.7		内面無釉・外面緑釉		
59	5号溝	27	陶器	瓶			復元	6.8	残存	1.9		内面鉄釉・外面無釉		
59	5号溝	28	陶器	蓋						2.2		受部径9.5・つまみ径1.4　内面無釉・外面鉄釉		
59	5号溝	29	陶器	碗		7.5	復元	6.8		6.2		内外(一部無)施釉		
59	5号溝	30	陶器	蓋	復元	8			残存	2.3		受部径(復元)8.2　内面無釉・外面透明釉，模様有り		
59	5号溝	31	陶器	蓋	復元	9.4			残存	2.1		内面透明釉・外面無釉(口縁釉有り)		
59	5号溝	32	陶器	蓋	復元	16			残存	2.5		内面一部釉有り・外面無釉		
59	5号溝	33	陶器	灯明皿	復元	9.6			残存	1.7		受部径(復元)6.4　内外鉄釉		
59	5号溝	34	陶器	灯明皿		11.1		3.8		1.8		受部径7.2　内面透明釉・外面無釉		
59	5号溝	35	陶器	壺	復元	10.2			残存	7.9		内面施釉(無釉部分有り)・外面染付		
59	5号溝	36	陶器	鉢			復元	5.6	残存	1.6				
59	5号溝	37	陶器	擂鉢					残存	7.6				
60	5号溝	38	陶器	土瓶	復元	5			残存	2.57				
60	5号溝	39	陶器	碗					残存	3.25		全体に透明釉		
60	5号溝	40	陶器	瓶					残存	3.3		内面無釉・外面一部緑釉		
60	5号溝	41	陶器	擂鉢		14				4.2				
60	5号溝	42	陶器	皿	復元	9.8	復元	4.4		2.4		内外鉄釉		
60	5号溝	43	陶器	土瓶					残存	4.7		内外透明釉・外面模様有り		
60	5号溝	44	陶器	皿				3.2	残存	2.2		無釉		
60	5号溝	45	陶器	擂鉢		18				4.7		内面鉄釉		
60	5号溝	46	土器	小皿		4.4		6		1.8				
60	5号溝	47	土器	焙烙						6.5				
60	5号溝	48	土器	火鉢		18.6		8		7.65				
60	5号溝	49	土器	目皿		14		12.4		1.3				
60	5号溝	50	土器	火鉢		16.6		8		8				
60	5号溝	51	土製品	碁石		2.1		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
60	5号溝	52	土製品	碁石		2		1.8		0.6		10YR 6/6 明黄褐	密	
60	5号溝	53	土製品	碁石		2		1.7		0.6			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
60	5号溝	54	土製品	碁石		2		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
60	5号溝	55	土製品	鳥笛		2.3		1.3					密	
60	5号溝	56	金属	銭		2.7		0.75		0.1		文久永宝(1863～1869年) 背十一波 一文銭 銅銭 2.67g		
60	5号溝	57	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.22g		
60	5号溝	58	金属	銭		2.3		0.6		0.1		□□□宝 1.65g		
60	5号溝	59	金属	煙管	残存	5.1	残存	1.3				緑 吸口 小口径 1.1cm 口付径 0.5cm 5.70g		
61	5号溝	60	瓦	丸瓦	残存	23.7	残存	15.8		1.8			やや密	
61	5号溝	61	瓦	輪違い	残存	6.3	残存	8.2		2.1			密	
64	10号溝	1	磁器	碗					残存	2.8			密	
64	10号溝	2	磁器	碗			復元	4.8	残存	3.5		灰白	密	
64	10号溝	3	磁器	碗					残存	3		灰白	密	
64	10号溝	4	磁器	皿			復元	2.8	残存	0.9			密	
64	10号溝	5	磁器	皿					残存	1.5			密	
64	10号溝	6	陶器	碗	復元	13.35	復元	12.6	残存	4.9	口縁～底部	内外鉄釉		
64	10号溝	7	陶器	土瓶					残存	3	注口	外面施釉		
64	10号溝	8	陶器	擂鉢			復元	13.95				ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底部回転糸切り		
65	11号溝	1	土器	坏		7.4		4		1.9		内外煤付着		
65	11号溝	2	瓦	雁振瓦	残存	10.9	残存	7.9		2.1			密	
69	1号井戸	1	磁器	大皿	復元	13	復元	8		3.4		2.5GY	密	
69	1号井戸	2	磁器	碗	復元	10.8			残存	3.8		灰白	密	
69	1号井戸	3	磁器	皿			復元	6	残存	1.9		灰白	密	
69	1号井戸	4	磁器	蓋	復元	4			残存	1.6		白	密	
69	1号井戸	5	磁器	碗	復元	10	復元	4.2		5		灰白	密	
69	1号井戸	6	磁器	碗	復元	9			残存	3.5		灰白	密	
69	1号井戸	7	磁器	蓋			復元	9.4	残存	2.1		灰白	密	
69	1号井戸	8	磁器	瓶					残存	6.3		灰白	密	
69	1号井戸	9	磁器	碗			復元	4	残存	1.8		灰白	密	
69	1号井戸	10	磁器	碗	復元	7.2			残存	2.8		灰白	密	
69	1号井戸	11	磁器	碗					残存	4.9		緑釉	密	
69	1号井戸	12	磁器	碗	復元	10			残存	3.2		灰白	密	
69	1号井戸	13	磁器	建水	復元	12.4			残存	7.5		灰白	密	
69	1号井戸	14	磁器	碗	復元	9	復元	4		4.9		灰白	密	
69	1号井戸	15	磁器	碗			復元	4	残存	3.9		灰白	密	
69	1号井戸	16	陶器	擂鉢					残存	5.7				
69	1号井戸	17	陶器	擂鉢					残存	8.8		全体に施釉		
69	1号井戸	18	陶器	碗				4.8	残存	3		模様有り		
69	1号井戸	19	陶器	碗				5	残存	3.7		高台貼り付け		
70	1号井戸	20	陶器	擂鉢				7	残存	1.5				
70	1号井戸	21	陶器	甕					残存	4.4		全体に施釉		
70	1号井戸	22	陶器	皿			復元	4.6	残存	1.1				
70	1号井戸	23	陶器	擂鉢	復元	27.8			残存	7.3				
70	1号井戸	24	陶器	碗	復元	8.8			残存	3.7				
70	1号井戸	25	陶器	蓋						1.1		受部径(復元)7.8・上面絵付有り		
70	1号井戸	26	陶器	茶碗			復元	2.2	残存	2.4				
70	1号井戸	27	陶器	片口鉢	復元	19			残存	8.1	口縁～体部			
70	1号井戸	28	陶器	皿			復元	3.4	残存	1.9	体部～底部			
70	1号井戸	29	陶器	碗			復元	5.2	残存	1.1	底部			
70	1号井戸	30	陶器	小皿	復元	11	復元	4		1.75	口縁～底部	内外面施釉		
70	1号井戸	31	陶器	灯明皿			復元	5.6	残存	1.9	口縁～底部	上面径(復元)8.8・内外面施釉		
70	1号井戸	32	陶器	灯明皿			復元	5.8	残存	1.8	体部～底部	上面径(復元)9.2・内外面施釉		
70	1号井戸	33	陶器	擂鉢					残存	8.1	口縁～体部			
70	1号井戸	34	土器	焙烙		28		27		5.6				
70	1号井戸	35	土器	焙烙		27.8		26.6		5.8				
70	1号井戸	36	土器	小皿						2.7				
70	1号井戸	37	土器	焙烙						5.1				
70	1号井戸	38	石製品	砥石	残存	6.2		5		1		10Y 7/ 灰 53.32g		
70	1号井戸	39	石製品	砥石	残存	5	残存	3.8		1.9		白 47.95g		
70	1号井戸	40	木製品	曲物	残存	8	残存	4.2		0.4	底部			
72	2号井戸	1	磁器	碗	復元	7			残存	2.8		5YG8/1 灰白	密	
72	2号井戸	2	磁器	碗	復元	8.8			残存	3.8			密	
72	2号井戸	3	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.4		4.7		灰白	密	
72	2号井戸	4	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.6		4.7			密	
72	2号井戸	5	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.6		4.8			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
72	2号井戸	6	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.5		灰白	密	
72	2号井戸	7	磁器	水滴	残存	5.1	残存	8		6.2		灰白	密	
72	2号井戸	8	磁器	碗	残存	12			残存	4.1		灰白	密	
72	2号井戸	9	磁器	瓶	復元	1.7			残存	4.1		首部分 灰白	密	
72	2号井戸	10	陶器	鉢					残存	3.7				
72	2号井戸	11	陶器	壺					残存	4.7		外面模様有り		
72	2号井戸	12	陶器	土瓶					残存	3.5				
72	2号井戸	13	陶器	擂鉢	復元	30			残存	7.8				
72	2号井戸	14	陶器	灯明皿					残存	1.6		受部(復元)3.9・上面径(復元)5.2 全体に施釉		
72	2号井戸	15	土製品	箱庭道具				7.4		7.1		7.5YR 6/3 にぶい褐 6/6 にぶい橙	密	
73	2号井戸	16	木製品	角材	残存	44.6		5.2		3.6				
73	2号井戸	17	木製品	曲物	残存	18	残存	17		0.6	底部			
73	2号井戸	18	木製品	板材		24.5		9.6		0.3				
73	2号井戸	19	木製品	板材		25		4.8		0.2				
73	2号井戸	20	木製品	板材		24.5		4.5		0.15				
73	2号井戸	21	木製品	板材	残存	27.1		6.8		2.5				
73	2号井戸	22	木製品	桶	残存	25.5	残存	7.6		2.1	胴板			
73	2号井戸	23	瓦	軒桟瓦	残存	34.2		27.9		1.9		三巴連珠 唐草 瓦当径 8.1cm	密	
73	2号井戸	24	瓦	桟瓦	残存	8	残存	11.4		1.8		刻印陰刻(丸)	密	
73	2号井戸	25	瓦	なまこ壁?		14.6		14.8		1.4			密	
75	3号井戸	1	土製品	碁石		2.1		1.9		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
75	3号井戸	2	木製品	桶			残存	42	残存	20				
76	9号溝	1	磁器	碗	復元	8			残存	3.8			密	
76	9号溝	2	磁器	碗					残存	2.9		5GY 灰白	密	
76	9号溝	3	磁器	碗			復元	4	残存	4.7			密	
76	9号溝	4	磁器	碗	復元	9			残存	2.6		口縁口紅あり	密	
76	9号溝	5	磁器	碗			復元	4	残存	2.1			密	
76	9号溝	6	磁器	碗	復元	6.6			残存	5.2			密	
76	9号溝	7	磁器	碗					残存	4			密	
76	9号溝	8	磁器	皿					残存	3.3		7.5GY明緑灰	密	
76	9号溝	9	磁器	皿	復元	12.4	復元	5.4		3			密	
76	9号溝	10	磁器	碗	復元	6			残存	2.6			密	
76	9号溝	11	磁器	碗			復元	5.4	残存	1.9		灰白	密	
76	9号溝	12	磁器	皿			復元	2.6	残存	1			密	
76	9号溝	13	磁器	碗					残存	2.6			密	
76	9号溝	14	磁器	碗					残存	4.3		7.5GY8/1 明緑灰	密	
76	9号溝	15	磁器	碗			復元	3.6	残存	3.1			密	
76	9号溝	16	磁器	碗			復元	3.8	残存	4.2			密	
76	9号溝	17	磁器	碗					残存	3.8		灰白	密	
76	9号溝	18	磁器	碗					残存	4		10Y8/1 灰白	密	
76	9号溝	19	磁器	皿					残存	2.5			密	
76	9号溝	20	磁器	碗	復元	9.4		3.8		4.9			密	
76	9号溝	21	磁器	碗					残存	3		灰白	密	
76	9号溝	22	磁器	碗					残存	2.7			密	
76	9号溝	23	磁器	レンゲ					残存	3			密	
76	9号溝	24	陶器	甕	復元	6			残存	1.8		内・外面(一部)無釉薬 外面透明釉, 模様有り		
76	9号溝	25	陶器	擂鉢					残存	10				
76	9号溝	26	陶器	皿				8	残存	1.5		内面透明釉		
77	9号溝	27	陶器	瓶	復元	8			残存	2.5		外面透明釉, 模様有り		
77	9号溝	28	陶器	灯明皿		3.8				1.3		内外鉄釉		
77	9号溝	29	陶器	皿				6.3	残存	1.1		内面透明釉		
77	9号溝	30	陶器	蓋	復元	8.2			残存	1.9		内面無釉・外面施釉 おりべ		
77	9号溝	31	陶器	碗			復元	9.2	残存	2.7		無釉		
77	9号溝	32	陶器	蓋	復元	9.6			残存	1.2		外面緑釉		
77	9号溝	33	陶器	土瓶			復元	5.8	残存	1.5		鉄釉		
77	9号溝	34	陶器	碗					残存	4.3		内外緑釉		
77	9号溝	35	陶器	壺					残存	3.2		外面鉄釉		
77	9号溝	36	陶器	蓋	復元	6.6			残存	1.5		内(一部)外面灰釉		
77	9号溝	37	陶器	燭				5	残存	1.6		外面鉄釉		
77	9号溝	38	土器	焼塩壺		8				1.7	蓋			
77	9号溝	39	土器	焙烙						3.3				
80	7号土坑	1	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.73g		
80	7号土坑	2	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.20g		
80	7号土坑	3	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.72g		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
80	7号土坑	4	金属	銭		2.3		0.55		0.15		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　4.38g		
80	7号土坑	5	木製品	桶			残存	44	残存	51		樹種スギ		
80	8号土坑	1	木製品	桶				27	残存	23		樹種スギ		
80	9号土坑	1	木製品	桶				42	残存	24.6		樹種スギ		
80	10号土坑	1	木製品	桶		41.6		43		2.4	底部	樹種スギ		
81	13号土坑	1	木製品	桶				43	残存	41.2		樹種スギ、ヒノキ属		
81	32号土坑	1	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　1.80g		
81	32号土坑	2	金属	銭		2.7		0.6		0.1		文久永宝(1863～1869年)　背十一波　四文銭　銅銭　2.98g		
81	32号土坑	3	金属	銭		2.8		0.65		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　四文銭(1768年以降)　銅銭　背十一波　3.77g		
81	34号土坑	1	磁器	碗			復元	6	残存	1.7		灰白	密	
81	34号土坑	2	磁器	皿			復元	9.4	残存	2.1		灰白	密	
81	34号土坑	3	陶器	瓶					残存	4.7				
81	34号土坑	4	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.86g		
82	36号土坑	1	陶器	瓶					残存	4.7		外面模様有り		
82	36号土坑	2	陶器	擂鉢					残存	5.2				
82	36号土坑	3	陶器	碗	復元	10.6			残存	3.9				
82	36号土坑	4	陶器	碗					残存	1.5				
82	36号土坑	5	陶器	土瓶			復元	9	残存	2.2				
82	36号土坑	6	陶器	擂鉢					残存	8.4				
82	36号土坑	7	陶器	擂鉢					残存	2		内外鉄釉		
82	36号土坑	8	陶器	土瓶					残存	2.3	胴部下半			
82	36号土坑	9	陶器	鉢			復元	7.6	残存	2.7				
82	36号土坑	10	金属	煙管	残存	3.4						雁首　小口径　1.3cm　3.48g		
82	36号土坑	11	瓦	桟瓦	残存	30	残存	29.4		1.9			密	
85	1号池	1	磁器	碗	復元	7.2			残存	3.6		灰白	密	
85	1号池	2	磁器	碗					残存	4.8			密	
85	1号池	3	磁器	碗	復元	9.6	復元	44		5.5			密	
85	1号池	4	磁器	碗	復元	10			残存	5.6			密	
85	1号池	5	磁器	蕎麦猪口			復元	5.2	残存	1.2		灰白	密	
85	1号池	6	磁器	碗	復元	10	復元	4.4		5.6			密	
85	1号池	7	磁器	小鉢	復元	8.8	復元	3.2		3.4		灰白	密	
85	1号池	8	磁器	蕎麦猪口	復元	6.2	復元	5		5.5		灰白	密	
85	1号池	9	磁器	仏飯器	復元	8	復元	4		5.5			密	
85	1号池	10	磁器	碗	復元	11			残存	4.1		灰白	密	
85	1号池	11	磁器	碗			復元	4	残存	3.9		灰白	密	
85	1号池	12	磁器	碗	復元	7			残存	3.2		灰白	密	
85	1号池	13	磁器	碗	復元	10	復元	4.2		5.6		灰白	密	
85	1号池	14	磁器	皿			復元	10	残存	2		灰白	密	
85	1号池	15	磁器	碗	復元	10.4	復元	4.6		6			密	
85	1号池	16	磁器	碗			復元	4.2	残存	4		灰白	密	
85	1号池	17	磁器	碗			復元	4	残存	3.2		灰白	密	
85	1号池	18	磁器	碗			復元	10	残存	4.5		灰白	密	
85	1号池	19	磁器	碗			復元	4.4	残存	1.4		灰白	密	
85	1号池	20	磁器	蓋				6		4.1		灰白　10Y　8/1	密	
85	1号池	21	磁器	碗			復元	3.6	残存	1.9		灰白	密	
85	1号池	22	磁器	碗	復元	10			残存	4.5			密	
85	1号池	23	磁器	仏飯器	復元	5.4	復元	3.6		6.1			密	
85	1号池	24	磁器	碗	復元	8.4			残存	4.7			密	
85	1号池	25	磁器	碗			復元	2.6	残存	2			密	
85	1号池	26	磁器	瓶			復元	5.2	残存	7.2			密	
86	1号池	27	磁器	碗	復元	4.7			残存	4.7		灰白	密	
86	1号池	28	磁器	皿	復元	13.6	復元	8		3			密	
86	1号池	29	磁器	碗					残存	6			密	
86	1号池	30	磁器	小鉢	復元	5.8	復元	2.2		2.6			密	
86	1号池	31	磁器	碗				4.4	残存	1.6			密	
86	1号池	32	磁器	仏飯器	復元	7.2		3.6		5.4		灰白	密	
86	1号池	33	磁器	碗	復元	10		3.8		5.4		灰白	密	
86	1号池	34	磁器	碗	復元	6.8	復元	2.8		4.3		灰白	密	
86	1号池	35	磁器	碗	復元	10	復元	4		5.2			密	
86	1号池	36	磁器	碗	復元	8.2	復元	5.2		4.3		灰白　底部　蛇の目釉剥ぎ	密	
86	1号池	37	磁器	花瓶			復元	5.2	残存	6.6		灰白　N8/		
86	1号池	38	磁器	瓶			復元	5.8		6.3			密	
86	1号池	39	磁器	碗	復元	8			残存	3			密	
86	1号池	40	磁器	小鉢	復元	6	復元	2		2.9			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
86	1号池	41	磁器	皿	復元	13.8	復元	8.4		3.6		灰白	密	
86	1号池	42	磁器	皿			復元	4	残存	2.5			密	
86	1号池	43	磁器	碗	復元	10			残存	4.5		灰白	密	
86	1号池	44	磁器	皿			復元	3.6		2.3		灰白	密	
86	1号池	45	磁器	碗	復元	6	復元	2.6		3.3			密	
86	1号池	46	磁器	碗	復元	6.4	復元	2.8		3			密	
86	1号池	47	磁器	碗	復元	8.8			残存	4.5		灰白	密	
86	1号池	48	磁器	瓶	復元	3.8			残存	6.9		灰白	密	
86	1号池	49	磁器	碗		8.4		3.2		5.2		完形	密	
86	1号池	50	磁器	皿					残存	2.3		緑釉	密	
86	1号池	51	磁器	仏飯器	復元	8	復元	4		5			密	
86	1号池	52	磁器	碗	復元	5.8	復元	2.4		2.7		灰白	密	
87	1号池	53	磁器	皿			復元	11		2.4			密	
87	1号池	54	磁器	碗	復元	9.4	復元	4.4		5.5			密	
87	1号池	55	磁器	碗	復元	11.2	復元	4.2		5.7			密	
87	1号池	56	磁器	皿	復元	14.2	復元	8.4		4.1		灰白	密	
87	1号池	57	磁器	皿			復元	3.4	残存	2.5		灰白　蛇の目釉剥ぎ	密	
87	1号池	58	磁器	鉢	復元	16.1	復元	6.4		7.9		灰白	密	
87	1号池	59	陶器	皿	復元	9.6	復元	5		1.95		全体に施釉		
87	1号池	60	陶器	碗					残存	4.2		全体に施釉・内面模様有り		
87	1号池	61	陶器	碗			復元	5	残存	2.6				
87	1号池	62	陶器	碗			復元	5	残存	4.2				
87	1号池	63	陶器	碗				3.3	残存	1.25				
87	1号池	64	陶器	小坏			復元	3.6	残存	3.3		外面模様有り		
87	1号池	65	陶器	碗	復元	11			残存	5		外面模様有り		
87	1号池	66	陶器	碗	復元	12	復元	4.6		6.3				
87	1号池	67	陶器	擂鉢					残存	4.9				
87	1号池	68	陶器	瓶		9.4		6.5		14.45				
88	1号池	69	陶器	鉢		25.8	復元	14.4		11.9				
88	1号池	70	陶器	皿		7.5		3.8		2.8				
88	1号池	71	陶器	瓶		2			残存	5.2				
88	1号池	72	陶器	碗	復元	9.6			残存	5.1		外面模様有り		
88	1号池	73	陶器	碗	復元	12.2		4.6		6.7				
88	1号池	74	陶器	鉢						3.3		内面模様有り		
88	1号池	75	陶器	碗				4.9	残存	2.1		内面模様有り・底部文字有り		
88	1号池	76	陶器	碗	復元	12		5		7.7				
88	1号池	77	陶器	擂鉢			復元	15	残存	6.3				
88	1号池	78	陶器	擂鉢					残存	4.9	口縁部			
88	1号池	79	陶器	灯明皿	復元	7.2	復元	3.5		1.75	口縁～底部			
88	1号池	80	陶器	碗	復元	11.2			残存	5.9	口縁～体部	内外面施釉・内面貫入有り		
88	1号池	81	陶器	擂鉢		37			残存	8.8	口縁～体部			
89	1号池	82	陶器	碗	復元	11.4			残存	6				
89	1号池	83	陶器	灯明皿	復元	11	復元	5.1		2.15	口縁～底部			
89	1号池	84	陶器	鉢			復元	10.6	残存	2.3	底部	内外面施釉		
89	1号池	85	陶器	碗				3.4	残存	3.4	体部～底部	内外面施釉・底部無釉・外面に絵有り		
89	1号池	86	陶器	碗			復元	6.6	残存	2	底部	外面体部のみ施釉		
89	1号池	87	陶器	灯明皿					残存	2	口縁～体部	受部径(復元)11・上面径(復元)8.2		
89	1号池	88	陶器	鉢					残存	4.7				
89	1号池	89	陶器	碗	復元	11		4.6		7.2				
89	1号池	90	陶器	香炉	復元	11.4	復元	10.8		5.8				
89	1号池	91	陶器	皿	復元	8.2	復元	4		1.4				
89	1号池	92	陶器	蓋						1.9		受部径5.2・上面径(つまみ)1.2		
89	1号池	93	陶器	擂鉢					残存	3.1				
89	1号池	94	陶器	甕						9.3	体部	内外面施釉		
89	1号池	95	陶器	擂鉢					残存	6.8				
89	1号池	96	陶器	碗					残存	2.4		内面模様有り		
89	1号池	97	陶器	碗	復元	9.8			残存	4.9		外面上絵付		
89	1号池	98	陶器	瓶			復元	7	残存	2.7				
89	1号池	99	陶器	碗					残存	3.75				
89	1号池	100	陶器	馬の目皿					残存	4.9		内面模様有り		
89	1号池	101	陶器	碗			復元	4.2	残存	5.7				
89	1号池	102	陶器	碗				3.8		1.4				
89	1号池	103	陶器	小坏		7.8		3		3	口縁～底部			
89	1号池	104	陶器	擂鉢				5		2.9				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
89	1号池	105	陶器	馬の口皿					残存	1.6				
89	1号池	106	陶器	碗					残存	4.9				
89	1号池	107	陶器	碗					残存	5.3		外面模様有り		
90	1号池	108	陶器	擂鉢	復元	9.6	復元	3		6				
90	1号池	109	土器	小皿		5.1		4.2		1.4				
90	1号池	110	土器	小皿		4.9		3.5		1.15				
90	1号池	111	土器	小皿		5.5		4.15		1.3				
90	1号池	112	土器	小皿		5.1		4.2		1.35				
90	1号池	113	土器	焼塩壺				5				生産地名有り		
90	1号池	114	土器	小皿		9.4		6.4		2.45				
90	1号池	115	土器	焼塩壺		6.9		5.2		9.3				
90	1号池	116	土器	焙烙		33		29		7.4				
90	1号池	117	土器	焼塩壺		6.5		5		9.85		「泉州麻生」の名有り		
90	1号池	118	土器	小皿		5.4		4.2		1.35				
90	1号池	119	土器	小皿		8.1		5.2		2.2				
90	1号池	120	土器	小皿				5.9		1.3				
90	1号池	121	土器	小皿		7.2		5.3		2.1				
90	1号池	122	土器	焼塩壺		8.4		8		1.7	蓋			
90	1号池	123	土器	焼塩壺				5.6		9.9				
90	1号池	124	土器	皿		9.2		6		2.15				
90	1号池	125	土器	皿		7.3		6		1.4				
90	1号池	126	土器	皿		9.6		7.2		1.7				
91	1号池	127	土器	焼塩壺		8.5		8		1.6	蓋			
91	1号池	128	土器	皿		9.2		6.6		1.9				
91	1号池	129	土器	焼塩壺		9.2		8.6		1.9	蓋			
91	1号池	130	土器	皿		9.7		5		2.1	灯明皿	口縁部内外面とも煤付着		
91	1号池	131	土器	皿		16.8				2.3				
91	1号池	132	土器	皿		9.5		5.5		2.5				
91	1号池	133	土器	焼塩壺						7.5		外面文字有り		
91	1号池	134	土器	皿		5.4		3.3		1.5				
91	1号池	135	土器	皿		7.6		6		1.75				
91	1号池	136	土器	皿		5.9		4.3		1.4				
91	1号池	137	土器	皿		6		4.8		1.2				
91	1号池	138	土器	小皿		5		3.4		1.1				
91	1号池	139	土器	小皿		7		5.4		1.55				
91	1号池	140	土器	小皿		5.2		3.8		1.2				
91	1号池	141	土器	鉢										
91	1号池	142	土器	小皿				5.6						
91	1号池	143	土器	焼塩壺		7.2		7.2		1.65	蓋			
91	1号池	144	土器	小皿		6.9		5		1.5				
91	1号池	145	土器	焼塩壺		6.25		5.8		9.4				
91	1号池	146	石製品	硯	残存	13.4		6		1.7		5B 4/1 暗青灰 216.87g		
91	1号池	147	石製品	硯		13		7		1.25		7.5Y 6/1 灰色 221.94G		
92	1号池	148	金属	把手	残存	5.3	残存	4.2				5.08g		
92	1号池	149	金属	火箸	残存	18.9	残存	0.9				25.57g		
92	1号池	150	金属	飾り	残存	8.9	残存	4.1	残存	0.06		10.47g		
92	1号池	151	金属	釘	残存	8.3	残存	0.8				9.42g		
92	1号池	152	金属	釘	残存	5	残存	0.9	残存	0.4		2.91g		
92	1号池	153	金属	釘	残存	5.8	残存	0.6				3.84g		
92	1号池	154	金属	クサビ	残存	6.5	残存	0.9		0.7		9.12g		
92	1号池	155	金属	鳶口	残存	8.8		3.8		0.5		鳶口(金属) 57.77g 木柄と留釘 4.16g		
92	1号池	156	金属	釘	残存	6.3		0.7		0.2		2.35g		
92	1号池	157	金属	釘	残存	8.1		0.7		0.4		7.56g		
92	1号池	158	金属	釘	残存	6.7		1.2		0.5		5.48g		
92	1号池	159	金属	釘	残存	8.4	残存	0.9		0.4		8.17g		
92	1号池	160	金属	煙管	残存	6.8						雁首 火皿径 1.5cm 小口径 0.9cm 6.75g		
92	1号池	161	金属	煙管	残存	7.6						吸口 小口径 0.9cm 口付径 0.3cm 6.34g(羅宇を含む)		
92	1号池	162	金属	煙管	残存	6.5						雁首 火皿径 1.8cm 小口径 1.2cm 8.42g		
92	1号池	163	金属	飾り	残存	2.3	残存	3.8				2.91g		
92	1号池	164	金属	釘	残存	3.4		0.9		0.3		1.87g		
92	1号池	165	金属	釘	残存	8.4		0.6		0.45		5.74g		
92	1号池	166	金属	銭		2.3		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.26g		
92	1号池	167	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝 古寛永(1636～1656年) 一文銭 銅銭 2.30g		
92	1号池	168	金属	銭		2.3		0.7		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.37g		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
92	1号池	169	金属	銭		2.3		0.65		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　3.00g		
92	1号池	170	金属	銭		2.45		0.65		0.1		寛永通宝　古寛永　(ス貝)　一文銭　銅銭　3.34g		
92	1号池	171	金属	銭		2.55		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　3.51g		
92	1号池	172	金属	銭		2.5		0.6		0.1		寛永通宝　文銭　一文銭　銅銭　3.18g		
92	1号池	173	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.91g		
92	1号池	174	金属	銭		2.3		0.6		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　3.09g		
92	1号池	175	金属	銭		2.3		0.65		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭		
93	1号池	176	木製品	底板				11		1				
93	1号池	177	木製品	底板	残存	12.2	残存	5.8		1.5				
93	1号池	178	木製品	底板	残存	17.7	残存	8		0.4				
93	1号池	179	木製品	角材	残存	55		4.2		2.2				
93	1号池	180	木製品	角材	残存	37.4		7.8		4				
93	1号池	181	木製品	板材		23.5		16.3		1				
93	1号池	182	木製品	手桶	残存	40.6		6.4		1	胴部			
93	1号池	183	木製品	手鏡	残存	25.6	残存	14		0.5				
93	1号池	184	木製品	手鏡	残存	25.6	残存	14		0.5				
93	1号池	185	木製品	底板	残存	29.5	残存	9		1.1				
93	1号池	186	木製品	角材		43		4		3				
93	1号池	187	木製品	部材		5.5				2.1		継手有り		
93	1号池	188	木製品	底板				16		0.9				
93	1号池	189	木製品	板材		13.5		9.5		0.5				
93	1号池	190	木製品	下駄		24		9.5		1.5				
93	1号池	191	木製品	板材		9.3		3		1.1				
93	1号池	192	木製品	底板	残存	12	残存	8.3		0.5				
93	1号池	193	木製品	底板	残存	14.6	残存	8.6		0.5				
93	1号池	194	木製品	羽子板		30.6		10.6		0.5				
94	1号池	195	木製品	小札		13		1.8		0.4				
94	1号池	196	木製品	曲物		13		13		5.5				
94	1号池	197	木製品	底板	残存	8.3	残存	6.2		0.6		口縁が潰れて少し縮んでいる		
94	1号池	198	木製品	柄杓		50.4		2.2		1.2	柄			
94	1号池	199	木製品	小札		6.8		1.7		0.4				
94	1号池	200	木製品	底板				12.3		0.9				
94	1号池	201	木製品	底板				12.6		0.9				
94	1号池	202	木製品	底板				11.4		0.6				
94	1号池	203	木製品	板材		13.5		6.5		0.7				
94	1号池	204	木製品	板材		21.4		1		1				
94	1号池	205	木製品	角材		35		6		2.2				
94	1号池	206	木製品	板材		26.3		2		1				
94	1号池	207	木製品	底板	残存	26.8	残存	10.5		1				
94	1号池	208	木製品	曲物				5.6		0.6	底部			
94	1号池	209	木製品	板材		10		9.7		1				
94	1号池	210	木製品	柄杓				6.5		4.7				
94	1号池	211	木製品	底板	残存	24	残存	6.3		1.1		全長18.5　全高6.5		
94	1号池	212	木製品	板材		27		11.5		1.6				
94	1号池	213	木製品	角材	残存	81.2		6		6				
94	1号池	214	木製品	板材	残存	29.7		18		0.9				
94	1号池	215	木製品	板材		24		3.4		0.7				
94	1号池	216	木製品	板材	残存	42		4.2		3.6				
94	1号池	217	木製品	柱		44		10.4		8.4				
94	1号池	218	木製品	板材		62.4		2.4		2				
95	1号池	219	木製品	板材		38		14		1.7				
95	1号池	220	木製品	角材		34		2.4		2.2				
95	1号池	221	木製品	曲物		25.4		12.1		8.6		台付		
95	1号池	222	木製品	角材		85.6	残存	4		2				
95	1号池	223	木製品	杭	残存	66		6		4				
95	1号池	224	木製品	板材	残存	43	残存	13.6		1.6				
95	1号池	225	木製品	角材	残存	26.5	残存	6.5		5				
95	1号池	226	木製品	底板	残存	27.8	残存	7.5		1.3				
95	1号池	227	木製品	角材	残存	26.2		1.4		1.4				
95	1号池	228	木製品	建材		44.6		6.4		4.2				
95	1号池	229	木製品	鍬	残存	35.4	残存	12.2		2.4				
95	1号池	230	木製品	継手	残存	22.4		8.9		2.3				
95	1号池	231	木製品	板材	残存	50.6	残存	13.6		1.2				
95	1号池	232	木製品	木札		8.8		2.7		0.5				
96	1号池	233	木製品	蓋		5.7				0.8				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
96	1号池	234	木製品	角材		52		4.8		3				
96	1号池	235	木製品	柱		33		10		9.6				
96	1号池	236	木製品			10.6		11.2		6.1				
96	1号池	237	木製品	角材		45		5.2		2.5				
96	1号池	238	木製品	角材		26		7.1		7.1				
96	1号池	239	木製品	角材		38.2		4		3.6				
96	1号池	240	木製品	角材		39.4		4.8		1.8				
96	1号池	241	木製品	板材		10		24.4		2				
96	1号池	242	木製品	角材		39		5		5				
96	1号池	243	木製品	角材		33.7		2		1				
96	1号池	244	木製品	角材		54.6		6		4.2				
96	1号池	245	木製品	角材	残存	45		6.2		3.6				
96	1号池	246	木製品	板材	残存	80		8.8		2				
96	1号池	247	木製品	角材		44		1.2		1.4				
96	1号池	248	木製品	底板	残存	10.2	残存	7		0.6				
96	1号池	249	木製品	角材		29		3.6		3.5				
96	1号池	250	木製品	板材	残存	9.2		5		0.5				
97	1号池	251	木製品	角材		25.3		4.6		3.4				
97	1号池	252	木製品	板材	残存	35		10		1				
97	1号池	253	木製品	板材		48.4	残存	27.2		1.6				
97	1号池	254	木製品	角材	残存	32		1.8		1.5				
97	1号池	255	木製品	角材		76		4.4		2.8				
97	1号池	256	木製品	角材		22.3		5.3		3.5				
97	1号池	257	木製品	杭		61.2		4.8				継手有り		
97	1号池	258	木製品	柄杓				20.6		9.4				
97	1号池	259	木製品	板材		20	残存	9		1.2		全長49　全高19		
97	1号池	260	木製品	板材	残存	30		11.3		1.1				
97	1号池	261	木製品	桶		60		5.2		2				
97	1号池	262	木製品	角材	残存	39.9	残存	4.6		1.8		板		
97	1号池	263	木製品	曲物		12				7.2		樹種ヒノキ		
97	1号池	264	木製品	角材		57.2		4.8		1.6				
98	1号池	265	木製品	角材		52.8		3.2		1.6				
98	1号池	266	木製品	角材		48		10.4		7.4				
98	1号池	267	木製品	角材		76		5.6		4.4				
98	1号池	268	木製品	角材		26.6		3.2		1.1				
98	1号池	269	木製品	角材		56.6		4.8		1.8				
98	1号池	270	木製品	手桶	残存	40		7.4		1.6				
98	1号池	271	木製品	角材	残存	24.5		6.3		5.3		把手		
98	1号池	272	木製品	角材		19.9		2.6		1.9				
98	1号池	273	木製品	角材		42		4.2		3				
98	1号池	274	木製品	板材		9.2		8		0.8		継手有り		
98	1号池	275	木製品	角材		24.8		4.7		4				
98	1号池	276	木製品	鏡台？				10.8		16.2		表面塗り、樹種ヒノキ		
98	1号池	277	木製品	板材		10.5		2.5		2.2		表面塗り		
98	1号池	278	木製品	底板	残存	11	残存	4		0.5				
98	1号池	279	木製品	底板	残存	12.2	残存	6		0.7		樹種スギ		
98	1号池	280	木製品	板		15		1.7		0.2		樹種ヒノキ		
98	1号池	281	木製品	板材		9.3		6.6		0.7		薄板加工品		
98	1号池	282	木製品	底板		16.5		17		0.6				
98	1号池	283	木製品	板材	残存	8.3		4.2		0.9				
98	1号池	284	木製品	曲物				11.7		3		樹種ヒノキ		
98	1号池	285	木製品	蓋	残存	7.2	残存	12.3		1.5		栓付き		
98	1号池	286	木製品	板材		44.6		2		1.2				
98	1号池	287	木製品	板材		27		11		0.5				
98	1号池	288	木製品	手桶		36.4		2.6		0.4				
99	1号池	289	木製品	板材		29.5		8.6		0.4				
99	1号池	290	木製品	板材		30		8.2		0.5				
99	1号池	291	木製品	部材		24.5		2		0.8				
99	1号池	292	木製品	角材		19		0.9		0.4				
99	1号池	293	木製品	角材	残存	14	残存	5.5		2.3				
99	1号池	294	木製品	杭	残存	48.8		7.6		5.6				
99	1号池	295	木製品	角材		36.4		4.2		3.8				
99	1号池	296	木製品	角材		48.6	残存	2.4		1.3		継手有り		
99	1号池	297	木製品	板		48.4		10.4		1.2				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
99	1号池	298	木製品	角材		51		1.4		1.3				
99	1号池	299	木製品	板	残存	24.7		3.1		1.3				
99	1号池	300	木製品	桶		28.1		8.3		1.4				
99	1号池	301	木製品	板材		46.2		14.8		0.6				
99	1号池	302	木製品	杭		57.6		5.6		3.6				
99	1号池	303	木製品	底板	残存	29.6	残存	10.6		1.6				
99	1号池	304	木製品	椀蓋	残存	12	残存	5.8		2.1				
99	1号池	305	木製品	椀				6		3.7				
99	1号池	306	木製品	椀			残存	6.2		2.2				
99	1号池	307	木製品	椀		12		5.5		3.9				
99	1号池	308	木製品	椀				5.5		2.5				
99	1号池	309	木製品	椀				5.5		3.9				
100	1号池	310	木製品	箸		23.7		0.8		0.7				
100	1号池	311	木製品	箸		16.9		0.8		0.4				
100	1号池	312	木製品	箸		21.9		0.8		0.5		戸車		
100	1号池	313	木製品	箸		22		0.8		0.6				
100	1号池	314	木製品	箸		21.7		0.8		0.6				
100	1号池	315	木製品	箸		22		0.7		0.6				
100	1号池	316	木製品	箸		22		0.7		0.7				
100	1号池	317	木製品	箸		22.1		0.7		0.6				
100	1号池	318	木製品	箸		22.3		0.6		0.4				
100	1号池	319	木製品	箸		22.2		0.7		0.7				
100	1号池	320	木製品	箸		22		0.6		0.6				
100	1号池	321	木製品	箸		23.1		0.6		0.6				
100	1号池	322	木製品	箸		22.2		0.5		0.5				
100	1号池	323	木製品	箸		22.1		0.6		0.6				
100	1号池	324	木製品	箸		21.8		0.5		0.5				
100	1号池	325	木製品	箸		19.1		0.7		0.7				
100	1号池	326	木製品	箸		17		0.5		0.6				
100	1号池	327	木製品	箸		14		0.65		0.6				
100	1号池	328	木製品	箸		13.5		0.6		0.6				
100	1号池	329	木製品	箸		17.8		0.6		0.5				
100	1号池	330	木製品	箸		22		0.7		0.7				
100	1号池	331	木製品	箸		19.2		0.5		0.6				
100	1号池	332	木製品	箸		22.1		0.7		0.7				
100	1号池	333	木製品	箸		13.2		0.7		0.6				
100	1号池	334	木製品	箸		17.2		0.6		0.5				
100	1号池	335	木製品	箸		23.8		0.7		0.7				
100	1号池	336	木製品	箸		23.1		0.8		0.4				
100	1号池	337	木製品	箸		21.8		0.5		0.4				
100	1号池	338	木製品	箸		21.5		0.6		0.5				
100	1号池	339	木製品	箸		22		0.8		0.7				
100	1号池	340	木製品	箸		21.5		0.5		0.7				
100	1号池	341	木製品	箸		22.9		0.4		0.6				
100	1号池	342	木製品	箸		22		0.6		0.7				
100	1号池	343	木製品	箸		22		0.5		0.6				
100	1号池	344	木製品	箸		22		0.6		0.5				
100	1号池	345	木製品	箸		19.7		0.6		0.7				
100	1号池	346	木製品	箸		23.3		0.8		0.5				
100	1号池	347	木製品	箸		22		0.5		0.7				
100	1号池	348	木製品	箸		22		0.7		0.6				
100	1号池	349	木製品	箸		22.5		0.6		0.6				
100	1号池	350	木製品	箸		21.4		0.6		0.6				
100	1号池	351	木製品	箸		22		0.7		0.6				
100	1号池	352	木製品	箸		19		0.6		0.4				
100	1号池	353	木製品	箸		22.5		0.6		0.5				
100	1号池	354	木製品	箸		21.6		0.7		0.4				
100	1号池	355	木製品	箸		21.2		0.65		0.7				
100	1号池	356	木製品	箸		22		0.6		0.6				
100	1号池	357	木製品	箸		12.1		0.7		0.6				
100	1号池	358	木製品	箸		12		0.7		0.7				
100	1号池	359	木製品	箸		22.3		0.5		0.5				
100	1号池	360	木製品	箸		22.2		0.9		0.6				
100	1号池	361	木製品	箸		22.5		0.8		0.5				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
100	1号池	362	木製品	箸		21.7		0.8		0.7				
100	1号池	363	木製品	箸		21.5		0.7		0.6				
100	1号池	364	木製品	箸		21.7		0.7		0.5				
100	1号池	365	木製品	箸		22		0.7		0.5				
100	1号池	366	木製品	箸		22.8		0.6		0.5		把手		
100	1号池	367	木製品	箸		22.3		0.7		0.5				
100	1号池	368	木製品	箸		21.6		0.7		0.6				
100	1号池	369	木製品	箸		22.2		0.7		0.6				
100	1号池	370	木製品	箸		22.2		0.6		0.6				
101	1号池	371	木製品	箸		23		0.7		0.6				
101	1号池	372	木製品	箸		22.2		0.7		0.5				
101	1号池	373	木製品	箸		21.8		0.6		0.5				
101	1号池	374	木製品	箸		16.5		0.6		0.6				
101	1号池	375	木製品	箸		17.9		0.8		0.7				
101	1号池	376	木製品	箸		12.7		0.6		0.7				
101	1号池	377	木製品	箸		21.8		0.6		0.7				
101	1号池	378	木製品	箸		22		0.7		0.7				
101	1号池	379	木製品	箸		21.4		0.6		0.6				
101	1号池	380	木製品	箸		22.2		0.8		0.7				
101	1号池	381	木製品	箸		22.3		0.7		0.5				
101	1号池	382	木製品	箸		22.8		0.6		0.4				
101	1号池	383	木製品	箸		23.2		0.6		0.7				
101	1号池	384	木製品	箸		22.6		0.6		0.6				
101	1号池	385	木製品	箸		21.3		0.8		0.67				
101	1号池	386	木製品	箸		20.2		0.7		0.5				
101	1号池	387	木製品	箸		22		0.9		0.6				
101	1号池	388	木製品	箸		20.1		0.7		0.7				
101	1号池	389	木製品	箸		23.1		0.6		0.6				
101	1号池	390	木製品	箸		21.9		0.6		0.6				
101	1号池	391	木製品	箸		23.2		0.7		0.5				
101	1号池	392	木製品	箸		23.6		0.6		0.6				
101	1号池	393	木製品	箸		19		0.7		0.7				
101	1号池	394	木製品	箸		22		0.6		0.4				
101	1号池	395	木製品	箸		22.3		0.6		0.4				
101	1号池	396	木製品	箸		21.5		0.5		0.5				
101	1号池	397	木製品	箸		21.4		0.6		0.6				
101	1号池	398	木製品	箸		18.4		0.7		0.6				
101	1号池	399	木製品	箸		23.3		0.5		0.4				
101	1号池	400	木製品	箸		23.4		0.5		0.4				
101	1号池	401	木製品	箸		21.8		0.6		0.5				
101	1号池	402	木製品	箸		19.3		0.8		0.6				
101	1号池	403	木製品	箸		22.1		0.7		0.6				
101	1号池	404	木製品	箸		13.5		0.8		0.5				
101	1号池	405	木製品	箸		22.7		0.7		0.5				
101	1号池	406	木製品	箸		22.1		0.6		0.6				
101	1号池	407	木製品	箸		21.8		0.6		0.6				
101	1号池	408	木製品	箸		22.8		0.6		0.5				
101	1号池	409	木製品	箸		22		0.7		0.7				
101	1号池	410	木製品	箸		21.5		0.6		0.6		胴板		
101	1号池	411	木製品	箸		22.7		0.6		0.5				
101	1号池	412	木製品	箸		22		0.6		0.6				
101	1号池	413	木製品	箸		22		0.7		0.8				
101	1号池	414	木製品	箸		22		0.7		0.6				
101	1号池	415	木製品	箸		21.3		0.6		0.6				
101	1号池	416	木製品	箸		21.6		0.6		0.5				
101	1号池	417	木製品	箸		22		0.7		0.6				
101	1号池	418	木製品	箸		22.1		0.7		0.6				
101	1号池	419	木製品	箸		22		0.7		0.5				
101	1号池	420	木製品	箸		22.2		0.7		0.6				
101	1号池	421	木製品	箸		17.7		0.6		0.6				
102	1号池	422	瓦	軒平または桟瓦瓦当	残存	4.6	残存	10.5		4.6		唐草	密	
102	1号池	423	瓦	軒平または軒桟瓦	残存	3.5	残存	5		6.3			密	
102	1号池	424	瓦	軒平または桟瓦瓦当	残存	3.3	残存	13		2		江戸式	やや密	
102	1号池	425	瓦	軒丸瓦当	残存	12.9	残存	16.2		2.2		瓦当径 16.2cm	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
102	1号池	426	瓦	軒丸瓦当	残存	6.5	残存	8.9		4			密	
102	1号池	427	瓦	熨斗瓦	残存	6.2	残存	5		2		紐付大面または紐付半大面、刻印陽刻(丸内一文字)	密	
102	1号池	428	瓦	輪違い	残存	10.9	残存	11.3		1.7			密	
102	1号池	429	瓦	丸瓦	残存	14.8	残存	10.1		2.2		玉縁	密	
102	1号池	430	瓦	輪違い	残存	9.9	残存	11.1		1.8			密	
103	2号集石	1	磁器	水滴	残存	5.5	残存	3.4	残存	2.1		灰白	密	
103	2号集石	2	磁器	碗	復元	5.4			残存	2.5		灰白	密	
103	2号集石	3	磁器	碗	復元	10.4			残存	3.8		7.5GY 明緑灰	密	
103	2号集石	4	磁器	皿			復元	4	残存	2.1		灰白	密	
103	2号集石	5	磁器	皿			復元	6	残存	1.2		灰白	密	
103	2号集石	6	陶器	鉢	復元	14.8			残存	2.9		内・外(一部)面施釉		
103	2号集石	7	陶器	碗	復元	9.2			残存	3.5	口縁部	内外面施釉・外面絵付有り		
103	2号集石	8	陶器	灯明皿	復元	11.85	復元	6.4		1.9	口縁～底部	内面施釉		
103	2号集石	9	貝	碁石	残存	1.8	残存	0.8	残存	0.4				
103	2号集石	10	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 古寛永 一文銭 銅銭 2.70g		
113	3号土坑	1	瓦	丸瓦	残存	10.6	残存	14.7		2.3			やや密	
113	4号土坑	1	陶器	茶碗			復元	5	残存	3.1		内外緑釉		
113	4号土坑	2	土器	焼塩		32		30.8		5.4				
113	4号土坑	3	土器	焜炉類						1.7				
113	5号土坑	1	陶器	皿	復元	11.4	復元	5.4		2	底部～口縁部	内外鉄釉 ロクロナデ		
113	5号土坑	2	土器	焼塩壺		8.4		8.2		1.2	蓋			
113	15号土坑	1	陶器	碗				5.2		1.3				
113	16号土坑	1	陶器	灯明皿		20.1		5		1.8				
113	16号土坑	2	陶器	灯明皿		10.8		4.8		2.2				
113	17号土坑	1	陶器	碗		11				4.8		内外面施釉		
113	17号土坑	2	陶器	茶碗	復元	11.1		4.1		6.3		内外灰釉		
113	17号土坑	3	陶器	碗	復元	10.8		4.6	6.5					
113	17号土坑	4	土器	小皿				5.8		0.9				
113	19号土坑	1	陶器	茶燭					残存	1.3		中央部に穴あり 底部糸切痕		
113	19号土坑	2	金属	煙管	残存	7.1						吸口 小口径 0.9cm 口付径 0.7cm 4.39g		
113	20号土坑	1	陶器	碗					残存	4.4		内外面施釉 貫入有り		
113	20号土坑	2	土器	小皿				6						
114	21号土坑	1	磁器	碗					残存	2			密	
114	21号土坑	2	磁器	蓋	復元	4.6	復元	8.2		2.2			微密	
114	21号土坑	3	磁器	碗	復元	10.8			残存	2.8			微密	
114	21号土坑	4	磁器	碗	復元	8.3	復元	3.5		4.3		畳付 砂付着 口縁部 茶褐色	微密	
114	21号土坑	5	磁器	碗	復元	8.4	復元	3.6		4.3		口縁部 茶褐色	微密	
114	21号土坑	6	陶器	火鉢		5.9		3.3		14				
114	21号土坑	7	陶器	灯明皿		7		3.2		1.5		受部径(復元)径5.2		
114	21号土坑	8	陶器	鉢		7.1		5.2		3.2				
114	21号土坑	9	陶器	皿			復元	4	残存	1.4				
114	21号土坑	10	陶器	碗					残存	1.5				
114	21号土坑	11	陶器	茶碗	復元	10.2	復元	4		5.55				
114	21号土坑	12	土製品	碁石		2		1.8		0.8		7.5YR 6/8 橙	密	
114	21号土坑	13	瓦	丸瓦瓦当	残存	6.8	残存	8.3		1.5			密	
114	22号土坑	1	陶器	小型鍋	復元	7.3	復元	4.3		3.3				
114	22号土坑	2	陶器	皿		7.7		3.6		1.45				
114	22号土坑	3	陶器	俎入れ		4.2		4.2		2.9				
114	22号土坑	4	土器	甕						4.2				
114	23号土坑	1	磁器	碗					残存	2.5			微密	
114	23号土坑	2	陶器	擂鉢	復元	27			残存	3.8	口縁部	内外面施釉		
114	23号土坑	3	陶器	蓋					残存	1.8		つまみ径1・受部径2.8 外面施釉 貫入有 絵付 底部削		
114	23号土坑	4	陶器	擂鉢					残存	3.8	体部			
114	24号土坑	1	陶器	蓋					残存	1.8		受部径(復元)9 外面白釉 模様有り		
114	24号土坑	2	陶器	鉢					残存	3.2		内外鉄釉		
114	24号土坑	3	土器	甕										
114	24号土坑	4	瓦	丸瓦瓦当	残存	5.2	残存	10.9		2.1			密	
115	26号土坑	1	磁器	皿	復元	10.6	復元	6.6		2.1		輪花皿 口縁に口紅・くぼみあり	密	
115	26号土坑	2	磁器	碗			復元	3.8	残存	4.5			密	
115	26号土坑	3	磁器	碗			復元	3.6	残存	5.1		高台内銘あり	密	
115	26号土坑	4	磁器	碗					残存	3.6			密	
115	26号土坑	5	磁器	碗					残存	3.7			密	
115	26号土坑	6	磁器	碗					残存	3.2			密	
115	26号土坑	7	磁器	碗					残存	2.8			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
115	26号土坑	8	磁器	瓶	復元	3			残存	4.3		緑釉(外側)	密	
115	26号土坑	9	磁器	碗					残存	2.4			密	
115	26号土坑	10	磁器	碗					残存	4			密	
115	26号土坑	11	磁器	皿	復元	14			残存	3.1			密	
115	26号土坑	12	陶器	鉢			復元	7.6	残存	5.8		内外緑釉 ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
115	26号土坑	13	陶器	碗	復元	12.6	復元	5.9	復元	7.8		内外緑釉 ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
115	26号土坑	14	陶器	擂鉢	復元	22.8			残存	4.6		内外鉄釉		
115	26号土坑	15	陶器	茶碗	復元	6.8	復元	3.2		3		内外灰釉 染付		
115	26号土坑	16	陶器	鉢	復元	21	復元	10		9.8		内外鉄釉		
115	26号土坑	17	陶器	碗			復元	4.6	残存	5.7				
115	26号土坑	18	陶器	碗	復元	10			残存	4.8		内外透明釉		
115	26号土坑	19	陶器	碗				3.2	残存	2		内外透明釉・底部刻印あり		
115	26号土坑	20	陶器	坏	復元	9.8	復元	4.4		1.8		ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・内外口縁部ｽｽ付着 底部:ヘラ削り		
115	26号土坑	21	陶器	皿		10.6		4		2		口縁部内外煤付着		
115	26号土坑	22	陶器	皿					残存	1.9		ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・外面口縁部:灰釉 内面:灰釉		
115	26号土坑	23	陶器	甕					残存	1.9		内外鉄釉 内面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
115	26号土坑	24	陶器	擂鉢					残存	3.3		内面ハケ目		
115	26号土坑	25	陶器	皿			復元	6.4	残存	1.6		内面鉄釉・外面飾り(ささえ)		
115	26号土坑	26	陶器	土瓶			復元	8.2	残存	1.5		内外灰釉		
115	26号土坑	27	陶器	皿			復元	4.6	残存	1.3		ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
115	26号土坑	28	陶器	碗					残存	4.5		内外灰釉 ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
115	26号土坑	29	陶器	擂鉢					残存	4		内外鉄釉 内面ハケ目 くし目		
116	26号土坑	30	陶器	土管					残存	8.2				
116	26号土坑	31	陶器	人形				3.6		3.6		厚さ3.6		
116	26号土坑	32	土器	焜炉類						7.3				
116	26号土坑	33	土器	皿		7.4		5		1.7				
116	26号土坑	34	土器	皿		6.1		5.2		1.3				
116	26号土坑	35	土器	皿		7		5		1.3				
116	26号土坑	36	土器	皿		6.1		5		1.6				
116	26号土坑	37	土器	皿		10		7.6		2				
116	26号土坑	38	土器	焼塩壺						2	蓋			
116	26号土坑	39	土器	皿		7.6		6.4		1.5				
116	26号土坑	40	土器	焼塩壺				5.2		3.9				
116	26号土坑	41	土器	焼塩壺		6				4.3				
116	26号土坑	42	土器	小皿				2.5		0.9				
116	26号土坑	43	土器	小皿				10		1.4				
116	26号土坑	44	土器	皿		8.2		5.6		1.6				
116	26号土坑	45	土器	焼塩壺		9.2		9		1.8	蓋			
116	26号土坑	46	土器	焙烙						5				
116	26号土坑	47	土器	小皿						5				
116	26号土坑	48	土製品	碁石		2		2.1		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
116	26号土坑	49	金属	煙管	残存	6.6						雁首 火皿径 1.5cm 小口径 1cm 8.85g(羅宇を含む)		
116	26号土坑	50	金属	クサビ	残存	7.1	残存	1.5	残存	0.5		21.28g		
117	27号土坑	1	磁器	碗	復元	7.8	復元	4.6	残存	5.8			密	
117	27号土坑	2	磁器	瓶			復元	6	残存	3			密	
117	27号土坑	3	磁器	碗					残存	3.4			密	
117	27号土坑	4	磁器	碗			復元	3.6	残存	4			密	
117	27号土坑	5	磁器	皿			復元	7	残存	1			密	
117	27号土坑	6	磁器	碗	復元	9.8			残存	4.2			密	
117	27号土坑	7	磁器	碗			復元	3.2	残存	2.4			密	
117	27号土坑	8	磁器	碗	復元	9.2	復元	3		4.8			密	
117	27号土坑	9	磁器	皿			復元	7.2	残存	2.3		高台内蛇の目釉剥ぎ チャツの痕跡あり	密	
117	27号土坑	10	磁器	碗	復元	10			残存	3.4			密	
117	27号土坑	11	陶器	碗			復元	3.4	残存	2.4				
117	27号土坑	12	陶器	土瓶					残存	3.4	注口	鉄釉		
117	27号土坑	13	陶器	土瓶	復元	8.6			残存	3.5				
117	27号土坑	14	陶器	土瓶			復元	8.3	残存	7.2		内外鉄釉		
117	27号土坑	15	陶器	碗			復元	9.4	残存	5.4				
117	27号土坑	16	陶器	甕			復元	11.8	残存	1.8				
117	27号土坑	17	陶器	鉢					残存	3.5				
117	27号土坑	18	陶器	蓋					残存	1.5		受部径(復元)8.8		
117	27号土坑	19	陶器	蓋					残存	1.6		つまみ径1.4		
117	27号土坑	20	陶器	甕	復元	22.8			残存	6.6		外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内外鉄釉		
117	27号土坑	21	陶器	甕	復元	32			残存	4.5				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
117	27号土坑	22	陶器	甕					残存	8.5				
117	27号土坑	23	陶器	甕					残存	3.6		内外ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外面鉄釉		
117	27号土坑	24	陶器	鍋					残存	3.1		外面緑釉		
117	27号土坑	25	陶器	蓋					残存	1.6		受部径(復元)10.4 外面緑釉		
117	27号土坑	26	陶器	擂鉢					残存	3.6	口縁部			
117	27号土坑	27	石製品	石筆	残存	3.1	残存	0.6		0.6		白 1.57g		
117	27号土坑	28	石製品	石筆	残存	3.3	残存	0.7		0.6		白 1.63g		
118	28号土坑	1	陶器	甕					残存	3.1				
118	28号土坑	2	陶器	蓋					残存	1		受部径(復元)8.4		
118	28号土坑	3	陶器	擂鉢			復元	16	残存	8.6				
118	28号土坑	4	陶器	碗	復元	11			残存	6.2				
118	28号土坑	5	陶器	灯明皿	復元	12.8			残存	2				
118	28号土坑	6	陶器	土瓶			復元	6.1	残存	11				
118	28号土坑	7	土器	蓋				6.1		1.1				
118	28号土坑	8	土器	焜炉				28.8		23.5			密	
118	29号土坑	1	磁器	碗					残存	3				
118	29号土坑	2	陶器	鍋	復元	18.4			残存	7.8		内外鉄釉	密	
118	31号土坑	1	磁器	大碗	復元	15.4	復元	6.6		7.3				
119	33号土坑	1	陶器	蓋					残存	2.2		受部径(復元)15.8 外側ろくろ痕有り		
119	33号土坑	2	金属	銭		2.8				0.1		寛永通宝 真鍮銭または文久永宝 背十一波 四文銭 銅銭 2.52g		
119	33号土坑	3	金属	銭		2.8		0.7		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 背十一波 真鍮銭 四文銭(1768年以降) 3.46g		
119	33号土坑	4	金属	銭		2.6		0.7		0.1		文久永宝(1863～1869年) 背十一波 四文銭 銅銭 3.19g		
119	33号土坑	5	金属	銭		2.8		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 背十一波 真鍮銭 四文銭(1768年以降) 3.75g		
119	37号土坑	1	磁器	碗					残存	3.9			密	
119	37号土坑	2	磁器	碗					残存	3.6			密	
119	37号土坑	3	陶器	瓶				8.9	残存	9.6		釘書文字		
119	37号土坑	4	陶器	筒形碗		10			残存	8.3				
119	37号土坑	5	陶器	土瓶					残存	5.1				
119	37号土坑	6	陶器	皿			復元	6	残存	1.5				
119	37号土坑	7	土器	焼塩壺				4.6		5.9				
131	1号ピット	1	磁器	碗	復元	8			残存	2.5		灰白	密	
131	1号ピット	2	陶器	瓶					残存	5.7		内外面施釉		
131	2号ピット	1	土器	胞衣皿		20.8		15.3		4.8				
131	2号ピット	2	土器	胞衣皿		21		15.8		4.45				
131	6号ピット	1	磁器	くらわんか碗	復元	13	復元	5		5.9		灰白	密	
131	6号ピット	2	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.9		灰白	密	
131	6号ピット	3	陶器	碗					残存	3.1		内外面施釉		
131	6号ピット	4	陶器	碗					残存	4.6		内外面施釉		
131	6号ピット	5	土器	焜炉				20		16.1		内面底部灰付着		
131	6号ピット	6	土器	焙烙						5.3				
131	8号ピット	1	磁器	碗			復元	3.6	残存	1.1		灰白	密	
131	8号ピット	2	陶器	碗			復元	6	残存	1.9		内面:上部透明釉		
131	8号ピット	3	土器	火鉢		17.8		16		7.7				
131	10号ピット	1	陶器	甕	復元	16.6			残存	4.2				
131	12号ピット	1	磁器	碗					残存	2.5		灰白	密	
132	14号ピット	1	陶器	土瓶					残存	3.6		内面鉄釉・外面上部白釉		
132	14号ピット	2	陶器	皿			復元	5	残存	0.8		内面白釉		
132	14号ピット	3	陶器	碗					残存	3.8		外面:模様有り 透明釉		
132	14号ピット	4	陶器	土瓶		8				2.1		外面:圏線・模様有り 白釉		
132	14号ピット	5	土器	焜炉						2.7				
132	15号ピット	1	土器	小皿										
132	16号ピット	1	磁器	碗					残存	1.4		灰白	密	
132	27号ピット	1	土器	胞衣皿		20		15.4		3.1				
132	27号ピット	2	土器	胞衣皿		20.8		17.2		3.5				
132	29号ピット	1	磁器	碗					残存	1.7		灰白	密	
132	29号ピット	2	木製品	柱			残存	14.5	残存	22		樹種スギ		
132	32号ピット	1	磁器	碗					残存	4.2		灰白	密	
132	34号ピット	1	磁器	碗					残存	2.9		灰白	密	
132	34号ピット	2	陶器	擂鉢					残存	6				
132	37号ピット	1	磁器	碗					残存	2.2		灰白	密	
132	40号ピット	1	磁器	碗					残存	2.4		灰白	密	
132	42号ピット	1	木製品	柱			残存	6.5	残存	3.9				
132	43号ピット	1	磁器	碗	復元	10			残存	3.6		灰白	密	
132	45号ピット	1	磁器	皿					残存	1.6		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
132	45号ピット	2	磁器	瓶			復元	2.6	残存	3		灰白	密	
132	45号ピット	3	磁器	瓶					残存	3.5		灰白	密	
132	47号ピット	1	磁器	碗	復元	9.4			残存	3.3		灰白	密	
132	47号ピット	2	陶器	壺		8.2			残存	3.7	口縁～体部	外・内面一部施釉		
132	47号ピット	3	陶器	壺	復元	14.4			残存	3.6	口縁部	外・内面上部施釉		
132	50号ピット	1	陶器	小坏	復元	4.4	復元	3.8		3	口縁～底部	内外面施釉・底部無釉・回転糸切痕		
133	51号ピット	1	土器	胞衣皿		20.3		16.8		3.1				
133	51号ピット	2	土器	胞衣皿		19.9		15.8		2.9				
133	52号ピット	1	磁器	碗					残存	2.4		灰白	密	
133	52号ピット	2	磁器	碗					残存	2.4		灰白	密	
133	53号ピット	1	陶器	壺					残存	3.4				
133	58号ピット	1	陶器	瓶					残存	2.8				
133	58号ピット	2	陶器	瓶			復元	5.2	残存	4.5				
133	58号ピット	3	土器	胞衣皿						2.7				
133	58号ピット	4	土器	胞衣皿		18.8		6		4.9	上皿			
133	58号ピット	5	土器	胞衣皿				12		2.3	下皿			
133	58号ピット	6	瓦	桟瓦	残存	20.8		30.2		2.1			密	
133	59号ピット	1	土器	胞衣皿		19		12.5		4.2				
133	59号ピット	2	土器	胞衣皿		12		11.9		3.7				
134	54号ピット	1-1	木製品	箱		15.8		15.1		1.6	底板	樹種ツガ属		
134	54号ピット	1-2	木製品	箱	残存	59	残存	10.2		1.6	側板			
134	54号ピット	1-3	木製品	箱	残存	66.2		14		1.4	側板			
134	54号ピット	1-4	木製品	箱	残存	61		10		1.5	側板			
134	54号ピット	1-5	木製品	箱	残存	64.8		15		1.2	側板	樹種ツガ属		
134	55号ピット	1-1	木製品	箱		15.5		15.3		1.5	底板	樹種ツガ属		
134	55号ピット	1-2	木製品	箱	残存	70		14		1.2	側板			
134	55号ピット	1-3	木製品	箱	残存	68.4		10		1.4	側板			
134	55号ピット	1-4	木製品	箱	残存	69.6		14		1.6	側板			
134	55号ピット	1-5	木製品	箱	残存	72		10		1.4	側板	樹種ツガ属		
136	1号集石	1	磁器	碗	復元	9.6			残存	4		灰白	密	
136	1号集石	2	磁器	碗			復元	4	残存	4.3		灰白	密	
136	1号集石	3	磁器	油壺	復元	1.8			残存	3.4			密	
136	1号集石	4	磁器	瓶			復元	4.4	残存	1.9			密	
136	1号集石	5	磁器	碗			復元	3.8	残存	2.6		灰白	密	
136	1号集石	6	磁器	紅皿	復元	4.6	復元	1.6		1.5			密	
136	1号集石	7	磁器	香炉			復元	7.6	残存	5			密	
136	1号集石	8	磁器	碗					残存	3.4			密	
136	1号集石	9	磁器	碗			復元	9.2	残存	2.7			密	
136	1号集石	10	磁器	碗	復元	10.6			残存	3.8			密	
136	1号集石	11	磁器	碗	復元	9.6			残存	3.7			密	
136	1号集石	12	磁器	皿			復元	6.4	残存	1.6			密	
136	1号集石	13	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.7			密	
136	1号集石	14	磁器	碗	復元	8	復元	4		5			密	
136	1号集石	15	磁器	蓋	復元	5.4	復元	12		3			密	
136	1号集石	16	磁器	碗	復元	10.4			残存	5			密	
136	1号集石	17	磁器	蓋	復元	4	復元	11		3.4			密	
136	1号集石	18	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.6			密	
136	1号集石	19	磁器	皿	復元	13.4	復元	8		3.5			密	
136	1号集石	20	磁器	碗			復元	4.6	残存	4.9			密	
136	1号集石	21	磁器	猪口			復元	3.4	残存	1.8			密	
136	1号集石	22	磁器	碗	復元	9.4			残存	4.3			密	
136	1号集石	23	磁器	皿			復元	5.6	残存	1.8			密	
136	1号集石	24	磁器	碗	復元	9.6			残存	4			密	
137	1号集石	25	磁器	皿	復元	13.4	復元	7.4		3.7			密	
137	1号集石	26	磁器	蓋	復元	3.6	復元	9		2.3			密	
137	1号集石	27	磁器	碗			復元	4	残存	2.7			密	
137	1号集石	28	磁器	皿	復元	12.8	復元	8		3.8			密	
137	1号集石	29	磁器	碗	復元	7	復元	4.2		6.2			密	
137	1号集石	30	磁器	蓋			復元	5		0.9			密	
137	1号集石	31	陶器	灯明皿			復元	4	残存	2		上面径(復元)7.2　内面灰釉　外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
137	1号集石	32	陶器	鉢						5.6		暗文模様　内面灰釉　外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
137	1号集石	33	陶器	甕					残存	3.6		内外透明釉　口縁部一部緑釉		
137	1号集石	34	陶器	茶碗			復元	3.4	復元	2.1		内外面施釉		
137	1号集石	35	陶器	擂鉢					残存	4.5		内外鉄釉　内面ハケ目　外面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
137	1号集石	36	陶器	盛				11.4		10.5		内面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・指頭痕 外面緑釉 底部糸切痕		
137	1号集石	37	陶器	瓶					残存	1.2	底部	内外面施釉		
137	1号集石	38	陶器	蓋						1.2	～口縁	受部径(復元)5.6・上面(つまみ)径0.4 内外鉄釉		
137	1号集石	39	陶器	碗			残存	8.35	残存	2.3	底部			
137	1号集石	40	陶器	甕			復元	38	残存	4.3				
137	1号集石	41	陶器	碗	復元	10			残存	4.8	口縁～体部	内外面施釉		
137	1号集石	42	陶器	蓋							蓋上部～口縁部	受部径(復元)7.2 蓋内面に「丸〇」の文字		
137	1号集石	43	陶器	擂鉢			復元	6.6	残存	3.1				
138	1号集石	44	陶器	擂鉢			復元	15	残存	7.6		内外鉄釉		
138	1号集石	45	陶器	土瓶					残存	5.5	注口			
138	1号集石	46	陶器	鉢	復元	15			残存	3.4	口縁～体部	内外面口縁部施釉・貫入有り		
138	1号集石	47	陶器	蓋		10.8		8.8		2.6		外面緑釉		
138	1号集石	48	陶器	甕	復元	9.4			残存	8.8		内外鉄釉 内面ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
138	1号集石	49	陶器	碗			復元	6	残存	1.6		高台内鉄釉		
138	1号集石	50	陶器	灯明皿			復元	5.6		1.4		受部径(復元)7・上面径4.4 内外鉄釉 ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
138	1号集石	51	陶器	擂鉢					残存	8				
138	1号集石	52	陶器	蓋		10.4		8.8		2.1		外面灰釉		
138	1号集石	53	陶器	瓶			復元	7.2	残存	2.6				
138	1号集石	54	土器	坏		10		7		1.9				
138	1号集石	55	金属	釘	残存	1.9		0.7				3.72g		
138	1号集石	56	金属	銭		2.8		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 背十一波 真鍮銭 四文銭(1768年以降) 4.783g		
138	1号集石	57	金属	銭		2.5		0.55		0.1		寛永通宝 文銭 一文銭 銅銭 3.99g		
139	1号集石	58	瓦	平または桟瓦	残存	25.2	残存	14		1.6		刻印陰刻	密	
139	1号集石	59	瓦	平瓦		13.1	残存	12.8		1.5			密	
139	1号集石	60	瓦	軒平または軒桟瓦		3.6	残存	12.8		1.2		唐草	密	
139	1号集石	61	瓦	輪違い	残存	9.3	残存	12		1.5			密	
141	1号有機物集中	1	石製品	火打石	残存	2.4	残存	2.7		0.5		剥片 乳白色 半透明 2.5Y 8/2 灰白 29.8g		
141	1号有機物集中	2	土製品	碁石		1.85		1.8		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
142	撹乱B12	1	磁器	瓶					残存	4.8		灰白	密	
142	撹乱B12	2	磁器	碗			復元	6	残存	3.1		灰白	密	
142	撹乱B12	3	陶器	擂鉢						4.5				
142	撹乱B12	4	陶器	碗						3.3				
142	撹乱B13	1	磁器	碗	復元	10.6			残存	4.3		灰白	密	
142	撹乱B13	2	磁器	碗	復元	10.6			残存	4.2		灰白	密	
142	撹乱B13	3	土器	焜炉				18	残存	9.1				
142	撹乱B13	4	土製品	碁石		1.9		1.9		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
142	撹乱B13	5	土製品	碁石		1.8		1.8		0.7		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
142	撹乱B13	6	硝子	瓶		2.8	残存	4.4	残存	8.8		67.45g		
142	撹乱B13	7	瓦	軒丸瓦	残存	18.4	残存	13.3		2		三巴圏線連珠(点14+α) 瓦当径 13cm	やや密	
143	撹乱B14	1	磁器	蓋			復元	8.4		1.7		灰白	密	
143	撹乱B14	2	磁器	鉢			復元	10.8	残存	3.6		灰白	密	
143	撹乱B14	3	磁器	碗	復元	6.4	復元	4		4.5		灰白	密	
143	撹乱B14	4	陶器	便器	残存	5.8		4.7		2.2		染付		
143	撹乱B14	5	金属	釘		18.9		0.9				61.98g		
143	撹乱B14	6	金属	煙管	残存	3.4						雁首 火皿径 1.35cm 小口径 0.7cm 3.82g(中の土を含む)		
143	C11	1	磁器	碗			復元	3.8	残存	2.5		灰白	密	
143	C11	2	磁器	碗	復元	6.6	復元	3.4		4.8		灰白	密	
143	C11	3	磁器	瓶					残存	5.1		灰白	密	
143	C11	4	磁器	皿			復元	17	残存	2.7		灰白	密	
143	C11	5	磁器	碗	復元	6.4	復元	3.6		4.2		灰白	密	
143	C11	6	磁器	碗	復元	11	復元	4		5.9		灰白	密	
143	C11	7	磁器	蓋			復元	9.6	残存	2.8		灰白	密	
143	C11	8	陶器	碗				6.8		2	底部			
143	C11	9	陶器	蓋		6			残存	2.5				
143	C11	10	陶器	灯明皿		9		4.3		2.7	口縁～底部			
144	C11	11	陶器	擂鉢		32.8					口縁～体部			
144	C11	12	陶器	徳利		4.2			残存	2.2	口縁部			
144	C11	13	陶器	皿		9.3		4.6		1.7	完形			
144	C11	14	石製品	火打石	残存	3.8	残存	2.9		2.6		透明 メノウ 21.84g		
144	C11	15	金属	釘		5.6		0.4				2772g		
144	C11	16	金属	釣針		5.3		0.4		0.2		3.96g		
144	C11	17	瓦	軒平または桟瓦瓦当	残存	4.1	残存	6.9		1.8			密	
144	撹乱C11	1	陶器	碗	復元	4.8	復元	4.8		5.5	口縁～底部			
144	撹乱C11	2	石製品	不明	残存	3.1	残存	2.7		1.5		N 6/ 灰 滑石 11.18g		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
144	C12	1	磁器	大皿			復元	10.4	残存	1.5		灰白	密	
144	撹乱C13	1	硝子	瓶		2		3.8		4.2		緑色透明　30.45g		
144	撹乱C13	2	硝子	瓶		2		6.2		8		透明　115.46g		
144	撹乱C13	3	石製品	不明		5.1		1.4		1.1		N 6/ 灰 滑石 15.84g		
144	C14	1	陶器	小皿		6.5		2.4		1.6	完形			
144	撹乱C14	1	磁器	香炉	復元	4.8	復元	2.2		4		緑 5GY7/1明オリーブ灰	密	
144	撹乱C14	2	磁器	瓶			復元	4.2	残存	2.3		灰白	密	
144	撹乱C14	3	磁器	碗			復元	3.6	残存	4.6		灰白	密	
144	撹乱C14	4	磁器	皿	復元	6.4	復元	3.4		1.4		灰白	密	
144	撹乱C14	5	土器	小皿		9		5.4		2.4				
145	C15	1	磁器	碗			復元	4.4	残存	1.5		灰白	密	
145	C15	2	磁器	碗					残存	4.3		灰白	密	
145	D11	1	磁器	蓋			復元	4.6	残存	3.2		灰白	密	
145	D11	2	磁器	花瓶	復元	3.2			残存	3.2		灰白	密	
145	D11	3	磁器	大皿			復元	14.4	残存	3.6		灰白 高台内焼継印	密	
145	D11	4	磁器	碗			復元	4.8	残存	2.6		灰白 2.5Y8/1	密	
145	D11	5	磁器	鉢			復元	4.8	残存	5.3		灰白	密	
145	D11	6	磁器	碗			復元	4.5	残存	4.2		灰白	密	
145	D11	7	磁器	碗	復元	8.8			残存	5.4		灰白	密	
145	D11	8	磁器	碗					残存	4.4		灰白	密	
145	D11	9	磁器	皿	復元	13.6			残存	3.4		灰白	密	
145	D11	10	磁器	瓶			復元	4.7	残存	2.4		灰白	密	
145	D11	11	磁器	碗					残存	3.7		灰白	密	
145	D11	12	磁器	皿			復元	2.6	残存	1.6		灰白	密	
145	D11	13	磁器	皿			復元	9	残存	1.8		灰白	密	
145	D11	14	磁器	皿			復元	6	残存	1.9		灰白	密	
145	D11	15	磁器	瓶			復元	5	残存	4.1		灰白	密	
145	D11	16	磁器	碗			復元	3.6	残存	1.9		灰白	密	
145	D11	17	磁器	碗					残存	1.9		灰白	密	
145	D11	18	磁器	香炉					残存	6.7		緑釉	密	
146	D11	19	陶器	秉燭				4.5	残存	2.9	底部			
146	D11	20	陶器	餌入れ					残存	2.9	口縁部			
146	D11	21	陶器	碗				4	残存	2.2	底部			
146	D11	22	陶器	鉢					残存	3.8	口縁部			
146	D11	23	陶器	鉢				12.2	残存	4.7	底部			
146	D11	24	陶器	瓶				5	残存	4.5	底部			
146	D11	25	陶器	鍋				10	残存	2.8	底部			
146	D11	26	陶器		残存	4.5	残存	1.4	残存	1.6				
146	D11	27	陶器	灯明皿		7.5		2.8		1.7	口縁～底部			
146	D11	28	土器	風口				14.4		7.9				
146	D11	29	金属	ネクタイピン		7.6		6.6				7.15g		
146	D11	30	瓦	輪違い	残存	8.2	残存	11		2			密	
146	D11	31	瓦	平または桟瓦		24.6	残存	13.7		1.7			密	
146	D11	32	瓦	平または桟瓦	残存	13.6	残存	9.3		1.6		釘書き	密	
146	D11	33	瓦	平または桟瓦	残存	7.9	残存	11		1.8		刻印陰刻(三角内二文字)	密	
147	撹乱D11	1	磁器	皿			復元	6.4	残存	2.5		灰白	密	
147	D12	1	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.4		4		灰白	密	
147	D12	2	磁器	碗			復元	3.4	残存	2.9		灰白	密	
147	D12	3	磁器	碗			復元	3.8	残存	2.8		灰白	密	
147	D12	4	磁器	碗			復元	3.8	残存	4		灰白	密	
147	D12	5	磁器	鉢			復元	8	残存	4.6		灰白	密	
147	D12	6	磁器	皿			復元	11	残存	2.7		灰白	密	
147	D12	7	磁器	碗	復元	10	復元	4		5		灰白	密	
147	D12	8	磁器	碗	復元	8	復元	3.2		4.1		灰白	密	
147	D12	9	磁器	碗	復元	10.4			残存	4		灰白	密	
147	D12	10	磁器	碗			復元	3.9	残存	3.9		灰白	密	
147	D12	11	磁器	鉢			復元	7	残存	2.4		灰白	密	
147	D12	12	磁器	碗			復元	4.2	残存	3.3		灰白	密	
147	D12	13	磁器	土瓶	復元	9.2			残存	4.6		灰白 花かざり付	密	
147	D12	14	磁器	皿	復元	10.4	復元	6		2.4		灰白	密	
147	D12	15	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.4		灰白 N8/	密	
147	D12	16	磁器	蓋	復元	5	復元	10		2.2		灰白	密	
147	D12	17	磁器	皿					残存	2.7		灰白	密	
147	D12	18	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		5		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
147	D12	19	磁器	碗			復元	4.4	残存	5.5		灰白	密	
147	D12	20	磁器	碗	復元	10	復元	3.8		5.2		灰白	密	
147	D12	21	磁器	碗	復元	10	復元	3.2		5		灰白 N8/	密	
147	D12	22	磁器	碗					残存	4.4		灰白	密	
147	D12	23	磁器	碗			復元	4	残存	2.4		灰白	密	
147	D12	24	磁器	蓋			復元	13	残存	2.8		灰白	密	
147	D12	25	磁器	灯明皿	復元	10	復元	5.2		2.3		灰白	密	
147	D12	26	磁器	碗	復元	4			残存	3.85		灰白	密	
148	D12	27	陶器	皿		23.8		14.5		3.4	口縁～底部			
148	D12	28	陶器	鉢		13.8					口縁～体部			
148	D12	29	陶器	擂鉢				22.2			体部～底部			
148	D12	30	陶器	皿				8.8			底部			
148	D12	31	陶器	土瓶		10			残存	5.5	口縁～体部			
148	D12	32	陶器	土瓶							注口			
148	D12	33	陶器	擂鉢							口縁部			
148	D12	34	陶器	擂鉢		40					口縁～体部			
148	D12	35	陶器	蓋		8		6		1.9				
148	D12	36	陶器	碗		9				4				
148	D12	37	陶器	土瓶		13				3.8				
148	D12	38	陶器	碗				9		5.7				
148	D12	39	陶器	皿		10.5		4		1.55		内外上部鉄釉		
148	D12	40	陶器	土瓶		7.8				2.4				
149	D12	41	陶器	碗		8				3.3				
149	D12	42	陶器	土瓶				3.8		6.7				
149	D12	43	陶器	蓋		5.2					体部～口縁部			
149	D12	44	陶器	灯明皿		10.2		4.6		2.1	口縁～底部			
149	D12	45	陶器	蓋				7.4			体部～口縁部			
149	D12	46	陶器	土瓶							注口			
149	D12	47	陶器	皿		9.6		4.5		1.8				
149	D12	48	陶器	碗		9					口縁～底部			
149	D12	49	陶器	皿				7.6			口縁～体部			
149	D12	50	陶器	皿		12.8		6.7		2.45	体部～底部			
149	D12	51	陶器	鉢		18.4					口縁～底部			
149	D12	52	陶器	皿				8.2			口縁～体部			
149	D12	53	陶器	行平鍋		16.5			残存	5.5	口縁～体部			
149	D12	54	陶器	擂鉢		30.8					口縁部			
149	D12	55	陶器	甕		9.5								
149	D12	56	土器	焜炉		21.3			残存	5				
149	D12	57	土器	小皿		9.2		7		1.9				
149	D12	58	土器	小皿		7.4		4		1.3				
149	D12	59	土器	焜炉	残存	6	残存	5.1	残存	2.8				
149	D12	60	土器	ミニチュア		3.4		3.1		1.1				
149	D12	61	土器	焙烙		31.7		30		4.8				
149	D12	62	土器	焜炉部品	残存	4.4				1.4				
150	D12	63	石製品	碁石		2.25		2.3		0.45		N 1.51 黒色 3.55g		
150	D12	64	石製品	石		7.2		6.7		5.3		10YR 8/ 1灰白 高支打痕あり 362.32g		
150	D12	65	石製品	硯	残存	6.9	残存	4.9		0.8		36.03g		
150	D12	66	石製品	砥石	残存	3.8		3.5		0.9		10YR 8/1 灰白 25.14g		
150	D12	67	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
150	D12	68	土製品	碁石		1.9	残存	1.3		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
150	D12	69	土製品	碁石		2		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
150	D12	70	土製品	碁石		2		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
150	D12	71	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
150	D12	72	土製品	碁石		2.1		2.1		0.7		7.5YR 7/6 橙	密	
150	D12	73	土製品	碁石		2.1		2		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
150	D12	74	金属	鋲	残存	2.3		1.4		0.25		1.84g		
150	D12	75	金属	銭		2.8		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 背十一波 真鍮銭 四文銭 3.79g		
150	D12	76	金属	銭		2.5		0.6		0.1		寛永通宝 文銭 銅銭 一文銭 3.13g		
150	D12	77	金属	銭		2.3		0.7		0.1		寛永通宝 一文銭 銅銭 1.87g		
150	D12	78	金属	銭		2.15		0.55		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 1.94g		
150	D12	79	金属	飾り		3.1		1		0.3		2.43g		
150	D12	80	瓦	軒平または桟瓦瓦当	残存	16.7		6.5		1.6			やや密	
150	D12	81	瓦	輪積い	残存	8		10.8		1.6			密	
150	D12	82	瓦	軒桟瓦		7.9	残存	17.1		1.9		瓦当径7.9cm	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
150	D12	83	瓦	谷平瓦	残存	8.5	残存	8.7		1.8			密	
151	撹乱D12	1	磁器	皿	復元	10.8	復元	6.4		2.2		灰白	密	
151	撹乱D12	2	磁器	瓶	復元	1.6			残存	4.5		灰白	密	
151	撹乱D12	3	土器	甕		32.8			残存	3.8				
151	撹乱D12	4	土製品	碁石		2.1	残存	1.9		0.5		5YR 6/8 橙	密	
151	撹乱D12	5	金属	煙管	残存	7.3						吸口 小口径 1cm 口付径 0.7cm 13.55g		
151	撹乱D12	6	木製品	角材		4.4				0.9				
151	D13	1	磁器	蓋			復元	8.6	残存	1.6		灰白	密	
151	D13	2	陶器	碗		10.4			残存	4.5	口縁～体部			
151	D13	3	陶器	碗				6	残存	3.7	底部			
151	D13	4	瓦	なまこ壁？	残存	9.8	残存	7.1		2		漆喰付着	密	
151	D13	5	瓦	なまこ壁？	残存	6.3	残存	5.3		2		漆喰付着 、 釘穴あり	密	
151	E10	1	磁器	皿			復元	4.8		2.2		灰白	密	
151	E10	2	磁器	碗	復元	7.4	復元	6		5.5		灰白	密	
151	E10	3	陶器	蓋		11.6		5.2		3				
152	E11	1	磁器	碗			復元	6.8	残存	3.5		灰白	密	
152	E11	2	磁器	碗			復元	7	残存	3.7		灰白	密	
152	E11	3	磁器	碗	復元	6.4	復元	3.2		4.2		灰白	密	
152	E11	4	磁器	碗	復元	8	復元	3		5.8		灰白	密	
152	E11	5	磁器	碗			復元	5.6	残存	2.5		灰白	密	
152	E11	6	磁器	碗			復元	5.8	残存	3.6		灰白	密	
152	E11	7	磁器	碗			復元	4	残存	3.6		灰白	密	
152	E11	8	磁器	碗	復元	10			残存	4		灰白	密	
152	E11	9	陶器	碗				8		2.9				
152	E11	10	陶器	蓋		11.8	受部	9		4	つまみ部～受部			
152	E11	11	陶器	蓋		8.2	受部	5.7	残存	2.9	上面～受部			
152	E11	12	陶器	擂鉢					残存	2.4	底部			
152	E11	13	陶器	蓋		8.3		4.4		1.9	上面～受部	灯火具		
152	E11	14	陶器	蓋	上面	9.7			残存	2.5	つまみ部～上面			
152	E11	15	陶器	碗		10.8		4		5.4	口縁～底部			
152	E11	16	陶器	擂鉢				11.2	残存	6	底部			
152	E11	17	陶器	小皿		9.7		4.8		2.1	口縁～底部			
152	E11	18	陶器	碗				5		2.5	底部			
152	E11	19	陶器	碗		9.8		3.8		5.4	口縁～底部			
152	E11	20	陶器	鉢					残存	4	口縁部			
152	E11	21	土器	目皿						1.7				
152	E11	22	土器	焼塩壺				6.4		1.1	蓋			
152	E11	23	土器	火鉢						2.2				
152	E11	24	土器	皿				8.4		1.8				
153	E11	25	土製品	碁石		2		2		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
153	E11	26	土製品	碁石		2.1		1.8		0.6		5YR 6/8 橙	密	
153	E11	27	土製品	碁石		1.9		1.8		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
153	E11	28	土製品	碁石		1.9		1.8		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
153	E11	29	土製品	碁石		1.9		1.7		0.6		7.5YR 5/4 にぶい橙	密	
153	E11	30	土製品	土鈴	残存	2.3	残存	2.1		1.2		7.5YR 7/4 にぶい橙	密	
153	E11	31	土製品	人形	残存	3.5	残存	3.6		2.1		7.5YR 6/3 にぶい褐	密	
153	E11	32	金属	煙管	残存	3.5				0.1		雁首 火皿径 1.2cm 小口径 1.1cm 4.00g		
153	E11	33	金属	煙管	残存	2.8						吸口 小口径 1cm 口付径0.5cm 3.03g		
153	E11	34	金属	鋲	残存	1.2	残存	1.2				0.51g		
153	E11	35	瓦	平瓦	残存	16	残存	24.3		2.1			密	
153	E11	36	瓦	平瓦	残存	21.5		26.2		2.2			密	
153	E11	37	瓦	桟瓦	残存	5.1	残存	5.2		1.8		刻印陰刻(丸)	密	
154	撹乱E11	1	磁器	注口					残存	4.4		灰白	密	
154	撹乱E11	2	陶器	擂鉢					残存	3.5				
154	E12	1	磁器	碗	復元	11	復元	3.8		4.4		灰白	密	
154	E12	2	磁器	皿	復元	11.8	復元	6.4		3		灰白	密	
154	E12	3	磁器	碗			復元	4	残存	4.1		灰白	密	
154	E12	4	磁器	碗			復元	4.2	残存	1.9		灰白	密	
154	E12	5	磁器	碗	復元	9.4	復元	4		4.8		灰白	密	
154	E12	6	磁器	瓶	復元	9.4	復元	3.8		5		灰白	密	
154	E12	7	磁器	碗	復元	10			残存	4.4		灰白	密	
154	E12	8	磁器	碗			復元	4	残存	3.2		灰白	密	
154	E12	9	磁器	碗			復元	3.6	残存	4		灰白	密	
154	E12	10	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.6		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
154	E12	11	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.4		5.2		灰白	密	
154	E12	12	磁器	小鉢			復元	2.8	残存	2.5		灰白	密	
154	E12	13	磁器	皿			復元	4	残存	2.1		灰白 焼継	密	
154	E12	14	磁器	中鉢	復元	11		3.6		5.8		灰白 N7/ 外・緑釉	密	
154	E12	15	磁器	碗	復元	10.6	復元	3.8		4.8		灰白	密	
154	E12	16	磁器	碗				3.9	残存	2.3		灰白	密	
154	E12	17	磁器	碗	復元	8.8		3.4		5		灰白	密	
154	E12	18	磁器	皿					残存	2.7		灰白 口縁波状	密	
154	E12	19	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.6		5.1		灰白	密	
154	E12	20	磁器	湯呑み茶碗			復元	3.4	残存	5.4		灰白	密	
154	E12	21	磁器	碗	復元	9.2	復元	4		4.8		灰白	密	
154	E12	22	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		4.8		灰白	密	
154	E12	23	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.8		5		灰白	密	
155	E12	24	磁器	鉢	復元	14.6	復元	5.6		7		灰白	密	
155	E12	25	磁器	碗	復元	10.6	復元	3.6		5.5		灰白	密	
155	E12	26	磁器	水滴		1.9		1.8		0.35				
155	E12	27	磁器	碗					残存	4.3		灰白	密	
155	E12	28	磁器	碗	復元	10.4	復元	4		4.9		灰白	密	
155	E12	29	磁器	碗	復元	10.6	復元	3.6		5.4		灰白	密	
155	E12	30	磁器	土瓶注口					残存	3.8		灰白	密	
155	E12	31	磁器	碗	復元	10.8			残存	4.1		灰白	密	
155	E12	32	磁器	碗			復元	4	残存	6.5		灰白	密	
155	E12	33	磁器	碗			復元	3	残存	3.3		灰白	密	
155	E12	34	磁器	蓋			復元	9.4	残存	2.1		灰白 焼継	密	
155	E12	35	磁器	大皿	復元	25.6	復元	14.4		2.9		灰白 口縁部口紅	密	
155	E12	36	磁器	蓋					残存	1.4		灰白	密	
155	E12	37	磁器	碗			復元	4.6	残存	3.7		外・緑釉	密	
155	E12	38	磁器	碗	復元	8.4	復元	3.4		4.1		灰白	密	
155	E12	39	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.6		5.7		灰白	密	
155	E12	40	磁器	碗	復元	7.6			残存	5		灰白	密	
155	E12	41	磁器	碗			復元	5.6	残存	5.3		灰白	密	
155	E12	42	磁器	皿	復元	15.2	復元	9.8		3.9		灰白	密	
156	E12	43	磁器	碗	復元	11.2	復元	4.6		6		灰白	密	
156	E12	44	磁器	碗			復元	3.2	残存	2.7		灰白	密	
156	E12	45	磁器	皿						3.5		灰白 口縁波状	密	
156	E12	46	磁器	瓶			復元	5.4	残存	4.1			密	
156	E12	47	磁器	碗	復元	9	復元	4		5.2		灰白	密	
156	E12	48	磁器	碗	復元	10.6			残存	4.2		灰白	密	
156	E12	49	磁器	皿			復元	5.4	残存	3.2		灰白	密	
156	E12	50	磁器	碗	復元	10.4			残存	4.3		灰白	密	
156	E12	51	磁器	碗			復元	3.8	残存	3		灰白	密	
156	E12	52	磁器	碗			復元	3.2	残存	3.8			密	
156	E12	53	磁器	蓋					残存	0.8		灰白 焼継	密	
156	E12	54	磁器	皿			復元	3.6	残存	2.4		灰白	密	
156	E12	55	磁器	皿					残存	3.5		灰白	密	
156	E12	56	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.6		5.1		灰白	密	
156	E12	57	磁器	碗	復元	13.2	復元	7.2		6.6		7.5GY8/1 明緑灰	密	
156	E12	58	磁器	皿	復元	14	復元	9.6		6.6			密	
156	E12	59	磁器	碗	復元	8	復元	3.6		4.2		灰白	密	
156	E12	60	磁器	徳利		3.2			残存	6		灰白	密	
156	E12	61	磁器	碗			復元	3.2	残存	1.5		高台内焼継印	密	
156	E12	62	磁器	碗			復元	6	残存	3.7		灰白	密	
156	E12	63	磁器	碗	復元	10.4	復元	4.4		5.9		灰白	密	
156	E12	64	磁器	碗	復元	6.6	復元	3.6		4.5		灰白	密	
156	E12	65	磁器	大皿	復元	38	復元	23.4		4.9		灰白 焼継印	密	
156	E12	66	磁器	花瓶			復元	4.2	残存	5.9		灰白	密	
156	E12	67	磁器	碗			復元	4	残存	3.7		灰白	密	
157	E12	68	磁器	碗	復元	10	復元	3.6		5.1		灰白	密	
157	E12	69	磁器	仏飯器			復元	4	残存	3.6		灰白	密	
157	E12	70	磁器	皿					残存	4.5		灰白	密	
157	E12	71	磁器	碗	復元	6.2		3.6		6.6		灰白	密	
157	E12	72	磁器	碗			復元	6.6	残存	4.4		灰白	密	
157	E12	73	磁器	碗	復元	9.8	復元	4		4.8		灰白	密	
157	E12	74	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		4.8		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
157	E12	75	磁器	碗	復元	10.2			残存	4.2		灰白	密	
157	E12	76	磁器	皿					残存	5.6		灰白	密	
157	E12	77	磁器	碗	復元	10.6			残存	3.2		灰白	密	
157	E12	78	磁器	皿			復元	3.5	残存	1.1		灰白	密	
157	E12	79	磁器	碗	復元	8.8	復元	6.6		4.9		灰白	密	
157	E12	80	磁器	碗			復元	5	残存	4.5		灰白	密	
157	E12	81	磁器	皿			復元	6		3		灰白　見込みに釘書き	密	
157	E12	82	磁器	碗	復元	8	復元	3.4		4.5		灰白	密	
157	E12	83	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		5		灰白	密	
157	E12	84	磁器	碗					残存	3.1		灰白	密	
157	E12	85	磁器	碗					残存	4.8		灰白	密	
157	E12	86	磁器	碗	復元	10.8	復元	4.4		5.4		見込み釉剥ぎ	密	
157	E12	87	磁器	碗			復元	4.6	残存	3.3		灰白	密	
157	E12	88	磁器	碗					残存	3.8		灰白	密	
157	E12	89	磁器	紅皿			復元	0.18	残存	1.5		高台内墨書	密	
157	E12	90	磁器	碗	復元	10.4			残存	3.5		灰白	密	
157	E12	91	陶器	蓋		6.8		9			体部～口縁部			
157	E12	92	陶器	土瓶		9.4				5.5	上部			
158	E12	93	陶器	土瓶		8.8		7.7		11				
158	E12	94	陶器	蓋							持ち手			
158	E12	95	陶器	蓋										
158	E12	96	陶器	土瓶							持ち手			
158	E12	97	陶器	碗				3.4		1.9	上部			
158	E12	98	陶器	土瓶		8				7.2	注口			
158	E12	99	陶器	土瓶							上部			
158	E12	100	陶器	土瓶							注口			
158	E12	101	陶器	蓋		7	上部	8.8		2.3	完形			
158	E12	102	陶器	擂鉢		17.6				4.4	口縁～底部			
158	E12	103	陶器	土瓶		9				4.8	上部			
158	E12	104	陶器	小皿		10.4		5		2.3	口縁～底部			
158	E12	105	陶器	小皿		8.2		2.4		1.8	口縁～底部			
158	E12	106	陶器	鉢		17					口縁～体部			
158	E12	107	陶器	小碗				3.5			体部～底部			
158	E12	108	陶器	壺		9.4					口縁部			
158	E12	109	陶器	擂鉢				15			体部～底部			
158	E12	110	陶器	擂鉢				8.4			底部			
158	E12	111	陶器	碗							体部			
158	E12	112	陶器	鉢		16.4					口縁部			
158	E12	113	陶器	鉢							口縁部			
158	E12	114	陶器	碗				4.6		2.7	下部			
158	E12	115	陶器	碗				8		8.4				
158	E12	116	陶器	土瓶		8.2					口縁～体部			
159	E12	117	陶器	土瓶							注口			
159	E12	118	陶器	行平鍋		15.6				6.7	上部	注ぎ口一部有り		
159	E12	119	陶器	皿		7				1.9	口縁～底部			
159	E12	120	陶器	蓋		6.85	上部	8.6						
159	E12	121	陶器	擂鉢		35.8			残存	9.6	口縁部			
159	E12	122	陶器	灯明皿		9.1		4.9		2.3	口縁～底部			
159	E12	123	陶器	鍋		11			残存	5.3	口縁部			
159	E12	124	陶器	土鍋		20			残存	3.4	口縁部			
159	E12	125	陶器	灯明皿		6.6		2.7		1.6	口縁～底部			
159	E12	126	陶器	擂鉢					残存	6.6	体部			
159	E12	127	陶器	甕		19.4				4.6				
159	E12	128	陶器	甕		27				3.1				
159	E12	129	陶器	灯明皿		11.4		4		2				
159	E12	130	陶器	甕		13.4				7.8				
159	E12	131	陶器	甕		20				4.6				
159	E12	132	陶器	土瓶						4.8	注口			
159	E12	133	陶器	灯明皿		7.8		3.4		1.7				
159	E12	134	陶器	擂鉢						4.4	上部			
159	E12	135	陶器	擂鉢		20.8				3.4				
159	E12	136	陶器	皿		8.4		4.6						
159	E12	137	陶器	碗		7.2		3		3.1				
159	E12	138	陶器	灯明皿		9.8		4		3.1				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
159	E12	139	陶器	瓶				10.1		2.8	下部			
159	E12	140	陶器	碗		3.9		9.8						
160	E12	141	陶器	碗		7.6		3.2		3.3				
160	E12	142	陶器	灯明皿		10		3.6		1.35				
160	E12	143	陶器	土瓶		5.4				3	上部			
160	E12	144	陶器	灯明皿		10.4		4.4		2.1				
160	E12	145	土器	焼塩壺				4.6		3.3				
160	E12	146	土器	焙烙		18.2		12		5		内外面 黒磨き		
160	E12	147	土器	皿				5		1.2				
160	E12	148	土器	羽釜		4.3		9.2		3.7				
160	E12	149	土器	小皿				4.6		1.1				
160	E12	150	土器	焙烙		30		28		5.3				
160	E12	151	土器	焼塩壺		12.8		3.4		5.4				
160	E12	152	土器	焙烙						5.7				
160	E12	153	土器	焙烙		32.2		27.8		6.8				
160	E12	154	土器	焙烙		34.2		34		5.3				
160	E12	155	土器	小皿				2.2		0.8				
160	E12	156	土器	小皿		7.4		2.4		1.5				
160	E12	157	土器	焼塩壺		6.4		4.6		5.3				
160	E12	158	土器	焼塩壺		5.6		4.4		5				
160	E12	159	硝子	瓶		2.2		3.55		6.1		透明 58.38g		
160	E12	160	硝子	瓶		2.1		3.7		6.3		54.53g		
160	E12	161	土製品	碁石		2		1.9		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
160	E12	162	土製品	碁石		2.2		2.1		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
160	E12	163	土製品	碁石		2		1.9		0.6		7.5YR 4/3 褐色	密	
160	E12	164	土製品	碁石		2		2		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
160	E12	165	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
160	E12	166	土製品	碁石		2.1		2		0.6		7.5YR 7/4 にぶい橙	密	
160	E12	167	土製品	碁石		1.9		1.8		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
160	E12	168	土製品	碁石		1.9		1.9		0.6		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
160	E12	169	土製品	碁石		2.2		2.1		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
160	E12	170	土製品	碁石		2		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
160	E12	171	土製品	碁石		2.1		2		0.6		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
160	E12	172	土製品	碁石		2		1.9		0.6		10YR 6/4 にぶい黄橙	密	
160	E12	173	土製品	碁石		2.1	残存	1.9		0.6		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
160	E12	174	土製品	碁石		2		1.9		0.7		5YR 6/6 橙	密	
160	E12	175	土製品	碁石		2.1		2		0.6		5YR 6/6 橙	密	
160	E12	176	土製品	土鈴		2.5		2.3		0.3		10YR 8/2 灰白	密	
160	E12	177	土製品	小判		2.2		1.3		0.2		7.5YR 6/4 にぶい橙	密	
160	E12	178	土製品	亀	残存	4.2		3.3		0.8		表 7.5YR 7/3 浅黄 裏 2.5YR 8/3 淡黄	密	
160	E12	179	土製品	土鈴		2.6		2.3		0.3		10YR 8/3 浅黄橙	密	
160	E12	180	土製品	土鈴		2.7		2.1		0.4		10YR 7/3 にぶい橙	密	
161	E12	181	金属	釣針	残存	3.65		0.4				2.45g		
161	E12	182	金属	釘	残存	4		0.7		0.3		1.44g		
161	E12	183	金属	薬莢	残存	5.2		1.7				9.07g		
161	E12	184	金属	金具	残存	3.2	残存	1.2		0.05		1.30g		
161	E12	185	金属	クサビ	残存	7.1		1.6		0.5		20.44g		
161	E12	186	金属	銭		2.8		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 背十一波 真鍮銭 四文銭 4.34g		
161	E12	187	金属	釘	残存	4.7		0.9				2.42g		
161	E12	188	金属	釘	残存	5.9	残存	0.7		0.5		4.68g		
161	E12	189	金属	釘	残存	8.2	残存	0.8				9.72g		
161	E12	190	金属	釘	残存	7.5	残存	1		0.4		4.26g		
161	E12	191	瓦	袖瓦		27	残存	12.9		2			密	
161	E12	192	瓦	平瓦	残存	9.2	残存	8.5		1.8		刻印陰刻(丸)	密	
161	撹乱E12	1	磁器	碗	復元	7		3.9		2.8		灰白	密	
161	撹乱E12	2	磁器	碗	復元	10	復元	3.8		5.4		灰白	密	
161	撹乱E12	3	磁器	碗	復元	8.4	復元	5.8		3.5		灰白	密	
161	撹乱E12	4	陶器	瓶			復元	3	残存	3		外面鉄釉		
161	撹乱E12	5	陶器	碗					残存	3.3				
161	撹乱E12	6	土器	焼塩壺		6		4.4		10				
161	撹乱E12	7	土器	皿		7.5		5.9		1.6				
161	撹乱E12	8	土器	皿		8.4		4.5		1.5				
161	撹乱E12	9	土器	皿		8		5.9		1.2				
161	撹乱E12	10	金属	銭		2.4		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 2.22g		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
162	F10	1	金属	銭		2.45		0.6		0.14		2枚癒着 (直径2.25cm穴径0.6cm厚さ0.1cm) 古寛永 銅銭 一文銭6.41g		
162	F15	1	磁器	皿	復元	9.6	復元	4.8		2.2		灰白	密	
162	F15	2	磁器	蓋	復元	3.2	復元	8.4		2.7		灰白	密	
162	F15	3	磁器	仏飯器			復元	2	残存	5		灰白	密	
162	F15	4	陶器	鉢				9.7	残存	2.9	底部			
162	F15	5	陶器	擂鉢				13	残存	5.4	底部			
162	F15	6	陶器	甕				11.5	残存	4.5	底部			
162	F15	7	陶器	蓋		9		6.8		4	つまみ部～受部			
162	F15	8	陶器	蓋					残存	1	体部			
162	F15	9	土器	小皿		7.7		5.3		2				
162	F15	10	土製品	碁石		2.2		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
162	F15	11	金属	簪	残存	4.1		0.6		0.1		2.12g		
162	F15	12	金属	釘	残存	3	残存	1.9				2.63g		
162	F15	13	金属	煙管	残存	7						吸口 小口径 0.9cm 口付径 0.2cm 6.45g		
162	F15	14	金属	飾り		1.6		3.7				5.09g		
162	F15	15	金属	銭		2.3		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭		
162	撹乱F15	1	金属	銭		2.2				0.14		十銭 アルミニウム貨 昭和16年 表・菊 裏・桜花 臨時補助貨幣 1度目の最日変更されたもの 昭和16年後期		
162	撹乱F15	2	金属	ボタン		2		2.1		2.5		0.99g		
162	G3	1	磁器	碗	復元	7.8	復元	3.4		5.1		灰白	密	
162	G3	2	瓦	平または桟瓦	残存	8.4	残存	11.8		1.7		刻印陰刻(三角内一文字)	密	
162	撹乱G8	1	硝子	瓶		0.8	残存	2	残存	2.3				
162	G10	1	金属	銭		2.35		0.6		0.1		寛永通宝 古寛永(1636年～1656年) 一文銭 銅銭		
163	撹乱G10	1	磁器	碗	復元	12			残存	3.5		灰白	密	
163	撹乱G10	2	陶器	蓋		8.8			残存	1.4		絵付		
163	撹乱G10	3	陶器	蓋					残存	1.3		受部径(復元)9		
163	撹乱G10	4	陶器	擂鉢					残存	5.2	口縁部			
163	撹乱G10	5	陶器	灯明皿	復元	7.4	復元	4		1.5	口縁～底部			
163	撹乱G10	6	土器	小皿		8		4.7		1.4				
163	撹乱G10	7	土器	焼塩壺		6.3		5		7.5				
163	撹乱G10	8	瓦	輸違い	残存	8.8	残存	10.3		1.8			密	
163	G11	1	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.8		5.1		灰白	密	
163	G11	2	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.2		4.8		灰白	密	
163	G11	3	磁器	碗	復元	9.8		3.8		4.8		灰白	密	
163	G11	4	磁器	碗	復元	7.2			残存	5		灰白	密	
163	G11	5	磁器	皿	復元	9.8	復元	6.2		2.3		灰白 口縁波状	密	
163	G11	6	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.3		灰白	密	
163	G11	7	磁器	碗	復元	9.2		3.6		4.6		灰白	密	
163	G11	8	磁器	徳利					残存	13.6		最大幅8.7cm 灰白	密	
163	G11	9	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.4		5.4		灰白	密	
163	G11	10	磁器	碗	復元	9.7		3.4		4.9		灰白	密	
163	G11	11	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.6		5		灰白	密	
163	G11	12	磁器	碗	復元	6.6	復元	2.9		3.6		灰白	密	
163	G11	13	磁器	碗			復元	4.8	残存	3.3		灰白	密	
163	G11	14	磁器	皿	復元	15			残存	5.1		灰白 焼継あり	密	
164	G11	15	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.6		4.7		灰白	密	
164	G11	16	磁器	碗					残存	4.4		灰白	密	
164	G11	17	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.4		4.6		灰白	密	
164	G11	18	磁器	碗	復元	9.8		3.4		4.6		灰白	密	
164	G11	19	磁器	碗	復元	10			残存	4.1		灰白	密	
164	G11	20	磁器	碗	復元	10.6			残存	5			密	
164	G11	21	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.4		4.5			密	
164	G11	22	磁器	徳利	復元	3.2			残存	4.2		灰白	密	
164	G11	23	磁器	碗	復元	8.6	復元	3		4.3			密	
164	G11	24	磁器	碗	復元	10	復元	4		4.6			密	
164	G11	25	磁器	碗	復元	9.6	復元	4		4.7			密	
164	G11	26	磁器	碗	復元	10.2	復元	4		5.2			密	
164	G11	27	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.6		4.75		灰白	密	
164	G11	28	磁器	碗	復元	10	復元	3.4		4.7		灰白	密	
164	G11	29	磁器	角皿	復元	8.2	復元	3.8		2.5		灰白	密	
164	G11	30	磁器	碗			復元	3	残存	1.9		灰白	密	
164	G11	31	磁器	碗	復元	10	復元	3.4		4.5		灰白	密	
164	G11	32	磁器	蓋			復元	11	残存	1.9		灰白	密	
164	G11	33	磁器	碗	復元	12			残存	3.3			密	
164	G11	34	磁器	碗			復元	3.6	残存	6.5			密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
164	G11	35	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.4		4.6			密	
164	G11	36	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.2		4.6			密	
164	G11	37	磁器	中皿	復元	10	復元	5.2		2.5			密	
165	G11	38	磁器	角皿	復元	8.2	復元	3.8		2.1		灰白	密	
165	G11	39	磁器	碗			復元	3.8	残存	4.2		灰白	密	
165	G11	40	磁器	徳利			復元	6	残存	5.4		5B6/1青灰	密	
165	G11	41	磁器	碗	復元	6.8	復元	3.4		4.7		灰白	密	
165	G11	42	磁器	中皿	復元	8	復元	4		1.7		灰白	密	
165	G11	43	磁器	花瓶	復元	1.8			残存	2.3		灰白	密	
165	G11	44	磁器	碗	復元	9.4			残存	5.1		灰白	密	
165	G11	45	磁器	皿					残存	5.9		灰白	密	
165	G11	46	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.7		灰白	密	
165	G11	47	磁器	碗			復元	4	残存	2.8		灰白	密	
165	G11	48	磁器	碗			復元	3.4	残存	4.3		灰白	密	
165	G11	49	磁器	碗	復元	10		3.4		4.4		灰白	密	
165	G11	50	磁器	碗	復元	10			残存	2.7		灰白	密	
165	G11	51	磁器	碗	復元	9	復元	3.4		4.3		灰白	密	
165	G11	52	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.4		4.4		灰白	密	
165	G11	53	磁器	碗	復元	11.2			残存	4.6			密	
165	G11	54	磁器	碗			復元	4.4	残存	5.1			密	
165	G11	55	磁器	碗	復元	10.4	復元	4		5.4			密	
165	G11	56	磁器	皿	復元	11	復元	6.4		2.5			密	
165	G11	57	磁器	碗	復元	8.4	復元	3.8		4			密	
165	G11	58	磁器	徳利	復元	3.2			残存	5.9			密	
165	G11	59	磁器	碗	復元	6	復元	2.6		2.9			密	
165	G11	60	磁器	碗	復元	7	復元	3		4.9			密	
165	G11	61	磁器	瓶	復元	0.18			残存	4.7			密	
165	G11	62	磁器	皿			復元	4	残存	3.2			密	
165	G11	63	磁器	瓶			復元	3.2	残存	3.4			密	
166	G11	64	磁器	蓋	復元	4.5	復元	11.6		3.45		灰白	密	
166	G11	65	磁器	碗	復元	9.7	復元	3.6		4.7			密	
166	G11	66	磁器	碗	復元	10.4			残存	3.7		灰白	密	
166	G11	67	磁器	花瓶	復元	3.4			残存	3.2		灰白　青磁	密	
166	G11	68	磁器	碗	復元	7			残存	4		灰白	密	
166	G11	69	磁器	碗	復元	9			残存	4.2		灰白	密	
166	G11	70	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.6		5.1		灰白	密	
166	G11	71	磁器	蓋	復元	3.4		8.8		2.9		灰白	密	
166	G11	72	磁器	碗	復元	9.6			残存	5.3		灰白	密	
166	G11	73	磁器	碗	復元	8.2	復元	3.6		4		灰白	密	
166	G11	74	磁器	碗	復元	12	復元	4.4		5.9		灰白	密	
166	G11	75	磁器	仏飯器	復元	6.4		2.2		2.6		灰白	密	
166	G11	76	磁器	皿			復元	5.7	残存	3.1		灰白	密	
166	G11	77	磁器	碗			復元	3.6	残存	3.2		灰白	密	
166	G11	78	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.4		4.7			密	
166	G11	79	磁器	碗	復元	9			残存	3.9			密	
166	G11	80	磁器	蓋	復元	3.8			残存	2			密	
166	G11	81	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.6		4.8			密	
166	G11	82	磁器	碗	復元	10	復元	4.4		4.9			密	
166	G11	83	磁器	碗	復元	8.6			残存	2.7			密	
166	G11	84	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.6		灰白	密	
166	G11	85	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.4		4.65		灰白	密	
166	G11	86	磁器	碗	復元	9.8	復元	4		4.6		灰白	密	
167	G11	87	磁器	碗	復元	9.5	復元	3.4		4.6		灰白	密	
167	G11	88	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.5		灰白	密	
167	G11	89	磁器	花瓶					残存	5.2		灰白	密	
167	G11	90	磁器	小杯				2.2	残存	1.8		灰白	密	
167	G11	91	磁器	皿			復元	3.8	残存	1.3		灰白	密	
167	G11	92	磁器	碗			復元	4.1	残存	4.5		灰白	密	
167	G11	93	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.3		4.8		灰白	密	
167	G11	94	磁器	皿	復元	14	復元	9.4		2.4		灰白	密	
167	G11	95	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.4		4.6		灰白	密	
167	G11	96	磁器	碗	復元	9.35		3.3		4.7		灰白　完形(口縁わずか欠損)	密	
167	G11	97	磁器	碗	復元	7.8	復元	2.8		4.5		灰白	密	
167	G11	98	磁器	碗	復元	10			残存	3.9		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
167	G11	99	磁器	碗	復元	9.2			残存	3.6		灰白	密	
167	G11	100	磁器	酒盃	復元	6		2.3		2.7		灰白	密	
167	G11	101	磁器	皿	復元	10	復元	5.8		3.1		灰白	密	
167	G11	102	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		4.5			密	
167	G11	103	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.4		4.7			密	
167	G11	104	磁器	碗	復元	9.8			残存	4			密	
167	G11	105	磁器	碗			復元	4	残存	2.7			密	
167	G11	106	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.4		4.6			密	
167	G11	107	磁器	碗	復元	9.2	復元	2.6		4.6		灰白	密	
167	G11	108	磁器	碗	復元	10			残存	3.9		灰白	密	
167	G11	109	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.8		灰白	密	
167	G11	110	磁器	皿	復元	11	復元	6.4		2.3		灰白	密	
167	G11	111	磁器	碗	復元	7	復元	3.2		4.5		灰白	密	
167	G11	112	磁器	碗	復元	9	復元	3.2		4.3		灰白	密	
168	G11	113	磁器	蓋	復元	3.7	復元	9.2		2.9			密	
168	G11	114	磁器	碗	復元	10	復元	3.6		5.1			密	
168	G11	115	磁器	蓋	復元	3.8	復元	9.4		2.8			密	
168	G11	116	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		4.6			密	
168	G11	117	磁器	碗	復元	10.6	復元	4		5			密	
168	G11	118	磁器	碗	復元	8.6			残存	3.4			密	
168	G11	119	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.4		5		灰白	密	
168	G11	120	磁器	水滴	残存	6.1	残存	7.4	残存	2.3		灰白	密	
168	G11	121	磁器	碗			残存	4	残存	3.9		灰白	密	
168	G11	122	磁器	水滴	残存	6.5	残存	4.8	残存	2.4		灰白	密	
168	G11	123	磁器	碗	復元	10			残存	4.2		灰白	密	
168	G11	124	磁器	徳利	復元	2.2			残存	3.3			密	
168	G11	125	磁器	中皿	復元	14	復元	8.6		3.9			密	
168	G11	126	磁器	中皿	復元	11.6	復元	5.6		3.1			密	
168	G11	127	磁器	皿			復元	4.6	残存	1.7			密	
168	G11	128	磁器	中皿			復元	7	残存	2.7			密	
168	G11	129	磁器	碗			復元	4	残存	4			密	
168	G11	130	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.8		5.2			密	
168	G11	131	磁器	碗			復元	4.8	残存	2			密	
168	G11	132	磁器	蓋	復元	8.6	復元	7.4	残存	1.6			密	
168	G11	133	磁器	碗	復元	9.6	復元	4		4.6			密	
168	G11	134	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.4		5			密	
168	G11	135	磁器	碗	復元	9.8			残存	3.8			密	
168	G11	136	陶器	碗				8						
168	G11	137	陶器	鉢				10.6		6.8				
168	G11	138	陶器	碗				9.4						
168	G11	139	陶器	碗				4						
169	G11	140	陶器	擂鉢				18			体部～底部			
169	G11	141	陶器	土瓶							注口			
169	G11	142	陶器	瓶		8.2				8				
169	G11	143	陶器	鍋	復元	15			残存	3				
169	G11	144	陶器	灯明皿		12		4.8		1.9				
169	G11	145	陶器	蓋		9.6				2.3				
169	G11	146	陶器	蓋		9.7		8		3.2				
169	G11	147	陶器	蓋						1.3				
169	G11	148	陶器	土瓶		8.2			残存	6	口縁～体部			
169	G11	149	陶器	蓋				10		1.7				
169	G11	150	陶器	皿				8		1.2				
169	G11	151	陶器	蓋	つまみ	4.8	受部	13.4		2.3	つまみ部～受部			
169	G11	152	陶器	蓋		9		7.2		2.4				
169	G11	153	陶器	蓋		9.6		7.4		3				
169	G11	154	陶器	土瓶		8.6				7.1				
169	G11	155	陶器	火鉢		14				9				
169	G11	156	陶器	蓋		13		10		1.7				
169	G11	157	陶器	蓋		11		8.8		1.9				
169	G11	158	陶器	灯明受付皿		10				1.8				
169	G11	159	陶器	鉢		24				5.5	上部			
169	G11	160	陶器	壺		9.2								
169	G11	161	陶器	甕		32				4				
169	G11	162	陶器	擂鉢				18		3.6				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
169	G11	163	陶器	擂鉢						8				
170	G11	164	陶器	土瓶						4.7	注口			
170	G11	165	陶器	碗				11		8.2				
170	G11	166	陶器	土瓶		9				4.7				
170	G11	167	陶器	蓋				4						
170	G11	168	陶器	蓋		8.7				2.2	つまみ部～受部			
170	G11	169	陶器	甕		23.8			残存	7.5	口縁			
170	G11	170	陶器	蓋		9.6				2.4	つまみ部～受部			
170	G11	171	陶器	小鉢		6.5			残存	3.5	口縁～体部			
170	G11	172	陶器	鉢					残存	5.1	口縁			
170	G11	173	陶器	土鍋		13.8			残存	5.7	口縁～体部			
170	G11	174	陶器	蓋		15.3			残存	3	受部			
170	G11	175	陶器	小皿		9.5		4		2.4	口縁の底部			
170	G11	176	陶器	土瓶							注口			
170	G11	177	陶器	土瓶							注口			
170	G11	178	陶器	鉢		16		9.6		10.8				
170	G11	179	陶器	鉢		12.2					口縁～体部			
170	G11	180	陶器	土瓶	残存	5.8	残存	3.7			注口			
170	G11	181	陶器	碗				4.8			体部～底部			
170	G11	182	陶器	碗				7.6			底部			
170	G11	183	陶器	碗				7.2			体部～底部			
170	G11	184	陶器	土瓶						7.2				
170	G11	185	陶器	蓋		10.8				2.6	つまみ部～受部			
170	G11	186	陶器	土瓶							注口			
170	G11	187	陶器	土瓶		1					注口	残存 長5・幅3.8		
170	G11	188	陶器	碗				9.5		14				
171	G11	189	陶器	蓋		7.2		2.9		2.8	つまみ部～受部			
171	G11	190	陶器	土瓶				6.4	残存	9.1	体部			
171	G11	191	陶器	碗				7.4						
171	G11	192	陶器	土瓶		8		6.8		8.3				
171	G11	193	陶器	土瓶		8.6				8.4				
171	G11	194	陶器	土瓶			残存	3.9	残存	7.5	注口			
171	G11	195	陶器	土瓶			残存	4.4	残存	6	注口			
171	G11	196	陶器	土瓶							注口			
171	G11	197	陶器	碗		22								
171	G11	198	陶器	土瓶	残存	6	残存	3			注口			
171	G11	199	陶器	碗		24				5.7				
171	G11	200	陶器	碗		11.8		4.8		2.4				
171	G11	201	陶器	蓋		8		3		2.6				
171	G11	202	陶器	蓋				8						
171	G11	203	陶器	蓋				7.4						
171	G11	204	陶器	蓋				5.4						
171	G11	205	陶器	擂鉢					残存	7.3				
171	G11	206	陶器	蓋				10.2						
171	G11	207	陶器	碗				5.4						
171	G11	208	陶器	土瓶		9.7		7.5		9.7	口縁～底部			
171	G11	209	陶器	碗		23.8								
171	G11	210	陶器	碗				4.2		6.1				
171	G11	211	陶器	碗				3.6	残存	3.4	底部			
171	G11	212	陶器	土瓶							把手			
172	G11	213	陶器	碗							底部			
172	G11	214	陶器	土瓶							注口			
172	G11	215	陶器	碗		14.2			残存	4.9				
172	G11	216	陶器	土瓶						4.2	注口			
172	G11	217	陶器	皿						1.2				
172	G11	218	陶器	蓋				9.8		1.6				
172	G11	219	陶器	蓋		8		6		1.8				
172	G11	220	陶器	土瓶		8				2.9	口縁部			
172	G11	221	陶器	碗				9		3.4				
172	G11	222	陶器	蓋				8.8		1.8				
172	G11	223	陶器	碗				4	残存	3.2	底部			
172	G11	224	陶器	碗		9.6		3.6		4.8				
172	G11	225	陶器	皿		9.6		4		1.9				
172	G11	226	陶器	蓋		13.2		9		1.8				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
172	G11	227	陶器	蓋		9.1		6.4		2.9				
172	G11	228	陶器	甕		21.2				4.3				
172	G11	229	陶器	土瓶		12.6				3.3				
172	G11	230	陶器	鉢				9		2.5	底部			
172	G11	231	陶器	碗		10.6		4		5.35				
172	G11	232	陶器	蓋								内面に墨書有り		
172	G11	233	陶器	擂鉢						5.6	上部			
172	G11	234	陶器	蓋		8		5.9		1.5		つまみ部無		
172	G11	235	陶器	碗						2				
172	G11	236	陶器	碗		6.6		5		3.6				
172	G11	237	陶器	蓋		7.4		4.6		2.6				
172	G11	238	陶器	擂鉢						8				
172	G11	239	陶器	甕						5				
172	G11	240	陶器	擂鉢				14		4.8				
172	G11	241	陶器	碗						4.5	上部			
172	G11	242	陶器	蓋		8.6		6.6		1.3				
172	G11	243	陶器	碗				4.2		1.7	底部			
172	G11	244	陶器	碗				4.2		1.3		底部墨書		
172	G11	245	陶器	土瓶				6.6	残存	2.2	底部	墨書有り		
172	G11	246	陶器	碗					残存	3.5				
172	G11	247	陶器	碗				2.6	残存	2.5	底部	高台内陰刻		
172	G11	248	陶器	碗				3.2	残存	1	底部	墨書有り		
172	G11	249	陶器	碗		23.6								
173	G11	250	陶器	碗		15.5		8.9		19				
173	G11	251	陶器	ﾐﾆﾁｭｱ六角徳利				2.2		4.2		厚さ:0.7		
173	G11	252	土器	大皿		20.6		16		3.6				
173	G11	253	土器	七輪		9		16		2.2	中台			
173	G11	254	土器	焙烙		38				4.9				
173	G11	255	土器	鉢					残存	6.1				
173	G11	256	土器	三足						7.6		火鉢・焜炉・竈		
173	G11	257	土器	竈		13.4		14.9		3		上面黒磨き		
173	G11	258	土器	火鉢類						5.2		火鉢類		
173	G11	259	石製品	石筆	残存	2.9	残存	0.6				10YR 8/3 浅黄橙　1.22g		
173	G11	260	石製品	石筆	残存	4.2	残存	0.5				上部 10Y 2/1 黒 先 10Y 8/1 灰白　1.54g		
173	G11	261	石製品	石筆	残存	2.2	残存	0.6				10YR 8/3 浅黄橙　0.85g		
173	G11	262	石製品	不明	残存	2.5	残存	1.7		0.9		N 5/ 灰 文字あり 滑石 5.12g	密	
173	G11	263	土製品	碁石		2		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
173	G11	264	土製品	碁石		2		2		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
173	G11	265	土製品	碁石		2	残存	0.9		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
173	G11	266	金属	飾り	残存	2	残存	2				1.46g		
173	G11	267	金属	取手	残存	4.9	残存	8.4				13.96g		
173	G11	268	金属	鋲	残存	2.4	残存	0.7				0.46g		
174	G11	269	金属	銭		2.35		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭		
174	G11	270	金属	銭		2.2		1.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭　1.83g		
174	G11	271	金属	銭		2.7		0.75		0.1		文久永宝(1863年～1869年) 背十一波 銅銭 四文銭　4.03g		
174	G11	272	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭　2.97g		
174	G11	273	金属	銭		2.4		0.55		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭　2.89g		
174	G11	274	瓦	丸瓦	残存	5	残存	6.6		1.4		刻印陰刻(三角内一文字)	密	
174	G11	275	瓦	桟瓦	残存	12.2	残存	8.2		3.2		刻印陰刻(三角の二辺)	密	
174	G11	276	瓦	軒桟瓦	残存	29.7		28.4		1.8		三巴 唐草 刻印陰刻(丸内一文字)	やや密	
174	G11	277	瓦	袖瓦		35.2	残存	17.8		1.7		刻印陰刻(丸に一)	やや密	
174	G11	278	瓦	なまこ壁？		15	残存	10.9		1.3			密	
174	G11	279	瓦	軒丸瓦瓦当	残存	13.6	残存	7.9		2.3		三巴連珠	密	
175	G11	280	瓦	軒丸瓦瓦当	残存	7.8	残存	13.2		2.4			密	
175	撹乱G11	1	陶器	碗	復元	10.4	復元	4.2		6.7	口縁～底部			
175	G12	1	磁器	碗	復元	8.8			残存	4.4		灰白	密	
175	G12	2	磁器	皿	復元	11.6	復元	6		2.6		灰白	密	
175	G12	3	磁器	瓶			復元	4.8	残存	4.3		灰白	密	
175	G12	4	磁器	碗	復元	8	復元	3.8		4		灰白	密	
175	G12	5	磁器	碗	復元	8	復元	4		4.2		灰白	密	
175	G12	6	磁器	碗	復元	7			残存	5.3		灰白	密	
175	G12	7	磁器	碗			復元	4	残存	3.8		灰白	密	
175	G12	8	磁器	碗	復元	10	復元	3	残存	4.7		灰白	密	
175	G12	9	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.6		5		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
175	G12	10	磁器	皿			復元	6.4	残存	4.8		灰白	密	
175	G12	11	磁器	碗			復元	3.8	残存	1.4		灰白	密	
175	G12	12	磁器	碗	復元	9.6	復元	3		4.8		灰白	密	
175	G12	13	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.2		4.5		灰白	密	
175	G12	14	磁器	碗	復元	8.6	復元	3.2		4.3		灰白　口縁・口紅	密	
175	G12	15	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.6		4.6		灰白	密	
175	G12	16	磁器	碗	復元	8.8			残存	4.5		灰白	密	
175	G12	17	磁器	碗	復元	10	復元	3.6		5		灰白	密	
175	G12	18	磁器	杯	復元	5.6	復元	2.4		2.6		灰白	密	
175	G12	19	磁器	碗	復元	7	復元	3.4		4.7		灰白	密	
175	G12	20	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.9		灰白	密	
175	G12	21	磁器	碗	復元	10.4			残存	3.7		灰白	密	
175	G12	22	磁器	碗	復元	9.4		3.6		4.9		灰白	密	
176	G12	23	磁器	碗	復元	9.4		3.6		4.7		灰白	密	
176	G12	24	磁器	碗					残存	4.1		灰白	密	
176	G12	25	磁器	徳利			復元	5.8	残存	7.3		灰白	密	
176	G12	26	磁器	合子		2.4		5		2.4		灰白	密	
176	G12	27	磁器	碗	復元	10	復元	3.4		4.8		灰白	密	
176	G12	28	陶器	蓋		9.6		7.2		2.4		表面にうずまきの模様有り		
176	G12	29	陶器	蓋		10				2				
176	G12	30	陶器	蓋		8.6		6.2		1.4				
176	G12	31	陶器	灯明皿		10.2				1.6				
176	G12	32	陶器	碗				7.8		2.8				
176	G12	33	陶器	土瓶						5.6				
176	G12	34	陶器	瓶		5.4				6.6				
176	G12	35	陶器	碗				6.6		7.8				
176	G12	36	陶器	碗						2.4				
176	G12	37	陶器	蓋		8.8				2.2				
176	G12	38	陶器	蓋		11.2		8.4		1.9				
176	G12	39	陶器	土瓶						5.2	注口	模様有り(白釉)		
176	G12	40	陶器	土瓶						5.2	注口			
176	G12	41	陶器	碗				9		3.6				
176	G12	42	陶器	土瓶							注口	施釉		
176	G12	43	陶器	鉢		10.2					口縁部	外面施釉・絵付有り		
176	G12	44	陶器	土瓶							注口	施釉・絵付有り		
176	G12	45	陶器	蓋		9.2					口縁～体部	穿孔有り		
176	G12	46	陶器	土瓶		8					口縁部			
176	G12	47	陶器	擂鉢							底部			
176	G12	48	土器	小皿		9.4		7.8		2				
176	G12	49	土器	焜炉		17.6								
176	G12	50	土器	カマド							底部			
177	G12	51	石製品	硯	残存	5.8	残存	3.8		1		N1.51　黒色　35.23g		
177	G12	52	石製品	硯	残存	3.3	残存	2.2		0.7		N1.51　黒色　朱　10YR　5/8　赤色　35.23g		
177	G12	53	土製品	碁石		2	残存	1.7		0.65		7.5YR　6/6　橙	密	
177	G12	54	金属	弾丸		2.6		1.4				34.13g		
177	G12	55	金属	弾丸		2.6		1.4				35.4g		
177	G12	56	金属	煙管	残存	3.7						吸口　小口径　0.9cm　口付径　0.3cm　1.84g		
177	G12	57	金属	鈑	残存	3.2	残存	1.1				1.24g		
177	G12	58	瓦	瓦転用砥石	残存	7.3	残存	5.8		1.9		砥石	密	
177	G12	59	瓦	瓦転用砥石	残存	4	残存	4.2		2		砥石	密	
177	G12	60	瓦	瓦転用砥石	残存	5.7	残存	5.2		2		砥石　(元は丸瓦)	密	
177	G14	1	磁器	香炉	復元	9.6			残存	5			密	
177	G14	2	磁器	皿	復元	10			残存	2.3		灰白	密	
177	G14	3	磁器	碗			復元	4.6	残存	3		灰白	密	
177	G14	4	陶器	蓋					残存	1.8	つまみ部			
177	G14	5	陶器	擂鉢					残存	5.2	底部			
177	G14	6	土製品	碁石		1.9		1.8		0.65		7.5YR　6/6　橙	密	
177	G14	7	土製品	碁石		2.1		1.9		0.6		7.5YR　6/6　橙	密	
177	G14	8	土製品	碁石		2		2		0.65		7.5YR　6/6　橙	密	
177	G14	9	金属	煙管	残存	1.9						雁首　火皿径　1.5cm　小口径　0.7cm　2.38g(中の土を含む)		
177	G14	10	金属	釘	残存	4	残存	0.4				釘　1.81g		
177	G15	1	磁器	碗			復元	3.4		4.1		灰白	密	
177	G15	2	磁器	皿					残存	1.2		灰白	密	
177	G15	3	陶器	擂鉢				6.4	残存	2.7	底部			

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
177	G15	4	陶器	擂鉢					残存	5.7	口縁部			
178	G15	5	土器	手焙り				15		19.3				
178	G15	6	土製品	碁石		2.15		2.15		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
178	G15	7	土製品	碁石		2		1.95		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
178	G15	8	金属	不明	残存	8.6		0.18				1.17g		
178	G15	9	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 3.07g		
178	撹乱G15	1	磁器	碗			復元	4	残存	2.9		灰白	密	
178	撹乱G15	2	磁器	レンゲ	残存	6.5	残存	4.6	残存	3		灰白		
178	撹乱G15	3	陶器	鉢					残存	4.3		内面模様有り		
178	撹乱G15	4	土器	片口焙烙				4.5	残存	4.4				
178	撹乱G15	5	金属	煙管	残存	6.9						吸口 小口径 1.1cm 口付径 0.7cm 11.21g		
178	H5	1	磁器	酒盃				2.6	残存	1.5		灰白	密	
178	H5	2	磁器	水滴	残存	4.6	残存	1.4	残存	1.4		灰白	密	
178	H5	3	土器	皿		6.8		5.4		1.7				
178	H7	1	磁器	碗	復元	5.6	復元	2.8		2.7		灰白	密	
178	H7	2	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.6		4.8		灰白	密	
178	H7	3	陶器	碗		5.6				2.9		底部墨書有り		
178	H7	4	土器	皿		8.8		6		2.7				
178	H7	5	土製品	碁石		1.9		1.9		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
178	H7	6	土製品	碁石		1.8		1.85		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
178	H7	7	土製品	碁石		2		1.9		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
178	H7	8	瓦	軒平瓦当	残存	4.7	残存	9.2		2.8			密	
178	H7	9	瓦	輪違い	残存	11.6	残存	11.3		2.3			密	
179	H7	10	瓦	鬼瓦	残存	17.6	残存	15.2		3.2			やや密	
179	H7	11	瓦	平瓦		27.1	残存	13.2		1.9			密	
179	H7	12	瓦	平瓦		29.7	残存	14.3		2.6			やや密	
179	H8	1	磁器	碗	復元	9			残存	3.7		灰白	密	
179	H8	2	磁器	碗	復元	9.6			残存	4.8		灰白	密	
179	H8	3	磁器	碗	復元	6.8	復元	3.6		5.1		灰白	密	
179	H8	4	磁器	碗	復元	8.4	復元	3.6		4.1		灰白	密	
179	H8	5	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.6		灰白	密	
179	H8	6	磁器	碗	復元	8			残存	4.9		灰白	密	
179	H8	7	磁器	碗			復元	5.4	残存	3.3		灰白	密	
179	H8	8	磁器	水滴		2.7		2.4		0.7		明緑色 10GY8/1	密	
179	H8	9	磁器	碗	復元	6.8	復元	3.2		5		碗	密	
179	H8	10	磁器	皿			復元	3.8	残存	1.3		墨書あり	密	
179	H8	11	磁器	碗	復元	9.6			残存	4.5			密	
179	H8	12	磁器	碗	復元	7.4			残存	3.9			密	
179	H8	13	磁器	碗	復元	9.6			残存	3.9			密	
179	H8	14	磁器	皿	復元	13			残存	3.6		口縁波状	密	
179	H8	15	磁器	餌入れ	残存	6.6			残存	2.2		灰白	密	
179	H8	16	磁器	蓋					残存	1.9			密	
179	H8	17	陶器	碗		8.6			残存	3.9	口縁部			
179	H8	18	陶器	秉燭				4.4	残存	6	体部～底部	底部墨書有り		
179	H8	19	陶器	灯明皿		7.3		3		1.7	口縁～底部			
179	H8	20	陶器	碗				3.2	残存	3.1	底部			
179	H8	21	陶器	鉢		8		5		4.5	口縁～底部			
179	H8	22	陶器	土瓶				8.8		2.2				
179	H8	23	陶器	碗		5.8				1.6				
179	H8	24	陶器	碗				16		1.9				
179	H8	25	陶器	瓶		4.2				4.8				
179	H8	26	陶器	碗				5.4		3.1				
180	H8	27	硝子	栓	残存	2.3		1.2				2.84g		
180	H8	28	石製品	磨石		9.1		5.2		3.8		5Y 8/1 灰白 228.34G		
180	H8	29	石製品	碁石		2.2		2.2		0.4		N 1.51 黒色 3.17g		
180	H8	30	土製品	碁石		2		1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	31	土製品	碁石		1.85		1.8		0.65		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	32	土製品	碁石		2.1	残存	1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	33	土製品	碁石		2.1		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	34	土製品	碁石		2.1		1.9		0.6		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	35	土製品	碁石		1.9	残存	1.75		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	36	土製品	碁石		2		1.8		0.55		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	37	土製品	碁石		1.8		1.8		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
180	H8	38	土製品	碁石		2		1.7		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
180	H8	39	金属	鈙	残存	3.2	残存	0.9		0.2		0.86g		
180	H8	40	金属	銭		2.4		0.65		0.1		寛永通宝　新寛永(1668年以降)　一文銭　銅銭　2.41g		
180	H8	41	瓦	平瓦		25.8	残存	15.8		1.8			密	
180	H9	1	磁器	碗	復元	8.8	復元	4.8		7.5		灰白	密	
180	H9	2	陶器	植木鉢				6		7.4				
180	H9	3	陶器					4.5		2.8				
180	H9	4	陶器	碗		5.8		4.4		2.7		墨書有り		
180	H9	5	瓦	平瓦		25.8	残存	13.1		2			やや密	
181	H9	6	瓦	軒丸	残存	25.8	残存	13.3		2		三巴連珠	密	
181	H10	1	磁器	碗	復元	7.4			残存	5		灰白	密	
181	H10	2	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.6		灰白	密	
181	H10	3	土製品	碁石		2	残存	1.9		0.6		7.5YR　6/6　橙	密	
181	H10	4	金属	銭		2.2		0.6		0.1		寛永通宝　文銭　一文銭　銅銭　1.98g		
181	H10	5	金属	煙管	残存	6.7						吸口　小口径　0.9cm　口付径　0.3cm　10.07g		
181	撹乱H10	1	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.2		4.5		灰白	密	
181	撹乱H10	2	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.2		4.7		灰白	密	
181	撹乱H10	3	土製品	碁石		1.9		2		0.6		5YR　6/6　橙	密	
182	H11	1	磁器	碗	復元	8.8		3.8		4.3		灰白　口縁部・口紅	密	
182	H11	2	磁器	碗			復元	3.2	残存	2.9		灰白	密	
182	H11	3	磁器	碗			復元	9.4		3.7		灰白	密	
182	H11	4	磁器	碗	復元	9.2			残存	3.2		灰白	密	
182	H11	5	磁器	皿			復元	3.4	残存	2.1		灰白	密	
182	H11	6	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.2		6		灰白	密	
182	H11	7	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.6		4.5		灰白	密	
182	H11	8	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		4.3		灰白	密	
182	H11	9	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.3		4.9		灰白　焼継あり	密	
182	H11	10	磁器	碗	復元	9			残存	2.6		灰白	密	
182	H11	11	磁器	碗	復元	9.4	復元	4		4.5		灰白	密	
182	H11	12	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		5		灰白	密	
182	H11	13	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.6		灰白　焼継あり	密	
182	H11	14	磁器	皿	復元	10	復元	5.6		2.6		灰白　口縁波状	密	
183	H11	15	磁器	皿			復元	5.1		1.6		灰白	密	
183	H11	16	磁器	皿			復元	14	残存	4.3		灰白	密	
183	H11	17	磁器	皿			復元	8.2	残存	4.5		灰白	密	
183	H11	18	磁器	碗	復元	8	復元	5		5.9		灰白	密	
183	H11	19	磁器	碗	復元	7.8			残存	4.5		灰白	密	
183	H11	20	磁器	碗	復元	9.6			残存	5		灰白	密	
183	H11	21	磁器	蓋	復元	3.4			残存	1.7		灰白	密	
183	H11	22	磁器	碗	復元	11.2			残存	5.2		灰白	密	
183	H11	23	磁器	碗	復元	5.4	復元	4.8		4.5		灰白	密	
183	H11	24	磁器	碗	復元	9.2	復元	4		4.4		灰白	密	
183	H11	25	磁器	碗	復元	7.8			残存	4.2		灰白	密	
183	H11	26	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.4		5		灰白	密	
183	H11	27	磁器	碗	復元	9.8	復元	4		5		灰白	密	
184	H11	28	磁器	碗	復元	8.4			残存	3.1		輪花碗	密	
184	H11	29	磁器	碗	復元	7.6			残存	4.3		灰白	密	
184	H11	30	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		4.7		灰白	密	
184	H11	31	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.2		5		灰白	密	
184	H11	32	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.8		5.1		灰白	密	
184	H11	33	磁器	碗			復元	3.6	残存	2.8		灰白	密	
184	H11	34	磁器	碗	復元	8.8			残存	4		灰白	密	
184	H11	35	磁器	碗	復元	10			残存	4.2		灰白	密	
184	H11	36	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.6		灰白	密	
184	H11	37	磁器	香炉	残存	8.6	残存	7	残存	10.9		灰白	密	
184	H11	38	磁器	碗	復元	11.2			残存	4.7		灰白	密	
184	H11	39	磁器	瓶			復元	5	残存	1.9		灰白	密	
184	H11	40	磁器	碗			復元	4.1	残存	3.6		灰白	密	
184	H11	41	磁器	瓶					残存	7.1		灰白	密	
184	H11	42	磁器	碗	復元	6.4	復元	3		3.2		灰白　焼継あり	密	
184	H11	43	磁器	小坏	復元	5.8	復元	2.4		2.5		灰白	密	
184	H11	44	磁器	皿	復元	13.6	復元	7		2.3		灰白　口縁波状	密	
184	H11	45	磁器	碗	復元	8	復元	4.9		6.4		灰白	密	
185	H11	46	磁器	碗	復元	8.2	復元	4		4.2		灰白	密	
185	H11	47	磁器	碗	復元	5	復元	2.6		3.3		灰白	密	

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
185	H11	48	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.8		5		灰白	密	
185	H11	49	磁器	碗	復元	8	復元	4.4		4.2		灰白　口縁部・薄い口紅	密	
185	H11	50	磁器	碗	復元	7.2			残存	2.5		灰白	密	
185	H11	51	磁器	蓋	復元	3.4	復元	9		2.5		灰白	密	
185	H11	52	磁器	碗	復元	9.2			残存	3.6		灰白	密	
185	H11	53	磁器	碗			復元	5.8	残存	3.6		灰白	密	
185	H11	54	磁器	碗	復元	8.8	復元	3.8		4.5		灰白	密	
185	H11	55	磁器	碗	復元	9.8			残存	4.2		灰白	密	
185	H11	56	磁器	碗	復元	7.8			残存	3.9		灰白	密	
185	H11	57	磁器	碗	復元	9.4			残存	4.2		灰白	密	
185	H11	58	磁器	碗	復元	9	復元	3.4		4.2		灰白	密	
185	H11	59	磁器	皿	復元	10	復元	5.8		2.9		灰白　口縁波状	密	
185	H11	60	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.4		4.3		灰白	密	
185	H11	61	磁器	碗	復元	8.6	復元	3.4		4.7		灰白	密	
185	H11	62	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.4		4.7		灰白	密	
185	H11	63	磁器	碗	復元	9			残存	4.4		灰白	密	
185	H11	64	磁器	碗	復元	10			残存	3.3		灰白	密	
185	H11	65	磁器	碗	復元	8.8			残存	4.2		灰白	密	
186	H11	66	磁器	碗	復元	9	復元	4		4.7		灰白	密	
186	H11	67	磁器	碗	復元	8			残存	5.4		灰白	密	
186	H11	68	磁器	皿	復元	12			残存	3.3		灰白	密	
186	H11	69	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.6		4.7		灰白	密	
186	H11	70	磁器	蓋	復元	4	復元	10.5		2.4		灰白	密	
186	H11	71	磁器	碗			復元	3.9	残存	3.5		灰白　高台針書あり	密	
186	H11	72	磁器	碗	復元	9.2	復元	3.6		5		灰白	密	
186	H11	73	磁器	碗	復元	10.4	復元	3.9		4.7		灰白	密	
186	H11	74	磁器	碗	復元	10	復元	5.8		5.5		灰白	密	
186	H11	75	磁器	碗	復元	9.4	復元	3.5		4.4		灰白	密	
186	H11	76	磁器	碗			復元	4.2	残存	2.9		灰白	密	
186	H11	77	磁器	碗			復元	3.9	残存	4.5		灰白	密	
186	H11	78	磁器	碗	復元	7.4			残存	4.2		灰白	密	
186	H11	79	磁器	碗	復元	6.6	復元	3		4.8		灰白	密	
186	H11	80	磁器	皿	復元	17			残存	3		灰白	密	
187	H11	81	磁器	小杯	復元	6.2	復元	2.2		2.6		灰白	密	
187	H11	82	磁器	蓋	復元	10.2	復元	5.8		2.6		灰白	密	
187	H11	83	磁器	皿	復元	10.2	復元	6		1.7		灰白	密	
187	H11	84	磁器	碗	復元	9.8	復元	3.8		4.7		灰白	密	
187	H11	85	磁器	蓋	復元	4.2	復元	9		2		灰白	密	
187	H11	86	磁器	碗	復元	9			残存	5		灰白	密	
187	H11	87	磁器	碗	復元	9.4			残存	3.9		灰白	密	
187	H11	88	磁器	碗	復元	8.4	復元	3.2		4.2		灰白	密	
187	H11	89	磁器	碗	復元	8.6	復元	3		4.2		灰白	密	
187	H11	90	磁器	碗	復元	10.8	復元	3.6		4.9		灰白	密	
187	H11	91	磁器	碗	復元	10	復元	3.8		4.7		灰白	密	
187	H11	92	磁器	碗			復元	4		6		灰白　高台内焼継印	密	
187	H11	93	磁器	碗	復元	8.4			残存	3.8		灰白	密	
187	H11	94	磁器	碗	復元	9.6	復元	3.9		4.2		灰白	密	
187	H11	95	磁器	花瓶	残存	1.7			残存	8		灰白	密	
187	H11	96	磁器	碗			復元	3.5		3.8		灰白	密	
188	H11	97	磁器	蓋	復元	6	復元	5.8		1.3		灰白	密	
188	H11	98	磁器	碗	復元	9.4	復元	4		4.6		灰白	密	
188	H11	99	磁器	碗	復元	9.4	復元	4		4.8		灰白	密	
188	H11	100	陶器	碗		10.3		4.3		6.7	口縁～底部	絵付		
188	H11	101	陶器	碗		10.5			残存	5.8	口縁部			
188	H11	102	陶器	行平鍋		15.6			残存	4.5	口縁部			
188	H11	103	陶器	壺		6.3		5	残存	8.4	口縁～底部			
188	H11	104	陶器	碗		10.4		4.8		6.3	口縁～底部			
188	H11	105	陶器	土瓶		8				8				
188	H11	106	陶器	碗		9.2		2.6		4.05				
188	H11	107	陶器	蓋		10		7.6		3				
188	H11	108	陶器	碗		10.4		4		5.75				
188	H11	109	陶器	擂鉢		38.2			残存	13	口縁部			
189	H11	110	陶器	徳利						7.5				
189	H11	111	陶器	蓋		8.2		6.6		1.3				

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
189	H11	112	陶器	壺		10		7.2		11.6	口縁～底部			
189	H11	113	陶器	蓋	上面	7.8	受部	6		1.2	上面～受部			
189	H11	114	陶器	土瓶		8.2			残存	7.2	口縁～体部			
189	H11	115	陶器	蓋	上面	10.3	受部	8		3.1	上面～受部			
189	H11	116	陶器	蓋		18.4			残存	3.5	受部			
189	H11	117	陶器	碗		8.8			残存	4.8				
189	H11	118	陶器	碗				5.3	残存	1.5	底部			
189	H11	119	陶器	土瓶				6.4	残存	1	底部			
189	H11	120	陶器	蓋		9				2	つまみ～受部			
189	H11	121	陶器	蓋		16			残存	3.3	受部			
189	H11	122	陶器	灯明皿		11.8		4.2		1.8	口縁～底部			
189	H11	123	陶器	皿		7.2		3		1.5				
189	H11	124	陶器	皿						1.9	上部			
189	H11	125	陶器	蓋		10.4		8.4		1.9				
189	H11	126	陶器	碗		11.2				2.9	上部			
189	H11	127	陶器	鉢						9.6	上部	内面ろくろ痕有り		
190	H11	128	陶器	擂鉢		83			残存	9	口縁部			
190	H11	129	陶器	碗				2.2		2				
190	H11	130	陶器	碗		9				3.7	上部			
190	H11	131	陶器	瓶(徳利)						6.7		外面模様有り		
190	H11	132	陶器	蓋		9.6		7.4		2.4		つまみ部無		
190	H11	133	陶器	蓋		10.8		8.4		1.75				
190	H11	134	陶器	碗				9		3.2	底部			
190	H11	135	陶器	碗		17.6				7.1	上部	内・外ろくろ痕有り		
190	H11	136	陶器	土瓶						5.8	注口	外面模様有り		
190	H11	137	陶器	蓋		8.5		4.2		1.8				
190	H11	138	陶器	鉢		16.8				4.8	上部			
190	H11	139	陶器	鉢		17				3.9	上部			
190	H11	140	陶器	蓋		15.8				3		上部無		
190	H11	141	陶器	擂鉢						4.5	上部			
190	H11	142	陶器	碗		10.8		4.8		6.2	口縁～底部	絵付		
190	H11	143	陶器	擂鉢					残存	5.1	口縁部			
190	H11	144	陶器	皿					残存	2.4	口縁部			
190	H11	145	陶器	碗		10				5.2		外面模様有り		
191	H11	146	陶器	擂鉢		13.2		6.2		5.47	口縁～底部			
191	H11	147	陶器	灯明皿		10.6		4.2		2	口縁～底部			
191	H11	148	陶器	土瓶		10.8			残存	2	口縁部			
191	H11	149	陶器	土瓶	残存	6.8	残存	4.4		0.3	注口			
191	H11	150	陶器	碗		11.4		4.2		6.3		外面模様有り		
191	H11	151	陶器	灯明皿		10.1		4.8		1.9		底部ろくろ痕有り		
191	H11	152	陶器	碗				3		3.7	下部			
191	H11	153	陶器	鉢						5.3	上部			
191	H11	154	陶器	蓋		9.5		6.8		3.2				
191	H11	155	土器	焜炉部品	残存	6	残存	5.4						
191	H11	156	土器	焜炉		24.5			残存	8				
191	H11	157	土器	火鉢					残存	5.5				
191	H11	158	土器	小皿		10		7		1.9				
191	H11	159	土器	鉢		18		14		8.6				
191	H11	160	土器	目皿		4.5		7.5		1.8				
191	H11	161	土器	小皿				6		1.1				
191	H11	162	土器	目皿		8.4		5.5		1.8				
192	H11	163	土器	竈	残存	13.9	残存	8.2	残存	1.7	掛口	外面黒磨き・内面煤付着		
192	H11	164	土器	竈		5.3		8.1		4.3	焚口	外面黒磨き		
192	H11	165	土製品	碁石		1.8		1.7		0.5		5YR 6/6 橙	密	
192	H11	166	土製品	碁石		2.1	残存	1.9		0.7		7.5YR 6/6 橙	密	
192	H11	167	土製品	碁石		2		1.8		0.5		7.5YR 6/6 橙	密	
192	H11	168	石製品	砥石	残存	5.8	残存	3.9		3.1		7.5Y 6/1 灰 87.00g		
192	H11	169	石製品	硯	残存	13.8		6.2		1.9		10Y 6/1 灰 194.44g		
192	H11	170	石製品	砥石	残存	9		4.5		1.8		2.5Y 8/1 灰白 144.31g		
192	H11	171	石製品	石材	残存	4.1	残存	3.8		2		5B 5/1 青灰 粘板岩 切断痕あり 28.34g		
192	H11	172	金属	鋲	残存	4.9	残存	2.2		0.3		5.37g		
192	H11	173	金属	煙管	残存	3.5						雁首 小口径 1.3cm 4.76g(羅宇を含む)		
192	H11	174	金属	銭		2.15		0.65		0.1		寛永通宝 新寛永(1668年以降) 一文銭 銅銭 1.89g		
192	H11	175	金属	煙管	残存	6.8						吸口 小口径 1.1cm 口付径 0.5cm		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
193	H11	176	瓦	丸瓦	残存	27.4	残存	14.4		2			やや密	
193	H11	177	瓦	平瓦	残存	26.4	残存	14.6		1.8			やや密	
193	H11	178	瓦	平瓦	残存	13.2	残存	16.9		1.8			密	
193	H11	179	瓦	平瓦	残存	5.8	残存	5.5		2.2		刻印陰刻(丸内V)	密	
194	撹乱H11	1	磁器	碗			復元	5	残存	2.2		灰白	密	
194	撹乱H11	2	磁器	碗			復元	4	残存	4.6		灰白	密	
194	撹乱H11	3	磁器	皿			復元	4.6	残存	1.4		灰白	密	
194	撹乱H11	4	磁器	香炉		8.6		3.2		4.5		緑	密	
194	撹乱H11	5	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		5		灰白	密	
194	撹乱H11	6	磁器	皿			復元	6.8	残存	2.6		灰白	密	
194	撹乱H11	7	陶器	土瓶			復元	9	残存	2.7		内面施釉		
194	撹乱H11	8	陶器	碗	復元	13.6	復元	4.6		5.6		外面模様有り		
194	撹乱H11	9	陶器	擂鉢	復元	32			残存	7.6				
194	撹乱H11	10	陶器	碗	復元	11	復元	3.6		5.9		外面模様有り		
194	撹乱H11	11	陶器	碗	復元	10.6	復元	4		5.4		外面模様有り		
194	撹乱H11	12	陶器	碗				3.4	残存	5	体部～底部			
194	撹乱H11	13	陶器	小皿		10.7		5.3		2.3	口縁～底部			
194	撹乱H11	14	陶器	瓶				6	残存	1.5	底部			
194	撹乱H11	15	陶器	水滴		7	残存	2.4		3.8				
194	撹乱H11	16	土器	火鉢				13	残存	7.4				
194	撹乱H11	17	土製品	碁石		2		1.9		0.6		5YR 6/6 橙	密	
195	H12	1	磁器	小杯	復元	6			残存	1.8			密	
195	H12	2	磁器	碗			復元	4	残存	4.1		灰白	密	
195	H12	3	磁器	碗		9.8		3.6		5.1		灰白	密	
195	H12	4	磁器	碗	復元	8	復元	4		4.4		灰白	密	
195	H12	5	磁器	碗	復元	9			残存	5		灰白	密	
195	H12	6	磁器	碗	復元	9.6			残存	4.3		灰白	密	
195	H12	7	磁器	碗			復元	5	残存	2.7		灰白	密	
195	H12	8	磁器	皿					残存	3.9			密	
195	H12	9	磁器	瓶	復元	5.4	復元	5.4		3.9		灰白	密	
195	H12	10	磁器	碗	復元	4.5			残存	4.9		灰白	密	
195	H12	11	磁器	碗	復元	9	復元	3.8		4.6		灰白	密	
195	H12	12	磁器	碗	復元	9	復元	3.6		4.7		灰白	密	
195	H12	13	磁器	碗			復元	5.6	残存	3.9		灰白	密	
195	H12	14	磁器	碗	復元	10	復元	4		5.3		灰白	密	
195	H12	15	磁器	壺	復元	10.5				9.4			密	
195	H12	16	磁器	碗	復元	9.6	復元	4.4		4.8		灰白	密	
195	H12	17	磁器	碗	復元	8.8	復元	4.1		4.4		灰白	密	
195	H12	18	磁器	碗	復元	9.2	復元	4		4.6		灰白	密	
195	H12	19	磁器	皿	復元	10	復元	6.6		2		灰白	密	
195	H12	20	磁器	皿			復元	7.2	残存	2.1		灰白	密	
195	H12	21	磁器	碗			復元	3.4	残存	3.3		灰白	密	
195	H12	22	陶器	碗		10.8		5.4		6.1		染付有り		
195	H12	23	陶器	碗				6.4		5.6				
195	H12	24	陶器	擂鉢						5.7				
196	H12	25	陶器	土瓶				9.6		5.2				
196	H12	26	陶器	擂鉢						4				
196	H12	27	陶器	脚付灯明受皿		7.6				6.4				
196	H12	28	陶器	瓶				8.2		4.3				
196	H12	29	土器	焙烙		32		31.4		5				
196	H12	30	木製品	椀		11.4		5.4		3.9		漆器、樹種ケヤキ		
196	H14	1	磁器	碗			復元	4.2	残存	2.4		灰白	密	
196	H14	2	磁器	碗	復元	11.4	復元	4.2		6.1		灰白	密	
196	H14	3	磁器	人形					残存	3.5		鶏	密	
196	H14	4	磁器	皿	復元	14	復元	7.2		3.8		灰白	密	
196	H14	5	磁器	皿			復元	4.4	残存	2.3		灰白	密	
196	H14	6	陶器	皿		12		5.4		3	口縁～底部			
196	H14	7	陶器	捏鉢				19.2				内面トチン痕有り		
196	H14	8	陶器	鉢				12			底部			
196	H14	9	陶器	擂鉢							口縁部			
196	H14	10	陶器	碗		12.4		4.2		4.9	口縁～底部	外面絵付有り		
196	H14	11	陶器	碗				7.4			体部～底部	内面トチン痕有り		
196	H14	12	陶器	碗				6.9		3.9				
196	H14	13	陶器	浅鉢		26.4				4.4		内面模様有り		

図番号	遺構名	遺物番号	器種	器形	復元残存	口径(長)	復元残存	底径(幅)	復元残存	器高(厚)	部位	観察所見	胎土	備考
196	H14	14	陶器	土瓶				8		1.4				
197	H14	15	陶器	目皿		1.6		6.9		1.4				
197	H14	16	陶器	碗				10		6.9				
197	H14	17	陶器	碗				6.4		4.2		外面模様有り		
197	H14	18	陶器	碗		15.7				5.9				
197	H14	19	土器	火鉢				17		6.4				
197	H14	20	土器	皿				3.9		1.7				
197	H14	21	石製品	砥石	残存	8		2.6		2.1		2.5GY 8/1 灰白 103.01g		
197	H14	22	土製品	碁石		2		1.8		0.5		10YR 8/3 浅黄橙	密	
197	H14	23	土製品	碁石		1.8		1.8		0.5		10YR 7/4 にぶい橙	密	
197	H14	24	金属	銭		2.4		0.6		0.1		寛永通宝 古寛永（ス貝）一文銭 銅銭 2.40g		
197	H14	25	瓦	桟瓦		33.3	残存	19.2		1.8			やや密	
197	撹乱H15	1	磁器	蓋			復元	5	残存	1.6		灰白	密	
198	I4	1	瓦	平瓦	残存	20.9	残存	23		1.7			密	
198	I5	1	磁器	碗	復元	7.6	復元	3		4.6		灰白	密	
198	I5	2	陶器	鉢				10.4		4.9				
198	I5	3	土器	火鉢								表面緑色		
198	I5	4	瓦	平または桟瓦	残存	3.3	残存	4.4		1.7		刻印陰刻(三角内一)	密	
198	I5	5	瓦	桟瓦軒瓦		7.4	残存	8.2		1.5		瓦当径 7.4cm	密	
198	I5	6	瓦	軒丸瓦当	残存	7.8	残存	12.8		3.4			密	
198	I8	1	陶器	灯明皿	復元	11	復元	3.6		2.2		受部径(復元)7.2		
198	I8	2	陶器	鍋			復元	8.7	残存	3.3				
198	I8	3	陶器	蓋						1.4	上面～受部	上面径8.2・受部径6.5		
198	I8	4	金属	釘	残存	11.9	残存	1.15		1.15		33.73g		
198	I9	1	陶器	碗			復元	5	残存	1.3				
198	撹乱I9	1	硝子	瓶		2.4		4.1		6.8		86.00g		
198	I10	1	土製品	碁石		1.8	残存	1.6		0.6		5YR 6/6 橙	密	
199	I11	1	磁器	碗	復元	10			残存	3.8			密	
199	I11	2	磁器	碗	復元	9.6			残存	3.8		灰白	密	
199	I11	3	陶器	碗				4.5	残存	2.1				
199	I11	4	陶器	皿	復元	10.6			残存	1.75				
199	I11	5	貝	碁石		2.2	残存	1.4		0.5				
199	I11	6	瓦	丸瓦	残存	19.8		12.8		1.8			やや密	
199	I11	7	瓦	輪違い	残存	9.4	残存	7.1		1.7			密	
199	I11	8	瓦	輪違い	残存	9.8	残存	11.3		1.9			密	
199	撹乱I11	1	瓦	輪違い	残存	10.6	残存	8.2		1.5			密	
199	撹乱I12	1	磁器	碗	復元	10.2	復元	3.6		4.9			密	
200	J8	1	磁器	碗			復元	7	残存	5		灰白	密	
200	J8	2	磁器	碗	復元	6.6	復元	3		6.5		灰白	密	
200	J8	3	磁器	碗			復元	3	残存	3.3		灰白	密	
200	J8	4	磁器	小杯			復元	3.2	残存	1.5		灰白	密	
200	J8	5	磁器	碗			復元	3	残存	5.2		灰白	密	
200	J8	6	陶器	瓶			復元	6	残存	2.9	底部			
200	調査区	1	磁器	碗			復元	4	残存	3.8		灰白	密	
200	調査区	2	磁器	碗	復元	10.4	復元	4		5.7		灰白	密	
200	調査区	3	磁器	皿	復元	11	復元	6		2.1		灰白	密	
200	調査区	4	金属	鋲	残存	3.1	残存	2.9				11.44g		
200	調査区	5	瓦	軒平または軒桟瓦	残存	14.5	残存	12.5		2.1			密	
200	調査区	6	瓦	平または桟瓦	残存	12.7	残存	12.7		2.3			密	
200	調査区	7	瓦	なまこ壁？	残存	9.8	残存	6.8		2.3		漆喰付着 釘穴あり	密	

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき
書名	甲府城下町遺跡Ⅸ
副書名	庁舎建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	64
編集機関	甲府市教育委員会
著者名	伊藤正彦・髙野高潔・小谷亮二・泉英樹
所在地	〒400-8585　山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号　電話　055（223）7324
発行年月日	平成25年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
コウフジョウカマチイセキ 甲府城下町遺跡	ヤマナシケンコウフシ 山梨県甲府市 マル　ウチ　チョウメ 丸の内1丁目18 バン　ゴウ 番1号	19201	253	35° 39′ 43″	138° 34′ 5″	H22.11.9 ～ H23.3.22	1,800	庁舎建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲府城下町遺跡	城下町	近世 近代	建物跡・井戸・埋桶・池・土坑	土器・陶器・磁器・瓦・土製品・木製品・石製品・金属製品・ガラス製品・古銭	武家屋敷、大手役宅、山梨県庁と近世以降の３時期にわたる変遷が確認された。

甲府市文化財調査報告64

甲府城下町遺跡Ⅸ
―庁舎建設に伴う発掘調査報告書―

平成25年3月22日

発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585　山梨県甲府市丸の内一丁目18-1
TEL 055(223)7324
FAX 055(233)7331

印　刷　株式会社ヨネヤ
〒400-0031　山梨県甲府市丸の内一丁目-14-6
TEL 055(235)4311